

管理者ガイド

Sun™ ONE Portal Server

Version 6.2

817-4730-10
2003 年 11 月

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、JDK、Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

本書について	19
対象読者	19
お読みになる前に	20
内容の紹介	20
表記上の規則	22
モノスペースフォント	22
太字のモノスペースフォント	22
イタリックフォント	23
角括弧	23
コマンドラインプロンプト	23
ユーザーインターフェイスに共通の動詞	24
関連マニュアル	24
オンラインマニュアル	25
第1章 Sun ONE Portal Server の管理の概要	27
アーキテクチャの概要	27
ポータルアクセスの概要	28
サービス設定の概要	30
Sun ONE Identity Server サービス	31
Sun ONE Portal Server サービス	31
デスクトップ	31
リライタ	32
検索エンジン	32
NetMail	32
Sun ONE Portal Server サービスのための設定メカニズム	32
管理の概要	35
Sun ONE Identity Server コンソールの使用	35

コマンドラインユーティリティの使用	37
第 2 章 認証、ユーザー、およびサービスの管理	39
Sun ONE Identity Server の概要	40
Sun ONE Identity Server の機能の概要	40
Portal Server 3.0 と Portal Server 6.2 の比較	41
Portal Server 6.0 と Portal Server 6.2 の比較	45
Sun ONE Identity Server の制約	46
Sun ONE Identity Server インタフェース	47
Sun ONE Identity Server 管理コンソール	47
Sun ONE Identity Server コマンドライン	47
Sun ONE Identity Server 管理コンソールへのログイン	48
IP アドレスを使用した管理コンソールへのログインの設定	49
基本情報の表示	50
Sun ONE Portal Server の起動と停止	50
Sun ONE Identity Server サービスの管理	51
インストールおよび Sun ONE Web Server のパッケージ化	51
ユーザー管理	51
シングルサインオン / 認証	52
サービス管理	52
Sun ONE Portal Server ユーザーの管理	53
組織、サブ組織、およびロールの設計	54
組織およびサブ組織	54
ロール	54
ユーザー	54
シナリオ 1: サブ組織とロールから構成される階層構造	55
シナリオ 2: 平坦なツリー構造	57
組織およびサブ組織の新規作成	58
新規の組織またはサブ組織を作成するには	59
サービスを登録するには	60
サービスのテンプレートを作成するには	60
新規ユーザーを追加するには	61
ユーザーにサービスを追加するには	62
新規ロールを作成するには	62
ロールをユーザーに割り当てるには	63
既存のユーザーの Sun ONE Portal Server へのアクセスを有効化するには	63
デフォルト組織のユーザーを有効化するには	63
デフォルト以外の組織のユーザーを有効化するには	68
ポータル組織の迅速な新規作成	70
認証の設定	74
認証レベルによる認証	76
認証メニューを設定するには	76
認証順序を設定するには	77

外部ディレクトリに LDAP 認証を設定するには	78
匿名認証の設定	79
匿名認証を設定するには (匿名ユーザーセッション方式)	80
匿名認証を設定するには (認証なしアクセス)	81
連携ユーザー用の Portal Server の設定	82
連携ユーザーを設定するには	82
連携ユーザーの認証なしアクセスを設定するには	83
UNIX 認証を設定するには	83
組織レベルの UNIX 認証を設定するには	84
Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要	85
ピアまたはサブ組織のポリシーサービスを登録するには	86
ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成するには	87
ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成するには	88
Sun ONE Portal Server ポータルデスクトップへのログイン	89
サンプルのポータルデスクトップにログインするには	89
サブ組織にログインするには	89
匿名認証を使用してログインするには	89
ロギングの管理	90
第 3 章 管理の委任の設定	91
管理の委任の概要	91
委任管理ロール	92
管理の委任モデルの開発	94
管理の委任の設定	95
Role Administrator Roles の ACI 設定の定義	95
コマンドラインを使用して ACI を定義するには	96
管理コンソールを使用して ACI を定義するには	99
委任モデルのための管理ロールの新規作成	100
ロール管理者ロールを割り当てるには	101
ロール管理者ロールの追加制限の設定	101
第 4 章 ポータルデスクトップサービスの管理	103
デスクトップの概要	103
デスクトップ用語集	103
ポータルデスクトップのアーキテクチャとコンテナ階層	104
ユーザー定義のチャンネル	106
ポータルデスクトッププロバイダ	107
ポータルデスクトップサービス	108
サンプルデスクトップ	108
ポータルデスクトップのカスタマイズ	108
チャンネルのホット配備の概要	109
プロバイダアーカイブの概要	109

ポータルデスクトップサービスの管理	110
サブ組織のポリシーサービスを登録するには	111
サブ組織の参照ポリシーを作成するには	112
サブ組織の通常のポリシーを作成するには	113
ログインユーザーをポータルデスクトップ URL に正しくリダイレクトするには	114
ログインユーザーをポータルデスクトップ URL に正しくリダイレクトするには (グローバル)	115
ポータルデスクトップサービス属性の値を修正するには	115
ポータルデスクトップサービス属性の値を修正するには (グローバル)	116
サンプルポータルデスクトップにアクセスするには	116
デスクトップログを確認するには	117
ポートレットの管理	118
ポートレットからチャンネルを作成するには	118
特定コンテナのポートレットからチャンネルを作成するには	119
コンテナにポートレットチャンネルを追加するには	119
ポートレットチャンネルの設定とプロパティを編集するには	120
par ファイルの管理	122
新規の par ファイルを作成するには	122
既存の par ファイルを修正するには	123
par ファイルを配備するには	124
第 5 章 ディスプレイプロファイルの管理	125
ディスプレイプロファイルの概要	125
ディスプレイプロファイルと管理コンソール	127
ディスプレイプロファイルドキュメントの構造	128
ディスプレイプロファイルルートオブジェクト	128
プロバイダオブジェクト	129
チャンネルオブジェクト	129
コンテナオブジェクト	130
ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約	132
ディスプレイプロファイルオブジェクトの検索	133
ディスプレイプロファイルのプロパティ	134
ディスプレイプロファイルのプロパティのタイプ	134
ドキュメントタイプの定義要素の属性	135
ディスプレイプロファイルのプロパティの指定	137
入れ子のプロパティ	137
名前を付けられていないプロパティ	138
条件付きプロパティ	139
ディスプレイプロファイルのプロパティの伝達	141
ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位	144
ドキュメントの優先順位の例 1	145
ドキュメントの優先順位の例 2	146
ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位設定の要約	148

ディスプレイプロファイルのマージ動作	148
マージプロセスの仕組み	149
ディスプレイプロファイルのマージタイプ	150
remove の例 : remove マージによるコンテンツの選択チャンネルリストの修正	151
replace の例 : replace マージによるすべてのユーザーの表示からのチャンネルの削除	152
fuse の例 : fuse マージによるロールベースのチャンネルリストの作成	153
マージロック	155
マージロックの例 : lock マージによるすべてのユーザーに対するプロパティ値の強制	155
マージロックの例 : lock マージによるすべてのユーザー表示からのチャンネルの強制削除	156
ディスプレイプロファイルと Sun ONE Identity Server	157
ディスプレイプロファイルの管理	158
デフォルトのディスプレイプロファイルドキュメント	160
ディスプレイプロファイルのロード	161
ディスプレイプロファイルをロードするには (管理コンソール)	161
ディスプレイプロファイルをロードするには (コマンドライン)	162
ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードするには	163
ディスプレイプロファイル全体を表示するには	163
ディスプレイプロファイルを削除するには	164
チャンネルおよびコンテンツ管理リンクを使用したチャンネルの管理	164
チャンネルとコンテンツ管理のデフォルトプロバイダ	165
チャンネルの追加	165
シンプル Web サービスプロバイダ	166
事前に設定されている Web サービスチャンネル	167
設定可能な Web サービスチャンネル	167
新規コンテンツチャンネル	167
チャンネルまたはコンテンツチャンネルを作成するには	168
チャンネルまたはコンテンツチャンネルのプロパティを変更するには	169
チャンネルまたはコンテンツチャンネルを削除するには	169
コンテンツの管理	170
dpadmin コマンドの使用	171
dpadmin コマンドの使用に関するガイドライン	172
ディスプレイプロファイルの修正	173
ディスプレイプロファイルのエラーメッセージの概要	174
ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには	174
コンテンツのチャンネルを置換するには	175
コンテンツのプロパティを置換するには	175
コンテンツにチャンネルを追加するには	176
コレクションにプロパティを追加するには	177
コレクションプロパティを追加するには	178
チャンネルまたはコンテンツからプロパティを削除するには	179
プロバイダを削除するには	180
コンテンツからチャンネルを削除するには	180
ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更するには	180

チャンネルをコンテナで使用できるようにするには	181
チャンネルをコンテナで使用不可にするには	182
コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択するには	182
コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択解除するには	183
ディスプレイプロファイルテキストウィンドウの使用	183
ディスプレイプロファイルテキストウィンドウにアクセスするには	184
第 6 章 NetMail サービスの管理	185
NetMail サービスの概要	185
NetMail サービスの管理	186
ピアまたはサブ組織のポリシーサービスを登録するには	186
サブ組織の参照ポリシーを作成するには	187
サブ組織の通常のポリシーを作成するには	188
NetMail のサービス属性の変更 (特定の組織)	189
NetMail のサービス属性の変更 (すべての組織)	190
新しいウィンドウを開くように NetMail Lite を設定するには	190
リモートアドレス帳の使用 (LDAP)	191
第 7 章 リライターサービスの管理	193
リライターサービスの概要	193
相対 URL の絶対 URL への拡張	194
URLScrapperProvider の制限	194
既存 URL へのゲートウェイ URL の追加	195
サポートされる URL	196
リライタルールとルールセットの定義	196
HTML コンテンツのルール	198
HTML コンテンツの属性ルール	198
HTML コンテンツの JavaScript トークンルール	199
HTML コンテンツのフォームルール	200
HTML コンテンツのアプレットルール	200
JavaScript コンテンツのルール	201
JavaScript 変数	201
JavaScript 関数パラメータ	203
XML コンテンツのルール	204
XML のタグテキスト	204
XML の属性	205
リライターサービスの管理	206
リライター URLScrapperProvider を SSL 用に設定するには	206
デフォルトテンプレートからルールセットを新規作成するには	207
既存のルールセットを編集するには	208
ルールセットをダウンロードするには	208
ルールセットをアップロードするには	208

既存のルールセットを削除するには	209
デフォルトのルールセットを復元するには	210
第 8 章 検索エンジンサービスの管理	211
検索エンジンサービスの概要	211
検索データベース	212
検索ロボット	212
データベース分類カテゴリ	213
検索チャネルの設定	214
検索サーバーの初期設定	214
検索 URL を定義するには	215
検索エンジンの管理	216
検索エンジン操作の表示、管理、監視	216
基本設定を表示または管理するには	217
詳細設定を表示または管理するには	217
検索エンジンのアクティビティを監視するには	218
ロボットの管理	218
サイトの定義	218
ロボットでインデックスを作成するサイトを定義するには	219
ロボットのクローリングの制御	219
ロボットのクローリングを制御するには	220
ロボットデータのフィルタリング	220
新規フィルタ定義を作成するには	221
既存のフィルタ定義を変更するには	222
フィルタを有効または無効にするには	222
インデックス作成の属性の定義	222
インデックス作成の属性を定義するには	223
ロボットユーティリティの使用	223
サイトプローブユーティリティを実行するには	223
シミュレータを実行するには	224
ロボットのスケジュール設定	224
ロボットのスケジュールを設定するには	224
データベースの管理	225
データベースへのインポート	225
インポートエージェントを作成するには	226
既存のインポートエージェントを編集するには	226
リソース記述の編集	227
リソース記述を編集するには	227
データベーススキーマの編集	228
データベーススキーマを編集するには	228
スキーマのエイリアスの定義	230
スキーマのエイリアスを定義するには	230
データベース分析の表示	230

データベース分析情報を表示するには	231
データベースのインデックスの再作成	231
データベースのインデックスを再作成するには	231
データベースの期限切れ	232
データベースを期限切れにするには	232
データベースの破棄	232
サーバーから期限切れのリソース記述を破棄するには	233
データベースのパーティションの作成	233
データベース分類の管理	234
カテゴリーの設定	234
子カテゴリーを作成するには	234
シブリングカテゴリーを作成するには	235
カテゴリーを更新するには	236
カテゴリーの削除	236
分類規則の定義	237
分類規則を定義するには	237
第9章 検索エンジンロボットの管理	239
検索エンジンロボットの概要	239
ロボットの動作の仕組み	240
ロボット設定ファイル	241
ロボットプロセスパラメータの設定	242
フィルタリング処理	242
フィルタ処理の段階	243
フィルタの構文	245
フィルタディレクティブ	246
フィルタの記述または修正	246
ユーザーが変更できるパラメータ	247
robot.conf ファイルの例	254
第10章 定義済みのロボットアプリケーション関数	255
ソースとデスティネーション	256
セットアップ段階で使用可能なソース	256
メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース	256
データ段階で使用可能なソース	257
列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース	258
有効化パラメータ	258
セットアップ関数	259
filterrules-setup	259
setup-regex-cache	259
setup-type-by-extension	260
フィルタリング関数	261

filter-by-exact	261
filter-by-max	262
filter-by-md5	262
filter-by-prefix	263
filter-by-regex	263
filterrules-process	264
サポート関数のフィルタリング	265
assign-source	265
assign-type-by-extension	266
clear-source	267
convert-to-html	267
copy-attribute	268
generate-by-exact	269
generate-by-prefix	269
generate-by-regex	270
generate-md5	271
generate-rd-expires	271
generate-rd-last-modified	272
rename-attribute	272
列挙関数	273
enumerate-urls	273
enumerate-urls-from-text	273
生成関数	274
extract-full-text	274
extract-html-meta	275
extract-html-text	276
extract-html-toc	276
extract-source	277
harvest-summarizer	277
シャットダウン関数	278
filterrules-shutdown	278
第 11 章 登録サービスの管理	279
概要	279
登録サービスの管理	280
ルートレベル	280
組織レベル	281
組織ユーザーレベル	281
ルートレベルで登録サービスを定義するには	283
組織レベルで登録サービスを定義するには	283
ユーザーの登録サービスを管理するには	284
登録チャンネルの使用	286
カテゴリに登録するには	287

ディスカッションに登録するには	288
検索を保存するには	288
ディスカッション	290
ディスカッションの概要	290
DiscussionProvider	290
DiscussionProvider のディスプレイプロファイル XML コード	292
DiscussionProvider の管理	293
DiscussionLite チャネル	293
Discussions チャネル	295
チャネルの管理と使用	298
DiscussionProvider チャネルの管理	298
DiscussionProvider からチャネルを作成するには	299
DiscussionProvider サンプルチャネルの使用	301
新しいディスカッションを開始するには	301
第 12 章 通信チャネルの設定	303
通信チャネルの概要	304
通信チャネルでサポートされるソフトウェア	304
インストーラと通信チャネル	305
Sun ONE Portal Server インストーラが実行するタスク	305
複数インスタンスでの配備	306
通信チャネルの設定タスク	307
デフォルト組織のサービスを設定するには	307
通信チャネルの設定に関する情報	308
インスタントメッセージチャネルの設定	309
アドレス帳チャネルの設定	315
エンドユーザーとしてチャネルを設定するには	322
アプリケーション設定の編集: 通信チャネル編集ページの設定	325
編集ページのディスプレイプロファイルの属性	326
編集ページの HTML テンプレート	327
ディスプレイプロファイルの例	328
通信チャネルのタイプとしてエンドユーザーが複数インスタンスを設定できるようにするには	329
管理者のプロキシ認証: エンドユーザーによる信用情報の設定の禁止	330
プロキシ認証の設定方法の概要	331
プロキシ認証と SSO (シングルサインオン) アダプタテンプレート	331
プロキシ認証と通信サーバー	334
認証不要ポータルデスクトップ用に読み取り専用通信チャネルを設定する	334
読み取り専用通信チャネルに関する情報と注意点	334
カレンダーユーザーを設定するには	335
読み取り専用通信チャネルを設定するには	335
Microsoft Exchange Server または IBM Lotus Notes の設定	339
アドレス帳、カレンダー、メール用に Microsoft Exchange Server を設定するには	339

アドレス帳、カレンダー、メール用に Lotus Domino Server を設定するには	341
Lotus Notes の設定	343
デフォルト組織の下に新規ユーザーを作成するには	348
HTTPS が有効な Messaging Server とメールプロバイダが連携するように設定するには	349
Web コンテナに関する情報と注意点	349
HTTPS が有効な Messaging Server とメールプロバイダが連携するように設定するには ..	349
第 13 章 Sun ONE Portal Server システムの管理	355
Secure Sockets Layer (SSL) の設定	355
Sun ONE Portal Server で SSL を設定するには	356
SSL を使用する既存の Sun ONE Portal Server インストールを変更するには	357
SSL を使用するように Sun ONE Portal Server インスタンスを設定するには	359
Sun ONE Portal Server の設定のバックアップと復元	360
Sun ONE Portal Server の設定をバックアップするには	360
Sun ONE Portal Server の設定を復元するには	361
Sun ONE Portal Server のネットワーク設定の変更	363
複数の UI ノードインストールの管理	363
サーバーリストに Portal Server を追加するには	363
HTTP プロキシを使用する Sun ONE Portal Server のインスタンスの設定	364
Sun ONE Portal Server ログの管理	365
ファイルにログを記録するように設定するには	365
データベースにログを記録するように設定するには	365
Sun ONE Portal Server のデバッグ	366
Sun ONE Identity Server のデバッグレベルを設定するには	366
第 14 章 コマンドラインユーティリティ	367
deploy	368
説明	368
構文	368
サブコマンド	368
redeploy	369
pdeploy	369
説明	369
構文	370
deploy	371
説明	371
構文	371
オプション	371
例	372
undeploy	373
説明	373
構文	373

オプション	373
dpadmin	375
説明	375
構文	375
短い名前の形式	375
長い名前の形式	376
サブコマンド	376
list	376
merge	378
modify	381
add	391
remove	394
batch	398
オプション	399
par	402
説明	402
構文	402
短い名前の形式	402
長い名前の形式	402
サブコマンド	403
containers	403
describe	403
export	404
import	405
オプション	406
引数	407
エクスポートファイル	408
操作	410
par ファイル	411
par ファイルのコンテンツ	411
rwadmin	413
説明	413
構文	413
短い名前の形式	413
長い名前の形式	413
サブコマンド	413
list	414
store	414
get	415
remove	415
オプション	416
rdmgr	417
説明	417

構文	417
サブコマンド	418
リソース記述サブコマンド	418
データベース保守サブコマンド	422
使用に関するメッセージとバージョンのサブコマンド	425
リターンコード	426
sendrdm	426
説明	426
構文	426
オプション	427
例	427
StartRobot	428
構文	428
オプション	428
StopRobot	429
構文	429
オプション	429
付録 A 設定ファイル	431
Sun ONE Portal Server の設定ファイルの概要	431
デスクトップ設定プロパティ	431
検索設定プロパティ	436
付録 B XML リファレンス	441
Sun ONE Portal Server デスクトップ サービスの定義	443
Sun ONE Portal Server NetMail サービスの定義	450
Sun ONE Portal Server リライターサービスの定義	462
Sun ONE Portal Server 検索サービスの定義	463
ディスプレイプロファイル DTD	464
リライタルールセット DTD	468
デフォルトルールセット	469
付録 C ポータルデスクトップの属性	473
デスクトップグローバル属性	473
デスクトップダイナミック属性	476
付録 D NetMail の属性	481
NetMail のダイナミック属性	481

付録 E リライタの属性	489
付録 F 検索の属性	491
サーバー	492
設定	492
ロボット	493
ロボット	494
概要	495
サイト	496
フィルタ	500
クローリング	501
インデックス作成	506
シミュレータ	508
サイトプローブ	508
スケジュール	509
データベース	509
管理	509
インポートエージェント	510
リソース記述	513
スキーマ	516
分析	517
スケジュール	518
カテゴリ	519
カテゴリエディタ	519
分類ルールエディタ	520
レポート	522
開始位置	522
除外された URL	523
ロボットの詳細レポート	523
ログファイル	524
頻度の高い検索	524
付録 G 登録の属性	527
登録のダイナミック属性	527
登録のユーザー属性	529
付録 H SSO アダプタテンプレートと設定	531
シングルサインオンアダプタの概要	531
SSO アダプタテンプレートの形式 : Global	532
SSO アダプタのグローバル属性	532
SSO アダプタテンプレートへのアクセス	533
SSO アダプタテンプレートについて	533

SSO アダプタ設定の形式：ダイナミック	539
SSO アダプタのダイナミック属性	539
SSO アダプタ設定へのアクセス	540
SSO アダプタ設定について	540
SSO アダプタテンプレートと設定の例	541
SSO アダプタテンプレート内でのサーバーの定義	542
組織レベルでのサーバーの定義	547
一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合	551
少数ユーザーのユーザーレベルの設定変更	552
多数のユーザーのユーザーレベルの設定変更 (スクリプトの使用)	553
付録 I スキーマリファレンス	557
Sun ONE Portal Server デスクトップスキーマ	557
Sun ONE Portal Server NetMail スキーマ	561
Sun ONE Portal Server 検索スキーマ	566
索引	567

本書について

このマニュアルでは、Sun™ ONE Portal Server 6.2 の管理方法について説明します。Sun ONE Portal Server は、組織の統合データ、知識管理、およびアプリケーションのポータルを作成するプラットフォームを提供します。Sun ONE Portal Server プラットフォームは、企業間、企業対社員、および企業対顧客を含む、すべての種類のポータルを構築および導入するための総合的なインフラストラクチャソリューションを提供します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [対象読者](#)
- [お読みになる前に](#)
- [内容の紹介](#)
- [表記上の規則](#)
- [関連マニュアル](#)
- [オンラインマニュアル](#)

対象読者

このマニュアルは、Sun ONE Portal Server のインストール、管理、および設定を担当するユーザーを対象にしています。

お読みになる前に

Sun ONE Portal Server の管理を行う場合は、次の概念について理解していることが必要です。

- Solaris™ の基本管理手順
- LDAP
- Sun™ ONE Directory Server
- iPlanet™ Directory Server Access Management Edition
- Sun™ ONE Web Server

注

Sun™ ONE 製品ファミリーは、以前の iPlanet ブランドから名称変更されたものです。この製品と、製品ファミリーのその他の製品は、本製品の発売直前に商標および名称が変更されました。最近行われた製品の商標変更および名称変更では、最終的にいくつかの新製品の名称が Sun ONE に統一されずに残されています。特に、GUI や製品マニュアル内で、iPlanet Directory Server Access Management Edition として Sun™ ONE Identity Server が参照されていることがあります。このリリースでは、Sun ONE Identity Server と iPlanet Directory Server Access Management Edition を、同じ製品とみなしません。

内容の紹介

このマニュアルには、次の章と付録があります。

- [本書について \(この章\)](#)
- [第 1 章「Sun ONE Portal Server の管理の概要」](#)

Sun ONE Portal Server 6.2 のアーキテクチャ、プロトコル、およびインタフェースについて説明します。また、製品の管理およびカスタマイズの概要について説明します。
- [第 2 章「認証、ユーザー、およびサービスの管理」](#)

Sun ONE Identity Server を使用して、認証、ユーザー、およびサービスを管理する方法を説明します。
- [第 3 章「管理の委任の設定」](#)

Sun ONE Portal Server の代理管理を設定する方法を説明します。
- [第 4 章「ポータルデスクトップサービスの管理」](#)

Sun ONE Portal Server デスクトップサービスを管理する方法について説明します。

- [第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)
Sun ONE Portal Server ディスプレイプロファイルコンポーネントを管理する方法について説明します。
- [第 6 章「NetMail サービスの管理」](#)
NetMail サービスを管理する方法について説明します。
- [第 7 章「リライタサービスの管理」](#)
リライタサービスを管理する方法について説明します。
- [第 8 章「検索エンジンサービスの管理」](#)
検索エンジンサービスの設定および管理方法について説明します。
- [第 9 章「検索エンジンロボットの管理」](#)
検索エンジンロボットと、それに対応する設定ファイルについて説明します。
- [第 10 章「定義済みのロボットアプリケーション関数」](#)
事前定義のロボットアプリケーション関数について説明します。これらの関数を使用して、フィルタ定義を作成および変更できます。
- [第 11 章「登録サービスの管理」](#)
登録サービスの設定および管理方法について説明します。
- [第 12 章「通信チャネルの設定」](#)
Sun™ ONE Portal Server の通信チャネルについて説明します。
- [第 13 章「Sun ONE Portal Server システムの管理」](#)
Sun ONE Portal Server システムの管理に関連するさまざまな管理作業について説明します。
- [第 14 章「コマンドラインユーティリティ」](#)
Sun ONE Portal Server で使用するコマンドラインユーティリティについて説明します。
- [付録 A「設定ファイル」](#)
Sun ONE Portal Server の設定ファイルのリファレンスです。
- [付録 B「XML リファレンス」](#)
ディスプレイプロファイルとリライタの文書型定義 (Document Type Definitions, DTD) とデスクトップサービス定義を構成する XML について説明します。
- [付録 C「ポータルデスクトップの属性」](#)
デスクトップサービス属性のリファレンスです。

- [付録 D 「NetMail の属性」](#)
NetMail サービス属性のリファレンスです。
- [付録 E 「リライタの属性」](#)
リライタサービス属性のリファレンスです。
- [付録 F 「検索の属性」](#)
検索エンジンサービス属性のリファレンスです。
- [付録 G 「登録の属性」](#)
登録サービス属性のリファレンスです。
- [付録 H 「SSO アダプタテンプレートと設定」](#)
Sun™ ONE Portal Server の通信チャンネルのリファレンスです。
- [付録 I 「スキーマリファレンス」](#)
Sun ONE Portal Server スキーマ定義のリファレンスです。

表記上の規則

モノスペースフォント

モノスペースフォントは、コンピュータ画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを表します。また、ファイル名、識別名、関数、およびコード例にも使用します。

太字のモノスペースフォント

このマニュアルでは、すべてのパスを UNIX 形式で記述しています。Windows ベースの Sun ONE Portal Server を使用している場合は、本書の UNIX ファイルパスを Windows のファイルパスに読み替えてください。

太字のモノスペースフォントは、コードサンプル内でユーザーが入力するテキストを表します。たとえば、次のように使用されます。

```
./pssetup  
*****  
Sun(TM) ONE Portal Server (6.0 release)  
*****
```

```
Installation log at /var/sadm/install/logs/pssetup.13343/install.log
```

```
This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a Binary
Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to legally use
this product.
```

```
Do you accept? yes/[no] Starting install wizard in graphical mode
```

この例では、`./pssetup` がコマンドラインから入力する文字列でその他は結果として表示される内容です。

イタリックフォント

イタリックフォントは、インストール状況に応じた固有の情報 (変数など) を使用して入力するテキストに使用されます。サーバーのパス、名前、アカウント ID にも使用します。

角括弧

角括弧 [] で囲まれているパラメータは、省略可能です。たとえば、このマニュアルでは、`dpadmin` コマンドの使用例が次のように示されます。

```
dpadmin [subcommands] [options] [arguments]
```

この [subcommands]、[options]、および [arguments] は、`dpadmin` コマンドに追加できるオプションパラメータがあることを示しています。

コマンドラインプロンプト

このマニュアルの例では、コマンドラインプロンプト (C-Shell の `%`、Korn または Bourne シェルの `$` など) は省略しています。使用するオペレーティングシステム環境により、表示されるコマンドラインプロンプトは異なります。ただし、コマンドは特に指定されていないかぎり、このマニュアルに示されているとおりに入力してください。

ユーザーインタフェースに共通の動詞

クリックは、画面上のポインタが UI 要素上にあるときに、ユーザーにマウスを押してから放し、UI 要素を起動するように指示します。

ダブルクリックは、ユーザーにマウスボタンを連続して 2 度クリックするように指示します。

右クリックは、ポインタが UI 要素上にあるときにユーザーにマウスの右ボタンをクリックするように指示します。

選択は「了解」をクリック、あるいはアクションの選択をする前に、(チェックボックスをハイライトしてチェック、またはラジオボタンをクリックして) UI オプション内で選択項目を指定するようにユーザーに指示します。

または、メニュー項目を選択した場合など、選択内容が即時に動作状態に移行する UI オプションを選択するようにユーザーに指示します。

入力は UI フィールドに適切な文字を入力するようにユーザーに指示します。

関連マニュアル

Sun ONE Portal Server には、このマニュアルのほかに、管理者向けの補足情報、および開発者向けのマニュアルが用意されています。Sun ONE Portal Server のすべてのマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/sunone?l=ja>

次に、Sun ONE Portal Server 6.1 のマニュアルセットとしてリリースされているマニュアルを示します。

- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Installation Guide』
- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Migration Guide』
- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Installation Guide』
- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Release Notes』
- 『Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access 6.1 Installation Guide』
- 『Sun One Portal Server, Secure Remote Access 6.1 Administrator's Guide』
- 『Sun One Portal Server, Secure Remote Access 6.1 Release Notes』

次のマニュアルは、Sun ONE Portal Server 6.1 リリース用には改訂されていませんが、Sun ONE Portal Server 6.1 製品に適用できる情報が含まれています。

- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』

- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Developer's Guide』
- 『Sun ONE Portal Server 6.1 Deployment Guide』

オンラインマニュアル

『Sun ONE Portal Server 6.2 管理者ガイド』は、PDF 形式および HTML 形式をオンラインで参照できます。以下の URL をご利用ください。

<http://docs.sun.com/db/prod/sunone?l=ja>

Sun ONE Portal Server の管理の概要

Sun™ ONE Portal Server 6.2 製品は、企業がさまざまなソースからコンテンツを引き出し、特定のユーザーまたはユーザーグループ用にコンテンツをパーソナライズし、これらの複数のソースのコンテンツを Web ブラウザなど特定ユーザーのデバイスに合わせて単一の出力形式に集約することができる一連の統合ソフトウェア製品です。

この章では、製品セットのアーキテクチャ、ポータルのエンドユーザーインターフェース、Sun ONE Portal Server ソフトウェアによって実装されるサービスの概要と設定方法、製品の管理に使用するツールについて簡単に説明します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- [アーキテクチャの概要](#)
- [ポータルアクセスの概要](#)
- [サービス設定の概要](#)
- [管理の概要](#)

アーキテクチャの概要

Sun ONE Portal Server は Sun ONE アーキテクチャの一部です。Sun ONE アーキテクチャ内で Portal Server はコンテンツの検索、接続、集約、提示、通信、パーソナライズ、通知、および配信を行うテクノロジーを提供します。Sun ONE 内のコンテンツは、Web サービスにより提供されます。Portal Server 自体は Web サービスを提供しません。Portal Server はユーザーインターフェースを Web サービスに関連付けるための、また Web サービスをユーザーにとって便利なものにするメカニズムです。

Sun ONE Portal Server 製品のアーキテクチャは、統合可能なさまざまなソフトウェア製品から構成されます。これにより、Sun ONE Portal Server は内部コンポーネントだけでなく、サポートされている外部製品が提供する機能やサービスも活用できます。Sun ONE Portal Server 自体には、デスクトップ、NetMail、リライタ、検索の内部コンポーネントが含まれます。サポートされている外部製品には、Sun™ ONE Web

Server、Sun™ ONE Directory Server、Sun™ ONE Identity Server (従来の iPlanet™ Directory Server Access Management Edition) があります。Sun ONE Portal Server は、Web アプリケーションコンテナ、ユーザー、サービス、ポリシー管理、認証とシングルサインオン、管理コンソール、ディレクトリスキーマとデータストレージ、プロトコルのサポートを Sun ONE Portal Server 製品自体に実装するのではなく、これらの外部製品から実装します。たとえば、Sun ONE Portal Server はデフォルトの Web コンテナとして Sun ONE Web Server を使用します。

注 Sun ONE Portal Server はデフォルト Web コンテナとして Sun ONE Identity Server に統合された Sun ONE Web Server を使用しますが (また Java™ 実行時環境では Java™ Development Kit を使用します)、Sun™ ONE Application Server、IBM WebSphere Application Server、および BEA WebLogic Application Server も使用できます。

また、その他の Portal Server アドオンソフトウェアもインストールできます (Sun™ ONE Portal Server: Secure Remote Access など)。Sun ONE Portal Server のアーキテクチャについては、『Sun ONE Portal Server 6.1 Deployment Guide』を参照してください。

ポータルアクセスの概要

通常、ユーザーは Web ブラウザを通じて、ポータルのホームページの URL を要求し、Sun ONE Identity Server 認証サービスを通じて認証することでポータルコンテンツにアクセスします。いったん認証されると、ユーザーに Sun ONE Portal Server デスクトップが表示されます。

29 ページの [図 1-1](#) は、Sun ONE Portal Server 6.2 のデスクトップの例を示しています。

図 1-1 Sun ONE Portal Server デスクトップの例

ユーザー情報

ようこそ!
sample User
最終更新日:
2004/01/21 17:39
残り時間: 119 分
最大アイドル時間: 30 分

ブックマーク #2

下記に URL を入力:

[Sun ホームページ](#)
[Sun ONE についての詳細情報...](#)
[Sun ONE ホームページ](#)

Instant Messaging

最終更新日時: 2004/01/21 17:39

連絡先グループが定義されていません。

[Instant Messenger](#) を起動するか、アイコンをクリックして相手とチャットします。

Netlet

オープンポータルモードでは、Netlet にアクセスできません。

Sun ONE 情報

Sun に関するニュースと情報

- Sun ONE からの最新メッセージ...

サンプル JSP チャンネル

JSP プロバイダの紹介

JSPProvider コンテンツプロバイダは、[JavaServer Pages](#) を使ってデスクトップチャンネルを作成するのに使用できます。このチャンネルは、JSP を使ってできるものの一例です。セッションの属性を変更するには、チャンネルの「編集」ボタンをクリックしてください。

JSP:	samplecontent.jsp
JSP の実際のパス:	/etc/opt/SUNWps/desktop/sam
リクエスト/パラメータ:	action=content provider=JSPTabContainer
セッションの属性:	なし
選択したユーザー属性:	名 (givenname) = null 姓 (sn) sample

XML テストチャンネル

company22.com		NASDAQ, 15:47	
終値	16.240000	始値	16.8
前日比	-0.85	前日終値	17.090000
前日比 %	-4.97%	買い気配値	16.24
出来高	26786000	売り気配値	16.25
本日の最高値	16.99	52 週最高値	64.6562
本日の最安値	16.05	52 週最安値	12.85

デスクトップは、ポータルコンテンツとのプライマリユーザーインターフェースです。デスクトップサービスは、サブレット、プロバイダ API、さまざまなチャンネル、その他の各種サポート API、およびユーティリティを通じて実装されます。デスクトップはプロバイダと呼ばれるプログラム上のエンティティを使用してコンテンツを生成します。コンテンツの 1 単位をチャンネルと呼びます。複数のチャンネルのコンテンツをコンテンツチャンネルに集約し、デスクトップ上でテーブルまたはタブなどのさまざまな形式に編集できます。ユーザーがポータルにアクセスすると、デスクトップはユーザーのコンテンツ生成に使用されたコンテンツプロバイダとチャンネルデータを格納し

たディスプレイプロファイルを参照します。ディスプレイプロファイルは、デスクトップでユーザーに表示される全体的なレイアウト、表示、あるいは組織を実際には定義しないので、誤解のないように注意してください。基本的に、ディスプレイプロファイルはチャンネルのプロパティ値を提供するだけです。実際には、デスクトップは Sun ONE Directory Server のさまざまなレベルまたはノード(最上位、組織、ロール、およびユーザーレベル)に LDAP 属性として格納された複数のディスプレイプロファイルを使用して、ユーザーに表示するコンテンツを決定します。各レベルのディスプレイプロファイルのプロパティの定義、およびプロパティ値の LDAP ノードへのアップロードには、XML ドキュメントが使用されます。実行時に、各レベルで定義されたディスプレイプロファイルのプロパティをマージして、ユーザーのディスプレイプロファイルが作成されます。ディスプレイプロファイルドキュメントは各レベルで定義できますが、各レベルにディスプレイプロファイルドキュメントを指定する必要はありません。

指定したクライアントタイプ (HTML または MAPI) に基づいて、特定のプロパティ値を保存、取得できるように、Sun ONE Portal Server ソフトウェアには次のプロパティ情報が含まれます。

- フィルタ条件を定義する条件付きプロパティ (139 ページの「[条件付きプロパティ](#)」を参照)
- 認証が行われない場合のクライアントの管理方法を決定する authlessState プロパティ (79 ページの「[匿名認証の設定](#)」を参照)

サービス設定の概要

Sun ONE Portal Server は Sun™ ONE アプリケーションであるため、そのサービスは Sun ONE Identity Server サービス管理システム (SMS) を使用して定義および管理されます。サーバーに固有ではないサービス関連のデータは、SMS DTD (サービス管理システム文書型定義) に準拠した XML (Extensible Markup Language) ファイルを使用して定義されます。サーバー固有のデータは、個々のサーバーのローカルプロパティファイルに保存できます。Sun ONE Portal Server の各サービス (デスクトップ、Netmail、リライタ、検索) には、サービスに固有のデータを指定、変更するための専用の XML ファイルとプロパティファイルがあります。

Sun ONE Identity Server サービス

「[アーキテクチャの概要](#)」で説明したように、Sun ONE Portal Server は Sun ONE Portal Server 自体には含まれていない Sun ONE アーキテクチャのサポート製品を使用して多くの機能およびサービスを実装します。特に、以前のバージョンの Portal Server が多くの管理機能を内部的に実装している場合、Sun ONE Identity Server との統合により、Sun ONE Portal Server は Sun ONE Identity Server 製品の次の管理ツールおよびサービスを効果的に活用することができます。

- 管理コンソール
- サービス管理
- ユーザー管理
- 認証 / シングルサインオン

Sun ONE Identity Server サービスの管理についての詳細は、[第 2 章「認証、ユーザー、およびサービスの管理」](#)を参照してください。

Sun ONE Portal Server サービス

標準の Sun ONE Identity Server サービス以外に、Sun ONE Portal Server は Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、内部サービス (デスクトップ、NetMail、リライター、検索) を管理します。

デスクトップ

前の節で説明したように、デスクトップは Sun ONE Portal Server のプライマリエンドユーザーインタフェースを提供します。デスクトップは、プロバイダアプリケーションプログラミングインタフェース (PAPI) を使用して拡張可能な、コンテンツ集約のためのメカニズムを提供します。デスクトップには、コンテナ階層と、特定のチャネルを構築するための基本構築ブロックとを有効にするさまざまなプロバイダが表示されます。コンテンツプロバイダとチャネルデータを保存する場合、デスクトップは Sun ONE Identity Server サービスのトップでディスプレイプロファイルデータ保管メカニズムを実行します。ディスプレイプロファイルとその他のデスクトップサービスのデータは、管理コンソールで編集できます。デスクトップとディスプレイプロファイルの管理の詳細については、[第 4 章「ポータルデスクトップサービスの管理」](#)および[第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)を参照してください。

リライタ

リライタは、HTML、JavaScript™、および WML などの各種 Web 言語形式、および HTTP ロケーションヘッダー (リダイレクト) 形式の、URL 参照を書き換えるための Java クラスライブラリを提供します。書き換え方法と書き換えるデータを定義するルールを保存するために、リライタは Sun ONE Identity Server サービスを定義します。リライタルールは、管理コンソールで編集できます。リライタの管理については、[第7章「リライタサービスの管理」](#)を参照してください。

検索エンジン

検索エンジンサービスは、デスクトップに基本および詳細検索チャンネルとブラウザチャンネルを提供します。検索エンジンサービスは、イントラネットで利用できるドキュメントのリソース記述を作成するためにロボットを使用し、これらのリソース記述をインデックス付きデータベースに格納します。リソース記述 (RD) は、他のサーバーまたはバックアップ SOIF (Summary Object Interchange Format) ファイルからインポートすることもできます。検索エンジンには、リソース記述を送信したり、データベースを検索したりするための Java および C の API が含まれています。検索エンジンデータベースは、他のコンテンツプロバイダのための共有コンテンツキャッシュのように、その他の任意のコンテンツを格納する場合にも使用できます。検索エンジンサービスのデータは、管理コンソールで編集できます。検索の管理については、[第8章「検索エンジンサービスの管理」](#)を参照してください。

NetMail

NetMail サービスは、電子メールクライアントの NetMail (Java) および NetMail Lite を実装しています。これらのクライアントは、標準の IMAP および SMTP サーバー環境で動作します。NetMail サービスのデータは、管理コンソールで編集できます。NetMail の管理については、[第6章「NetMail サービスの管理」](#)を参照してください。

Sun ONE Portal Server サービスのための設定メカニズム

Sun ONE Portal Server はさまざまな設定メカニズムを使用して、サービスを定義、保存、管理します。ここでは5つの表で、Sun ONE Portal Server の各内部サービスで使用される設定メカニズムを説明します。

[33 ページの表 1-1](#) は、デスクトップサービスの設定メカニズムを示しています。この表には、「設定メカニズム」と「説明」という列があります。「設定メカニズム」はメカニズムを、「説明」はメカニズムの目的を示します。

表 1-1 Sun ONE Portal Server デスクトップ設定メカニズム

設定メカニズム	説明
デスクトップサービスの定義	デスクトップサービスの Sun ONE Identity Server 設定属性を定義する。詳細は、 付録 B 「XML リファレンス」 を参照
デスクトップディスプレイプロファイル XML DTD	プロバイダとチャネルオブジェクト、およびそれらのプロパティを定義することで、デスクトップの表示設定を定義する。詳細は、 付録 B 「XML リファレンス」 を参照
デスクトップ管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server サービスを Sun ONE Identity Server フレームワークで管理するための手段を提供する。デスクトップサービス設定属性の管理については、 第 4 章 「ポータルデスクトップサービスの管理」 を参照。ディスプレイプロファイルの管理については、 第 5 章 「ディスプレイプロファイルの管理」 を参照
デスクトップ CLI	製品管理のための dpadmin および par コマンドユーティリティを提供する。詳細は、 第 14 章 「コマンドラインユーティリティ」 を参照
デスクトップ設定プロパティファイル	デスクトップサービスのサーバー固有パラメータを定義する。詳細は、 付録 A 「設定ファイル」 を参照

表 1-2 は、検索サービスの設定メカニズムを示しています。この表には、「設定メカニズム」と「説明」という列があります。「設定メカニズム」はメカニズムを、「説明」はメカニズムの目的を示します。

表 1-2 Sun ONE Portal Server 検索設定メカニズム

設定メカニズム	説明
検索サービス定義	検索サービスのための Sun ONE Identity Server 設定属性を定義する。詳細は、 付録 I 「スキーマリファレンス」 を参照
検索管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server 検索サービスのデータを Sun ONE Identity Server フレームワークで管理するための手段を提供する。詳細は、 第 8 章 「検索エンジンサービスの管理」 を参照
検索 CLI	製品管理のための rdmgr、sendrdm、および StartRobot コマンドユーティリティを提供する。詳細は、 第 14 章 「コマンドラインユーティリティ」 を参照
検索設定プロパティファイル	検索サービスのサーバー固有パラメータを定義する。詳細は、 付録 A 「設定ファイル」 を参照
ロボット設定ファイル	検索エンジンロボットの動作を定義する。ロボット設定ファイルには 4 種類がある。詳細については、 第 9 章 「検索エンジンロボットの管理」 および 第 10 章 「定義済みのロボットアプリケーション関数」 を参照

表 1-3 は、リライターサービスの設定メカニズムを示しています。この表には、「設定メカニズム」と「説明」という列があります。「設定メカニズム」はメカニズムを、「説明」はメカニズムの目的を示します。

表 1-3 Sun ONE Portal Server リライター設定メカニズム

設定メカニズム	説明
リライターサービス定義	リライターサービスのための Sun ONE Identity Server 設定属性を定義する。詳細は、付録 I 「スキーマリファレンス」を参照
リライタルール XML DTD	詳細は、付録 B 「XML リファレンス」を参照
リライター管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server リライターサービスのデータを Sun ONE Identity Server フレームワークで管理するための手段を提供する。詳細は、第 7 章「リライターサービスの管理」を参照
リライター CLI	製品管理のための radmin コマンドユーティリティを提供する。詳細は、第 14 章「コマンドラインユーティリティ」を参照

表 1-4 は、NetMail サービスの設定メカニズムを示しています。この表には、「設定メカニズム」と「説明」という列があります。「設定メカニズム」はメカニズムを、「説明」はメカニズムの目的を示します。

表 1-4 Sun ONE Portal Server NetMail 設定メカニズム

設定メカニズム	説明
NetMail サービス定義	NetMail サービスのための Sun ONE Identity Server 設定属性を定義する。詳細は、付録 I 「スキーマリファレンス」を参照
NetMail 管理コンソールモジュール	Sun ONE Portal Server NetMail サービスのデータを Sun ONE Identity Server フレームワークで管理するための手段を提供する。詳細は、第 6 章「NetMail サービスの管理」を参照

管理の概要

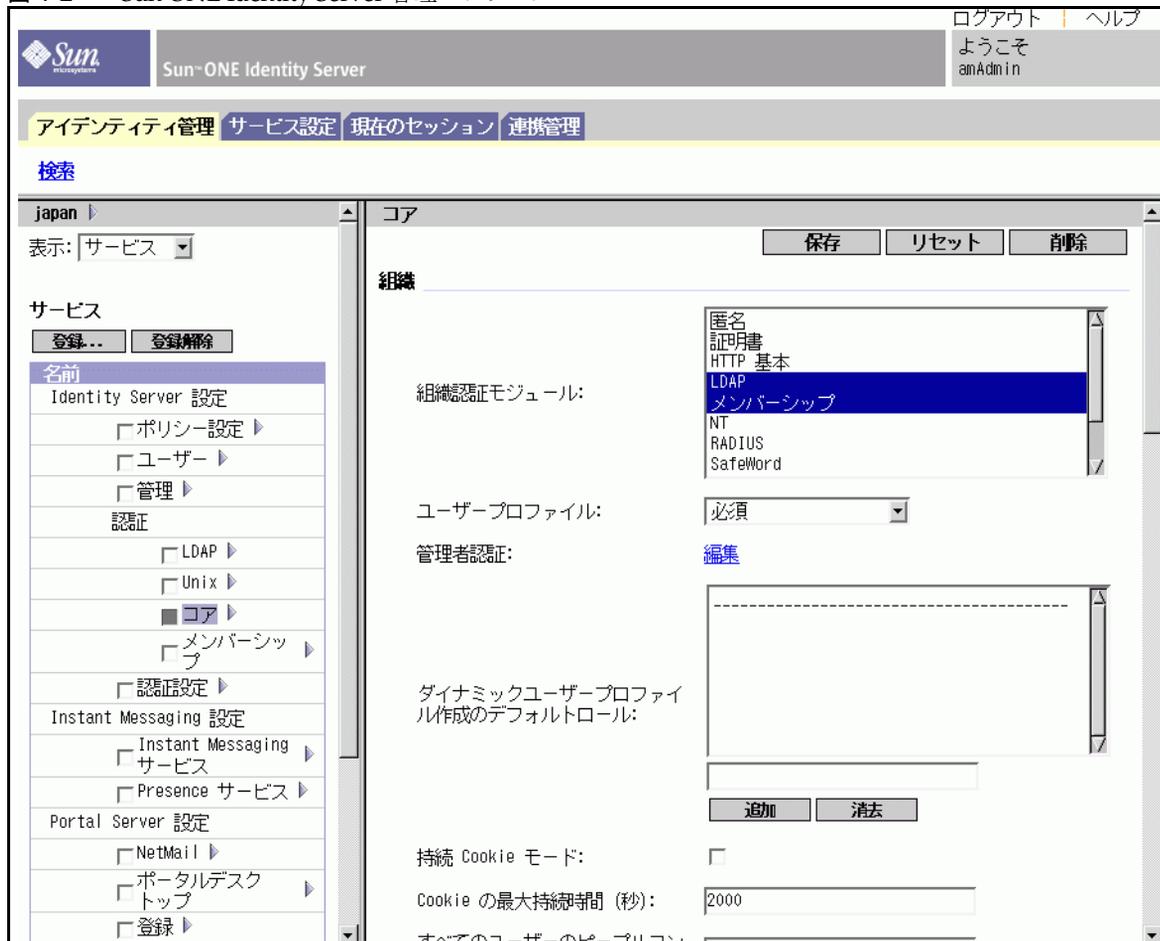
ここでは、Sun ONE Identity Server コンソールとコマンドラインの両方から行う Sun ONE Portal Server の管理の概要について説明します。

Sun ONE Identity Server コンソールの使用

Sun ONE Portal Server と Sun ONE Identity Server のサービスの管理には、Sun ONE Identity Server が提供する HTML ベースの管理コンソールを使用します。Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server コンソールを拡張できるように、Sun ONE Portal Server に固有のサービスの管理モジュールを追加します。コンソールを使用して実際に行う作業の詳細については、本書の各章を参照してください。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールは、ロケーション、ナビゲーション、データの 3 つのパネルに分かれています。管理者はこの 3 つのパネルを使用して、ディレクトリの切り替え、ユーザーとサービスの設定、およびポリシーの作成を行います。36 ページの図 1-2 は、管理コンソールを示しています。

図 1-2 Sun ONE Identity Server 管理コンソール



ロケーションパネル

ロケーションパネルは、コンソールの上部に表示されます。最上部のメニューを使用すると、管理者は次の4つの管理ビューを切り替えることができます。

- アイデンティティ管理
- サービス設定
- 現在のセッション
- 連携管理

「ようこそ」フィールドには、現在コンソールを実行しているユーザー名とそのユーザープロファイルへのリンクが表示されます。

「ヘルプ」リンクは、『Attribute Reference Guide』の付録 C、D、E、F の HTML バージョンを表示するためのブラウザウィンドウを開きます。

「ログアウト」リンクを使用すると、ユーザーは Sun ONE Identity Server コンソールからログアウトできます。

ナビゲーションパネル

ナビゲーションパネルは、コンソールの左側部分です。パネルの上部にディレクトリオブジェクトの区画があり、現在開いているディレクトリオブジェクトの名前とそのプロパティへのリンクが表示されます。「表示」メニューは、選択したディレクトリオブジェクト内のディレクトリをリストします。サブディレクトリの数により、ページングメカニズムが機能します。

データパネル

データパネルは、コンソールの右側部分です。オブジェクト属性とその値は、ここで表示、設定されます。それぞれのグループ、ロール、組織のエントリは、このパネルで選択されます。

コマンドラインユーティリティの使用

Sun ONE Portal Server コマンドラインインタフェースは、Sun ONE Identity Server と Sun ONE Portal Server で提供されるユーティリティから構成されます。

Sun ONE Portal Server コマンドラインユーティリティの完全なリストと構文については、[第 14 章「コマンドラインユーティリティ」](#)を参照してください。Sun ONE Identity Server 製品のコマンドラインユーティリティについては、同製品のマニュアルを参照してください。

認証、ユーザー、およびサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Identity Server を使用して、認証、ユーザー、およびサービスを管理する方法について説明します。この章は、Sun ONE Identity Server のすべての側面を説明するものではありません。Sun™ ONE Portal Server に関する側面に重点を置いています。詳細については、Sun ONE Identity Server のマニュアルを参照してください。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [Sun ONE Identity Server の概要](#)
- [Sun ONE Identity Server 管理コンソールへのログイン](#)
- [基本情報の表示](#)
- [Sun ONE Portal Server の起動と停止](#)
- [Sun ONE Identity Server サービスの管理](#)
- [Sun ONE Portal Server ユーザーの管理](#)
- [認証の設定](#)
- [Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要](#)
- [Sun ONE Portal Server ポータルデスクトップへのログイン](#)
- [ロギングの管理](#)

Sun ONE Identity Server の概要

Sun™ ONE Portal Server 3.0 (従来の iPlanet™ Portal Server 3.0) の実装では、認証方法の管理、ドメイン、ロール、およびユーザーの作成、プロファイルの属性やログなどのその他のデータの管理に、この製品を使用します。また、カスタムアプリケーションの開発には iPlanet Portal Server 3.0 API も使用します。

Sun ONE Portal Server 6.2 製品では、以前は iPlanet Portal Server 3.0 によって提供されていた Sun ONE Identity Server の管理機能と API を使用します。Sun ONE Identity Server は、Sun™ ONE Directory Server の管理機能とセキュリティ機能を活用するツールセットです。Sun ONE Identity Server の目的は、Sun ONE Directory Server を使用する組織に、ユーザーオブジェクト、ポリシー、およびサービスを管理するためのインタフェースを提供することです。

Sun ONE Identity Server を使用することで、次の操作を行えます。

- Sun ONE Directory Server による、データセキュリティを向上させたユーザー認証およびシングルサインオンの実行
- 管理者による、ロール (ユーザーエントリの属性として表現される、エントリのグループ化メカニズム) に基づくユーザーエントリ管理
- 開発者による、多数のデフォルトサービスおよびカスタムサービスの設定パラメータの定義と管理

この3つの機能には、Web ベースのグラフィカルユーザーインタフェースである Sun ONE Identity Server 管理コンソールからアクセスします。また、コマンドラインインタフェース (amadmin) を利用して、ディレクトリサーバーでバッチ管理タスクを実行できます。たとえば、新規サービスの作成、登録、有効化や、組織、ユーザーコンテナ、グループ、ロール、ユーザーの作成、削除、および読み取り (取得) を実行できます。

Sun ONE Identity Server の機能の概要

Sun ONE Identity Server には、次の管理コンポーネントがあります。従来は、これらのコンポーネントは Sun ONE Portal Server 3.0 のフレームワーク自体に含まれていました。

- **ユーザー管理**: ユーザー関連オブジェクト (ユーザー、ロール、グループ、ピープルコンテナ、組織、サブ組織、部署のオブジェクト) を作成します。これらのオブジェクトは、Sun ONE Identity Server コンソールまたはコマンドラインインタフェースのいずれかを使用して、定義、変更、削除できます。

- **認証** : ユーザー認証のプラグインソリューションを提供します。特定のユーザーを認証するのに必要な条件は、Sun ONE Portal Server エンタープライズの各組織に設定された認証サービスに基づきます。Sun ONE Portal Server セッションへのアクセスが許可されるには、ユーザーは認証を受け、それを通過する必要があります。
- **シングルサインオン** : ユーザーが認証されると、Sun ONE Identity Server のシングルサインオン (SSO) 用 API が認証を継承します。認証されたユーザーが保護されたページへのアクセスを試みると、そのたびに SSO API は認証証明情報に基づいて、ユーザーが適切なアクセス権を持っているかどうかを判断します。ユーザーが有効であれば、追加認証なしでページへのアクセスが許可されます。無効であれば、ユーザーに再認証が求められます。
- **サービス管理** : Sun ONE Portal Server 製品自体のサービス (デスクトップ、リライタ、検索、および NetMail) を含む、デフォルトサービスとカスタムサービスの設定パラメータを指定します。
- **ポリシー管理** : ビジネスリソースへのアクセスを制御する規則を定義、変更、または削除します。ポリシーとは、これらの規則の総称です。ポリシーは、ロールまたは組織に基づき、アクセス権を与えたり、制約を定義したりすることができます。

Portal Server 3.0 と Portal Server 6.2 の比較

41 ページの表 2-1 は、Portal Server 製品の主な変更の概要を示しています。Sun ONE Identity Server には、Sun ONE Portal Server 3.0 (従来の iPlanet Portal Server 3.0) 製品の一部であった多くの関数と機能が含まれています。この表では、1 列目に概念または用語を示し、2 列目に Sun ONE Portal Server 3.0 製品でのその用語の特徴や機能を定義し、3 列目で Sun ONE Portal Server 6.2 製品での対応する特徴や機能について説明します。

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.2 の比較

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.2
ロールツリー	<p>ユーザーおよびアプリケーションを組織化するために Sun ONE Portal Server 3.0 内で設定する階層。ロールツリーには、次の 4 つのレベルがある</p> <ul style="list-style-type: none"> • root • ドメイン • ロール • ユーザー 	<p>ロールツリーの概念は適用されなくなる</p> <p>Sun ONE Identity Server は、Sun ONE Directory Server の機能を利用するため、ユーザー、組織、サブ組織など組織化にはディレクトリ情報ツリー (DIT) を使用する</p>

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.2 の比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.2
ドメイン / 組織	社員または顧客など、一般的な関係を持つユーザーの最上位グループ。これは DNS ドメインではないが、Sun ONE Portal Server 3.0 はユーザーを論理コミュニティにグループ化するために使用する	ドメインの概念は適用されなくなる。部門とリソースを管理するために企業が使用する階層構造の最上位レベルは、Sun ONE Identity Server では組織となる インストール時に、Sun ONE Identity Server はルートサフィックスを要求し、デフォルトはドメイン名から作成される (たとえば、ドメインが sun.com であれば、デフォルトは dc=sun, dc=com となる)。インストール後に、追加の組織を作成して、別の企業を管理することが可能。作成された組織はすべて最上位組織の下に配置される。また、これらのサブ組織内には、別のサブ組織を入れ子にすることができる。入れ子の構造の深さに制限はない
ロール	機能に基づいてドメインのメンバーを分ける。ロールには、ユーザーのデスクトップポリシーを定義する属性セットとポリシーが含まれる	1 人または複数のユーザーに付与できる、単一の特権や特権のセットが含まれる。これには、Sun ONE Directory Server に保存された ID 情報のアクセスと管理、および Sun ONE Identity Server ポリシーモジュールによって保護された特権へのアクセスが含まれる。また、Sun ONE Identity Server のロールは、ロール自体をサービスクラスのテンプレートに保存されているプロファイルと関連付ける Sun ONE Identity Server でのロールの定義方法は異なり、従来はサポートされていなかった、単一ユーザーへの複数のロールの割り当ても行える アクセス権はアクセス制御命令 (ACI) によってロールに定義される。Sun ONE Identity Server には、いくつかのロールが事前に定義されている。Sun ONE Identity Server コンソールを使用してロールの ACI を編集し、ディレクトリ情報ツリー内でアクセス権を割り当てることができる。

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.2 の比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.2
属性	<p>グローバル属性とユーザー設定属性の 2 種類がサポートされる。グローバル属性はプラットフォーム全体に適用され、スーパー管理者だけが設定できる。ユーザー設定属性は、後述するように、ロールツリーの基本レベルに適用される。代理のドメイン管理者は、ドメイン、親ロール、子ロール、およびユーザーレベルにこれらの属性を設定できる。属性によっては、ロールツリーのユーザーレベルで必要に応じてユーザーごとにカスタマイズできる</p>	<p>Sun ONE Identity Server の属性には、次のような種類がある</p> <ul style="list-style-type: none"> • グローバル：グローバル属性に適用される値は、Sun ONE Identity Server の設定全体に適用され、設定済みのすべての組織に継承される • ダイナミック：ダイナミック属性は、Sun ONE Identity Server の設定済みロールまたは組織に割り当てることができる。ユーザーにロールを割り当てた場合、または組織でユーザーを作成する場合は、ダイナミック属性がそのユーザーの特性となる • 組織：この属性は、組織だけに割り当てられる。その意味では、この属性はダイナミック属性として機能する。ただし、ダイナミック属性とは異なり、これはサブツリーのエントリによって継承される。 • ユーザー：この属性は各ユーザーに直接割り当てられる。この属性は、ロールまたは組織から継承されず、通常はユーザーごとに異なる • ポリシー：ポリシー属性は権限属性である。ポリシーを設定すると、ロールまたは組織にそれを割り当てることができる。これは、ダイナミック属性とポリシー属性の唯一の違いである。ダイナミック属性はロールまたは組織に直接割り当てられるが、ポリシー属性はポリシーの設定に使用され、その上でロールまたは組織に割り当てられる

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.2 の比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.2
ポリシー	アプリケーション、デスクトップ、NetFile、Netlet などに対するポータルアクセスポリシーを設定する	<p>どのリソースに誰が何を行うかを定義する規則。Sun ONE Identity Server のポリシーサービスにより、組織はこれらの規則やポリシーを設定できる。通常、ポリシーは組織 (またはサブ組織) レベルで作成され、組織のツリー全体で使用される。指定のポリシーを作成するには、ポリシーの作成先となる組織に特定のポリシーサービスが事前に登録されている必要がある</p> <p>Sun ONE Identity Server 6.0 では、ポリシーサービスには許可または拒否される URL のリストだけが含まれる。これは、Portal Server がコンテンツ用にポリシーベースのデスクトップを構築するには不十分である。このため、チャンネルアクセスのポリシーが、デスクトップのディスプレイプロファイルに組み込まれる。</p> <p>Portal Server 6.2 のデスクトップは、複数のロールからチャンネルリストをマージできるディスプレイプロファイルをサポートしている。たとえば、25 のロールがあり、それぞれにそのロールに関連する少数のチャンネルがある場合、任意の数のロールを持つようにユーザーを設定し、次に、ユーザーが取得するデスクトップがそのロールセットを提供するように設定することができる。各種ロールからのチャンネルの集約やマージは、マージ動作によって制御される。ディスプレイプロファイルをマージするために、Portal Server のロールには階層的な順序が必要になる。マージは、優先度が最も低いドキュメント (もっとも小さい番号) から開始され、優先度が最も高いプロファイルであるユーザー (ベース) に達するまで、優先度番号の昇順に行われる。ディスプレイプロファイルのマージについては、第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」 を参照</p>

表 2-1 Sun ONE Portal Server 3.0 と Sun ONE Portal Server 6.2 の比較 (続き)

概念または用語	Sun ONE Portal Server 3.0	Sun ONE Portal Server 6.2
コンポーネント / サービス	Portal Server 3.0 の 4 つの主要コンポーネントは、サーバー自体、プロファイルサーバー、ゲートウェイ、ファイアウォールである	コンポーネントは、共通の名前で定義された属性のグループである Sun ONE Identity Server サービスに置き換えられた。属性は、サービスが組織に提供するパラメータを定義する。Sun ONE Identity Server はサービスのフレームワークである Sun ONE Portal Server 6.2 は、認証、ユーザー管理、およびポリシー管理などのコアサービスの提供だけでなく、Portal Server 固有のサービス (デスクトップ、NetMail、リライタ、および検索) を実行するフレームワークについても Sun ONE Identity Server に依存する
管理インタフェース	Portal Server 3.0 コンポーネントだけを管理するための、専用の管理コンソールを提供する コマンドラインインタフェースは、ipsadmin である	Sun ONE Identity Server のサービス、ユーザー、およびポリシーの管理だけでなく、Sun ONE Portal Server 固有のサービス (デスクトップ、NetMail、リライタ、および検索) の管理にも Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用する ipsadmin に代わるコマンドラインインタフェースは、amadmin、dpadmin、および radmin である

Portal Server 6.0 と Portal Server 6.2 の比較

46 ページの表 2-2 は、Portal Server 6.0 から Portal Server 6.1 への改訂で加えられた変更の概要を示しています。この表では、1 列目に概念または用語を示し、2 列目に Sun ONE Portal Server 6.0 製品でのその用語の特徴や機能を定義し、3 列目で Sun ONE Portal Server 6.2 製品での対応する特徴や機能について説明します。

表 2-2 Sun ONE Portal Server 6.0 と Sun ONE Portal Server 6.2 の比較

概念または用語	Sun ONE Portal Server 6.0	Sun ONE Portal Server 6.2
ポリシー	ユーザーにポリシーを割り当てる。一度ポリシーを指定し、作成すると、組織またはロールを割り当てることができる。組織レベルでポリシーを割り当てると、組織のすべてのエントリで属性が有効になる。ロールにポリシーを割り当てると、ロールの属性を持つすべてのユーザーで属性が有効になる	組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委任する。(リソースのポリシー定義を別のポリシー製品に委託することもできる。)この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御される アクセス権の定義には通常のポリシーを使用する。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成される
認証メニュー	Sun ONE Identity Server 5.1 管理コンソールの認証メニューの設定機能は、ユーザーが選択した認証モジュールのメニューをサポートする	Sun ONE Identity Server の管理コンソールを使用して、有効な認証モジュールを選択できるリストを設定する場合は、認証レベル属性が同じ値を持つように各認証モジュールを設定する。認証モジュールの設定については、第 2 章「認証、ユーザー、およびサービスの管理」を参照

Sun ONE Identity Server の制約

Sun ONE Identity Server を使用する場合は、次の制約があります。

- 事前定義された Sun ONE Identity Server ロールは、複数の並列組織をスパンできない。ただし、ロールは、ロールに関連する組織の子組織に属するユーザーに割り当てることができる。また、複数ドメインのリソースへのアクセスは、カスタムロールを作成し、また必要な ACI を定義して、必要な特権をロールに付与することにより可能になる
- ユーザーは、組織に属する必要がある、その組織にだけ属することができる
- 階層型ロールはサポートされない。たとえば、ロール A およびロール B の合計に等しいものとしてロール C を作成することはできず、また、ロール C を持つユーザーは、明示的にロール A に割り当てられていない限り、ロール A のリソースにアクセスできない
- RoleAdministratorRole のアクセス権は、対応する ACI を直接編集した場合にのみ設定できる
- ロール管理者 (代理の管理者) が Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインする場合、ロール管理者に修正する権限がない場合でも、同じ組織にあるロール、および関連するサービスとプロパティのすべてを表示できる

Sun ONE Identity Server インタフェース

Sun ONE Identity Server 管理コンソール

このブラウザベースのコンソールは、グラフィカルユーザーインタフェースを提供して、Sun ONE Portal Server サービスなどの Sun ONE Identity Server エンタープライズを管理します。管理コンソールには、サービス、ポリシー、およびユーザーの作成および管理に使用する、異なるレベルの特権を持つ複数のデフォルトの管理者が用意されています(ルールに基づき、追加の代理管理者も作成できます)。詳細は、[第3章「管理の委任の設定」](#)を参照してください。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールは、3つのセクションに分割されています。ロケーションパネル、ナビゲーションパネル、およびデータパネルです。3つのパネルを使用して、ディレクトリを移動したり、ユーザーおよびサービスの設定を実行したり、またポリシーを作成したりします。

詳細は、[第1章「Sun ONE Portal Server の管理の概要」](#)を参照してください。

Sun ONE Identity Server コマンドライン

Sun ONE Identity Server コマンドラインインタフェースは、サーバーを管理する `amadmin` と、サーバーの処理を停止と開始を行う `amserver` です。また、`amadmin` は、XML サービスファイルをディレクトリサーバーにロードし、ディレクトリツリーでバッチ管理タスクを実行するのに使用します。Sun ONE Portal Server 3.0 のコマンドラインインタフェース、`ipsadmin` および `ipsserver` は、現在、使用していません。

`amadmin` については、Sun ONE Identity Server のマニュアルを参照してください。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールへのログイン

Sun ONE Identity Server コンソールへは、次のどちらかの方法でログインできます。

- 固有の URL を使用する
- HTTPS を経由する

管理コンソールにログインする場合、表示される機能は、ユーザーのアクセス権によって異なります。アクセス権は、ACI あるいはユーザーに割り当てられたロールによって決まります。たとえば、スーパーユーザーには、管理コンソールのすべての機能が表示されます。一方、代理管理者には、通常、サブ組織についてこの機能のサブセットだけが、またエンドユーザーには、自分のユーザー ID に関するユーザー属性だけが表示されます。

現在、管理コンソールへは、次のどちらかの URL でログインできます。

- `http://host:port/amconsole/`
- `http://host:port/amserver/`

`/amconsole` URL は、Sun ONE Identity Server 管理コンソールの HTML ページを明示的に要求します。`/amconsole` を使用してログインすると、管理コンソールが起動して、URL が `/amserver/UI/login` に変更されたことが確認でき、ユーザーは認証を行えます。設定に関係なく、この URL を管理コンソールへのアクセスに使用することができます。

`/amserver` URL は、Sun ONE Identity Server サービスの HTML ページを要求します。Sun ONE Portal Server のインストールの際にセットアップされるデフォルトでは、この URL にリダイレクトして管理コンソールにログインすることになっていますが、`/amserver` URL は、Sun ONE Identity Server サービスにアクセスするため、この URL はコンソール以外のその他のサービスを利用可能にするために使用できます。次に例を示します。

- ユーザーが無効なセッションを持つアプリケーションにアクセスする場合、アプリケーションは、`/amserver` URL 要求を `goto` パラメータで `amserver/UI/login` に転送する場合があります。たとえば、Sun ONE Portal Server デスクトップは、Sun ONE Identity Server エージェントと同様にこの転送を行う
- 顧客は、アプリケーションまたはポータルへの開始位置として `amserver/UI/login` にユーザーを転送する場合があります。また、デフォルトのリダイレクト URL が、ポータルアプリケーションまたはカスタムアプリケーションになる場合があります
- カスタムアプリケーションが、`amserver/UI/login` を直接呼び出し、認証する場合があります

Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインするには

- 固有の URL を使用する：
`http://host:port/amserver/` を入力する
または
`http://host:port/amconsole/` を入力する
- HTTPS を使用する：
`https://host:ssl_port/amconsole/` を入力する

IP アドレスを使用した管理コンソールへのログインの設定

サーバーの IP アドレスを使用して Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインすることはできません。これは Sun ONE Identity Server での cookie のドメイン設定によるものです。

ただし、管理コンソールの「Cookie ドメイン」リストに、ローカルホストの IP アドレスを追加することはできます。

1. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
2. 「プラットフォーム」をクリックします。
3. 「グローバル」にローカルホストの IP アドレスを追加します。

これで、ドメイン名ではなく IP アドレスで管理コンソールにアクセスできます。

基本情報の表示

スクリプトにより、`jar` ファイルのバージョンおよびビルドの日付だけでなく、Sun ONE Portal Server のバージョンやビルドの日付など、製品についての基本情報を表示することができます。バージョンスクリプトは、`portal-server-installation-root/SUNWps/bin` ディレクトリにインストールされます。ここで `portal-server-installation-root` は、Sun ONE Portal Server をインストールしたサーバーのルートディレクトリです。デフォルトは `/opt` です。

製品情報を表示するには、次のようにします。

1. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd portal-server-installation-root/SUNWps/bin
```

2. Sun ONE Portal Server についての情報を表示するには、次のように入力します。

```
./version
```

3. Sun ONE Portal Server の `jar` ファイルについての情報を表示するには、次のように入力します。

```
./version jar-file
```

ここで `jar-file` は `jar` ファイルの名前です。

Sun ONE Portal Server の起動と停止

ここでは、Sun ONE Portal Server の停止および起動方法について説明します。Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server に依存するため、Sun ONE Portal Server を直接起動したり、停止したりはしません。Sun ONE Identity Server サーバー自体を再起動する必要があります。

- Sun ONE Portal Server を起動するには、次のように入力する
`/etc/init.d/amserver start`
- 複数インスタンスの Sun ONE Portal Server を起動するには、次のように入力する
`/etc/init.d/amserver startall`
- Sun ONE Portal Server を停止するには、次のように入力する
`/etc/init.d/amserver stop`

注 再起動する前に、サーバーを停止する必要はありません。すでに起動中のサーバーを起動すると、そのサーバーは停止してから再起動します。

これらの操作は、Web コンテナによって異なります。詳細は、『Sun ONE Portal Server 6.1 Developer's Guide』を参照してください。

Sun ONE Portal Server は、さまざまなプラットフォームのロケールをサポートしています。Sun ONE Portal Server をインストール済みのデフォルト値以外で起動する方法については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Developer's Guide』を参照してください。

Sun ONE Identity Server サービスの管理

ここでは、Sun ONE Portal Server が使用する Sun ONE Identity Server サービスについて説明します。詳細については、Sun ONE Identity Server のマニュアルを参照してください。

インストールおよび Sun ONE Web Server のパッケージ化

- Sun ONE Portal Server インストーラは、Sun ONE Identity Server がインストールされていない場合、Sun ONE Identity Server インストーラを実行する
- Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server と Web コンテナを共有する。Web コンテナは、並行性、配備、ライフサイクル管理、セキュリティ、トランザクション、その他のサービスを含む Web コンポーネントの実行時環境を指定する
- Sun ONE Portal Server は、JVM™ および Sun ONE Identity Server が提供するその他のコンポーネントを使用する

ユーザー管理

- Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server API を使用して、自身のプロフィール情報を Sun ONE Identity Server に格納する
- Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server の複数のロールサポートに影響する
- Sun ONE Portal Server は、たとえば、givenName など、オープンで所有者のいない標準のスキーマの属性を使用する
- Sun ONE Identity Server は、LDAP ディレクトリへの直接アクセスを提供する

シングルサインオン / 認証

- Sun ONE Portal Server 6.2 で、認証は、Sun ONE Identity Server によって管理される
- Sun ONE Identity Server は、すべての認証モジュールを提供する
- Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server のポリシー属性を使用して、アクセスを制限する

サービス管理

Sun ONE Portal Server 6.2 は、次の Sun ONE Identity Server サービスを定義します。

- デスクトップ: ポータルフロントエンドを提供する、ポータルへのプライマリエンドユーザーインタフェース。ポータルデスクトップのセットアップおよび管理については、[第4章「ポータルデスクトップサービスの管理」](#)を参照
- NetMail: インターネットで IMAP および SMTP メールサーバーにアクセスし、ポータルを通じてユーザーが電子メールにアクセスできるようにする。NetMail のセットアップおよび管理については、[第6章「NetMail サービスの管理」](#)を参照
- リライター: 管理者によってセットアップされる規則を実装し、適切にアクセスできるように URL をリライトする。リライトのセットアップおよび管理については、[第7章「リライトサービスの管理」](#)を参照
- 検索: 使用可能なドキュメントの基本および詳細検索チャネルなどの検索機能を Sun ONE Portal Server に提供する。検索サービスのセットアップおよび管理については、[第8章「検索エンジンサービスの管理」](#)を参照

Sun ONE Portal Server ユーザーの管理

ディレクトリ情報ツリー (DIT) は、ユーザー、組織、サブ組織などを論理構造または階層構造に編成することにより、これらのロールを想定しているユーザー、または組織内に属しているユーザーへの適切なアクセスを効率的に管理し、割り当てることを可能にします。この節では、組織、サブ組織、ロールの機能と性能についての情報を提供し、また、組織、ロール、ユーザーの作成と管理の手順を示して、Portal Server の実装の基本となるディレクトリ構造またはツリーの設計に役立つ情報について説明します。

注 Sun ONE Portal Server 6.2 は組織をサポートします。この組織については、以前の Sun ONE Portal Server 3.0 では、ドメインの概念を使用していました。

Sun ONE Identity Server の組織ツリーの最上位は、インストール時に指定されます。インストール後に、追加の組織を作成して、別の企業を管理することができます。作成された組織はすべて最上位組織の下に配置されます。これらのサブ組織内で、他のサブ組織を入れ子にできます。入れ子の構造の深さに制限はありません。

注 ツリーの最上位を `isp` と呼ぶ必要はありません。任意の名前をつけることができます。ただし、たとえば、`isp` など一般的な最上位で編成されたツリーでは、ツリー内の組織はロールを共有することができます。

ロールは、より効果的に、またより簡単にアプリケーションを使用するように設計された新しいグループ化メカニズムです。それぞれのロールはメンバー、あるいはロールを保有するエントリを持ちます。グループの場合と同じく、ロールのメンバーは明示的またはダイナミックに指定できます。ロールメカニズムにより、そのエントリがメンバーになっているすべてのロール定義の DN を含む `nsRole` 属性が自動的に生成されます。各ロールは、1人または複数のユーザーに付与できる、単一の特権や特権のセットを含んでいます。Sun ONE Portal Server 6.2 では、複数のロールを1人のユーザーに割り当てることができます。ロールの特権はアクセス制御命令 (ACI) で定義されます。Sun ONE Portal Server には、いくつかのロールが事前に定義されています。Sun ONE Identity Server コンソールを使用してロールの ACI を編集し、ディレクトリ情報ツリー内でアクセス権を割り当てることができます。用意されている例には、Top-level Admin Role および Top-level Help Desk Admin Role が含まれます。組織間で共有できるその他のロールを作成することもできます。

組織、サブ組織、およびロールの設計

DIT の構造を設計する場合、階層を持つツリー構造にするか平坦なツリー構造にするかを決める必要があります。一般的には、作成するツリーをできる限り平坦にするようにします。ただし、ユーザーアクセスの付与および管理を容易にするには、組織の成長の大きさに合わせて、ある程度の数の階層があることが重要になります。DIT 構造を構築するために必要な Sun ONE Identity Server の主要な 3 つのキー構造エンティティは、組織 (サブ組織)、ロール、およびユーザーです。構造を設計する前に、これらの各エンティティの機能、特性、および相互関係について理解する必要があります。

組織およびサブ組織

- 所属する企業や組織の階層に対し、それを表現し形取った階層関係の作成を可能にする
- 対応する管理者によって作成される特定のユーザーを含めることができる。これにより、管理およびアクセス制御の目的で、ユーザーをグループ化する方法が提供される。通常、同じような必要性を持つユーザーをグループ化すると、アクセスの管理および制御がより簡単になる
- 管理者が管理コンソールを使用して、親組織またはサブ組織を簡単に作成したり、削除したりすることができる。ただし、すべてが削除されると、すべてのサブ組織およびユーザーも削除されるため、名前や構造を変更する予定がある場合には適していない

ロール

- 1 人または複数のユーザーへ 単一の特権や特権のセットを割り当てることを可能にする。組織内では、複数ロールを定義して特定の特権をユーザーに設定することができる
- 直接編集する必要があるアクセス制御命令 (ACI) を通じて許可を定義する。一度定義すると、組織、サブ組織、またはユーザーに、簡単に割り当て、また割り当てを取り消すことができる。1 つのエンティティからのロールの割り当ての取り消しは、そのエンティティにだけ適用される。ロールは引き続き存在し、割り当てられたままで他のエンティティに割り当てし直すことが可能なため、アクセスの変更が頻繁に必要な組織により適している
- チャンネルの可視性およびユーザーのチャンネル上書き機能を制御する。XML ディスプレイプロファイル内で、XML ドキュメントのチャンネルの可視または不可視をデフォルトに設定できる。また、XML ドキュメントのデフォルトのチャンネルが上書きされないようにすることもできる

ユーザー

- 人物の ID を表す。管理者が組織またはサブ組織内に作成できる

- 複数のロールに関連付けることができるが、ロールの範囲内にある必要がある。またユーザーは、サブ組織から属性を継承する
- 1つの組織またはサブ組織にのみ属すが、管理者に権限があれば、ユーザーをある組織から別の組織に簡単に移動できる
- チャネルの可視性をパーソナライズできる

シナリオ 1: サブ組織とロールから構成される階層構造

構造をできるだけ平坦にする必要はありますが、階層によっては、必要なグループ化を行うのに役立ちます。階層構造を作成するための手順の概要は次のとおりです。

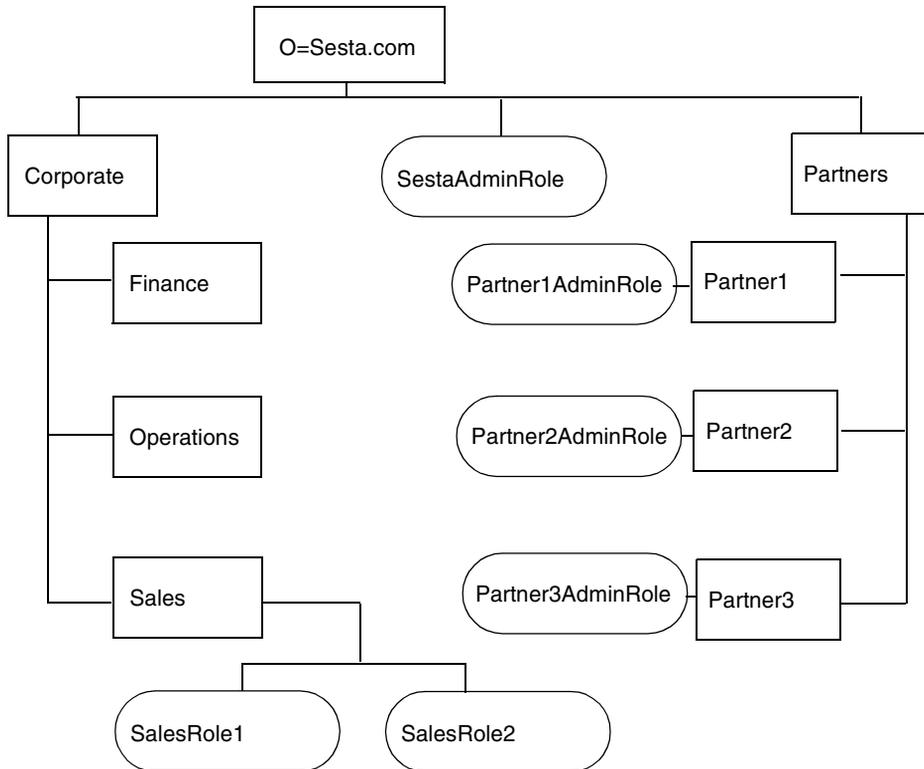
1. 最上位組織を作成します。
2. 企業のユーザーの機能グループまたは組織グループをすべて識別し、DIT 構造エンティティを作成するのに必要なグループ、すなわち固有の特権を持つ必要があるグループを決定します。通常、これは企業で唯一最大の下位部門で、管理者が管理する必要があります。一般的または機能的な名前を使用して、再編成および名前の変更に問題が発生しないようにします。
3. 最上位組織と何らかの関係がある各 DIT エンティティについて、そのエンティティにサブ組織 (つまり、Sun ONE Identity Server 内に存在する別の組織のサブ組織)、またはロールを作成します。

次のガイドラインを使用して、サブ組織またはロールを使用するかどうかを判断します。

- 同様のアクセスの必要性を持つユーザーのグループ化を含むエンティティにサブ組織を定義する。通常、これは、単一組の許可を割り当てることができる広範囲な機能エンティティまたは組織エンティティである
 - 子組織のユーザーがこのロールを持つ必要があり得る場合は、ロールを定義する。すべてのユーザーは、1つの組織またはサブ組織に属する。割り当てられたロールがない場合は、常駐する組織から許可を継承する。このため、属する組織および任意の親組織の両方の属性をユーザーが保有するようにする場合は、ロールメカニズムを使用して、複数のロールを割り当てる必要がある
4. ロールごとに、RoleAdministratorRole を定義してロールを管理します。次に ACI を適切に設定します (管理特権: ユーザーの追加および削除、ロール属性の修正など)。
 5. 企業にアクセスするユーザーを定義します。ユーザーが組織の特権を継承している場合は、ユーザーを適切な組織に配置します。ユーザーがロールの割り当てを通じて特権を受け取る場合は、ロールの範囲内、つまり組織内に入るか、ロールが定義されている組織の子になるように配置する必要があります。

図 2-1 は、階層型ディレクトリ構造を示しています。この図では、最上位組織は Sesta.com です。最上位の 1 つ下には、組織と Corporate と Partners のサブ組織を管理する SestaAdminRole が置かれます。Corporate 組織には、Finance、Operations、および Sales の 3 つのサブ組織があります。Sales 組織には、複数のタイプのユーザーが属するため、SalesRole1 および SalesRole2 の 2 つのロールが定義されています。Partners 組織内には、Partner1、Partner2、および Partner3 の 3 つのサブ組織があります。これらの組織にはそれぞれ独自の管理者が必要であるため、3 つのロールが定義され、それぞれが適切な組織に関連付けられています。パートナーロールは、PartnerAdmin1、PartnerAdmin2、および PartnerAdmin3 です。

図 2-1 階層型ディレクトリ構造

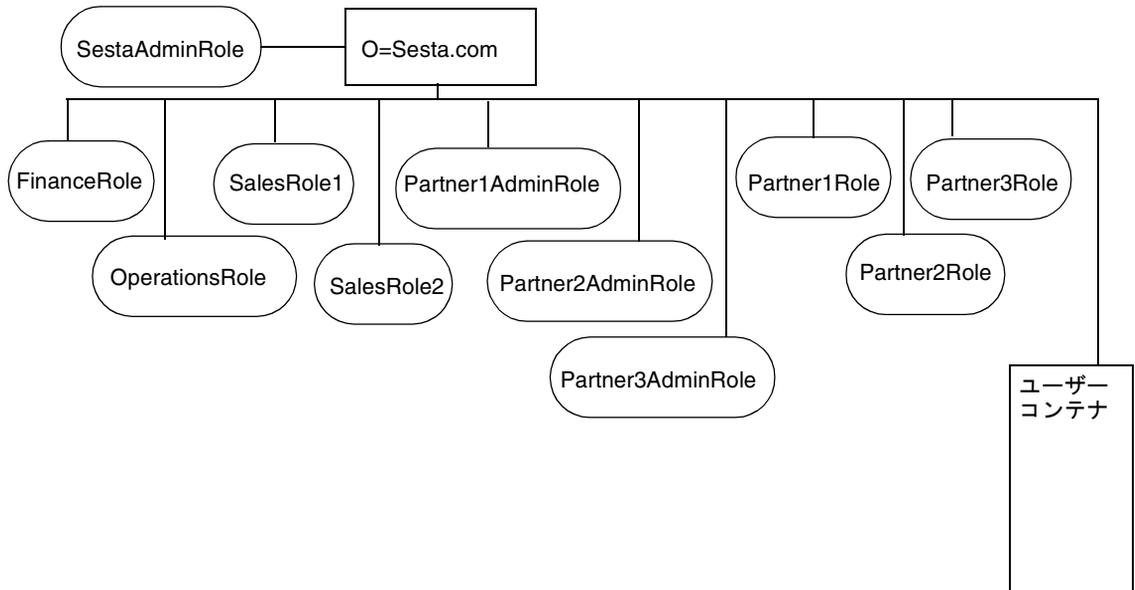


シナリオ 2: 平坦なツリー構造

組織を頻繁に変更する場合は、より平坦な、あるいは全体として一様に平坦なツリー構造が適しています。1つのピープルコンテナを含む1つの組織と、すべてが同じレベルのロールとから構成される構造は、企業を頻繁に変更する際に役立つことがよくあります。1つの組織では、企業の変更が DIT に影響を及ぼすことはありません。すべてのアクセス権は、ロールを使用して定義されます。すべてのユーザーが単一のピープルコンテナに格納され、またすべてのロールが同じレベルにあるため、任意のユーザーに任意のロールを割り当てることができます。

図 2-2 は、平坦なディレクトリ構造を示しています。この図で、最上位かつ唯一の組織は Sesta.com です。すべてのエンティティは、この最上位組織の下に直接定義されます。これらのエンティティには、SestaAdminRole があり、組織や、Finance、Operations、Sales1、および Sales2 ユーザーが必要とするさまざまな企業機能の4つのロール、およびパートナーが必要とするユーザー機能の6つのロール、Partner1Role、Partner2Role、Partner3Role、Partner1AdminRole、Partner2AdminRole および Partner3AdminRole を管理します。

図 2-2 平坦なディレクトリ構造



組織およびサブ組織の新規作成

組織とサブ組織を使用すると、管理およびアクセス制御を目的としてユーザーを構造化およびグループ化できます。企業の階層または構造を決定した後、それを実装するために必要な組織とサブ組織を作成する必要があります。組織またはサブ組織を新しく作成する場合、デフォルトで定義されるサービス、ポリシー、ユーザー、およびロールはありません。このため、新しい組織またはサブ組織を作成する場合は、常に、次の手順で設定を行う必要があります。

1. 組織で有効にするサービスをすべて登録します。詳細は、「[サービスを登録するには](#)」を参照してください。通常、少なくとも次のサービスを登録します。
 - 認証：コア認証サービスおよび組織のユーザーが認証に使用する任意の認証サービス (LDAP、匿名)。詳細は、「[認証の設定](#)」を参照
 - URL ポリシーエージェント
 - ユーザー
 - Portal Server の設定。組織のユーザーに対して有効にする Portal Server の任意のサービス (デスクトップおよび NetMail)
2. 登録された各サービスにテンプレートを作成します。詳細は、「[サービスのテンプレートを作成するには](#)」を参照してください。
3. 組織内のユーザーにアクセス特権を付与する必要があるポリシーを作成します。ポリシーの使用についての詳細は、「[Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要](#)」を参照してください。
4. ユーザーを組織に追加します。詳細は、「[新規ユーザーを追加するには](#)」を参照してください。
5. 組織に必要な任意のロールを作成し、割り当てます。詳細については、「[新規ロールを作成するには](#)」および「[ロールをユーザーに割り当てるには](#)」を参照してください。
6. 組織で有効なサービスを設定します。デスクトップの設定については、[第 4 章「ポータルデスクトップサービスの管理」](#)を参照してください。NetMail の設定については、[第 6 章「NetMail サービスの管理」](#)を参照してください。

組織を新規作成し、ポータルを使用するように組織を設定する迅速な方法については、「[ポータル組織の迅速な新規作成](#)」を参照してください。

新規の組織またはサブ組織を作成するには

Sun ONE Portal Server 用に、組織およびサブ組織を設計する推奨の方法については、「[組織、サブ組織、およびロールの設計](#)」を参照してください。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. サブ組織を作成する場合は、ナビゲーションパネルを使用して、サブ組織を作成する組織を選択します。
3. ナビゲーションパネルで「新規」をクリックします。

「新規組織」ページがデータパネルに表示されます。
4. 「新規組織」ページで、組織またはサブ組織の名の値を入力します。
5. 「アクティブ」または「非アクティブ」の状態を選択します。

デフォルトは「アクティブ」です。状態は、組織またはサブ組織が存在する間、プロパティ矢印を選択していつでも変更できます。「非アクティブ」を選択すると、組織またはサブ組織へのログインが無効になります。
6. 「作成」をクリックします。

新規の組織またはサブ組織がナビゲーションパネルで表示されます。
7. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
8. 「登録」をクリックします。
9. 新しい組織のデスクトップサービスを有効にします。
 - a. ロケーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
 - c. 新規作成された組織を選択します。
 - d. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - e. 「ポータルデスクトップ」を選択します。
 - f. 「デフォルトチャネル名」の値を「DummyChannel」から「JSPTabContainer」(または新しい組織で使用する最上位コンテナの名前)に変更します。
 - g. 「ポータルデスクトップのタイプ」の値をデフォルトから「sampleportal」(または新しい組織で使用するデスクトップタイプ)に変更します。

サービスを登録するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. サービスを登録する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. 「登録」をクリックします。
5. データパネルから登録する 1 つまたは複数のサービスを選択して、「保存」を選択します。

サービスのテンプレートを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 登録したサービスがある組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. 登録されたサービスの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
5. サービスのデフォルトの属性値を使用するか、変更し、「保存」をクリックします。

Sun ONE Identity Server 固有のサービス属性の設定については、『Sun ONE Identity Server 管理者ガイド』を参照してください。Sun ONE Portal Server 固有のサービス属性の設定についての詳細は、このマニュアルの該当する付録を参照してください。

新規ユーザーを追加するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ユーザーの作成先である組織またはサブ組織に移動します。
3. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択し、「新規」をクリックします。
「新規ユーザー」ページがデータパネルに表示されます。

注 ドロップダウンメニューに「ユーザー」ではなく「ピープルコンテナ」が表示される場合は、「ピープルコンテナを表示」属性を組織に対して設定しているか、または最上位の特定のポイントで設定していることを確認します。これは、Sun ONE Identity Server サービスの「管理」で設定されています。

ユーザーは常にピープルコンテナに格納されますが、「ピープルコンテナを表示」属性を選択していない場合は、組織の1つ下にユーザーが表示されるため、ユーザーを操作できません。「ピープルコンテナを表示」はデフォルトでは設定されていません。

4. ユーザーに割り当てるサービスを選択して、「次へ」をクリックします。
 - a. ナビゲーションパネルでユーザーを選択し、プロパティの矢印をクリックします。
 - b. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - c. 「追加」をクリックして、ユーザーに割り当てるサービスを選択します。
 - d. 「保存」をクリックします。

一般に、ほとんどのユーザーには少なくともポータルデスクトップ、認証設定、登録の各サービスを割り当てます。

5. ユーザー情報を入力して、「作成」をクリックします。
新規ユーザーがナビゲーションパネルに表示されます。

ユーザーにサービスを追加するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ユーザーの作成先である組織またはサブ組織に移動します。
3. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択します。
4. ナビゲーションパネルでユーザーを選択し、プロパティの矢印をクリックします。
5. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
6. 「追加」をクリックして、ユーザーに割り当てるサービスを選択します。
7. サービスにチェックマークを付け、「保存」をクリックします。
一般に、ほとんどのユーザーには少なくともポータルデスクトップ、登録の各サービスを割り当てます。

新規ロールを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ロールの作成先である組織またはサブ組織に移動します。
3. 「表示」メニューから「ロール」を選択し、「新規」をクリックします。
「新規ロール」ページがデータパネルに表示されます。
4. ロール情報(名前、説明、ロールタイプ、アクセス権)を入力し、「作成」をクリックします。
新規ロールがナビゲーションパネルに表示されます。

注 代理の管理用にカスタマイズされたロールを作成している場合は、あらかじめそのロールに **ACI 特権** を定義する必要があります。詳細は、[第3章「管理の委任の設定」](#) を参照してください。

ロールをユーザーに割り当てるには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ロールの作成先である組織またはサブ組織に移動します。
3. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択します。
4. ロールの割り当て先であるユーザーの隣にあるプロパティの矢印を選択します。
データパネルにユーザープロファイル情報が表示されます。
5. データパネルの「表示」メニューから「ロール」を選択します。
「ロールを追加」ページが表示されます。
6. 割り当てるロールの隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けて、「保存」をクリックします。
このユーザーのロールを表示するボックス内が、割り当てられたロールで更新されます。
7. 「保存」をクリックし、変更内容を保存します。

既存のユーザーの Sun ONE Portal Server へのアクセスを有効化するには

Sun ONE Portal Server を既存の Sun ONE Identity Server のインスタンスにインストールする場合、ユーザーは、Sun ONE Portal Server デスクトップを使用するよう登録されていません。ユーザーがデスクトップにアクセスできるようにするには、ユーザーを有効にする必要があります。次の手順を使用して、デフォルトの組織または別の組織のユーザーを有効にします。

デフォルト組織のユーザーを有効化するには

開始する前に、いくつかの設定情報を取得する必要があります。設定の詳細が一部不明な場合は、`/var/sadm/pkg/SUNWps/pkginfo` ファイルからスクリプトを使用して情報を取り出すことができます。

1. `/var/sadm/pkg/SUNWps/pkginfo` ファイルから、次の情報を確認または取り出します。
 - ディレクトリマネージャの識別名 (`DS_DIRMGR_DN/` と指定)。デフォルト値は `cn=Directory Manager`

- ディレクトリマネージャのパスワード (*DS_DIRMGR_PASSWORD/* と指定)
- ディレクトリサーバーの完全修飾ドメイン名 (*DS_HOST/* と指定)。
- ディレクトリサーバーが実行するポート (*DS_PORT/* と指定)。デフォルト値は 389
- ディレクトリツリーのルートサフィックス (*DS_ROOT_SUFFIX/* と指定)。デフォルト値は *dc=orgname,dc=com* (*dc=sun,dc=com* など)
- Sun ONE Portal Server インストールのデフォルトの組織 (*DS_DEFAULT_ORG/* と指定)。デフォルト値は *o=domain-name*
- Sun ONE Portal Server インストールのベースディレクトリ (*/BaseDir/* と指定)。デフォルト値は */opt*

設定情報が不明な場合は、次のスクリプトを実行して出力を参照し、この手順を完了するのに必要な情報を取得してください。

```
#####
# Get configuration from file
#####

GrabConfig() {
    GRABCONFIG_KEY=$1
    GRABCONFIG_FILE=$2
    GRABCONFIG_SEPARATOR=$3
    ANSWER_CONFIG='$GREP "^$GRABCONFIG_KEY$GRABCONFIG_SEPARATOR"
$GRABCONFIG_FILE | $UNIQ | $SED -e
"s/$GRABCONFIG_KEY$GRABCONFIG_SEPARATOR//" | $SED -e "s/^ //" '
}

#####
# Get PS6 Settings
#####

GetPS6Settings() {
    if [ -f $PKGINFO ]; then
        # Ldap Settings
```

```
#
GrabConfig "DS_HOST" $PKGINFO "="
DS_HOST=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_HOST=$DS_HOST"
GrabConfig "DS_PORT" $PKGINFO "="
DS_PORT=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_PORT=$DS_PORT"

GrabConfig "DS_DIRMGR_DN" $PKGINFO "="
DS_DIRMGR_DN=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_DIRMGR_DN=$DS_DIRMGR_DN"
GrabConfig "DS_DIRMGR_PASSWORD" $PKGINFO "="
DS_DIRMGR_PASSWORD=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_DIRMGR_PASSWORD=$DS_DIRMGR_PASSWORD"

#####
# Get PS6 Settings
#####

GetPS6Settings() {

    if [ -f $PKGINFO ]; then
```

```
# Ldap Settings
#
GrabConfig "DS_HOST" $PKGINFO "="
DS_HOST=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_HOST=$DS_HOST"
GrabConfig "DS_PORT" $PKGINFO "="
DS_PORT=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_PORT=$DS_PORT"
GrabConfig "DS_DIRMGR_DN" $PKGINFO "="
DS_DIRMGR_DN=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_DIRMGR_DN=$DS_DIRMGR_DN"
GrabConfig "DS_DIRMGR_PASSWORD" $PKGINFO "="
DS_DIRMGR_PASSWORD=$ANSWER_CONFIG
echo "DS_DIRMGR_PASSWORD=$DS_DIRMGR_PASSWORD"

# Dsame Settings
#
GrabConfig "IDSAME_BASEDIR" $PKGINFO "="
IDSAME_BASEDIR=$ANSWER_CONFIG
echo "IDSAME_BASEDIR=$IDSAME_BASEDIR"
```

```

AMCONFIG="$${IDSAME_BASEDIR}/SUNWam/lib/AMConfig.properties"

if [ -f $AMCONFIG ]; then

    DS_ROOT_SUFFIX='$GREP "^com.ipplanet.am.rootsuffix="
$AMCONFIG |

$SED -e "s/com.ipplanet.am.rootsuffix=//'"

    echo "DS_ROOT_SUFFIX=$DS_ROOT_SUFFIX"

    DS_DEFAULT_ORG='$GREP "^com.ipplanet.am.defaultOrg="
$AMCONFIG | ¥

                                $SED -e "s/com.ipplanet.am.defaultOrg=//'"

    echo "DS_DEFAULT_ORG=$DS_DEFAULT_ORG"

else

    print "$GETTEXT 'Error - Cannot find DSAME configuration
file,
please verify PS6 installation.'"

    exit 1

fi

else

    print "$GETTEXT 'Error - Cannot find SUNWps package
information
files, please verify PS6 installation.'"

    exit 1

fi

```

2. ディレクトリを Sun ONE Identity Server ユーティリティのディレクトリに変更します。たとえば、ベースディレクトリが /opt の場合は、次のように入力します。

```
cd /IDSAME_BaseDir/SUNWam/bin
```

3. ディレクトリサーバーとデフォルトの組織のルートサフィックスが同じでない場合は、次のコマンドを実行します。

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w /DS_DIRMGR_PASSWORD/
¥ -b "ou=People,/DS_DEFAULT_ORG/,/DS_ROOT_SUFFIX/" "(uid=*)" dn | ¥ /usr/bin/sed
's/^version.*//' > /tmp/.tmp_ldif_file1
```

4. ディレクトリサーバーとデフォルトの組織のルートサフィックスが同じである場合は、次のコマンドを実行します。

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w /DS_DIRMGR_PASSWORD/
¥ -b "ou=People,/DS_ROOT_SUFFIX/" "(uid=*)" dn | ¥ /usr/bin/sed 's/^version.*//' >
/tmp/.tmp_ldif_file1
```

5. 次のコマンドを実行します。

```
grep "^dn" /tmp/.tmp_ldif_file1 | awk '{
print $0
print "changetype:modify"
print "add:objectclass"
print "objectclass:sunPortalDesktopPerson"
print "objectclass:sunPortalNetmailPerson¥n" }' >
/tmp/.tmp_ldif_file2
```

6. 次のコマンドを実行します。

```
./ldapmodify -c -h DS_HOST -p DS_PORT ¥ -D DS_DIRMGR_DN -w
DS_DIRMGR_PASSWORD -f /tmp/.tmp_ldif_file2
```

7. すべての一時ファイルを削除します。

```
rm /tmp/.tmp_ldif_file1 /tmp/.tmp_ldif_file2
```

デフォルト以外の組織のユーザーを有効化する には

1. /var/sadm/pkg/SUNWps/pkginfo ファイルから、次の情報を確認または取り出します。
 - ディレクトリマネージャの識別名 (*DS_DIRMGR_DN/* と指定)。デフォルト値は `cn=Directory Manager`
 - ディレクトリマネージャのパスワード (*DS_DIRMGR_PASSWORD/* と指定)
 - ディレクトリサーバーの完全修飾ドメイン名 (*DS_HOST/* と指定)
 - ディレクトリサーバーが実行するポート (*DS_PORT/* と指定)。デフォルト値は `389`
 - ディレクトリツリーのルートサフィックス (*DS_ROOT_SUFFIX/* と指定)。デフォルト値は `dc=orgname,dc=com` (`dc=sun,dc=com` など)
 - ユーザーを更新する Sun ONE Portal Server インストールの組織 (*DS_ORG_TO_UPDATE/* と指定)。デフォルト値は `"`
 - Sun ONE Portal Server インストールのベースディレクトリ (*/BaseDir/* と指定)。デフォルト値は `/opt`

2. 有効にする既存のユーザーを含む組織またはサブ組織のサービスを登録します。手順の詳細については、「[サービスを登録するには](#)」を参照してください。
3. 登録するサービスごとにテンプレートを作成します。手順の詳細については、「[サービスのテンプレートを作成するには](#)」を参照してください。
4. サービスごとにポリシーを作成して割り当てます。詳細については、「[ピアまたはサブ組織のポリシーサービスを登録するには](#)」、「[ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成するには](#)」、「[ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成するには](#)」を参照してください。
5. 認証ユーザーの組織からの転送先に URL を設定します。「[ログインユーザーをポータルデスクトップ URL に正しくリダイレクトするには](#)」を参照してください。
6. ディレクトリを Sun ONE Identity Server ユーティリティのディレクトリに変更します。たとえば、ベースディレクトリが /opt の場合は、次のように入力します。

```
cd /IDSAME_BaseDir/SUNWam/bin
```

7. 組織内のユーザーまたは組織を有効にするには、次のどちらかを実行します。
 - 特定の組織内のユーザーだけを有効にするには、DS_ORG_TO_UPDATE/として定義し、次のコマンドを使用する

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w /DS_DIRMGR_PASSWORD/ ¥ -b "ou=People,/DS_ORG_TO_UPDATE/,/DS_ROOT_SUFFIX/" "(uid=*)" dn | ¥ /usr/bin/sed 's/^version.*//' > /tmp/.tmp_ldif_file1
```

- すべての組織のユーザーを有効にするには、次のコマンドを使用する

```
./ldapsearch -h /DS_HOST/ -p /DS_PORT/ -D /DS_DIRMGR_DN/ -w /DS_DIRMGR_PASSWORD/ ¥ -b "/DS_ROOT_SUFFIX/" "(uid=*)" dn | ¥ /usr/bin/sed 's/^version.*//' > /tmp/.tmp_ldif_file1
```

8. 次のコマンドを実行します。

```
grep "^dn" /tmp/.tmp_ldif_file1 | awk '{
print $0
print "changetype:modify"
print "add:objectclass"
print "objectclass:sunPortalDesktopPerson"
print "objectclass:sunPortalNetmailPerson"}' > /tmp/.tmp_ldif_file2
```

9. 次のコマンドを実行します。

```
./ldapmodify -c -h DS_HOST -p DS_PORT ¥ -D "DS_DIRMGR_DN" -w DS_DIRMGR_PASSWORD -f /tmp/.tmp_ldif_file2
```

10. すべての一時ファイルを削除します。

```
rm /tmp/.tmp_ldif_file1 /tmp/.tmp_ldif_file2
```

11. ディレクトリを Portal Server のユーティリティのディレクトリに変更します。

```
cd /IDSAME_BASEDIR/SUNWps/bin
```

12. 次のコマンドを実行して、デフォルト以外の組織のディスプレイプロファイルをロードします。

```
./dpadmin modify -u
"uid=amadmin,ou=people,DS_DEFAULT_ORG,DS_ROOT_SUFFIX" -w
DS_DIRMGR_PASSWORD -d
"NON_DEFAULT_ORG,DS_DEFAULT_ORG,DS_ROOT_SUFFIX" ¥
IDSAME_BASEDIR/SUNWps/samples/desktop/dp-org.xml
```

13. 別の組織のユーザーを有効にするには、手順 7 から手順 13 までを繰り返します。

ポータル組織の迅速な新規作成

次のタスクでは、組織を新規作成し、ポータル用途用に有効にする手順を説明します。デフォルトでは、ログイン時にロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。

1. 新しい組織を作成します。
 - a. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
 - b. 「新規」をクリックします。
組織の作成ページがデータパネルに表示されます。
 - c. 新規組織名を入力します。「組織の状態」を「アクティブ」にする必要があります。「作成」をクリックします。
ナビゲーションページに、新規作成した組織が表示されます。
2. 新しい組織のサービスを登録します。
 - a. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「組織」を選択し、「名前」メニューから新たに作成した組織を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - c. 「登録」をクリックします。
「サービスを登録」ページがデータパネルに表示されます。少なくとも以下のサービスのチェックボックスにチェックマークを付けて、「登録」をクリックします。
 - LDAP
 - メンバーシップ
 - ポリシー設定

- ポータルデスクトップ
- 登録

新規登録されたサービスがナビゲーションパネルに表示されます。

- d. プロパティの矢印をクリックして各サービスを設定します。設定属性を変更するときは、「作成」をクリックします。Portal Server に固有の設定以外の属性については、『Sun ONE Identity Server 管理ガイド』を参照してください。

注 サブ組織は、親組織とは別にサービスを登録する必要があります。

3. 必要に応じて、登録されたサービスにテンプレートを作成します。
 - a. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - b. サービスの隣のプロパティの矢印アイコンを1つ1つクリックし、テンプレートを作成します。
4. 新しい組織のデスクトップ参照ポリシーを作成します。

参照は、規則内のリソースとして親組織を定義する必要があり、参照内の値として SubOrgReferral にサブ組織が含まれている必要があります。

 - a. ロケーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
 - c. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。

ポリシーの作成ページがデータパネルに表示されます。
 - d. 「名前」には、SubOrgReferral_Desktop を入力します。「作成」をクリックします。
 - e. 「サービス」から「ポータルデスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - f. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「ポータルデスクトップ」が選択されていることを確認して、「作成」をクリックします。
 - g. データパネルの「表示」メニューから「参照」を選択し、「追加」をクリックします。データパネルで「値」にサブ組織の名前が選択されていることを確認し、「作成」をクリックしてポリシーの設定を完了します。
5. 新しい組織の通常のポータルデスクトップポリシーを作成します。
 - a. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

その組織のポリシーが表示されます。

- b. ナビゲーションパネルで「新規」を選択します。「新規ポリシー」ページがデータパネルに表示されます。
 - c. 「ポリシータイプ」で「標準」が選択されていることを確認します。
 - d. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「ルールを追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
 - e. 「サービス」メニューから「ポータルデスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。「ポータルデスクトップ実行権限を所有」にチェックマークが付けられていることを確認します。
 - f. データパネルの「表示」メニューから「サブジェクト」を選択し、「追加」をクリックします。「サブジェクトを追加」ページがデータパネルに表示されます。

ポリシー設定サービスのサービステンプレートに「LDAP バインドパスワード」が設定されていない場合は、「サブジェクトを追加」ページをクリックすると該当するものがなかったことを示す警告メッセージが表示されます。
 - g. ポータルデスクトップポリシーが適用されるサブジェクトを選択し、「次へ」をクリックしてサブジェクトの設定を完了します。
 - h. 「作成」をクリックして、ポリシーの設定を完了します。
6. 新しい組織の登録参照ポリシーを作成します。
- 参照は、規則内のリソースとして親組織を定義する必要があり、参照内の値として **SubOrgReferral** にサブ組織が含まれている必要があります。
- a. ロケーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
 - c. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。

ポリシーの作成ページがデータパネルに表示されます。
 - d. 「名前」には、**SubOrgReferral_Subscriptions** を入力します。「作成」をクリックします。
 - e. 「サービス」から「登録」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - f. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「登録」が選択されていることを確認して、「作成」をクリックします。
 - g. データパネルの「表示」メニューから「参照」を選択し、「追加」をクリックします。データパネルで「値」にサブ組織の名前が選択されていることを確認し、「作成」をクリックしてポリシーの設定を完了します。

7. 新しい組織の通常の登録ポリシーを作成します。
 - a. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
その組織のポリシーが表示されます。
 - b. ナビゲーションパネルで「新規」を選択します。「新規ポリシー」ページがデータパネルに表示されます。
 - c. 「ポリシータイプ」で「標準」が選択されていることを確認します。
 - d. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「ルールを追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
 - e. 「サービス」メニューから「登録」を選択し、「次へ」をクリックします。「ポータルデスクトップ実行権限を所有」にチェックマークが付けられていることを確認します。
 - f. データパネルの「表示」メニューから「サブジェクト」を選択し、「追加」をクリックします。「サブジェクトを追加」ページがデータパネルに表示されます。
 - g. 登録ポリシーが適用されるサブジェクトを選択し、「次へ」をクリックしてサブジェクトの設定を完了します。
 - h. 「作成」をクリックして、ポリシーの設定を完了します。
8. 新しい組織の新規ユーザーを作成します。
 - a. ロケーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
 - c. 新規作成された組織を選択します。
 - d. ナビゲーションパネルでユーザーを選択し、プロパティの矢印をクリックします。
 - e. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - f. 「追加」をクリックして、ユーザーに割り当てるサービスを選択します。
 - g. 「保存」をクリックします。
9. 新しい組織のデスクトップサービスを有効にします。
 - a. ロケーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
 - b. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
 - c. 新規作成された組織を選択します。
 - d. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
 - e. 「ポータルデスクトップ」を選択します。

- f. 「デフォルトチャンネル名」の値を「DummyChannel」から「JSPTabContainer」(または新しい組織で使用する最上位コンテナの名前)に変更します。
 - g. 「ポータルデスクトップのタイプ」の値をデフォルトから「sampleportal」(または新しい組織で使用するデスクトップタイプ)に変更します。
10. 新しい組織のデスクトップにアクセスします。
- a. 管理コンソールからログアウトします。
 - b. ブラウザページを開き、次のように入力します。
`http://server:port/amserver/UI/login?org=neworg`
 ユーザーのデスクトップが表示されます。

認証の設定

ここでは、Sun ONE Portal Server 認証の構成について説明します。Sun ONE Identity Server には、認証のフレームワークがあります。認証は、ユーザーの ID を確認するプラグインモジュールを通じて実装されます。Sun ONE Identity Server には、コア認証モジュールをはじめ7つの異なる認証モジュールがあります。Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、デフォルト値を設定し、認証サービスを登録し、組織の認証テンプレートを作成し、サービスを有効化します。コア認証モジュールは認証のための設定全般を実行するため、個々の認証モジュールのいずれかを設定する前に、コア認証モジュールを登録し、コア認証モジュールのテンプレートを組織別に作成しておく必要があります。

注 Sun ONE Identity Server 5.1 管理コンソールで提供された認証メニューの設定機能は、Sun ONE Identity Server 6.0 リリースではサポートされなくなりました。Sun ONE Identity Server の管理コンソールを使用して、有効な認証モジュールを選択できるリストを設定する場合は、認証レベル属性が同じ値を持つように各認証モジュールを設定してください。認証モジュールの設定については、「[認証メニューを設定するには](#)」を参照してください。

インストール中に、コア認証が登録され、デフォルトの組織にテンプレートが作成されます。また、インストールにより、次の認証モジュールが登録され、テンプレートが作成されます。

- LDAP: LDAP 認証により、ディレクトリツリーの検索ベース内にある有効なユーザーはすべて、Sun ONE Portal Server にログインできる。これにより自動的にユーザーが特定のロールに割り当てられる

- **メンバーシップ**:メンバーシップ認証により、ユーザーはアカウントを作成し、管理者の補助がなくてもそのアカウントをパーソナライズできる。ユーザーはこの新しいアカウントを使用して、登録ユーザーとしてアクセスできる

注 インストールは、コア、LDAP、およびメンバーシップモジュールからなる基本認証の実装を設定しますが、新しい組織を作成する場合や、外部LDAPディレクトリまたはIDプロバイダを認証する機能など追加の認証機能をセットアップする場合には、手動で認証を設定する必要があります。

認証モジュールを設定する手順の概要は次のとおりです。

1. それぞれの新しい組織にコア認証サービスを登録します。サービスを登録する手順については、「[サービスを登録するには](#)」を参照してください。
2. コア認証サービスにテンプレートを作成します。サービスにテンプレートを作成する手順については、「[サービスのテンプレートを作成するには](#)」を参照してください。
3. 各組織にサポートする認証サービスを登録します。サービスを登録する手順については、「[サービスを登録するには](#)」を参照してください。
4. 認証サービスに組織でサポートするサービステンプレートを作成します。認証サービスにテンプレートを作成する手順については、「[サービスのテンプレートを作成するには](#)」を参照してください。サービスの属性の設定については、『Sun ONE Identity Server 管理者ガイド』の第7章「[認証オプション](#)」を参照してください。
5. 認証メニューを設定します。認証順序を設定する手順については、「[認証メニューを設定するには](#)」を参照してください。
6. 認証サービスの使用順序を設定します。認証順序を設定する手順については、「[認証順序を設定するには](#)」を参照してください。

認証レベルによる認証

各認証モジュールには、認証レベルを表す整数値を関連付けることができます。認証レベルを割り当てるには、「サービス設定」で認証モジュールのプロパティの矢印をクリックし、認証レベル属性の値を変更します。認証レベルが高いほど、1つまたは複数の認証モジュールで認証されたユーザーの信頼度は高く定義されます。

認証メニューを設定するには

ユーザーは、特定の認証レベルの認証モジュールにアクセスできます。たとえば、次の構文を使用して、一ユーザーとしてログインできます。

```
http://hostname:port/deploy_uri/UI/Login?authlevel=auth_level_value
```

ユーザーが選択できる認証のメニューには、*auth_level_value* 以上の認証レベルが設定されたすべてのモジュールが表示されます。一致するモジュールが1つだけ見つかった場合は、その認証モジュールのログインページが直接表示されます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
 デフォルトでは、ログイン時にロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
 ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選択し、「登録」をクリックします。
4. コアの隣にあるプロパティ矢印をクリックします。
5. 「組織」セクションの「組織認証モジュール」フィールドで適切な認証モジュールを選択して有効にします。
 デフォルトでは、Sun ONE Portal Server のインストールにより、LDAP およびメンバーシップが有効になります。
6. 各認証モジュールの「デフォルトの認証レベル」に値を入力します(デフォルト値は0)。
 認証メニューに表示するには、各認証モジュールの値が同じである必要があります。
7. 「保存」をクリックします。

認証順序を設定するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ログイン時にロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選択し、「登録」をクリックします。
4. コアの隣にあるプロパティ矢印をクリックします。
5. 「組織」セクションの「組織認証モジュール」フィールドで適切な認証モジュールを選択して有効にします。
デフォルトでは、Sun ONE Portal Server のインストールにより、LDAP およびメンバーシップが有効になります。
6. 各認証モジュールの「デフォルトの認証レベル」に値を入力します (デフォルト値は 0)。
認証メニューに表示するには、各認証モジュールの値が同じである必要があります。
7. 各認証モジュールの属性情報を指定するには、「組織認証設定」で「編集」を選択します。
 - a. 「追加」をクリックして、認証モジュールをメニューに追加します。
 - b. 認証メニューに表示される認証モジュールの順序を変更するときは、「並べ替え」をクリックします。
 - c. 「保存」をクリックし、属性情報を保存します。
8. 「保存」をクリックします。
9. 次の URL を使用して、管理サーバーにログインし、認証メニューが適切な選択肢と一緒に表示されることを確認します。

`http://host:port/amserver/UI/login`

これがデフォルトの組織認証ではない場合には、次の URL を使用して組織の認証メニューを確認します。

`http://host:port/amserver/UI/login?org=org_name`

外部ディレクトリに LDAP 認証を設定するには

Sun ONE Portal Server をインストールすると、インストールプログラムによりディレクトリインスタンスへの LDAP 認証が自動的に設定されます。インストールプログラムにより、ローカルサーバーにディレクトリの内部インスタンスをインストールし、その内部ディレクトリに対する LDAP 認証を設定するか、ディレクトリの既存の外部インスタンスへの LDAP 認証を設定できます。初期設定を行うと、外部 LDAP ディレクトリへの認証を設定するいくつかのシナリオが想定されます。たとえば、パフォーマンスまたはセキュリティ上の理由から、特定の組織の認証情報を専用の LDAP サーバーに分離することができます。

警告

amadmin ユーザーを含む組織については、外部 LDAP に認証を設定しないでください。これは、amadmin ユーザーの認証を妨げ、管理コンソールからロックアウトされる可能性があるためです。誤って amadmin ユーザーを含む組織を設定してしまった場合は、amadmin の完全 DN を使用してログインし、LDAP テンプレートを修正する必要があります。amadmin DN は、AMConfig.properties ファイルの com.sun.authentication.super.user プロパティに一覧表示されません。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. 「Identity Server 設定」の「コア」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
5. 「ユーザープロファイル」メニューの「ダイナミックに作成」を選択します。
6. 「Identity Server 設定」の「LDAP」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
7. サーバーに適切な LDAP 属性を設定します。次の例は、ポート 389 の LDAP サーバー ds-sesta1.sesta.com へのアクセスに検索開始位置 ou=people,dc=sesta,dc=com を設定し、root ユーザーによる cn=root,ou=people,dc=sesta,dc=com へのバインドを設定します。
プライマリ LDAP サーバーとポート : ds-sesta1.sesta.com:389
セカンダリ LDAP サーバーとポート : ds-sesta1.sesta.com:389
ユーザー検索の開始 DN : ou=people,dc=sesta,dc=com
root ユーザーバインド DN : cn=root,ou=people,dc=sesta,dc=com

```

root ユーザーバインドパスワード:root password
ユーザーネーミング属性:uid
ユーザーエントリ検索属性:employeenumber
ユーザー検索フィルタ:空白
検索範囲:subtree
LDAP サーバーに対する SSL を有効:off
認証においてユーザー DN を返す:off
認証レベル:0

```

8. 「保存」をクリックします。

匿名認証の設定

Sun ONE Portal Server は、匿名認証の実装について次の 2 つの方法をサポートしています。

- 認証なしのユーザー ID の属性を使用する。デスクトップ URL にアクセスしているユーザーは、自動的に認証され、デスクトップへのアクセス権を与えられる
- 匿名ユーザーセッションを使用する。ユーザーは、認証メニューから「匿名」を選択して `anonymous` としてログインし、デスクトップへのアクセス権を与えられる

匿名認証をサポートするため、Sun ONE Portal Server インストールプログラムは、ユーザーアカウント `authlessanonymous` を作成して、次の 2 つのデスクトップサービスのグローバル属性で、このユーザーについてのアクセスを設定します。

- 許可されている認証なしユーザー ID
- デフォルトの認証なしユーザー ID

Sun ONE Portal Server は、次の操作を実行できるという点において、認証なしと匿名認証の同時設定をサポートします。

1. 認証なしモードでも機能するようにデスクトップを設定します。
2. 選択肢の 1 つとして「匿名」が表示されるように、認証メニューを設定します。
3. ブラウザ A でデスクトップにアクセスします。この場合認証なしモードでのアクセスになります。
4. ブラウザ B で `http://server/amserver/UI/login` にアクセスして「匿名」を選択し、デスクトップを表示します。

この時点では、ブラウザ A では認証なしモードを使用し、ブラウザ B では匿名モードを使用しています。

デスクトップにアクセスする方法は2通りです。一方の認証なしのアクセスは /portal/dt を直接参照する方法を用いますが、もう一方(匿名)では間接的に /amserver/login を使用します。

Sun ONE Identity Server のメニューに匿名ログインのみを設定すると、Sun ONE Identity Server の「ログイン」メニューを省略することができます。

認証なしと匿名の両方の認証方式が同時にサポートされることはありません。このため、Sun ONE Identity Server セッションを開始せずに /portal/dt にアクセスする場合、次のどちらかだけが実行されます。

- a. デスクトップは /amserver/UI/login にリダイレクトし、これによって自動的に匿名ログインが行われ、ユーザーが /portal/dt にリダイレクトされる
- b. デスクトップが認証なしモードで実行される

認証なしアクセスを使用する場合、匿名認証を無効にする必要はありません。ただし、上記の項目 a を実行する場合は、認証なしアクセスモードを無効にする必要があります。

匿名認証を設定するには (匿名ユーザーセッション方式)

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
4. ポータルデスクトップサービスの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
データパネルにポータルデスクトップの属性が表示されます。
5. 「許可されている認証なしユーザー ID」属性でリストに表示された値を選択し、「削除」を選択します。
6. 「デフォルトの認証なしユーザー ID」属性でリストに表示された値を選択し、「削除」を選択します。
7. 「保存」をクリックします。
8. ロケーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
9. 「表示」メニューから「組織」を選択します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
10. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ロケーションパネルの「表示」メニューを使用します。

11. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
12. 匿名サービスを登録して、設定します。
詳細については、「[サービスを登録するには](#)」および「[サービスのテンプレートを作成するには](#)」を参照してください。
13. 認証メニューに「匿名」を追加します。
詳細は、「[認証順序を設定するには](#)」を参照してください。
14. anonymous ユーザーアカウントを作成します。
詳細は、「[新規ユーザーを追加するには](#)」を参照してください。

匿名認証を設定するには (認証なしアクセス)

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. デフォルトでは、ログイン時にロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
4. パスワード `authlessanonymous` で `authlessanonymous` ユーザーアカウントを作成します。
詳細は、「[新規ユーザーを追加するには](#)」を参照してください。
5. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
6. ナビゲーションパネルで「ポータルデスクトップ」を選択します。
7. 「許可されている認証なしユーザー ID」属性に `authlessanonymous` ユーザーの完全識別名を追加します。たとえば、次のようになります。
`uid=authlessanonymous, ou=People, dc=sesta, dc=com`
8. 「デフォルトの認証なしユーザー ID」属性で `authlessanonymous` ユーザーの完全識別名を指定します。
9. 「保存」をクリックします。

ブラウザを閉じて再起動し、新しく設定した認証なしのユーザー ID 方式を使用してデスクトップにアクセスする必要があります。認証なしのユーザー ID 方式により、クエリ文字列でユーザーアカウントの UID を指定できます。たとえば、デフォルト組織 `sestat.com` からデスクトップにアクセスする場合は次の URL を使用します。

```
http://server:port/portal/dt?dt.suid=uid= authlessanonymous,
ou=People,dc=sesta, dc=com
```

注 ユーザーの使用言語以外のロケールを持つブラウザを使用してユーザーがログインすると、他のすべてのユーザーはログインプロンプトで同じロケールを共有します。

この問題には、いくつかの方法で対応できます。

- `dp-anon.xml` の `JSPTabContainer` で `refreshTime` の値を 0 に変更し、キャッシュを無効にする
 - ロケールごとに 1 つの割合で複数の認証なしユーザーを指定し、ブラウザのロケールに基づいて適切なユーザーに認証なしデスクトップをリダイレクトする
-

連携ユーザー用の Portal Server の設定

Sun ONE Portal Server ソフトウェアは、Liberty Alliance 仕様に準拠した連携 ID を持つユーザーをサポートしています。Liberty シングルサインオンの連携ユーザーは、Portal Server でパーソナライズされたデスクトップに 2 回目以降は認証なしでアクセスできます。

Liberty が有効な認証サービスについては、『Sun ONE Identity Server 管理者ガイド』を参照してください。サービスプロバイダとして機能する Sun ONE Portal Server の設定例は、次の場所に用意されています。

`PortalServerBaseDir/SUNWps/samples/liberty`

連携ユーザーを設定するには

デフォルトでは、連携ユーザーはサービスプロバイダとして機能する Sun ONE Portal Server にアクセスする権限を持ちません。Sun ONE Portal Server は、連携ユーザーを次のように処理できます。

- Liberty シングルサインオンの連携ユーザーは、パーソナライズされたデスクトップにアクセスできる
- Liberty シングルサインオンではない連携ユーザーは、ID プロバイダの認証ページにリダイレクトされる

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルで「ポータルデスクトップ」を選択します。
4. 「連携を有効」をクリックします。
5. ホストプロバイダの ID を指定します。
6. 「保存」をクリックします。

連携ユーザーの認証なしアクセスを設定するには

デフォルトでは、連携ユーザーは認証なしポータルデスクトップにアクセスする権限を持ちません。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
3. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
4. ナビゲーションパネルで「ポータルデスクトップ」を選択します。
5. 「連携ユーザーの認証なしアクセスを無効」のチェックマークを外します。
6. 「保存」をクリックします。

認証なしアクセスの詳細については、「匿名認証を設定するには (認証なしアクセス)」を参照してください。

UNIX 認証を設定するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 「アイデンティティ管理」の「表示」メニューで、「組織」を選択します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。

4. ナビゲーションパネルの「UNIX」の隣にあるプロパティ矢印をクリックします (「Identity Server 設定」の下)。
5. サーバーに適切な UNIX 属性を設定します。
6. 「保存」をクリックします。
7. 認証を設定する組織またはサブ組織に移動します。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューを使用します。
8. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
9. ナビゲーションパネルで「登録」をクリックします。
10. データパネルの「認証」の下の「コア」をクリックします。
11. データパネルの「組織認証モジュール」メニューから「UNIX」を選択します。
12. 「保存」をクリックします。

組織レベルの UNIX 認証を設定するには

「UNIX 認証を設定するには」で説明した UNIX 認証は、UNIX のグローバルな設定です。次に説明する手順は、組織レベルでの設定です。

1. ブラウザの Web アドレスフィールドに `http://fullservername:port/amconsole` と入力し、管理者 (amadmin) として Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインします。
2. ログイン画面では、ユーザー ID として amadmin を入力し、インストール時に指定したパスワードを入力します。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
3. 「アイデンティティ管理」の「表示」メニューで、「組織」を選択します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
5. 「登録」を選択します。
6. 右のパネルで「UNIX」にチェックマークを付けて、「登録」をクリックします。
7. 「UNIX」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
8. 右のパネルで「作成」を選択します。
9. サーバーに適切な UNIX 属性を設定します。
10. 「保存」をクリックします。

11. 「コア」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
12. 認証メニューで「UNIX」を強調表示し、「保存」を選択します。

Sun ONE Portal Server によるポリシー管理の使用法の概要

ここでは、Sun ONE Identity Server のポリシー管理機能の使用法について説明します。ポリシーを作成、変更、削除する手順については、Sun ONE Identity Server のマニュアルを参照してください。

Sun ONE Identity Server のポリシーサービスにより、規則を定義したり、リソースにアクセスしたりすることができます。ポリシーは、ロールまたは組織に基づき、特権の提供、あるいは制約の定義を可能にします。Sun ONE Portal Server には、次の3つのポリシーが内蔵されています。

- Portal Server ポータルデスクトップ実行機能：ユーザーがデスクトップを表示できるようにする
- Portal Server NetMail 実行機能：ユーザーが NetMail を実行できるようにする

注 個々のポリシーの割り当てに関する説明については、[第4章「ポータルデスクトップサービスの管理」](#)および[第6章「NetMail サービスの管理」](#)を参照してください。

デフォルトでは、ポリシー設定サービスは自動的に最上位の組織に登録されます。サブ組織は、親組織とは別にポリシーサービスを登録する必要があります。作成したポリシーサービスは、すべての組織に登録する必要があります。ポリシーを使用するための手順の概要は、次のとおりです。

1. 組織のポリシーサービスを登録します (インストール時に指定した組織については、これは自動的に行われます)。サブ組織は、親サービスを継承しないため、サブ組織のポリシーサービスを登録する必要があります。詳細は、「[サービスを登録するには](#)」を参照してください。
2. ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成します。組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委託することができます。(リソースのポリシー定義を別のポリシー製品に委託することもできます。) この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御されます。これは、規則と参照自体から構成されます。リソースを必要としないアクションがポリシーサービスに含まれる場合、サブ組織の参照ポリシーを作成することはできません。詳細は、「[ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成するには](#)」を参照してください。

3. ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成します。アクセス権の定義には通常のポリシーを使用します。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成されます。詳細は、「[ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成するには](#)」を参照してください。

ピアまたはサブ組織のポリシーサービスを登録するには

ピアまたはサブ組織は、親サービスを継承しないため、ピアまたはサブ組織のポリシーサービスを登録する必要があります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 参照ポリシーを作成する組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「組織」を選択し、「名前」メニューから適切な組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. 「登録」をクリックします。
「サービスを登録」ページがデータパネルに表示されます。少なくとも以下のサービスのチェックボックスを選択し、「登録」をクリックします。
 - LDAP
 - メンバーシップ
 - ポリシー設定
 - ポータルデスクトップ
 - NetMail新規登録されたサービスがナビゲーションパネルに表示されます。
6. プロパティの矢印をクリックして各サービスを設定します。設定属性を変更するときは、「作成」をクリックします。Portal Server に固有の設定以外の属性については、『Sun ONE Identity Server 管理ガイド』を参照してください。

ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成するには

組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委託することができます。この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御されます。これは、規則と参照自体から構成されます。参照は、規則内のリソースとして親組織を定義する必要があり、参照内の値として **SubOrgReferral** または **PeerOrgReferral** に組織名が含まれている必要があります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 参照ポリシーを作成する組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
4. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。
ポリシーの作成ページがデータパネルに表示されます。
5. 「名前」には、**SubOrgReferral_organization** または **PeerOrgReferral_organization** を入力します。「ポリシータイプ」で「参照」が選択されていることを確認します。「作成」をクリックします。
6. 「サービス」からサービスのタイプを選択し、「次へ」をクリックします。
7. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「次へ」をクリックします。
「ルールを追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
8. 「ルール名」に規則の名前を入力し、「作成」をクリックします。
9. データパネルの「表示」メニューから「参照」を選択し、「追加」をクリックします。
「参照を追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
10. 「名前」に **SubOrgReferralName** と入力します。
データパネルで「値」にサブ組織の名前が選択されていることを確認し、「作成」をクリックしてポリシーの設定を完了します。
11. データパネルで「保存」をクリックします。
データが保存されると、「ポリシープロパティが保存されました。」というメッセージが表示されます。

ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成するには

アクセス権の定義には通常のポリシーを使用します。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成されます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ポリシーを作成する組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
その組織のポリシーが表示されます。
4. ナビゲーションパネルで「新規」を選択します。「新規ポリシー」ページがデータパネルに表示されます。
5. 「名前」には、`SubOrgNormal_organization` または `PeerOrgNormal_organization` を入力します。「ポリシータイプ」で「標準」が選択されていることを確認します。「作成」をクリックします。
6. 「サービス」メニューからサービスを選択し、「次へ」をクリックします。「ルール名」に規則の名前を入力します。適切なサービスの実行権限が与えられるように、適切なチェックボックスにチェックマークが付けられていることを確認します。
7. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「ルールを追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
8. データパネルの「表示」メニューから「サブジェクト」を選択し、「追加」をクリックします。「サブジェクトを追加」ページがデータパネルに表示されます。
9. 「作成」をクリックして、ポリシーの設定を完了します。
データが保存されると、「ポリシープロパティが保存されました。」というメッセージが表示されます。

Sun ONE Portal Server ポータルデスクトップへのログイン

サンプルポータルをインストールしている場合は、ユーザーはサンプルデスクトップにログインできます。また、Sun ONE Portal Server は、その他のユーザーのさまざまなログインをサポートしています。ここでは、Sun ONE Portal Server にログインできる、その他のいくつかの方法について説明します。

サンプルのポータルデスクトップにログインするには

サンプルデスクトップにアクセスするには、次の URL を入力します。

```
http://server:port/portal/dt
```

サブ組織にログインするには

ユーザーに組織へのアクセス権がある場合、組織内のサブ組織にログインすることもできます。たとえば、ユーザーがサブ組織 B を持つ組織 A にアクセスできる場合、次の URL を入力してサブ組織 B にログインします。

```
http://server:port/amserver/UI/login?org=B
```

匿名認証を使用してログインするには

注 匿名認証をサポートする場合、匿名認証モジュールを登録する必要があります。匿名認証モジュールの登録と有効化については、「[匿名認証の設定](#)」を参照してください。

1. 次の URL を使用してログインします。

```
http://server:port/portal/dt
```
2. Sun ONE Identity Server 認証ページで、「匿名」をクリックします。
3. サンプルデスクトップが表示されます。
4. 必要に応じて、またメンバーシップ認証モジュールが登録されている場合、ログイン画面でユーザー ID を作成し、登録します。

ロギングの管理

Sun ONE Portal Server は、Sun ONE Identity Server ロギングおよびデバッグ API を使用します。

デフォルトでは、Sun ONE Portal Server のログファイルおよびデバッグファイルは、次のディレクトリに格納されています。

- /var/opt/SUNWam/logs
- /var/opt/SUNWam/debug

Sun ONE Identity Server 管理コンソールにより、次のロギングの属性を定義できます。

- ログの最大サイズ
- 履歴ファイルの数
- ログの場所
- ロギングタイプ
- データベースユーザー名
- データベースユーザーパスワード
- データベースドライバ名

詳細については『Sun ONE Identity Server 管理者ガイド』を参照してください。

管理の委任の設定

この章では Sun™ ONE Portal Server の管理の委任を設定する方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [管理の委任の概要](#)
- [管理の委任モデルの開発](#)
- [管理の委任の設定](#)

管理の委任の概要

企業が作成するポータルが大規模かつ複雑になるに従い、中央集中型管理モデルはもはや実現不可能です。管理の委任、すなわち **Line of Business (LOB)** 管理は、管理作業を実際のポータルユーザーに委任または分散することで、この問題に対処しています。

Sun ONE Portal Server では、ロールを使用して管理機能をユーザーに委任できます。企業はロールベースの管理によって、規模の小さな組織または LOB に事業を分割できます。これによって異なるユーザーがユーザーのロールに基づいて LOB の組織、サブ組織、ユーザー、ポリシー、ロール、チャンネルを管理できます。

92 ページの表 3-1 は、Sun ONE Portal Server で適用されるいくつかの重要な管理の委任のリストと定義を示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列は用語を示し、2 番目の列は簡単な説明を示します。

表 3-1 管理の委任の用語

用語	説明
権限	単一のリソースと、そのリソースに基づいて実行できる単一のアクションの組み合わせ (たとえば、スタティックな Web ページの表示、給与アプリケーションへの支払い控への表示、給与アプリケーションの W-4 データの修正など)
アクション	あるリソースで実行できる手順または操作 (たとえば、カタログの読み出し、カタログの記述、POP による電子メールの入手、IMAP による電子メールの入手など)
リソース	リソースはソフトウェアで抽象的に表現でき、アクセスが制御および保護される。Sun ONE Identity Server では、リソースは URL アクセスだけを意味する
Top-level Admin Role (最上位管理者ロール)	ポリシーと ID のすべての設定に対して完全な管理権限を持つロール
Organization Admin Role (組織管理者ロール)	特定の組織のポリシーと ID のすべての設定に対して完全な管理権限を持つロール
Line of Business (LOB)	LOB 機能はビジネス アナリストまたは同等の地位の者が実行できる管理機能である。LOB 管理者は最上位管理者機能を必要としない管理作業を実行できる。通常、リソースへのアクセス権を与えるロールにユーザーを追加する、またはそのロールからユーザーを削除するなどの LOB 機能は対象範囲内でのみ使用できる
ロール管理者ロール	その他の特定のロールと特定のユーザーオブジェクトセットを管理するためのアクセス権を持つロール。たとえば、ロールへのユーザーの追加と削除、または属性のロールレベルの編集など
ロール管理者	ロール管理者ロールが割り当てられたユーザー

委任管理ロール

Sun ONE Identity Server 管理コンソールは、ロールベースの管理の委任の機能を異なる種類の管理者に割り当て、指定されたアクセス権に基づいて組織、ユーザー、ポリシー、ロール、チャンネルを管理します。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールには、管理機能を委任するために、管理者ロールがあらかじめいくつか設定されています。これらのロールは次のとおりです。

- Top-Level Admin
- Group Admin
- Organization Admin

- Organization Help Desk Admin
- People Container Admin
- Container Admin
- Container Help Desk Admin

これらのロールについての詳細は、Sun ONE Identity Server 製品のマニュアルを参照してください。

注 また、Sun ONE Identity Server はその他に3つのロールを実装しています。Top-level Admin、Top-level Help Desk Admin、および Deny Write Access です。これらのロールはインストール時に作成され、インストールのルートにのみ存在します。新たに作成された組織には、これらのロールはありません。デフォルトでは、組織が新規作成されると、3つのロール、すなわち Organization Admin、Organization Help Desk Admin、および People Admin が作成されます。

これらの事前に定義された管理者ロールを使用して、ロールの機能がニーズに合う場合は委任管理の実装を設定できます。たとえば、1つの組織の下に複数のサブ組織があるディレクトリ構造のモデルを使用している場合、Organization Admin を複数のユーザーに割り当て、サブ組織ごとに委任管理者を作成することができます。ただし、企業の組織構造がより複雑な場合は、特定のニーズに的を絞った管理の委任を作成する方がよい可能性があります。この場合、Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、特定の業務上のニーズに合わせて委任管理者ロールを定義できます。

企業に合った管理の委任モデルを実装する場合、3つの重要な概念ロールがあります。

- Top-level Admin Role
- Organization Admin Role
- Role Administrator Role

Top-level Admin Role はシステムの設定時に作成され、Organization Admin Role は新しい組織の設定時に自動的に作成されます。Role Administrator Role は、委任管理モデルの要件に基づいて作成するロールです。Role Administrator Role のアクセス権は、対応するアクセス制御命令 (ACI) を直接編集して定義します。

管理の委任では、次の原則が適用されます。

- ユーザー権限はユーザーのロールによって与えられる
- 権限は個々のユーザーに基づいて、要求される権限を持つロールを定義し、このロールを個々のユーザーに割り当てることで許可される
- 特定のロールを1つ割り当てることで、一連のユーザーをグループ化できる。これらのユーザーは権限セットが許可され、そのロールに定義されているダイナミックな属性の値を継承する

- ユーザーは複数のロールまたは集約ロールを持つことができる。複数のロールを持つユーザーは、すべてのロールの機能の組み合わせにアクセスできる。集約されたロールで許可される機能で競合が起これば、それらのロールの各サービスに定義された競合の解決レベルを通じて設定された優先順位に基づき、競合が解決される。最高から最低まで7段階で解決レベルを設定できる複数のロールからロールテンプレートがマージされ、属性の競合が発生した場合は、最も高い競合の解決レベルに設定されたテンプレートの属性が返される

管理の委任モデルの開発

Sun ONE Portal Server の管理機能を適切に委任するために、企業が要求する管理ロールを決定する際に役立つ、管理の委任モデルを開発する必要があります。モデルを開発する場合、次の点に注意してください。

- 企業のビジネス要件を絞り込む。一般に、ロールベースの委任管理に提案されるソリューションは、ビジネス上の要件に沿ったものにする必要がある
- ユーザーが必要なリソースにアクセスし、ユーザーの管理上のニーズを委任された管理者が管理できるように、ユーザーをグループ化するためのディレクトリ構造を開発する
- すべての事業要件に対応しながら、事業エンティティを可能な限り標準的なツリー構造に合わせるように試みる。組織とサブ組織を階層化した構造、または平坦なディレクトリツリー構造を使用できる。平坦なディレクトリ構造では、すべてのエンティティは最上位の組織の1つ下に定義され、すべてのロール (Role Administrator Roles を含む) は組織階層としてはお互いに同位になる。たとえば、事業部門に関連するすべてのユーザーは最上位組織の下のユーザーコンテナに作成される。モデルに必要なアクセスロールと管理ロールのそれぞれについて、トップレベルで対応するロールを作成する

管理の委任の設定

Sun ONE Portal Server で管理の委任を設定するための手順の概要は、次のとおりです。

1. Role Administrator Roles の ACI 設定を定義します。
2. 委任モデルのための Admin Roles を新規作成します。
3. Role Administrator Roles をユーザーに割り当てます。
4. ロールへの追加制限を設定します。

Role Administrator Roles の ACI 設定の定義

委任モデルに特定したロール管理者ロールに適切な権限を設定するために、委任モデルの固有の各ロールについて、ACI で適切な権限を定義する必要があります。ロールの ACI 権限テンプレートは、Sun ONE Identity Server 管理コンソールまたは Directory Server コンソールを使用して定義します。ldapmodify コマンドを使用すると、特定のロールに対して ACI を定義できます。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールまたは Directory Server コンソールで ACI 権限テンプレートを定義する場合は、次のフォーマットを使用します。

```
permission_name | aci_desc | dn:aci ## dn:aci ## dn:aci
```

ここで

permission_name は権限の名前です。

aci_desc はこれらの ACI で許可されるアクセスの詳細です。

dn:aci は DN と ACI のペアを表し、## で区切られます。Sun ONE Identity Server は各 ACI を関連する DN エントリに設定します。

このフォーマットは、値を代入できるタグもサポートします。この値は ACI では ROLENAME、ORGANIZATION、GROUPNAME、および PCNAME といった文字で指定する必要があります。これらのタグを使用することで、デフォルトとして使用できる十分な柔軟性を備えたロールを定義できます。デフォルトロールに基づいてロールが作成されると、ACI のタグはロールの DN から引き出された値で解決されます。

ACI の設定については、『Sun ONE Identity Server Programmer's Guide』を参照してください。

注 これらの ACI 定義例では、ルートサフィックスが dc=sesta,dc=com であることを前提としています。

コマンドラインを使用して ACI を定義するには

1. ldapmodify コマンドで、使用する ACI 設定を保存したテキストファイルを作成します。たとえば、次の acis.ldif ファイルには、JDCAdmin1 および JDCAdmin2 という 2 つのロールの ACI 定義が格納されています。

```
dn:dc=sesta,dc=com
changetype:modify
# aci for JDCAdmin1 role
# This role can add/delete users from JDC role
add:aci
aci:(target="ldap:///ou=people,dc=sesta,dc=com") (targetattr = "*") (version
3.0; acl "Allow JDCAdmin1 Role to read and search users"; allow (read,search)
roledn = "ldap:///cn=JDCAdmin1,dc=sesta,dc=com");
-
add:aci
aci:(target="ldap:///dc=sesta,dc=com")
(targetfilter="(entrydn=cn=JDC,dc=sesta,dc=com)") (targetattr="*") (version 3.0;
acl "Allow JDCAdmin1 Role to read and search JDC Role";allow (read,search)
roledn="ldap:///cn=JDCAdmin1,dc=sesta,dc=com");
-
add:aci
aci:(target="ldap:///ou=people,dc=sesta,dc=com") (targetattr="nsroledn") (target
filter="(!(|(nsroledn=cn=Top-level Admin
Role,dc=sesta,dc=com)(nsroledn=cn=Top-level Help Desk Admin
Role,dc=sesta,dc=com)(nsroledn=cn=Organization Admin
Role,dc=sesta,dc=com)(nsroledn=cn=Top-level Policy Admin
Role,dc=sesta,dc=com)))") (targetattrfilters="add=nsroledn:(nsroledn=cn=JDC,dc=se
sta,dc=com),del=nsroledn:(nsroledn=cn=JDC,dc=sesta,dc=com)") (version 3.0; acl
"Allow JDCAdmin1 Role to add/remove users to JDC Role"; allow
(write)roledn="ldap:///cn=JDCAdmin1,dc=sesta,dc=com");
-
# aci for JDCAdmin2 role
# This role can add/remove channels from the JDC role's display profile
add:aci
aci:(target="ldap:///cn=SunPortalDesktopService,dc=sesta,dc=com") (targetfilter
=(cn=cn=JDC,dc=sesta,dc=com)) (targetattr="*") (version 3.0; acl "Allow
JDCAdmin2 to edit display profile of JDC Role"; allow (all)
roledn="ldap:///cn=JDCAdmin2,dc=sesta,dc=com");
-
add:aci
aci:(target="ldap:///dc=sesta,dc=com") (targetattr = "*") (version 3.0; acl
"Allow JDCAdmin2 to read and search all"; allow (read,search) roledn =
"ldap:///cn=JDCAdmin2,dc=sesta,dc=com");
```

2. ディレクトリを Sun ONE Identity Server ユーティリティのディレクトリに変更します。次に例を示します。

```
cd /BaseDir/SUNWam/bin
```

3. IS_BASEDIR/SUNWam/ldaplib/solaris/sparc/ldapsdk が含まれるように LD_LIBRARY_PATH を設定します。

4. 次のコマンドを実行します。

```
./ldapmodify -D "DS_DIRMGR_DN" -w DS_DIRMGR_PASSWORD -f /tmp/acis.ldif
```

5. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。

6. 新しいロールを作成する組織またはサブ組織に移動します (JDCAdmin1、JDCAdmin2 など)。

- a. 「表示」メニューから「ロール」を選択し、「新規」をクリックします。

- b. 「新規ロール」ページがデータパネルに表示されます。

- c. ロールの情報 (名前、説明、ロールのタイプ、アクセス権) を入力し、「作成」をクリックします (たとえば、タイプがサービスでアクセス権を持たないスタティックなロールである JDC、など)。

新規ロールがナビゲーションパネルに表示されます。

7. 作成したロールの「デスクトップ」サービステンプレートを作成します。

- a. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。

- b. デスクトップサービスの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。

- c. デスクトップサービスのデフォルトの属性値を使用するか、あるいは変更し、「保存」をクリックします。

8. ロールディスプレイプロファイルにタブを作成します (たとえば、JDC のロールディスプレイプロファイル、など)。

- a. タブを作成するロールに移動します。

- b. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。

- c. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。

- d. デスクトップ属性ページがデータパネルに表示されます。

- e. デスクトップページで「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。

- f. 「チャンネル」ページが表示され、コンテナパスが root で設定されています。

- g. チャンネルまたはコンテナを追加するコンテナをクリックします。
 - h. ページの上部に、チャンネルが追加されるコンテナパスが表示されます。チャンネルとコンテナが定義されている場合は、リストに表示されます。
 - i. 「新規」をクリックして、コンテナチャンネルまたはチャンネルを追加します。
 - j. コンテナチャンネルを追加するには、「コンテナチャンネル」で「新規」をクリックします。チャンネルを追加するには、「チャンネル」で「新規」をクリックします。
 - k. 「新規チャンネル」ページが表示されます。
 - l. チャンネル名を入力し、メニューからプロバイダのタイプを選択します。
 - m. 「作成」をクリックします。
- 詳細は、[第5章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)を参照してください。
- 9. ユーザーを作成します (admin1、admin2 など)
 - a. ユーザーを作成するロールに移動します。
 - b. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択し、「新規」をクリックします。
 - c. 「新規ユーザー」ページがデータパネルに表示されます。
 - d. ユーザーに割り当てるサービスを選択して、「次へ」をクリックします。
 - e. ユーザー情報を入力して、「作成」をクリックします。
 - f. 新規ユーザーがナビゲーションパネルに表示されます。
 - 10. ユーザーにロールを割り当てます (たとえば、admin1 に JDCadmin1 を割り当てる、admin2 に JDCadmin2 を割り当てる、など)。
 - a. ロールの割り当て先である組織またはサブ組織に移動します。
 - b. 「表示」メニューから「ユーザー」を選択します。
 - c. ロールの割り当て先であるユーザーの隣にあるプロパティの矢印を選択します。
 - d. データパネルにユーザープロファイル情報が表示されます。
 - e. データパネルの「表示」メニューから「ロール」を選択します。
 - f. 「ロールを追加」ページが表示されます。
 - g. 割り当てるロールの隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けて、「保存」をクリックします。
 - h. このユーザーのロールを表示するボックス内が、割り当てられたロールで更新されます。
 - i. 「保存」をクリックし、変更内容を保存します。

11. 管理コンソールからログアウトします。

管理コンソールを使用して ACI を定義するには

1. 最上位管理者として Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインします。
デフォルトでは、ロケーションメニューでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」をクリックします。
3. 「管理」サービスの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
データパネルに管理の属性が表示されます。
4. 「デフォルトロールアクセス権 (ACI)」入力フィールドに ACI 定義を入力し、「追加」をクリックします。たとえば、以前に定義した JDCAdmin1 ロールと JDCAdmin2 ロールであれば、次のように入力します。

```
JDCAdmin1|Add/delete users from JDC
role|dc=sesta,dc=com:aci:(target=
"ldap:///ou=people,dc=sesta,dc=com") (targetattr = "*") (version
3.0; acl "Allow JDCAdmin1 Role to read and search users"; allow
(read,search) roledn =
"ldap:///cn=JDCAdmin1,dc=sesta,dc=com");##dc=sesta,dc=com:aci:(t
arget="ldap:///dc=sesta,dc=com")
(targetfilter="(entrydn=cn=JDC,dc=sesta,dc=com)") (targetattr="*"
) (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin1 Role to read and search JDC
Role";allow (read,search)
roledn="ldap:///cn=JDCAdmin1,dc=sesta,dc=com");
##dc=sesta,dc=com:aci:(target="ldap:///ou=people,dc=sesta,dc=com
") (targetattr="nsroledn") (targetfilter="(!(|(nsroledn=cn=Top-lev
el Admin Role,dc=sesta,dc=com)(nsroledn=cn=Top-level Help Desk
Admin Role,dc=sesta,dc=com)(nsroledn=cn=Organization Admin
Role,dc=sesta,dc=com)(nsroledn=cn=Top-level Policy Admin
Role,dc=sesta,dc=com)))") (targetfilters="add=nsroledn:(nsroled
n=cn=JDC,dc=sesta,dc=com),del=nsroledn:(nsroledn=cn=JDC,dc=sesta
,dc=com)") (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin1 Role to add/remove
users to JDC Role"; allow
(write)roledn="ldap:///cn=JDCAdmin1,dc=sesta,dc=com");)
```

```
JDCAdmin2|Add/remove channels from the JDC
role|dc=sesta,dc=com:aci:(target="ldap:///cn=SunPortalDesktopSer
vice,dc=sesta,dc=com") (targetfilter=(cn=cn=JDC,dc=sesta,dc=com))
(targetattr="*") (version 3.0; acl "Allow JDCAdmin2 to edit
display profile of JDC Role"; allow (all)
```

```
roledn="ldap:///cn=JDCAdmin2,dc=sesta,dc=com");)##dc=sesta,dc=com  
:aci:(target="ldap:///dc=sesta,dc=com")(targetattr = "*")  
(version 3.0; acl "Allow JDCAdmin2 to read and search all"; allow  
(read,search) roledn = "ldap:///cn=JDCAdmin2,dc=sesta,dc=com");)
```

「デフォルトロールアクセス権 (ACI)」リストに新しい ACI が表示されます。

5. 「保存」をクリックします。

委任モデルのための管理ロールの新規作成

委任管理ロールの権限を定義する ACI を作成した後、その ACI 定義を使用するためのロールを作成する必要があります。

1. 最上位管理者または組織管理者として Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインします。

デフォルトでは、ロケーションメニューでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。

2. ロールの作成先である組織またはサブ組織に移動します。

作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。

注 これが新規組織の場合、すべてのサービスを登録し、適切なテンプレートを作成する必要があります。詳細は、[第 2 章「認証、ユーザー、およびサービスの管理」](#)を参照してください。

3. 「表示」メニューから「ロール」を選択し、「新規」をクリックします。

「新規ロール」ページがデータパネルに表示されます。

4. 名前を入力し、スタティックロールを選択して「次へ」をクリックします。

5. 説明を入力し、タイプとして「管理」を選択します。

6. 「アクセス権」を選択します。

- a. 管理コンソールを使用してロールの ACI 定義を作成する場合、「アクセス権」リストから作成したロールを選択します。

- b. コマンドラインを使用してロールの ACI 定義を作成する場合、「アクセス権」リストにロール名が表示されていないため「アクセス権なし」を選択します。

7. 「作成」をクリックします。

新規ロールがナビゲーションパネルに表示されます。

ロール管理者ロールを割り当てるには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションメニューでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ロールの作成先である組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ロール」を選択します。
4. 割り当てるロールのプロパティの矢印をクリックします。
5. データパネルの「表示」メニューから「ユーザー」を選択し、「追加」をクリックします。
「ユーザーを追加」ページがデータパネルに表示されます。
6. 割り当てるユーザーを検索するためのフィールドの値を指定し、「フィルタ」を選択します。
ユーザーのリストが表示されます。
7. ロールを割り当てるユーザーの隣のボックスにチェックマークを付けるか、「すべて選択」を選択してすべてのユーザーを選択します。
8. 「送信」をクリックします。
「このロールのユーザー」ボックスのリストが、割り当てられたユーザーで更新されます。

ロール管理者ロールの追加制限の設定

機能が制限されたロールを設定できます。一般的な制限として、ディスプレイプロファイルの修正およびコンテンツ管理機能の実行に対するロールへの制限がありますが、この場合、デスクトップ属性の他の表示が制限されます。

また、委任された管理者を開始 DN ビューとともに設定することもできます。開始 DN ビューは、委任された管理者がエンティティを確認して修正できるディレクトリの場所です。

ロールに追加制限を設定する手順は次のとおりです。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションメニューでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。

2. 設定するロールが格納された組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ロール」を選択します。
4. 設定するロールを選択します。
5. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
6. プロファイルまたはチャンネル管理機能のみを表示するようにロールを制限するには、次の手順に従います。
 - a. デスクトップサービスの「編集」リンクをクリックします。
 - b. このロールでユーザーサービステンプレートを作成します。
「デスクトップ」ページがデータパネルに表示されます。
 - c. 「ポータルデスクトップサービスの属性を表示」チェックボックスの選択を解除します。
 - d. 「管理者 DN 開始表示」に DN を指定します。
 - e. 「保存」をクリックします。

注 「ポータルデスクトップサービスの属性を表示」チェックボックスの選択が解除されている場合、このロールが割り当てられたユーザーが「デスクトップ」サービスにアクセスしても「デスクトップ」属性が表示されません。「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクが表示されるだけです。さらに、ロールレベルで定義されたチャンネルとコンテナのみが表示されます。

7. 特定の開始 DN にロールを制限するには、次の手順を実行します。
 - a. ユーザーサービスの「編集」リンクをクリックします。
 - b. このロール用のユーザーサービステンプレートを作成します。
「ユーザー」ページがデータパネルに表示されます。
 - c. 「管理者 DN 開始表示」に DN を指定します。たとえば、`cn=JDC, dc=sesta, dc=com` のように指定します。
 - d. 「保存」をクリックします。

ポータルデスクトップサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server のデスクトップサービスの管理方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- デスクトップの概要
- チャンネルのホット配備の概要
- プロバイダアーカイブの概要
- ポータルデスクトップサービスの管理
- ポートレットの管理
- par ファイルの管理

デスクトップの概要

ここでは、デスクトップコンポーネントとその基本構造、およびその管理方法について説明します。

デスクトップ用語集

表 4-1 は、デスクトップに関連する用語の説明を示しています。

最初の列は用語を示し、2 番目の列は用語の定義を示します。

表 4-1 デスクトップ用語集

用語	定義
デスクトップ	Sun ONE Portal Server にプライマリエンドユーザーインタフェースを提供する
プロバイダ	Sun ONE Portal Server が使用する汎用リソースのインタフェースとして機能する。JSP プロバイダは、JSP ファイルをコンパイルおよび実行し、マークアップを生成する。XML プロバイダは XML ファイルを変換してマークアップを生成する。Portal Server は、ポータルページで表示するマークアップに関する情報をプロバイダに照会できる
ポートレット	ポータルのコンテキストの範囲内で要求を処理し、コンテンツを生成する、プラグイン可能な Web コンポーネント。ポートレットは、ポートレットコンテナ (JSR168 エクスポートグループによって定義されるポートレット仕様の実装) によって管理される。概念的にはソフトウェアプロバイダと等しい
チャンネル	デスクトップにコンテンツを表示する。通常は行と列で編成する。実行時のチャンネルは、チャンネルのサポートに必要なプロバイダオブジェクト、設定ファイル、およびすべてのデータファイル (JSP、HTML テンプレートなど) から構成される
コンテナまたはコンテナチャンネル	主に、他のチャンネル (子チャンネルと呼ばれる) のコンテンツを含めたり、集約したりすることでコンテンツを生成するチャンネル

ポータルデスクトップのアーキテクチャとコンテナ階層

デスクトップは、Sun ONE Portal Server のプライマリエンドユーザーインタフェースです。デスクトップはサブレットで実装され、さまざまな API とユーティリティ (Sun™ ONE Identity Server API、リソースバンドル、プロパティファイル、およびメールサーバーを始めとするバックエンドサーバーなど) によってサポートされています。

デスクトップは、プロバイダアプリケーションプログラミングインタフェース (PAPI) を使用してコンテンツを拡張、集約するメカニズムを提供します。コンテンツプロバイダ、またはプロバイダは、コンテナ階層、および一部のチャンネルを構築するための基本的なビルディングブロックを有効にします。通常、チャンネルは行と列で編成しま

すが、コンテナチャンネルを実装することで、この配備を変更することもできます。プロバイダは、コンテンツを生成するプログラムエンティティで、チャンネル中表示されます。生成したコンテンツは、ページ全体、フレーム、またはチャンネルなどの任意のマークアップで構成できます。

ポータルコンテンツ量が増加した場合にも、ポータルの構成、開発、および一般ユーザーによる使用実績は、参照するコンテンツのグループの格納方法によって簡略化できます。Sun ONE Portal Server は、コンテンツの集約においてコンテナプロバイダの柔軟で拡張性の高いセットを提供します。

図 4-1 は、デスクトップコンテナ階層の例を示しています。この図では、タブコンテナが最上位コンテナです。タブコンテナには、2つのタブチャンネルであるタブ 1 とタブ 2 があります。タブ 2 はテーブルコンテナで、内部に5つのチャンネルを格納します。

図 4-1 ポータルデスクトップのコンテナ階層の例

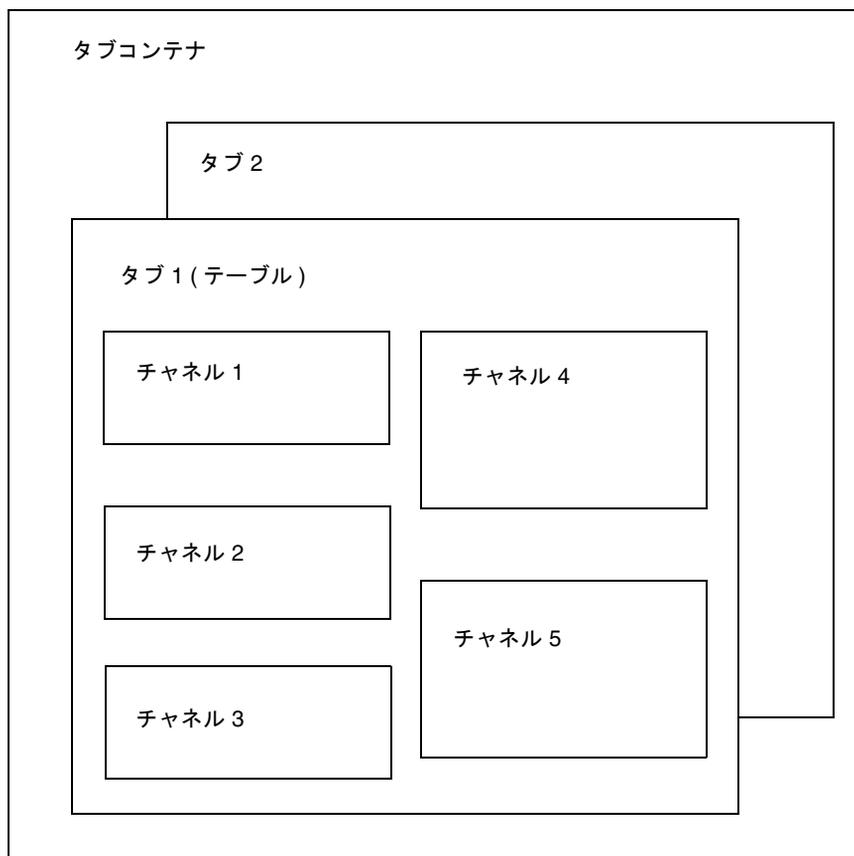


図 4-1 は、次の格納方式を示しています。

- **タブコンテナ** : 複数のテーブル、単一コンテナ、またはタブコンテナを格納する。このコンテナには、バナーおよびポータルのためのメニューバーも格納される
- **タブチャンネル** : チャンネルを切り替えるためにタブ付きのユーザーインタフェースを提供して、他のチャンネルの出力を集約する。実行時にタブコンテナの構成を修正して、表示するリーフチャンネルを変更できる
- **テーブルコンテナ** : 他のチャンネルのコンテンツを行と列に集約する。このコンテナの機能は、Sun™ Portal Server 3.0 フロントプロバイダに相当する。このコンテナは他のチャンネルのコンテンツの入れ物と考えることができる

ユーザー定義のチャンネル

それぞれのタブコンテナにはコンテンツリンクが含まれます。コンテンツリンクを選択すると、ユーザーが現在のタブのコンテナに表示するチャンネルを選択できるページが表示されます。このリリースでは、このページの右上に「新しいチャンネルの作成」というリンクが追加されています。「新しいチャンネルの作成」リンクを選択すると、ユーザーが新しいチャンネルを作成するためのページが表示されます。ただし、ユーザーが作成できるチャンネルは管理者が定義することができます。

表示されるページから新しいチャンネルを作成するには、ユーザーはフォームに [106 ページの表 4-2](#) に示される情報を指定する必要があります。

表 4-2 ユーザー定義のチャンネル

フォームのフィールド	フィールドのタイプ	フィールドの説明
チャンネル名	テキストフィールド	チャンネル名には英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) だけを使用できる
チャンネルのタイトル	テキストフィールド	チャンネルのタイトルバーに表示されるタイトル
チャンネルの説明	テキストフィールド	コンテンツリンクページに表示されるチャンネルの説明
チャンネルのタイプ	コンボボックス	新しいチャンネルの作成に使用できるプロバイダのリスト
チャンネルのカテゴリ	コンボボックス	タブのコンテナのカテゴリのリスト

表 4-2 ユーザー定義のチャンネル (続き)

フォームのフィールド	フィールドのタイプ	フィールドの説明
チャンネルを表示	「はい」、「いいえ」のラジオボタン	「作成」ボタンの選択後にブラウザが更新されたときに、新しいチャンネルが自動的に表示されるようにする場合は、「チャンネルを表示」の「はい」を選択する。「作成」ボタンの選択後にブラウザが更新されたときに、新しいチャンネルが自動的に表示されないようにする場合は、「いいえ」を選択する。この場合、コンテンツリンクからチャンネルを選択することで、チャンネルをブラウザに表示できる。どちらの場合も、ブラウザで新しいチャンネルを選択、表示したときは、そのチャンネルのタイトルバーに表示される「編集」ボタンを選択して、プロパティを更新する必要がある
作成	ボタン	新しいチャンネルを作成するときに選択する
キャンセル	ボタン	ユーザーがデスクトップの表示に戻るときに選択する

ユーザー定義のチャンネルを作成すると、コンテンツページに「チャンネルの削除」リンクが表示されるようになります。ユーザーがリンクをクリックすると、ユーザーが作成したすべてのチャンネルが表示され、チャンネルを削除することができます。

ポータルデスクトッププロバイダ

Sun ONE Portal Server は、次の 2 つのタイプのプロバイダを使用します。

- **ビルディングブロックプロバイダ**: 拡張可能なプロバイダで、そのインタフェースはパブリックである。これらのプロバイダは、汎用リソース (JSP ファイルなど) に接続する。これらのプロバイダは、ポータルデスクトップに複数のチャンネルを作成できるため、プロバイダとチャンネルの関係は一对多となる
- **コンテンツプロバイダ**: 拡張不可能なプロバイダで、表示する固有のデータセットを必要とする (たとえば、ブックマークプロバイダは特定のテンプレートとデータを必要とする)。この種類のプロバイダは、ビルディングブロックプロバイダとは異なる

ポータルデスクトップは、コンテンツ、プロバイダ、ポートレット、チャンネルデータを格納するためにディスプレイプロファイルを使用します。詳細は、[第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)を参照してください。

ポータルデスクトップサービス

デスクトップサービスは、Sun ONE Identity Server サービスを使用して、各組織またはサブ組織のアプリケーションとユーザー固有の属性を格納します。管理者は、次にディスプレイプロファイルポリシーを作成し、それをユーザーに割り当てます。Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、デスクトップ属性を修正することもできます。詳細は、付録 C 「ポータルデスクトップの属性」を参照してください。

サンプルデスクトップ

Sun ONE Portal Server のサンプルデスクトップには、次のチャンネルが含まれます。

- ブックマーク
- アプリケーション
- ユーザー情報
- 検索
- ノート
- メールチェック
- ログイン
- シンプル Web サービス
- 設定可能なシンプル Web サービス

これらのチャンネルは、サンプルポータルに合わせてカスタマイズおよび設定されています。配備するには、ユーザーインターフェースの修正が必要になることがあります。

ポータルデスクトップのカスタマイズ

Sun ONE Portal Server を配備する場合、ポータルの開発と、カスタマイズが主な作業になります。まず、プロバイダ、チャンネル、およびコンテンツチャンネルを作成、拡張してからオンラインヘルプを配備し、見た目と使い心地などを変更します。必要に応じて、サンプルデスクトップを、サイトのポータルをカスタマイズする際の出発点として使用できます。ポータルのカスタマイズの詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』を参照してください。

チャンネルのホット配備の概要

Sun ONE Portal Server を使用すると、再起動せずに稼働中のシステムでプロバイダとチャンネルを配備できます。すなわち「ホット配備」が可能です。この場合、ユーザーセッションに割り込みが起りません。

ホット配備を実現する 3 つのテクノロジーは次のとおりです。

- プロバイダクラスローダ: プロバイダ、およびプロバイダで使用するクラスをリロードする。プロバイダクラスローダを正しく実行するには、すべてのクラス (または JAR ファイル) を定義済みのディレクトリに配置する必要があります
- ディスプレイプロファイルの再表示: Sun ONE Identity Server 管理コンソール、または dpadmin コマンドなどの外部ソースで変更する場合、メモリ内のデスクトップ設定、つまりディスプレイプロファイルを更新する
- ポータルデスクトップテンプレートと JSP のリロード: 設定されたデスクトップタイプに適切なテンプレートと JSP ファイルを取得する

プロバイダアーカイブの概要

par ユーティリティで、チャンネル、ポートレット、プロバイダ、および関連するすべてのファイルを Sun ONE Portal Server システムにパッケージ化したり、システムから移動したりすることができます。チャンネル、ポートレット、プロバイダは .par ファイル形式で格納されます。.par ファイルにインクルードされるファイルは次のとおりです。

- ディスプレイプロファイルドキュメント
- クラスファイル
- プロバイダリソースバンドルファイル (プロパティファイル)
- テンプレートおよび JSP ファイル
- スタティックなコンテンツファイル、すなわち HTML および画像ファイル

ポータルデスクトップサービスの管理

デスクトップは、ユーザーのディスプレイプロファイルのマージしたセットに含まれるすべてのドキュメントをさらにマージし、それを使用してユーザーのデスクトップを構成します。ディスプレイプロファイルのマージしたセットには、ユーザーに関連するすべてのディスプレイプロファイルドキュメントが含まれます。ディスプレイプロファイルは、Sun ONE Identity Server 組織ツリーの異なるレベルで定義されます。ツリーのさまざまなレベルのディスプレイプロファイルドキュメントをマージまたは結合して、ユーザーのディスプレイプロファイルを作成します。たとえば、ユーザーのディスプレイプロファイルを形成するユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントは、ロールディスプレイプロファイルドキュメント (存在する場合)、組織のディスプレイプロファイルドキュメント、およびグローバルなディスプレイプロファイルドキュメントとマージされます。

デスクトップディスプレイプロファイルとその他の設定データは、Sun ONE Identity Server サービス管理フレームワーク内にあるポータルデスクトップサービスのサービス属性として定義されます。組織が Sun ONE Identity Server 管理コンソールでポータルデスクトップサービスを登録する場合、組織内のすべてのユーザーはユーザープロファイルのポータルデスクトップサービス属性を継承します。この場合、ポータルデスクトップはこれらの属性を照会し、情報をどのようにポータルデスクトップに集約して表示するかを決定します。

デフォルトでは、ポリシー設定サービスは自動的に最上位の組織に登録されます。サブ組織は、親組織とは別にポリシーサービスを登録する必要があります。作成したポリシーサービスは、すべての組織に登録する必要があります。

Sun ONE Identity Server 組織のユーザーに対してポータルデスクトップサービスを設定するために必要な操作の概要は、次のとおりです。

1. 組織のポリシーサービスを登録します
2. ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成します。
3. ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成します。
4. デフォルトのリダイレクト先 URL を割り当てます。
5. デスクトップサービス属性をカスタマイズします。

注 サンプルポータルをインストールすると、インストーラはサンプルに必要なディスプレイプロファイル XML ファイルをすべてインストールします。Sun ONE Identity Server コンソール、またはコマンドラインインタフェースを使用すると、プロファイルをカスタマイズできます。詳細は、[第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)を参照してください。

デフォルトでは、ポリシー設定サービスは自動的に最上位の組織に登録されます。サブ組織は、親組織とは別にポリシーサービスを登録する必要があります。作成したポリシーサービスは、すべての組織に登録する必要があります。ポリシーを使用するための手順の概要は、次のとおりです。

1. 組織のポリシーサービスを登録します (インストール時に指定した組織については、これは自動的に行われます)。サブ組織は、親サービスを継承しないため、サブ組織のポリシーサービスを登録する必要があります。詳細は、「[サブ組織のポリシーサービスを登録するには](#)」を参照してください。
2. ピアまたはサブ組織の参照ポリシーを作成します。組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委託することができます (リソースのポリシー定義は別のポリシー製品に委託されます)。この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御されます。これは、規則と参照自体から構成されます。リソースを必要としないアクションがポリシーサービスに含まれる場合、サブ組織の参照ポリシーを作成することはできません。詳細は、「[サブ組織の参照ポリシーを作成するには](#)」を参照してください。
3. ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成します。アクセス権の定義には通常のポリシーを使用します。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成されます。詳細は、「[サブ組織の通常のポリシーを作成するには](#)」を参照してください。

サブ組織のポリシーサービスを登録するには

サブ組織は、親サービスを継承しないため、サブ組織のポリシーサービスを登録する必要があります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. デスクトップサービスを登録する組織を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
4. ナビゲーションパネルで「登録」をクリックします。

使用できるサービスのリストがデータパネルに表示されます。
5. 「Portal Server 設定」の「ポータルデスクトップ」チェックボックスにチェックマークを付けて、「登録」をクリックします。

ナビゲーションパネルが、「Portal Server 設定」に登録したデスクトップサービスで更新されます。
6. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。

7. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
8. このとき、データパネルのメッセージボックスに、デスクトップサービスにサービステンプレートを作成する必要があるかどうかを確認するメッセージが表示されます。メッセージボックス内の「作成」をクリックし、テンプレートを作成します。
9. ページを送信してテンプレートが作成されると、データパネルにデスクトップサービス属性とデフォルト値があればその一覧が表示されます。必要に応じて値を修正します。完了したら、「保存」を選択してサービステンプレートの最新の値を保存します。

新規に作成したサービステンプレートのディスプレイプロファイルは、「サービス設定」にある「ポータルデスクトップ」サービスの「ダイナミック」セクションに入力した値を取ります。それらの値が空白の場合、この新規テンプレートのディスプレイプロファイルも空白になります。

注 「競合の解決レベル」属性の値は、デフォルト値では「最も高い」に設定されています。登録したサービスに同じ優先順位でサービステンプレートを各レベル（組織、ロールなど）でセットアップすると、予想外の結果を招く可能性があります。

サブ組織の参照ポリシーを作成するには

組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委託することができます。この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御されます。これは、規則と参照自体から構成されます。参照は、規則内のリソースとして親組織を定義する必要があり、参照内の値として `SubOrgReferral` に組織名が含まれている必要があります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ナビゲーションパネルで「アイデンティティ管理」を選択します。
3. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
4. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。
ポリシーの作成ページがデータパネルに表示されます。
5. 「名前」には、`SubOrgReferral_Desktop` を入力します。「ポリシータイプ」で「参照」が選択されていることを確認します。「作成」をクリックします。
6. 「サービス」から「ポータルデスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。

7. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「ポータルデスクトップ」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

ルールの追加テンプレートがデータパネルに表示されます。
8. 「ルール名」に DesktopRule と入力し、「作成」をクリックします。
9. データパネルの「表示」メニューから「参照」を選択し、「追加」をクリックします。

「新規リフェラル」テンプレートがデータパネルに表示されます。
10. 「名前」に SubOrgReferral_Desktop と入力します。

データパネルで「値」にサブ組織の名前が選択されていることを確認し、「作成」をクリックしてポリシーの設定を完了します。
11. データパネルで「保存」をクリックします。

データが保存されると、「ポリシープロパティが保存されました。」というメッセージが表示されます。

サブ組織の通常のポリシーを作成するには

アクセス権の定義には通常のポリシーを使用します。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成されます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ポリシーを作成する組織またはサブ組織に移動します。

作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。

その組織のポリシーが表示されます。
4. ナビゲーションパネルで「新規」を選択します。「新規ポリシー」ページがデータパネルに表示されます。
5. 「名前」に SubOrgNormal_Desktop と入力します。「ポリシータイプ」で「標準」が選択されていることを確認します。「作成」をクリックします。
6. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「新規」をクリックします。ルールの追加テンプレートがデータパネルに表示されます。

7. 「サービス」メニューから「ポータルデスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。「ルール名」に **DesktopRule** と入力します。「NetMail 実行権限」にチェックマークが付けられていることを確認します。
8. 「サービス」メニューから「ポータルデスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。「NetMail 実行権限」にチェックマークが付けられていることを確認します。
9. 「タイプ」メニューからサブジェクトのタイプを選択し、「次へ」をクリックしてサブジェクトの設定を完了します。
10. データパネルの「表示」メニューから「サブジェクト」を選択し、「新規」をクリックします。「サブジェクトを追加」ページがデータパネルに表示されます。
11. 「作成」をクリックして、ポリシーの設定を完了します。

データが保存されると、「ポリシープロパティが保存されました。」というメッセージが表示されます。

ログインユーザーをポータルデスクトップ URL に正しくリダイレクトするには

ログインに成功すると、組織内のユーザーはデフォルトでデスクトップサービスの属性、および値を受け取ります。これらの値はデスクトップサーブレットによって照会され、組織内の全ユーザーのポータルデスクトップコンテンツが決定されます。ユーザーがログインに成功したあと、Sun ONE Identity Server がポータルデスクトップサーブレットを自動的に呼び出すようにするには、デフォルトのリダイレクト URL をポータルデスクトップ URL に変更します。

ポータルデスクトップ URL にリダイレクトされるように、特定の組織のデフォルトリダイレクトを設定するには、次の手順に従います。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ポータルデスクトップ URL を設定する組織を選択します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. ナビゲーションパネルの「コア」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
5. データパネルで、「デフォルト成功ログイン」という属性を探します。
6. 「デフォルト成功ログイン」の値をデスクトップサーブレットの URL に設定します。たとえば、/portal/dt はサンプルデスクトップの URL です。
7. 「保存」をクリックします。

8. デスクトップにログインして、デフォルトのポータルリダイレクト URL を確認します。

ログインユーザーをポータルデスクトップ URL に正しくリダイレクトするには (グローバル)

グローバル属性に適用される値は、Sun ONE Identity Server 設定に適用され、また新規に作成されたすべての組織に継承されます。

デフォルトリダイレクト URL をポータルデスクトップ URL にグローバルに設定するには、次の手順に従います。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」をクリックします。
3. ナビゲーションパネルの「コア」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. データパネルで、「デフォルト成功ログイン」という属性を探します。
5. 「デフォルト成功ログイン」の値を /portal/dt などのポータルデスクトップサブレットの URL に設定します。
6. 「保存」をクリックします。

ポータルデスクトップサービス属性の値を修正するには

サービス属性を修正することで、ポータルデスクトップサービスをカスタマイズできます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. デスクトップ属性を修正する組織を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「デスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
ディスプレイプロファイル XML を含む、ポータルデスクトップサービス属性の一覧がデータパネルに表示されます。

4. サービス属性値を修正します。
属性の詳細については、付録 C 「ポータルデスクトップの属性」を参照してください。
5. 完了したら、「保存」を選択します。
変更は、特定のサブ組織またはロールのユーザーだけに反映されます。

ポータルデスクトップサービス属性の値を修正するには (グローバル)

グローバルデスクトップサービスの属性値、すなわち、後でデスクトップサービスに登録する組織すべてに反映させる属性値を修正することもできます。

グローバル属性に適用される値は、Sun ONE Identity Server 設定に適用され、また今後構成されるすべての組織に継承されます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」をクリックします。
3. ナビゲーションパネルの「デスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
ディスプレイプロファイル XML を含むグローバルデスクトップサービス属性の一覧が、データパネルに表示されます。
4. サービス属性値を修正します。
属性の詳細については、付録 C 「ポータルデスクトップの属性」を参照してください。
5. 完了したら、「保存」を選択します。
この変更は、今後、デスクトップサービスに登録するすべての組織に影響します。

サンプルポータルデスクトップにアクセスするには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールからログアウトします。

2. 次の URL を使用してユーザーアカウント (amadmin ユーザーではない) でログインします。

http://server:port/portal/dt

ユーザーアカウントを作成する必要がある場合は、39 ページの第 2 章「認証、ユーザー、およびサービスの管理」を参照してください。

デスクトップログを確認するには

ポータルデスクトップエラーはデバッグログファイルに記録されます。デフォルトでは、これらログファイルの位置は次のとおりです。

- /var/opt/SUNWam/debug/desktop.debug
- /var/opt/SUNWam/debug/desktop.dpadmin.debug

これらのログファイルのエラーを調べます。次に、例を示します。このエラーは認証されていないユーザーがポータルデスクトップを実行しようとしたことを示します。

```
06/20/2002 02:36:30:600 PM PDT:Thread[Thread-177,5,main]
ERROR:DesktopServlet.handleException()
com.sun.portal.desktop.DesktopException:DesktopServlet.doGetPost
():no privileige to execute desktop
    at
com.sun.portal.desktop.DesktopServlet.doGetPost(DesktopServlet.j
ava:456)
    at
com.sun.portal.desktop.DesktopServlet.service(DesktopServlet.jav
a:303)
    at
javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java:853)
    at
com.sun.server.http.servlet.NSServletRunner.invokeServletService
(NSServletRunner.java:897)
    at
com.sun.server.http.servlet.WebApplication.service(WebApplicatio
n.java:1065)
    at
com.sun.server.http.servlet.NSServletRunner.ServiceWebApp(NSServ
letRunner.java:959)
```

ポートレットの管理

ポートレットの管理には、Sun™ ONE Identity Server 管理コンソールを使用します。管理コンソールには、ポートレットからポートレットチャンネルを作成するページ、およびポートレットチャンネルの設定を変更するページが用意されています。ポートレット Web アプリケーションを Web コンテナに配備する（または配備解除する）ときは、pdeploy というコマンドラインツールを使用します（「[コマンドラインユーティリティ](#)」を参照）。

注 少なくとも1つのセッションが有効なポートレットを含むポータルページにクライアント要求がアクセスするときは、そのポータルページのすべてのポートレットを1つのポートレットアプリケーションとしてパッケージ化することを強くお勧めします。パッケージしない場合、セッション作成の結果が1つに特定されなくなります。

ポートレットからチャンネルを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、組織を選択します。
2. ナビゲーションメニューの「表示」の下で「サービス」を選択します。
3. 「Portal Server 設定」から「ポータルデスクトップ」サービスを選択します。
4. 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
5. 「チャンネル」の下での「新規ポートレットチャンネル」ボタンを選択します。
ポートレットチャンネルを作成するためのページが表示されます。
6. 「チャンネルの追加」ページに次の情報を指定します。
 - チャンネル名
 - チャンネル名は英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) で指定する必要があり、必須フィールド
 - ポートレット
システムに配備されているポートレットだけが表示されます。
7. 「作成」ボタンをクリックし、ポートレットチャンネルを作成します。

特定コンテナのポータルデスクトップからチャンネルを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、組織を選択します。
2. ナビゲーションメニューの「表示」の下で「サービス」を選択します。
3. 「Portal Server 設定」の下で「ポータルデスクトップ」サービスを選択します。
4. 「チャンネルおよびコンテナの管理」を選択します。
5. ポータルデスクトップチャンネルを作成するコンテナのリンクを選択します。
コンテナを管理するためのページが表示されます。
6. 「チャンネル」の下の「新規ポータルデスクトップチャンネル」ボタンを選択します。
ポータルデスクトップチャンネルを作成、追加するためのページが表示されます。
7. 「チャンネルの追加」ページに次の情報を指定します。
 - チャンネル名
 - ポータルデスクトップ (プルダウンリストから)。このリストには、システムに配備されているポータルデスクトップだけが含まれる
8. 適切なラジオボタンを選択し、エンドユーザーがそのチャンネルを使用できるか、またはポータルデスクトップ上で使用、表示できるかを指定します。
9. 「了解」ボタンを選択します。
「チャンネル」の下のチャンネルリスト、および「チャンネルおよびコンテナの管理」ページの「使用可能および表示可能」の下にチャンネルが追加されます。

コンテナにポータルデスクトップチャンネルを追加するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、組織を選択します。
2. ナビゲーションパネルの「表示」の下で「サービス」を選択します。
3. 「Portal Server 設定」から「ポータルデスクトップ」を選択します。
4. 「チャンネルおよびコンテナの管理」を選択します。
5. 新たに作成するポータルデスクトップチャンネルの追加先となるコンテナへのリンクを選択します。
コンテナを管理するためのページが表示されます。

6. チャンネル管理に追加するポートレットチャンネルを選択し、「追加」を選択します。
これにより、選択しているコンテナで使用、表示できるチャンネルのリストに、選択したポートレットチャンネルが追加されます。
7. 「チャンネル管理」の下の「保存」ボタンをクリックし、新しい設定を保存します。

ポートレットチャンネルの設定とプロパティを編集するには

ポートレットの設定は、portlet.xml ファイルに定義されます。

```
<portlet-preferences>
    <preference>
        <name>foo</name>
        <value>apple</value>
    </preference>
    <preference>
        <name>bar</name>
        <value>orange</value>
        <value>grape</value>
        <read-only>true</read-only>
    </preference>
</portlet-preferences>
```

これは、次のディスプレイプロファイルにマッピングされます。

```
<Collection name="__Portlet__AdditionalPreferences"/>
    <Collection name="__Portlet__PreferenceProperties">
        <Collection name="default">
            <String name="foo" value="|apple|"/>
            <String name="bar" value="|orange|grape|"/>
        </Collection>
        <Collection name="isReadOnly">
            <Boolean name="foo" value="false"/>
            <Boolean name="bar" value="true"/>
        </Collection>
    </Collection>
```

```

    </Collection>
</Collection>
<String name="__Portlet__foo" value="|apple"/>
<String name="__Portlet__bar" value="|orange|grape"/>

```

実行時に追加される設定を保持するために、空のコレクション

`__Portlet__AdditionalPreferences` が作成されます。コレクション

`__Portlet__PreferenceProperties` には、`default` と `isReadOnly` という 2 つのコレクションが含まれます。`default` コレクションには、`portlet.xml` に定義されるデフォルト値が格納されます。`default` コレクションと似ている `isReadOnly` コレクションには、ブール型のプロパティを使用する設定の読み取り専用フラグが格納されます。

`portlet.xml` に含まれる各設定は、`default` コレクション内に対応する `String` プロパティを持ちます。このプロパティの名前は、設定名です。`String` プロパティの値は、`portlet.xml` に定義されているデフォルト値で、先頭に「|」という文字が付けられ、複数の値は「|」で区切られます。次に、各設定は設定の現在値を格納する `String` プロパティで表わされます。このプロパティの名前は、設定名で、先頭に `__Portlet__` という文字列が付けられます。プロパティの値は、現在のプロパティ値で、先頭に「|」という文字が付けられ、複数の値は「|」で区切られます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、ドメインを選択します。
2. ナビゲーションパネルの「表示」の下で「サービス」を選択します。
3. 「Portal Server 設定」から「ポータルデスクトップ」を選択します。
4. 編集するポートレットチャンネルの「プロパティの編集」リンクを選択します。
5. 「チャンネルの編集」ページが表示されます。チャンネル編集ページには、ポートレットエンティティのポートレット設定が表示されます。
6. 設定を変更し、「保存」を選択して変更内容を保存します。
7. 設定のデフォルト値を変更するときは、編集する設定の「プロパティの編集」リンクをクリックします。プロパティは、「チャンネルの編集」ページで編集できます。

par ファイルの管理

par ユーティリティで、Sun ONE Portal Server 間でプロバイダまたはチャンネルを送信したり移動したりすることができます。par ユーティリティは、.par ファイルと呼ばれる特定のパッケージメカニズムを作成して、チャンネル、ポートレット、プロバイダをサーバー間で送受信します。.par ファイルは .jar ファイル形式の拡張形式で、マニフェスト情報を追加することで、ターゲットサーバーの Sun ONE Portal Server ディスプレイプロファイルに配備情報と XML ドキュメントを送ります。

par コマンドラインユーティリティを使用して par ファイルを作成、修正、配備します。export サブコマンドを使用すると par ファイルを作成、または修正できます。import サブコマンドを使用すると、Sun ONE Portal Server でプロバイダ、チャンネル、ポートレットをインポートまたは配備できます。describe サブコマンドを使用すると、par ファイルの内容の説明を参照できます。par コマンドの構文については、「par」を参照してください。

par ユーティリティを使用するには、エクスポートまたはインポートするファイルがある Sun ONE Portal Server に、superuser としてログインする必要があります。エクスポートする場合、チャンネル、ポートレット、またはプロバイダが要求するすべてのファイルを実際にエクスポートする必要があります。たとえば、チャンネルにはスタティックなコンテンツファイルを、プロバイダにはプロバイダが使用するすべてのクラスファイルをインクルードする必要があります。コマンドラインで par ファイルに含まれるすべてのデータを指定すると操作が煩雑になるので、データを示す行を持つ簡単なテキストファイルを作成し、par ユーティリティでこの「エクスポートファイル」を呼び出します。詳細は、第 4 章「ポータルデスクトップサービスの管理」を参照してください。

新規の par ファイルを作成するには

新規の par ファイルを作成してから、次の手順でチャンネル、ポートレット、またはプロバイダをエクスポートします。

1. チャンネル、ポートレット、またはプロバイダのエクスポート元となる Sun ONE Portal Server にログインします。
2. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

3. コマンドラインで `par export` コマンドとサブコマンドを次の引数を含めて入力します。作成する `par` ファイル名、エクスポートするディスプレイプロファイルドキュメントに対応するディレクトリサーバー名、および任意の数の (少なくとも 1 つ) のエクスポートファイルや `from` 以下に指定した引数を指定します。たとえば、`o=sesta.com,o=isp` から `mychannel.par` ファイルへ `mychannel` チャネルをエクスポートするには、次のコマンドを入力します。

```
./par export mychannel.par "o=sesta.com,o=isp" from:channel  
mychannel
```

構文については、[第 14 章「コマンドラインユーティリティ」](#) を参照してください。

既存の par ファイルを修正するには

既存の `par` ファイルを修正して、次の手順でチャネル、ポートレット、またはプロバイダをエクスポートします。

1. チャネル、ポートレット、またはプロバイダのエクスポート元となる Sun ONE Portal Server にログインします。
2. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

3. コマンドラインで、`modify` オプションを使用して `par export` コマンドとサブコマンドを次の引数とともに入力します。修正する `par` ファイル名、エクスポートするディスプレイプロファイルドキュメントに対応するディレクトリサーバー名、および任意の数の (少なくとも 1 つ) のエクスポートファイル、または `from` 以下に指定した引数です。たとえば、`mychannel.par` ファイルを修正してスタティックコンテンツファイル `/mycontent.html` を含めるには、次のコマンドを入力します。

```
./par export --modify mychannel.par "dc=sesta,dc=com" "from= file  
/mycontent.html"
```

par ファイルを配備するには

Sun ONE Portal Server へ par ファイルをインポートし、次の手順でプロバイダまたはチャンネルをシステムに配備します。

1. プロバイダまたはチャンネルに par ファイルをコピーして Sun ONE Portal Server へインポートし、そこにプロバイダまたはチャンネルを配備します。
1. チャンネル、ポートレット、またはプロバイダのインポート先となる Sun ONE Portal Server へログインします。

2. スクリプトがインストールされているディレクトリに移動します。次のように指定します。

```
cd BaseDir/SUNWps/bin
```

3. コマンドラインで par import コマンドとサブコマンドを次の引数を含めて入力します。インポートする par ファイル名、エクスポートするディスプレイプロファイルドキュメントに対応するディレクトリサーバー名です。たとえば、mychannel.par ファイルをインポートするには、次のコマンドを入力します。

```
./par import --auto myfile.par "do=sesta,dc=com"
```

ディスプレイプロファイルの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server のディスプレイプロファイルコンポーネントとそのコンポーネントの管理方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [ディスプレイプロファイルの概要](#)
- [ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約](#)
- [ディスプレイプロファイルオブジェクトの検索](#)
- [ディスプレイプロファイルのプロパティ](#)
- [ディスプレイプロファイルのマージ動作](#)
- [ディスプレイプロファイルと Sun ONE Identity Server](#)
- [ディスプレイプロファイルの管理](#)

ディスプレイプロファイルの概要

ここでは Sun ONE Portal Server のディスプレイプロファイルコンポーネントについて説明します。

ディスプレイプロファイルは、次の 3 つの項目を定義してデスクトップの表示設定を作成します。

- **プロバイダ定義**: プロバイダの名前と Java™ クラスを指定する。プロバイダは、コンテンツの生成に使用されるテンプレートで、チャンネルに表示される。詳細は、「[プロバイダオブジェクト](#)」を参照
- **チャンネル定義**: プロバイダクラスのインスタンスの実行時設定を指定する。チャンネルはコンテンツの単位で、通常は (必ずしもそうとは限らないが) 行と列で編成される。またチャンネル内にチャンネルを持つことができる。すなわちそれはコンテンツチャンネルである

- プロバイダとチャンネルのプロパティ定義**: プロバイダとチャンネルのプロパティに値を指定する。プロバイダに定義されたプロパティは、通常はプロバイダから導出されたチャンネルにデフォルトの値を指定する。チャンネルの表示設定には、タイトル、説明、チャンネル幅などのプロパティが含まれる。チャンネルに定義されるプロパティは、そのチャンネルに通常はデフォルトの値と異なる値を指定する

コンテナプロパティは、コンテナ内に含まれるチャンネルの表示方法に関する表示定義を定義します。これには、コンテナのレイアウト (狭い - 広い、広い - 狭い、または狭い - 広い - 狭い)、コンテナ内のチャンネルのリスト、チャンネルの位置 (行と列の番号)、およびコンテナ内のチャンネルのウィンドウ状態 (最小または切り離し) が含まれます。

注

ディスプレイプロファイルは、実際にはユーザーのデスクトップに表示される全体的なレイアウトまたは構造を定義しません。ディスプレイプロファイルはチャンネルのプロパティの値を提供するためにのみ存在します。ただし、ディスプレイプロファイルは、テーブルコンテナの列レイアウトやテーブルコンテナがチャンネルをテーブルの中に描画する方法のように、いくつかのチャンネルプレゼンテーションを間接的に制御します。

ディスプレイプロファイルは、チャンネルのプロパティが配置を決定する場合のレイアウトを決定します。たとえば、サンプルポータルテーブルプロバイダ定義のディスプレイプロファイルには、次の文が指定されています。

```
<Integer name="layout" value="1"/>
```

これは「狭い - 広い」列を参照します。ただし、ディスプレイプロファイルの構造には実際のレイアウトに関する情報はありません。

ディスプレイプロファイルは、XMLProvider が XML を解析する方法などは制御しません。その中にある規則 (XSL ファイル) の種類の定義があるだけです。

ポータルデスクトップは Sun™ ONE Directory Server Access Management Edition サービスのトップでディスプレイプロファイルデータ保管メカニズムを実装し、コンテンツプロバイダとチャンネルデータを保存します。さらに、チャンネルとプロバイダについてプロパティが設定されます。

ユーザーのディスプレイプロファイルは、コンテナ管理とチャンネルのプロパティを記述する一連の XML ドキュメントです (1 つのディスプレイプロファイルドキュメントが 1 つの XML ドキュメントと同等です)。ディスプレイプロファイルドキュメントは、Sun ONE Identity Server サービス層の 1 つの属性としてその全体の中に格納されます。すなわち、ディスプレイプロファイルドキュメントは Sun™ ONE Directory Server のインスタンスに常駐する LDAP 属性です。

ディスプレイプロファイルプロパティ値を変更する場合、プロバイダはプロバイダ API (PAPI) を使用して値を取得および設定します。チャンネル値がディスプレイプロファイルに設定されると、PAPI 内部実装は Sun ONE Identity Server SDK を使用して Sun ONE Identity Server デスクトップサービス属性にディスプレイプロファイルドキュメントを設定します。

警告 Sun ONE Identity Server SDK を使用したディスプレイプロファイルの編集は、可能ですが行わないでください。

ディスプレイプロファイルと管理コンソール

ディスプレイプロファイルとその他のポータルデスクトップサービスのデータは、Sun ONE Identity Server 管理コンソールと `dpadmin` コマンドによって編集できます。ディスプレイプロファイルを編集する場合、プロバイダ、コンテナ、およびチャンネルを追加、修正、削除し、プロパティを編集します。「XML のアップロード」と「XML のダウンロード」リンクを使用して、ディスプレイプロファイルドキュメントをアップロードおよびダウンロードします。また、Sun ONE Identity Server 管理コンソールは、チャンネルとコンテナを追加し、既存のプロパティを編集するための「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを「ポータルデスクトップ」属性ページに表示します。チャンネルまたはコンテナが新規作成された場合、「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用してプロパティを定義します。また「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクは、チャンネルとコンテナの追加、修正、削除にも使用できます。詳細は、「[ディスプレイプロファイルの管理](#)」を参照してください。

注 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用した場合、ディスプレイプロファイルの一部にだけアクセスできるので、委任された管理者がこのリンクを使用すると想定されます。委任された管理者を設定する方法については、[第 3 章「管理の委任の設定」](#)を参照してください。

ディスプレイプロファイルドキュメントの構造

ここではディスプレイプロファイルドキュメントの全体的な構造について説明します。ディスプレイプロファイルドキュメントの基本となるデータ形式はXMLです。ディスプレイプロファイル DTD 構文については、[付録 B 「XML リファレンス」](#) を参照してください。

ディスプレイプロファイル形式で、プロバイダとチャンネルオブジェクト、およびそのプロパティが定義され、デスクトップの表示設定が決定されます。ディスプレイプロファイルは Sun ONE Directory Server の `isp` レベル (または最上位ディレクトリノード)、組織レベル、ロールレベル、ユーザーレベルで保存されます。実行時にユーザーのディスプレイプロファイルは、ディレクトリツリー内のユーザー固有のプロファイルからディスプレイプロファイルドキュメントをすべて「マージ」したものであり、そのユーザーに関する特定のディスプレイプロファイルオブジェクトの値は、ディスプレイプロファイルの「マージ」動作により決定されます。

ディスプレイプロファイルオブジェクトは、オブジェクトを定義する XML タグに直接マッピングされます。たとえば、`<Channel name>` `</Channel>` XML タグはチャンネルオブジェクトを定義します。

一般に、ディスプレイプロファイルのドキュメント構造は、次のようになります。

```
<DisplayProfile>
  <Properties>...global properties...</Properties>
  <Channels>...channel definitions...</Channels>
  <Providers>...provider definitions...</Providers>
</DisplayProfile>
```

`<Properties>`、`<Channels>`、および `<Providers>` はグループ化を実行するためのメカニズムです。これらのメカニズムは XML ディスプレイプロファイルドキュメントを詳細に構造化し、オブジェクトなどは各「バッグ」内に格納されます。「バッグ」については、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約](#)」を参照してください。

次の節からはディスプレイプロファイルオブジェクトをより詳細に説明します。

ディスプレイプロファイルルートオブジェクト

ディスプレイプロファイルルートコンテナオブジェクトでは、デスクトップサーブレットはコンテナプロバイダとして機能し、プロバイダのハンドルの取得などを行います。チャンネルと関連付けられる実際のプロバイダクラスは存在しません。このチャンネルは他のディスプレイプロファイルオブジェクトから参照されることはありません。

ディスプレイプロファイルルートオブジェクトの XML 構文

```
<Container name="_desktopRoot" provider="none">
  <Properties/>
  <Available />
  <Selected />
  <Channels/>
</Container>
```

プロバイダオブジェクト

プロバイダオブジェクトは、チャンネルレンダリングの実行時に実行されるソフトウェアエンティティです(このようにチャンネルは実行時にはプロバイダのインスタンスとなります)。<Provider> ディスプレイプロファイル定義は、ディスプレイプロファイルチャンネルを定義するためのテンプレートです。プロバイダ Java オブジェクトのクラス名とすべての必須プロパティのデフォルト値を設定します。

<Provider> ディスプレイプロファイル定義には、ディスプレイプロファイルのクライアントが Java™・クラス名などの provider オブジェクトを構築するために必要な情報が収められています。

<Provider> ディスプレイプロファイル定義は、このプロバイダを示すすべてのチャンネルに対して、デフォルトのプロパティ値を設定します。チャンネル固有のプロパティが必要になるのは、プロバイダのデフォルトを上書きする必要がある場合のみです。プロバイダディスプレイプロファイルオブジェクトには、プロバイダ Java オブジェクトで使用されるすべてのプロパティに対するデフォルトの値を格納する必要があります。たとえば、プロバイダ Java コードには次の値が格納されます。

```
getStringProperty("color")
```

チャンネルオブジェクト

channel オブジェクトは単一の表示要素を表します。channel オブジェクトに含まれるオブジェクトは、チャンネルのプロパティと考えることができます。<Channel name> 定義には、プロバイダへのシンボル参照が含まれます。また、チャンネル固有のプロパティを定義して、プロバイダ定義で定義されるデフォルトの値を上書きすることができます。チャンネル名は、ディスプレイプロファイルドキュメント内の同じチャンネルレベルでは一意である必要がありますが、チャンネルレベルが異なれば、同じ名前を定義できます。

チャンネルオブジェクトの XML 構文の例

```
<Channel name="SampleXML" provider="XMLProvider">

  <Properties >
    <String name="refreshTime" value="600" advanced="true"/>
    <String name="title" value="XML Test Channel"/>
    <String name="description" value="This is a test of the XML Provider
system"/>
    <String name="url"
value="file:///etc/opt/SUNWps/desktop/default/SampleXML/getQuotes.xml"/>
    <String name="xslFileName"
value="/etc/opt/SUNWps/desktop/default/SampleXML/html_stockquote.xsl"/>
  </Properties>

</Channel>
```

コンテナオブジェクト

container オブジェクトは channel オブジェクトに似ていますが、container オブジェクトはコンテンツを生成しません。すなわち、コンテナは他のチャンネルから内容を取得するチャンネルです。container オブジェクトを使用すると、チャンネルリストの使用と選択が可能になり、子チャンネル定義を格納することができます。子チャンネルは、一般にページ上で他のチャンネルと集約されて、独自の内容を生成します。コンテナチャンネルは、主に、1つまたは複数の子チャンネルの内容を集約してその内容を生成します。

コンテナオブジェクトのXML構文の例

```
<Container
name="TemplateTableContainer"provider="TemplateTableContainerProvider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Template Based Table Container"/>
    <String name="description"
      value="This is the channel for the front provider"/>
    <Collection name="channelsColumn" advanced="true">
      <String name="SampleJSP" value="2"/>
      <String name="SampleXML" value="2"/>
      <String name="Notes" value="2"/>
    </Collection>
    <Collection name="channelsRow" advanced="true">
      <String name="MailCheck" value="3"/>
      <String name="SampleRSS" value="2"/>
      <String name="SampleXML" value="2"/>
      <String name="App" value="5"/>
      <String name="SampleSimpleWebService" value="6"/>
      <String name="Bookmark" value="4"/>
      <String name="Notes" value="3"/>
    </Collection>
    <Collection name="channelsIsRemovable">
      <Boolean name="UserInfo" value="false"/>
    </Collection>
  </Properties>
  <Available>
    <Reference value="UserInfo"/>
    <Reference value="MailCheck"/>
    <Reference value="SampleRSS"/>
    <Reference value="SampleJSP"/>
    <Reference value="SampleXML"/>
    <Reference value="App"/>
    <Reference value="SampleSimpleWebService"/>
    <Reference value="Bookmark"/>
    <Reference value="Notes"/>
  </Available>
```

```

<Selected>
  <Reference value="UserInfo"/>
  <Reference value="MailCheck"/>
  <Reference value="SampleRSS"/>
  <Reference value="SampleJSP"/>
  <Reference value="SampleXML"/>
  <Reference value="App"/>
  <Reference value="SampleSimpleWebService"/>
  <Reference value="Bookmark"/>
  <Reference value="Notes"/>
</Selected>

<Channels>
</Channels>

</Container>

```

ディスプレイプロファイルオブジェクトの集約

root、provider、および channel オブジェクトには、プロパティを関連付けることができます。ディスプレイプロファイルは、プロパティ「バッグ」内のプロパティをグループ化します。バッグという用語は、プロパティを保持する目的だけに使用されることを意味します。プロパティにプロパティバッグが関連付けられることはありません。プロパティの定義については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』を参照してください。

チャンネル、プロバイダ、およびルートレベルのプロパティバッグは、異なるセマンティクスを持ちます。グローバルプロパティは、すべてのチャンネルで共有されます。グローバルプロパティとして定義されるプロパティは、ここではどのチャンネルからでもアクセスできます。テーマはグローバルプロパティの一例です。テーマデータはグローバルに定義されるため、すべてのチャンネル間で共有されます。

プロバイダで定義されるプロパティは、そのプロバイダに基づくチャンネルのデフォルトです。プロパティがチャンネルで定義されていない場合、デフォルトが使用されます。これはプロバイダがプロバイダ Java オブジェクトで使用されるプロパティをすべて定義する必要があることを示しています。この場合、Java コードの内容は次のようになります。

```
String f = getStringProperty("color");
```

ディスプレイプロファイル内の対応する <Provider name> 定義では、次のように定義する必要があります。

```
<String name="color" ... />
```

注 グローバルプロパティを、すべてのチャンネルのデフォルトとして使用しないでください。ディスプレイプロファイルプロバイダ定義は、プロバイダ定義を使用する `provider` オブジェクトが使用するプロパティインタフェースを定義します。

チャンネルプロパティは、プロバイダ定義のデフォルトを上書きしてチャンネルをカスタマイズします。たとえば、`URLScaperProvider` は `url` プロパティを定義します。デフォルトは、通常はチャンネルによって値が上書きされるため意味を持ちません。

ディスプレイプロファイルオブジェクトの検索

実行時に、システムは直接プロバイダにプロパティを照会しません。この要求は常にチャンネルに対して行われます。Java `provider` オブジェクトがプロパティを要求する場合、プロパティが見つかるか、格納階層の最上位に到達するまで次の順序でディスプレイプロファイルを検索します。

1. チャンネルのプロパティ
2. チャンネルのプロバイダのプロパティ
3. チャンネルの親のプロパティ
4. チャンネルの親のプロバイダのプロパティ
5. チャンネルの親の親のプロパティ (くり返し)
6. ディスプレイプロファイル `root` 定義に定義されるグローバルプロパティバッグ

このようにチャンネルがプロパティの名前を照会すると、上記のすべてに該当するプロパティが取得されます。

`provider` オブジェクトに存在するプロパティは、チャンネルに対してデフォルト値の動作を持つように意図されています。たとえば、プロパティ `title` を定義するプロバイダ `xml` について、プロバイダ `xml` から導出されるすべてのチャンネルは `title` プロパティを継承します。チャンネルがこのプロパティを上書きする場合、その独自のプロパティ内で値を設定できます。

ディスプレイプロファイルのプロパティ

ここでは、ディスプレイプロファイルプロパティとそれらを指定する方法について説明します。

ディスプレイプロファイルのプロパティのタイプ

ディスプレイプロファイルプロパティのタイプは次のとおりです。

- **ブール型**：ブール値を表す不可分なオブジェクト。
例：

```
<Boolean name="isEditable" value="false"/>
```
- **コレクション**：リストまたはハッシュテーブルのいずれかを表すオブジェクト。コレクションは、別のプロパティを格納するためのプロパティ、または名前付きバッグのタイプである。
例：

```
<Collection name="channelsRow">  
    <String name="MailCheck" value="4"/>  
    <String name="App" value="5"/>  
</Collection>
```
- **整数**：整数値を表す不可分なオブジェクト。
例：

```
<Integer name="numberOfHeadlines" value="7"/>
```
- **文字列**：文字列の値を表す不可分なオブジェクト。
例：

```
<String name="title" value="Table Container Channel 1"/>
```
- **参照**：チャンネル定義（すなわち、コンテナの選択された使用可能なチャンネルリスト内のチャンネル名）を示すポインタを表すオブジェクト。参照は、設計ツールに便利な名前のない文字列で、文字列を他のものと区別することができます。例：

```
<Reference value="UserInfo"/>
```

不可分なプロパティ値は、本文コンテンツとしても指定できます。例：

```
<String name="foo">bar</String>  
<Integer name="aNumber">1</Integer>  
<Boolean name="flag">>false</Boolean>
```

ドキュメントタイプの定義要素の属性

ポータルデスクトップ DTD は、ディスプレイプロファイルとそのプロパティの使用を制御できる要素属性を定義します。135 ページの表 5-1 は、ドキュメントタイプの定義要素の属性を示しています。この表には、最初の列に属性、2 番目の列に簡単な説明、3 番目の列に例が示されます。

表 5-1 ディスプレイプロファイルの属性

属性	定義	例
advanced	<p>true に設定した場合、Sun ONE Identity Server 管理コンソールの「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクでディスプレイプロファイルプロパティを「非表示」にする。ただし、「XML の編集」リンクまたは「XML のダウンロード」リンクを使用する場合は、プロパティは非表示にならない</p> <p>advanced 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性である。デフォルト値は false</p>	<pre><String name="refreshTime" value="0" advanced="true"/></pre>
lock	<p>優先順位の低いドキュメントによって、優先順位の高いドキュメントがマージ操作でディスプレイプロファイルの特定の機能を変更できないようにする。ディスプレイプロファイルオブジェクトがロックされると、優先順位の低いドキュメントによるマージ操作の影響を受けなくなる</p> <p>lock 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性である。デフォルト値は false</p>	<pre><Selected merge="fuse"> ... <Reference value="EmployeeNews" lock="true"/> ... </Selected></pre>

表 5-1 ディスプレイプロファイルの属性 (続き)

属性	定義	例
merge	<p>異なる LDAP ノード (基本 DN、DN、ロール DN) のディスプレイプロファイルドキュメントをマージして単一の表現 (すなわちポータルデスクトップ) を形成する場合に、プロパティの結合方法を制御する</p> <p>許可される値は <code>replace</code>、<code>remove</code>、および <code>fuse</code>。デフォルト値は <code>fuse</code></p> <p>不可分なプロパティ (<code>boolean int</code>、<code>stringv ref</code>) では <code>fuse</code> は無効である</p>	<p><code>replace</code>、<code>remove</code>、<code>fuse</code> の例については、「ディスプレイプロファイルのマージタイプ」を参照</p>
priority	<p>ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を設定する。ディスプレイプロファイルドキュメントは、低い優先順位から高い優先順位の順にマージされる。低い数値は低い優先順位を表す。たとえば、1 は 2 よりも優先順位が低くなる</p> <p>マージ動作により、優先順位が高いドキュメントの値は、優先順位が低いドキュメントの値に優先して適用される (ただし、優先順位の低いドキュメントがオブジェクトのマージをロックしている場合を除く)</p> <p>許可される値は、整数と、キーワード <code>user</code> である。 <code>user</code> は最高の優先順位であり、ユーザーレベルのディスプレイプロファイルドキュメントだけに設定するべきである</p>	<pre><DisplayProfile version="1.0" priority="10"></pre>

表 5-1 ディスプレイプロファイルの属性 (続き)

属性	定義	例
propagate	<p>プロパティがローカル以外に読み出され、ローカルに設定される場合の、プロパティの処理方法を制御する。ブール型、コレクション、整数、文字列、および参照を含むすべてのディスプレイプロファイルプロパティは、propagate 属性に設定できる</p> <p>propagate 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性である。デフォルト値は true</p>	<pre><String name="color" value="blue" propagate="false"/></pre>

ディスプレイプロファイル XML では、属性のデフォルト値を変更しない限り、次の属性は XML ファイルにリストされず、管理コンソールにも表示されません。

```
<advanced="false" lock="false" merge="fuse" propagate="true">
```

デフォルト値がリセットされると、デフォルト値が変更された属性だけが XML ファイルにインクルードされ、管理コンソールに表示されます。デフォルトプロパティはプロバイダから継承されます。デフォルトプロパティが編集されている場合は、カスタマイズされたプロパティとして表示されます。

ディスプレイプロファイルのプロパティの指定

ディスプレイプロファイルプロパティを指定する場合は、プロパティを「ネスト」する方法、コレクションに名前のないプロパティを使用する方法、条件付きプロパティを使用する方法、およびプロパティを伝達する方法を考慮する必要があります。

入れ子のプロパティ

ディスプレイプロファイルには任意の深さまで入れ子にしたプロパティ (プロパティ内のプロパティ) を格納することができます。これによって、文字列のコレクションのコレクションのコレクションや、文字列とコレクションのコレクションなどを作成することができます。たとえば、次に示すのはコレクションのコレクションです。

```
<Collection name="people">
  <Collection name="john">
    <Integer name="age" value="31"/>
    <String name="eyes" value="hazel"/>
  </Collection>
  <Collection name="bob">
    <Integer name="age" value="35"/>
    <String name="eyes" value="blue"/>
  </Collection>
  ... etc ...
</Collection>
```

名前を付けられていないプロパティ

次のような不可分のプロパティのタイプ (ブール型、整数、文字列) は名前が付けられていない場合があります。

```
<String value="apple"/>
```

これは次の値に等しくなります。

```
<String name="apple" value="apple" />
```

つまり、不可分なプロパティが名前を持たない場合、名前はプロパティの文字列値となります。

テーブルではなくコレクションを使用して順序付けられたセット (リストに近い) を表わすことができるので、実用上はコレクション内だけで便利に使用できます。たとえば、次のコレクションは郵便番号のリストを表わします。

```
<Collection name="zipcodes">
  <Integer value="95112"/>
  <Integer value="95054"/>
  <Integer value="98036"/>
</Collection>
```

名前の付けられていないプロパティを使用する場合、テーブル (*name=value*) またはリストをコレクションで表すことができる点が重要です。

注 名前の付けられていないプロパティを、同じコレクション内の別の名前のないプロパティと同じ値で作成しないでください。プロパティは作成されますが、名前が重複しているため、プロバイダは値にアクセスすることができません。

また、Sun ONE Portal Server は名前のないブール型プロパティも同等に同じ名前を持つプロパティとして処理するため、同じコレクション内で名前が重複するプロパティを間違えて作成してしまう場合があります。この場合も、最終的に他の同じ名前を持つプロパティにアクセスできなくなります。

条件付きプロパティ

これは、条件付きプロパティを取得するための汎用処理を提供します。最も一般的な条件は、locale と client ですが、任意の条件にプロパティを定義することができます。詳細は、『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』を参照してください。

たとえば、ロケールフィルタの実装は、次のように定義します。

```
public class LocalePropertiesFilter extends PropertiesFilter
{
    public LocaleProperties() {
        super();
    }
    String getCondition()
    return "locale";
    }
    public boolean match(ProviderContext pc, String condition,
String value) {
    return condition.toLowerCase().equals("locale")    &&
        getValue().equals(value);
    }
}
```

条件付きプロパティの検索には、1つまたは複数のプロパティフィルタが関連します。フィルタリスト内のフィルタが必要な場合は、条件付き検索全体とそのフィルタが一致すれば検索は正常に行われます。フィルタを必要としない場合は、一致しなくても全体的な検索は失敗しません。

必須以外のフィルタの連鎖を使用して、具体性が低いフィルタ検索を段階的に実装することで、Java リソースバンドル検索と似た操作を実行できます。たとえば、ロケール検索の後に日付検索を行う場合は、オプションフィルタが便利です。{locale=en, locale=US, date=03/03/2003} というフィルタがある場合、フィルタの仕様と完全に一致するわけではありませんが、修飾子 {locale=en; date=03/03/2003} でプロパティと一致させることができます。これは、ロケールフィルタをオプションとして設定することで行われます。

管理コンソールでは、条件付きプロパティは condition-value として表示され、コレクションと同様に編集できます。条件付きプロパティは、入れ子にすることができ、チャンネルまたは別の条件付きプロパティに追加することができます。新しい条件付きプロパティを追加するときは、「新規プロパティ」ページを使用します。

<ConditionalProperties> タグ

フィルタリング条件を定義するときは、<ConditionalProperties> タグを使用する必要があります。このタグには、次の必須属性が含まれます。

- condition: フィルタに適用する条件を指定する
- value: フィルタに適用する値を指定する

ディスプレイプロファイルでは、[140 ページのコード例 5-1](#) で説明する方法で <ConditionalProperties> タグを定義できます。

コード例 5-1 <ConditionalProperties> タグの使用例

```
<Properties>
  <String name="foo" value="bar">
  <ConditionalProperties condition="locale" value="de">
    <String name="foo" value="german bar">
    <String name="baz" value="a german baz value">
  </ConditionalProperties>
  <ConditionalProperties condition="client" value="nokia">
    <ConditionalProperties condition="locale" value="de">
      <String name="foo" value="nokia german bar">
    </ConditionalProperties>
  </ConditionalProperties>
</Properties>
```

ディスプレイプロファイルのプロパティの伝達

ブール型、コレクション、整数、文字列、および参照を含むすべてのディスプレイプロファイルプロパティには、propagate 属性のマークを付けることができます。

propagate 属性は、値に true または false をとることができるブール型の属性です (デフォルトは true)。propagate 属性は、プロパティがローカル以外に読み出され、ローカルに設定される場合の、プロパティの処理方法を制御します。

たとえば、チャンネルのプロパティセットは、次のすべてに該当するプロパティから構成されます。

- チャンネルのプロパティ (<Properties>) バッグにローカルに存在するプロパティのセット
- チャンネルのプロバイダ (チャンネルで provider 属性によって指定されます) にローカルに存在するプロパティのセット
- チャンネルの各祖先チャンネル (チャンネルの親、チャンネルの親の親、など) にローカルに存在するプロパティのセット
- チャンネルの各祖先チャンネルプロバイダ (チャンネルの親プロバイダ、チャンネルの親の親プロバイダ、など) にローカルに存在するプロパティのセット
- ディスプレイプロファイルルートオブジェクトの下に存在するグローバルプロパティのセット

チャンネルがプロパティ値を要求すると、値はこれらの「リモート」の場所のいずれかから読み出されます。プロパティ値が設定されている場合、プロパティ値を格納する場所は 2 つのオプションから選択できます。

1. チャンネルのプロパティバッグ
2. リモートロケーション

propagate 属性は場所を制御します。propagate 属性を true に設定すると、プロパティはプロパティを設定するオブジェクトのローカルに保存されます (ほとんどの場合はチャンネル)。propagate 属性を false に設定すると、プロパティは所定の位置 (読み出された場所) に設定されます。すなわち、false に設定された場合、既存の値は変更されますが、true に設定された場合、新規プロパティがローカルに作成されて保存されます (すでにローカルになっている場合を除く)。

次のディスプレイプロファイル XML コード例を考えてみます。

```
<DisplayProfile>
  <Properties>
    <String name="color" value="blue"/>
  </Properties>
  ...
  <Channel name="testchannel" provider="..."/>
  <Properties/>
</Channel>
...
</DisplayProfile>
```

プロパティ color はグローバルプロパティバッグに存在します。propagate は設定されていないため (またデフォルトは true であるため)、チャンネル testchannel でプロパティ color が設定されると、次のような結果になります。

```
<DisplayProfile>
  <Properties>
    <String name="color" value="blue"/>
  </Properties>
  ...
  <Channel name="testchannel" provider="..."/>
  <Properties/>
    <String name="color" value="new value"/>
  </Channel>
  ...
</DisplayProfile>
```

プロパティは、これを設定したローカルオブジェクト (チャンネル) に伝達されます。一方、グローバルプロパティバッグなどで propagate が false に設定されていると、次のようになります。

```
<String name="color" value="blue" propagate="false"/>
```

チャンネル testchannel の設定プロパティ color の結果は次のようになります。

```
<DisplayProfile>
  <Properties propagate="false">
    <String name="color" value="new value"/>
  </Properties>
  ...
  <Channel name="testchannel" provider="..."/>
  <Properties/>
</Channel>
...
</DisplayProfile>
```

個々のプロパティの他に、プロパティバッグにも次のように `propagate` 属性を指定できます。

```
<Properties propagate="false">
  ...
</Properties>
```

プロパティが `propagate=false` と見なされる場合、以下は真である必要があります。

- プロパティの `propagate` 属性が `false` であるか、プロパティのプロパティバッグの `propagate` 属性が `false` である
- プロパティのすべてのマージ結果について、上記の文は真である

その他の場合は、`propagate` は `true` と見なされます。

最上位のプロパティにのみ `propagate` 属性を表記することができます。ディスプレイプロファイル DTD ではこのような表記が可能ですが、ディスプレイプロファイルコードはこれを無視します。最上位のプロパティは、プロパティバッグ内に直接定義されます。

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位

実行時に、ユーザーがログインすると、システムはユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントセットを構成するドキュメントセットを決定します。デスクトップにおけるディスプレイプロファイルの内部実装 (ディスプレイプロファイルを解釈する部分) では、ユーザーが所属する LDAP ノードすべてを検索して、このドキュメントセットを決定します。これには、組織 DN (o=sesta.com)、サブ組織、ロール DN (cn=Role1,o=sesta.com)、uid (uid=jtb,ou=People,cn=Role1,o=sesta.com)、およびグローバルディスプレイプロファイルが含まれます。これらの LDAP ノードとグローバルディスプレイプロファイルのそれぞれのディスプレイプロファイルドキュメントが読み込まれ (ドキュメントが存在する場合)、すべてのドキュメントが1つにまとめられます。システムはドキュメントの優先順位に従って、このセットをソートします。低い数値は低い優先順位を表します。たとえば、1は2よりも優先順位が低くなります。ドキュメントは低い数値から高い数値の順にソートされます。このプロセスについての詳細は、「[マージプロセスの仕組み](#)」を参照してください。

ユーザーレベルドキュメント (uid=jtb,ou=People,...) はベースドキュメントと呼ばれる特殊な例です。ベースドキュメントは優先順位が無限大であると考えてください。したがって常に最高位の数値 (および最高の優先順位) になります。すべてのマージ結果は、ソート順でベースドキュメントと関連付けられ、ユーザードキュメントの優先順位の設定は常に最高位になります。<DisplayProfile> タグで使用される priority 属性は特殊なキーワード user を使用して、現在のディスプレイプロファイルがユーザーレベルのディスプレイプロファイルであることを示します。

マージは、もともと優先順位の低いドキュメント (もともと低い数値) から開始され、ユーザー (ベース) ドキュメントに達するまで、優先順位の数値を増加させながら処理されます。

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位が実際に意味するのは、重要なのは優先順位の数値であることです。たとえば、組織レベルのドキュメントの優先順位をロールレベルのドキュメントよりも高くできますが、必ずしもそのようにする必要はありません。優先順位の設定は、自分のサイトでこのようなドキュメントをどのような優先順位に設定する必要があるかによります。

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は、XML ファイルに <DisplayProfile priority=syntax> タグを使用して指定します。優先順位は Sun ONE Identity Server 管理コンソールまたは dpadmin コマンドを使用して直接ディスプレイプロファイル XML を編集し、ディスプレイプロファイルをロードして変更します。dpadmin コマンドについては、[第 14 章「コマンドラインユーティリティ」](#)を参照してください。

注 2つのディスプレイプロファイルドキュメントに同じ優先順位を割り当てないでください。デスクトップが適切に表示されなくなります。ただし、製品はドキュメントの優先順位の重複をチェックしません。

ドキュメントの優先順位の例 1

次の例では2つのディスプレイプロファイルを使用しています。1つは組織の acme、もう一つは uid の bill に使用します。Bill (uid=bill) がデスクトップにログインすると、ブックマークチャンネル「Bill's Bookmarks」が次の3つのブックマーク (次の順序で) と共に表示されます。

- ACME
- Amazon
- EBay

```
display profile @ o=acme.com
<DisplayProfile version="1.0" priority="10">
...
  <Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider" merge="fuse">
    <Properties>
      <String name="title" value="My Bookmarks" merge="replace" lock="false"
propagate="true"/>
      <String name="refreshTime" value="600" merge="replace" lock="false"
propagate="true"/>
      <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false"
propagate="true">
        <String value="ACME home page|http://www.acme.com" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
      </Collection>
    </Properties>
  </Channel>
...
</DisplayProfile>
```

```

dp @ uid=bill,ou=people,o=acme.com
<DisplayProfile version="1.0" priority="1">
...
  <Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider" merge="fuse">
    <Properties>
      <String name="title" value="Bill's Bookmarks" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
      <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false" propagate="true">
        <String value="Amazon|http://www.amazon.com" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
        <String value="EBay|http://www.ebay.com" merge="replace"
lock="false" propagate="true"/>
      </Collection>
    </Properties>
  </Channel>
...
</DisplayProfile>

```

ドキュメントの優先順位の例 2

次の例では、グローバルディスプレイプロファイル、組織 acme のディスプレイプロファイル、およびロール hradmin のディスプレイプロファイルという 3 つのディスプレイプロファイルを使用します。hradmin ロールに割り当てられたユーザーがデスクトップにログインすると、TemplateTableContainer が次のチャネルとともに表示されます。

- UserInfo
- MailCheck
- SampleSimpleWebService

```

dp @ global:
<DisplayProfile version="1.0" priority="0">
...
  <Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
    <Properties>
      ...
    </Properties>
    <Available>
      ...
    </Available>
    <Selected merge="fuse" lock="false">
      <Reference value="UserInfo"/>
    </Selected>
    <Channels/>
  </Container>
...
</DisplayProfile>

```

```
dp @ o=acme.com:
<DisplayProfile version="1.0" priority="10">
  ...
  <Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties>
    ...
  </Properties>
  <Available>
    ...
  </Available>
  <Selected merge="replace" lock="false">
    <Reference value="Bookmark"/>
    <Reference value="Notes"/>
  </Selected>
  <Channels/>
</Container>
  ...
</DisplayProfile>
```

```
dp @ cn=hradmin,o=acme.com:
<DisplayProfile version="1.0" priority="5">
  ...
  <Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties>
    ...
  </Properties>
  <Available>
  <Selected merge="fuse" lock="true">
    <Reference value="MailCheck"/>
    <Reference value="SampleSimpleWebService"/>
  </Selected>
  <Channels/>
</Container>
  ...
</DisplayProfile>
```

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位設定の要約

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は、定義要因にマージ順序を考慮するか、ロック機能を考慮するかによって低くなったり高くなったりします。

ロックを考慮しない場合、低い数値のディスプレイプロファイルドキュメントは優先順位が低くなります。低い数値のディスプレイプロファイルドキュメントは最初にマージされるので、優先順位が低いドキュメントの値は優先順位が高いドキュメントの値で上書きされてしまいます。低い数値のドキュメントは優先順位が低くなります。

ただし、高い数値のドキュメントによる影響を受けないように、低い数値のディスプレイプロファイルドキュメントはオブジェクトをロックできます。この場合、低い数値のドキュメントは優先順位が高くなります。

ディスプレイプロファイルのマージ動作

ディスプレイプロファイルは、XML ドキュメント階層から構成されます。Sun ONE Portal Server はユーザー用のディスプレイプロファイルドキュメント、ユーザーが所属する各ロール、およびユーザーの組織やサブ組織を格納できます。実行時に、システムはこれらの複数のディスプレイプロファイルドキュメントをマージして、特定のポータルデスクトップをユーザーに配信します。このディスプレイプロファイルドキュメントのマージプロセスは、チャンネル、プロバイダ、プロパティ定義を変更する可能性があるため、最終的なディスプレイプロファイルに影響します。

ディスプレイプロファイルデータ形式には、これらのドキュメントの結合方法を定義する構文が収められています。この定義は、一般にマージ動作として知られています。

マージ動作は、異なる LDAP ノード (基本 DN、DN、ロール DN) のディスプレイプロファイルドキュメントをマージして単一の表現 (すなわちデスクトップ) を形成する場合に、属性の結合方法を制御します。マージ動作はディスプレイプロファイルドキュメントの順序付けを想定しています。Sun ONE Identity Server は、ロールの階層構造には対応していません。このため、ユーザーのロール構造は平坦です。すべてのロールは同位です。このため、Sun ONE Portal Server は Sun ONE Identity Server のロールに対して、階層構造をシミュレートするように追加の順序付けを行います。

ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントセットは、以下のドキュメントから構成されます。ユーザーの LDAP 組織およびサブ組織ノードに存在するドキュメント、ユーザーの各ロールノードに存在するドキュメント、ユーザーのエントリノードに存在するドキュメント。これらのノードのそれぞれにドキュメントを定義する必要はありませんが、ノードには少なくとも1つのドキュメントが定義されている必要があります。ドキュメントセットは、ディスプレイプロファイルドキュメントが定義する優先順位の値に従って格納されます。詳細は、「[ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位](#)」を参照してください。

ディスプレイプロファイルドキュメントが順に積み重ねられるドキュメントのマージプロセスは、視覚化することができます。マージは名前の付いたチャンネル、プロパティ、プロパティなどが重なり合う場所で起こります。マージはディスプレイプロファイルドキュメントで定義される XML 構造ではなく、ディスプレイプロファイルオブジェクトの名前に基づきます。名前の付いたチャンネルなどは、マージされるディスプレイプロファイルの格納階層内の異なるコンテナに存在できます。

マージプロセスの仕組み

ユーザーが Sun ONE Portal Server にログインし、認証が行われた後、システムは次の方法でユーザーのディスプレイプロファイルを判断します。

1. グローバルディスプレイプロファイル、およびユーザーが所属する組織、サブ組織、ロール、ユーザーの LDAP ノードを検索し、そのユーザーのすべてのディスプレイプロファイルドキュメントを探します。
2. 検索したディスプレイプロファイルドキュメントを一時領域に配置し、それをバッグとして視覚的に表示します。
3. 優先順位に基づいてバッグのディスプレイプロファイルドキュメントを最下位から順にソートします。(ドキュメントを検索するノードは優先順のソートに影響しません。また、ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントは常に最上位の順序になります。)
4. 最下位から順にバッグからドキュメントを取り出し、そのドキュメントの上に 1 つ上の順位のドキュメントを置き、マージとロック動作を適用します。
5. すべてのドキュメントがバッグから取り出されるまで手順 4 を繰り返し、ドキュメント内で見つかったすべてのオブジェクトのマージに等しい値がシステムからユーザーに返されるようにします。

ディスプレイプロファイルのマージタイプ

ディスプレイプロファイルは次の3種類のマージを使用して、ディスプレイプロファイルドキュメントの結合方式を決定します。

- **replace** : 優先順位の高いドキュメントで定義されたすべてのディスプレイプロファイルオブジェクトが低い順位のドキュメントで定義されたオブジェクトを完全に上書きする。優先順位の低いドキュメントにオブジェクトが存在しない場合、オブジェクトはマージ結果に追加される (マージ結果の値はオブジェクトによって置き換えられる)
- **remove** : 名前が付けられたオブジェクトは、このポイントまでマージ結果から削除される (マージ結果からオブジェクトが削除される)。これは、ディスプレイプロファイルに存在しなくなる (ただし、マージされる別のドキュメントによって持ち込まれる可能性はある)。これは、優先順位の高いドキュメントで再定義できる
- **fuse** : 優先順位が低いドキュメントからのオブジェクトと、優先順位が高いドキュメントからのオブジェクトが組み合わせられる (オブジェクトは、マージ結果の値とマージされる)

注 各マージタイプの正確な意味は、適用されるディスプレイプロファイルオブジェクトにより異なります。

チャンネルとプロバイダについては、**fuse** は特別な意味を持ちます。チャンネルそのものは、実際には融合されません。その代わりに、**fuse** はチャンネルまたはプロバイダのプロパティを結合する必要があることを指示します。**replace** 動作は、すべてのプロパティを含むチャンネルまたはプロバイダ全体を置換します。**remove** 動作は、そのポイントまでチャンネルまたはプロバイダ全体をマージから削除します。

ディスプレイプロファイル `<DisplayProfile> root` ノードもマージ動作を持つことができます。**replace** 動作は、優先順位の高いドキュメントで定義されたすべての DP オブジェクトにより、優先順位の低いドキュメントで定義されたオブジェクトを完全に上書きすることを意味します。そのポイントまでのすべてのマージは無効になり、順位の高いドキュメントがマージの新しい基準として使用されます。**remove** 動作は、そのドキュメントのポイントまでのすべてのマージ結果が破棄されることを示します。マージはソートされたディスプレイプロファイルドキュメントセットの次のドキュメントから開始されます。チャンネルおよびプロバイダと同様に、**fuse** 動作はセット内のオブジェクト (チャンネルとプロバイダ) を結合する必要があることを意味します。

不可分のディスプレイプロファイルプロパティ (他のプロパティを格納できないプロパティ) は、**fuse** 動作を使用できません。これには文字列、整数、ブール型、参照の各プロパティが含まれます。

チャンネルのプロパティセットは、チャンネルのプロパティとチャンネルのプロバイダのプロパティ、およびチャンネルの親のプロパティなどから構成されます。プロパティ全体は、チャンネルの単一のドキュメントプロパティと考えることができます。ドキュメントのマージとは、あるドキュメントの全プロパティセットが、チャンネルの各ドキュメントのプロパティを結合したものから構成され、それらのプロパティはユーザーのマージセットのすべてのドキュメントで使用されていることを意味します。

remove の例 : remove マージによるコンテナの選択チャンネルリストの修正

次の例は、すべてのユーザーのマージセットが、次のディスプレイプロファイルコード例を持つ組織レベルのドキュメントからどのように構成されるかを示します。

```
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ...</Properties>

  <Available> ...</Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="UnixTipoftheDay"/>
  </Selected>
</Container>
```

「unix tip of the day」は、UNIX の使い方を説明しています。管理ロールに所属するユーザーは、このチャンネルがあまり有効ではないことに気が付いているようです。管理ロールを持つすべてのユーザーからこのチャンネルを削除するために、次のように管理ロールドキュメントで TemplateTableContainer チャンネルを定義します。

```
admin role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ...</Properties>

  <Available> ...</Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Outages"/>
    <Reference value="SolarisAdmin"/>
    <Reference value="AdminTipoftheDay"/>
    <Reference value="UnixTipoftheDay" merge="remove"/>
  </Selected>
</Container>
```

上記のサンプルでは `Reference value="UnixTipoftheDay"` は管理ロールディスプレイプロファイルから削除されます。

replace の例 : replace マージによるすべてのユーザーの表示からのチャンネルの削除

次の例は、特定のコンテナについて、ロール管理が組織レベルで定義されたすべてのチャンネルを無効にする方法を示しています。組織定義は次のようになります。

```
organization display profile
<Container name=...>
  ...
  ...
  <Selected>
    <Reference name="X"/>
    <Reference name="Y"/>
    <Reference name="Z"/>
  </Selected>
</Container>
```

ロール管理者はそのロールが割り当てられたどのユーザーにも X、Y、Z チャンネルを使用させたくないため、コンテナを次のように定義します。

```
admin role
<Container name=...>
  ...
  ...
  <Selected merge="replace">
    <Reference name="A"/>
    <Reference name="B"/>
    <Reference name="C"/>
  </Selected>
</Container>
```

ワールドキュメントのコンテナで選択されたリストは、組織のドキュメントのコンテナで選択されたリストと置換されます。

fuse の例 : fuse マージによるロールベースのチャンネルリストの作成

通常は fuse マージ動作を使用して、不可分でないディスプレイプロファイルオブジェクトを結合します。これらのオブジェクトには collection と使用可能なチャンネルリストまたは選択されたチャンネルリストが含まれます。ここでは、fuse は不可分でないプロパティに格納されたすべてのプロパティもマージする必要があることを示しています。このように fuse を使用することで、ユーザーに最終的に表示される不可分でないプロパティを、さまざまなドキュメントから構築することができます。

次の例のディスプレイプロファイルドキュメントは、管理、従業員、および movieFreak ロールに所属するユーザーに使用されます。最後に、ユーザーに選択されたチャンネルが表示されます。

```
admin role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ...</Properties>

  <Available> ...</Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Outages"/>
    <Reference value="SolarisAdmin"/>
    <Reference value="AdminTipoftheDay"/>
  </Selected>
</Container>
```

```
employee role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ...</Properties>

  <Available> ...</Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Benefits"/>
    <Reference value="EmployeeNews"/>
  </Selected>
</Container>
```

```
movieFreak role
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ...</Properties>

  <Available> ...</Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="NewMoviesReleases"/>
    <Reference value="MovieShowTimes"/>
  </Selected>
</Container>
```

ユーザーに選択されたチャンネルの最終的なリストは次に示すとおりです。使用可能なチャンネルリストは、マージの適用順序と同様に、優先順位が低いものから高いものの順に並べられます。

```
<Container name="TemplateTableContainer"
provider="TemplateTableContainerProvider" merge="fuse">
  <Properties> ...</Properties>

  <Available> ...</Available>
  <Selected merge="fuse">
    <Reference value="Outages"/>
    <Reference value="SolarisAdmin"/>
    <Reference value="AdminTipoftheDay"/>
    <Reference value="Benefits"/>
    <Reference value="EmployeeNews"/>
    <Reference value="NewMoviesReleases"/>
    <Reference value="MovieShowTimes"/>
  </Selected>
</Container>
```

マージロック

マージ可能なすべてのディスプレイプロファイルオブジェクトは、ロックすることもできます。オブジェクトをロックすると、そのオブジェクトは優先順位が高いドキュメントのマージ動作の影響を受けなくなります。これにより、優先順位の低いドキュメントでは、特定のディスプレイプロファイルが、優先順位の高いドキュメントのマージ動作によって変更されることを防ぐことができます。

マージロックの例 : lock マージによるすべてのユーザーに対するプロパティ値の強制

次の例は、特定の組織のすべてのユーザーに「employee news」チャンネルを表示する方法を示しています。ユーザーはこのチャンネルを表示から削除できません。組織レベルのドキュメントで、コンテナのチャンネルで選択されるリストは次のように定義されます。

```
<Selected merge="fuse">
  ...
  <Reference value="EmployeeNews" lock="true"/>
  ...
</Selected>
```

マージロックの例 : lock マージによるすべてのユーザー表示からのチャンネルの強制削除

次の例は、「online games」チャンネルを強制的に削除する方法を示しています。このシナリオでは、ユーザーが各ユーザードキュメントの選択したチャンネルリストにこのチャンネルを追加していた場合、組織レベルのドキュメントの選択したチャンネルリストからチャンネルを削除するだけでは機能しません。従業員と組織のリストを統合すると、「online games」チャンネルが表示されます。組織内のすべてのユーザーからチャンネルを強制的に削除するには、選択したチャンネルリストを次のように定義します。

```
<Selected merge="fuse">
  ...
  <Reference value="OnlineGames" merge="remove" lock="true"/>
  ...
</Selected>
```

remove 動作はマージされた結果からチャンネルを削除し、lock は優先順位の低いドキュメントの値がマージされるのを防ぎます。

ディスプレイプロファイルと Sun ONE Identity Server

ユーザーのディスプレイプロファイルドキュメントセットは、以下のドキュメントから構成されます。

- ユーザーの LDAP 組織 (またはサブ組織) ノードに存在するドキュメント
- 各ユーザーのロールノードに存在するドキュメント
- ユーザーのエントリノードに存在するドキュメント
- グローバルディスプレイプロファイルに存在するドキュメント

これらのノードのそれぞれにドキュメントを定義する必要はありませんが、ノードには少なくとも1つのドキュメントが定義されている必要があります。ドキュメントセットは、ディスプレイプロファイルドキュメントが定義する優先順位の値に従ってソートされます。詳細は、「[ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位](#)」を参照してください。マージ動作は、異なるノードのディスプレイプロファイルドキュメントをマージして単一の表示またはデスクトップを形成する場合に、属性を結合する方式を制御します。詳細は、「[ディスプレイプロファイルのマージ動作](#)」を参照してください。

管理者は Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用してディスプレイプロファイルを編集できます。Sun ONE Identity Server 管理コンソールでは、ディスプレイプロファイルが表示されないように、委任された管理者を設定することができます。この設定は、デスクトップサービステンプレートを作成する場合に行います。デスクトップサービスのテンプレートを作成するときに、「ポータルデスクトップサービスの属性を表示」ボックスにチェックマークを付けなければ、委任された管理者にディスプレイプロファイルテキストは表示されません。

ヒント

組織の管理者は、ポータルデスクトップサービスを通じて特定のロールと関連付けられたコンテナ (またはコンテナ階層) を定義できます。この場合、委任された管理者 (ロール管理者) は、「ポータルデスクトップ」属性ページの「チャンネルおよびコンテナ管理」リンクを通じて、このコンテナ内に必要なチャンネルとコンテナを定義できます。詳細は、「[チャンネルおよびコンテナ管理リンクを使用したチャンネルの管理](#)」を参照してください。

ディスプレイプロファイルの管理

ディスプレイプロファイルと、その他のポータルデスクトップサービスのデータは、Sun ONE Identity Server 管理コンソールと `dpadmin` コマンドを利用して編集します。ディスプレイプロファイルを編集するときは、ディスプレイプロファイルのプロバイダ、コンテナ、およびチャンネルを追加、修正、削除し、プロパティを編集します。

また、Sun ONE Identity Server 管理コンソールは、チャンネルを追加し、既存のプロパティを編集するための「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクをポータルデスクトップ属性ページに表示します。このリンクを使用すると、チャンネルを新規に作成したときに、プロパティを修正することもできます。

注 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクは委任された管理者に合わせて調整され、管理者がコンテナおよびチャンネルの属性をこのリンクで追加および修正できます。システム全体の管理者は、委任された管理者が使用できるコンテナおよびプロバイダを追加することに対して責任を持つ必要があります。

158 ページの表 5-2 は、ディスプレイプロファイルの各タイプと、Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用してそれを管理する方法を示しています。この 3 列の表では、最初の列はディスプレイプロファイルのタイプ、2 番目の列は Sun ONE Identity Server を使用してそのディスプレイプロファイルにアクセスする方法、3 番目の列は簡単な説明を示します。

表 5-2 ディスプレイプロファイルドキュメントのタイプ

ディスプレイプロファイルドキュメントのタイプ	Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して表示する方法	説明
グローバルディスプレイプロファイルドキュメント	「サービス設定」を選択する。「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印をクリックする。「デスクトップグローバル属性」セクションで、「XML の編集」をクリックする	システムのすべてのユーザーに継承されるディスプレイプロファイル要素を、所属する組織やロールとは関係なく定義する（現在は実施してはなくても、全員が使用する共通プロバイダを定義するために、ディスプレイプロファイルの XML ドキュメントを表示する必要が発生することもある）

表 5-2 ディスプレイプロファイルドキュメントのタイプ (続き)

ディスプレイプロファイルドキュメントのタイプ	Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して表示する方法	説明
ダイナミックディスプレイプロファイルドキュメント	「サービス設定」を選択する。「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印をクリックする。「デスクトップダイナミック属性」セクションで、「XML の編集」をクリックする	コンテナ管理とチャンネルのプロパティを説明する。このディスプレイプロファイルは、実行時にユーザーのデスクトップの生成には使用されないが、新規に作成された各組織およびロールのデフォルトになる。デフォルトでは、ダイナミックディスプレイプロファイルドキュメントは空白である。ダイナミックディスプレイプロファイルを使用するには、まずそれを実装する必要がある
組織、サブ組織、またはロールのディスプレイプロファイル	「ユーザー設定」を選択する。適切な組織、サブ組織を選択し、必要に応じて「表示」メニューから「ロール」を選択する。「表示」メニューから「サービス」を選択する。「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印をクリックする。デスクトップページで、「XML の編集」をクリックする	<p>選択した組織、サブ組織、またはロールのディスプレイプロファイルを表示する。組織、サブ組織、ロールを新規作成した場合は、このエンティティのテンプレートを作成する。デスクトップサービスにテンプレートを作成する場合は、初期のディスプレイプロファイルは上記に述べたダイナミックディスプレイプロファイルドキュメントに設定される。このため、ダイナミックディスプレイプロファイルが空白の場合は、何も指定されていない</p> <p>ほとんどの場合、このディスプレイプロファイルドキュメントを使用して、コンテナ管理とチャンネルのプロパティを異なる組織およびロールのニーズに合わせてカスタマイズする</p>

Sun ONE Portal Server をインストールするときに、最初の組織を作成します。次にインストーラがディスプレイプロファイルグローバルレベルのドキュメントをインポートし、指定した内容に基づいてデフォルトのディスプレイプロファイルをインポートします。

その後、組織、サブ組織、またはロールを新規に作成しても、ディスプレイプロファイルは毎回自動的にロードされません。新規に作成された組織、サブ組織、またはロールについてディスプレイプロファイルを手動でロードする必要があります。詳細は、「[ディスプレイプロファイルをロードするには \(管理コンソール\)](#)」を参照してください。

ディスプレイプロファイルを管理するための手順の概要は、次のとおりです。

1. 新規に作成された組織、サブ組織、ロールのディスプレイプロファイルをロードします。(インストールプロセスの間に作成される組織については、この手順を実行する必要はありません。)
2. dpadmin コマンドや「XML の編集」リンクを使用するか、または「XML のダウンロード」と「XML のアップロード」リンクを使用して保存およびロードされたファイルとしてディスプレイプロファイルを修正します。
3. チャンネルとコンテナを追加して、「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを使用してそれらのプロパティを追加、削除、修正します。

デフォルトのディスプレイプロファイルドキュメント

表 5-3 は、サンプルポータルインストール時に Sun ONE Portal Server デスクトップが /opt/SUNWps/samples/portal_desktop ディレクトリに格納するディスプレイプロファイルドキュメントを示しています。次の 2 列の表では、最初の列はディスプレイプロファイルドキュメント、2 番目の列はその説明を示します。

表 5-3 サンプルポータルで提供されるディスプレイプロファイルドキュメント

ディスプレイプロファイルドキュメント	説明
dp-anon.xml	認証なし匿名ユーザーによって使用される
dp-org.xml	デフォルトの組織レベルでロードされるサンプルディスプレイプロファイル。組織で使用される組織とチャンネルの定義のためのグローバルプロパティをすべて定義する
dp-org-final.xml	dp-org.xml のコピーと、ブックマークとアプリケーションのチャンネルで定義される NetMail リンク。このディスプレイプロファイルドキュメントは、NetMail サービスが作成されるときに使用される
dp-providers.xml	グローバルディスプレイプロファイルレベルでロードされるサンプルディスプレイプロファイル。このドキュメントは、すべてのプロバイダ定義を定義する。これらのプロバイダはすべての組織で使用されるため、システムは最上位でこのディスプレイプロファイルをロードし、すべての組織がそれらのプロバイダを使用できる。プロバイダ定義が 1 つの組織でのみ使用される場合、その組織レベルのディスプレイプロファイルでプロバイダを定義する

これらのサンプルディスプレイプロファイルのカスタマイズについては、『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』を参照してください。

ディスプレイプロファイルのロード

Sun ONE Portal Server を最初にインストールすると、インストーラが最初の組織を作成します。また、インストーラがディスプレイプロファイルグローバルレベルのドキュメントをインポートし、指定した内容に基づいてデフォルトのディスプレイプロファイルをインポートします。サンプルポータルをインストールしない場合、サンプルディスプレイプロファイルドキュメントはインストールされません。

その後、組織、サブ組織、またはロールを新規に作成したときに、ディスプレイプロファイルは自動的にロードされません。新規に作成された組織、サブ組織、またはロールについてディスプレイプロファイルを手動でロードする必要があります。

ディスプレイプロファイルのロードには、基本的に3つの方法があります。

- Sun ONE Identity Server 管理コンソールの「XML の編集」リンクを使用する。この方法では、「XML の編集」リンクと組織の既存のディスプレイプロファイルを使用する。このディスプレイプロファイルを、新規に作成した組織、サブ組織、またはロールの空のディスプレイプロファイルにコピーアンドペーストする。「[ディスプレイプロファイルをロードするには \(管理コンソール\)](#)」を参照
- コマンドラインを使用する。この方法では、dpadmin コマンドを使用してディスプレイプロファイルをロードする。「[ディスプレイプロファイルをロードするには \(コマンドライン\)](#)」を参照。dpadmin コマンドを使用する前に、「[dpadmin コマンドの使用に関するガイドライン](#)」を参照すること
- Sun ONE Identity Server 管理コンソールの「XML のダウンロード」リンクと「XML のアップロード」リンクを使用する。この方法では、ディスプレイプロファイルをファイルにダウンロードし、ファイルからディスプレイプロファイルをアップロードする。「[ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードするには](#)」を参照

注 Netscape 4.x ブラウザを使用している場合は、管理コンソールから直接ディスプレイプロファイルのXMLを編集できません。

ディスプレイプロファイルをロードするには (管理コンソール)

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ディスプレイプロファイルをコピーする組織またはサブ組織を選択します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
データパネルにポータルデスクトップの属性が表示されます。

ヒント デスクトップサービスが表示されるまで、スクロールが必要なこともあります。

5. ディスプレイプロファイルをコピーします。
「XML の編集」をクリックして、ディスプレイプロファイルのテキスト全体を選択してコピーします。
6. ディスプレイプロファイルをロードする組織、サブ組織、またはロールを選択します。
7. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
8. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
ディスプレイプロファイル XML を含む、ポータルデスクトップサービス属性の一覧がデータパネルに表示されます。
9. 「XML の編集」をクリックします。
ディスプレイプロファイルの XML ドキュメントがテキストウィンドウに表示されます。
10. コピーしたディスプレイプロファイルをディスプレイプロファイルウィンドウにペーストします。
11. 完了したら、「保存」を選択します。
この変更は、特定の組織内のユーザーだけに反映されます。

ディスプレイプロファイルをロードするには (コマンドライン)

ディスプレイプロファイルをロードする場合は、dpadmin コマンドの modify サブコマンドを使用します。

たとえば、次のコマンドはディスプレイプロファイル (dp-org.xml) をロードします。

```
dpadmin add -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" dp-org.xml
```

注 -r または --dryrun オプションをファイル名の前のコマンドの最後に追加すると、実際に変更内容を LDAP に書き込む前に、コマンドが成功するかどうかを確認できます。

ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードするには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ディスプレイプロファイルをコピーする組織またはサブ組織を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
データパネルにポータルデスクトップの属性が表示されます。

ヒント デスクトップサービスが表示されるまで、スクロールが必要なこともあります。

5. 「グローバル属性」セクションの「XMLのダウンロード」をクリックして、ファイルにディスプレイプロファイルを保存します。
6. ディスプレイプロファイルをアップロードする組織、サブ組織、またはロールをナビゲーションパネルで選択します。
7. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
8. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
9. 「XMLのアップロード」をクリックして、ロードするファイルを指定します。
10. 「アップロード」をクリックします。
ディスプレイプロファイルのアップロードの完了を示すメッセージが表示されます。
11. 「閉じる」をクリックします。
この変更は、特定の組織内のユーザーだけに反映されます。

ディスプレイプロファイル全体を表示するには

- `dpadmin list` コマンドと `list` サブコマンドを次のように実行して、ディスプレイプロファイル全体を表示します。

```
dpadmin list -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp"
```

ディスプレイプロファイルを削除するには

破損した場合など、何らかの理由でディスプレイプロファイルを削除する必要がある場合は、`dpadmin` コマンドと `remove` サブコマンドを使用します。

たとえば、ルートからディスプレイプロファイル (`dp-org.xml`) 全体を削除する場合、次のように指定します。

```
dpadmin remove -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -t root
```

ルートから、またはディスプレイプロファイルが必要なノードからディスプレイプロファイルを削除する場合、新しいディスプレイプロファイルをロードする必要があります。たとえば、上記のように `dp-org.xml` ディスプレイプロファイルを削除した場合、`dp-org-final.xml` ディスプレイプロファイルのように類似した別のディスプレイプロファイルをロードする必要があります。ディスプレイプロファイルのロードについては、「[ディスプレイプロファイルをロードするには \(コマンドライン\)](#)」を参照してください。

チャネルおよびコンテナ管理リンクを使用したチャネルの管理

管理は「[チャネルおよびコンテナの管理](#)」リンクを使用して行います。

- プロパティ: グローバルディスプレイプロファイルのプロパティを定義および追加できる
- コンテナ: コンテナのコンテンツコンテナを追加または削除できる。また、コンテンツコンテナのプロパティを修正することもできる
- チャネル: コンテナのチャネルを追加または削除できる
- チャネルのプロパティを修正することもできる

注 現在、「[チャネルおよびコンテナの管理](#)」リンクを使用して、チャネルとコンテナ、およびそれらのプロパティを操作することができます。このリンクでプロバイダの操作は実行できません。

デスクトップの属性ページを使用する場合、委任された管理者には「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクのみが表示されます。他のすべてのディスプレイプロファイルの属性は非表示になっているので安全です。

チャンネルとコンテナ管理のデフォルトプロバイダ

「デスクトップ」の「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクには、コンテナチャンネルまたはコンテンツチャンネルを追加または削除ができる管理画面が表示されます。

チャンネルの追加

「チャンネル」リストの「追加」リンクを使用して、定義されているコンテンツプロバイダのリストからコンテンツプロバイダを選択し、それを追加することができます。165ページの表 5-4 は、新規チャンネルの作成時に基本として使用できるプロバイダチャンネルを示しています。この表では、最初の列はプロバイダ名、2 番目の列はその簡単な説明を示します。定義されているコンテンツプロバイダについては、『Sun ONE Portal Server Desktop Customization Guide』を参照してください。

表 5-4 定義されているプロバイダチャンネル

プロバイダ	説明
AppProvider	Web アプリケーションにリンクのリストを表示する (ユーザーはこのリストをカスタマイズできる)
BookmarkProvider	ポータルページに表示されるブックマークのリストをユーザーが管理できる
JSPProvider	1 つまたは複数の JSP™ ファイルからコンテンツを取得する
LoginProvider	ユーザーは匿名ポータルページから Sun ONE Identity Server への認証を行える
MailCheckProvider	ユーザーのメールステータスに関する情報を表示する
NotesProvider	システム全体のメッセージをリスト表示し、このようなメッセージをユーザーが送信できる
SearchProvider	Sun ONE Portal Server の検索エンジンを使用した検索機能を提供する
URLScrapperProvider	指定した URL からコンテンツを取得し、Sun ONE Portal Server を使用してコンテンツをフォーマットする
UserInfoProvider	ディスプレイプロファイルと Sun ONE Identity Server から情報を収集する。あいさつ、ユーザー名、タイムゾーン、ロケールが表示され、ユーザーの IMAP データと SMTP データにアクセスできる

表 5-4 定義されているプロバイダチャネル (続き)

プロバイダ	説明
XMLProvider	指定した URL から XML コンテンツを取得し、XSLT を使用してコンテンツをマークアップ言語に変換する

シンプル Web サービスプロバイダ

シンプル Web サービス (SWS) プロバイダは、データ指向の Web サービスにアクセスする機能を提供します。このプロバイダに基づいて、サンプルチャネルは通貨変換サービスにアクセスする Web サービスの実装を示します。

シンプル Web サービスチャネルには次の 2 種類があります。

- 事前に設定されている Web サービスチャネル
- 新規コンテナチャネル

デフォルトでは、事前に設定されている Web サービスチャネルのサンプルがサンプルポータルデスクトップに用意されています。管理者は、設定可能な Web サービスチャネルのサンプルを Identity Server 管理コンソールから追加できます。

どちらの Web サービスチャネルも、複雑な入力パラメータやユーザーインタフェース表示要件を持たない Web サービスのように、比較的シンプルな Web サービスでの使用に最適です。特定の Web サービスを処理できないことをシンプル Web サービスプロバイダが検出すると、それに応じてメッセージがユーザーに表示されます。

このプロバイダに基づくチャネルが一度にバインドできるのは、1 つの Web サービスと関連メソッドだけです。シンプル Web サービスプロバイダは、整数、文字列、ダブルなど、シンプルなデータタイプをサポートします。このリリースのシンプル Web サービスプロバイダは

- 入力および出力パラメータ内のシンプルおよび複雑なタイプの配列もサポートする
- WSDL 定義内のバインド処理において、障害データの使用をサポートしない

シンプル Web サービスプロバイダは、次の WSDL 設定プロパティタイプをサポートします。

- SOAP バインドスタイル: RPC、ドキュメント
- SOAP エンコードタイプ: 符号化済み、リテラル

注 RPC とリテラルの組み合わせはサポートされません。 .Net ベースの Web サービスのサポートは制限されます。

事前に設定されている Web サービスチャネル

事前に設定されている Web サービスチャネルのサンプルは、通貨変換サービスのサンプルです。

事前に設定されている Web サービスチャネルを設定するには、管理コンソールから WSDL URL とメソッド名を指定する必要があります。

設定可能な Web サービスチャネル

設定可能な Web サービスチャネルを使用することで、ユーザーは指定の Web サービスをポイントするようにチャネルを変更できます。これは、WSDL URL の値と、Web サービスに関連付けられているメソッド名をユーザーが変更できるようにすることで可能になりました。ただし、事前に設定されているチャネルタイプとは異なり、設定可能な Web サービスチャネルには、Web サービス入力パラメータのデフォルト値を格納する機能がありません。

新規コンテナチャネル

「コンテナチャネル」リストの「新規」リンクを使用して、定義されているコンテナプロバイダのリストからコンテナプロバイダを選択し、それを作成することができます。表 5-5 は、新規チャネルの作成時に基本として使用できるプロバイダチャネルを示しています。この表では、最初の列はプロバイダ名、2 番目の列はその簡単な説明を示します。定義されているコンテンツプロバイダについては、『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』を参照してください。

表 5-5 定義されているプロバイダコンテナチャネル

プロバイダ	説明
JSPFrameCustomTableContainerProvider	ユーザーの JSP フレームセットベースのポータルデスクトップにフレームを新規作成する
JSPSingleContainerProvider	単一のチャネルを表示する
JSPTabContainerProvider	それぞれがタイトルを持つ複数のタブから構成されるチャネルを表示する
JSPTabCustomTableContainerProvider	ユーザーの JSP タブベースのデスクトップにタブを新規作成する
JSPTableContainerProvider	テーブルにコンテンツチャネルを表示する
TemplateEditContainerProvider	「編集」ページのフレームを描画する
TemplateTabContainerProvider	複数タブをサポートする
TemplateTabCustomTableContainerProvider	タブを新規作成する
TemplateTableContainerProvider	テーブルにコンテンツチャネルを表示する

チャンネルまたはコンテナチャンネルを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. チャンネルを追加する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
デスクトップ属性ページがデータパネルに表示されます。
5. デスクトップページで「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。
「チャンネル」ページが表示され、コンテナパスが **root** で設定されています。
6. チャンネルまたはコンテナを追加するコンテナをクリックします。
ページの上部に、チャンネルが追加されるコンテナパスが表示されます。チャンネルとコンテナが定義されている場合は、リストに表示されます。
7. 「新規」をクリックして、コンテナチャンネルまたはチャンネルを追加します。
コンテナチャンネルを追加するには、「コンテナチャンネル」の下の「新規」をクリックします。チャンネルを追加するには、「チャンネル」の下の「新規」をクリックします。
「新規チャンネル」ページが表示されます。
8. チャンネル名を入力し、メニューからプロバイダのタイプを選択します。
使用可能なプロバイダについては、[165 ページの表 5-4](#) を参照してください。
9. 「作成」をクリックします。

チャンネルまたはコンテナチャンネルのプロパティを変更するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. チャンネルを修正する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
デスクトップ属性ページがデータパネルに表示されます。
5. デスクトップページで「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」ページが表示されます。ページの上部にコンテナのパスが表示されます。定義済みのチャンネルがリストに表示されます。
6. 変更するチャンネルまたはコンテナチャンネルの横の「プロパティの編集」リンクを選択します。
「プロパティ」ページが表示されます。
7. 必要に応じてプロパティを修正します。
チャンネルのプロパティについては、『Sun ONE Portal Server 6.1 Desktop Customization Guide』を参照してください。
8. 完了したら、「保存」を選択します。

チャンネルまたはコンテナチャンネルを削除するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. チャンネルを修正する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。

4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
デスクトップ属性ページがデータパネルに表示されます。
5. デスクトップページで「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」ページが表示されます。ページの上部にコンテナのパスが表示されます。定義済みのチャンネルがリストに表示されます。
6. 削除するチャンネルまたはコンテナチャンネルの隣にあるチェックボックスをクリックします。「削除」をクリックします。
7. チャンネルが削除され、「チャンネル」リストが更新され、削除が確認できます。

コンテナの管理

コンテナを管理する場合、Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用してディスプレイプロファイルの XML を直接編集することができます。また `dpadmin` コマンドを使用することもできます。このコマンドはこの節のほとんどの箇所で、さまざまな例を使用して説明しています。

これには、次の例が含まれます。

- ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには
- コンテナのチャンネルを置換するには
- コンテナのプロパティを置換するには
- コンテナにチャンネルを追加するには
- コレクションにプロパティを追加するには
- コレクションプロパティを追加するには
- チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除するには
- プロバイダを削除するには
- コンテナからチャンネルを削除するには
- ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更するには
- チャンネルをコンテナで使用できるようにするには
- チャンネルをコンテナで使用不可にするには
- コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択するには
- コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択解除するには

Sun ONE Identity Server 管理コンソールによるディスプレイプロファイルの編集については、「[ディスプレイプロファイルテキストウィンドウの使用](#)」を参照してください。

dpadmin コマンドの使用

dpadmin コマンドの構文は次のとおりです。

```
$ dpadmin list|merge|modify|add|remove [command-specific options] -u uid -w password  
{-g|-d dn} [-l locale] [-r] [-b] [-h] {-v|--version} [file]
```

dpadmin コマンドの完全な構文については、[第 14 章「コマンドラインユーティリティ」](#)を参照してください。dpadmin コマンドを実行する場合は、次の点に注意してください。

- **file 引数**: 指定するときは、file 引数はコマンドラインの最後の引数として指定する必要がある。この引数は、ディスプレイプロファイル DTD に適合する XML コードを含む XML ファイルへのパスを指定する。XML の入力が必要なサブコマンドには、modify および add が含まれる

ディスプレイプロファイル全体を追加または修正する場合、常に適切な XML ヘッダーを追加する

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>  
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
```

- **list サブコマンド**: ディスプレイプロファイルノードオブジェクトを取得し、表示する。オブジェクトはネイティブ XML 形式で表示される。表示されるオブジェクトは、標準出力に送信される。-n または --name オプションを使用しない場合、ディスプレイプロファイルドキュメント全体が表示される。-n または --name オプションが DP ノードオブジェクトを指定しない場合、DP ドキュメント全体が表示される
- **merge サブコマンド**: 指定した DP ノードオブジェクトのマージ結果を取得し、表示する。オブジェクトはネイティブ XML 形式で表示される。表示されるオブジェクトは、標準出力に送信される。-n または --name オプションを使用しない場合、エラーが出力される

- **modify** サブコマンド: 既存のディスプレイプロファイルオブジェクトの値を変更する。このコマンドは、オブジェクトがすでにディスプレイプロファイルに存在することを想定している。modify サブコマンドは、標準入力または引数として指定されたファイルのいずれかから新規オブジェクトのデータを読み出す。新しいオブジェクト用のデータは、XML であり、ディスプレイプロファイル DTD に適合する必要がある。特に、オブジェクトデータは正しくフォーマットされた XML コードにする必要がある
- **add** サブコマンド: ディスプレイプロファイルに新しいオブジェクトを追加する。このサブコマンドは、追加されるオブジェクトがディスプレイプロファイルに存在しないことを想定している。add サブコマンドは、標準入力または引数として指定されたファイルのいずれかから新規オブジェクトのデータを読み出す。新しいオブジェクト用のデータは、XML であり、ディスプレイプロファイル DTD に適合する必要がある。特に、オブジェクトデータは正しくフォーマットされた XML コードにする必要がある
- **remove** サブコマンド: ディスプレイプロファイルから既存のオブジェクトを削除する
- **-g** オプション: グローバルレベルのディスプレイプロファイルドキュメントを指定する
- **-d dn** オプション: dpadmin を実行する DN を指定する。-d オプションと -g オプションは相互に排他的である
- **-r** または **--dryrun** オプション: 現在のコマンドの成功または失敗を示し、変更を LDAP に書き込まない。これは、特定の dpadmin コマンドのフォーマットが正しいことを確認する場合に便利である
- **-n** または **--name** オプション: ディスプレイプロファイルコンテナ、チャネルまたはプロバイダオブジェクト、またはディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する。name 引数が DP ノードオブジェクトを指定しない場合、エラーが出力される
- **-p** または **--parent** オプション: 親ディスプレイプロファイルコンテナ、チャネルまたはプロバイダオブジェクト、またはディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する
- **-v** または **--version** オプション: dpadmin コマンドのバージョン番号を標準出力に出力する

dpadmin コマンドの使用に関するガイドライン

dpadmin コマンドを使用してディスプレイプロファイルを更新する場合は、次のガイドラインに従います。

- 他の管理者が同時に Sun ONE Identity Server 管理コンソールまたは `dpadmin` コマンドを使用してディスプレイプロファイルの修正を行っていないことを確認する。このような状況では、`dpadmin` コマンドと管理コンソールが同時にディスプレイプロファイルにアクセスするのを防ぐロックメカニズムが機能しないため、変更内容が損なわれてしまう
- `dpadmin` を使用する場合、XML 「コード」としてファイルに修正内容を保存し、`dpadmin` コマンドと `add` サブコマンドを実行する方法を推奨する。次に例を示す

```
/opt/SUNWps/bin/dpadmin add -u
"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"uid=anonymous,ou=people,o=sesta.com,o=isp" newtheme.xml
```

この例で、`newtheme.xml` はディスプレイプロファイルに追加される XML 「コード」を含むファイル

- ディスプレイプロファイルドキュメントを直接編集する場合、まず `dpadmin` コマンドと `list` サブコマンドを使用してディスプレイプロファイルの最新の内容を取得する。編集したら、`dpadmin` コマンドと `modify` サブコマンドを実行する。次に例を示す

```
/opt/SUNWps/bin/dpadmin list
-u"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp" > dp-org.xml
```

(`dp-org.xml` ファイルを編集)

```
/opt/SUNWps/bin/dpadmin modify -u
"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp" dp-org.xml
```

警告

`dpadmin list` と `dpadmin modify` コマンドを実行する間に、(管理コンソール、`dpadmin`、または `ldapmodify` コマンドを使用する) どのような方法でも LDAP サーバーでディスプレイプロファイルドキュメントを変更しないでください。変更した場合、その変更内容は最新の `dpadmin modify` によって上書きされます。

ディスプレイプロファイルの修正

ディスプレイプロファイルオブジェクトは、次のいずれかを実行して修正できます。

- 既存のディスプレイプロファイルドキュメントを手動で編集し、`dpadmin modify` コマンドを使用して適切な LDAP ノードまたはグローバルレベルでロードする
- 標準入力で、XML テキストの変更内容を指定して、`dpadmin` コマンドを実行する。新規オブジェクトを追加する場合は、`add` サブコマンドを使用する。既存のオブジェクトを修正する場合は、`modify` サブコマンドを使用する

- 新規のディスプレイプロファイルドキュメントを最初から作成し、`dpadmin modify` コマンドを使用して適切な LDAP ノードまたはグローバルレベルでロードする

ディスプレイプロファイルのエラーメッセージの概要

無効な XML を含むディスプレイプロファイルドキュメントを作成し、保存しようとする、システムがエラーを出力します。このエラーメッセージは、タイトル、メッセージ、およびサブメッセージとして表示されます。メッセージボックスのタイトルは、「無効な XML ドキュメント」です。メッセージは、次のいずれかの形式で表示されます。

- XML のパースに失敗した
- XML にドキュメントタイプが指定されていない
- DP の格納に失敗した
- XML 入力が無効である

「無効な XML ドキュメント」エラーが表示された場合、エラーを修正して、作業中の XML ドキュメントを保存する必要があります。

ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには

- `list` サブコマンドを使用してディスプレイプロファイルオブジェクトを表示します。

たとえば、次のコマンドは `TemplateTableContainer` というチャンネル、コンテナ、またはプロバイダを取得し、標準出力に出力します。

```
dpadmin list -n "TemplateTableContainer" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
```

注 `-n` オプションを省略すると、ディスプレイプロファイルドキュメント全体を表示できます。

コンテナのチャネルを置換するには

1. modify サブコマンドを使用して、コンテナ内のチャネルを標準入力で指定した値に置換します。

たとえば、このコマンドはコンテナ `TemplateTableContainer` のチャネル `Test` を標準入力で指定された値に置換します。

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Channel name="Test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Test Channel"/>
    <String name="description" value="This channel is a test."/>
  </Properties>
</Channel>
EOF
```

2. list サブコマンドを使用して、チャネルが置換されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

コンテナのプロパティを置換するには

1. modify サブコマンドを使用して、チャネル内のプロパティを標準入力で指定した値に置換します。

たとえば、次のコマンドはチャネル `NewChannel` で動作し、プロパティ `new.xml` を前述のファイルの新規オブジェクトと置換します。この場合 `new.xml` は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<String name="welcome" value="Hi, welcome to your desktop!"/>
```

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer/NewChannel -u
"uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
new.xml
```

2. list サブコマンドを使用して、プロパティが置換されたことを確認します。
詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

コンテナにチャネルを追加するには

1. ディスプレイプロファイル入力 XML ファイルを修正して、新規の <Channel> 定義のみを追加し、次のようにファイル testadd.xml を作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Channel name="TestChannel" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="teststring" value="sfds"/>
  </Properties>
</Channel>
```

2. add サブコマンドを使用して、コンテナにチャネルを追加します。
たとえば、次のコマンドは testadd.xml で定義された新規チャネルをディスプレイプロファイルに追加します。次の例では、新規チャネルを TemplateTableContainer レベルに追加する必要があります。親オブジェクトを -p オプションで指定しない場合、チャネルはルートレベルで追加されます。:

```
dpadmin add -p "TemplateTableContainer" -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" testadd.xml
```

注 新規チャンネルを JSSTabContainer に追加する場合、実際には新規タブを追加しています。JSSTabContainer では、使用可能で選択されたすべてのタブに TabProperties が定義されている必要があります。このため、JSSTabContainer に追加された新規コンテナまたはチャンネルについて、新規チャンネルまたはコンテナが追加された JSSTabContainer の TabProperties Collection 内に次の XML コードを追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="<New Channel Name>">
  <String name="title" value="<New Channel Title>"/>
  <String name="desc" value="<New Channel Description>"/>
  <Boolean name="removable" value="false"/>
  <Boolean name="renamable" value="true"/>
  <Boolean name="predefined" value="true"/>
</Collection>
```

3. list サブコマンドを使用して、チャンネルが追加されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

コレクションにプロパティを追加するには

1. combine (-m) オプションを使用して、コレクションに新規プロパティを追加します。

たとえば、次のコマンドは新規プロパティ msg2 をコレクション bar に追加します。既存のプロパティ msg は、まだ残っています。list サブコマンドは、プロパティ値を表示する前後に使用されます。

```
dpadmin list -n TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
...
<Collection name="foo">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi"/>
  </Collection>
</Collection>
...
```

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="foo">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
EOF
```

```
dpadmin list -n TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
...
<Collection name="foo">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi"/>
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
...
```

コレクションプロパティを追加するには

1. add サブコマンドを使用して、値を標準入力で指定した値を持つコレクションを追加します。

たとえば、次のコマンドは標準入力で指定されたコレクションプロパティ zipCodes を Postal というチャンネル、コンテナ、またはプロバイダに追加します。

```
dpadmin add -p SamplesTabPanelContainer/Postal -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="zipCodes">
  <Integer value="98012"/>
  <Integer value="98036"/>
  <Integer value="94025"/>
  <Integer value="95112"/>
</Collection>
EOF
```

2. list サブコマンドを使用して、コレクションプロパティが追加されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除するには

1. remove サブコマンドを使用して、チャンネルまたはコンテナからプロパティを削除します。

たとえば、次のコマンドはプロパティ `locations` をグローバルレベルで `Bookmarks` チャンネル (またはコンテナ) から削除します。

```
dpadmin remove -t property -p Bookmarks -n locations -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -g
```

2. list サブコマンドを使用して、プロパティが削除されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

プロバイダを削除するには

1. `remove` サブコマンドを使用してプロバイダを削除します。
たとえば、次のコマンドはプロバイダ `NotesProvider` を削除します。

```
dpadmin remove -t provider -n "NotesProvider" -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp"
```

2. `list` サブコマンドを使用して、プロバイダが削除されたことを確認します。
詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

コンテナからチャンネルを削除するには

1. `remove` サブコマンドを使用して、コンテナからチャンネルを削除します。
たとえば、次のコマンドは、`TemplateTableContainer` という親コンテナ内に存在する `Test` というチャンネルを削除します。

```
dpadmin remove --type channel --parent TemplateTableContainer --name "Test"
--runasdn "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" --password password --dn
"o=sesta.com,o=isp"
```

2. `list` サブコマンドを使用して、チャンネルが削除されたことを確認します。
詳細は、[第5章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)を参照してください。

ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更するには

1. `modify` サブコマンドを使用して、ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位を変更します。
たとえば、次のコマンドはドキュメントの優先順位を元の順序から組織の 10 に変更します。

```

dpsadmin modify -m -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w password -d
"o=sesta.com,o=isp" <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<DisplayProfile priority="30" version="1.0"
<Properties/>
<Channels/>
<Providers/>
EOF

```

2. list サブコマンドを使用して、優先順位が変更されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

チャンネルをコンテナで使用できるようにするには

1. modify サブコマンドと combine (-m) オプションを使用して、標準入力で指定されたチャンネルをコンテナの既存の使用可能リストに追加します。

たとえば、次のコマンドは BookMark チャンネルを TemplateTableContainer の Available リストに追加します。

```

dpsadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Available>
  <Reference value="BookMark">
</Available>
EOF

```

2. list サブコマンドを使用して、優先順位が変更されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

チャンネルをコンテナで使用不可にするには

1. `remove` サブコマンドを使用して、コンテナの Available リストからチャンネルを削除します。

たとえば、次のコマンドは、TemplateTableContainer という親コンテナの Available リストから Test というチャンネルを削除します。

```
dpadmin remove --type available --parent TemplateTableContainer --name "Test"
--runasdn "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" --password password --dn
"o=sesta.com,o=isp"
```

2. `list` サブコマンドを使用して、チャンネルが削除されたことを確認します。

詳細は、「ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには」を参照してください。

コンテナの使用可能なチャンネルリストからチャンネルを選択するには

1. `modify` サブコマンドと `combine (-m)` オプションを使用して、標準入力で指定されたチャンネルをコンテナの既存の Selected リストに追加します。

たとえば、次のコマンドは BookMark チャンネルを TemplateTableContainer の Selected リストに追加します。

```
dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u "uid=amAdmin,ou=People,
o=sesta.com,o=isp" -w password -d "o=sesta.com,o=isp" -m <<EOF
```

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Selected>
  <Reference value="BookMark">
</Selected>
EOF
```

2. `list` サブコマンドを使用して、優先順位が変更されたことを確認します。

詳細は、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

コンテナの使用可能なチャネルリストからチャネルを選択解除するには

1. `remove` サブコマンドを使用して、コンテナの Selected リストからチャネルを削除します。

たとえば、次のコマンドは、`TemplateTableContainer` という親コンテナの Selected リストから `Test` というチャネルを削除します。

```
dpadmin remove --type selected --parent TemplateTableContainer --name "Test"
--runasdn "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" --password password --dn
"o=sesta.com,o=isp"
```

2. `list` サブコマンドを使用して、チャネルが削除されたことを確認します。

詳細については、「[ディスプレイプロファイルオブジェクトを表示するには](#)」を参照してください。

ディスプレイプロファイルテキストウィンドウの使用

Sun ONE Identity Server はディスプレイプロファイルテキストを表示し、直接編集するためのテキストウィンドウを提供します。組織、サブ組織、またはロールに管理者としてアクセスできる間は、Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、このテキストウィンドウに移動し、ディスプレイプロファイルを表示または編集できます。

注 Netscape 4.x ブラウザを使用している場合は、管理コンソールから直接ディスプレイプロファイルの XML を編集できません。

ディスプレイプロファイルテキストウィンドウ にアクセスするには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ディスプレイプロファイルドキュメントを修正する組織、サブ組織、またはロールを選択します。
委任された管理者としてログインした場合、管理者としてアクセスできる組織、サブ組織、またはロールに自動的に移動します。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「サービス」を選択します。
4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
デスクトップ属性ページがデータパネルに表示されます。
5. デスクトップページで、「XML の編集」リンクをクリックします。
ディスプレイプロファイルがテキストウィンドウに表示されます。

注 デフォルトでは、ディスプレイプロファイルの優先順位レベルはキーワード `user` に設定され、現在のディスプレイプロファイルがユーザーレベルのディスプレイプロファイルであることを示します。その他の許容される値は、低い優先順位を表す小さい整数です。たとえば、1 は 2 よりも優先順位が低くなります。

6. 変更したら、「保存」を選択します。

注 グローバル、組織、サブ組織、またはロールレベルのドキュメントへの変更は、即時有効になります。ユーザーレベルのドキュメントへの変更は、ユーザーがログアウトおよびログインした後で有効になります。

NetMail サービスの管理

この章では、NetMail サービスを管理する方法について説明します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- [NetMail サービスの概要](#)
- [NetMail サービスの管理](#)

NetMail サービスの概要

NetMail サービスは、電子メールクライアントの NetMail (Java™) および NetMail Lite を実装しています。これらのクライアントは、標準の IMAP および SMTP サーバー環境で動作します。NetMail によって、ユーザーは 1 つまたは複数のメールサーバーにアクセスし、電子メールの読み取り、作成、削除、およびフォルダの作成、アクセス、削除を行うことができます。

Sun™ ONE Portal Server 6.2 では、Sun ONE Identity Server の管理コンソールを利用して、NetMail サービスの定義および管理を行います。NetMail サービスは、NetMail クライアントが電子メールメッセージとその設定を管理するために、サービス属性とデフォルト値を定義します。組織とそのユーザーが NetMail クライアントの動作を制御できるように、サービス属性の値の定義およびカスタマイズを行います。

NetMail サービスの管理

Sun ONE Identity Server のポリシーサービスにより、規則を定義したり、リソースにアクセスしたりすることができます。ポリシーは、ロールまたは組織に基づき、アクセス権を与えたり、制約を定義したりすることができます。

デフォルトでは、ポリシー設定サービスは自動的に最上位の組織に登録されます。サブ組織は、親組織とは別にポリシーサービスを登録する必要があります。作成したポリシーサービスは、すべての組織に登録する必要があります。ポリシーを使用するための手順の概要は、次のとおりです。

1. 組織のポリシーサービスを登録します
2. サブ組織の参照ポリシーを作成します。組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委託することができます(リソースのポリシー定義を別のポリシー製品に委託することもできます)。この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御されます。これは、規則と参照自体から構成されます。リソースを必要としないアクションがポリシーサービスに含まれる場合、サブ組織の参照ポリシーを作成することはできません。詳細は、[187 ページの「サブ組織の参照ポリシーを作成するには」](#)を参照してください。
3. ピアまたはサブ組織の通常のポリシーを作成します。アクセス権の定義には通常のポリシーを使用します。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成されます。詳細は、[188 ページの「サブ組織の通常のポリシーを作成するには」](#)を参照してください。

ピアまたはサブ組織のポリシーサービスを登録するには

サブ組織は、親サービスを継承しないため、サブ組織のポリシーサービスを登録する必要があります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 参照ポリシーを作成する組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. ナビゲーションパネルの「表示」メニューから「組織」を選択し、「名前」メニューから適切な組織を選択します。
4. 「表示」メニューから「サービス」を選択します。
5. 「登録」をクリックします。

「サービスを登録」ページがデータパネルに表示されます。NetMail サービスのチェックボックスにチェックマークを付けて、「登録」をクリックします。

新規登録されたサービスがナビゲーションパネルに表示されます。

6. プロパティの矢印をクリックして NetMail サービスを設定します。
7. データパネルに、次のメッセージが表示されます。
「現在このサービスにはテンプレートが存在しません。新規に作成しますか?」
8. メッセージボックス内の「作成」をクリックし、テンプレートを作成します。
NetMail の属性が表示されます。
9. NetMail の属性を変更します。
NetMail の属性については、付録 D 「NetMail の属性」を参照してください。
10. 「保存」をクリックして、変更後の値をサービステンプレートに保存します。

注 新しい組織を作成する場合は、その組織用の NetMail ポリシーを作成して割り当てる必要があります。サンプルポータルの場合、すでにデフォルトで NetMail が有効になっているため、この作業は必要ありません。

サブ組織の参照ポリシーを作成するには

組織のポリシーに関する定義と決定を別の組織に委託することができます。この、ポリシーの作成と評価に関するポリシー委任は、参照ポリシーによって制御されます。これは、規則と参照自体から構成されます。参照は、規則内のリソースとして親組織を定義する必要があり、参照内の値として SubOrgReferral に組織名が含まれている必要があります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 参照ポリシーを作成するサブ組織を含む組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
4. 「新規」をクリックし、新しいポリシーを作成します。
ポリシーの作成ページがデータパネルに表示されます。
5. 「名前」には、SubOrgReferral_NetMail を入力します。「ポリシータイプ」で「参照」が選択されていることを確認します。「作成」をクリックします。

6. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「NetMail」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「ルールを追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
7. 「サービス」から NetMail を選択し、「次へ」をクリックします。
8. 「ルール名」に NetMailRule と入力し、「作成」をクリックします。
9. データパネルの「表示」メニューから「参照」を選択し、「追加」をクリックします。
「参照を追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。
10. 「名前」に SubOrgReferral_suborg_name と入力します。
データパネルで「値」にサブ組織の名前が選択されていることを確認し、「作成」をクリックしてポリシーの設定を完了します。
11. データパネルで「保存」をクリックします。
データが保存されると、「ポリシープロパティが保存されました。」というメッセージが表示されます。

サブ組織の通常のポリシーを作成するには

アクセス権の定義には通常のポリシーを使用します。通常のポリシーは、複数の規則、サブジェクト、条件から構成されます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ポリシーを作成する組織またはサブ組織に移動します。
作成したすべての組織がナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「表示」メニューから「ポリシー」を選択します。
その組織のポリシーが表示されます。
4. ナビゲーションパネルで「新規」を選択します。「新規ポリシー」ページがデータパネルに表示されます。
5. 「名前」に SubOrgNormal_NetMail と入力します。「ポリシータイプ」で「標準」が選択されていることを確認します。「作成」をクリックします。
6. データパネルの「表示」メニューから「ルール」を選択し、「追加」をクリックします。「ルールを追加」テンプレートがデータパネルに表示されます。

7. 「サービス」メニューから「NetMail」を選択し、「次へ」をクリックします。「ルール名」に NetMailRule と入力します。「NetMail 実行権限」にチェックマークが付けられていることを確認します。
8. 「サービス」メニューから「NetMail」を選択し、「次へ」をクリックします。「NetMail 実行権限」にチェックマークが付けられていることを確認します。
9. 「タイプ」メニューからサブジェクトのタイプを選択し、「次へ」をクリックしてサブジェクトの設定を完了します。
10. データパネルの「表示」メニューから「サブジェクト」を選択し、「追加」をクリックします。「サブジェクトを追加」ページがデータパネルに表示されます。
11. 「作成」をクリックして、ポリシーの設定を完了します。

データが保存されると、「ポリシープロパティが保存されました。」というメッセージが表示されます。

NetMail のサービス属性の変更 (特定の組織)

NetMail のサービスをカスタマイズするには、サービスの属性を変更します。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 組織を選択します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
4. ナビゲーションパネルの「NetMail」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。

Netmail のサービス属性のリストが、データパネルに表示されます。
5. サービス属性の値を変更し、「保存」をクリックして変更を保存します。

この変更は、選択された組織内のユーザーだけに反映されます。
詳細については、付録 D 「NetMail の属性」を参照してください。

NetMail のサービス属性の変更 (すべての組織)

NetMail サービスを登録するすべての組織に影響する、NetMail サービスのグローバル属性の変更が、将来必要になる場合もあります。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」をクリックします。
3. ナビゲーションパネルの「NetMail」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
NetMail のサービス属性のリストが、データパネルに表示されます。
4. サービス属性の値を変更し、「保存」を選択して変更を保存します。
この変更は、今後、NetMail サービスに登録するすべての組織に影響します。

新しいウィンドウを開くように NetMail Lite を設定するには

デフォルト設定では、NetMail Lite が実行されている状態で、ユーザーがデスクトップにある NetMail Lite のリンクを選択してメッセージを作成している場合、NetMail Lite の現在のウィンドウは NetMail Lite の新しいインスタンスに置き換えられるため、メッセージのテキストは消滅します。この問題を避けるためには、NetMail Lite の設定を変更し、デスクトップにある NetMail Lite のリンクをユーザーがクリックするたびに、新しいウィンドウが開くようにします。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。
2. 組織を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「デスクトップ」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
デスクトップのサービス属性のリストが、データパネルに表示されます。
4. データパネルで、「チャンネルおよびコンテナの管理」のリンクをクリックします。
5. 「チャンネル」の下にある、App チャンネルの「編集」リンクをクリックします。
6. 組織を選択し、「表示」メニューから「サービス」を選択します。
7. targets プロパティの、「編集」リンクを選択します。

8. NetMail Lite のプロパティを、次のように書き換えます。

```
NetMail Lite | ^javascript:var nmServerURL = document.URL; nmDestURL
=nmServerURL.split('dt')[0];nmAdjustedURL = nmDestURL
+'NetMailServlet?nsid=newHTMLSession';
openAppURL(nmAdjustedURL, '_blank');return false;
```

9. 「保存」をクリックします。

10. 変更を確認します。

組織内のテストユーザーとしてログインします。NetMail Lite にアクセスし、メッセージの作成を開始します。NetMail Lite のリンクをクリックします。NetMail Lite を表示したウィンドウが新しく開かれます。

リモートアドレス帳の使用 (LDAP)

NetMail のリモートアドレス帳の機能を有効にするには、NetMail サービスの LDAP サーバーリストの属性を変更します。

注	<p>検索エンジンが「含む文字列」、「一致」、「始めの文字列」、「終りの文字列」、および「類似」の検索条件をサポートしている場合、アドレス帳の検索機能は、ユーザーが指定したテキストを基に比較して名前を検索することができます。</p> <p>個人のアドレス帳は、「含む文字列」の検索だけをサポートしています。LDAP アドレス帳を追加した場合は、そのほかのオプションが有効になります。</p>
----------	---

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルでは「組織」が選択されています。

2. 組織を選択します。

3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。

4. ナビゲーションパネルの「NetMail」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。

NetMail のサービス属性のリストが、データパネルに表示されます。

5. 「アドレス帳検索で使用する LDAP サーバーの詳細」の値を変更します。各エントリは、カンマで区切られた name="value" のペアのリストです。有効な名前は次のとおりです。

- name : NetMail の「アドレス」ページに表示される名前 (デフォルトは、なし)

- `server`: LDAP サーバーの完全修飾ドメイン名 (デフォルトは、なし)
- `base`: 検索を開始するために使用する識別名 (DN) (デフォルトは "")
- `searchin`: 検索の対象となる属性をカンマで区切ったリスト (デフォルトは "cn,gn,sn")
- `result`: 電子メールアドレスを含む属性 (デフォルトは "mail")
- `filter`: 検索に適用する追加の LDAP フィルタ (デフォルトは ""). フィルタの構文には、LDAP フィルタ構文が使用される
- `referral`: LDAP を実行するかどうかを定義する値。デフォルトは "follow"。参照を実行しないように定義するには "" を指定する

たとえば、Sesta LDAP のディレクトリを検索するには、次のエントリを使用します。

```
name="Sesta  
LDAP", server="ldap-server.sesta.com", base="dc=sesta,dc=com"
```

6. 「保存」をクリックします。

リライトサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server のリライトサービスの管理方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [リライトサービスの概要](#)
- [サポートされる URL](#)
- [リライトルールとルールセットの定義](#)
- [リライトサービスの管理](#)

リライトサービスの概要

Sun™ ONE Portal Server のリライトは、マークアップ言語と JavaScript™ コードで URL の変換を行うためのエンジンを提供します。デスクトップと Sun™ ONE Portal Server には URLScraperProvider と XMLProvider があります。Secure Remote Access ゲートウェイサービスは、すべてリライトサービスを使用します。

リライトは Web ページの内容をスキャンし、それらの Web ページ上で検出した URL を特定します。リライトはルールセットで定義されるルールの集合を使用して、Web ページでリライトする要素を判断します。リライトが URL を特定すると、次の方法で URL をリライトします。

- [相対 URL の絶対 URL への拡張](#)
- [既存 URL へのゲートウェイ URL の追加](#)

相対 URL の絶対 URL への拡張

URLScrapperProvider はコア Sun ONE Portal Server 製品の一部を構成します。ゲートウェイを使用しないシナリオでは、URLScrapperProvider を使用して相対 URL を絶対 URL に拡張することができます。たとえば、ユーザーが次のサイトにアクセスしようとする場合、

```
<a href=" ../mypage.html">
```

リライタはこれを次のように解釈します。

```
<a href="http://www.yahoo.com/mail/mypage.html">
```

この `http://yahoo.com/mail/` は収集されたページのベース URL です。

URLScrapperProvider の制限

URLScrapperProvider は指定された URL のチャンネルの表示のみを試みます。ドキュメント URL (ドキュメント) の表示箇所を指定する方法はありません。

URLScrapperProvider は指定された URL の内容を要求するという点で、HTTP クライアントと同様に機能します。ブラウザの場合と同じく、収集のターゲットとなる URL はネットワーク上でアクセス可能か、プロキシを設定している必要があります。

最終的な URL スクレイパーチャンネルは、ミニブラウザでもフレームでもありません。したがって、コンテンツにリンクがある場合、チャンネルだけではなくページ全体に影響します。URL スクレイパーチャンネルの内部を参照することはできません。チャンネル内でリンクを選択すると、ブラウザはリンクを変換し、現在表示されているページ (ポータルサーバーのデスクトップ) をリンク場所のコンテンツに置き換えます。

収集されたチャンネルの外観は、オリジナルのコンテンツの作成元によって制御されます。URLScrapperProvider は全くコンテンツを修正せず、URL を通じて入手できる内容だけを表示します。チャンネルは本来 HTML テーブル内のセルであるため、テーブルセルに表示できる HTML コンテンツを表示するだけです。すなわち、URLScrapperProvider を使用してフレームセットを収集することはできません。これは `<FRAMESET>` タグを `<BODY>` タグ内で表示できないためです。

URLScrapperProvider はまた、`<HEAD>` タグ内で JavaScript コードを実行しません。このため、次の収集シナリオは URLScrapperProvider については適切ではありません。

- ユーザーがチャンネルをカスタマイズできるように、ある種の編集機能が要求される場合
- データが HTML 以外、Web 以外のサーバーのソース、すなわちデータベースかメールサーバーから導出されている場合
- データをチャンネルに合った何らかの方法で再フォーマットする必要がある場合

- URLScrapperProvider がそれぞれの デスクトップ 表示およびユーザーに対して 要求を行い、検索する際に、より効率的なソリューションが要求される場合

元サーバーから cookie が送信される場合、その cookie は Web コンテンツが再収集されるたびに元サーバーに転送されます。このため、ポータルデスクトップが更新または再読み込みされたときに、初回の Web コンテンツの収集時に送信された cookie を元サーバーが取得することになります。しかし、ユーザーが URL スクレイパーチャンネル内のリンクをクリックした場合は、これらの cookie は戻されません。

既存 URL へのゲートウェイ URL の追加

Sun ONE Portal Server: Secure Remote Access などのゲートウェイを実装している場合、ゲートウェイはクライアントのプロキシとして動作し、イントラネットサイトにアクセスして、応答をクライアントに返します。リライタはダウンロードされたページで URL を変換し、既存の URL の前にゲートウェイ URL をプレフィックスとして指定して URL が元のサイトではなくゲートウェイを示すようにします。

たとえば、ユーザーが次の URL を使用して mymachine で HTML ページにアクセスしようとする場合、次のように指定します。

```
<a href="http://mymachine.intranet.com/mypage.html">
```

リライタは、次のようにプレフィックスとしてゲートウェイを参照する URL を指定します。

```
<a href="https://gateway.company.com/http://mymachine.intranet.com/mypage.html">
```

ユーザーがこのアンカーに関連するリンクをクリックすると、ブラウザはゲートウェイに照会します。ゲートウェイは、mymachine.intranet.com から mypage.html のコンテンツをフェッチします。

リライタを使用して既存の URL のプレフィックスにゲートウェイ URL を指定する詳細については、『Sun ONE Portal Server: Secure Remote Access 6.0 Administrator's Guide』を参照してください。

サポートされる URL

リライトは RFC-1738 で指定されるすべての標準 URL のリライトをサポートします。これらの URL はプロトコルが HTTP か HTTPS のいずれの場合も、プロトコルの大文字小文字に関係なくサポートされます。たとえば、hTtP、HTtp、および httP はすべて有効です。一部のサンプルの標準 URL を次に示します。

```
http://www.my.sesta.com
http://www.example.org:8000/imaginary/test
http://www.example.edu/org/admin/people#andy
http://info.example.org/AboutUs/Index/Phonebook?dobbins
http://www.example.org/RDB/EMP?*%20where%20name%%3Ddobbins
http://info.example.org/AboutUs/Phonebook
http://user:password@example.com
```

リライトは標準以外でも基本的な URL の一部については、リライトをサポートします。標準以外の URL を標準形式に変換するための情報は、URL が表示されるページの基本 URL から取り出され、プロトコル、ホスト名、パスを含めることができます。円記号 (¥) は、絶対 URL ではなく相対 URL に含まれる場合のみサポートされます。たとえば、`http://sesta.com¥index.html` はリライトされますが、`http:¥¥sesta.com` はリライトされません。

また、`http:/sesta.com` のようにプロトコルまたはスキーマの後に単一のスラッシュ (/) が付いた URL はリライトされません。

リライトルールとルールセットの定義

リライトは Web ページに表示されるさまざまな要素の URL 部分を修正します。リライトには一連のデフォルトルールが付属し、これに基づいて Web ページのリライトする要素を決定します。さまざまなカテゴリとサブカテゴリのルールの集合は、`.dtd` ファイルに保存され、ルールセットと呼ばれます。リライトルールセットは XML で定義されます。

DTD は `/opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/rewriter.jar (resources/RuleSet.dtd)` に置かれています。ルールセットは URL の特定するために使用されます。デフォルトでは、`"/`、`../`、`"http"`、および `"https"` などの文字で始まる Web コンテンツの文字列はすべて URL と見なされ、リライトの候補になります。

実装でリライタを設定する場合、ルールセットを作成し、管理コンソールで「Portal Server 設定」の「リライタ」セクションにルールを定義します。ルールセットの作成と修正については、「[リライターサービスの管理](#)」を参照してください。Web ページのコンテンツの種類に基づいて、複数のルールを定義します。たとえば、HTML コンテンツをリライトするのに必要なルールは、JavaScript コンテンツをリライトするためのルールと異なります。リライタのルールは、次の広範囲なカテゴリに分類されます。

- [HTML コンテンツのルール](#)
- [JavaScript コンテンツのルール](#)
- [XML コンテンツのルール](#)

注 Wireless Markup Language (WML) は HTML に類似し、HTML ルールは WML コンテンツに適用されます。

CSS コンテンツにはルールが不要です。

ルールセットは XML ドキュメントであり、ドキュメント内の XML は正しく作成する必要があります。ルールセットでルールを定義する場合、次のガイドラインを守ってください。

- すべてのルールは `<ruleset>` `</ruleset>` タグで囲む必要がある
- ルールセットの `<HTML>` `</HTML>` セクションに、HTML コンテンツをリライトするためのすべてのルールを指定する
- ルールセットの `<JSRules>` `</JSRules>` セクションに、JavaScript コンテンツをリライトするためのすべてのルールを指定する
- ルールセットの `<XML>` `</XML>` セクションに、XML コンテンツをリライトするためのすべてのルールを指定する

HTML コンテンツのルール

Web ページの HTML コンテンツは、さらに属性、JavaScript トークン、フォーム、アプレットに分類できます。これに従って、HTML コンテンツのルールは次のように分類されます。

- [HTML コンテンツの属性ルール](#)
- [HTML コンテンツの JavaScript トークンルール](#)
- [HTML コンテンツのフォームルール](#)
- [HTML コンテンツのアプレットルール](#)

HTML コンテンツの属性ルール

属性ルールは、HTML ページでリライトする基本的な属性タグを特定します。リライタは既存の URL を拡張またはプレフィックスをつけて、定義済みのタグをさまざまな形に修正します。デフォルトのルールセットは、次の属性タグをリライトします。

- action
- background
- codebase
- code
- href
- src
- value
- imagePath
- lowsrc
- archive

属性ルールの構文は次のとおりです。

```
<Attribute name="name" [tag="tag" valuePatterns="patterns"]
```

ここで *name* は属性を指定します。*tag* は属性が所属するタグ (すべてのタグに一致させるには * を設定) を指定します。*patterns* は属性と一致する可能性のあるパターンを指定します。*tag* と *valuePatterns* パラメータはオプションです。

HTML コンテンツの JavaScript トークンルール

Web ページの JavaScript タグに純粋な JavaScript コードを記述することができます。あるいは JavaScript のトークンまたは関数を指定することができます。たとえば、Web ページに別の URL にジャンプする `onClick()` 関数を指定することができます。ページが正しく機能するために、`onClick()` 関数の値を変換し、リライトする必要があります。大半の場合、デフォルトのルールセットで指定されたルールで、JavaScript トークンの URL を十分にリライトできます。デフォルトのルールセットは、次の JavaScript トークンをリライトします。

- `onAbort`
- `onBlur`
- `onChange`
- `onClick`
- `onDbClick`
- `onError`
- `onFocus`
- `onKeyDown`
- `onKeyPress`
- `onKeyUp`
- `onLoad`
- `onMouseDown`
- `onMouseMove`
- `onMouseOut`
- `onMouseOver`
- `onMouseUp`
- `onReset`
- `onSelect`
- `onSubmit`
- `onUnload`

JavaScript トークンルールの構文は次のとおりです。

```
<JSToken>javascript_function_name</JSToken>
```

ここで `javascript_function_name` は `onLoad` や `onClick` などの関数名です。

HTML コンテンツのフォームルール

ユーザーはフォームを格納した HTML ページを参照できます。input などのフォーム要素は、URL を値として見なします。デフォルトのルールセットは、フォーム要素をリライトしません。フォームルールの構文は次のとおりです。

```
<Form source="/source.html" name="form1" field="field1">
[valuePatterns="pattern"] />
```

ここで */source.html* はフォームを含む HTML ページの URL です。*form1* はフォームの名前、*field1* はリライトするフォームのフィールド、*pattern* はフィールドのリライトする部分を示します。指定されたパターンに従うすべてのコンテンツはリライトされます。

`valuePatterns` パラメータはオプションです。

HTML コンテンツのアプレットルール

単一の Web ページに複数のアプレットが含まれていたり、また各アプレットに多くのパラメータが指定されていたりすることがあります。アプレットの URL のリライトルールには、次に説明するようにパターンマッチング情報を含める必要があります。

- ソース、`filename.htm` など
- コード、`classname.class` など
- パラメータ名、`servername` など
- パラメータ値、`some_url` など

リライトは、ルールに指定された値をアプレットの内容と照合し、必要に応じて URL を修正します。この置換は、ユーザーが特定の Web ページを参照している場合ではなく、サーバーで行われます。値の一部にワイルドカード (*) も使用できます。たとえば、パラメータ名が * であれば、リライトはアプレットでパラメータ名を比較しません。

デフォルトのルールセットは、アプレットパラメータをリライトしません。

アプレットルールの構文は次のとおりです。

```
<Applet source="sourcehtml.jsp" code="class" param="parameter_name"
[valuePatterns="pattern"]
```

ここで */sourcehtml.jsp* はアプレットを含む URL です。*class* はアプレットクラスの名前、*parameter_name* は値をリライトする必要があるパラメータ、*pattern* はフィールドのリライトする箇所を示します。指定されたパターンに従うすべてのコンテンツはリライトされます。`valuePatterns` パラメータはオプションです。

JavaScript コンテンツのルール

JavaScript コードのさまざまな部分に URL を指定することができます。リライタは JavaScript コードを直接パースできませんが、URL 部分を判断します。JavaScript プロセッサで URL の解釈を助けるために、一部の特別なルールを記述する必要があります。

URL を含む JavaScript 要素は次のように分類されます。

- [JavaScript 変数](#)
- [JavaScript 関数パラメータ](#)

JavaScript 変数

JavaScript 変数はさらに 5 つのカテゴリに分類されます。

- [JavaScript URL 変数](#)
- [JavaScript EXPRESSION 変数](#)
- [JavaScript DHTML 変数](#)
- [JavaScript DJS \(ダイナミック JavaScript\) 変数](#)
- [JavaScript システム変数](#)

JavaScript URL 変数

URL 変数の右側には URL 文字列が表示されます。デフォルトのルールセットは、次の JavaScript URL 変数をリライトします。

- `imgsrc`
- `location.href`
- `_fr.location`
- `mf.location`
- `parent.location`
- `self.location`

JavaScript コンテンツルールの URL 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="URL">variable_name</Variable>
```

ここで `variable_name` はリライトされる変数の名前です。

JavaScript EXPRESSION 変数

EXPRESSION 変数の右側には式が表示されます。この式の結果が URL です。リライトはこのような式を評価できないため、式を HTML ページに変換するための JavaScript 関数を付加します。この関数はパラメータに式をとり、クライアントブラウザで式を評価します。

デフォルトのルールセットは、JavaScript EXPRESSION 変数 `location` をリライトします。

JavaScript コンテンツルールの EXPRESSION 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="EXPRESSION">variable_exp</Variable>
```

ここで `variable_exp` は式変数です。

JavaScript DHTML 変数

DHTML は、HTML コンテンツを保持する JavaScript 変数です。デフォルトのルールセットは、次の JavaScript DHTML 変数をリライトします。

- `document.write`
- `document.writeln`

JavaScript コンテンツルールの DHTML 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="DHTML">variable</Variable>
```

ここで `variable` は DHTML 変数です。

JavaScript DJS (ダイナミック JavaScript) 変数

DJS (ダイナミック JavaScript) 変数は、JavaScript コンテンツを保持する JavaScript 変数です。

JavaScript コンテンツルールの DJS 変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="DJS">variable</Variable>
```

ここで `variable` は DJS 変数です。

変数内の JavaScript コードは、変換するルールがもう一つ必要です。

JavaScript システム変数

システム変数はユーザーによって宣言されない変数ですが、JavaScript 標準の一部として使用できます。

デフォルトルールセットは `window.location.pathname` JavaScript システム変数をリライトします。

JavaScript コンテンツのシステム変数の構文は次のとおりです。

```
<Variable type="SYSTEM">variable</Variable>
```

ここで *variable* はシステム変数です。

JavaScript 関数パラメータ

関数パラメータは 4 つのカテゴリに分類されます。

- [JavaScript URL パラメータ](#)
- [JavaScript EXPRESSION パラメータ](#)
- [JavaScript DHTML パラメータ](#)
- [JavaScript DJS パラメータ](#)

JavaScript URL パラメータ

URL パラメータは、URL を直接含む文字列パラメータです。

デフォルトのルールセットは、次の JavaScript URL パラメータをリライトします。

- `openURL`
- `openAppURL`
- `openNewWindow`
- `parent.openNewWindow`
- `window.open`

URL パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "URL" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。たとえば、構文の行で最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトできません。

JavaScript EXPRESSION パラメータ

EXPRESSION パラメータは、評価後に URL になる関数内の変数です。EXPRESSION パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "EXPRESSION" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。たとえば、構文の行で最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトできません。

JavaScript DHTML パラメータ

DHTML パラメータは、HTML ページを動的に生成するネイティブ JavaScript メソッドです。たとえば、`document.write()` メソッドはこのカテゴリに分類されます。

デフォルトのルールセットは、次の JavaScript DHTML パラメータをリライトします。

- `document.write`
- `document.writeln`

DHTML パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "DHTML" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。たとえば、構文の最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトされません。

JavaScript DJS パラメータ

HTML の Cascading Style Sheets (CSS) などの動的 JavaScript (DJS) パラメータも変換されます。この変換に定義されるルールはありません。これは URL が CSS の `url()` 関数にのみ表示されるためです。DJS パラメータの構文は次のとおりです。

```
<Function type = "DJS" name = "function" [paramPatterns="y,y,"] />
```

ここで *function* は評価される関数の名前、*y* はリライトの必要があるパラメータの位置を示します。パラメータの位置は、カンマで区切られます。たとえば、構文の最初と 2 番目のパラメータはリライトする必要がありますが、3 番目のパラメータはリライトされません。

XML コンテンツのルール

Web ページには XML コンテンツが含まれ、XML には URL が含まれます。リライトは XML コンテンツの URL をリライトできます。

URL を含む XML コンテンツは、次のように分類されます。

- [XML のタグテキスト](#)
- [XML の属性](#)

XML のタグテキスト

リライトはタグ名に基づいて XML コンテンツを変換します。

デフォルトのルールセットは、次の XML のタグをリライトします。

- baseroot
- img

タグテキストの構文は次のとおりです。

```
<TagText tag ="attribute" attributePatterns="name=src"/>
```

ここで *attribute* はタグの名前、*src* は属性の名前です。

XML の属性

XML の属性のルールは、HTML の属性のルールに類似しています。詳細については、[198 ページの「HTML コンテンツの属性ルール」](#)を参照してください。リライタは属性とタグ名に基づいて属性の値を変換します。

デフォルトのルールセットは、次の XML の属性をリライトします。

- xmlns
- href

HTML の属性の構文は次のとおりです。

```
<Attributes>  
  <Attribute name="attribute" [valuePatterns="name=src"/>  
</Attributes>
```

ここで *attribute* はタグの名前、*src* は属性の名前です。

リライターサービスの管理

Sun ONE Portal Server 6.2 では、リライターサービスは Sun ONE Identity Server の属性を使用して、リライタルールセットの持続的なストレージを提供します。リライタルールセットは、Web ページ内のコンテンツをリライターでどのようにリライトするかを定義します。Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、複数のリライタルールセットを Sun ONE Identity Server サービス属性として定義および保存できます。

また、コマンドラインを使用してリライターを管理できます。rwadmin コマンドについては、[第 14 章「コマンドラインユーティリティ」](#)を参照してください。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールはリライタルールセットの概念を持たないため、Sun ONE Portal Server はカスタマイズされたサービス管理プラグインモジュールを使用してリライタルールセットを管理します。すべてのリライタルールセットは Sun ONE Identity Server の組織に対してグローバルです。特定の組織レベルでのルールセットの作成はできません。

注 URLScrapperProvider は、HTML テーブルセル内で有効なコンテンツのみを収集できます。収集する HTML マークアップに、<body>、<base>、および特定の JavaScript プロシージャなどのように、テーブルセル内で表示できないマークアップを含んでいる場合、「デスクトップ」ページは正常に表示されない場合があります。収集するコンテンツを定義する場合、コンテンツが有効な HTML であることを確認するようにしてください。詳細は、「[URLScrapperProvider の制限](#)」を参照してください。

リライター URLScrapperProvider を SSL 用に設定するには

リライターの URLScrapperProvider を使用して、SSL ページを収集し、安全なセッションでアクセスできるように URL をリライトできます。

1. Sun ONE Portal Server をインストールしたサーバーに対して、次のように Web サーバー管理コンソールで信頼のできるデータベースを初期化します。
 - a. ブラウザから、次の URL を入力して Web サーバー管理ページにアクセスします。
http://servername:8088
 - b. 管理者としてログインし、「セキュリティ」タブをクリックします。
 - c. データベースのパスワードを 2 度入力し、「了解」を選択します。
2. 次の手順でパスワードファイルを作成します。

- a. ディレクトリを `/BaseDir/SUNWam/config` に変更します。
 - b. 非表示のテキストファイル `.wtpass` を作成します。
 - c. 信頼できるデータベースを初期化したときに指定したパスワードを入力します。
3. URLScrapperProvider を使用してアクセスした Web サーバーに使用される証明書に、ルート CA がインストールされていない場合、`/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig-instance_nickname.properties` ファイルに次の行を追加します。
- ```
com.sun.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true
```
- このオプションは、証明書が信用できることを JSS に示します。
4. Sun ONE Portal Server を再起動します。
- ```
/etc/init.d/amserver start
```

デフォルトテンプレートからルールセットを新規作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
 2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
 3. ナビゲーションパネルの「リライター」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されている属性のリストが、データパネルに表示されます。
 4. 「新規」をクリックします。
これによって、修正が可能なルールセットのテンプレートが表示されます。
 5. `<RuleSet id="ruleset_template">` 行を編集し、`default_ruleset` を新しいルールセットの名前で置き換えます。
 6. ルールセットテンプレート内のルールを追加または修正し、必要に応じて URL をリライトします。
 7. 「作成」をクリックし新しいルールセットを作成します。
- 成功した場合、最初のページと現在定義されているすべてのルールセットのリストが表示されます。これには作成したルールセットが含まれています。

既存のルールセットを編集するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「リライター」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されている属性のリストが、データパネルに表示されます。
4. 編集するルールセットの「編集」リンクをクリックします。
編集するルールセットの XML が表示されます。
5. ルールセットテンプレート内のルールを追加または修正し、必要に応じて URL をリライトします。
6. ルールセットの名前を変更する場合、`<RuleSet id="ruleset_template">` 行を編集し、名前をルールセットの名前に置き換えます。
7. 「保存」をクリックします。

ルールセットをダウンロードするには

ルールセットをダウンロードし、ファイルに保存することができます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「リライター」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されている属性のリストが、データパネルに表示されます。
4. ファイルに保存するルールセットの「ダウンロード」リンクをクリックします。
5. ファイル名を指定し、保存します。

ルールセットをアップロードするには

ルールセットのファイルをシステムにアップロードできます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。

3. ナビゲーションパネルの「リライター」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されている属性のリストが、データパネルに表示されます。
4. リストされるルールセットの隣にある「アップロード」リンクをクリックします。
5. アップロードするルールセットのファイル名を参照して指定するか、直接入力します。
6. 「アップロード」をクリックします。

ファイル内の `<RuleSet id="ruleset_template">` 行で定義された名前がシステムのルールセット名と一致する場合、そのルールセットファイルはファイルの内容で置き換えられます。`<RuleSet id="ruleset_template">` 行で定義される名前が固有の場合、新しいルールセットがその名前で作成され、リストに追加されます。

既存のルールセットを削除するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「リライター」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
現在定義されている属性のリストが、データパネルに表示されます。
4. 削除するルールセットの隣にあるチェックボックスをクリックします。
複数のルールセットを選択できます。
5. 「削除」をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。
6. 「はい」をクリックして選択したルールセットを削除します。

デフォルトのルールセットを復元するには

誤ってデフォルトのルールセットを削除した場合、次のようにして復元できます。

```
rwadmin store --runasdn "uid=amadmin, ou=people, o=sesta.com, o=isp"  
--password "testing123" /resources/DefaultRuleSet.xml
```

ここで、"/resources/DefaultRuleSet.xml" は `rewriter.jar` ファイルに保存されたルールセットの場所です。

注 インストール時にパッケージされたデフォルトのルールセットが復元されます。デフォルトのルールセットをカスタマイズした場合、変更は復元されません。

検索エンジンサービスの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server の検索エンジンサービスを設定および管理する方法について説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [検索エンジンサービスの概要](#)
- [検索チャネルの設定](#)
- [検索エンジンの管理](#)
- [ロボットの管理](#)
- [データベースの管理](#)
- [データベース分類の管理](#)

検索エンジンサービスの概要

Sun ONE Portal Server の検索エンジンは、Google や Alta Vista などの一般的なインターネット検索エンジンと同様のインタフェースで検索とブラウズをサポートする、分類およびデータベースサービスです。また、検索エンジンには、ドキュメントリソースを検索、変換、および要約するロボット型検索の機能もあります。Sun ONE Portal Server 6.2 では、デスクトップのみが JSP™ プロバイダを使用してインタフェースを提供しています。また、検索エンジンには、設定編集のための管理ツールおよびシステム管理のためのコマンドラインツールもあります。設定は、Sun ONE Identity Server のサービス属性値として Sun ONE Identity Server 管理コンソールで定義し、格納します。

注	管理コンソールを使用すると、管理者は検索エンジンオプションの大部分を設定できますが、コマンドラインから使用できるすべての管理機能を実行できるわけではありません。
---	--

検索データベース

特定のリソースや複数の種類にまたがるリソースの検索には、データベースを使用します。データベースの個々のエントリをリソース記述 (RD) と呼びます。リソース記述とは、単一のリソースに関する特定の情報のセットのことです。なお、各リソース記述のフィールドは、データベーススキーマによって設定されます。

データベースに RD を指定する場合、2つの方法があります。

- RD の作成 : 通常はこの方法を使用する。ロボットプロセスを使用してリソースを検索し、その記述を生成する
- RD の交換 : 大規模な分散ネットワークインデックスに適している。リモートシステムで生成した RD を、検索エンジンでデータベースにインポートする。

Sun ONE Portal Server 検索エンジンの RD は、SOIF (Summary Object Interchange Format) や RDM (Resource Description Message) などのオープンなインターネット標準に基づいています。このため、検索エンジンはクロスプラットフォームの企業環境でも動作します。

検索ロボット

データベースに情報を格納する方法の一つにロボットの使用が挙げられます。検索エンジンはロボットを使用してドメインのリソースを検索し、その結果を報告します。ロボットは小規模なプログラムですが、次の2つの機能を備えています。

- リソースへのリンクを抽出し、追跡する (列挙またはクローリングとも呼ばれる)
- RD を作成し、データベースに格納する (生成またはインデックス作成とも呼ばれる)

システム管理者として、さまざまな方法で、あらゆる局面にわたってこれらのプロセスを制御することが出来ます。主な制御対象は次のとおりです。

- ロボットの開始、停止、およびスケジュールを設定して、ロボットの稼動時間を制御する。
- ロボットがアクセスするサイトを定義して、ロボットがリソースを検索する場所を制御する
- クローリング属性を定義して、検索の頻度を制御する
- フィルタを定義して、ロボットがインデックスを作成するリソースタイプを制御する
- インデックス属性を定義して、データベースに作成するエントリの種類を制御する

検索エンジンには、ロボットの実行結果を確認するためのユーティリティもあります。

データベース分類カテゴリ

ユーザーが検索システムと対話する場合、2つの方法があります。クエリを直接入力してデータベースを検索する方法と、カスタムなカテゴリセットを使用してデータベースコンテンツ経由でブラウズする方法です。カテゴリの階層構造は分類と呼ばれます。リソースの分類は、データベースに目次を作成することに例えることができます。

ブラウズは、検索システムではオプションの機能です。つまり、カテゴリによるブラウズの機能がなくても、検索システムは十分有用なものになります。表示可能なカテゴリを追加することがインデックスのユーザーに役立つかどうか、さらに、作成するカテゴリの種類も検討する必要があります。

検索データベースのリソースは、検索手順を単純にするためにカテゴリに割り当てられます。データベースに多数の項目がある場合には、関連する項目をグループ化すると便利です。これによって、ユーザーは特定の種類の項目をすばやく検索したり、類似する項目と比較したり、目的の項目を選択したりすることができます。

このような分類は製品およびサービスのインデックスに共通です。衣料品のカタログでは、衣類を男性用、女性用、および子供用に分類して、さらに、これらのカテゴリをコート、シャツ、靴などに分類します。オフィス製品カタログの場合、家具は文具、コンピュータ、およびソフトウェアと区別されます。広告ディレクトリは、製品とサービスのカテゴリによって編成されます。

印刷物の索引で項目をカテゴリ別に分類するときの原則は、オンラインインデックスにも当てはまります。この発想では、種類別に検索することが容易になるので、ユーザーは目的のリソースを選択できます。設計するインデックスの適用範囲を問わず、カテゴリを設定する際にもっとも重要なのは使いやすさです。したがって、ユーザーがどのようにカテゴリを使用するかを知る必要があります。たとえば、異なる場所に3つの支社を持つ企業のためにインデックスを設計する場合、トップレベルのカテゴリを支社ごとに作成しようとするかもしれません。しかし、ユーザーにとって、支社の所在地よりも各部門の機能の方が重要であれば、リソースを部門別に分類することが適切です。

カテゴリを定義すると、カテゴリにリソースを割り当てるための規則を設定する必要があります。この規則を、分類規則と呼びます。分類規則を適切に定義しないと、ユーザーがカテゴリでブラウズしようとしても、リソースを検索できないことがあります。リソースは正しく分類する必要がありますが、同時にドキュメントの分類も適切でなければなりません。

ドキュメントは、この値に設定した最大数を上限として、任意の数のカテゴリに割り当てることができます。分類規則はフロー制御による判定を実行しないので、フィルタ規則よりも単純です。分類規則では、特定のカテゴリをリソース記述の一部としてリソースに割り当てるための条件を決定する必要があります。分類規則は、「もし<ある条件>が真ならば、リソースを<カテゴリ>に割り当てる」という形式の簡単な条件文で作成されます。

検索チャネルの設定

ここでは 検索エンジンサービスの初期設定の方法について説明します。設定は、Sun ONE Identity Server 管理コンソールで、Sun ONE Identity Server のサービス属性値として定義し、格納します。

検索サービスはグローバルに登録されるので、その設定は Portal Server 全体に適用されます。デフォルトでは、Sun ONE Portal Server のインストール時に指定した組織に、検索サービスが登録されます。サンプルのポータルをインストールすると、サンプルのポータルデスクトップの検索タブに検索チャネルが配置されます。この検索チャネルは Sun ONE Portal Server のインストール中に設定するものです。ただし、新規組織と新規インスタンスには、検索 URL を定義する必要があります。

検索プロバイダユーザーのデフォルトの動作では、ユーザーがクエリを入力すると、「一致がありません」というメッセージが表示されます。

検索結果を取得するには、検索サーバーを設定してドキュメントデータベースを作成する必要があります。

検索サーバーの初期設定

次の手順にしたがって検索プロバイダを設定します。この手順はデータベースに取り込む方法の一例です。インポート機能を使用することもできます。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。

2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. 新規サイトを作成します。
 - a. 「ロボット」をクリックします。
 - b. 「サイト」をクリックします。
 - c. 「サイトの管理」の「新規」をクリックして、ロボットでインデックスを作成するサイトを定義します。
 - d. サイト (URL またはドメイン) のタイプ、インデックスを作成するサイト、およびロボットがクロールする深さを指定します。
 - e. 「サイトの作成」を選択してデフォルトの検索属性を使用します。あるいは、「サイトの作成と編集」を選択して検索サイトを詳細に定義します。

サイトを定義する属性については、付録 F 「検索の属性」を参照してください。

5. 分類を作成します。
「カテゴリ」の下の「カテゴリエディタ」を使用して分類を作成するか、サンプルの分類 SOIF ファイルを config/taxonomy.rdm にコピーします。
6. 使用しないデフォルトのフィルタを無効にします。
「ロボット」をクリックし、「フィルタ」をクリックします。「フィルタルール」リストで使用しないフィルタをオフにします。
7. (省略可能) カテゴリ別にドキュメント結果を取得する必要があるなら、ここでロボット分類規則を作成します。
「カテゴリ」の下にある「分類ルールエディタ」を使用して、ロボット分類規則を作成できます。
8. ロボットを開始します。
「ロボット」、「概要」をクリックし、次に「開始」をクリックし、ロボットを開始します。
9. カテゴリのインデックスを再作成します。
「カテゴリ」、「インデックスの再作成」をクリックして、インデックスを再度作成します。

検索 URL を定義するには

searchServer プロパティは検索 URL を定義します。デフォルトの組織の場合、この値は自動的に設定されます。ただし、新規に組織や SearchProvider インスタンスを作成する場合、またはサンプルの dp-org.xml を手動でロードする場合には定義されません。値が定義されていない場合にユーザーが検索を実行すると、ユーザーのデスクトップに次のエラーメッセージが表示されます。

```
You got a  
com.sun.portal.search.providers.taglib.SearchTaglibException:Search  
Request Error:search server is not defined.
```

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. 検索 URL を定義する組織を選択します。
3. 「表示」メニューから「サービス」を選びます。
ナビゲーションパネルの「表示」メニューとロケーションパネルの「場所」パスを使用します。

4. ナビゲーションパネルの「ポータルデスクトップ」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
デスクトップ属性ページがデータパネルに表示されます。
5. デスクトップページで「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを選択します。
「チャンネル」ページが表示されます。ページの上部にコンテナのパスが表示されます。定義済みのチャンネルがリストに表示されます。
6. 変更する検索チャンネルの隣の「プロパティの編集」リンクを選択します。
「プロパティ」ページが表示されます。
7. 次の書式で検索サーバープロパティに検索 URL を指定します。
http://portal_server_name:port/portal/search
8. 「保存」をクリックします。
9. 検索 URL を確認する場合、次の操作を行います。
 - a. 検索 URL を設定した組織にログインします。たとえば、次のように B という名前の組織にログインします。
http://portal_server_name:port/amserver/ui/login?org=B
 - b. 検索チャンネルから検索を実行します。

検索エンジンの管理

検索エンジンの初期設定とデータベースの生成が完了すると、Sun ONE Identity Server 管理コンソールで検索エンジンの表示と管理ができるようになります。

検索エンジン操作の表示、管理、監視

検索エンジンの操作属性には、基本と詳細の 2 つのレベルがあります。基本設定ページは、検索サービスを管理コンソールから選択したときにデフォルトで表示されます。表示される基本設定には、サーバールート、一時ファイルの場所、およびドキュメントレベルのセキュリティが含まれます。詳細設定には、検索エンジンの各種コンポーネントのログの場所と、設定されたログレベルが含まれます。

さらに、管理コンソールを使用して、管理者はログファイルから抽出されたログファイルまたは特定の情報を表示することができます。

基本設定を表示または管理するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「サーバー」、「設定」の順に選択します。
5. 検索エンジンのサーバールートのディレクトリを表示します。
6. 検索エンジンの一時ファイルのディレクトリを表示または指定します。
7. ドキュメントレベルのセキュリティ属性を表示または指定します。
「オフ」の場合、すべてのユーザーがこのデータベースの RD にアクセスできます。「オン」の場合、RD の ReadACL フィールドを評価して、ユーザーに RD へのアクセス権があるかどうかを判断する必要があります。
8. 「保存」を選択して、変更した属性を記録します。

詳細設定を表示または管理するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「サーバー」、「詳細」の順に選択します。
5. 詳細属性を表示または指定します。
ここでは、「検索 (rdm)」、「検索ログを無効にする」、「インデックスのメンテナンス」、「RD マネージャ」、「RDM サーバー」、および「ログレベル」が設定できます。
6. 「保存」を選択して、変更した設定を記録します。

検索エンジンのアクティビティを監視するには

検索エンジンは、検索アクティビティを監視するための多数のレポートを提供します。各種レポートを表示するには、次の手順に従います。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. 「レポート」を選択します。
5. メニューバーのリンクを選択すると特定のレポートが表示されます。
ここでは、次のレポートオプションを使用できます。「開始位置」、「除外 URL」、「ロボットの詳細レポート」、「ログファイル」、「頻度の高い検索」です。

ロボットの管理

ロボットを管理するために必要な設定とメンテナンスのタスクを次に示します。

- [サイトの定義](#)
- [ロボットのクローリングの制御](#)
- [ロボットデータのフィルタリング](#)
- [インデックス作成の属性の定義](#)
- [ロボットユーティリティの使用](#)
- [ロボットのスケジュール設定](#)

サイトの定義

ロボットはリソースを見つけて、それらの記述をデータベースに追加するかどうか（およびその方法）を決定します。どのサーバーを訪問し、サーバーのどの部分のインデックスを作成するかの判断が、サイト定義に呼び出されます。

検索エンジンのサイトの定義は、サーバー管理者の最も重要な作業の1つです。ロボットは、インデックス作成が必要なすべてのサーバーに送信しなければなりません。同時に、データベース領域を過度に拡張して正確な情報の検索を困難にする可能性のある外部サイトを排除することも必要です。

ロボットでインデックスを作成するサイトを定義するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「サイト」の順に選択します。
5. 次のようにサイトを作成します。
 - a. 「新規」をクリックします。
 - b. サイトのタイプ (URL またはドメイン) を選択します。
 - c. サイトと深さを指定します。
 - d. 「保存」をクリックします。
6. サイト属性を編集するには、「編集」リンクをクリックします。
サイト属性の形式が表示されます。サイト属性については、付録 F 「検索の属性」を参照してください。
 - e. 属性を編集します。
 - f. 「保存」をクリックします。

ロボットのクローリングの制御

ロボットはインデックスの作成のために選択したさまざまなサイトにクロールします。管理者はクローリング操作パラメータを定義することで、ロボットのサイト検索方式を制御できます。クローリングパラメータにより、速度、完了動作、ログインレベル、規格への準拠、認証パラメータ、プロキシ設定、追従する最大リンク数、その他の設定を定義できます。ロボットのクローリングの属性については、付録 F 「検索の属性」を参照してください。

ロボットのクローリングを制御するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」を選択し、次に「クローリング」を選択します。
これにより、ロボットのクローリング操作パラメータと設定を定義する属性のフォームが表示されます。ロボットのクローリングの属性については、[付録 F 「検索の属性」](#)を参照してください。
5. 必要に応じてロボットのクローリング属性を変更します。

注 jvm12.conf ファイルにプロキシ設定 (http.proxyHost= と http.proxyPort= オプションを使用) がある場合は、「すべてのホストからのコマンドを受け入れる」をチェックしてからロボットを実行する必要があります。

6. 「保存」をクリックします。

ロボットデータのフィルタリング

フィルタを使用すると、リソースの属性をフィルタ定義と比較することでリソースを識別できるようになるので、これをサイト定義から除外することも、サイト定義に含むこともできます。ロボットには多くの事前定義されたフィルタがあります。一部のフィルタはデフォルトで有効です。次のフィルタは事前定義されています。アスタリスク (*) の付いたファイルがデフォルトで有効です。

- アーカイブファイル *
- オーディオファイル *
- バックアップファイル *
- バイナリファイル *
- CGI ファイル *
- 画像ファイル *
- Java、JavaScript、スタイルシートファイル *
- ログファイル *

- Power Point ファイル
- リビジョン管理ファイル*
- ソースコードファイル*
- 一時ファイル*
- ビデオファイル*
- スプレッドシートファイル
- プラグインファイル
- Lotus Domino ドキュメント
- Lotus Domino オープンビュー
- システムディレクトリ (UNIX)
- システムディレクトリ (NT)

フィルタリングプロセスの管理には、新規フィルタ定義を作成する方法、フィルタ定義を変更する方法、およびフィルタを有効、または無効にする方法があります。

新規フィルタ定義を作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」の順に選択します。
5. 「新規」を選択して、新規フィルタのニックネームを指定します。
6. 「フィルタ定義」では、チェックボックスをオンにして、「フィルタソース」、「選別基準」、および「フィルタ文字列」の値を指定します。必要に応じて、任意の数の「フィルタ定義」を指定することができます。
7. フィルタの説明を入力します。
8. 新規サイトの作成時にこのフィルタを使用するには「新規サイト」をチェックします。
9. このフィルタに一致するリソースを含めるか除外するかをボタンで指定します。
10. 「保存」をクリックします。

既存のフィルタ定義を変更するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」の順に選択します。
5. 「フィルタルール」リストから変更するフィルタを検索し、「編集」リンクをクリックします。
6. 必要に応じてフィルタを変更します。
7. フィルタの説明を入力します。
8. 「保存」をクリックします。

フィルタを有効または無効にするには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「ロボット」、「フィルタ」の順に選択します。
5. 「フィルタルール」リストで変更するフィルタを検索します。
6. フィルタのオンまたはオフを示すボタンを選択します。
7. 「保存」をクリックします。

インデックス作成の属性の定義

ロボットフィルタを通過する各リソースに、ロボットによってデータベースに格納する RD を生成します。RD 生成を設定するときの選択によって、データベース検索時にユーザーに表示する範囲が決定されます。たとえば、ドキュメントの全文や、ドキュメントの最初の固定部分だけに対してインデックスを作成することができます。

インデックス作成の属性を定義するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「インデックス作成」の順に選択します。
ロボットによるインデックス作成操作パラメータと設定を定義する属性のページが表示されます。ロボットのインデックス作成の属性については、[付録 F「検索の属性」](#)を参照してください。
5. 必要に応じてロボットのインデックス作成の属性を変更します。
6. 「保存」をクリックします。

ロボットユーティリティの使用

ロボットには次の 2 つのデバッグツールまたはユーティリティがあります。

- サイトプローブ: DNS エイリアス、サーバーリダイレクト、仮想サーバーなどを確認する
- シミュレータ: 特定の URL でロボットフィルタリングを部分的にシミュレートする。確認する URL を入力して「了解」を選択する。シミュレータは表示されたサイトをロボットが受け入れるかどうかを示す。

サイトプローブユーティリティを実行するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「サイトプローブ」の順に選択します。
5. プローブするサイトの URL を入力します。
6. プローブで DNS 情報を取得するには、「DNS 情報の詳細を表示」を選択します。
7. 「了解」を選択して、サイトプローブを開始します。

シミュレータを実行するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「シミュレータ」の順に選択します。
5. シミュレーションを実行する URL を入力します。
6. シミュレータでエイリアスを確認するには、「DNS エイリアスを確認」を選択します。
7. シミュレータでリダイレクトを確認するには、「サーバーリダイレクトを確認 (302)」を選択します。
8. 「了解」を選択して、シミュレータを開始します。

ロボットのスケジュール設定

検索データを最新に維持するには、ロボットはサイトを定期的に検索して、インデックスを作成する必要があります。ロボットのクローリングとインデックス作成は処理リソースとネットワークの帯域幅を消費する場合があります。これらのリソースの制約を避けるために、ピーク以外の時間帯にロボットを実行するようにスケジュール設定する必要があります。管理コンソールを使用すると、管理者はロボットを実行する日時を指定して cron ジョブをセットアップすることができます。

ロボットのスケジュールを設定するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「ロボット」、「スケジュール」の順に選択します。
5. ロボットを開始する曜日と時刻 (時間と分) を選択します。
6. ロボットを停止する曜日と時刻を選択します。

7. 「保存」をクリックします。

データベースの管理

検索エンジンは RD をデータベースに格納します。次にデータベースの管理に必要な設定と保守タスクを示します。

- [データベースへのインポート](#)
- [リソース記述の編集](#)
- [データベーススキーマの編集](#)
- [スキーマのエイリアスの定義](#)
- [データベース分析の表示](#)
- [データベースのインデックスの再作成](#)
- [データベースの期限切れ](#)
- [データベースの破棄](#)
- [データベースのパーティションの作成](#)

データベースへのインポート

通常、検索データベースの項目はロボットから取得します。ユーザーはロボットにアクセスするサイトを指定し、ロボットはそのサイトのすべてのリソースを検索して RD を作成します。ただし、他の Sun ONE Portal Server 検索エンジン、iPlanet Web Server や Netscape™ Enterprise Server、または別のソースから生成したデータベースから既存の項目のデータベースをインポートすることもできます。ロボットを使用して新規に作成する代わりに RD の既存データベースをインポートすると、ネットワークトラフィックが大幅に減少し、大量のインデックス作成作業を分割できるので、より高速にインデックスを作成できます。中央データベースがインデックスを作成するサーバーから物理的に遠くにある場合には、RD をローカルに生成して、中央データベースに各地点のリモートデータベースを定期的にインポートすると便利です。

検索エンジンは、インポートエージェントを使用して、別のサーバーやデータベースから RD をインポートします。インポートエージェントは、外部ソースから RD を検索して、ローカルデータベースに情報をマージするプロセスです。RD のインポート元、インポート元で検索するデータ、およびこのジョブの実行方法を詳細に調整するための情報を指定するパラメータがあります。

データベースをインポートする前に、インポートエージェントを作成する必要があります。エージェントを作成したら、すぐにインポートプロセスを開始することも、インポートプロセスのスケジュールを設定してから実行することもできます。

インポートエージェントを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. 「データベース」を選択し、次に「エージェントのインポート」リンクをクリックします。
5. 「新規」をクリックします。
インポートエージェントの属性ページが表示されます。
6. インポートエージェントに適切な属性を指定します。
データベースインポートの属性については、[付録 F「検索の属性」](#)を参照してください。
 - a. ソースがローカルファイルであるか、検索サーバーであるかを指定します。
 - b. ソースがファイルの場合には、ローカルファイルパスを指定します。
 - c. ソースが別の検索サーバーの場合には、リモートサーバー、インスタンス名、および検索 URI の URL を指定します。
 - d. インポートするデータベースの名前を指定します。
 - e. インポートエージェントの文字セットを指定します。
7. 「保存」をクリックします。

既存のインポートエージェントを編集するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。

4. 「データベース」を選択し、次に「エージェントのインポート」リンクをクリックします。
5. 編集するエージェントの右側にある「編集」リンクをクリックします。
6. インポートエージェントに適切な属性を指定します。
データベースインポートの属性については、付録 F「検索の属性」を参照してください。
7. 「保存」をクリックします。

リソース記述の編集

リソース記述の内容の変更が必要になることがあります。たとえば、元のドキュメントからリソース記述にコピーしたときに、スペルミスまでコピーした場合には、スペルの修正が必要になります。

リソース記述を編集するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」を選択し、次に「リソース記述」を選択します。
5. 検索する RD のタイプを選択して編集します。
ここでは、「すべての RD」、「カテゴリ化されていない RD」、「カテゴリ化された RD」、「カテゴリごとの RD」、「URL 特定の RD」、「RD を検索」を選択できます。
6. 「RD を検索」では、リソース記述で検索するテキスト文字列を指定します。
7. 「検索」をクリックします。
8. 見つかったリソース記述のリストで、編集するリソース記述を選択します。
9. 適切なリソース記述属性を編集します。
10. 「保存」をクリックします。

データベーススキーマの編集

スキーマは、検索エンジンで管理するリソースごとの情報とその形式を決定します。スキーマの設計によって、インデックスの有用性に影響する次の2つの要因が決まります。

- ユーザーがリソースを検索する方法
- ユーザーがリソース情報を表示する方法

スキーマはデータベースのリソース記述のマスタデータ構造です。データ構造フィールドのインデックス作成方法と定義方法によって、リソースへのアクセス頻度が変わります。

スキーマは、検索エンジンとそのロボットが使用するファイルの構造に密接に結びついています。管理コンソールでスキーマツールを使用してデータ構造を変更するだけです。スキーマファイル (`schema.rdm`) は単なるテキストファイルですが、直接編集しないでください。

検索エンジンのデータベーススキーマを編集すると、新規のスキーマ属性の追加、スキーマ属性の編集、あるいは属性の削除ができます。

スキーマには次の属性があります。

- **編集可能** : オンの場合、この属性はリソース記述エディタに表示される属性を示すので、ユーザーは値を変更できる。リソース記述エディタについては [227 ページの「リソース記述の編集」](#) を参照。
- **インデックス作成可能** : この属性は「詳細検索」画面のポップアップメニューにフィールドが表示されることを示す。ユーザーは特定のフィールド内の値を検索できる。
- **説明** : これはスキーマの記述に使用するテキスト文字列である。コメントや注釈に使用する。
- **エイリアス** : この属性は、インポートしたデータベーススキーマ名をユーザー独自のスキーマに変換するためのエイリアスを定義する

データベーススキーマを編集するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。

4. メニューバーで「データベース」を選択し、次に「スキーマ」を選択します。
「スキーマ」属性ページが表示されます。
5. スキーマに新しい属性を追加するには、次の手順を実行します
 - a. 「スキーマリスト」の下の「新規」を選択します。
 - b. 「名前」および「説明」フィールドに、新しい属性の名前と説明を入力します。
 - c. 「編集可能」にチェックマークを付けて、属性を編集可能にします。
 - d. 「インデックス作成可能」にチェックマークを付けて、属性をインデックスの作成可能にします。
6. 既存の属性を編集可能にするか、あるいはインデックスを作成可能にするには、次の手順を実行します。
 - a. スキーマのリストから属性の隣にある「編集」リンクをクリックします。
「スキーマ」属性ページが表示されます。
 - b. 「編集可能」にチェックマークを付けて、属性を編集可能にします。
 - c. 「インデックス作成可能」にチェックマークを付けて、属性インデックスを作成可能にします。
 - d. 「更新」をクリックします。
7. 属性を削除するには、次の手順を実行します。
 - a. スキーマリストで属性にチェックマークを付けます。
 - b. 「削除」をクリックします。

注 検索エンジンのスキーマを変更するには、データベース全体のインデックス作成を再実行し、サーバーを再起動しなければならないことがあります。これは、検索エンジンのハイライト機能がスキーマフィールドの順序とタイプに影響されるためです。テキストフィールドの追加と削除（削除後に再追加した場合も同様）を行うと、検索結果のハイライト表示が不正確になる可能性が高くなります。

スキーマのエリアスの定義

一部のインスタンスの名前は、データベーススキーマのフィールド名と矛盾している可能性があります。1つはサーバーから別のサーバーへリソース記述をインポートするときのものです。2つのサーバーのスキーマの項目名が同一であることを、常に保証することはできません。同様に、ロボットが HTML META タグをドキュメントからスキーマフィールドに変換するときは、名前はドキュメントによって制御されます。

検索エンジンは、ユーザーのスキーマ属性にスキーマのエリアスを定義して、外部スキーマ名をデータベースのフィールドに有効な名前にマッピングできるようにします。

スキーマのエリアスを定義するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. 「データベース」を選択し、次に「スキーマ」リンクをクリックします。
「スキーマ」属性ページが表示されます。
5. エリアスを定義する属性をクリックします。
6. インポートしたデータベースで使用するフィールド名を指定します。
7. 「更新」をクリックします。
8. 「インデックスの再作成」をクリックします。
大規模なデータベースの場合、インデックスの再作成プロセスに数時間かかることがあります。

データベース分析の表示

検索エンジンのレポートには、インデックスを作成したサイトの数、およびデータベースの各サイトのリソースの数を含む情報が含まれます。

データベース分析情報を表示するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. メニューバーで「データベース」、「解析」の順に選択します。
現在検索データベースに存在するすべてのサイトをソートしたリストと、各サイトのリソースの数です。
5. 「保存」を選択して最新のリストを生成します。

データベースのインデックスの再作成

一部のインスタンスでは、検索エンジンが使用するリソース記述データベースのインデックスを再作成する必要があります。わかりやすい例は、スキーマを編集してインデックスフィールドを追加または削除する場合です。

ディスクエラーによってインデックスファイルが破損した場合にも、データベースのインデックスを再作成する必要があります。また、新規のリソース記述を大量に追加したあとにインデックスを再作成することも有効です。

データベースのインデックスを再作成するのに、数時間を要する場合があります。

データベースのインデックスの再作成に要する時間は、データベースに含まれるレコードの数に比例します。大規模なデータベースでは、サーバーの負荷が低い時にインデックスの再作成を行うようにしてください。

データベースのインデックスを再作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. 「データベース」を選択し、次に「管理」を選択します。
5. 「データベースリスト」の下の「インデックスの再作成」をクリックします。

6. 「データベースインデックスの再作成」にチェックマークを付けて、「了解」をクリックします。

検索エンジンによって、検索コレクションとそのインデックスファイルが再構築されます。

データベースの期限切れ

データベースが期限切れになると、古くなったリソース記述も期限切れになります。リソース記述が期限切れになるのは、期限切れを実行するときだけです。期限切れになったリソース記述が削除されても、データベースのサイズは減少しません。

データベースを期限切れにするには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. 「データベース」を選択し、次に「管理」を選択します。
5. 「データベースリスト」の下の「期限切れ」を選択します。
6. 期限切れにするデータベースを確認し、「了解」をクリックします。

データベースの破棄

リソース記述の属性の1つに有効期限があります。ロボットはHTML META タグ、またはリソースのサーバーが提供する情報を基に有効期限を設定します。リソースが有効期限を指定しない限り、リソース記述はデフォルトで作成から3カ月有効です。期限切れのリソース記述は、検索エンジンによって定期的にデータベースから破棄される必要があります。

破棄を実行すると、データベースの中身を削除できます。これによって、インデックス用のディスク領域は回復しますが、メインデータベースのディスク領域は回復できません。これは、この領域が新規のデータをデータベースに追加したときに再利用されるためです。

サーバーから期限切れのリソース記述を破棄するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティ矢印を選択します。
4. 「データベース」を選択し、次に「管理」を選択します。
5. 「データベースリスト」の下に「破棄」を選択します。
6. 「データベースの破棄」にチェックマークを付けて、「了解」をクリックします。
破棄が完了すると、システムに破棄が正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースのパーティションの作成

検索エンジンを使用すれば、複数のディスク、ファイルシステム、ディレクトリ、またはパーティションにまたがる検索データベースの物理ファイルを分割できます。異なる物理デバイス、または論理デバイスにデータベースを拡張することで、単一のデバイスを使用するよりも大きなデータベースにできます。

デフォルトでは、検索エンジンは1つのディレクトリだけを使用するデータベースを設定します。コマンドラインインタフェースを使用すると、データベースパーティションに次の2種類の操作を実行できます。

- 新しいパーティションの追加
- パーティションの移動

検索エンジンは、各パーティションに空き領域があるかどうかを確認しません。データベースに適切な空き領域を確保するのは、ユーザーの作業です。

データベースのパーティションは、合計で最大15個追加できます。

注 一度パーティションの数を増やすと、あとでパーティションの数を減らすには、データベース全体を削除する必要がありますので注意してください。

新しい場所の名前を指定することで、データベースパーティションの物理的な場所も変更できます。同様に、既存のパーティションの名前も変更できます。パーティションを操作するには `rdmgr` コマンドを使用します。`rdmgr` コマンドについては第 14 章「コマンドラインユーティリティ」を参照してください。

データベース分類の管理

次に、データベース分類を管理するために必要な設定とメンテナンスのタスクを示します。

- [カテゴリの設定](#)
- [分類規則の定義](#)

カテゴリの設定

Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用してデータベース分類を設定するには、次の手順を実行します。

- [子カテゴリを作成するには \(親カテゴリのサブカテゴリ\)](#)
- [シブリングカテゴリを作成するには \(同レベルのカテゴリ\)](#)
- [カテゴリを更新するには](#)
- [カテゴリの削除](#)

子カテゴリを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. 子カテゴリを作成するカテゴリを選択します。
それまでにカテゴリを定義していない場合、一覧表示されるのは、「検索」というルートカテゴリだけです。下位への検索リンクを選択して、ルートカテゴリを展開します。

6. 「名前」フィールドに、カテゴリの名前を指定します。
7. 「説明」フィールドに、カテゴリの説明を指定します (省略可能)。
8. 「子として追加」をクリックして、カテゴリを作成します。
9. 「保存」をクリックします。

注 表示可能なカテゴリが複数ページにまたがる場合、カテゴリエディタには移動先のリストが表示されます。ページを上下に移動するボタンを使用して、現在のページから1ページずつ上下にスクロールします。複数のページを移動するには、移動先ボタンを使用します。

シブリングカテゴリを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. シブリングカテゴリを作成するカテゴリを選択します。
6. 「名前」フィールドに、カテゴリの名前を指定します。
7. 「説明」フィールドに、カテゴリの説明を指定します (省略可能)。
8. 「兄弟として追加」をクリックして、カテゴリを作成します。
9. 「保存」をクリックします。

注 表示可能なカテゴリが複数ページにまたがる場合、カテゴリエディタには移動先のリストが表示されます。ページを上下に移動するボタンを使用して、現在のページから1ページずつ上下にスクロールします。複数のページを移動するには、移動先ボタンを使用します。

カテゴリを更新するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. 更新するカテゴリを選択します。
6. カテゴリ名を変更するには、「名前」フィールドにカテゴリの新しい名前を指定します。
7. カテゴリの説明を変更するには、「説明」フィールドにカテゴリの説明を指定します。
8. 「更新」をクリックします。
9. 「保存」をクリックします。

注 表示可能なカテゴリが複数ページにまたがる場合、カテゴリエディタには移動先のリストが表示されます。ページを上下に移動するボタンを使用して、現在のページから1ページずつ上下にスクロールします。複数のページを移動するには、移動先ボタンを使用します。

カテゴリの削除

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーから「カテゴリ」、「カテゴリエディタ」の順に選択します。
5. 削除するカテゴリを選択します。
カテゴリを削除すると、すべての子カテゴリも削除されます。
6. 「削除」をクリックします。
7. 「保存」をクリックします。

注 表示可能なカテゴリが複数ページにまたがる場合、カテゴリエディタには移動先のリストが表示されます。ページを上下に移動するボタンを使用して、現在のページから1ページずつ上下にスクロールします。複数のページを移動するには、移動先ボタンを使用します。

分類規則の定義

分類規則は簡単な条件文です。その形式は「<ある条件>が真であれば、リソースを<カテゴリ>に割り当てる」です。

分類規則を定義するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. ナビゲーションパネルの「検索」の隣にあるプロパティの矢印を選択します。
4. メニューバーで「カテゴリ」、「分類ルールエディタ」の順に選択します。
5. 新しい規則を作成する場合は、「新規」をクリックします。
6. 既存の規則を編集する場合は、その規則を選択します。
7. ドロップダウンメニューから、使用する要素タイプまたは属性をクリックしてリソース进行分类します。
8. ドロップダウンメニューから、比較テストを選択します。
使用可能な比較テストは「次と等しい場合」、「次を含む場合」、「次から始まる場合」、「次で終わる場合」、または正規表現です。
9. 比較するテキスト文字列を定義します。
10. 比較が真の場合にリソース进行分类するカテゴリをクリックします。
11. 「保存」をクリックします。

検索エンジンロボットの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server の検索エンジンロボットおよび対応する設定ファイルについて説明します。この章で説明する内容は次のとおりです。

- [検索エンジンロボットの概要](#)
- [ロボットプロセスパラメータの設定](#)
- [フィルタリング処理](#)
- [ユーザーが変更できるパラメータ](#)
- [robot.conf ファイルの例](#)

検索エンジンロボットの概要

検索エンジンロボットは、ドメイン内のリソースを特定し、レポートを作成するエージェントです。これには、[列挙子フィルタ](#)と[ジェネレータフィルタ](#)の2種類のフィルタを使用します。

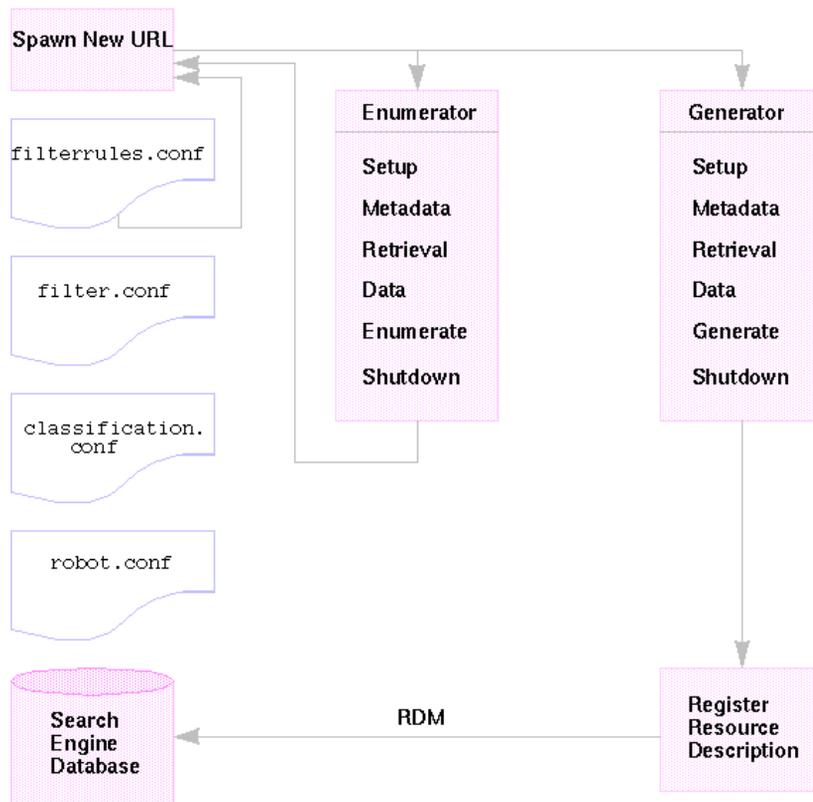
[列挙子フィルタ](#)は、ネットワークプロトコルを使用してリソースを検出します。[列挙子フィルタ](#)は、各リソースをテストし、適切な基準に一致した場合はリソースを列挙します。たとえば、[列挙子フィルタ](#)は HTML ファイルからハイパーテキストリンクを抽出し、そのリンクを使用して別のリソースを検索できます。

[ジェネレータフィルタ](#)は各リソースをテストし、リソース記述 (RD) を作成する必要があるかどうかを確認します。リソースがテストに合格した場合、[ジェネレータ](#)は検索エンジンデータベースに格納される RD を作成します。

ロボットの動作の仕組み

図 9-1 は、検索エンジンロボットの動作の仕組みを示しています。図 9-1 に示されるように、ロボットは URL および関連のあるネットワークリソースを調べます。各リソースは、列挙機能と生成機能の両方によってテストされます。リソースが列挙テストに合格すると、ロボットがそのリソースをほかの URL について検査します。リソースがジェネレータテストに合格すると、ロボットは検索エンジンデータベースに格納されているリソース記述を生成します。

図 9-1 ロボットの動作の仕組み



ロボット設定ファイル

ロボット設定ファイルでは、検索エンジンロボットの動作が定義されます。これらのファイルは、`/var/opt/SUNWps/http-hostname-domain/portal/config` ディレクトリにあります。表 9-1 は、各ロボット設定ファイルを説明しています。この表には 2 つの列があります。最初の列は設定ファイル、2 番目の列はファイルの内容の説明を示します。

表 9-1 ロボット設定ファイル

ロボット設定ファイル	説明
<code>classification.conf</code>	ロボットが生成する RD の分類に使用される規則を含む
<code>filter.conf</code>	検索エンジンロボットで列挙および生成の際に利用できるすべてのフィルタを含む。列挙フィルタ、生成フィルタのいずれにも同じフィルタ規則が含まれるので、両タイプのフィルタに共通の規則変更ができる。 参照により、このファイルには、 <code>filterrules.conf</code> に格納されるフィルタリング規則も含まれる
<code>filterrules.conf</code>	開始ポイント (シード URL と呼ばれる) およびフィルタリング規則を含む。
<code>robot.conf</code>	ロボットのオペレーティングパラメータのほとんどが定義される。さらに、このファイルは <code>filter.conf</code> ファイル中の使用すべき適切なフィルタをロボットに指示する。

注 検索サービスは、この他に `convert.conf` と `import.conf` の 2 つの設定ファイルを使用します。これらのファイルは検索サーバーにより生成され、一般に手動では編集できません。

検索エンジン管理インタフェースを使用すれば、ほとんどのパラメータを設定できるので、通常は `robot.conf` ファイルを編集する必要はありません。

ただし、上級ユーザーはこのファイルを手動で編集することにより、インタフェースを介してでは設定できないパラメータを設定することができます。

ロボットプロセスパラメータの設定

robot.conf ファイルでは、ロボットが filter.conf 内で使用するフィルタを指示するオプションなど、ロボット用の多くのオプションが定義されます (旧バージョンとの下位互換性のために、robot.conf にシード URL を含めることもできます)。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使用して、ファイル robot.conf を編集します。手動で編集できるパラメータについては、[247 ページの「ユーザーが変更できるパラメータ」](#)で詳細に説明します。

もっとも重要なパラメータは、enumeration-filter および generation-filter で、これらのパラメータは、ロボットが列挙および生成で使用するフィルタを指定します。これらのパラメータのデフォルト値は、enumeration-default および generation-default です。これらは、filter.conf ファイルにおいてデフォルトで提供されるフィルタ名です。

フィルタはすべて filter.conf ファイルで定義される必要があります。filter.conf で独自のフィルタを定義する場合、必要なパラメータを robot.conf に追加する必要があります。

たとえば、my-enumerator という名前の新しい列挙フィルタを定義する場合、robot.conf に次のパラメータを追加します。

```
enumeration-filter=my-enumerator
```

フィルタリング処理

ロボットはフィルタを使用して、処理するリソースとそのリソースの処理方法を決定します。ロボットがリソースと同時にリソースの参照を検出すると、各リソースにフィルタを適用して、それらのリソースを列挙し、検索エンジンデータベースに格納するリソース記述を生成するかどうかを決定します。

ロボットは1つあるいは複数のシード URL を調べ、フィルタを適用し、シード URL などを列挙して生成された URL にそのフィルタを適用します。シード URL は filterrules.conf ファイルで定義されます。

フィルタは、必須である初期化操作を実行し、現在のリソースに比較テストを適用します。各テストは、リソースを許可または拒否することが目標です。フィルタにはシャットダウンフェーズも備わっており、必要なクリーンアップ操作を実行します。

リソースが許可されるということは、フィルタ通過の続行が許可されることです。リソースが否認される場合、そのリソースは拒否されます。拒否されたリソースのフィルタは、それ以上動作しません。リソースが拒否されない場合、最終的にロボットはそのリソースを列挙し、さらにほかのリソースを検出しようとします。ジェネレータはリソース記述も作成できます。

これらの操作は必ずしも連携されていません。リソースには列挙につながるものもあれば、RD 生成につながるものもあります。多くのリソースは列挙にも、RD 生成にもつながります。たとえば、リソースが FTP ディレクトリである場合、一般的にはそのリソース用に RD は生成されません。ただし、ロボットは FTP ディレクトリの個別ファイルを列挙できます。ほかのドキュメントへのリンクを含む HTML ドキュメントは、RD を受信し、また、関連のドキュメントを列挙することもできます。

次の節では、フィルタ処理について詳しく説明します。

- [フィルタ処理の段階](#)
- [フィルタの構文](#)
- [フィルタディレクティブ](#)
- [フィルタの記述または修正](#)

フィルタ処理の段階

列挙フィルタ、生成フィルタのどちらにも、フィルタリング処理における 5 つのフェーズがあります。どちらのフィルタにも、**セットアップ**: 初期化処理を行う。ロボットの生存期間において一度だけ発生する。、**メタデータ**: そのリソースについて利用可能なメタデータに基づき、リソースをフィルタリングする。リソースがネットワークを介して取得される前に、メタデータのフィルタリングがリソースごとに一回実行される。表 9-2 は、共通のメタデータタイプの例を示している。この表では列が 3 つある。最初の列はメタデータのタイプ、2 番目の列は説明、3 番目の列は例を示す。、**データ**: リソースのデータに基づいてリソースをフィルタリングする。データのフィルタリングは、ネットワークを介して取得されたあとにリソースごとに 1 回実行される。フィルタリングに使用できるデータには、次のものがある、および**シャットダウン**: 必要な終了操作を実行する。ロボットの生存期間において一度だけ発生するの共通する 4 つのフェーズがあります。リソースがデータフェーズを通過する場合、フィルタが列挙あるいはジェネレータであるかどうかによって、そのリソースは**列挙**: 検査すべきほかのリソースを参照するかどうかを判断するため、現行のリソース中の参照を列挙する。フェーズまたは**生成**: リソースのリソース記述 (RD) を生成し、検索エンジンデータベースにその RD を保存する。フェーズのどちらかにあります。

これらのフェーズは次のとおりです。

- **セットアップ**: 初期化処理を行う。ロボットの生存期間において一度だけ発生する。

- **メタデータ** : そのリソースについて利用可能なメタデータに基づき、リソースをフィルタリングする。リソースがネットワークを介して取得される前に、メタデータのフィルタリングがリソースごとに一回実行される。表 9-2 は、共通のメタデータタイプの例を示している。この表では列が 3 つある。最初の列はメタデータのタイプ、2 番目の列は説明、3 番目の列は例を示す。

表 9-2 共通のメタデータタイプ

メタデータ	説明	例
完全な URL	リソースの場所	http://home.siroe.com/
プロトコル	URL のアクセス部分	http、ftp、file
ホスト	URL のアドレス部分	www.siroe.com
IP アドレス	ホストの数値バージョン	198.95.249.6
PATH	URL のパス部分	/index.html
深さ	シード URL からのリンク数	5

- **データ** : リソースのデータに基づいてリソースをフィルタリングする。データのフィルタリングは、ネットワークを介して取得されたあとにリソースごとに 1 回実行される。フィルタリングに使用できるデータには、次のものがある
 - content-type
 - content-length
 - content-encoding
 - content-charset
 - last-modified
 - expires
- **列挙** : 検査すべきほかのリソースを参照するかどうかを判断するため、現行のリソース中の参照を列挙する。
- **生成** : リソースのリソース記述 (RD) を生成し、検索エンジンデータベースにその RD を保存する。
- **シャットダウン** : 必要な終了操作を実行する。ロボットの生存期間において一度だけ発生する

フィルタの構文

filter.conf ファイルには、列挙フィルタおよび生成フィルタの定義が含まれています。このファイルには、列挙と生成の両方について、複数のフィルタを含むことができます。robot.conf ファイルの enumeration-filter パラメータおよび generation-filter パラメータでフィルタを指定するため、使用するフィルタをロボットが判断できます。

フィルタの定義は、ヘッダー、本文、終了という明確に定義された構造になります。ヘッダーは、フィルタの開始を識別し、たとえば次のように名前を宣言します。

```
<Filter name="myFilter">
```

本文は、セットアップ、テスト、列挙または生成、およびシャットダウン中のフィルタの動作を定義する一連のフィルタディレクトティブで構成されています。各ディレクトティブでは、関数とその関数のパラメータ (該当する場合) を指定します。

終了は </Filter> によって示されます。

245 ページのコード例 9-1 は、enumeration1 という名のフィルタを示しています。

コード例 9-1 列挙ファイルの構文

```
<Filter name="enumeration1">
  Setup fn=filterrules-setup config=./config/filterrules.conf
# Process the rules
  MetaData fn=filterrules-process
# Filter by type and process rules again
  Data fn=assign-source dst=type src=content-type
  Data fn=filterrules-process
# Perform the enumeration on HTML only
  Enumerate enable=true fn=enumerate-urls max=1024
type=text/html
# Cleanup
  Shutdown fn=filterrules-shutdown
</Filter>
```

フィルタディレクティブ

フィルタディレクティブは、ロボットアプリケーション関数 (RAF) を使用して、操作を実行します。このディレクティブの使用法および実行の流れは、`obj.conf` ファイルの NSAPI ディレクティブおよびサーバーアプリケーション関数 (SAF) とよく似ています。NSAPI、SAF と同様に、*pblocks* とも呼ばれるパラメータブロックを使用して、データは格納および送信されます。

ロボットディレクティブ、または RAF クラスには次の 6 つがあり、[242 ページの「フィルタリング処理」](#) に示されるフィルタリングのフェーズや操作に対応していません。

- セットアップ
- メタデータ
- データ
- 列挙
- 生成
- シャットダウン

各ディレクティブは、独自のロボットアプリケーション関数を持っています。たとえば、**Metadata** ディレクティブおよび **Data** ディレクティブではフィルタリング関数、**Enumerate** ディレクティブでは列挙関数、**Generate** ディレクティブでは生成関数を使用します。

ロボットアプリケーションの組み込み関数と、独自のロボットアプリケーション関数を記述する手順については、『*Sun ONE Portal Server 6.1 Developer's Guide*』を参照してください。

フィルタの記述または修正

ほとんどの場合、フィルタを一から記述する必要はありません。管理コンソールを使用すると、ほとんどのフィルタを作成できます。修正が必要な場合は、`filter.conf` ファイルおよび `filterrules.conf` ファイルを変更することができます。これらのファイルはディレクトリ `/var/opt/SUNWps/http-hostname-domain/portal` に存在します。

ただし、より複雑なパラメータのセットを作成する場合、ロボットが使用する設定ファイルを編集する必要があります。

フィルタの記述または変更の際は、次の点に注意してください。

- ディレクティブの実行順序 (特に各フェーズで使用可能な情報)

- 規則の順序

robot.conf ファイルで変更できるパラメータ、filter.conf ファイルで使用できるロボットアプリケーション関数、および独自のロボットアプリケーション関数の作成方法については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Developer's Guide』を参照してください。

ユーザーが変更できるパラメータ

robot.conf ファイルは、ロボットを filter.conf にある適切なフィルタに指定するなどの、ロボット用の多くのオプションを定義します。旧バージョンとの下位互換性のために、robot.conf にシード URL を含めることもできます。

管理コンソールを使用すれば、ほとんどのパラメータを設定できるので、通常は robot.conf ファイルを編集する必要はありません。ただし、上級ユーザーはこのファイルを手動で編集して、管理コンソールからは設定できないパラメータを設定できます。このファイルの例については、[254 ページの「robot.conf ファイルの例」](#)を参照してください。

[247 ページの表 9-3](#) は、robot.conf ファイルでユーザーが変更可能なパラメータを示しています。このテーブルの最初の列はパラメータ、2 番目の列はパラメータの説明、3 番目の列は例を示します。

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ

パラメータ	説明	例
auto-proxy	ロボットのプロキシ設定を指定する。これは、プロキシサーバー、またはプロキシを自動的に設定する Java スクリプトファイルである。詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.2 管理者ガイド』を参照。	auto-proxy="http://proxy_server/proxy.pac"
bindir	ロボットがバインドディレクトリを PATH 環境に追加するかどうかを指定する。これは cmd-hook パラメータが指定するプログラムなど、ユーザーがロボットで外部プログラムを実行するための特別な PATH である	bindir=path

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
cmd-hook	<p>ロボットが実行を完了するたびに実行される外部完了スクリプトを指定する。これは、コマンド名の完全パスで指定する必要がある。ロボットは /var/opt/SUNWps/ ディレクトリからこのスクリプトを実行する。</p> <p>デフォルトはない。</p> <p>コマンドを実行するには、最低 1 つの RD が登録されている必要がある。</p> <p>完了スクリプトの記述については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Developer’s Guide』を参照</p>	<p>cmd-hook="command-string"</p> <p>デフォルトはない。</p>
command-port	<p>管理インタフェースまたはロボットコントロールパネルのような他のプログラムからコマンドを受け入れるために、ロボットが待機するソケットを指定する。</p> <p>セキュリティ上の理由から、remote-access が yes に設定されていない場合、ロボットはローカルホストからのコマンドだけを受け入れる。</p>	<p>command-port=port_number</p>
connect-timeout	<p>ネットワークが接続要求に応答する最大許容時間を指定する。</p> <p>デフォルトは 120 秒</p>	<p>command-timeout=seconds</p>
convert-timeout	<p>ドキュメント変換に許可される最大時間を指定する</p> <p>デフォルトは 600 秒</p>	<p>convert-timeout=seconds</p>

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
depth	<p>ロボットが調べるシード URL (開始ポイントとも呼ばれる) からのリンク数を指定する。このパラメータは、深さを指定しないシード URL のデフォルト値を設定する。</p> <p>デフォルトは 10。</p> <p>マイナス 1 の値 (<code>depth=-1</code>) は、リンクの深さが無限であることを表す。</p>	<code>depth=integer</code>
email	<p>ロボットを実行するユーザーの電子メールアドレスを指定する。</p> <p>Web 管理者とサイトでロボットを実行するユーザーとが連絡できるように、電子メールアドレスは HTTP 要求ヘッダーで <code>user-agent</code> とともに送信される</p> <p>デフォルトは <code>user@domain</code></p>	<code>email=user@hostname</code>
enable-ip	<p>作成する各 RD の URL に IP アドレスを生成する</p> <p>デフォルトは <code>true</code></p>	<code>enable-ip=[true yes false no]</code>
enable-rdm-probe	<p>サーバーが RDM をサポートするかどうかを確認し、ロボットはこのパラメータを使用して、検出する各サーバーに照会するかどうかを決定する。サーバーが RDM をサポートする場合は、サーバーは独自のリソース記述サーバーの役割を果たすことができるため、ロボットはこのサーバーのリソースを列挙しない。</p> <p>デフォルトは <code>false</code></p>	<code>enable-rdm-probe=[true false yes no]</code>
enable-robots-txt	<p>ロボットがアクセスする各サイトで、<code>robots.txt</code> ファイルが使用できる場合、このファイルをロボットが検査する必要があるかどうかを指定する</p> <p>デフォルトは、<code>yes</code></p>	<code>enable-robots-txt=[true false yes no]</code>

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
engine-concurrent	<p>ロボットが使用する事前作成のスレッド数を指定する。</p> <p>デフォルトは 10。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできない。</p>	engine-concurrent=[1..100]
enumeration-filter	<p>リソースを列挙すべきかどうかを確認する場合にロボットが使用する列挙フィルタを指定する。値は filter.conf ファイルで定義されるフィルタ名にする必要がある。</p> <p>デフォルトは enumeration-default</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできない。</p>	enumeration-filter=enumfiltername
generation-filter	<p>リソース用にリソース記述を生成する必要があるかどうかを確認する場合に、ロボットが使用する生成フィルタを指定する。値は filter.conf ファイルで定義されるフィルタ名にする必要がある。</p> <p>デフォルトは generation-default</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできない。</p>	generation-filter=genfiltername
index-after-ngenerated	<p>検索エンジン用にバッチ処理する前にロボットが RD を収集する時間を分単位で指定する。</p> <p>このパラメータを指定しない場合は 256 分に設定される。</p>	index-after-ngenerated=30

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
loglevel	<p>ロギングのレベルを指定する。loglevel の値は次のように指定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> レベル 0: 重大なエラー以外は記録しない レベル 1: RD 生成も記録する (デフォルト) レベル 2: 検索アクティビティも記録する レベル 3: フィルタリングアクティビティも記録する レベル 4: 生成アクティビティも記録する レベル 5: 検索の進行状況も記録する <p>デフォルト値は 1</p>	loglevel=[0...100]
max-connections	<p>ロボットが実行できる並行検索の最大数を指定する。</p> <p>デフォルトは 8</p>	max-connections=[1..100]
max-filesize-kb	<p>ロボットが検索するファイルの最大ファイルサイズをキロバイト単位で指定する。</p>	max-filesize-kb=1024
max-memory-per-url / max-memory	<p>各 URL が使用する最大メモリをバイト単位で指定する。URL がより多くのメモリを必要とする場合、RD はディスクに保存される</p> <p>デフォルトは 1</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできない。</p>	max-memory-per-url=n_bytes
max-working	<p>ロボット稼働セットのサイズ、すなわちロボットが一度に処理できる URL の最大数を指定する。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできない。</p>	max-working=1024

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
onCompletion	<p>実行完了後のロボットの動作を決定する。ロボットはアイドルモードになるか、ループバック、再起動、または終了することができる</p> <p>デフォルトは idle</p> <p>このパラメータは cmd-hook パラメータとともに使用する。実行後のロボットは、onCompletion アクションの次に cmd-hook プログラムを実行する。</p>	OnCompletion=[idle loop quit]
password	<p>httpd 認証および ftp 接続に使用される password を指定する</p>	password=string
referer	<p>Web ページにアクセスする際にロボットをリファラとして識別するように設定されている場合、HTTP 要求に送信されるパラメータを指定する。</p>	referer=string
register-user and register-password	<p>検索エンジンデータベースに RD を登録するために使用されるユーザー名を指定する。</p> <p>このパラメータは、検索エンジン管理インタフェースから対話形式で設定することはできない。</p>	register-user=string
register-password	<p>検索エンジンデータベースに RD を登録するために使用されるパスワードを指定する。</p> <p>このパラメータは、管理コンソールから対話形式で設定することはできない。</p>	register-password=string
remote-access	<p>ロボットがリモートホストからのコマンドを受け入れることができるかどうかを指定する。</p> <p>デフォルトは false</p>	remote-access=[true false yes no]
robot-state-dir	<p>ロボットが状態を保存するディレクトリを指定する。この作業ディレクトリで、ロボットは収集された RD の数などを記録できる。</p>	robot-state-dir="/var/opt/SUNWps/instance/portal/robot"

表 9-3 ユーザーが変更できるパラメータ (続き)

パラメータ	説明	例
server-delay	同じ Web サイトに次にアクセスするまでの時間間隔を指定する。この時間を指定することで、ロボットが頻繁に同じサイトにアクセスするのを防止できる。	server-delay=delay_in_seconds
site-max-connections	ロボットが任意の 1 つのサイトに対して行う同時接続の最大数を示す。 デフォルトは 2。	site-max-connections=[1..100]
smart-host-heuristics	ロボットが正規の DNS ホスト名を巡回するサイトを変更できる。たとえば、www123.siroe.com が www.siroe.com に変更される。 デフォルトは false	smart-host-heuristics=[true false]
tmpdir	ロボットが一時ファイルを作成する場所を指定する 環境変数 TMPDIR を設定する際にこの変数を使用する。	tmpdir=path
user-agent	http-request 内の電子メールアドレスとともにサーバーに送信されるパラメータを指定する。	user-agent=iPlanetRobot/4.0
username	ロボットを実行するユーザーのユーザー名を指定する。これは、httpd 認証および ftp 接続で使用される デフォルトは anonymous	username=string

robot.conf ファイルの例

ここでは、robot.conf ファイルの例について説明します。この例でコメントが付いたパラメータには、表示されているデフォルト値が適用されます。最初のパラメータである csid は、このファイルを使用する検索エンジンインスタンスを示しています。このパラメータの値は変更しないでください。このファイルのパラメータの定義については、[247 ページの「ユーザーが変更できるパラメータ」](#)を参照してください。

注 このサンプルファイルには、検索エンジン管理インタフェースによって使用されるいくつかのパラメータが含まれています。その中には csid パラメータのように変更してはならないものもあります。

```
<Process csid="x-catalog://budgie.siroe.com:80/jack" ¥
  auto-proxy="http://sesta.varrius.com:80/"
  auto_serv="http://sesta.varrius.com:80/"
  command-port=21445
  convert-timeout=600
  depth="-1"
  # email="user@domain"
  enable-ip=true
  enumeration-filter="enumeration-default"
  generation-filter="generation-default"
  index-after-ngenerated=30
  loglevel=2
  max-concurrent=8
  site-max-concurrent=2
  onCompletion=idle
  password=boots
  proxy-loc=server
  proxy-type=auto
  robot-state-dir="/var/opt/SUNWps/https-budgie.siroe.com/ ¥
  ps/robot"
  server-delay=1
  smart-host-heuristics=true
  tmpdir="/var/opt/SUNWps/https-budgie.siroe.com/ps/tmp"
  user-agent="iPlanetRobot/4.0"
  username=jack
</Process>
```

定義済みのロボットアプリケーション関数

この章では、Sun™ ONE Portal Server の検索エンジンで定義済みのロボットアプリケーション関数 (RAF) の記述、パラメータ仕様、および例について説明します。これらの関数を `filter.conf` ファイルで使用し、フィルタ定義を作成および変更できます。ファイル `filter.conf` は、ディレクトリ `/var/opt/SUNWps/http-hostname-domain/portal/config` に配置されています。

ファイル `filter.conf` には、列挙フィルタおよび生成フィルタの定義が含まれます。これらの各フィルタは、`filterrules.conf` ファイルに格納されているルールセットを呼び出します。フィルタルールには両方のフィルタで使用するルールが含まれますが、フィルタ定義にはフィルタ固有の命令が含まれます。

フィルタルールの定義方法を理解するためには、ファイル `filterrules.conf` を調べます。通常は、管理コンソールを使用してフィルタルールを作成するため、このファイルを直接編集する必要はありません。

フィルタ定義の例を見るには、ファイル `filter.conf` を調べる必要があります。フィルタのためにリソースを生成しないでリソースを列挙するようロボットに指示するなど、管理コンソールに適応しない方法でフィルタを変更する場合、編集する必要があるのは `filter.conf` ファイルだけです。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [ソースとデスティネーション](#)
- [セットアップ関数](#)
- [フィルタリング関数](#)
- [サポート関数のフィルタリング](#)
- [列挙関数](#)
- [生成関数](#)
- [シャットダウン関数](#)

ソースとデスティネーション

ほとんどのロボットアプリケーション関数 (RAF) は情報のソースを必要とし、デスティネーションに送信するデータを生成します。ソースはロボット内で定義され、最終的に生成されるリソース記述のフィールドに関連している必要はありません。一方、デスティネーションは通常、リソース記述サーバーのスキーマによって定義されるリソース記述のフィールド名になります。

データベーススキーマを指定するために管理コンソールを使用する詳細については、[第8章「検索エンジンサービスの管理」](#)を参照してください。

次の節では、フィルタリングプロセスの各段階と、それらの段階で使用できるソースについて説明します。

セットアップ段階で使用可能なソース

セットアップ段階では、フィルタが設定されますが、リソースの URL またはコンテンツについての情報は取得できません。

メタデータフィルタリング段階で使用可能なソース

メタデータ段階ではロボットはリソースの URL を取得しますが、リソースのコンテンツはダウンロードされていないため `filter.conf` ファイルなどのほかのソースから導出されるデータと、URL についての情報が使用可能です。ただし、この段階では、リソースのコンテンツについての情報は使用できません。

[表 10-1](#) は、メタデータ段階で RAF で使用できるソースを示しています。この表では 3 つの列があります。最初の列はソース、2 番目の列は説明、3 番目の列は例を示します。

表 10-1 メタデータ段階で RAF で使用できるソース

ソース	説明	例
csid	カタログサーバー ID	x-catalog//budgie.siroe.com:8086/alexandria
depth	開始点からトラバースされたリンク数	10
enumeration filter	列挙フィルタの名前	enumeration1
generation filter	生成フィルタの名前	generation1
host	URL のホスト部分	home.siroe.com

表 10-1 メタデータ段階で RAF で使用できるソース (続き)

ソース	説明	例
IP	ホストの数値バージョン	198.95.249.6
protocol	URL のアクセス部分	http、https、ftp、file
path	URL のパス部分	/、/index.html、/documents/listing.html
URL	完全な URL	http://developer.siroe.com/docs/manuals/

データ段階で使用可能なソース

データ段階では、ロボットがその URL のリソースのコンテンツをダウンロードしているので、記述、作成者などのコンテンツに関するデータにアクセスできます。

リソースが HTML ファイルである場合、ロボットは HTML ヘッダーの `<META>` タグをパースします。したがって、`<META>` タグに含まれるデータは、データ段階で使用可能です。

データ段階では、メタデータ段階で使用可能なソースのほかに、次のソースを RAF で使用できます。この表では 3 つの列があります。最初の列はソース、2 番目の列は説明、3 番目の列は例を示します。

表 10-2 データ段階で RAF で使用できるソース

ソース	説明	例
content-charset	リソースが使用する文字セット	
content-encoding	エンコードの形式	
content-length	リソースのバイト単位のサイズ	
content-type	リソースの MIME タイプ	text/html、image/jpeg
expires	リソースが期限切れになる日付	
last-modified	リソースの最終更新日	
<code><META></code> タグ内のデータ	HTML リソースのヘッダーの <code><META></code> タグで提供されるデータ	作成者 記述 キーワード

これらのすべてのソース (`<META>` タグのデータを除く) は、リソースの取得時に返される HTTP 応答ヘッダーから導出されます。

列挙、生成、およびシャットダウン段階で使用可能なソース

列挙および生成の段階では、データ段階と同じデータソースが使用可能です。

シャットダウン段階では、フィルタはフィルタリングを完了し、シャットダウンします。この段階用に書き込まれた関数は、データ段階で使用可能なソースと同じデータソースを使用できますが、シャットダウン関数の動作は通常、アクティビティの終了およびクリーンアップに制限されます。

有効化パラメータ

各関数には有効化パラメータがあります。値には、`true`、`false`、`on`、または `off` を指定できます。管理コンソールは、これらのパラメータを使用して特定のディレクトィブを有効または無効にします。

次の例は `text/html` の列挙を有効にし、`text/plain` の列挙を無効にします。

```
# Perform the enumeration on HTML only
Enumerate enable=true fn=enumerate-urls max=1024 type=text/html
Enumerate enable=false fn=enumerate-urls-from-text max=1024
type=text/plain
```

`enable=false` パラメータまたは `enable=off` パラメータの追加は、行をコメントアウトするのと同じ効果があります。管理インタフェースは、コメントを書き込みませんが、代わりに `enable` パラメータを書き込みます。

セッティング関数

ここでは、列挙および生成フィルタの両方によってセッティング段階中に使用される関数について説明します。次の関数について説明します。

- [259 ページの「`filterrules-setup`」](#)
- [259 ページの「`setup-regex-cache`」](#)
- [260 ページの「`setup-type-by-extension`」](#)

filterrules-setup

`filterrules-setup` 関数を使用する場合、`logtype` は使用するログファイルのタイプになります。値には `verbose`、`normal`、または `terse` を指定できます。

パラメータ

表 10-3 は、`filterrules-setup` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-3 `filterrules-setup` パラメータ

パラメータ	説明
<code>config</code>	このフィルタが使用するフィルタルールを含むファイルのパス名

例

```
Setup fn=filterrules-setup config=./config/filterrules.conf
logtype=normal
```

setup-regex-cache

`setup-regex-cache` 関数は、`filter-by-regex` および `generate-by-regex` 関数のキャッシュサイズを初期化します。デフォルト値である 32 以外の数値を指定するときは、この関数を使用します。

パラメータ

表 10-4 は、`setup-regex-cache` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表では 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-4 `setup-regex-cache` パラメータ

パラメータ	説明
<code>cache-size</code>	regex キャッシュに保持されるコンパイル済み正規表現の最大数

例

```
Setup fn=setup-regex-cache cache-size=28
```

setup-type-by-extension

`setup-type-by-extension` 関数はファイル名の拡張子を認識するようにフィルタを設定します。この関数を呼び出してから、[assign-type-by-extension](#) 関数を使用します。パラメータとして指定されたファイルは、標準の MIME コンテンツタイプとファイル拡張子の文字列の間のマッピングを含む必要があります。

パラメータ

表 10-5 は、`setup-type-by-extension` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-5 `setup-type-by-extension` パラメータ

パラメータ	説明
<code>file</code>	MIME タイプ設定ファイルの名前

例

```
Setup fn=setup-type-by-extension file=./config/mime.types
```

フィルタリング関数

次の関数はメタデータおよびデータの段階で動作し、関数およびそのパラメータによって指定された特定の条件に基づいて、リソースを許可または拒否します。

これらの関数は、`filter.conf` ファイルの列挙フィルタおよび生成フィルタの両方で使用できます。

これらの各「`filter-by`」関数は比較を行い、リソースを許可または拒否します。リソースが許可されると、処理が次のフィルタリング段階へ進みます。リソースが拒否されると、リソースが列挙または生成を継続する条件を満たしていないという理由で処理が停止します。次の関数について説明します。

- [filter-by-exact](#)
- [filter-by-max](#)
- [filter-by-md5](#)
- [filter-by-prefix](#)
- [filter-by-regex](#)
- [filterrules-process](#)

filter-by-exact

`filter-by-exact` 関数は、`allow/deny` 文字列が情報のソースに完全に一致する場合、リソースを許可または拒否します。キーワード `all` は任意の文字列と一致します。

パラメータ

表 10-6 は、`filter-by-exact` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-6 `filter-by-exact` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	情報のソース
<code>allow/deny</code>	文字列を含む

例

次の例は、`content-type` が `text/plain` のリソースすべてをフィルタして取り除きます。これにより、ほかのすべてのリソースの処理が続行されます。

```
Data fn=filter-by-exact src=type deny=text/plain
```

filter-by-max

`filter-by-max` 関数では、指定された情報ソースが指定値以下の場合にリソースが許可されます。情報ソースが指定された値よりも大きい場合は、リソースは拒否されます。

この関数は、1つのフィルタについて1回しか呼び出すことができません。

パラメータ

表 10-7 は、`filter-by-max` 関数で使用するパラメータを示しています。この表には2つの列があります。最初の列はパラメータ、2番目の列は説明を示します。

表 10-7 `filter-by-max` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	情報のソース。ホスト、オブジェクト、深さのいずれかである必要がある。
<code>value</code>	比較のための値を指定する

例

この例は、`content-length` が 1024 K バイトより小さいリソースを許可します。

```
MetaData fn-filter-by-max src=content-length value=1024
```

filter-by-md5

`filter-by-md5` 関数は、指定の MD5 チェックサム値を持つ最初のリソースだけを許可します。このロボットによって、現在のリソースの MD5 が以前のリソースで検出された場合、現在のリソースは拒否されます。これにより、複数の URL を持つ同一のリソースまたは単一のリソースの重複を防ぎます。

この関数は、データ段階またはそれ以降の段階でだけ呼び出すことができます。この関数は、1つのフィルタについて1回しか呼び出すことができません。フィルタは `generate-md5` 関数を呼び出し、`filter-by-md5` を呼び出す前に MD5 チェックサムを生成する必要があります。

パラメータ

なし

例

次の例は、MD5 チェックサムを処理する一般的な方法を示します。最初にチェックサムを生成し、そのチェックサムに基づいてフィルタリングします。

```
Data fn=generate-md5
Data fn=filter-by-md5
```

filter-by-prefix

`filter-by-prefix` 関数は、指定の情報ソースが指定されたプレフィックス文字列で開始する場合、リソースを許可または拒否します。リソースは、完全に一致する必要はありません。キーワード `all` は任意の文字列と一致します。

パラメータ

表 10-8 は、`filter-by-prefix` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-8 `filter-by-prefix` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	情報のソース
<code>allow/deny</code>	プレフィックス比較の文字列を含む

例

次の例は、`content-type` が `text/html` や `text/plain` など、任意の種類のテキストであるリソースを許可します。

```
MetaData fn=filter-by-prefix src=type allow=text
```

filter-by-regex

`filter-by-regex` 関数は、正規表現によるパターンマッチングをサポートします。この関数は、指定の正規表現に一致するリソースを許可します。使用可能な正規表現構文は、POSIX.1 仕様によって定義されます。¥¥* の正規表現は、任意の文字に一致します。

パラメータ

表 10-9 は、filter-by-regex 関数で 사용되는パラメータを示しています。この表には2つの列があります。最初の列はパラメータ、2番目の列は説明を示します。

表 10-9 filter-by-regex パラメータ

パラメータ	説明
src	情報のソース
allow/deny	正規表現の文字列を含む

例

次の例は、政府 (gov) ドメインのサイトからのすべてのリソースを拒否します。

```
MetaData fn=filter-by-regex src=host deny=¥¥*.gov
```

filterrules-process

filterrules-process 関数は、filterrules.conf ファイルの規則で処理します。

パラメータ

なし

例

```
MetaData fn=filterrules-process
```

サポート関数のフィルタリング

次の関数は、リソース上で情報を操作または生成するため、フィルタリング中に使用されます。ロボットは、フィルタリング関数を呼び出すことによって、リソースを処理することができます。これらの関数は、ファイル `filter.conf` の列挙および生成のフィルタで使用することができます。次の関数について説明します。

- [assign-source](#)
- [assign-type-by-extension](#)
- [clear-source](#)
- [convert-to-html](#)
- [copy-attribute](#)
- [generate-by-exact](#)
- [generate-by-prefix](#)
- [generate-by-regex](#)
- [generate-md5](#)
- [generate-rd-expires](#)
- [generate-rd-last-modified](#)
- [rename-attribute](#)

assign-source

`assign-source` 関数は、指定した情報ソースに新規の値を割り当てます。これにより、フィルタリング処理中の編集が可能になります。この関数は、明示的な新規値を割り当てるか、または、別の情報ソースから値をコピーすることができます。

パラメータ

表 10-10 は、`assign-source` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-10 `assign-source` パラメータ

パラメータ	説明
<code>dst</code>	値を変更するソースの名前
<code>value</code>	明示的な値を指定する
<code>src</code>	<code>dst</code> にコピーする情報ソース

value パラメータまたは src パラメータのどちらかを指定する必要がありますが、両方は指定しません。

例

```
Data fn=assign-source dst=type src=content-type
```

assign-type-by-extension

assign-type-by-extension 関数は、リソースのファイル名を使用してタイプを決定し、処理を継続するリソースにこのタイプを割り当てます。

assign-type-by-extension を使用可能にするには、セットアップ中に [setup-type-by-extension](#) 関数を呼び出す必要があります。

パラメータ

[表 10-11](#) は、assign-type-by-extension 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-11 assign-type-by-extension パラメータ

パラメータ	説明
src	比較するファイル名のソース。ソースを指定しない場合、デフォルトではリソースのパスになる。

例

```
MetaData fn=assign-type-by-extension
```

clear-source

`clear-source` 関数は、指定されたデータソースを削除します。通常は、この関数を実行する必要はありません。`assign-source` を使用することにより、ソースを作成および置換することができます。

パラメータ

表 10-12 は、`clear-source` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-12 `clear-source` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	削除するソースの名前

例

次の例は、パスのソースを削除します。

```
MetaData fn=clear-source src=path
```

convert-to-html

`convert-to-html` 関数は、リソースのタイプが指定の MIME タイプと一致する場合、現在のリソースを HTML ファイルに変換して処理を続けます。変換フィルタは、変換中のファイルのタイプを自動的に検出します。

パラメータ

表 10-13 は、`convert-to-html` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-13 `convert-to-html` パラメータ

パラメータ	説明
<code>type</code>	変換を行う MIME タイプ

例

次の関数呼び出しのシーケンスにより、フィルタは、すべての Adobe Acrobat PDF ファイル、Microsoft RTF ファイル、および FrameMaker MIF ファイル、およびファイルを配信するサーバーによってタイプが指定されていないファイルを HTML に変換します。

```
Data fn=convert-to-html type=application/pdf
Data fn=convert-to-html type=application/rtf
Data fn=convert-to-html type=application/x-mif
Data fn=convert-to-html type=unknown
```

copy-attribute

`copy-attribute` 関数は、リソース記述の1つのフィールドからの値を別のフィールドにコピーします。

パラメータ

表 10-14 は、`copy-attribute` 関数で 사용되는パラメータを示しています。この表には2つの列があります。最初の列はパラメータ、2番目の列は説明を示します。

表 10-14 `copy-attribute` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	コピー元のリソース記述のフィールド
<code>dst</code>	ソースのコピー先のリソース記述の項目
<code>truncate</code>	コピーするソースの最大長
<code>clean</code>	省略されたテキストを修正するかどうか(分割された単語を修正するかどうかなど)を示す論理値パラメータ。デフォルトでは、このパラメータは <code>false</code> に設定されている。

例

```
Generate fn=copy-attribute ¥
src=partial-text dst=description truncate=200 clean=true
```

generate-by-exact

generate-by-exact 関数は、既存のソースが別の値と完全に一致する場合に限り、指定された値を持つソースを生成します。

パラメータ

表 10-15 は、generate-by-exact 関数で 사용되는パラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-15 generate-by-exact パラメータ

パラメータ	説明
dst	生成するソースの名前
value	dst に割り当てる値
src	比較対象のソース

例

次の例は、ホストが `www.siroe.com` の場合に、分類を `Siroe` に設定します。

```
Generate fn="generate-by-exact" match="www.siroe.com:80" src="host"
value="Siroe" dst="classification"
```

generate-by-prefix

この generate-by-prefix 関数は、既存のソースのプレフィックスが別の値と一致する場合に限り、指定された値を持つソースを生成します。

パラメータ

表 10-16 は、generate-by-prefix 関数で 사용되는パラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-16 generate-by-prefix パラメータ

パラメータ	説明
dst	生成するソースの名前
value	dst に割り当てる値
src	比較対象のソース
match	src と比較する値

例

次の例は、プロトコルプレフィックスが HTTP の場合、分類を World Wide Web に設定します。

```
Generate fn="generate-by-prefix" match="http" src="protocol"
value="World Wide Web" dst="classification"
```

generate-by-regex

generate-by-regex 関数は、既存のソースが正規表現に一致する場合に限り、指定した値を持つソースを生成します。

パラメータ

表 10-17 は、generate-by-regex 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-17 generate-by-regex パラメータ

パラメータ	説明
dst	生成するソースの名前
value	dst に割り当てる値
src	比較対象のソース
match	src と比較する正規表現の文字列

例

次の例は、ホスト名が正規表現 *.siroe.com に一致する場合に、分類を Siroe に設定します。たとえば、developer.siroe.com および home.siroe.com の両方にあるリソースは、Siroe として分類されます。

```
Generate fn="generate-by-regex" match="¥¥*.siroe.com" src="host"
value="Siroe" dst="classification"
```

generate-md5

generate-md5 関数は、MD5 チェックサムを生成し、リソースに追加します。これにより、[filter-by-md5](#) 関数を使用して、重複する MD5 チェックサムを持つリソースを拒否することができます。

パラメータ

なし

例

```
Data fn=generate-md5
```

generate-rd-expires

generate-rd-expires 関数は、有効期限を生成して、指定されたソースに追加します。この関数は、HTTP ヘッダーおよび HTML <META> タグなどのメタデータを使用し、リソースから任意の有効期限を取得します。有効期限が存在しない場合は、現在の日付から 3 ヶ月間の有効期限を生成します。

パラメータ

[表 10-18](#) は、generate-rd-expires 関数で使われるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-18 generate-rd-expires パラメータ

パラメータ	説明
dst	ソースの名前。指定を省略した場合、デフォルトは rd-expires となる。

例

```
Generate fn=generate-rd-expires
```

generate-rd-last-modified

generate-rd-last-modified 関数は、現在の時間を指定されたソースに追加します。

パラメータ

表 10-19 は、generate-rd-last-modified 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-19 generate-rd-last-modified パラメータ

パラメータ	説明
dst	ソースの名前。指定を省略した場合、デフォルトは rd-last-modified となる

例

```
Generate fn=generate-last-modified
```

rename-attribute

rename-attribute 関数は、リソース記述のフィールドの名前を変更します。たとえば、`extract-html-meta` で `<META>` タグからフィールドに情報をコピーし、そのフィールドの名前を変更する場合にとっても便利です。

パラメータ

表 10-20 は、rename-attribute 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-20 rename-attribute パラメータ

パラメータ	説明
src	1 つの名前から別の名前へのマッピングを含む文字列

例

次の例は、属性の名前を `author` から `author-name` に変更します。

```
Generate fn=rename-attribute src="author->author-name"
```

列挙関数

次の関数は、列挙段階で動作します。これらの関数は、ロボットが指定のリソースからリンクを収集するかどうか、およびその方法を制御し、リソースの発見を継続する開始点として使用します。ここでは、次の関数について説明します。

- [enumerate-urls](#)
- [enumerate-urls-from-text](#)

enumerate-urls

`enumerate-urls` 関数はリソースをスキャンし、ハイパーテキストリンクで検出されるすべての URL を列挙します。結果を使用して、リソース発見を継続します。コンテンツタイプを指定し、列挙される URL の種類を制限することができます。

パラメータ

表 10-21 は、`enumerate-urls` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-21 `enumerate-urls` パラメータ

パラメータ	説明
<code>max</code>	指定のリソースから生成する URL の最大数。指定を省略した場合、デフォルトは 1024 となる。
<code>type</code>	指定したコンテンツタイプの URL に列挙を制限するコンテンツタイプ。 <code>type</code> は、オプションのパラメータである。指定を省略した場合、すべての URL が列挙される

例

次の例は、HTML URL だけを、最大値 1024 まで列挙します。

```
Enumerate fn=enumerate-urls type=text/html
```

enumerate-urls-from-text

`enumerate-urls-from-text` 関数はテキストリソースをスキャンし、正規表現 `URL:.*` に一致する文字列を検索します。これはロボットを生成し、これらの文字列から URL を列挙し、さらにリソース記述を生成します。

パラメータ

表 10-22 は、`enumerate-urls-from-text` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-22 `enumerate-urls-from-text` パラメータ

パラメータ	説明
<code>max</code>	指定のリソースから生成する URL の最大数。指定を省略した場合、デフォルトは 1024 となる。

例

```
Enumerate fn=enumerate-urls-from-text
```

生成関数

次の関数は、フィルタリングの生成段階で使用されます。生成関数は、リソース記述に入る情報を生成することができます。通常、リソースの本体から情報を抽出するか、リソースのメタデータから情報をコピーします。ここでは、次の関数について説明します。

- [extract-full-text](#)
- [extract-html-meta](#)
- [extract-html-text](#)
- [extract-html-toc](#)
- [extract-source](#)
- [harvest-summarizer](#)

extract-full-text

`extract-full-text` 関数は、リソースの完全なテキストを抽出して、リソース記述に追加します。

注 `extract-full-text` 関数の使用には注意が必要です。リソース記述のサイズを非常に大きくすることができるため、データベースが膨大化したり、ネットワーク帯域幅に全体的な悪影響を及ぼしたりする可能性があります。

パラメータ

表 10-23 は、`extract-full-text` 関数で使われるパラメータを示します。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-23 `extract-full-text` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	リソースから抽出する文字の最大数
<code>dst</code>	完全なテキストを受信するスキーマ項目の名前

例

```
Generate fn=extract-full-text
```

extract-html-meta

`extract-html-meta` 関数は、HTML ファイルから任意の `<META>` または `<TITLE>` 情報を抽出し、リソース記述に追加します。コンテンツタイプの指定により、生成する URL の種類が制限される場合があります。

パラメータ

表 10-24 は、`extract-html-meta` 関数で使われるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-24 `extract-html-meta` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数
<code>type</code>	省略可能なパラメータ。指定を省略した場合は、すべての URL が生成される。

例

```
Generate fn=extract-html-meta truncate=255 type=text/html
```

extract-html-text

`extract-html-text` 関数は、HTML タグを除いた、テキストの最初の数文字を HTML ファイルから抽出し、そのテキストをリソース記述に追加します。これにより、ドキュメントのテキストの最初の部分を RD に含むことができます。コンテンツタイプの指定により、生成する URL の種類が制限される場合があります。

パラメータ

表 10-25 は、`extract-html-text` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-25 `extract-html-text` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数
<code>skip-headings</code>	<code>true</code> に設定すると、ドキュメント内で発生する任意の HTML ヘッダーは無視される
<code>type</code>	省略可能なパラメータ。指定を省略した場合は、すべての URL が生成される。

例

```
Generate fn=extract-html-text truncate=255 type=text/html
skip-headings=true
```

extract-html-toc

`extract-html-toc` 関数は、HTML ヘッダーから `table-of-contents` を抽出し、リソース記述に追加します。

パラメータ

表 10-26 は、`extract-html-toc` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-26 `extract-html-toc` パラメータ

パラメータ	説明
<code>truncate</code>	抽出する最大バイト数。
<code>level</code>	抽出する HTML ヘッダーの最大レベル。このパラメータは、目次の深さを制御する。

例

```
Generate fn=extract-html-toc truncate=255 level=3
```

extract-source

`extract-source` 関数は、指定のソースから特定の値を抽出し、リソース記述に追加します。

パラメータ

表 10-27 は、`extract-source` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-27 `extract-source` パラメータ

パラメータ	説明
<code>src</code>	ソース名のリスト。-> 演算子を使用し、RD 属性の新規名を定義できる。たとえば、 <code>type->content-type</code> は <code>type</code> という名前のソースの値を取得し、 <code>content-type</code> という名前の属性で RD に保存される。

例

```
Generate fn=extract-source
src="md5,depth,rd-expires,rd-last-modified"
```

harvest-summarizer

`harvest-summarizer` 関数は、リソース上で Harvest サマライザを実行し、結果をリソース記述に追加します。

Harvest サマライザを実行するには、ロボットを実行する前に、`path` に `$HARVEST_HOME/lib/gatherer` を設定する必要があります。

パラメータ

表 10-28 は、`harvest-summarizer` 関数で使用されるパラメータを示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列はパラメータ、2 番目の列は説明を示します。

表 10-28 `harvest-summarizer` パラメータ

パラメータ	説明
<code>summarizer</code>	サマライザプログラムの名前

例

```
Generate fn-harvest-summarizer summarizer=HTML.sum
```

シャットダウン関数

次の関数は、列挙および生成の両関数によってシャットダウン段階中に使用できます。

filterrules-shutdown

規則が実行されたあと、`filterrules-shutdown` 関数はクリーンアップおよびシャットダウンを実行します。

パラメータ

なし

例

```
Shutdown fn=filterrules-shutdown
```

登録サービスの管理

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [概要](#)
- [登録サービスの管理](#)
- [登録チャンネルの使用](#)

概要

登録サービスを利用することで、ユーザーは多くの情報を網羅する興味対象のプロファイルを作成できます。このリリースでサポートされる情報ソースには、カテゴリ、ディスカッション、検索可能ドキュメントが含まれます。ユーザーが登録チャンネルにアクセスするたびに、プロファイルは最新の情報で更新されます。登録チャンネルは、ユーザーが定義したカテゴリ別ドキュメントやディスカッションのプロファイルエントリと一致するヒット回数（関連情報）を要約します。

検索サービスは、次のように使用されます。

- 指定日数の範囲内にターゲットカテゴリで一致する新規ドキュメントの検索とカウント
- 指定日数の範囲内にディスカッションで一致する新規関連コメントの検索とカウント
- 保存されている検索に対するドキュメントの検索とカウント

結果は、一致情報の数を示すリンクとしてプロファイルエントリに表示されます。ユーザーがこのリンクをクリックすると、その一致自体の詳細が表示されます。

カテゴリ登録では、ユーザーがリンクをクリックすると検索チャンネルが表示されます。ここには、興味対象の特定のドキュメントが標準のカテゴリ検索結果の形式で要約されます。登録チャンネルは、より詳細な情報への入り口として機能します。

登録サービスの管理

管理者は、登録サービスを有効化、または無効化することができます。登録サービスは、次のレベルで管理できます。

ルートレベル

組織レベル

組織ユーザーレベル

ルートレベル

登録サービスのルートレベルの管理では、システム全体を対象に、タイプ別(カテゴリ、ディスカッション、保存される検索)の登録のデフォルト最大数を設定します。図 11-1 は、ルートレベルで登録サービスを管理するためのインタフェースを示しています。ルートレベルの登録サービスの定義については、283 ページの「[ルートレベルで登録サービスを定義するには](#)」を参照してください。

図 11-1 ルートレベルの登録管理インタフェース

登録

ダイナミック

カテゴリ登録の最大数:	<input type="text" value="5"/>
ディスカッション登録の最大数:	<input type="text" value="5"/>
保存される検索の最大数:	<input type="text" value="5"/>

組織レベル

登録サービスの組織レベルの管理では、システム全体を対象にした、タイプ別(カテゴリ、ディスカッション、保存される検索)の登録のデフォルト最大数を上書きします。281 ページの図 11-2 は、組織レベルで登録サービスを管理するためのインタフェースを示しています。組織レベルの登録サービスの定義については、283 ページの「組織レベルで登録サービスを定義するには」を参照してください。

図 11-2 組織レベルの登録管理インタフェース

登録

保存 **リセット** **削除**

ダイナミック

競合の解決レベル:

カテゴリ登録の最大数:

ディスカッション登録の最大数:

保存される検索の最大数:

保存 **リセット** **削除**

組織ユーザーレベル

組織ユーザーレベルでの登録サービスの管理では、ユーザーの登録サービスの設定を編集します。管理者は、ユーザーのサービスデータを次のように管理できます。

- ユーザーの登録の更新
- ユーザーの登録の削除

282 ページの図 11-3 は、ユーザーレベルで登録サービスを管理するためのインタフェースを示しています。ユーザーの登録サービスの管理については、284 ページの「ユーザーの登録サービスを管理するには」を参照してください。

図 11-3 ユーザーレベルの登録管理インタフェース

sampleUser

表示: ▼

カテゴリ登録:

ディスカッション登録:

保存される検索:

ルートレベルで登録サービスを定義するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、「サービス設定」タブを選択します。
2. 左のパネルにある「Portal Service 設定」メニューから「登録サービス」を選択します。
3. 次の項目のデフォルト値を変更します (280 ページの図 11-1 を参照)
 - **カテゴリ登録の最大数** : ユーザーが登録できるカテゴリの最大数を指定する
 - **ディスカッション登録の最大数** : ユーザーが登録できるディスカッションの最大数を指定する
 - **保存される検索の最大数** : 保存できる検索の最大数を指定する
4. 次のボタンを選択します。
 - 指定した値を保存するときは「保存」
 - 変更した値を元に戻すときは「リセット」

組織レベルで登録サービスを定義するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、組織の「表示」プルダウンメニューから「サービス」を選択します。
2. 左のパネルにある「Portal Service 設定」メニューから「登録サービス」を選択します。
3. 次の項目のデフォルト値を変更します (281 ページの図 11-2 を参照)
 - **競合の解決レベル** : 「最も高い」、「高め」、「高」、「中」、「低」、「低め」、「最低」に設定できる
 - **カテゴリ登録の最大数** : ユーザーが登録できるカテゴリの最大数を指定する
 - **ディスカッション登録の最大数** : ユーザーが登録できるディスカッションの最大数を指定する
 - **保存される検索の最大数** : 保存できる検索の最大数を指定する
4. 次のボタンを選択します。
 - 指定した値を保存するときは「保存」
 - 変更した値を元に戻すときは「リセット」
 - 「削除」

ユーザーの登録サービスを管理するには

1. 管理コンソールにログインし、組織の「表示」プルダウンメニューから「ユーザー」を選択します。
2. 「ユーザー」を選択します。
右のパネルにユーザー情報が表示されます。
3. 「表示」プルダウンメニューから「登録」を選択します。
ユーザーの登録を編集するためのページが表示されます。
4. 登録の定義を編集します (282 ページの図 11-3 を参照)。
登録のタイプごとに、登録を追加または消去します。形式は次のとおりです。

○ カテゴリの登録

```
label | target category | scope | lapsed time
```

ここで

label	編集される登録に与えられる論理参照で、文字列として指定する必要がある。必須フィールド
target category	ABC:DEF:GHI という形式の文字列で指定する必要がある
scope	検索クエリ。検索演算子を含む有効な検索文字列として指定する必要がある
lapsed time	次のいずれかの値を指定する必要がある <ul style="list-style-type: none">• 0 = すべて• 7 = 1 週間以内• 30 = 1 ヶ月以内• 180 = 6 ヶ月以内• 365 = 1 年以内

○ ディスカッションの登録

```
label | target discussion RD's URL | scope | lapsed time |  
minimum rating
```

ここで

label	編集される登録に与えられる論理参照で、文字列として指定する必要がある。必須フィールド
target discussion RD's URL	ディスカッションの URL と一致する文字列を指定する必要がある。ディスカッションの編集時に、ユーザーは登録チャンネルを使用してこの値を変更することができない
scope	検索クエリ。検索演算子を含む有効な検索文字列として指定する必要がある
lapsed time	次のいずれかの値を指定する必要がある <ul style="list-style-type: none"> • 0 = すべて • 7 = 1 週間以内 • 30 = 1 ヶ月以内 • 180 = 6 ヶ月以内 • 365 = 1 年以内
minimum rating	最小重要度に基づくフィルタ

◦ 保存される検索

label | target category | scope | lapsed time
ここで

label	編集される登録に与えられる論理参照で、文字列として指定する必要がある。必須フィールド
target category	ABC:DEF:GHI という形式の文字列で指定する必要がある
scope	検索クエリ。検索演算子を含む有効な検索文字列として指定する必要がある
lapsed time	次のいずれかの値を指定する必要がある <ul style="list-style-type: none"> • 0 = すべて • 7 = 1 週間以内 • 30 = 1 ヶ月以内 • 180 = 6 ヶ月以内 • 365 = 1 年以内

登録チャンネルの使用

登録チャンネルには、カテゴリ登録、ディスカッション登録、保存される検索のタイプ別に登録が表示されます(図 11-4 を参照)。登録のタイプごとに、次の情報が表示されます。

- 登録のラベル
- 特定の登録のヒット件数を示す、登録の詳細情報へのリンク

図 11-4 デスクトップ上の登録チャンネルの例



エンドユーザーは、登録チャンネルの「編集」ボタンを利用して、すべての登録の更新と登録解除を行えます(287 ページの図 11-5 を参照)。登録の一致するエンドユーザーへの通知は、登録チャンネルでグループ化されます。通知は、登録チャンネルの更新時に生成されます。管理者は、チャンネルの refreshTime プロパティを設定して、一定時間、コンテンツのキャッシュを実際に描画することができます。エンドユーザーが refreshTime パラメータより短い時間内に登録チャンネルのコンテンツを複数回更新しようとしても、コンテンツは実際のデータからは生成されず、キャッシュから読み取られます。refreshTime チャンネルのプロパティの値は、秒単位で設定できます。

ドキュメントが次の条件に一致すると、新規ドキュメントとしてエンドユーザーに通知されます。

- 登録カテゴリに分類され、検索対象 (scope) と経過時間 (lapsed time) の条件と一致する
- 登録したディスカッションのコメントであり、検索対象 (scope) と経過時間 (lapsed time) の条件と一致する

- 基本検索条件または詳細検索条件と一致し、経過時間 (lapsed time) の条件と一致する

図 11-5 デスクトップ上の登録チャンネル編集ページの例

カテゴリ				
登録解除	名前	クエリ	対象期間	カテゴリ
<input type="checkbox"/>	desktop topic		すべて	Portal Server

ディスカッション				
登録解除	名前	クエリ	対象期間	重要度
<input type="checkbox"/>	test4		すべて	普通

保存されている検索条件				
登録解除	名前	クエリ	対象期間	
<input type="checkbox"/>	netmail	netmail	すべて	

カテゴリに登録するには

1. サンプルデスクトップにログインします。
 カテゴリには、次の方法で登録できます。
 - カテゴリをブラウズする：これには「登録」リンクが含まれる
 - カテゴリを示す検索結果：これには「登録」リンクが含まれる
 - カテゴリ内の検索結果：これには「カテゴリに登録」リンクが含まれる (288 ページの図 11-6 を参照)
2. 登録するカテゴリの隣にある登録用リンクを選択します。
 登録情報を指定するページが表示されます。
3. 次の情報を指定します。
 - 登録の名前：カテゴリの名前
 - ターゲットカテゴリ：カテゴリの名前
 - 検索の範囲：「検索」テキストフィールドと同様のクエリ文字列
 - 検索対象期間：指定したカテゴリへの登録対象となる期間。「すべて」、「1 週間以内」、「1 ヶ月以内」、「6 ヶ月以内」、「1 年以内」に設定できる
4. 「完了」ボタンを選択します。

登録のリストにカテゴリが追加されます。

図 11-6 カテゴリへの登録ページの例



ディスカッションに登録するには

1. サンプルデスクトップにログインします。
ディスカッションへの登録は、ディスカッションを表示するリンクから行えます。これには、「登録」リンクが含まれます。
2. 登録するディスカッションの「登録」リンクを選択します。
登録情報を指定するページが表示されます。
3. 次の情報を指定します。
 - 登録の名前: カテゴリの名前
 - ターゲットカテゴリ: カテゴリの名前
 - 検索の範囲: 「検索」テキストフィールドと同様のクエリ文字列
 - 検索対象期間: 指定したカテゴリに登録する期間。「すべて」、「1週間以内」、「1ヶ月以内」、「6ヶ月以内」、「1年以内」に設定できる
 - 重要度: この重要度以上が登録の対象となるしきい値
4. 「完了」ボタンを選択します。
これで、ディスカッションに登録されます。

検索を保存するには

1. サンプルデスクトップにログインします。

2. 「検索」タブを開き、ドキュメントを検索します。
検索結果のページが表示されます。
3. 結果リストの上に表示される登録のリンクをクリックします (289 ページの図 11-7 を参照)。
登録情報を指定するページが表示されます。
4. 次の情報を指定します。
 - ラベル: 保存される検索のラベル
 - 検索の範囲: 「検索」テキストフィールドと同様のクエリ文字列
 - 検索対象期間: 指定した検索結果を登録する期間。「すべて」、「1 週間以内」、「1 ヶ月以内」、「6 ヶ月以内」、「1 年以内」に設定できる
5. 「完了」ボタンを選択します。
これで、検索結果が保存されます。

図 11-7 検索結果への登録ページの例



ディスカッション

ここでは、次の内容について説明します。

- [ディスカッションの概要](#)
- [DiscussionProvider](#)
- [チャンネルの管理と使用](#)

ディスカッションの概要

ディスカッションは、トピックと特定のドキュメントに関連付けられています。これは、既存のドキュメントを追加して、それについて話し合ったり、独自のトピックを作成する強力な手段です。特定のドキュメントや新しいトピックに関する情報を簡単に共有することができます。

Sun ONE Portal Server ソフトウェアのディスカッション機能には、ディスカッションスレッド、ドキュメントまたは新規トピックに基づくディスカッションの開始、ディスカッションの検索、ディスカッションの重要度設定が含まれます。デフォルトでは、匿名ユーザー用のサンプルポータルでも Discussions チャンネルを利用できます。ただし、匿名ユーザーはディスカッションに登録したり、Discussions チャンネルを編集したりすることはできません。

DiscussionLite チャンネルと Discussions チャンネルは DiscussionProvider に基づいています。検索チャンネルの JSP と同様に、クエリの部分と表示の部分があり、デスクトップテーマを使用します。

DiscussionProvider

DiscussionProvider は、デスクトップテーマを使用する JSP プロバイダです。これは、検索タグライブラリと API を使用して、バックエンドの検索サービスからデータを取得します。ディスカッションとコメントは、異なるリソースディスクリプタ (RD) としてディスカッションデータベースに格納されます。DiscussionProvider がサポートする内容は次のとおりです。

- 次の機能を持つ完全ビュー (Discussions チャンネル経由) と省略ビュー (DiscussionLite チャンネル経由)
 - ディスカッションチャンネルから新しいディスカッションを開始する
 - 既存のディスカッションに返信する
 - 検索チャンネルからの Web ドキュメントに基づく新しいディスカッションを開始する

- 次の機能を持つディスカッションリスト
 - 最終更新日でソートされた主要送信を取得する
 - ユーザーが古いディスカッションにアクセスできるようにページ付けを行う
 - ディスカッションの各サブツリーを表示するディスカッション表示。主要項目は詳細に表示され、サブツリーは主要項目の下に表示される。ここに表示される内容には、次の項目が含まれる
 - ページ上の複数のフィルタ。ドキュメントの重要度(「重要でない」、「普通」、「興味」、「重要」、「必読」)などのフィルタに基づいてドキュメントを表示できる
 - スレッド表示とフラット表示の表示設定を選択できる
 - 展開しきい値を使用すると、サブツリー内の表示を制御しやすくなる。ユーザーは、評価の高いドキュメントだけを展開したり、すべてのドキュメントを展開したり閉じたりすることを選択できる。デフォルト値は「すべて縮小」。「すべて展開」を選択した場合、フィルタ条件を満たすすべてのコメントが展開される。また、ディスカッションの説明およびディスカッション評価用メニューが表示されるほか、返信を投稿する仕組みも提供される
 - ディスカッション内の検索に対応している
- ユーザーは、チャンネル編集ページからこれらの設定を編集することもできる
- ディスカッションに対してコメント追加し、重要度を設定する。たとえば、ユーザーは次の操作を行える
 - 既存のディスカッションにコメントを追加する。
 - すべてのディスカッションとコメントに重要度を設定する。ただし、ユーザーが設定する重要度は直ちには適用されない。重要度の計算は、コメントの重要度が段階的に上下するアルゴリズムに基づいている。たとえば、コメントの重要度を「重要」に引き上げるには、「重要」という設定を3回行う必要がある
 - ディスカッション内のすべてのディスカッションを検索する(図 11-8 を参照)。これらの機能は、検索プロバイダにルーティングされる。ユーザーは、詳細検索機能を使用して、重要度による検索も実行できる

図 11-8 すべてのディスカッションの検索に対応したデスクトップ上の検索ページ



- 登録。認証されたユーザーは、登録のリンクを選択することで、特定のディスカッションを選択的に登録できる。この要求は、SubscriptionProvider によって処理される。この機能が不要な場合は、displaySubscription プロパティを無効に設定できる (コード例 11-1 を参照)。このプロパティのデフォルト値は true である

DiscussionProvider のディスプレイプロファイル XML コード

コード例 11-1 は、DiscussionProvider のディスプレイプロファイル XML コードを示しています。

コード例 11-1 DiscussionProvider プロバイダのディスプレイプロファイル XML コード

```
<Provider name="DiscussionProvider"
class="com.sun.portal.providers.jsp.JSPProvider">
  <Properties>
    <String name="title" value="*** Discussions Provider ***"/>
    <String name="description" value="*** DESCRIPTION ***"/>
    <String name="refreshTime" value="0" advanced="true"/>
    <String name="helpURL" value="en/desktop/discussions.htm"
advanced="true"/>
    <String name="fontFace1" value="Sans-serif"/>
    <String name="productName" value="Sun ONE Portal Server"/>
    <String name="contentPage" value="discussionContent.jsp"/>
    <String name="editPage" value="discussionEdit.jsp"/>
    <String name="processPage" value="discussionDoEdit.jsp"/>
    <Boolean name="isEditable" value="true" advanced="true"/>
    <String name="editType" value="edit_subset" advanced="true"/>
    <Boolean name="showExceptions" value="false"/>
  </Properties>
</Provider>
```

コード例 11-1 DiscussionProvider プロバイダのディスプレイプロファイル XML コード (続き)

```
<Boolean name="showErrors" value="true"/>
<String name="width" value="thick"/>
<String name="column" value="2"/>
<String name="searchServer" value=""/>
<String name="dbname" value=""/>
<Integer name="viewHits" value="8"/>
<String name="defaultDiscussionDisplay" value="Threaded"/>
<String name="defaultFilter" value="Irrelevant"/>
<String name="defaultExpansionThreshold" value="Collapse all"/>
<Boolean name="viewDiscussionWindow" value="false"/>
<String name="anonymousAuthor" value="anonymous"/>
<Boolean name="displaySearch" value="true"/>
<Boolean name="showDescription" value="false"/>
<String name="ratingText"
value="Irrelevant,Routine,Interesting,Important,Must Read"/>
</Properties>
</Provider>
```

DiscussionProvider の管理

DiscussionProvider の管理は、次のように分散されています。

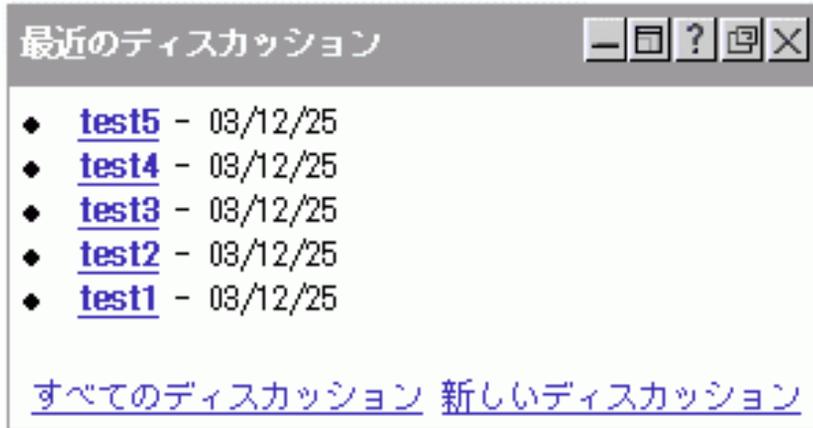
- チャンネル編集ページ (ユーザーによる設定が可能)
- 管理コンソールの DiscussionProvider のチャンネルデスクトップの「チャンネルおよびコンテンツの管理」リンク
- 検索サービス

DiscussionLite チャンネル

DiscussionLite チャンネルは、上位 20 のディスカッションタイトル (再設定可能) と日付を表示します (294 ページの図 11-9 を参照)。ディスカッションは、作成日 (最終更新日) でソートされ、最も新しいディスカッションが先頭に表示されます。

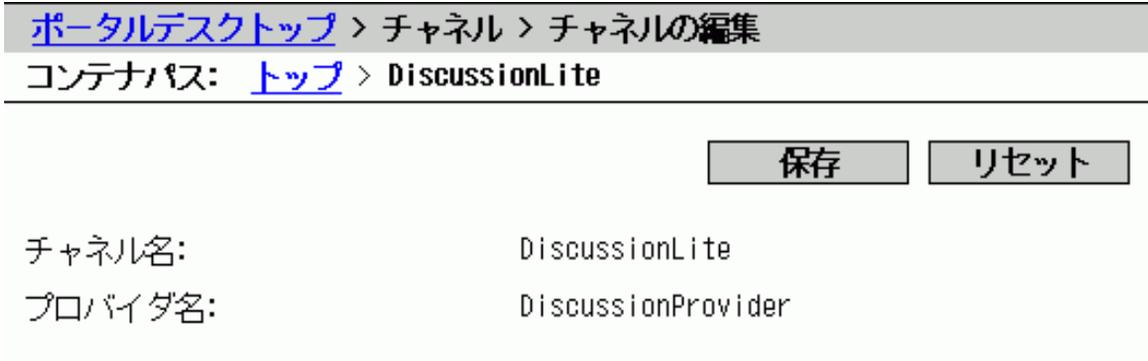
DiscussionLite チャンネルの表示には、各ディスカッションを表示するリンク、Discussions チャンネルをターゲットとするすべてのディスカッションを表示するリンク、ディスカッションを開始するリンクがあります。デフォルトでは、チャンネルは単一のコンテンツ内に表示され、すべてのリンクは JSPDynamicSingleContainer に持ち込まれます。

図 11-9 デスクトップ上の DiscussionLite チャンネルの例



プロパティは、管理コンソールから設定できます (図 11-10 を参照)。デフォルトでは、このチャンネルのプロパティをユーザーが編集することはできません。

図 11-10 Sun ONE Identity Server 管理コンソール上の DiscussionLite チャンネル編集ページの例



ディスカッションは、ディスプレイプロファイルの dbname プロパティで指定されるディスカッションデータベースに格納されます。ディスプレイプロファイルでは、検索サーバーホスト (searchServer プロパティ)、データベース名 (dbname プロパティ)、表示するディスカッションの数 (viewHits プロパティ) を設定できます (295 ページのコード例 11-2 を参照)。

コード例 11-2 DiscussionLiteProvider のディスプレイプロファイル XML コード

```
<Channel name="DiscussionLite" provider="DiscussionProvider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Recent Discussions"/>
    <String name="description" value="This is a DiscussionLite provider
example"/>
    <String name="contentPage" value="discussionLiteContent.jsp"/>
    <String name="editPage" value=""/>
    <String name="processPage" value=""/>
    <String name="width" value="thin"/>
    <String name="searchServer" value=""/>
    <String name="db" value="discussion"/>
    <Integer name="viewHits" value="20"/>
  </Properties>
</Channel>
```

DiscussionLite チャンネルでは、次の JSP が使用されます。

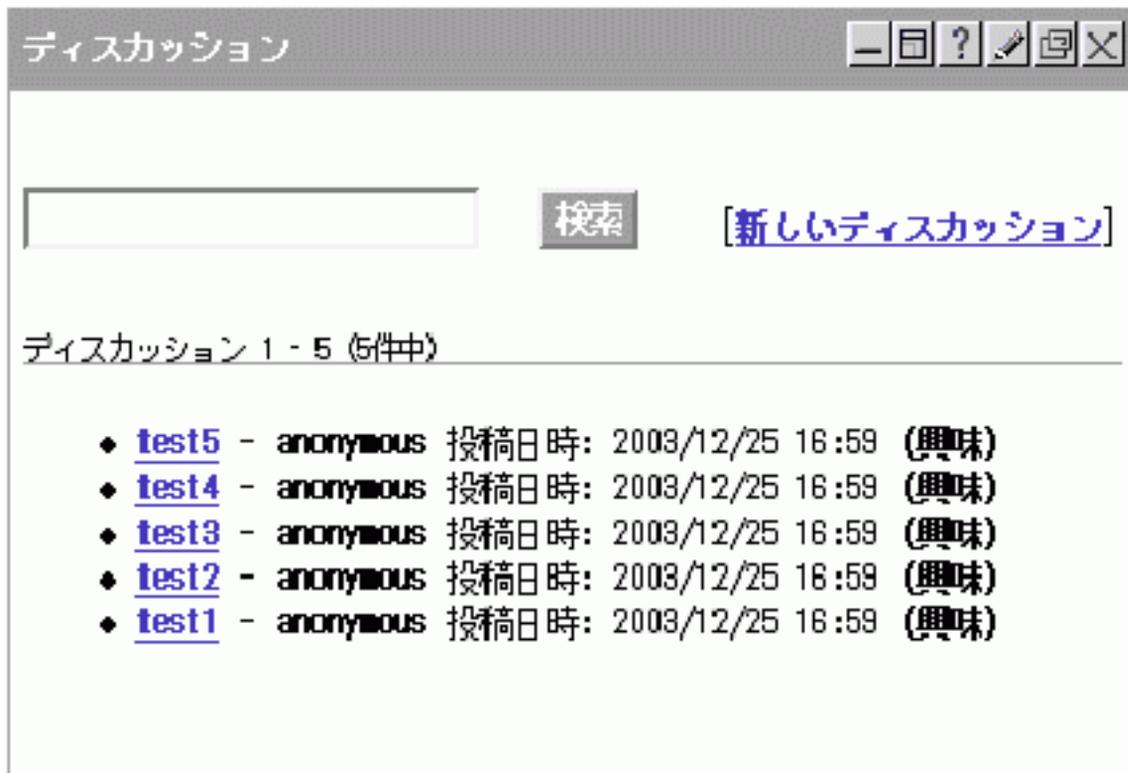
discussionLiteContent.jsp	JSP コンテンツページ
query.jsp	検索クエリを設定、実行する
display.jsp	結果を表示する
error.jsp	例外とエラーメッセージを表示する

Discussions チャンネル

Discussions チャンネルによる完全な表示には、次の機能が含まれます。

- 降順にソートされた上位 8 ディスカッションの詳細な説明を表示する。これは、チャンネル編集ページで再設定できる
- ユーザーがすべてのディスカッションを表示するためのページ付けを行う
- 検索をサポートする。検索は、ディスカッションとコメントの結果を返す

図 11-11 デスクトップ上のディスカッションの完全な表示の例



Discussions チャンネルのプロパティは、Sun ONE 管理コンソールから設定できます。

図 11-12 Sun ONE Identity Server 管理コンソール上の Discussions チャンネル編集ページの例

[ポータルデスクトップ](#) > [チャンネル](#) > [チャンネルの編集](#)

コンテナパス: [トップ](#) > Discussions

チャンネル名: Discussions

プロバイダ名: DiscussionProvider

ディスカッションは、ディスプレイプロファイルの `dbname` プロパティで指定されるディスカッションデータベースに格納されます。ディスプレイプロファイルでは、検索サーバーホスト (`searchServer` プロパティ)、データベース名 (`dbname` プロパティ)、表示するディスカッションの数 (`viewHits` プロパティ) を設定できます (コード例 11-3 を参照)。

コード例 11-3 Discussions チャンネルのディスプレイプロファイル XML コード

```
<Channel name="Discussions" provider="DiscussionProvider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Discussions"/>
    <String name="description" value="This is a Discussion provider
example"/>
    <String name="searchServer" value=""/>
    <String name="dbname" value="discussions"/>
    <Integer name="viewHits" value="8"/>
  </Properties>
</Channel>
```

Discussions チャンネルでは、次の JSP が使用されます。

<code>discussionContent.jsp</code>	JSP コンテンツページ
<code>discussionEdit.jsp</code>	編集ページ
<code>discussionDoEdit.jsp</code>	プロセス編集ページ
<code>declare.jsp</code>	
<code>portal.jsp</code>	ディスプレイプロファイルデータを抽出する

<code>fullDiscussion.jsp</code>	完全な表示を処理する
<code>fullDiscussionDisplay.jsp</code>	すべてのディスカッションページのユーザーインターフェース
<code>searchUI.jsp</code>	すべてのディスカッションページに表示される検索フォーム
<code>viewDiscussion.jsp</code>	ディスカッションを表示する
<code>viewDiscussionBar.jsp</code>	ディスカッション表示ページ中央の水平バーで、すべてのフィルタが含まれる
<code>viewDiscussionDisplay.jsp</code>	ディスカッション表示ページのユーザーインターフェース
<code>viewDiscussionHeader.jsp</code>	ディスカッション表示ページに表示されるヘッダーコメント
<code>viewDiscussionNavigation.jsp</code>	ディスカッション表示ページのヘッダーの上下に表示されるナビゲーションバー
<code>feedback.jsp</code>	コメント、フィードバック、重要度の各機能を提供する
<code>feedbackDisplay.jsp</code>	フィードバックを表示する
<code>feedbackForm.jsp</code>	フィードバックフォームを提供する
<code>feedbackProcess.jsp</code>	フィードバックを処理する
<code>error.jsp</code>	例外とエラーメッセージを表示する
<code>query.jsp</code>	検索クエリを設定、実行する
<code>pageFooter.jsp</code>	ページ付けを行う

チャンネルの管理と使用

DiscussionProvider チャンネルの管理

DiscussionProvider チャンネルの管理は、デスクトップのディスプレイプロファイルと、Sun ONE Identity Server 管理コンソール上の検索サービスに分散されます。プロバイダに固有の情報は、ディスプレイプロファイルに格納されます。ディスカッションドキュメントとデータベースに関連する管理は、検索サービスで行う必要があります。

ディスカッションはディスカッションデータベースに格納されます。ディスカッションデータベースは、ディスカッションとコメントが特定のスキーマで構成されていることを前提としています。この機能のために、`schema.rdm` ファイルに新たにスキーマのフィールドが追加されました。データベースの管理とデバッグには、検索 CLI `rdmgr` を使用できます。たとえば、すべてのコメントをダンプするには、次のように入力します。

```
./run-cs-cli rdmgr -y discussion
```

DiscussionProvider チャンネルのサンプルは、デフォルトの検索サーバーを使用するように設定されています。ディスカッションデータベースとチャンネルにインポートされるいくつかのディスカッションは、すぐに使用できます。

次のサンプルが、*SIPSBASEDIR/SUNWps/samples/discussions/* ディレクトリに格納されています。

<code>discussions.soif</code>	ディスカッションデータベースにロードされるサンプル SOIF ファイル
<code>dp-org.xml</code>	ディスカッションチャンネルのディスプレイプロファイル XML コードを含む
<code>dp-providers.xml</code>	ディスカッションプロバイダのディスプレイプロファイル XML コードを含む
<code>dp-anon.xml</code>	認証なしの匿名ユーザー用の XML コードを含む。サンプルポータルインストール時にロードされる

管理者は、ディスカッションへのアクセスを制御できます (読み取り専用、または完全な非表示)。

DiscussionProvider からチャンネルを作成するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインし、「表示」プルダウンメニューから「サービス」を選択します。
左のパネルにサービスのリストが表示されます。
2. 「デスクトップ」、「チャンネルおよびコンテナの管理」の順に選択します。
右のパネルに「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクが表示されます。
3. 「チャンネル」の下の「追加」ボタンを選択します。
追加するチャンネルのタイプを指定するページが表示されます。
4. 「チャンネル名」テキストボックスにチャンネルの名前を入力し、「プロバイダ」プルダウンメニューから「DiscussionProvider」を選択します。
5. 「作成」を選択します。

これにより、指定したプロバイダに基づいてチャンネルが作成されます。「キャンセル」ボタンをクリックすると、新しいチャンネルを作成せずに「チャンネルおよびコンテナの管理」ページに戻ります。

- チャンネルテーブルで新たに作成したチャンネルの隣にある「編集」リンクをクリックします。

チャンネルのデフォルト値を設定するページが表示されます。

- プロパティを編集し、「保存」ボタンを選択して編集内容を保存します。

次のディスプレイプロファイルプロパティは、このプロバイダに固有のプロパティです。

searchServer	検索サーバーへのパス。デフォルト値は portal/portal/search
dbname	任意の有効なデータベース
viewHits	表示するディスカッションの数
defaultDiscussionDisplay	flat または threaded に設定し、コメントサブツリーの表示をフラットまたはスレッドに設定できる
defaultFilter	ディスカッションの検索と表示に適用されるフィルタ。サブツリーの表示を制御する。「重要でない」、「普通」、「興味」、「重要」、「必読」などの重要度に基づく設定が可能である。デフォルト値は「重要でない (irrelevant)」なので、「重要でない」以上の重要度が指定されたすべてのコメントが表示される。「必読」フィルタは、重要度が高く設定されたコメントを強調表示する
defaultExpansionThreshold	「expand all (すべて展開)」または「collapse all (すべて縮小)」に設定できる。デフォルト値は「collapse all」。「expand all」に設定すると、フィルタリングされたすべてのコメントが展開され、説明、重要度メニューが表示される。また、ユーザーはリンクをクリックして返信できる
anonymousAuthor	
viewDiscussionWindow	
displaySearch	
showDescription	Discussions チャンネル用にこのプロパティを設定できる
ratingText	ディスカッションのデフォルトの重要度として「重要でない」、「普通」、「興味」、「重要」、または「必読」を設定できる

DiscussionProvider サンプルチャンネルの使用

新しいディスカッションを開始するには

1. サンプルデスクトップにログインします。
2. 次のいずれかの方法で新しいディスカッションを開始する
 - チャンネルから：「コラボレーション」タブを選択し、「新しいディスカッションの開始」リンクを選択する
 - 検索チャンネルから：ドキュメントの隣にある「新しいディスカッションの開始」を選択する
3. 次の情報を指定します。
 - タイトル：ディスカッションのタイトル
 - メッセージ：ディスカッションの内容
 - 重要度：ディスカッションの重要度。「重要でない」、「普通」、「興味」、「重要」、「必読」のいずれか
4. 「投稿」ボタンを選択します。

図 11-13 デスクトップ上の新しいディスカッションの開始ページの例

The image shows a window titled "ディスカッション" (Discussion) with standard window controls (minimize, maximize, help, close). The main heading is "新しいディスカッションの開始" (Start New Discussion). Below this, there are two input fields: "タイトル:" (Title) and "メッセージ:" (Message). The message field is a large text area. At the bottom left, there is a "重要度:" (Priority) dropdown menu currently set to "興味" (Interest). At the bottom right, there are two buttons: "投稿" (Post) and "取消し" (Cancel).

通信チャネルの設定

この章では、Sun™ ONE Portal Server 6.2 の通信チャネルについて説明します。まず、一般的な情報を提供し、次にインストールしてから設定が完了するまでの通信チャネルの状態について説明します。最後に、サイトの要件に合わせて通信チャネルを設定するための各種手順について説明します。

この章の大部分は設定に関する情報です。これには、管理者側とエンドユーザー側の設定が含まれます。エンドユーザーは、各チャネルの「編集」ボタンをクリックすることで、ポータルデスクトップから各チャネルの設定を直接編集できます。これにより、エンドユーザーは特定のサーバー設定情報を編集するための編集ページにアクセスし、アドレス帳チャネルに表示されるアドレス帳の数など、そのエンドユーザーがそのチャネルに表示できる固有の機能を編集することができます。

管理者は、エンドユーザーの編集オプションを制限または拡張することができます。管理者は、エンドユーザーによるサーバー設定の必要なしに、チャネルを事前に設定することができます。詳細については、[330 ページの「管理者のプロキシ認証: エンドユーザーによる信用情報の設定の禁止」](#)を参照してください。

管理者は各チャネルの編集ページを設計できるので、エンドユーザーが編集できる機能を選択することができます。詳細については、[325 ページの「アプリケーション設定の編集: 通信チャネル編集ページの設定」](#)を参照してください。

さらに、特定のアプリケーションのインスタンスが複数存在するサイトでは(たとえば、メールアプリケーションの 2 つ以上のインスタンス)、管理者はエンドユーザーがポータルデスクトップで第 2 のメールチャネルを設定できるようにすることができます。詳細については、[329 ページの「通信チャネルのタイプとしてエンドユーザーが複数インスタンスを設定できるようにするには」](#)を参照してください。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [通信チャネルの概要](#)
- [通信チャネルでサポートされるソフトウェア](#)
- [インストーラと通信チャネル](#)
- [通信チャネルの設定タスク](#)

通信チャネルの概要

Sun ONE Portal Server 6.2 製品には、エンドユーザーがポータルデスクトップから直接アクセスできる 4 つの通信チャネルが用意されています。これらのチャネルを使用することで、エンドユーザーは対応するアプリケーション (メールアプリケーション など) にアクセスし、効果的かつ効率的に調整、計画、通信することができます。

4 つの通信チャネルは次のとおりです。

アドレス帳チャネル アドレス帳チャネルには、エンドユーザーが表示できるアドレス帳エントリが表示されます。アドレス帳にアクセスしてアドレス帳エントリを作成、編集するには、「アドレス帳の起動」をクリックします。

カレンダーチャネル カレンダーチャネルには、エンドユーザーが表示できるカレンダーイベントが表示されます。カレンダーアプリケーションにアクセスして新しいタスクやイベントを作成するには、「カレンダーの起動」をクリックします。

インスタントメッセージチャネル インスタントメッセージチャネルには、Sun™ ONE Instant Messenger にアクセスできる他のユーザーのアクセス状態が表示されます。これらの連絡先は、Instant Messenger アプリケーションを使用してエンドユーザーが作成したリストから取得されます。アクセス中の状態を示すアイコンをクリックすることで、チャネルからのチャットを開始できます。これは、Instant Messenger を起動する一つの方法です。アクセス状態をチャネルから直接更新するには、ポータルデスクトップを再読み込みします。状態が変更するたびにアクセス状態を更新するには、「Instant Messenger」をクリックして Instant Messenger を起動し、このアプリケーションから出力される連絡先のアクセス状態を表示します。

メールチャネル メールチャネルには、エンドユーザーが表示できる、そのエンドユーザー宛てに送信されたメールメッセージが表示されます。メールアプリケーションにアクセスしてメッセージを表示、作成するには、「メールの起動」をクリックします。

通信チャネルでサポートされるソフトウェア

Sun ONE Portal Server ソフトウェアは、通信チャネルで次のリソースサーバープラットフォームをサポートします。

- Sun™ ONE Messaging Server 5.2、6.0
- Sun™ ONE Calendar Server 5.1.1、6.0
- Sun™ ONE Instant Messaging Server 6.1
- IBM Lotus Notes 5.0.6
- Microsoft Exchange Server 5.5、2000

インストーラと通信チャンネル

Sun ONE Portal Server のインストーラは、通信チャンネルに関連していくつかのタスクを実行します。通信チャンネルの一般的な設定タスクもインストーラによって行われます。管理者とエンドユーザーは、サイトの要件や、各自の必要に合わせてさらに詳細な設定を行う必要があります。

Sun ONE Portal Server インストーラが実行するタスク

Sun ONE Portal Server のインストーラは、次のタスクを実行します。

- SUNWpssso、SUNWpsap、SUNWpsmp、SUNWpscp、SUNWiimps の各パッケージをインストールする。これらのパッケージはデフォルトの Sun ONE Portal Server インスタンスに配備される。つまり、インストーラは Sun ONE Portal Server のすべてのインスタンスに通信チャンネルをインストールするわけではない。複数サーバーでの配備については、[306 ページの「複数インスタンスでの配備」](#)を参照

- アドレス帳、カレンダー、インスタントメッセージ、メールのチャンネルを作成する。インストーラは、Sun ONE サーバーのチャンネルをサンプル組織の「フロントページ」タブパネルコンテナに配置する。つまり、サンプルポータルをインストールした場合にだけ通信チャンネルはインストールされる。Microsoft Exchange Server と IBM Lotus Notes サーバーは、自動的にコンテナに配置されない。管理者は、必要に応じてこれらのチャンネルを追加する必要がある

カレンダーチャンネルとメールチャンネルのデフォルトの設定は、エンドユーザーが基本的な設定を行うまで機能しない。このため、管理者はこれらのチャンネルをさらに設定する必要はない。アドレス帳チャンネルとインスタントメッセージチャンネルは、管理者とエンドユーザーによる追加設定を必要とする

- Sun ONE Calendar Server、Sun ONE Messaging Server とのシングルサインオンを有効にするためのシングルサインオン (SSO) アダプタサービスを作成、設定する

複数インスタンスでの配備

複数の Sun ONE Portal Server が配備されている場合は、Sun ONE Portal Server の各追加インスタンスに通信チャンネルを手動で配備し、各インスタンスを再起動する必要があります。この配備を行うには、次のように入力します。

```
portal-server-install-dir/SUNWps/bin/deploy redeploy -instance instancename  
-deploy_admin_password deployadminpassword
```

この *instancename* はデフォルト以外の特定のインスタンスの名前で、*deployadminpassword* は Web コンテナ (Web サーバーまたはアプリケーションサーバー) の管理者パスワードです。Web コンテナの管理者パスワードは、Web コンテナが Sun™ ONE Application Server または BEA WebLogic Server™ である場合にだけ必要となります。パスワードを含めておくことで、それを受け入れるその他の Web コンテナを使用するときに手間を省けます。ただし、Sun™ ONE Web Server または IBM WebSphere® Application Server ではパスワードは無視されます。

コード例 12-1 は、Sun ONE Portal Server のデフォルト以外の 2 つのインスタンスに通信チャンネルを手動で配備し、それぞれのインスタンスを再起動するコマンドを示しています。myinstance1 と myinstance2 は Sun ONE Portal Server のデフォルト以外のインスタンスの名前、Admin は Web コンテナの管理者パスワードです。

コード例 12-1 デフォルト以外のインスタンスへの通信チャンネルの配備

```
portal-server-install-dir/SUNWps/bin/deploy redeploy -instance myinstance1  
-deploy_admin_password Admin  
portal-server-install-dir/SUNWps/bin/deploy redeploy -instance myinstance2  
-deploy_admin_password Admin  
  
portal-server-install-dir/SUNWam/bin/amserver stopall  
portal-server-install-dir/SUNWam/bin/amserver startall
```

通信チャネルの設定タスク

次に、通信チャネルを設定する手順の概要を示します。すべてのタスクがすべてのサイトに適用されるわけではありません。サイトのビジネス要件に基づいて、サイトに適用されるタスクを決定する必要があります。

- [デフォルト組織のサービスを設定するには](#)
- [エンドユーザーとしてチャネルを設定するには](#)
- [アプリケーション設定の編集: 通信チャネル編集ページの設定](#)
- [通信チャネルのタイプとしてエンドユーザーが複数インスタンスを設定できるようにするには](#)
- [管理者のプロキシ認証: エンドユーザーによる信用情報の設定の禁止](#)
- [認証不要ポータルデスクトップ用に読み取り専用通信チャネルを設定する](#)
- [Microsoft Exchange Server または IBM Lotus Notes の設定](#)
- [デフォルト組織の下に新規ユーザーを作成するには](#)
- [HTTPS が有効な Messaging Server とメールプロバイダが連携するように設定するには](#)

同じサーバー、または異なるサーバーに Sun ONE Messaging Server と Sun ONE Calendar Server がすでにインストールされている場合は、チャネル作成時に対応する URL を指定してください。

デフォルト組織のサービスを設定するには

通信チャネルのインストールが完了した後で、後述する方法でインスタントメッセージチャネルとアドレス帳チャネルをより詳細に設定する必要があります。カレンダーチャネルとメールチャネルには、デフォルトの設定が適用されるので、管理者による追加設定なしで利用できます。カレンダーチャネルとメールチャネルを含め、通信チャネルにサイト固有の問題が存在する場合がありますので注意してください。問題を解決するために、管理者がサイトの要件に合わせてチャネルを設定しなければならないこともあります。

次に、通信チャネルの設定に関連する重要な情報を示します。

[通信チャネルの設定に関する情報](#)

[インスタントメッセージチャネルの設定](#)

[アドレス帳チャネルの設定](#)

通信チャネルの設定に関する情報

すべての通信チャネルについて

エンドユーザーの設定

通信チャネルにプロキシ認証を設定する場合 (詳細については [330 ページ](#) の「[管理者のプロキシ認証: エンドユーザーによる信用情報の設定の禁止](#)」を参照) を除き、エンドユーザーは各通信チャネルの「編集」ボタンをクリックしてチャネルの編集ページにアクセスし、チャネルをさらに設定する必要があります。

注意: 検出されないエラー: 起動ボタンが表示されない

いずれかの通信チャネルでクライアントのポート番号を誤って入力しても、エンドユーザーにはエラーメッセージが表示されません。該当するチャネルの起動ボタンが表示されないため、エラーがあること自体は特定できますが、この情報だけではエンドユーザーは問題の根本的な原因を特定できません。管理者とエンドユーザーのどちらも誤ったクライアントポート番号を入力する可能性があります。カレンダーチャネルとメールチャネルについてはエンドユーザーだけがクライアントポート番号を編集できるため、これらのチャネルでこの問題が生じた場合は、エンドユーザーによる誤入力が原因であると言えます。

注意: 検出されないエラー: チャネルが表示されない

エンドユーザーに通信チャネルが表示されず、エラーメッセージも表示されない状況があります。テンプレートまたは設定の名前を誤って設定した可能性があるため、テンプレートや設定を見つけることができないのです。次の条件のいずれかを満たすときには、通信チャネルが表示されません。

- SSOAdapter テンプレートが見つからない
- SSOAdapter 設定が見つからない
- `display.template` ファイルが見つからない

メールチャネルについて

HTTPS が有効な Messaging Server

メールチャネルが通常の HTTP メッセージングサーバーではなく、より安全な HTTPS が有効なメッセージングサーバーに接続される場合は、メールチャネルが正常に機能するように、セキュリティに関連する調整を行う必要があります。詳細は、[349 ページ](#) の「[HTTPS が有効な Messaging Server とメールプロバイダが連携するように設定するには](#)」を参照してください。

インスタントメッセージチャネルの設定

Sun ONE Instant Messaging Server のインストール時に、Portal Server で IM を有効にするオプションを選択した場合、Sun ONE Portal Server のインストール時に Instant Messaging Server がインストールされます。

インスタントメッセージポータルチャネルはそのままでも機能するように設計されていますが、サイトの要件に合わせて設定が必要となることもあります。インストールに追加の設定が必要であるかどうかを調べるには、「[インスタントメッセージチャネルを設定するには](#)」の手順を実行した後に、「[インスタントメッセージチャネルの追加設定](#)」の各節を参照してください。

インスタントメッセージチャネルは、IMProvider という Portal Server コンテンツプロバイダに基づいています。IMProvider は、Portal Server 内の JSPProvider の機能拡張です。JSPProvider の機能拡張であるため、IMProvider はインスタントメッセージチャネルのコンテンツページと編集ページの生成に JSP ファイルを使用します。Instant Messenger を起動するためのページも JSP ファイルを使用して生成されます。IMProvider は、インスタントメッセージに固有のタグライブラリも定義します。このタグライブラリは、JSP ファイルによって使用されます。JSP ファイルとタグライブラリは、IMProvider によって定義されるチャネルプロパティを使用します。

Sun ONE Instant Messaging Server の詳細については、『Instant Messaging 管理者ガイド』を参照してください。Sun ONE Portal Server のインスタントメッセージチャネルタグライブラリ、および JSP ファイルの編集によるインスタントメッセージチャネルのカスタマイズについては、『Sun ONE Portal Server 6.2 Desktop Customization Guide』を参照してください。また、管理者とエンドユーザーは、インスタントメッセージチャネル設定のコードベースプロパティで使用されている URL にアクセスすることで、Sun ONE Instant Messaging Server に関する情報を参照できます。

インスタントメッセージチャネルを設定するには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun™ ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネル (左下のフレーム) に「表示」ドロップダウンリストを表示します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
4. 「Portal Server 設定」の見出しの下で、「ポータルデスクトップ」の隣にある矢印をクリックします。データパネル (右下のフレーム) に「ポータルデスクトップ」ページが表示されます。
5. 「チャネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。

- 「チャネル」という見出しまでスクロールし、「IMChannel」の隣にある「プロパティの編集」をクリックして Instant Messaging サービスのパネルを表示します。このパネルには、基本プロパティがあります。

次に、IMChannel の編集ページに表示されるプロパティの一部を示します。各プロパティには値の例が指定されています。

プロパティ	値
server	imserver.example.com
port	49999
mux	imserver.example.com
muxport	49909
codebase	imapplet.example.com
netletRule	IM
clientRunMode	plugin
authMethod	idsvr
authUsernameAttr	uid
username	(authmethod が idsvr の場合は適用されない)
password	(authmethod が idsvr の場合は適用されない)
contactGroup	My Contacts

- 設定する各プロパティの隣にあるテキストフィールドに適切な値を入力します。[表 12-1](#) は、プロパティの説明と、値として入力できる情報のタイプを示しています。

表 12-1 IMChannel の編集ページのプロパティと値の説明

プロパティ	値
server	チャネルが使用する Sun ONE Instant Messaging Server のホスト名を入力する
port	チャネルが使用する Sun ONE Instant Messaging Server が関連付けられているポート番号を入力する。デフォルトのポート番号は 49999
mux	チャネルがインスタントメッセージクライアントを起動したときに起動される Sun ONE Instant Messaging Multiplexor のホスト名を入力する
muxport	Sun ONE Instant Messaging Multiplexor に関連付けられているポート番号を入力する。デフォルトのポート番号は 49909
codebase	インスタントメッセージクライアントがダウンロードされる URL のプレフィックスを入力する

表 12-1 IMChannel の編集ページのプロパティと値の説明 (続き)

プロパティ	値
netletRule	Secure Remote Access (SRA) ゲートウェイ経由のセキュアモードでインスタントメッセージクライアントが使用する Netlet ルールの名前を入力する
clientRunMode	インスタントメッセージクライアントを実行する方法を入力する。指定できる値は plugin または jnlp (Java Web Start で使用)
authMethod	通常は、認証方法として Sun ONE Identity Server の認証方法が使用されることを示す idsvr を値として入力することが望ましい 指定できる値は、idsvr または ldap の 2 つである。idsvr を指定すると、シングルサインオンが有効になる。また、username フィールドと password フィールドを Instant Messaging チャンネル編集ページから取り除く
authUsernameAttr	認証方法 idsvr による認証で、ユーザー名として使用される属性の名前を入力する
username	認証方法 LDAP による認証で使用されるユーザー名を入力する
password	認証方法 LDAP による認証で使用されるパスワードを入力する。このプロパティは、ディスプレイプロファイルに格納されるときに、AMPasswordUtil クラスを使用して難読化される
contactGroup	インスタントメッセージチャンネルで表示される連絡先グループの名前を入力する

8. 必要に応じてページをスクロールし、「保存」をクリックします。

インスタントメッセージチャンネルの追加設定

複数の組織に対応するには、追加手順の実行が必要になることがあります。

Portal Server インスタンスが 1 つの Instant Messaging サーバーを使用して複数の組織にサービスを提供する場合は、追加手順を実行する必要があります。

Identity Server と Portal Server では、管理者は複数のユーザーが組織内で同じユーザー ID (uid) を持つように設定することができます。たとえば、組織に 2 つのサブ組織があり、それぞれが enduser22 という名前のエンドユーザーを持つことができます。このとき、この 2 人が Instant Messaging チャンネルを通じてそれぞれのアカウントにアクセスしようとする、競合が発生します。

このような競合の可能性をなくすために、組織ごとに JSP 起動ページのセットを作成し、組織の `sunPreferredDomain` 属性の値に設定されたパラメータを含め、この値をドメインとして渡す必要があります。デフォルトの起動ページは次のとおりです。

```
/etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider/jnlpLaunch.jsp  
/etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider/pluginLaunch.jsp
```

組織への Instant Messenger リンクの追加

デフォルトでは、デフォルト組織のアプリケーションチャネルに Instant Messenger リンクが追加されます。このアプリケーションチャネルには、さまざまなアプリケーションを起動するためのリンクがあります。Instant Messenger リンクを使用することで、アプリケーションチャネルから Instant Messenger を起動できます。次の場合は、Instant Messenger リンクを手動で追加する必要があります。

- 別の組織にこれらのリンクを追加する場合
- サンプルポータルがインストールされていない場合
- 別のチャネルで AppProvider を使用している場合

Instant Messenger リンクのコンテンツは

`/opt/SUNWps/samples/desktop/dp-IMChannel.xml` ファイルに記録されています。`dp-IMChannel.xml` ファイルには、IMChannel のサンプルも含まれます。

別の組織のディスプレイプロファイルに Instant Messenger リンクの情報を追加するには、次のように `dp-IMChannel.xml` ファイルのコピーを編集し、`dpadmin` コマンドを実行してそのファイルをインストールします。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
portal-server-install-dir/SUNWps/bin/
```
2. 次の方法で `dp-IMChannel.xml` ファイルのコピーを作成します。

```
cp dp-IMChannel.xml newfile.xml
```
3. 次の `dpadmin` コマンドを実行して、アプリケーションチャネルを修正します。

```
dpadmin modify -u ADMIN_DN -w PASSPHRASE -d ORG_DN -m  
newfile.xml
```

ここで、

`ADMIN_DN` は LDAP 管理者の DN です。たとえば、次のようになります。
`amadmin`

`PASSPHRASE` は管理者のパスワードです。

ORG_DN はリンクを追加する組織の DN です。たとえば、次のようになります。
o=example.com, o=isp

インスタントメッセージチャネルは、起動引数として Java プラグインを使用して Instant Messenger を起動するための URL を参照します。たとえば、次のようになります。

```
/portal/dt?action=content&provider=IMChannel&launch=plugin&username=sam
```

Java Web Start を使用して Instant Messenger アプレットを起動するための URL は、次のようになります。

```
/portal/imlaunch?channel=IMChannel&launch=jnlp&username=sam
```

Sun ONE Portal Server での Sun ONE Instant Messenger のセキュアモードの有効化
Netlet は、Instant Messenger とサーバーの間にセキュリティ保護された通信を提供します。

注 Secure Remote Access ゲートウェイ経由でアクセスした場合、インスタントメッセージチャネルは自動的にセキュアモードを使用します。ゲートウェイを経由せずにアクセスした場合は、インスタントメッセージチャネルはセキュアモードを使用しません。

セキュアモードを有効にするには、Netlet ルールを追加する必要があります。

Netlet ルールを追加するには、次の手順を実行します。

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
4. 「SRA 設定」までスクロールし、「Netlet」を選択します。
5. 「Netlet」の隣にある矢印のアイコンをクリックします。右のパネルに「Netlet ルール」が表示されます。
6. 「Netlet ルール」の下の「追加」をクリックします。
7. 「ルール名」フィールドに IM と入力します。

注 別の Netlet ルール名を指定することもできます。別の Netlet ルールを使用するようにインスタントメッセージチャネルを設定できます。

- URL フィールドのデフォルト値を消去し、空白のまま残します。
- 「アプレットのダウンロード」チェックボックスにチェックマークを付けて、次の文字列を入力します。

```
$IM_DOWNLOAD_PORT:$IM_WEBSERVER_HOST:$IM_WEBSERVER_PORT
```

たとえば、次のようになります。

```
49916:company22.example.com:80
```

ここで

IM_DOWNLOAD_PORT : Netlet を使用してインスタントメッセージリソースがダウンロードされるポート

IM_WEBSERVER_HOST : Instant Messenger にサービスを提供する Web サーバーのホスト名。たとえば、`company22.example.com`

IM_WEBSERVER_PORT : Instant Messenger にサービスを提供する Web サーバーのポート番号。たとえば、`80`

- 「ポート - ホスト - ポート」リストのデフォルト値を選択し、「削除」をクリックします。
- 「クライアントポート」フィールドに、Netlet が実行されるローカルホストのポートを入力します。たとえば、次のようになります。49916。
- 「ターゲットホスト」フィールドに、Instant Messenger のホスト名を入力します。
- 「ターゲットポート」フィールドに、Instant Messenger のポート番号を入力します。

注 Netlet のポート、Instant Messenger のホスト、Instant Messenger のポートは、インスタントメッセージサービスパネルで指定した **Instant Messaging** サービスの属性と一致させる必要があります。これについては、[309 ページの「インスタントメッセージチャネルを設定するには」](#) の最後の手順で説明しています。

- 「リストに追加」をクリックします。
- 「保存」をクリックして Netlet ルールを保存します。

Instant Messenger のユーザーによる起動の禁止

ユーザーのディスプレイプロファイルからインスタントメッセージチャネルを消去し、ユーザーがこのチャネルを使用できないように設定することができます。たとえば、自動的にインストールされるサンプルの IMChannel を消去するには、次の手順を実行します。

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
4. ポータルデスクトップサービスの隣にある矢印をクリックします。
5. 「チャネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。
6. IMChannel チャネルの左のチェックボックスにチェックマークを付けます。
7. 必要に応じてページをスクロールし、「削除」をクリックしてチャネルを削除します。

アドレス帳チャネルの設定

アドレス帳チャネルを機能させるには、アドレス帳チャネルサービスのデフォルトを設定する必要があります。できるだけ効率的にアドレス帳チャネルを実行できるように、LDAP 接続プールの最小サイズと最大サイズをサイト要件に合わせて適切に設定する必要があります。

アドレス帳サービスのデフォルトの設定

LDAP 接続プールの最小サイズと最大サイズの設定

アドレス帳サービスのデフォルトの設定

ここでは、シングルサインオン (SSO) アダプタテンプレートについて説明します。これらのテンプレートは、ユーザーのポータルデスクトップでの通信チャネルの表示にグローバルに影響します。通信チャネル用にユーザーのディスプレイプロファイルを修正するには、SSO アダプタのテンプレートと設定を編集または作成する必要があります。

この章では、アドレス帳のテンプレートについてだけ説明します。アドレス帳についての説明も、ここではかなり限定的です。SSO アダプタ、SSO アダプタテンプレート、SSO アダプタの設定に関する広範な解説については、付録 H 「SSO アダプタテンプレートと設定」を参照してください。

アドレス帳サービスのデフォルトを設定するには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」タブをクリックします。設定できるサービスのリストがナビゲーションパネルに表示されます。

3. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
4. "default|" から始まる LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) 文字列をクリックします。この文字列は、「ダイナミック」の反対の「グローバル」という見出しの下にある「SSO アダプタテンプレート」というボックスにあります。

```
default|ldap://...
```

この文字列は、"default|pop3://..."、"default|imap://..."、"default|http://..." などの文字列とともに表示されます。

"default|ldap://..." 文字列をクリックすると、文字列が選択され、下にある設定を説明するフィールドにコピーが表示されます。このフィールドでは、文字列を編集できます。設定を説明するフィールドは、「追加」ボタンと「削除」ボタンの上にあります。

5. 設定を説明するフィールドに "default|ldap://..." 文字列が表示されたら、フィールド内をクリックします。

コード例 12-2 は、設定を説明するフィールドに表示される、編集前の完全なデフォルト SSO アダプタテンプレートの文字列を示しています。この説明は、長い 1 行の文字列として表示されますが、ここでは、読みやすいようにアンパサンド記号 (&) の直前に改行が加えられています。

コード例 12-2 編集前のアドレス帳 SSO アダプタテンプレート

```
default|ldap:// [SERVER-NAME:PORT] /?configName= [SUN-ONE-ADDRESS-BOOK]
&pabSearchBase= [PAB-SEARCH-BASE]
&userSearchBase= [USER-SEARCH-BASE]
&aid= [ADMIN-ID]
&adminPassword= [ADMIN-PASSWORD]
&imapHost= [IMAP-HOST]
&imapPort= [IMAP-PORT]
&clientPort= [CLIENT-PORT]
&enableProxyAuth=false
&proxyAdminUid= [PROXY-ADMIN-UID]
&proxyAdminPassword= [PROXY-ADMIN-PASSWORD]
&userAttribute=uid
&type=AB-TYPE
&subType=sun-one
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.LDAPABSSOAdapter
&encoded=password
&default=ssoClassName
&default=host
&default=port
&default=pabSearchBase
&default=userSearchBase
&default=aid
&default=adminPassword
&default=imapHost
&default=imapPort
```

コード例 12-2 編集前のアドレス帳 SSO アダプタテンプレート (続き)

```
&default=clientPort
&default=type
&default=subType
&default=enableProxyAuth
&default=proxyAdminUid
&default=proxyAdminPassword
&default=userAttribute
&merge=uid
&merge=password
&default=enablePerRequestConnection
&enablePerRequestConnection=false
```

6. 設定を説明するフィールドで、[318 ページの表 12-2](#) で詳しく説明する [SERVER-NAME:PORT] のようにカッコで囲まれた値を文字列上で選択し、`psserver.company22.example.com:389` のような具体的な情報を入力して置き換えます。
7. 文字列内のカッコで囲まれたすべての値を書き換えたら、「追加」をクリックします。

これにより、「SSO アダプタテンプレート」ボックスに表示される元の "default|ldap://..." 文字列を含むその他の文字列に、新たに編集した "default|ldap://..." 文字列が追加されます。
8. カッコで囲まれた値を持つ元の "default|ldap://..." 文字列が選択されていない場合は、この文字列を選択します。この文字列だけを選択する必要があります。
9. 「削除」をクリックし、元の "default|ldap://..." 文字列を削除します。
10. 「SSO アダプタ」ページを下にスクロールし、「保存」をクリックします。

SSO アダプタテンプレート文字列の属性については、[付録 H 「SSO アダプタテンプレートと設定」](#) を参照してください。

表 12-2 アドレス帳 SSO アダプタテンプレート文字列の例の詳細

パラメータ	値
SERVER-NAME: PORT	<p>この文字列は、Messaging Server に関連付けられているユーザーまたはグループ Directory Server の名前とポート番号に置き換える。たとえば、次のとおり</p> <pre>psserver.company22.example.com:389</pre> <p>通常は、カッコで囲まれた [SERVER-NAME:PORT] の SERVER-NAME の部分と置き換えるサーバー名は、カッコで囲まれた [IMAP-HOST] と置き換えるサーバー名と同じである</p> <p>ただし、まれに 2 つのホストが異なる場合がある。認証が個人アドレス帳 (PAB) に適用されるホストとして別の IMAP ホストが指定されている場合などは、これらのホストは異なる</p> <p>ポート番号を 389 から 390 などの別の番号に変更するときは、次のように操作する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カッコで囲まれた [SERVER-NAME:PORT] の PORT の部分を 390 に置き換える。この表の最初に示したサーバー名とポートの例は、次のように変更される <pre>psserver.company22.example.com:390</pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. 次のアドレス帳 SSO アダプタテンプレート文字列を追加する <pre>&default=port&port=390</pre> <p>これにより、316 ページのコード例 12-2 で示したテンプレート文字列の最後の部分が次のように変更される</p> <pre>...merge=uid&merge=password&default=port&port=390</pre>
SUN-ONE-ADDRESS-BOOK	<p>この文字列は、次の文字列に置き換える</p> <pre>sunOneAddressBook</pre> <p>これは、ダイナミック SSO アダプタ設定に表示される次の値と同じである configDesc=SUN-ONE-ADDRESS-BOOK</p> <p>具体的には、これは次の文字列で表示される</p> <pre>undef:///?configName=sunOneAddressBook&configDesc=SUN-ONE-ADDRESS-BOOK</pre>
PAB-SEARCH-BASE	<p>この文字列は、PAB 検索ベースに置き換える。検索ベースは、個人アドレス帳の検索が開始されるポイントである</p> <p>たとえば、次のとおり o=pab</p>

表 12-2 アドレス帳 SSO アダプタテンプレート文字列の例の詳細 (続き)

パラメータ	値
USER-SEARCH-BASE	この文字列は、ユーザー検索ベースに置き換える。 例: o=example.com
ADMIN-ID:	この文字列は、PAB LDAP 管理者の識別名 (DN) に置き換える 例: uid=msg-admin,ou=People, o=company22.example.com,o=example.com
ADMIN-PASSWORD	この文字列は、PAB 管理者 ID のパスワードに置き換える。 例: admin ただし、これは暗号化されたパスワードではない。 adminPassword で暗号化されたパスワードを使用する方法 については、付録 H 「SSO アダプタテンプレートと設定」 の 537 ページの表 H-3 で「encoded」の項を参照
IMAP-HOST	この文字列は、Messaging Server の IMAP (Internet Messaging Access Protocol) ホスト名に置き換える たとえば、次のとおり &smtpServer=company22.siroe.com 通常は、このサーバーの名前は [SERVER-NAME: PORT] に 指定する名前と同じである
IMAP-PORT	この文字列は、IMAP ポート番号に置き換える。たとえば、 次のとおり 143
CLIENT-PORT:	この文字列は、メッセージソリューションサーバーが実行され る HTTP ポート番号に置き換える たとえば、次のとおり 1080
PROXY-ADMIN-UID	この文字列は、プロキシ管理者のユーザー ID に置き換える たとえば、次のとおり msg-admin プロキシ認証が有効化されていない場合は、320 ページの コード例 12-3 に示されるように、カッコで囲まれたこの値 をプレースホルダとして残すことができる
PROXY-ADMIN-PASSW ORD	この文字列は、プロキシ管理者のパスワードに置き換える たとえば、次のとおり mailpwd プロキシ認証が有効化されていない場合は、320 ページの コード例 12-3 に示されるように、カッコで囲まれたこの値 をプレースホルダとして残すことができる

320 ページのコード例 12-3 は、設定の詳細を追加した後のアドレス帳 SSO アダプタテンプレート文字列を示しています。この例では、プロキシ認証は有効化されていません。プロキシ認証については、330 ページの「管理者のプロキシ認証: エンドユーザーによる信用情報の設定の禁止」を参照してください。

コード例 12-3 編集後のアドレス帳 SSO アダプタテンプレート

```
default|ldap://company22.example.com/?configName=sunOneAddressBook
&pabSearchBase=o=pab
&userSearchBase=o=example.com
&aid=uid=msg-admin,ou=People,o=company22.example.com,o=example.com
&adminPassword=admin
&imapHost=imserver.company22.example.com
&imapPort=143
&clientPort=1080
&enableProxyAuth=false
&proxyAdminUid=[PROXY-ADMIN-UID]
&proxyAdminPassword=[PROXY-ADMIN-PASSWORD]
&userAttribute=uid
&type=AB-TYPE
&subType=sun-one
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.LDAPABSSOAdapter
&encoded=password
&default=ssoClassName
&default=host
&default=port
&default=pabSearchBase
&default=userSearchBase
&default=aid
&default=adminPassword
&default=imapHost
&default=imapPort
&default=clientPort
&default=type
&default=subType
&default=enableProxyAuth
&default=proxyAdminUid
&default=proxyAdminPassword
&default=userAttribute
&merge=uid
&merge=password
&default=enablePerRequestConnection
&enablePerRequestConnection=false
```

LDAP 接続プールの最小サイズと最大サイズの設定

ここでは、アドレス帳プロバイダの接続プールについて説明します。これは、サポートされるすべてのプロバイダ (Sun ONE Address Book Provider、Microsoft Exchange Address Book Provider、Lotus Notes Address Book Provider) に適用されます。

接続プールは、設定されている数の LDAP 接続を維持します。この数は、必ず `connPoolMin` プロパティの値より多く、`connPoolMax` プロパティの値より少なくなります。この 2 つのプロパティのデフォルト値は `connPoolMin=5` と `connPoolMax=20` で、`LdapABConstants.java` ファイルに設定されています。ただし、これらの値を変更するには、SSO アダプタを編集する必要があります。LDAP 接続の数はグローバルレベルで変更することがほとんどであるため、後述の「[LDAP 接続プールの最小サイズと最大サイズを設定するには](#)」で説明する手順に従ってアドレス帳 SSO アダプタテンプレートでこれらのプロパティを編集します。

エンドユーザーがアドレス帳を起動すると、接続プールは利用できる LDAP 接続を探します。接続を利用できる場合は、それをエンドユーザーに提供します。接続を利用できず、接続数が `connPoolMax` の値に達していない場合は、新しい LDAP 接続が作成され、それがエンドユーザーに提供されます。接続を利用できず、接続数が `connPoolMax` プロパティの値に達している場合は、エンドユーザーはプール内の接続が空くまで待機する必要があります。接続が空く前にタイムアウト値の時間が経過した場合は、エンドユーザーによるアドレス帳サーバーへの接続試行は失敗します。

LDAP 接続の作成はパフォーマンスに影響するので、接続の新規作成が多くなりすぎないように、プール内の接続の最小数には十分な値を設定する必要があります。しかし、最小数に大きすぎる値を設定すると、ハードウェアリソースの全体的な可用性が大きく低下するので注意が必要です。

さらに、ほとんどのエンドユーザーが待機なしで LDAP 接続を利用できるように、プール内の接続の最大数には十分な値を設定する必要がありますが、ハードウェアリソースの可用性を不必要に低下させない程度にとどめる必要があります。理想的な値は、ハードウェアに過度な負担をかけず、エンドユーザーにアドレス帳への迅速なアクセスを提供できる値です。

LDAP 接続プールの最小サイズと最大サイズを設定するには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」タブをクリックします。設定できるサービスのリストがナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
4. "default|" から始まる LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) 文字列をクリックします。この文字列は、「ダイナミック」の反対の「グローバル」という見出しの下にある「SSO アダプタテンプレート」というボックスにあります。

```
default|ldap://...
```

5. 設定を説明するフィールドに "default|ldap://..." 文字列が表示されたら、フィールド内をクリックします。
6. 文字列の最後まで移動し、サイトに適した値を入力します。コード例 12-4 は、LDAP 接続の最小数を 7、最大数を 1,000、タイムアウト値を 180 に設定する例を示しています。

コード例 12-4 SSO アダプタテンプレートに追加する LDAP 接続コード

```
default=connPoolMin
&connPoolMin=7
&default=connPoolMax
&connPoolMax=1000
&default=timeout
&timeout=180
```

7. 「追加」をクリックします。
これにより、「SSO アダプタテンプレート」ボックスに表示される元の "default|ldap://..." 文字列を含むその他の文字列に、新たに編集した "default|ldap://..." 文字列が追加されます。
8. 元の "default|ldap://..." 文字列が選択されていない場合は、この文字列を選択します。この文字列だけを選択する必要があります。
9. 「削除」をクリックし、元の "default|ldap://..." 文字列を削除します。

エンドユーザーとしてチャネルを設定するには

1. 新規ユーザーとしてデスクトップにログインします。
 - a. インターネットブラウザで、次の URL にアクセスします。
`http://hostname.domain:port/portal/dt`, for example
`http://psserver.company22.example.com:80/portal/dt`
 - b. ユーザー ID とパスワードを入力します。
 - c. 「ログイン」をクリックします。
2. 各チャネルの「編集」ボタンをクリックし、サーバー設定を編集します。
 - o. メールチャネルを設定するには
 - サーバー名：メールサーバーのホスト名を入力します。たとえば、`mailserver.example.com` のように指定します。
 - IMAP サーバーポート：メールサーバーのポート番号を入力します。

SMTP サーバー名：送信メールサーバー (SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバー) のドメイン名サーバー (DNS) 名を入力します。

クライアントポート：HTTP サービスに設定されているポート番号を入力します。

ユーザー名：メールサーバーのユーザー名を入力します。

ユーザーパスワード：メールサーバーのユーザーパスワードを入力します。

メッセージ送信時に送信済みフォルダにコピーする：送信メッセージのコピーを「送信済み」フォルダに格納するときは、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

完了：メール設定を保存するときは、このボタンをクリックします。

キャンセル：詳細な設定を保存せずにウィンドウを閉じるときは、このボタンをクリックします。

○ アドレス帳チャネルを設定するには

IMAP のユーザー ID とパスワードは、メールチャネルの設定時に入力した「ユーザー名」、「ユーザーパスワード」と同じです。詳細については、「[メールチャネルを設定するには](#)」の項目を参照してください。

IMAP ユーザー ID：IMAP のユーザー ID を入力します。

IMAP パスワード：IMAP のパスワードを入力します。

完了：サーバー情報を保存するときは、このボタンをクリックします。

キャンセル：詳細な設定を保存せずにウィンドウを閉じるときは、このボタンをクリックします。

○ カレンダーチャネルを設定するには

サーバー名：カレンダーサーバーのホスト名を入力します。たとえば、Calserver.example.com のように指定します。

サーバーポート：カレンダーサーバーのポート番号を入力します。

ユーザー名：カレンダーサーバーのユーザー名を入力します。

ユーザーパスワード：カレンダーサーバーのユーザーパスワードを入力します。

完了：カレンダー設定を保存するときは、このボタンをクリックします。

キャンセル：詳細な設定を保存せずにウィンドウを閉じるときは、このボタンをクリックします。

○ インスタントメッセージチャネルを設定するには

連絡先一覧：インスタントメッセージチャンネルに表示する連絡先の連絡先リストを選択します。

起動方法：適切な起動方法を選択します。Java Plugin または Java Web Start を選択できます。

サーバー：Sun ONE Instant Messaging Server の名前を入力します。たとえば、次のようになります。
IMserver.example.com

サーバーポート：Sun ONE Instant Messaging Server のポート番号を入力します。たとえば、次のようになります。
49999

マルチプレクサ：マルチプレクサの名前を入力します。Sun ONE Instant Messaging サーバーと同じマシンでなければなりません。たとえば、次のようになります。
IMserver.example.com

マルチプレクサポート：マルチプレクサのポート番号を入力します。たとえば、次のようになります。
49909

ユーザー名：(このフィールドは、認証方法が Sun ONE Identity Server 認証方法である idsvr に設定されている場合のみ表示される) Sun ONE Instant Messaging ユーザー名を入力します。

ユーザーパスワード：(このフィールドは、認証方法が Sun ONE Identity Server 認証方法である idsvr に設定されている場合のみ表示される) Sun ONE Instant Messaging ユーザーパスワードを入力します。

完了：Sun ONE Instant Messaging Server の設定を保存するときは、このボタンをクリックします。

キャンセル：詳細な設定を保存せずにウィンドウを閉じるときは、このボタンをクリックします。

注 アドレス帳、カレンダー、メールチャネルには、それぞれに表示オプションがあり、ユーザーがそれを設定できます。デフォルトでは、管理者はこの設定を変更しません。ユーザーがチャネルの表示オプションを変更するには、ポータルデスクトップにログインし、各チャネルのパネルで「編集」ボタンをクリックします。表示オプションが表示され、簡単に変更できます。

アドレス帳では、ユーザーは「エントリ数」表示オプションを変更できます。カレンダーでは「Day View」、メールでは「ヘッダ数」の各表示オプションをユーザーが変更できます。

デフォルトの通信チャネル表示オプションにユーザーが加えた変更は、優先して適用されます。後から管理者が加えた変更は自動的に有効にならず、管理者が追加した新規チャネルにもユーザーは自動的にアクセスできません。管理者が加えた変更を適用し、ユーザーが表示できるようにする方法については、[551 ページの「一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合」](#)を参照してください。

アプリケーション設定の編集：通信チャネル編集ページの設定

エンドユーザーがアドレス帳、カレンダー、メールの各通信チャネルのツールバーで「編集」ボタンをクリックしたときに表示される編集ページを設定することができます。インスタントメッセージチャネルの編集には、アプリケーション設定の編集は使用されません。インスタントメッセージチャネルの編集ページの設定については、『Sun ONE Portal Server 6.2 Desktop Customization Guide』を参照してください。

アプリケーション設定の編集に対応している3つの通信チャネルでは、エンドユーザーにどのオプションの編集を許可するか、各オプションの名称と説明、オプションの形式を変更できます。通信チャネルの編集ページの設定には、ディスプレイプロファイル、各種HTMLテンプレート、SSOアダプタテンプレートを使用します。また、SSOアダプタ設定へのアクセスが必要になることもあります。編集ページの設定には、これらの項目すべてが関連します。

ここでは、アプリケーション設定の編集について概要だけを説明します。テンプレートファイルとディスプレイプロファイルの詳細な説明(相互動作の仕組みやアクセス方法、編集方法を含む)については、本書の各章と『Sun ONE Portal Server 6.2 Desktop Customization Guide』を参照してください。

編集ページのディスプレイプロファイルの属性

通信チャネルのディスプレイプロファイルには、編集ページの作成を指示する `ssoEditAttributes` および `dpEditAttributes` という 2 つのコレクションがあります。

Sun ONE Identity Server の管理コンソールにアクセスすることで、これらのコレクションを編集できます。ディスプレイプロファイルをダウンロードし、XML コードを編集して Directory Server にアップロードするか、管理コンソールだけを使用してこれらのコレクションの特定のプロパティを編集します。

`ssoEditAttributes` コレクションは、SSO アダプタサービスに含まれる属性 (`user name`、`user password` など) の編集を制御し、`dpEditAttributes` コレクションは、デフォルトではエンドユーザーに編集が許可されているディスプレイプロファイル属性 (`sort order`、`sort by` など) の編集を制御します。

このため、これらのコレクションには編集可能な属性が含まれ、入力のタイプや使用する入力文字列のヘッダーに関する情報も含まれます。たとえば、次のようになります。

```
<String name="uid" value="string|User Name:"/>  
<String name="password" value="password|User Password:"/>
```

コレクション内の名前は、対応するディスプレイプロファイル SSO アダプタ属性の名前と一致する必要があります。項目の値の部分には、「|」という文字で区切られた 2 つの情報が含まれています。値文字列の最初の部分は、その属性の表示タイプを指定します。属性の値文字列の 2 番目の部分は、その項目の隣に表示される文字列を指定します。次に、表示タイプが HTML の GUI 項目にどのように対応するかを示します。

- `string` : 英数字を入力できるテキストフィールドを作成する
- `password` : 入力内容が「*」に置き換えて表示されるパスワードフィールドを作成する
- `check` : チェックボックスを作成する
- `select` : 選択ボックスを作成する。すべての選択項目は、値と表示テキストのリストが設定された、対応するコレクションを必要とする

`select` 表示タイプのすべての項目は、返される値とオプションの表示値 (文字列) のリストが設定された、対応するコレクションを必要とします。このコレクションの名前は、その属性の名前と、`SelectOptions` というテキストから構成されます。たとえば、`MailProvider` の `sortOrder` 属性であれば、コレクション名は `sortOrderSelectOptions` となります。

```
<Collection name="sortOrderSelectOptions" advanced="false"
merge="replace" lock="false" propagate="true">
  <String name="top" value="Most recent at top"/>
  <String name="bottom" value="Most recent at bottom"/>
</Collection>
```

編集ページの HTML テンプレート

通信チャネルプロバイダの編集ページの作成には、9つの HTML テンプレートが使用されます。これらのテンプレートは、特定のブラウザの GUI タイプに対応できるように、汎用性が高く作成されています。ほとんどは、編集ページ内の特定の HTML 入力に関連するものです。edit-start.template と edit-end.template は例外です。これらのテンプレートには、ページのレイアウトに使用されるほとんどの HTML コードが含まれます。327 ページの表 12-3 は、各テンプレートの名前と、それが GUI タイプとどのように関連するかを示しています。一部のテンプレートは、属性の開始、終了、分割に使用されます。各通信チャネル用のこれらのテンプレートは、次の場所に格納されています。

```
/etc/opt/SUNWps/desktop/default/ChannelName_Provider/html
```

たとえば、カレンダーチャネルの編集ページのテンプレートは、次の場所にあります。

```
/etc/opt/SUNWps/desktop/default/CalendarProvider/html
```

表 12-3 通信チャネル編集ページのテンプレート

テンプレート	説明
edit-start.template	編集ページの HTML テーブルの開始を指定する
edit-checkbox.template	チェックボックス項目用の汎用テンプレート
edit-separate.template	ディスプレイプロファイル属性と SSO 属性を分割する
edit-end.template	編集ページの HTML テーブルの終了を指定する
edit-password.template	パスワード項目用の汎用テンプレート
edit-string.template	テキスト項目用の汎用テンプレート
edit-select.template	選択項目用の汎用テンプレート
edit-selectoption.template	選択オプション用の汎用テンプレート。この方法では、オプションをディスプレイプロファイルからダイナミックに生成できる
edit-link.template	ユーザーがクライアントの表示属性を編集するためのリンク生成用のテンプレート

ディスプレイプロファイルの例

この例は、エンドユーザーが通信チャネルの編集ページで特定の機能のエントリを変更し、各自のポータルデスクトップで通信チャネルがどのように設定、表示されるかを変更できるようにするために、SSOアダプタの特定の属性がそれぞれに対応するディスプレイプロファイルの属性とどのように連携して機能するかを示しています。

328 ページのコード例 12-5 に示す SSO アダプタテンプレートは、メールチャネルの例です。SSO アダプタテンプレートには、マージされた属性が 2 つ含まれます。

- uid : ユーザー ID
- password : ユーザーパスワード

マージされた属性は、エンドユーザーが指定できる属性です。管理者は、どの属性をマージされた属性にするか、つまり、エンドユーザーがどの属性を編集できるようにするかを決定します。

コード例 12-5 SSO アダプタテンプレートの例

```
default | imap:///&configName=MAIL-SERVER-TEMPLATE
&encoded=password
&default=protocol
&default=clientProtocol
&default=type
&default=subType
&default=ssoClassName
&default=smtpServer
&default=clientPort
&default=host
&default=port
&merge=username
&merge=userpassword
&clientProtocol=http
&type=MAIL-TYPE
&subType=sun-one
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.JavaMailSSOAdapter
&smtpServer=example.sun.com
&clientPort=80
&host=company22.example.com
&port=143
```

329 ページのコード例 12-6 は、チャネルの `ssoEditAttributes` のディスプレイプロファイル XML コード例を示しています。

SSO アダプタテンプレートで管理者が属性に `merge` を設定した後に、ディスプレイプロファイル内の属性を編集し、その属性がエンドユーザーの編集ページにどのように表示され、エンドユーザーがそれをどのように編集できるかを再設定することができます。管理者は、ディスプレイプロファイルの適切なコレクションを編集し、エンド

ユーザーが必要な情報を照会する方法を決定できます。たとえばこの例では、管理者は User Name を What is your user name? という質問に置き換えることができます。通常は、「|」記号の前に指定する属性表示タイプとして、string を使用します。ただし、管理者が password タイプなど、別のタイプを指定することも可能です。

コード例 12-6 メールチャネルのディスプレイプロファイル XML コードの例

```
<Channel name="SampleMailChannel" provider="MailProvider">
<Properties>
<Collection name="ssoEditAttributes">
  <String name="username" value="string|User Name:"/>
  <String name="userpassword" value="password|User Password:"/>
</Collection>
```

このメールチャネル編集ページの例では、エンドユーザーに次のテキストフィールドが表示されます。

- User Name:
- User Password:

通信チャネルのタイプとしてエンドユーザーが複数インスタンスを設定できるようにするには

エンドユーザーまたは管理者は、複数のタイプの通信チャネルを作成できます。エンドユーザーが複数のタイプの通信チャネルを作成するには、「コンテンツ」ページの「新しいチャネルの作成」リンクを使用する必要があります。

管理者は、組織、ロール、またはグループ用の複数のチャネルを作成できます。管理者が、アドレス帳コンポーネントの第 2 インスタンスのように特定のコンポーネントの複数のインスタンスを使用できるようにすると、管理者は、エンドユーザーが各自のポータルデスクトップで第 2 アドレス帳チャネルを設定できるようにすることができます。

管理者は、新しい通信チャネルのタイプごとに SSO アダプタテンプレートを作成するか、1 つの SSO アダプタテンプレートを使用して、チャネルごとに複数の SSO アダプタ設定を作成することができます。SSO アダプタの詳細については、[付録 H 「SSO アダプタテンプレートと設定」](#) を参照してください。

管理者が完了した設定の量によっては、エンドユーザーは多数の設定を行う必要がありません。管理者は、アプリケーション設定編集機能を使用して、これらの設定を行うことができます(325 ページの「[アプリケーション設定の編集:通信チャネル編集ページの設定](#)」参照)。

2つのアドレス帳チャネルを作成するには、それぞれが異なる SSO アダプタテンプレート参照するようにします。これで、両方のアドレス帳チャネルを元のページに追加できます。同様に、1つの SSO アダプタテンプレートと2つの SSO アダプタ設定(ダイナミック)を作成することもできます。SSO アダプタテンプレートはサーバーの設定をユーザーが定義できる値(merge)として定義し、SSO アダプタ設定がこれらのサーバー設定を指定します。

エンドユーザーが必要に応じてサーバーを設定できるように、異なるサーバーのアドレス帳を設定するには、次の手順を実行します。

1. SSO アダプタテンプレートで、ユーザーが定義できる値(merge)としてサーバー情報を指定します。詳細は、[付録 H 「SSO アダプタテンプレートと設定」](#)を参照してください。
2. チャネルのディスプレイプロファイルの `ssoEditAttributes` コレクションで、どの属性を編集可能にするかを指定します。詳細については、[325 ページの「アプリケーション設定の編集:通信チャネル編集ページの設定」](#)を参照してください。ディスプレイプロファイルに関する情報については、『[Sun ONE Portal Server 6.2 Desktop Customization Guide](#)』を参照してください。

管理者のプロキシ認証：エンドユーザーによる信用情報の設定の禁止

アドレス帳、カレンダー、メールの各チャネルで、管理者のプロキシ認証を有効にすることができます。Sun ONE Portal Server と Sun ONE メッセージサービス(Messaging Server および Calendar Server)の間でプロキシ認証のサポートを拡張することで、エンドユーザーはチャネルの編集ページにアクセスせずに各自の信用情報(ユーザー名とユーザーパスワード)を入力できるようになります。エンドユーザーの信用情報の代わりに、管理者の信用情報が使用され、SSO アダプタテンプレートに格納されます。テンプレート内では、管理者のユーザー ID は `proxyAdminUid` 属性の値として格納され、管理者のパスワードは `proxyAdminPassword` 属性の値として格納されます。ユーザーがチャネルを起動するたびに、これらの値を使用してチャネルと、それに対応するバックエンドサーバーが接続されます。このとき、ユーザーの命名属性もバックエンドサーバーに送信されます。管理者プロキシ認証の命名属性の使用については、[332 ページの表 12-4](#) の `userAttribute` プロパティを参照してください。

Sun ONE Instant Messaging Server、Microsoft Exchange Server、IBM Lotus Notes サーバーにはプロキシ認証を設定できません。

注意：複数のエンドユーザーが1つのメールアカウントにダイレクトされる可能性
Identity Server と Portal Server では、管理者は複数のユーザーが組織内で同じユーザー ID を持つように設定することができます。たとえば、組織に2つのサブ組織があり、それぞれが enduser22 という名前のエンドユーザーを持つことができます。Sun ONE の通信チャネルで管理者のプロキシ認証を有効にし、エンドユーザーの命名属性をデフォルト (uid) に設定すると、両方のユーザーが同じバックエンドユーザーアカウントにアクセスする可能性が生じます。管理者のプロキシ認証では、ユーザーの命名属性を SSO アダプタテンプレートで変更することができます。たとえば、この属性を従業員間で一意の属性 (従業員番号など) に変更することで、ポータルのエンドユーザーが正しいバックエンドサーバーアカウントに確実にアクセスできるようになります。

プロキシ認証の設定方法の概要

アドレス帳、カレンダー、メールチャネルの管理者プロキシ認証を有効にするには、Sun ONE Identity Server の管理コンソールから SSO アダプタテンプレートにアクセスし、各種 Sun ONE 通信サーバーにアクセスする必要があります。より具体的には、次の操作が必要です。

- SSO アダプタテンプレートを編集する
 - SSO アダプタテンプレートで、アドレス帳、カレンダー、メールの各チャネルに適用される文字列を編集する必要があります。この文字列で違いが際立っている項目の一つに使用プロトコルがある
 - アドレス帳チャネルは LDAP プロトコルを使用する
 - カレンダーチャネルは HTTP プロトコルを使用する
 - メールチャネルは IMAP または POP プロトコルを使用する
- Sun ONE Messaging Server にアクセスし、アドレス帳チャネルとメールチャネルのプロキシ認証を有効化する
- Sun ONE Calendar Server にアクセスし、カレンダーチャネルのプロキシ認証を有効化する

プロキシ認証と SSO (シングルサインオン) アダプタテンプレート

管理者プロキシ認証に合わせて SSO アダプタテンプレートを編集するには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」タブをクリックします。設定できるサービスのリストがナビゲーションパネルに表示されます。

3. 「シングルサインオンアダプタの設定」の下の「SSOアダプタ」を選択します。SSOアダプタを編集するためのページがデータパネルに表示されます。
4. 管理者のプロキシ認証を有効にするチャネルの文字列をクリックします。この文字列は、「ダイナミック」の反対の「グローバル」という見出しの下にある「SSOアダプタテンプレート」というボックスにあります。テンプレート文字列と通信チャネルの関係については、533 ページの「SSOアダプタテンプレートについて」を参照してください。文字列をクリックすると、設定を説明するフィールドにその内容が表示されます。このフィールドは、「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります。
5. 設定を説明するフィールドの内側をクリックします。
6. 管理者のプロキシ認証に必要な情報でキーを削除します。

表 12-4 は、管理者のプロキシ認証をサポートするために SSO アダプタテンプレートで編集が必要なプロパティを示しています。

表 12-4 管理者プロキシ認証に関係する SSO アダプタテンプレートのプロパティ

プロパティ	値	説明
enableProxyAuth	true false	この属性に関連付けられている値はフラグで、プロキシ認証が有効であるかどうかを示す。true の場合は、SSO アダプタとアプリケーションアダプタはプロキシ認証を行う。たとえば次のとおり &enableProxyAuth=true
proxyAdminUid	(設定可能)	この属性に関連付けられている値は、管理者のユーザー名である。たとえば次のとおり &proxyAdminUid=ServiceAdmin
proxyAdminPassword	(設定可能)	この属性に関連付けられている値は、管理者のユーザーパスワードである。たとえば次のとおり &proxyAdminPassword=mailpwd
userAttribute	(設定可能)	この属性に関連付けられている値は、管理者の命名属性である。この値は、ユーザーのレコード(ディレクトリ内のユーザーエントリ)に設定されている属性にマッピングされる。一般に、このレコードにはユーザー ID (uid) や従業員番号など、いくつかの属性が設定されている。デフォルトでは、命名属性は uid に設定される。たとえば次のとおり &userAttribute=uid SSO アダプタテンプレートを編集することで、命名属性を従業員番号などの別の属性にマッピングすることができる

表 12-4 管理者プロキシ認証に関する SSO アダプタテンプレートのプロパティ (続き)

プロパティ	値	説明
次に示すように、前述の 4 つのプロパティは、SSO アダプタテンプレートの文字列にもう一度表示される。プロパティの設定は、default または merge に設定できる。次の例では、すべてが default に設定されている		
プロパティ	値	例
enableProxyAuth	default	&default=enableProxyAuth
proxyAdminUid	default	&default=proxyAdminUid
proxyAdminPassword	default	&default=proxyAdminPassword
userAttribute	default	&default=userAttribute

コード例 12-7 は、プロキシ認証に合わせてメール SSO アダプタテンプレートを完全に設定した例を示しています。

コード例 12-7 プロキシ認証に対応したメール SSO アダプタテンプレートの例

```
default |imap:///?configName=SUN-ONE-MAIL
  &encoded=password
  &default=protocol
  &default=clientProtocol
  &default=type
  &default=subType
  &default=enableProxyAuth
  &default=proxyAdminUid
  &default=proxyAdminPassword
  &default=ssoClassName
  &default=host
  &default=port
  &merge=uid
  &default=smtpServer
  &default=clientPort
  &clientProtocol=http
  &enableProxyAuth=true
  &proxyAdminUid=ServiceAdmin
  &proxyAdminPassword=mailpwd
  &host=example.sun.com
  &port=143
  &smtpServer=example.sun.com
  &clientPort=80
  &type=MAIL-TYPE
  &subType=sun-one
  &ssoClassName=com.sun.ssadapter.impl.JavaMailSSOAdapter
  &default=enablePerRequestConnection
  &enablePerRequestConnection=true
  &default=userAttribute
  &userAttribute=uid
```

プロキシ認証と通信サーバー

管理者のプロキシ認証に合わせて *Sun ONE Messaging Server* を設定するには

1. Sun ONE Messaging Server ソフトウェアのホストにログインし、スーパーユーザーになります。
2. 次のコードを入力します。

```
messaging-server-install-dir/msg-instance-name/configutil -o  
service.http.allowadminproxy -v yes
```

3. Messaging Server を再起動します。

configutil の実行方法とサーバーの再起動方法については、『Sun ONE Messaging Server Administrator's Guide』を参照してください。

管理者のプロキシ認証に合わせて *Calendar Server* を設定するには

1. Sun ONE Calendar Server ソフトウェアのホストにログインし、スーパーユーザーになります。
2. 任意のエディタで次のファイルを開きます。

```
calendar-server-install-dir/cal/bin/config/ics.conf
```

3. 次に示す属性を次のとおりに設定します。

```
service.http.allowadminproxy = "yes"
```

4. カレンダーサーバーを再起動します。

詳細な実行方法とサーバーの再起動方法については、『Calendar Server Administrator's Guide』を参照してください。

認証不要ポータルデスクトップ用に読み取り専用通信チャネルを設定する

認証不要 (認証なしの匿名) ポータルデスクトップは、読み取り専用の通信チャネルをサポートします。

読み取り専用通信チャネルに関する情報と注意点

認証なしの匿名ポータルデスクトップ用に、アドレス帳、カレンダー、メールチャネルへの読み取り専用アクセスを設定できます。エンドユーザーは、ポータルデスクトップにアクセスするだけで、つまりインターネットブラウザに次の URL を入力するだけで、読み取り専用通信チャネル内の情報にアクセスできます。

`http://hostname.domain:port/portal/dt`, for example
`http://psserver.company22.example.com:80/portal/dt`

エンドユーザーは、管理者が設定した読み取り専用通信チャネルにログインなしでアクセスすることができます。ただし、通常はエンドユーザーによるこれらのチャネルの編集は禁じられます。匿名ログインの有効化など、認証なしポータルデスクトップの詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.2 Desktop Customization Guide』を参照してください。

カレンダーチャネルは、複数のユーザーによって共有されることが最も多いチャネルです。次に、全員が共有できるように読み取り専用カレンダーチャネルを設定する手順について説明します。この例では、共有しているカレンダーはユーザー *library* に属しています。公開されている読み取り専用カレンダーのタイトルは *Library Schedule* です。次のカレンダーの設定は、方法の1つにすぎません。Sun ONE Calendar Server 用にユーザーを設定する方法の詳細については、『Sun ONE Calendar Server Administrator's Guide』の `csuser` コマンドの説明で `create userid` の箇所を参照してください。

カレンダーユーザーを設定するには

1. 次のようなコマンドを発行してカレンダーユーザーを作成します。

```
csuser -g Library -s Admin -y libadmin -l en -m  
libadmin@library.com -c librarySchedule create libadmin
```

ここで、ユーザー `libadmin` は、名が `Library`、姓が `Admin`、パスワードが `libadmin`、希望する言語が `en` (英語)、電子メールアドレスが `libadmin@library.com`、カレンダー ID が `librarySchedule` です。

2. 次に対してアクセス権を全ユーザーが読み取り可能になるように設定します。

```
libadmin:librarySchedule
```

アクセス権の設定は管理者が `cscal` ユーティリティを使用するか、エンドユーザーが `Calendar Express` を使用して行います。

読み取り専用通信チャネルを設定するには

1. エンドユーザー (この場合は認証なしの匿名ユーザー) の設定を編集し、カレンダー SSO アダプタ設定を作成します。
 - a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
 - b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - c. 「表示」ドロップダウンリストの「ユーザー」をクリックします。

- d. 必要に応じて認証なしの匿名ユーザーまでスクロールし、隣にある矢印をクリックします。認証なしの匿名ユーザーのページがデータパネルに表示されます。

これで SSO アダプタサービスを認証なしの匿名ユーザーに追加できるようになります。
 - e. 認証なしの匿名ユーザーのページの「表示」ドロップダウンリストで「サービス」をクリックし、利用可能なサービスを表示します。
 - f. 「追加」をクリックします。
 - g. SSO アダプタのチェックボックスをクリックします。
 - h. 「保存」をクリックします。
2. 認証なしの匿名ユーザー用にカレンダー SSO アダプタ設定を作成します。
- a. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインしていない場合は、ログインします。
 - b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - c. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
 - d. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
 - e. 設定を説明するフィールドが空の状態、ここにグループに関連する SSO アダプタ設定文字列 (ユーザー ID とパスワード) を入力します。参照のために、一般的な設定を次に示します。文字列に指定する属性は、Sun ONE Portal Server SSO アダプタテンプレートをどのように設定するのかによって異なります。デフォルトでは、SSO アダプタテンプレートでは、ユーザーが次の情報を指定していることを前提としています。
 - o host
 - o port
 - o client port
 - o uid

- o password

ページを表示したときに設定を説明するフィールドが空でなかった場合は、フィールド内のテキストをすべて選択し、削除してから、次の形式で文字列を入力します。

```
default|undef://?uid:password@host:port/?configName
configName=configuration-name
&configDesc=configuration-description
```

たとえば、次のようになります。

```
default|undef://?libadmin:libadmin@example.com:3080/?
configName=sunOneCalendar_librarySchedule
&configDesc=SUN-ONE-CALENDAR
```

- f. 「追加」をクリックします。
 - g. 「保存」をクリックします。
3. 認証なしの匿名ユーザーに新規カレンダーチャネルを作成します。これは、新しく作成した SSO アダプタ設定が基になります。

- a. Sun ONE Identity Server 管理コンソールにログインしていない場合は、ログインします。
- b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
- c. 「表示」ドロップダウンリストの「ユーザー」をクリックします。
- d. 必要に応じて認証なしの匿名ユーザーまでスクロールし、隣にある矢印をクリックします。認証なしの匿名ユーザーのページがデータパネルに表示されます。

これで認証なしの匿名ユーザー用に新規カレンダーチャネルを作成できます。

- e. 認証なしの匿名ユーザーのページの「表示」ドロップダウンリストで「ポータルデスクトップ」をクリックし、「編集」リンクを表示します。
- f. 「編集」リンクをクリックします。
- g. 「チャネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。
- h. 「チャネル」セクションまでスクロールし、「新規」をクリックします。
- i. 「チャネル名」フィールドに名前を入力します。たとえば、次のようになります。

```
LibraryScheduleChannel
```

- j. プロバイダのドロップダウンリストから、適切なプロバイダを選択します。この例では、「カレンダープロバイダ」です。

- k. 「了解」をクリックします。「チャンネルおよびコンテナの管理」ページに戻ります。

これでチャンネルのプロパティを編集できます。
- l. 「チャンネル」セクションまでスクロールし、新しく作成したチャンネルの隣にある「プロパティの編集」をクリックします。たとえば、次のようになります。
`LibraryScheduleChannel`
- m. フィールドを適切に編集します。たとえば、次のようになります。
 - o. title: Library Schedule
 - o. description: Library Schedule
 - o. ssoAdapter: sunOneCalendar_librarySchedule
 - o. loadSubscribedCalendars: false (チェックマークなし)
 - o. is editable: false (チェックマークなし)
- n. 必要に応じてページをスクロールし、「保存」をクリックします。

これで認証なしの匿名ユーザーのポータルデスクトップに新規カレンダーチャンネルを追加できます。
- o. ページ上部近くにある「トップ」をクリックします。「チャンネルおよびコンテナの管理」ページに戻ります。
- p. 「コンテナチャンネル」セクションまで下にスクロールし、新しいチャンネルを追加するコンテナのリンクをクリックします。たとえば、`MyFrontPageTabPanelContainer` をクリックします。対応する「プロパティの編集」リンクをクリックしないように注意してください。
- q. 「チャンネル管理」の見出しの下に表示される、作成したチャンネルの名前をクリックします。たとえば、「既存のチャンネル」に表示される「`LibraryScheduleChannel`」をクリックします。
- r. 「使用可能および表示可能」リストの隣にある「追加」ボタンをクリックします。これにより、ユーザーがチャンネルを利用できるようになり、追加の設定なしでユーザーに表示されます。
- s. ページを上をスクロールし、「チャンネル管理」という見出しの下の「保存」をクリックします。
- t. Web コンテナを再起動します。

Microsoft Exchange Server または IBM Lotus Notes の設定

Sun ONE Portal Server 6.2 は、Sun ONE Messaging Server と Sun ONE Calendar Server のほかに、Microsoft Exchange Server と IBM Lotus Notes サーバーもサポートします。

エンドユーザーが Microsoft Outlook Web Access ソリューションにアクセスできるように、Sun ONE Portal Server と連携するように Microsoft Exchange Server を設定できます。エンドユーザーがポータルデスクトップで各チャネルの「Launch Address Book」、「Launch Calendar」、「Launch Mail」をクリックすると、このソリューションにアクセスできるようになります。

同様に、Sun ONE Portal Server と連携するように IBM Lotus Notes サーバーを設定することで、エンドユーザーはアドレス帳、カレンダー、メールチャネルから IBM Lotus Domino Webmail ソリューションにアクセスできるようになります。

注 Microsoft Exchange Server と IBM Lotus Notes サーバーは、管理者プロキシ認証とシングルサインオンをサポートしていません。このシングルサインオンの制約により、これらのサーバーの一つの接続されたチャネルをエンドユーザーが起動する場合、接続が確立する前にエンドユーザーは各自の信用情報を再入力する必要があります。

アドレス帳、カレンダー、メール用に Microsoft Exchange Server を設定するには

1. ドメインの管理者として PDC (Primary Domain Controller) にログインします。
2. 「Start」、「Programs」、「Administrative Tools」、「User Manager for Domains」の順に選択し、MAXHost というユーザー名でアカウントを作成します。
3. 「Groups」を選択し、「Administrators」グループと「Domain Admins」グループに MAXHost を追加します。
4. MAXHost が MAIL_HOST、ドメインコントローラ、MAX_HOST にローカルにログインできることを確認します。
5. パスワードを設定します。
6. MAXHost として Exchange 5.5 (MAIL_HOST) にログインします。
7. 「Start」、「Programs」、「Microsoft Exchange」、「Microsoft Exchange Administrator」の順に選択します。
8. 各エンドユーザーにメールボックスへのアクセス権を設定します。

9. アクセス権のタブを表示するには、「Tools」、「Options」、「Permissions」の順に選択し、「All Objects」の「Show Permissions Page」を有効にします。
10. ユーザー名をダブルクリックします。
11. アクセス権のタブを選択し、アクセス権のページの「Add」をクリックして、MAXHostを追加し、ロールは「User」のまま残します。
通信チャネルにアクセスするユーザーごとに手順9～11を繰り返します。
12. 次のディレクトリにある ocxhost.zip ファイルを解凍します。
/Portal-server-install-dir/SUNWps/export
ファイルを解凍すると、次の形式のファイルが生成されます。

```
Archive: ocxhost.zip
creating: ocxhost
creating: ocxhost/international
inflating: ocxhost/international/ocxhostEnglishResourceDll.dll
inflating: ocxhost/ocxhost.exe
```

13. 次の手順を実行し、ocxhost を登録します。
 - a. ocxhost.exe の場所を特定します。
 - b. 「Start and Run」を選択します。
 - c. 「Run」ウィンドウに次のように入力します。
ocxhost.exe /multipleuse
14. ocxhost ユーティリティのプロパティを設定します。
 - a. dcomcnfg ユーティリティを使用して、ocxhost ユーティリティの適切な DCOM 設定を指定します。次のように指定します。
 - I. 「Start and Run」を選択します。
 - II. **dcomcnfg** と入力し、「OK」をクリックします。
 - b. 「Distributed COM Configuration Properties」ダイアログボックスで、次のように操作します。
 - I. 「Default Properties」タブを選択します。
 - 「Enable Distributed COM on the computer」チェックボックスにチェックマークを付けます。
 - デフォルトの「Authentication Level」を「Connect」に設定します。
 - デフォルトの「Impersonation Level」を「Identify」に設定します。

- II. 「Applications」 タブを選択します。
 - III. 「Properties」 ダイアログで ocxhost ユーティリティをダブルクリックします。
「ocxhost properties」 ウィンドウが表示されます。
 - IV. 「Location」 タブの下にある 「Run Application on this Computer」 にチェックマークを付けます。
 - V. 「Security」 タブの下にある 「Use custom access permissions」、「Use custom launch permissions」、「Use custom configuration permissions」を設定します。
 - VI. 「Access」、「Launch」、「Configuration」 の設定で 「Edit」 を選択し、アクセス制御リスト (ACL) に次のユーザーが含まれていることを確認します。
 - Interactive
 - Everyone
 - System
 - VII. 「ocxhost properties」 ウィンドウの 「Identity」 タブの下にある 「User」 を選択します。
 - VIII. 「Browse」 を選択して、MAXHost を探します。
 - IX. パスワードとパスワードの確認入力を入力します。
- c. 「OK」 を選択します。
- ocxhost DCOM コンポーネントの設定が完了し、Exchange Server と通信する準備が整います。

アドレス帳、カレンダー、メール用に Lotus Domino Server を設定するには

1. 「Start」、「Programs」、「Lotus Applications」、「Lotus Administrator」 の順に選択して、Lotus Administrator を開きます。
2. 「Administration」、「Configuration」、「Server」、「Current Server Documents」 の順に選択します。
3. 「Security」 タブで、次のように設定します。
 - a. 「Java/COM Restrictions」 の下で、「Run restricted Java/Javascript/COM」と 「Run unrestricted Java/Javascript/COM」 を * に設定します。
 - b. 「Security Settings」 の下で、次のように設定します。
 - 「Compare Notes Public keys against those stored in Directory」 を 「No」 に設定する

- 「Allow anonymous Notes connections」を「No」に設定する
 - 「Check Passwords on Notes IDs」を「Disabled」に設定する
 - c. 「Server Access」の下で、「Only allow server access to users listed in this Directory」を「No」に設定します。
 - d. 「Web Server Access」の下で、「Web Server Authentication」をセキュリティの低い「More Name Variations」に設定します。
4. 「Ports」タブで、次のように設定します。
- a. 「Notes Network Ports」タブを選択し、TCPIPが「ENABLED」であることを確認します。
 - b. 「Internet Ports」タブと「Web」タブを選択します。
 - I. TCP/IPポートの状態が「Enabled」であることを確認します。
 - II. 「Authentication」オプションの下で、「Name and password」と「Anonymous」が「Yes」に設定されていることを確認します。
 - c. 「Directory」タブを選択し、次の設定を確認します。
 - TCP/IPポートの状態が「Enabled」である
 - 「Authentication」オプション項目の「Name and password」と「Anonymous」が「Yes」に設定されている
 - SSLポートの状態が「Disabled」に設定されている
 - d. 「Mail」タブを選択し、次の設定を確認します。
 - TCP/IPポートの状態が「Enabled」である
 - 「Authentication」オプションの「Name and Password」と「Anonymous」が次のように設定されている

	メール (IMAP)	メール (POP)	メール (SMTP 受信)	SMTP (送信)
Name and Password	はい	はい	いいえ	なし
Anonymous	なし	なし	はい	なし

- e. 「IIOP」タブを選択し、次の設定を確認します。
 - TCP/IPポートの状態が「Enabled」である
 - 「Authentication」オプション項目の「Name and password」と「Anonymous」が「Yes」に設定されている

- TCP/IP ポート番号が 0 に設定されていない。これは、63148 に設定する必要がある
 - SSL ポートの状態が「Disabled」に設定されている
5. 「Internet Protocols」タブを選択し、「IIOP」サブタブを選択します。「Number of threads」が 10 以上に設定されていることを確認します。
 6. 設定を保存して閉じます。
 7. Domino Server のコンソールで次のように入力し、サーバーを再起動します。
restart server
サーバーを再起動すると、設定が有効になります。
 8. コンソールに次のコマンドを入力し、DIIOP サーバーを有効化します。
load diiop
 9. 次の場所に diiop_ior.txt が生成されていることを確認します。
C:\Lotus\Domino\Data\domino\html\diiop_ior.txt
 10. コンソールに次のコマンドを入力し、HTTP サービスを有効化します。
load http
 - 別のサービスがポート 80 を使用している場合、HTTP サービスは開始されません。ポート 80 で実行されているサービスを停止し、コンソールに次のコマンドをもう一度入力します。**load http**
または
 - 既存のサービスを使用します。既存のサービスを使用するには、ポート 80 で実行されている Web サーバーのルートまたはホームディレクトリに diiop_ior.txt ファイルをコピーします。HTTP サービスと DIIOP サービスの両方を notes.ini ファイルに含め、サーバーの起動時に両方のサービスを確実に開始することができます。

Lotus Notes の設定

Sun ONE Portal Server のメールチャネルとカレンダーチャネルを使用して Lotus Notes にアクセスするには、Sun ONE Portal Server に別のファイルを追加する必要があります。これは、NCSO.jar というファイルです。このファイルは、Lotus Notes 製品の CD または IBM の Web サイトから取得する必要があります。

IBM 製の Domino Designer および Domino Server 製品では、domino\java サブディレクトリに格納されています。また、次の Web サイトからダウンロードすることもできます。

<http://www-10.lotus.com/ldd/toolkits>

「Lotus Domino Toolkit」リンクにアクセスし、Java/Corba R5.0.8 アップデートのリンクにアクセスします。

注 ダウンロードされるファイルは .exe ファイルです。このファイルを含む複数のファイルが解凍されます。

関連する 4 つの Web コンテナに関する後述の説明に従って、Web コンテナ (Web サーバーまたはアプリケーションサーバー) のグローバルクラスパスに NCSO.jar ファイルを配置します。4 つの Web コンテナのうち 3 つでは、NCSO.jar ファイルを /usr/share/lib に配置します。次の表に、これからの手順をまとめます。この表では、NCSO.jar ファイルをシステムクラスパスと Portal WAR のどちらに配置できるかを示し、グローバルクラスパスに JAR ファイルを配置するプロセスを要約しています。また、特別な手順が必要かどうかを示します。必要な場合は、この節の後半で説明します。

Web コンテナ	システムクラスパス	Portal WAR	特別な指示
Sun ONE Web Server	はい	はい	なし
Sun ONE Application Server	はい	はい	なし
BEA WebLogic Server	はい	いいえ	システムクラスパスをどのように更新するか
IBM WebSphere Application Server	いいえ	はい	JAR ファイルをどのように切り取るか

次の手順では、Web コンテナに対する管理アクセス権が必要です。また、Web コンテナに関するさまざまな手順やコマンドについて詳細な情報を参照するには、Web コンテナのマニュアルを利用できる必要もあります。Sun ONE Web コンテナについては、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』または『Sun ONE Web Server, Enterprise Edition Administrator's Guide』を参照してください。

[Sun ONE Web Server](#)

[Sun ONE Application Server](#)

[BEA WebLogic Server](#)

[IBM WebSphere Application Server](#)

Sun ONE Web Server

1. 次の Sun ONE Portal Server ディレクトリに NCSO.jar を配置します。
`/usr/share/lib`
2. 次のファイルが含まれるように、Web コンテナのシステムクラスパスを更新します。
`/usr/share/lib/NCSO.jar`
 - a. Sun ONE Web Server 管理コンソールを起動します。
 - b. Sun ONE Web Server インスタンスを選択します。
 - c. 「管理」をクリックします。
 - d. 「Java」タブを選択します。
 - e. 「JVM Path Settings」を選択します。
 - f. クラスパスのサフィックスに `/usr/share/lib/NCSO.jar` を追加します。
 - g. 「OK」を選択します。
 - h. 「Apply」を選択します。
3. 必須の操作ではありませんが、Sun ONE Web Server を再起動することをお勧めします。

NCSO.jar ファイルのオプション配置

1. 次のディレクトリに NCSO.jar ファイルを配置します。
`Portal-server-install-dir/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib`
2. 次のコマンドを実行して、Web アプリケーションを配備し直します。
`/Portal-server-install-dir/SUNWps/bin/deploy redeploy`
3. Web コンテナを再起動します。

Sun ONE Application Server

1. 次の Sun ONE Portal Server ディレクトリに NCSO.jar を配置します。
`/usr/share/lib`
2. Sun ONE Application Server の管理コンソールを使用して、
`/usr/share/lib/NCSO.jar` が含まれるように Web コンテナのクラスパスを更新します。
 - a. Sun ONE Application Server 管理コンソールを起動します。
 - b. ドメインを選択します。
 - c. サーバーインスタンスを選択します。

- d. サーバーインスタンスの表示で「JVM Settings」タブを選択します。
- e. 「JVM Settings」タブの下にある「Path Settings」を選択します。
- f. 「Classpath Suffix」リストに `/usr/share/lib/NCSO.jar` を追加します。
- g. 「保存」をクリックします。
- h. インスタンスの「General」タブの下にある「Apply Changes」を選択します。
- i. 「Restart」を選択します。

NCSO.jar ファイルのオプション配置

1. 次のディレクトリに `NCSO.jar` ファイルを配置します。
`Portal-server-install-dir/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib`
2. 次のコマンドを実行して、Web アプリケーションを配備し直します。
`/Portal-server-install-dir/SUNWps/bin/deploy redeploy`
この `Portal-server-install-dir` は、Portal Server が本来インストールされていた場所を表します。
3. Web コンテナを再起動します。

BEA WebLogic Server

1. 次の Sun ONE Portal Server ディレクトリに `NCSO.jar` を配置します。
`/usr/share/lib`
2. コマンドラインを使用して、`/usr/share/lib/NCSO.jar` が含まれるように Web コンテナのクラスパスを更新します。
 - a. Web コンテナのインストールディレクトリに移動します。
`web-container-install-dir/bea/wlserver6.1/config`
この `web-container-install-dir` は、Web コンテナが本来インストールされていた場所を表します。
 - b. 次のドメインインスタンスが格納されているディレクトリに移動します。
`mydomain`
 - c. 任意のエディタを使用して `startWebLogic.sh` ファイルを編集します。

- d. CLASSPATH の最後に `/usr/share/lib/NCSO.jar` を追加します。

注 `startWebLogic.sh` ファイルに、CLASSPATH 定義が複数含まれている場合があります。CLASSPATH の最後の定義を探し、その末尾に次の文字列を追加してください。

```
/usr/share/lib/NCSO.jar
```

- e. Web コンテナを再起動します。

IBM WebSphere Application Server

1. NCSO.jar ファイルの `org/w3c/dom/` と `org/xml/sax/` の下のクラスを切り取り、jar 形式に戻します。

対象となるのは、次のクラスです。

- o `org/w3c/dom/Document.class`
- o `org/w3c/dom/Node.class`
- o `org/xml/sax/InputSource.class`
- o `org/xml/sax/SAXException.class`

このタスクは、さまざまな方法で実行できます。ここでは、2つの例を取り上げます。適している方法で実行してください。

- o 次の方法では、jar ファイルを手動で展開し、再び jar 形式に戻す必要があります。
 - a. NCSO.jar ファイルをダウンロードし、次のディレクトリに配置します。


```
/tmp/ncsoprune/work
```
 - b. このディレクトリ内でファイルを展開します。
 - c. 前述の 4 つのクラスを消去します。
 - d. ファイルを jar 形式に戻します。
 - o 次の方法では、jar 化と jar の展開ロジックを自動化したスクリプトを実行する必要があります。
 - a. NCSO.jar ファイルをダウンロードし、次のディレクトリに配置します。


```
/tmp/ncsoprune/work
```
 - b. 次のスクリプトを実行します。

```
#!/bin/ksh
JAR=/usr/j2se/bin/jar
JAR_FILE=NCSO.jar
RM=/usr/bin/rm
BASE_DIR=/tmp/ncsoprune
WORK_DIR=${BASE_DIR}/work
# cd to director of jar file
cd $WORK_DIR
# unjar
$JAR xvf $JAR_FILE
# prune classes
$RM $WORK_DIR/org/w3c/dom/Document.class
$RM $WORK_DIR/org/w3c/dom/Node.class
$RM $WORK_DIR/org/xml/sax/InputSource.class
$RM $WORK_DIR/org/xml/sax/SAXException.class
# jar
$JAR cvf $BASE_DIR/$JAR_FILE META-INF com lotus org
```

2. jar 形式に戻した NCSO.jar ファイルを次のディレクトリに配置します。
Portal-server-install-dir/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib
3. 次のコマンドを実行して、Web アプリケーションを配備し直します。
/Portal-server-install-dir/SUNWps/bin/deploy redeploy
この *Portal-server-install-dir* は、Portal Server が本来インストールされていた場所を表します。
4. Web コンテナを再起動します。

デフォルト組織の下に新規ユーザーを作成するには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「ユーザー」を選択し、「ユーザー」ページを表示します。
4. 「新規」をクリックして、データパネルに「新規ユーザー」ページを表示します。
5. ユーザーに割り当てるサービスを選択します。
少なくとも、ポータルデスクトップと SSO アダプタを選択します。

6. ユーザーに関する情報を入力します。
7. 「作成」をクリックします。
ナビゲーションパネルの「ユーザー」リストに新しいユーザーの名前が表示されます。

HTTPS が有効な Messaging Server とメールプロバイダが連携するように設定するには

メールチャネルは、自動的に HTTP プロトコルをサポートし、より安全な HTTPS プロトコルを自動的にサポートしません。しかし、Sun ONE Messaging Server で HTTPS が有効な場合は、ここで説明する手順を実行して、Sun ONE Messaging Server と正常に連携するようにメールプロバイダを設定することができます。これらの手順は、Microsoft Exchange Server と IBM Lotus Notes サーバーには適用されません。

Web コンテナに関する情報と注意点

HTTPS が有効な Sun ONE Messaging Server に合わせてメールプロバイダを設定する場合、使用する Web コンテナの種類 (Sun ONE Web Server、Sun ONE Application Server、BEA WebLogic Server、または IBM WebSphere Application Server) に応じて Web コンテナに関する手順が異なります。使用する Web コンテナの種類に関係なく、Web コンテナに対する管理権限は必要です。また、信頼データベースの初期化、証明書の追加、Web コンテナの再起動について詳細な情報を参照するには、Web コンテナのマニュアルを利用できる必要もあります。Sun ONE Web コンテナに関する上記タスク、およびセキュリティ関連の問題については、『Sun ONE Application Server Administrator's Guide to Security』または『Sun ONE Web Server, Enterprise Edition Administrator's Guide』を参照してください。

HTTPS が有効な Messaging Server とメールプロバイダが連携するように設定するには

1. Sun ONE Portal Server を実行する Web コンテナの信頼データベースを初期化します。詳細については、前述の適切なマニュアルを参照してください。
2. 信頼されている認証局 (TCA) の SSL 証明書がインストールされていない場合は、インストールします。
3. 必須の操作ではありませんが、Web コンテナを再起動することをお勧めします。

4. HTTPS 専用の新しい SSO アダプタテンプレートを追加します。この例で使用するテンプレートの名前は、SSL セキュリティプロトコルの使用を明示した SUN-ONE-MAIL-SSL です。

注

SSO アダプタテンプレートと、関連する SSO アダプタ設定は、さまざまな方法で設定できます。次に示す手順は、代表的な設定方法を示しています。既存のテンプレートと設定を編集するより安全性が高いため、ここでは、テンプレートと設定を新たに作成する手順を説明します。

編集のほうに適していると考えられる場合は、編集を行ってください。ただし、編集時に SSO アダプタテンプレートと SSO アダプタ設定の名前を変更した場合は、メールチャネルのプロパティを編集して、SSO アダプタ名を変更する必要があります。

SSO アダプタテンプレートまたは SSO アダプタ設定で編集が必要なのは、次の 2 つの項目です。

- `clientProtocol`
- `clientPort`

新しい SSO アダプタテンプレートを作成するこの例では、`clientProtocol` 属性を `default` 属性として設定します。このため、これは SSO アダプタ設定には表示されず、SSO アダプタテンプレートに表示されます。`clientProtocol` 属性は、`http` から `https` に変更する必要があります。この属性の編集後のテンプレートコードは、次のようになります。

```
clientProtocol=https
```

この例では、`clientPort` 属性を `merge` 属性として設定します。このため、これは SSO アダプタ設定に表示されます ([352 ページの手順 5](#) を参照)。`clientPort` 属性を `default` 属性として設定した場合は、これは SSO アダプタテンプレートに表示されます。クライアントポートは、HTTPS 専用予約されているポートに変更する必要があります。ここでは、HTTPS プロトコルがデフォルトで使用するポート番号である、ポート 443 を使用します。この属性の編集後のテンプレートコードは、次のようになります。

```
&clientPort=443
```

- a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
- b. 「サービス設定」タブをクリックします。設定できるサービスのリストがナビゲーションパネルに表示されます。

- c. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
- d. 設定を説明するフィールド(「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります)が空の状態、その内側をクリックします。このフィールドは、「ダイナミック」の反対の「グローバル」という見出しの下にある「SSO アダプタテンプレート」というボックスにあります。
- e. 設定を説明する空のフィールドに、SSO アダプタテンプレート文字列全体を入力します(または、必要に応じて別の文字列をコピーしてフィールド内に貼り付け、それを編集します)。コード例 12-8 は、参照用の一般的な設定を示します。実際に入力するテンプレートは、多くの場合は異なる情報を含んでいます。たとえば、SUN-ONE-MAIL-SSL という名前を使用しない限り、configName プロパティタイプの値は異なります。さらに、属性に指定する default と merge の設定も、サイト要件によってこの例とは異なります。

ページを表示したときに設定を説明するフィールドが空でなかった場合は、フィールド内のテキストをすべて選択し、削除します。

コード例 12-8 HTTPS を有効にするメール SSO アダプタテンプレート Messaging Server

```
default|imap:///?configName=SUN-ONE-MAIL-SSL
&encoded=password
&default=protocol
&default=clientProtocol
&default=type
&default=subType
&default=enableProxyAuth
&default=proxyAdminUid
&default=proxyAdminPassword
&default=ssoClassName
&merge=host
&merge=port
&merge=uid
&merge=password
&merge=smtpServer
&merge=clientPort
&clientProtocol=https
&enableProxyAuth=false
&proxyAdminUid=[PROXY-ADMIN-UID]
&proxyAdminPassword=[PROXY-ADMIN_PASSWORD]
&type=MAIL-TYPE
&subType=sun-one
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.JavaMailSSOAdapter
&default=enablePerRequestConnection
&enablePerRequestConnection=false
```

- f. 「追加」をクリックします。

- g. 「保存」をクリックします。

この時点で、IMAP プロトコルから始まる文字列が複数存在する可能性があります。これは、問題ありません。

5. HTTPS 専用の新しい SSO アダプタ設定を追加します。この例で使用する設定の名前は、対応する SSO アダプタテンプレートに合わせて sunOneMailSSL とします。

注

[350 ページの手順 4](#) で示した注意を参照してください。

- a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
- b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
- c. 「表示」ドロップダウンリストの「サービス」をクリックします。
- d. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
- e. 設定を説明するフィールド(「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります)が空の状態、その内側をクリックします。
- f. 設定を説明する空のフィールドに、SSO アダプタ設定文字列全体を入力します(または、必要に応じて別の文字列をコピーしてフィールド内に貼り付け、それを編集します)。参照のために、一般的な設定を次に示します。ただし、実際に入力するテンプレートは、多くの場合は異なる情報を含んでいます。たとえば、sunOneMailSSL という名前を使用しない限り、configName プロパティタイプの値は異なります。ConfigDesc プロパティタイプには、[351 ページのコード例 12-8](#) に示される、対応する SSO アダプタテンプレートの configName プロパティタイプに指定した名前と同じ名前を指定する必要があります。必要に応じて、ここで使用する番号とは異なるポート番号を使用することもできます。また、文字列に指定する属性は、SSO アダプタテンプレートをどのように設定するのかによって異なります。

ページを表示したときに設定を説明するフィールドが空でなかった場合は、フィールド内のテキストをすべて選択し、削除します。

```
default|imap:///?configName=sunOneMailSSL&configDesc=SUN-ONE-MAIL-SSL&port=143&smtpPort=25&clientPort=443
```

- g. 「追加」をクリックします。
- h. 「保存」をクリックします。

6. ポータルデスクトップに新しいメールチャネルを追加します。

手順 4 と **手順 5** では、SSO アダプタテンプレートと SSO アダプタ設定を新規作成して新規チャネルを作成する方法について説明しました。この手順では、エンドユーザーがこのチャネルを利用できるように設定します。

新しいチャネルに名前を付ける条件は、明的なものであるということに過ぎません。ここでは、SunOneMailSSLChannel という名前を使用します。

- a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
- b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
- c. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
- d. 「Portal Server 設定」の見出しの下で、「ポータルデスクトップ」の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「ポータルデスクトップ」ページが表示されます。
- e. 必要に応じてスクロールし、「チャネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。
- f. 「チャネル」という見出しまでスクロールし、「新規」をクリックします。
- g. 「チャネル名」フィールドに新しいチャネルのサイト名を入力します。たとえば、SunOneMailSSLChannel のように指定します。
- h. 「プロバイダ」ドロップダウンメニューから「MailProvider」を選択します。
- i. 「了解」をクリックします。「チャネルおよびコンテナの管理」Web ページが表示され、新たに作成したチャネルも表示されます。
- j. 「チャネル」の見出しまでスクロールし、作成したチャネルの名前 (この例では SunOneMailSSLChannel) の隣にある「プロパティの編集」をクリックします。
- k. タイトルのフィールドまでスクロールし、表示されているテキスト (mail など) を選択、削除して、プロバイダのタイトルを入力します。たとえば、SSL Mail Account のように指定します。
- l. 説明のフィールドに表示されているテキスト (mail など) を選択して削除し、プロバイダの説明を入力します。この例では、タイトルと同じ SSL Mail Account を説明として使用します。
- m. ページを下にスクロールし、「SSO アダプタ」に表示されているテキスト (sunOneMail など) を選択、削除し、**352 ページの手順 5** で使用した SSO アダプタ設定と同じ名前 (この例では sunOneMailSSL) を入力します。
- n. さらに下にスクロールし、「保存」をクリックします。

- o. ページを上スクロールし、Container Path という句の後の最初の単語である top をクリックします。
- p. 「コンテナチャンネル」という見出しまで下にスクロールし、新しいチャンネルを追加するコンテナのリンクをクリックします。たとえば、MyFrontPageTabPanelContainer をクリックします。対応する「プロパティの編集」リンクをクリックしないように注意してください。
- q. 「チャンネル管理」という見出しまで下にスクロールし、必要に応じて「既存のチャンネル」フレーム内でもスクロールして、新たに作成したチャンネルの名前をクリックして選択します。
この例では、チャンネル名は SunOneMailSSLChannel です。
- r. 「使用可能および表示可能」リストの隣にある「追加」ボタンをクリックします。
これにより、ユーザーがチャンネルを利用できるようになり、追加の設定なしでユーザーに表示されます。
- s. ページを上スクロールし、「チャンネル管理」という見出しの下の「保存」をクリックします。
これで、HTTPS が有効な Messaging Server にログインし、使用できるようになります。

Sun ONE Portal Server システムの管理

この章では、Sun™ ONE Portal Server システムの維持に関連した、さまざまな管理タスクについて説明します。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- [Secure Sockets Layer \(SSL\) の設定](#)
- [Sun ONE Portal Server の設定のバックアップと復元](#)
- [複数の UI ノードインストールの管理](#)
- [HTTP プロキシを使用する Sun ONE Portal Server のインスタンスの設定](#)
- [Sun ONE Portal Server ログの管理](#)
- [Sun ONE Portal Server のデバッグ](#)

Secure Sockets Layer (SSL) の設定

次の方法によって、Sun ONE Portal Server および関連するコンポーネントで Secure Sockets Layer (SSL) を設定することができます。

- **Sun ONE Portal Server** : ゲートウェイではなく Sun ONE Portal Server システム専用の SSL を設定する場合、イントラネットを「開く」ことができる

Sun ONE Portal Server のユーザーインタフェースノード (Sun ONE Identity Server 管理コンソール、デスクトップ、サーブレットなどが実行されるノード) とゲートウェイノードの間、および Sun ONE Portal Server ユーザーインタフェースノードとエンドユーザーコンピュータの間で SSL を使用することができる

- Sun™ ONE Directory Server : Sun ONE Directory Server の SSL を設定できる。また、Sun ONE Identity Server と Sun ONE Portal Server 間のセキュリティ保護された接続を使用できる。Directory Server で SSL を有効にするための詳細については、次の URL の『iPlanet Directory Server Access Management Edition Installation and Configuration Guide』の第 6 章「Basic Configurations」を参照
<http://docs.sun.com/source/816-5626-10/contents.html>

注 Directory Server で SSL を設定した場合、SSL を無効にしてから、Sun ONE Portal Server インストールスクリプトとともに Directory Server をアンインストールします。さらに、コマンドラインで `dpsadmin` コマンドを使用する場合も、SSL を無効にする必要があります。

- Sun™ ONE Portal Server : Sun™ ONE Portal Server: Secure Remote Access : ゲートウェイの SSL を設定すると、イントラネットはセキュリティ保護される。ゲートウェイで SSL を設定する手順については、『Sun ONE Portal Server: Secure Remote Access 6.0 Administrator's Guide』を参照

Sun ONE Portal Server で SSL を設定するには

Sun ONE Portal Server のインストール時に「Do you want to run SSL on *hostname*?」という質問に対して「**y**」を入力した場合は、この手順を使用します。詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Installation Guide』を参照してください。

1. Sun ONE Portal Server をインストールした Web サーバーの信頼データベースを作成します。

詳細については、次の URL の『Sun ONE Web Server 6.0, Enterprise Edition Administrator's Guide』の第 5 章「Creating a Trust Database」を参照してください。
<http://docs.sun.com/source/816-2140-01/contents.htm>
2. Sun ONE Portal Server をインストールした Web サーバーの証明書を要求し、Web サーバーのインスタンスで証明書をインストールします。

詳細については、『Sun ONE Web Server 6.0, Enterprise Edition Administrator's Guide』の第 5 章「Requesting and Installing a VeriSign Certificate」または「Requesting and Installing Other Server Certificates」を参照してください。
3. Sun ONE Portal Server の Web サーバーインスタンスのために暗号化を有効にします。

Web サーバー管理コンソールの「設定」タブで「Add Listen Socket」を選択し、「Edit Listen Socket」を選択してからセキュリティをオンにします。

詳細については、『Sun ONE Web Server 6.0, Enterprise Edition Administrator's Guide』の第5章「Turning Security On」を参照してください。

4. Web サーバーの管理コンソールで「Apply」と「Apply Changes」をクリックします。
5. Sun ONE Portal Server を再起動します。

```
/etc/init.d/amserver start
```
6. 証明書データベースを取得するためのパスワードの入力が求められます。
 この手順は Web サーバーを再起動するたびに行います (/etc/init.d/amserver start を実行します)。

注 再起動するたびにパスワードを入力することを回避するため、Web サーバーのパスワードを含む `.wtpass` という名前のファイルを作成し、`DSAME-BASEDIR/SUNWam/config` ディレクトリに配置します。このファイルを使用せずにセキュリティ保護された Web サーバーのシステムをリブートした場合は、システムコンソールでパスワードを入力する必要があります。

7. 次の方法で、SSL を使用して Sun ONE Portal Server にログオンできることを確認します。
 - Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログオンするには、次のように入力します。

```
https://server:port/amconsole
```
 - デスクトップにユーザーとしてログオンするには、次のように入力します。

```
https://server:port/deploy_uri
```

たとえば、次のようになります。

```
https://sesta:80/portal/dt
```

SSL を使用する既存の Sun ONE Portal Server インストールを変更するには

Sun ONE Portal Server のインストール時に「Do you want to run SSL on *hostname?*」という質問に対して、「**n**」を入力した場合は、この手順を使用します。詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.1 Installation Guide』を参照してください。

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
 デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。

2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. プラットフォームの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
プラットフォーム属性がデータパネルに表示されます。
4. サーバーリストで、http を https に変更します。
5. 「保存」をクリックして、変更を保存します。
6. Web サーバーで証明書をインストールします。
詳細は、[356 ページ](#)の「[Sun ONE Portal Server で SSL を設定するには](#)」の手順 1 から手順 4 を参照してください。
7. `server.xml` と `magnus.conf` ファイルを
`/BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname-domain/conf_bk` ディレクトリから、
`/BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname-domain/config` ディレクトリへコピーします。`.BaseDir` は Sun ONE Identity Server のベースディレクトリです。
8. 証明書のためのルート CA がインストールされていない場合は、
`/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig.properties` ファイルに次の行を追加します。
`com.sun.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true`
このオプションは、証明書が信用できることを JSS に示します。
9. `/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig.properties` ファイルでは、次の URL の http を https に変更します。
`com.sun.am.server.protocol`
`com.sun.am.naming.url`
`com.sun.am.notification.url`
`com.sun.am.session.server.protocol`
`com.sun.services.cdsso.CDCURL`
`com.sun.services.cdc.authLoginUrl`
10. Sun ONE Portal Server を再起動します。
 - a. 単一の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。
`/etc/init.d/amserver start`
 - b. 複数の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。
`/etc/init.d/amserver startall`
11. 証明書データベースを取得するためのパスワードの入力が求められます。
詳細については、『[Sun ONE Directory Server 5.1 Administrator's Guide](#)』の第 11 章「[SSL の管理](#)」を参照してください。

SSL を使用するように Sun ONE Portal Server インスタンスを設定するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
3. プラットフォームの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
プラットフォーム属性がデータパネルに表示されます。
4. サーバーリストで、http を https に変更します。
5. 「保存」をクリックして、変更を保存します。
6. Web サーバーで証明書をインストールします。
詳細は、[356 ページの「Sun ONE Portal Server で SSL を設定するには」](#)の[手順 1](#)から[手順 4](#)を参照してください。
7. このサーバーが複数のインスタンスの一部である場合、server.xml および magnus.conf ファイルを
/BaseDir/SUNWam/servers/https-instance_nickname/conf_bk ディレクトリから /BaseDir/SUNWam/servers/https-instance_nickname/config ディレクトリへコピーします。
8. 証明書のためのルート CA がインストールされていない場合は、
/BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig-instance_nickname.properties ファイルに次の行を追加します。

```
com.sun.am.jssproxy.trustAllServerCerts=true
```


このオプションは、証明書が信用できることを JSS に示します。
9. /BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig-instance_nickname.properties ファイルでは、次の URL の http を https に変更します。

```
com.sun.am.server.protocol  
com.sun.am.naming.url  
com.sun.am.notification.url  
com.sun.am.session.server.protocol  
com.sun.services.cdssso.CDCURL  
com.sun.services.cdc.authLoginUrl
```

10. Sun ONE Portal Server を再起動します。
 - a. 単一の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/amserver start
```
 - b. 複数の Sun ONE Portal Server のインスタンスを再起動するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/amserver startall
```
11. 証明書データベースを取得するためのパスワードの入力が求められます。

詳細については、『Sun ONE Directory Server 5.1 Administrator's Guide』の第 11 章「SSL の管理」を参照してください。

Sun ONE Portal Server の設定のバックアップと復元

Sun ONE Portal Server のユーザーおよびサービス設定は、Directory Server の LDAP ディレクトリ情報ツリー (DIT) に保存されます。これにより LDIF (Lightweight Directory Interchange Format) ファイルによって、設定情報のバックアップと復元を行えます。

Sun ONE Portal Server の設定をバックアップするには

Sun ONE Portal Server の設定情報のバックアップを作成するには、`db2ldif` コマンドを使用します。このコマンドは、Directory Server のベースディレクトリ内にある `slapd-hostname` ディレクトリで使用できます。たとえば、サーバー `sesta` において、Directory Server がデフォルトのインストールディレクトリ (`/usr/ldap`) にインストールされた場合、ベースディレクトリは `/usr/ldap/slapd-sesta` になります。

1. ディレクトリを `db2ldif` コマンドを含む Directory Server のベースディレクトリに変更します。

```
cd DS_BASEDIR/slapd-HOSTNAME
```

2. Sun ONE Portal Server の DIT の最上位レベルを指定する `-s` オプションとともに `db2ldif` コマンドを使用して、LDIF ファイルに設定を保存します。たとえば、DIT の最上位レベルが `isp` である設定を保存するには、次のように入力します。

```
./db2ldif -s "o=isp"
```

データは LDIF ファイルに保存されます。コマンドは現在のディレクトリにファイルを保存します。ファイル名の形式は次のとおりです。

```
YYYY_MM_DD_HHMMSS.ldif
```

ファイルが保存されたあと、出力表示の例は次のようになります。

```
[16/May/2002:14:11:25 -0700] - Backend Instance:userRoot
ldiffile:/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif
[16/May/2002:14:11:28 -0700] - export userRoot:Processed 178 entries (100%).
```

Sun ONE Portal Server の設定を復元するには

ldif2db コマンドを使用して、db2ldif コマンドによってバックアップを作成した Sun ONE Portal Server の設定情報を復元することができます。このコマンドは、Directory Server のベースディレクトリ内にある slapd-hostname ディレクトリで使用できます。たとえば、サーバー sesta において、Directory Server がデフォルトのインストールディレクトリ (/usr/ldap) にインストールされた場合、ベースディレクトリは /usr/ldap/slapd-sesta になります。

1. 次のように入力して、ディレクトリを ldif2db コマンドを含む Directory Server のベースディレクトリに変更します。

```
cd DS_BASEDIR/slapd-HOSTNAME
```

2. 次のように入力して、Directory Server を終了します。

```
./stop-slapd
```

3. Sun ONE Portal Server の DIT の最上位レベルを指定する -s オプション、およびファイル名を指定する -i オプションとともに ldif2db コマンドを使用して、LDIF ファイルから Directory Server へ設定を復元します。たとえば、前の手順で保存された LDIF ファイルを isp の DIT の最上位レベルへ復元するには、次のように入力します。

```
./ldif2db -s "o=isp" -i
/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif
```

ファイルが復元されたあと、出力表示の例は次のようになります。

```
importing data ...
[16/May/2002:16:37:02 -0700] - Backend Instance:userRoot
[16/May/2002:16:37:03 -0700] - import userRoot:Index buffering
enabled with bucket size 13
[16/May/2002:16:37:03 -0700] - import userRoot:Beginning import
job...
```

```
[16/May/2002:16:37:03 -0700] - import userRoot:Processing file
"/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif"

[16/May/2002:16:37:04 -0700] - import userRoot:Finished scanning
file "/usr/ldap/slapd-sesta/ldif/2002_05_16_141122.ldif" (178
entries)

[16/May/2002:16:37:05 -0700] - import userRoot:Workers finished;
cleaning up...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot:Workers cleaned
up.

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot:Cleaning up
producer thread...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot:Indexing
complete.Post-processing...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot:Flushing caches...

[16/May/2002:16:37:08 -0700] - import userRoot:Closing files...

[16/May/2002:16:37:09 -0700] - import userRoot:Import
complete.Processed 178 entries in 6 seconds.(29.67 entries/sec)
```

4. 次のように入力して、Directory Server を再起動します。

```
./start-slapd
```

Sun ONE Portal Server のネットワーク設定の変更

Sun ONE Portal Server ソフトウェアを実行するサーバーをネットワーク間で物理的に移動する場合、`/etc/hosts` ファイルで IP アドレスをマッピングする完全修飾ドメイン名のみを変更する必要があります。変更する必要のあるハードコードされたアドレスは他にありません。

複数の UI ノードインストールの管理

複数の UI ノードに Sun ONE Portal Server ソフトウェアをインストールする場合は、Sun ONE Identity Server 管理コンソールでプラットフォームの属性に設定の変更を加える必要があります。「サーバーリスト」属性を編集して、それぞれの UI ノードに URL を組み込みます。

Sun ONE Identity Server ネーミングサービスは、初期化時に「サーバーリスト」属性を読み込みます。このリストは、単一の Sun ONE Identity Server 設定に Sun ONE Identity Server セッションサーバーを含んでいます。たとえば、2 つの Sun ONE Identity Server サーバーがインストールされ、1 つのサーバーとして動作する場合、それらは両方ともこのリストに含まれる必要があります。サービス URL の要求で指定されたホストがこのリストにない場合、ネーミングサービスは要求を拒否します。リストの最初の値は、ホスト名およびインストール中に指定されたサーバーのポートを指定します。追加のサーバーは、`protocol://server:port` という形式で追加できます。.

サーバーリストに Portal Server を追加するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。

2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。

グローバルサービスがナビゲーションパネルに表示されます。

3. プラットフォームの隣にあるプロパティの矢印をクリックします。

プラットフォーム属性がデータパネルに表示されます。

4. 「サーバーリスト」属性を編集します。

UI ノードとして機能しているサーバーごとに、`http://host1.sesta.com:80` などのサーバー URL を入力し、「追加」ボタンを選択します。「サーバーリスト」に URL が表示されます。

5. 「保存」をクリックします。
6. Sun ONE Portal Server を再起動します。

```
/etc/init.d/amserver start
```

HTTP プロキシを使用する Sun ONE Portal Server のインスタンスの設定

Sun ONE Portal Server ソフトウェアを、インターネットまたはイントラネットの特定の部分に直接アクセスできないホストにインストールした場合、HTTP プロキシを使用するようにインスタンスを設定できます。

1. 次のように入力して、ディレクトリをインスタンスの設定を含む Directory Server のベースディレクトリに変更します。

```
cd /BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname-domain/config
```

2. このディレクトリ内の `jvm12.conf` を編集し、次の行を追加します。

```
http.proxyHost=proxy_host  
http.proxyPort=proxy_port
```

where *proxy_host* is the fully-qualified domain name of the proxy host and *proxy_port* is the port on which the proxy is run.

注 `jvm12.conf` ファイルにプロキシ設定 (`http.proxyHost=` と `http.proxyPort=` オプションを使用) がある場合は、`http.nonProxyHosts=proxy_host` オプションを追加することもできます。プロキシサーバーのアクセスリストに Portal Server が追加されていない場合、プロキシサーバー経由で Portal Server にアクセスすることはできません。

Sun ONE Portal Server ログの管理

Sun ONE Portal Server のロギングを設定して、フラットファイルまたはデータベースにログ情報を記録することができます。データベースにログを記録する場合、JDBC プロトコルが使用されます。

ファイルにログを記録するように設定するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
グローバルサービスがナビゲーションパネルに表示されます。
3. 「ログ」の隣にあるプロパティの矢印をクリックします。
データパネルに「ログ」属性が表示されます。
4. 「ログタイプ」属性としてファイルを選択します。
5. 「ログの場所」属性にログファイルのディレクトリパスを指定します。
6. 「最大ログサイズ」属性に、ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。
7. 「履歴ファイルの数」属性に、バックアップログの数を指定します。
8. 「保存」をクリックします。

データベースにログを記録するように設定するには

1. Sun ONE Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、ロケーションパネルでは「アイデンティティ管理」が選択され、ナビゲーションパネルには作成済みのすべての組織が表示されています。
2. ロケーションパネルで「サービス設定」を選択します。
グローバルサービスがナビゲーションパネルに表示されます。
3. ナビゲーション区画の「ログ」サービスの横にあるプロパティの矢印をクリックします。
データパネルに「ログ」属性が表示されます。

4. 「ログタイプ」属性として JDBC を選択します。
5. 「データベースユーザー名」および「データベースユーザーパスワード」属性に、データベースに接続するユーザー名とパスワードを指定します。
6. 「データベースドライバ名」属性に、ロギングに使用するドライバを指定します。
7. 「保存」をクリックします。

Sun ONE Portal Server のデバッグ

ここでは、デバッグのレベルを設定して、Sun ONE Portal Server のさまざまなコンポーネントの問題を解決する方法を説明します。

Sun ONE Identity Server のデバッグレベルを設定するには

デバッグのレベルにより、デバッグログに送信されたメッセージの種類を定義することができます。次のレベルを使用できます。

- **off**: メッセージはデバッグログに送信されない
- **error**: エラーメッセージはデバッグログに送信されない
- **warning**: 警告およびエラーメッセージがデバッグログに送信される
- **message**: ステータス、警告およびエラーメッセージがデバッグログに送信される

デフォルトでは、デバッグメッセージは /var/opt/SUNWam/debug ディレクトリのログファイルに送信されます。

デバッグのレベルを設定するには、次の手順を実行します。

1. /etc/opt/SUNWps/desktopconfig.properties ファイルの次の行にデバッグレベルを定義します。
`debugLevel=value`
2. Sun ONE Portal Server を再起動します。
`/etc/init.d/amserver start`
3. Sun ONE Web Server のログファイルと、/var/opt/SUNWam/debug に格納されているさまざまなログファイルを調べます。

コマンドラインユーティリティ

Sun ONE Portal Server 製品には、グラフィカルユーザーインターフェースに加えて一連のコマンドラインユーティリティが用意されています。

表 14-1 は、この章で説明するコマンドラインユーティリティを示しています。この章では、管理タスクに限定してコマンドラインユーティリティを説明します。次の表には 2 つの列があります。最初の列はコマンド名、2 番目の列はその説明を示します。ユーティリティは、デスクトップ、リライト、検索の機能別にグループ化されていません。

表 14-1 Sun ONE Portal Server コマンドラインユーティリティ

コマンド	説明
<code>deploy</code>	Web アプリケーションを Web コンテナに配備する
<code>pdeploy</code>	ポートレット Web アプリケーションを Web コンテナに配備する
<code>dpadmin</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントからのディスプレイプロファイルオブジェクトの取得、追加、変更、削除を有効にする
<code>par</code>	チャンネル、プロバイダ、または両方を移動するための .par ファイルに関する機能を実行する
<code>rwadmin</code>	管理者によるリライトデータの管理を有効にする
<code>rdmgr</code>	検索サーバーに必要なすべての機能を実行し、リソース記述および検索データベースと連動する
<code>sendrdm</code>	CGI またはコマンドラインベースの検索メカニズムを提供する
<code>StartRobot</code>	ロボットの Web 検索 (クローリング) を開始する

Sun ONE Identity Server 管理用のコマンドラインインタフェース `amadmin` も使用できます。`amadmin` ツールの第一の目的は、Identity Server 上で実行される管理者によるバッチ管理処理を支援することです。新しいサービスの作成、登録、有効化、および組織、ピープルコンテナ、グループ、ロール、ユーザーの作成、削除、読み取り (取得) を支援します。詳細については、『Sun ONE Identity Server 6.1 Programmer's Guide』を参照してください。

deploy

説明

`deploy` コマンドは、Sun ONE Portal Server Web アプリケーションのソースファイルをパッケージ化し、Portal Server ソフトウェアをホスティングする Web コンテナにそのパッケージを配備します。

Sun ONE Portal Server のソースファイルは `/opt/SUNWps/web-src` ディレクトリに格納されます。`WEB-INF/xml` サブディレクトリには、`web.xml` コードファイルが含まれます。このファイルは、`deploy` コマンドによって結合され、Sun ONE Portal Server Web アプリケーション用の `web.xml` ファイルとなります。`web.xml` コードファイル内の対応するセクションは、`web.xml` コードファイルのアルファベット順で結合されます。最終的な `web.xml` ファイルが完成すると、`opt/SUNWps/web-src` ディレクトリ内のファイルは `jar` コマンドを使用して Web アプリケーションアーカイブ (WAR) ファイルとしてまとめられます。Web コンテナには、`deploy` コマンドを使用してこの WAR ファイルが配備されます。

構文

```
/opt/SUNWps/bin/deploy [redeploy]
```

サブコマンド

`deploy` コマンドは、`redeploy` サブコマンドをとります。`redeploy` オプションを指定せずに `deploy` コマンドを呼び出すと、標準入力からの設定情報が求められます。

redeploy

説明

redeploy サブコマンドは、deploy コマンドが URI (Uniform Resource Indicator) と Sun ONE Portal Server Web アプリケーションに関するその他の情報を現在の配備から再利用することを指定します。

構文

```
deploy redeploy
```

pdeploy

説明

ポートレット Web アプリケーションを Portal Server に配備する (または配備解除する) ときは、pdeploy コマンドラインツールを使用します。

pdeploy コマンドには次の項目が必要です。

- サブコマンド
- Directory Server にアクセスするためのユーザー識別名およびパスワード
- LDAP ノードを識別するための識別名、またはグローバルレベル用のグローバルオプション (ポートレットの追加が必要なノード)
- Web コンテナの管理者パスワード
- ポートレットの WAR ファイル

ポートレットアプリケーションの配備時に pdeploy コマンドが使用するデフォルト設定の一部は、PDConfig.properties ファイルに指定されます。このファイルは /etc/opt/SUNWps/portlet ディレクトリにインストールされます。

pdeploy コマンドがポートレットアプリケーションを配備するときに、PDConfigure.properties ファイル内の次のパラメータが参照されます。

```
logger.log.level=SEVERE
```

デフォルトでは、ログレベルは SEVERE に設定される。有効な値は、ALL、OFF、INFO、WARNING、SEVERE

<code>logger.file.dir=/var/opt/SUNWam/debug</code>	このパラメータは、配備したポートレットアプリケーションのログファイルが格納されるディレクトリを指定する
<code>validate_schema=true</code>	このパラメータは、配備時にスキーマ評価を行うかどうかを指定する

構文

ここでは、pdeploy コマンドの構文について説明します。

短い名前の形式

```
pdeploy deploy -u uid -w password {-g|-d dn} -p webcontainerpassword -V -r
rolesfile -f userinfofile -v -l warfile
```

```
pdeploy undeploy -u uid -w password {-g|-d dn} -p webcontainerpassword -V -v
-l warfile
```

長い名前の形式

```
pdeploy deploy --runasdn uid --password password [--global|--dn dn]
--wc_password webcontainerpassword --rolesfile rolesfile --userinfofile
userinfofile --verbose --locale warfile
```

```
pdeploy deploy --help
```

```
pdeploy deploy --version
```

```
pdeploy undeploy --runasdn uid --password password [--global|--dn dn]
--wc_password password --verbose --locale portletwebapp
```

```
pdeploy undeploy --help
```

```
pdeploy undeploy --version
```

サブコマンド

pdeploy コマンドでは次のサブコマンドをとります。

- `deploy`: ポートレットアプリケーションを配備する
- `undeploy`: ポートレットアプリケーションを消去する

deploy

説明

サブコマンドとして `deploy` を指定した場合、`pdeploy` コマンドはポートレット Web アプリケーションを Portal Server に配備します。このコマンドが完了すると、配備したポートレット Web アプリケーションに定義されているポートレットに基づくチャネルを作成できるようになります。

構文

```
pdeploy deploy -u uid -w password {-g|-d dn} -p webcontainerpassword warfile
pdeploy deploy -h|--help
```

オプション

表 12-2 は、サポートされるオプションを説明しています。2つの列から構成されます。最初の列は `deploy` サブコマンドで使用できるオプション、引数、またはオペランド、2番目の列は簡単な説明を示します。

表 14-2 `deploy` サブコマンドのオプション

オプション	説明
<code>-v</code> または <code>--verbose</code>	デバッグメッセージを生成する
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-f</code> または <code>--userinfofile</code>	ユーザー情報のマッピング情報を含むファイルを指定する
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>--help</code>	<code>stdout</code> にヘルプメッセージを出力する
<code>-l</code> または <code>--locale</code>	ロケール情報を出力する
<code>-p</code> または <code>--wc_password</code>	Web コンテナのパスワードを指定する。このオプションは必須
<code>-r</code> または <code>--rolesfile</code>	Sun ONE Identity Server ソフトウェアとポートレットアプリケーションロールのマッピング情報を含むファイルを指定する
<code>-u</code> または <code>--runasdn</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。このオプションは必須
<code>-V</code> または <code>--version</code>	バージョン情報を生成する

表 14-2 deploy サブコマンドのオプション (続き)

オプション	説明
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

表 14-3 deploy サブコマンドのオペランド

オペランド	説明
warfile	WAR ファイルへのパスを指定する

例

例 1 次の例では、pdeploy コマンドは /tmp/SamplePortletApp.war を Portal Server に配備します。

```
pdeploy deploy -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w admin
-p sunone -g /tmp/SamplePortletApp.war
```

例 2 ポートレットアプリケーションが portlet.xml ファイルに論理ロールを定義することがあります。配備時に、この論理ロールとシステムに実際に定義されているロールをマッピングする必要があります。このマッピングには、ロールマッピングファイルが使用されます。

ロールマッピングファイルには、ActualRole=LogicalRole という形式でエントリが保存されます。このファイルの形式は、Java™ プロパティファイルの形式に準拠する必要があります。たとえば、次のようになります。

```
cn¥=HRManager,dc¥=iplnaet,dc¥=com=Manager
cn¥=Emp,dc¥=iplnaet,dc¥=com=Employee
```

次の pdeploy コマンドは、SamplePortletApp.war ファイルをポートレットアプリケーションに配備するためのロールマッピングファイルを提供します。

```
pdeploy deploy -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w admin
-p sunone -r /tmp/RoleMaps -g /tmp/SamplePortletApp.war
```

例 3 ポートレットアプリケーションが各ユーザーに関連する情報にアクセスしなければならないこともあります。配備時に、論理ユーザー情報エントリ名をシステムに定義されている実際のユーザー情報エントリ名にマッピングする必要があります。配備時にマッピングを行えるように、ユーザー情報エントリマップを添付できます。

ユーザー情報ファイルには、ActualEntryName=LogicalEntryName という形式でエントリが格納されます。たとえば、次のようになります。

```
lastname=lname
firstname=fname
```

次の pdeploy コマンドは、SamplePortletApp.war ファイルをポートレットアプリケーションに配備するためのユーザー情報ファイルを提供します。

```
pdeploy deploy -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w admin
-p sunone -f /tmp/UserInfoMaps -g /tmp/SamplePortletApp.war
```

undeploy

説明

undeploy サブコマンドは、Portal Server からポートレットアプリケーションを消去します。しかし、ポートレット Web アプリケーションに定義されているポートレット用にすでに作成されているすべてのチャンネル定義は消去されません。消去するポートレット Web アプリケーションに関連するすべてのチャンネルは、手動で消去する必要があります。

構文

```
pdeploy undeploy -u uid -w password {-g|-d dn} -p webcontainerpassword -v
portletwebapp
```

```
pdeploy undeploy -h|--help
```

オプション

表 14-4 と表 14-5 は、サポートされるオプションを示しています。これらの表には 2 つの列があります。最初の列は undeploy サブコマンドで使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。

表 14-4 undeploy サブコマンドのオプション

オプション	説明
-v または --verbose	デバッグメッセージを生成する
-d または --dn	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。-d または -g オプションを指定は必須
-g または --global	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。-d または -g オプションは必須

表 14-4 undeploy サブコマンドのオプション (続き)

オプション	説明
--help	stdout にヘルプメッセージを出力する
-l または --locale	ロケール情報を提供する
-p または --wc_password	Web コンテナのパスワードを指定する。このオプションは必須
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。このオプションは必須
-V または --version	バージョン情報を生成する
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

表 14-5 undeploy サブコマンドのオペラント

オペラント	説明
<i>portletwebapp</i>	配備されているポートレット Web アプリケーションの名前を指定する。通常は、WAR ファイルの名前から拡張子 .war を除いたものと一致する

例 次の pdeploy コマンドは、Portal Server から SamplePortletApp というポートレット Web アプリケーションを配備解除します。

```
pdeploy undeploy -u "uid=amAdmin,ou=People,o=sesta.com,o=isp" -w
admin -g
```

dpadmin

説明

dpadmin コマンドとサブコマンドを使用することで、ディスプレイプロファイルオブジェクトをディスプレイプロファイルドキュメントから取得、追加、変更、削除できます。ディスプレイプロファイルオブジェクトとの対話は、すべてネイティブ XML フォーマットにする必要があります。dpadmin コマンドでは、単一のディスプレイプロファイルドキュメントでのみ操作できます。

dpadmin コマンドには次の項目が必要です。

- サブコマンド ([サブコマンド](#)を参照)
- Directory Server にアクセスするためのユーザー識別名およびパスワード
- 対象となっているディスプレイプロファイルドキュメント。グローバルレベルのディスプレイプロファイルドキュメント用の LDAP ノードまたは `--global (-g)` オプションを識別するための識別名

注 ディスプレイプロファイルドキュメントは、`-d` または `-g` オプションにより一意に識別されます。

グローバル: `-g`

組織: `-d "dc=org, dc=com"`

サブ組織: `-d "o=sub-org, dc=org, dc=com"`

ロール: `-d "cn=rolename, dc=org, dc=com"`

ユーザー: `-d "uid=username, ou=people, dc=org, dc=com"`

構文

ここでは、dpadmin コマンド構文について説明します。長い名前のオプションと短い名前のオプションを、1つのコマンドラインで同時に使用することはできません。

短い名前の形式

```
$ dpadmin list|merge|modify|add|remove [command-specific options] -u uid
-w password {-g|-d dn} [-l locale] [-r] [-b] [-V] [-h] [file]
```

```
$ dpadmin batch [-c] -f batch-script-filename [-l locale] [-b] [-h]
```

長い名前の形式

```
$ dpadmin list|merge|modify|add|remove [command-specific options] --runasdn
uid --password password [--global|--dn dn] [--locale locale] [--dryrun]
[--verbose] [--version] [--help] [file]
```

```
$ dpadmin --version
```

```
$ dpadmin batch [--continue] --file batch-script-filename [--locale locale]
[--verbose] [--help]
```

サブコマンド

dpadmin コマンドは次のサブコマンドをとります。

- `list`
- `merge`
- `modify`
- `add`
- `remove`
- `batch`

list

説明

このサブコマンドを使用して、指定されたディスプレイプロファイルドキュメントから、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトを取得します。ディスプレイプロファイルノードオブジェクトが何も指定されていない場合は、ディスプレイプロファイルドキュメント全体が取得されます。ディスプレイプロファイルオブジェクトは、ネイティブ XML フォーマットで表示されます。

list サブコマンドには次のオプションがあります。

- `-u` または `--runasdn` および `-w` または `--password` のそれぞれのオプションを使用して LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名およびパスワード。これらのオプションは必須
- `-n` または `--name` オプションを使用して表示するための、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトの名前

- グローバルレベルノードの `-g` または `--global` オプションによって定義される、表示のためのディスプレイプロファイルのノードオブジェクト、または特定の非グローバルノードが指定された `-d` または `--dn` オプション。 `-g` または `-d` は必須オプションコマンドに固有の `-n` または `--name` オプションを指定しなかった場合、ディスプレイプロファイルドキュメント全体が表示される。 `-g` または `--global` オプションを指定した場合は、ルートディスプレイプロファイルドキュメント全体が表示される

構文

```
$ dpadmin list -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-n|--name name]
$ dpadmin list -h|--help
```

オプション

表 14-6 には 2 つの列があります。最初の列は `list` サブコマンドで使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-6 `list` サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-n</code> または <code>--name</code>	表示するディスプレイプロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクトの完全修飾名を指定する。このオプションは必須ではない
<code>-u</code> または <code>--runasdn</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。このオプションは必須
<code>-w</code> または <code>--password</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

例

例 1

```
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w joshua -d "dc=org,dc=com"
```

この例は、`dc=org,dc=com` 組織ノードから、`TemplateTableContainer` オブジェクトを取得し、標準出力に出力します。

例 2

```
$ dpadmin list -n mailcheck -u "uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com"
-w joshua -g
```

この例は、`mailcheck` を取得する場合にのみグローバルレベルに入り、取得できた場合に標準出力に出力します。

例 3

```
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer/Bookmark2 -u
"uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w joshua -d "dc=org,dc=com"
```

この例は、コンテナ `TemplateTableContainer` にある `Bookmark2` というチャンネルを取得し、標準出力に出力します。

merge

説明

このサブコマンドは、指定した DP ノードオブジェクトのマージ結果を取得し、表示します。オブジェクトはネイティブ XML 形式で表示されます。表示されるオブジェクトは、標準出力に送信されます。-n または --name オプションを使用しない場合、エラーが出力されます。

`merge` コマンドは、次の引数を受け付けます。

--name または -n

`name` 引数は、表示する DP コンテナ、チャンネル、またはプロバイダオブジェクトの完全修飾名を指定します。`name` 引数が指定されていない場合、DP ドキュメント全体が表示されます。`name` 引数が DP ノードオブジェクトを指定しない場合、エラーが出力されます。

注 `merge` サブコマンドは、オブジェクトのマージ結果を表示するだけで、マージが行われるわけではありません。このサブコマンドを実行しても、対象データが変化することはありません。

例

```
$ dpadmin list -n "Bookmark" ¥
-u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com" -w joshua ¥
-d "dc=iplanet,dc=com"
```

```

<Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider">
  <Properties merge="fuse" lock="false" name="_properties">
    <String name="title" value="My Bookmarks" merge="replace"
lock="false"/>
    <String name="refreshTime" value="600" merge="replace"
lock="false"/>
    <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false">
      <String value="Sun home page|http://www.sun.com" merge="replace"
lock="false"/>
      <String value="Everything you want to know about Sun ONE
...|http://www.sun.com/software/products/portal_srvr/home_portal.ht
ml" merge="replace" lock="false"/>
      <String value="Sun ONE home page|http://www.sun.com/software"
advanced="false" merge="replace" lock="false"/>
    </Collection>
  </Properties>
</Channel>
$ dpadmin list -n "Bookmark" ¥
    -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com" -w joshua ¥
    -d "cn=HR Role,dc=iplanet,dc=com"
<Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider">
  <Properties merge="fuse" lock="false" name="_properties">
    <String name="title" value="HR Admin Bookmarks" merge="replace"
lock="false"/>
    <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false">
      <String value="HR Admin home page|http://hr.acme.com"
merge="replace" lock="false"/>
    </Collection>
  </Properties>
</Channel>
$ dpadminmerge -n "Bookmark" ¥
    -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com" -w joshua ¥
    -d "uid=hradmin,ou=people,dc=iplanet,dc=com"
<Channel name="Bookmark" provider="BookmarkProvider">

```

```

        <Properties merge="fuse" lock="false" name="_properties">
          <String name="title" value="HR Admin Bookmarks" merge="replace"
lock="false"/>
          <Collection name="targets" merge="fuse" lock="false">
            <String value="Sun home page|http://www.sun.com" merge="replace"
lock="false"/>
            <String value="Everything you want to know about Sun ONE
...|http://www.sun.com/software/products/portal_srvr/home_portal.ht
ml" merge="replace" lock="false"/>
            <String value="Sun ONE home page|http://www.sun.com/software"
advanced="false" merge="replace" lock="false"/>
            <String value="HR Admin home page|http://hr.acme.com"
merge="replace" lock="false"/>
          </Collection>
          <Collection name="GlobalThemes" merge="fuse"
lock="false">
            <Collection name="theme1" merge="fuse"
lock="false">
              <String name="description" value="Sun
ONE" merge="replace" lock="false"/>
              ...
            </Collection>
          </Collection>
          <Collection name="locales" merge="fuse" lock="false"
propagate="true" advanced="false">
            <String name="en_US" value="English (United
States)" merge="replace" lock="false"/>
          </Collection>
          <String name="docroot" value="/docs/" merge="replace"
lock="false"/>
          <String name="helpURL" value="desktop/usedesk.htm"
merge="replace" lock="false"/>
        </Properties>
</Channel>

```

これは、HR Role に割り当てられている hradmin というユーザーの Bookmark チャネルのマージ結果です。

注 merge サブコマンドからの出力は、結果の総計から構成されます。つまり、使用可能なすべての DP オブジェクトがリストされます。たとえば、GlobalThemes や locales などのプロパティが Bookmark 定義に定義されていない場合でも、Bookmark チャネルの 1 つまたは複数の親からマージされ、出力に表示されます。

modify

説明

このサブコマンドは、既存のディスプレイプロファイルオブジェクトを変更します。dpadmin modify コマンドへのデータは、1 つまたは複数の入力ファイル、またはコマンドの後に指定される XML コードである標準入力から提供されます。

この XML データには、変更するディスプレイプロファイルオブジェクトを一意に定義する名前と適切な XML ヘッダーが必要になります。適切な XML ヘッダーの例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
```

modify サブコマンドの動作は、変更されているディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。combine オプションを指定すると、ディスプレイプロファイルオブジェクト内の新しい(プロパティなどの)要素が既存の要素を置き換えるのではなく、既存の要素と結合されます。modify サブコマンドには次の種類があります。

- ディスプレイプロファイル: ディスプレイプロファイルドキュメント全体を、ファイルを使用して指定した新しいオブジェクト値に変更できる。combine オプションを指定すると、ディスプレイプロファイルドキュメント内の各ディスプレイプロファイルオブジェクトが再帰的に結合される。各ディスプレイプロファイルオブジェクトに対して combine オプションがどのように機能するかの詳細については、後述の説明を参照
- チャネルまたはコンテナ: チャネルまたはコンテナを新しいオブジェクト値に変更できる。チャネルまたはコンテナを変更する場合、parent オプションの指定によって次のように処理される
 - parent オプションが指定されている場合、新しいディスプレイプロファイルオブジェクト名と一致するチャネルまたはコンテナで、指定された親コンテナが検索される。検出されると、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられる

- **parent** オプションがない場合、ルートディスプレイプロファイルオブジェクトが親コンテナとして扱われる。したがって、新しいディスプレイプロファイルオブジェクト名に一致するチャンネルまたはコンテナで、ルートディスプレイプロファイルオブジェクトが検索される。検出されると、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられる

combine オプションを指定すると、プロパティ、使用可能、選択済みの既存オブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合される

- **プロパティ**: ディスプレイプロファイルオブジェクトのプロパティを新しい値に変更できる。ディスプレイプロファイルオブジェクトのプロパティを変更するには、**parent** オプションが必要となる。指定した名前と一致するディスプレイプロファイルノードオブジェクト(チャンネルまたはコンテナ)またはディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトが、指定した **parent** オプションで検索される。見つかり、オブジェクトのプロパティオブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられる。**combine** オプションを指定すると、既存のプロパティが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合される
- **使用可能または選択済み**: コンテナ内の使用可能リスト、または選択済みリストを新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと置き換えることができる。このタイプのディスプレイプロファイルオブジェクトを変更するには、**parent** オプションが必要となる。親の名前と一致するディスプレイプロファイルコンテナが検索される。次に、選択済みまたは使用可能オブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトで置き換えられる。**combine** オプションを指定すると、既存の選択済みまたは使用可能オブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合される
- **文字列、論理値、整数、集合またはロケール**: ディスプレイプロファイルオブジェクト内の文字列、論理値、整数、集合またはロケールプロパティが、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトプロパティと置き換えられる

parent オプションを指定すると、指定した名前と一致するディスプレイプロファイルノード(チャンネルまたはコンテナ)またはディスプレイプロファイルプロバイダがこの順に検索される。検出されると、新しいプロパティの名前と一致するプロパティが検索される。また、ディスプレイプロファイルオブジェクト内のプロパティが、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトプロパティで置き換えられる。

parent オプションが指定されていない場合は、ディスプレイプロファイルのルートノードが使用され、そのルートノードでプロパティが置き換えられる

combine オプションを指定すると、既存の集合またはロケールオブジェクトが新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合される。文字列、論理値および整数などの不可分なディスプレイプロファイルプロパティでは、**combine** オプションはサポートされない

文字列、論理値および整数などの不可分なディスプレイプロファイルプロパティには、名前を指定する必要はない。名前をつけない場合、値の文字列表記が名前となる。たとえば、次の2つのディスプレイプロファイル整数オブジェクトは同じ名前になる

```
<Integer value="3"/>
```

```
<Integer name="3" value="4"/>
```

- **プロバイダ**: 既存のディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトは、同じ名前のディスプレイプロファイルプロバイダと置き換えることができる。新しいディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトの名前と一致するディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトが、ディスプレイプロファイルのルートノード内で検索される。検索されると、新しいディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトが、ディスプレイプロファイルのルートオブジェクトの下に挿入され、同じ名前の既存のディスプレイプロファイルプロバイダが置き換えられる。プロバイダは無条件コンテナであるルートノードにだけ存在するため、`parent` オプションを指定する必要はない

`modify` サブコマンドは次のオプションをとります。

- `-u` または `--runasdn` および `-w` または `--password` のそれぞれのオプションを使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名およびパスワード。これらのオプションは必須
- グローバルレベルノードの `-g` または `--global` オプションによって定義される、修正のためのディスプレイプロファイルのノードオブジェクト、または特定の非グローバルノードが指定された `-d` または `--dn` オプション。 `-g` または `-d` は必須オプション
- `file` 引数を使用して XML 入力が含まれるファイル名。この引数は省略可能。XML 入力を使用しない場合、標準入力から使用されます。
- `-p` または `--parent` オプションで変更されるディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名
- `-m` または `--combine` オプションはディスプレイプロファイルオブジェクトをマージする

構文

```
$ dpadmin modify -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-p|--parent parent] [-m|--combine]
file|<<EOF
```

```
$ dpadmin modify -h|--help
```

オプション

表 14-7 には 2 つの列があります。最初の列は `modify` サブコマンドで使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-7 `modify` サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<i>file</i>	<i>file</i> 引数を指定する場合、コマンドラインの最後の引数として指定する必要がある。この引数は、ディスプレイプロファイルの DTD に適合する XML コードを含む XML ファイルへのパスを指定する。 <code>modify</code> サブコマンドに <i>file</i> 引数が指定されていない場合、入力を標準入力から <code>dpadmin</code> にリダイレクトする必要がある
<code>-m</code> または <code>--combine</code>	指定されたディスプレイプロファイルオブジェクトを、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合する。 <code>combine</code> オプションは次のディスプレイプロファイルオブジェクトで使用できる。ディスプレイプロファイルルート、チャンネル、コンテナ、プロパティ、使用可能、選択済み、集合、およびロケール。このオプションは省略可能
<code>-p</code> または <code>--parent</code>	変更されるディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する。このオプションは省略可能
<code>-u</code> または <code>--runasdn</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。このオプションは必須
<code>-w</code> または <code>--password</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

例

例 1

```
$ dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w joshua -d "dc=org,dc=com"
<<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
```

```

<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Channel name="NewNews" provider="newsprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="News Channel"/>
    <String name="description" value="This channel is all about
news"/>
  </Properties>
</Channel>
EOF

```

この例は、コンテナ `TemplateTableContainer` にある `NewNews` というチャンネルを標準入力の XML テキストとして指定された値に変更 (置換) します。

例 2

```

$ dpadmin modify -p TemplateTableContainer/NewNews -u
"uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w joshua -d "dc=org,dc=com"
farble.xml

```

この例は、`NewNews` チャンネルのプロパティのうち、`farble.xml` ファイルに名前が指定されているプロパティを `farble.xml` ファイル内の新しいオブジェクトに置き換えます。`farble.xml` ファイルの内容は次のとおりです。

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<String name="welcome" value="Hi, welcome to farble land!!!!"/>

```

例 3

```

$ dpadmin list -n TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=comp" -w joshua -d "dc=org,dc=com"
...
<Collection name="news">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi"/>
  </Collection>
</Collection>
...
$ dpadmin modify -p TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,dc=org,dc=com" -w joshua -d "dc=org,dc=com" -m <<EOF

```

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="news">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
```

EOF

```
$ dpadmin list -n TemplateTableContainer -u
"uid=amAdmin,dc=org,dc=com" -w joshua -d "dc=org,dc=com"
```

...

```
<Collection name="news">
  <Collection name="bar">
    <String name="msg" value="hi"/>
    <String name="msg2" value="woo hoo"/>
  </Collection>
</Collection>
```

...

この例は、combine オプションを使用して、新しいプロパティ "msg2" を、集合 "bar" に追加します。既存のプロパティ "msg" が結果に残っていることを確認します。

例 4

```
$ dpadmin list -n test -u "uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w
joshua -d "dc=org,dc=com"
```

```
<Container name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="test"/>
  </Properties>
  <Available />
  <Selected />
  <Channels>
    <Channel name="test1" provider="test1provider">
```

```

    <Properties>
      <Collection name="news">
        <String name="msg1" value="blah"/>
        <Collection name="bar">
          <String name="msg2" value="hi"/>
        </Collection>
      </Collection>
    </Properties>
  </Channel>
</Channels>
</Container>
$ dpadmin modify -u "uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w joshua
-d "dc=org,dc=com" -m <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Container name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <String name="title" value="Test Container"/>
  </Properties>
  <Available>
    <Reference value="test1"/>
  </Available>
  <Selected>
    <Reference value="test1"/>
  </Selected>
  <Channels>
    <Channel name="test1" provider="test1provider">
      <Properties>
        <Collection name="news">
          <String name="msg1" value="123"/>
          <Collection name="bar">

```

```

        <String name="msg3" value="123"/>
    </Collection>
</Collection>
</Properties>
</Channel>
</Channels>
</Container>
EOF
$ dpadmin list -n test -u "uid=amAdmin,ou=people,dc=org,dc=com" -w
joshua -d "dc=org,dc=com"
<Container name="test" provider="testprovider">
    <Properties>
        <String name="title" value="Test Container"/>
    </Properties>
    <Available>
        <Reference value="test1"/>
    </Available>
    <Selected>
        <Reference value="test1"/>
    </Selected>
    <Channels>
        <Channel name="test1" provider="test1provider">
            <Properties>
                <Collection name="news">
                    <String name="msg1" value="123"/>
                    <Collection name="bar">
                        <String name="msg2" value="hi"/>
                        <String name="msg3" value="123"/>
                    </Collection>
                </Collection>
            </Properties>
        </Channel>
    </Channels>
</Container>

```

```

    </Channel>
  </Channels>
</Container>

```

この例では、"title" および "msg1" の値が、新しい値で置き換えられます。Available と Selected の両方に、Reference value が追加されました。"news" 集合が "msg3" を追加しました。この例は、必要に応じて結合および置き換えを行うために、-m または combine オプションを modify サブコマンドとともに使用できることを示しています。

例 5

```

$ dpadmin list -n test ¥
    -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com"   -w joshua ¥
    -d "dc=iplanet,dc=com"
<Channel name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <Collection name="foo">
      <String name="foo1" value="bar"/>
    </Collection>
  </Properties>
</Channel>

```

```

$ dpadmin modify -p test ¥
    -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com"   -w joshua ¥
    -d "dc=iplanet,dc=com"   -m <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<ConditionalProperties condition="client" value="nokia">
  <Collection name="foo">
    <String name="foo1" value="nokia bar"/>
  </Collection>
</ConditionalProperties>
EOF

```

```

$ dpadmin list -n test ¥
  -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com" -w joshua ¥
  -d "dc=iplanet,dc=com"
<Channel name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <Collection name="foo">
      <String name="foo1" value="bar"/>
    </Collection>
    <ConditionalProperties condition="client" value="nokia">
      <Collection name="foo">
        <String name="foo1" value="nokia bar"/>
      </Collection>
    </ConditionalProperties>
  </Properties>
</Channel>

```

```

$ dpadmin modify -p test ¥
  -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com" -w joshua ¥
  -d "dc=iplanet,dc=com" -m <<EOF
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<ConditionalProperties condition="client" value="nokia">
  <ConditionalProperties condition="locale" value="en">
    <String name="abc" value="nokia en abc"/>
  </ConditionalProperties>
</ConditionalProperties>
EOF

```

```

$ dpadmin list -n test ¥
  -u "uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com" -w joshua ¥
  -d "dc=iplanet,dc=com"

```

```

<Channel name="test" provider="testprovider">
  <Properties>
    <Collection name="foo">
      <String name="foo1" value="bar"/>
    </Collection>
    <ConditionalProperties condition="client" value="nokia">
      <Collection name="foo">
        <String name="foo1" value="nokia bar"/>
      </Collection>
      <ConditionalProperties condition="locale" value="en">
        <String name="abc" value="nokia en abc"/>
      </ConditionalProperties>
    </ConditionalProperties>
  </Properties>
</Channel>

```

この例では、Combine オプションを使用して条件プロパティを追加しています。

add

説明

このサブコマンドは、ディスプレイプロファイルに新しいディスプレイプロファイルオブジェクトを追加します。追加されるオブジェクトが、ディスプレイプロファイルに存在しない必要があります。add サブコマンドは、標準入力またはコマンドへの引数に指定された 1 つまたは複数のファイルから、新しいオブジェクト用のデータを読み取ります。新しいオブジェクト用のデータは、XML であり、Sun ONE Portal Server ディスプレイプロファイル DTD に適合する必要があります。

この XML データには、変更するディスプレイプロファイルオブジェクトを一意に定義する一連の名前と適切な XML ヘッダーが必要になります。適切な XML ヘッダーの例を次に示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">

```

注 付録 B には、ディスプレイプロファイル DTD が含まれます。

add サブコマンドの動作は、追加されているディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。次のとおりです。

- ディスプレイプロファイル: ディスプレイプロファイルドキュメント全体を指定した LDAP ノードに追加できる。ドキュメントがすでにノードにある場合は、エラーが報告される。新しいディスプレイプロファイルドキュメントを追加する場合は、parent オプションを指定してはならない
- チャネルまたはコンテナ: チャネルまたはコンテナを追加できる。parent オプションが存在する場合、親ディスプレイプロファイルオブジェクトは親コンテナ内を特定の名称で検索され、指定されたチャネルまたはコンテナが追加される。parent オプションがない場合、親ディスプレイプロファイルオブジェクトはディスプレイプロファイルのルートオブジェクトとみなされ、ルートの下に指定されたチャネルまたはコンテナオブジェクトが追加される
- プロパティ: すべてのディスプレイプロファイルノードおよびディスプレイプロファイルプロバイダオブジェクトに対してプロパティバンドルが必要とされるので、プロパティはすでに存在し、新たに追加することはできない。modify サブコマンドを使用する
- 使用可能または選択済: ディスプレイプロファイルコンテナに対して使用可能な選択済オブジェクトが必要とされるため、それらのオブジェクトはすでに存在し、新たに追加することはできない。modify サブコマンドを使用する
- 文字列、論理値、整数、集合またはロケール: ディスプレイプロファイルオブジェクト内の文字列、論理値、整数、集合、ロケールのプロパティを追加することができる。このタイプのディスプレイプロファイルオブジェクトを追加するには、parent オプションを指定する必要がある。指定された親内で、名前が一致するディスプレイプロファイルノード (チャネルまたはコンテナ) またはディスプレイプロファイルプロバイダがこの順に検索される。見つかると、指定されたディスプレイプロファイルプロパティが、ディスプレイプロファイルノードまたはディスプレイプロファイルプロバイダに追加される

文字列、論理値および整数などの不可分なディスプレイプロファイルプロパティには、名前を指定する必要はない。名前をつけない場合、値の文字列表記が名前となる

- プロバイダ: ディスプレイプロファイルプロバイダがルートノードの下に挿入される。プロバイダはルートノードにだけ存在するので、parent オプションは使用しない。同じ名前のオブジェクトがすでに存在する場合は、エラーが報告される

add サブコマンドは次のオプションをとります。

- **-u** または **--runasdn** および **-w** または **--password** のそれぞれのオプションを使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名およびパスワード。これらのオプションは必須

- 追加するディスプレイプロファイルドキュメントまたはオブジェクトを追加する必要があるディスプレイプロファイルドキュメント (`-d` または `--dn` オプション)。`-g` または `--global` オプションを使用してグローバルレベルノードで定義された、追加するためのディスプレイプロファイルオブジェクト。`-g` または `-d` は必須オプション
- XML 入力が含まれるファイル名 (*file* 引数)
- ディスプレイプロファイルノードオブジェクトが追加される親の完全修飾名 (`-p` または `--parent` オプション)

構文

```
$ dpadmin add -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-p|--parent parent] file|<<EOF
$ dpadmin add -h|--help
```

オプション

表 14-8 には 2 つの列があります。最初の列は `add` サブコマンドで使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-8 `add` サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<i>file</i>	<i>file</i> 引数を指定する場合は、コマンドラインの最後の引数として指定する必要がある。この引数は、ディスプレイプロファイルの DTD に適合する XML コードを含む XML ファイルへのパスを指定する。 <code>add</code> サブコマンドに <i>file</i> 引数がない場合、入力は、標準入力から <code>dpadmin</code> コマンドにリダイレクトされることが必要
<code>-p</code> または <code>--parent</code>	追加するディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する
<code>-u</code> または <code>--runasdn</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。このオプションは必須
<code>-w</code> または <code>--password</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

例

```
$ dpadmin add -p SampleTabPanelContainer/Postal -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp" <<EOF

<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE DisplayProfile SYSTEM "jar://resources/psdp.dtd">
<Collection name="zipCodes">
  <Integer value="98012"/>
  <Integer value="98036"/>
  <Integer value="94025"/>
  <Integer value="95112"/>
</Collection>
```

EOF

この例は、標準入力に指定された "zipCodes" という集合プロパティを、SampleTabPanelContainer というコンテナにある Postal というチャンネルに追加します。

remove**説明**

このサブコマンドは、既存のディスプレイプロファイルオブジェクトを、ディスプレイプロファイルから消去します。消去するオブジェクトが指定したディスプレイプロファイルドキュメントに存在しない場合、エラーが報告されます。このサブコマンドは、type、parent、および name オプションをとります。

type オプションは、消去するディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプを指定します。parent オプションは、消去するディスプレイプロファイルオブジェクトの親ディスプレイプロファイルオブジェクトの完全修飾名を指定します。親ディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプは、消去されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。name オプションは、消去するオブジェクトの名前を指定します。

parent オプションと name オプションの動作は、消去するディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプに応じて異なります。表 14-9 には 2 つの列があります。最初の列はタイプオプションで使用できる値、2 番目の列は消去されるオブジェクトに関する簡単な説明を示します。

表 14-9 dpadmin remove の parent および name の動作

type オプションの値	parent および name オプションの動作
root	<i>distinguishedname</i> オプションによって、または <code>-g</code> (<code>--global</code>) オプションが指定されている場合はグローバルレベルのディスプレイプロファイルによって指定される LDAP ノードから、ディスプレイプロファイルドキュメント全体を消去する。 <code>type=root</code> の場合は、 <code>name</code> オプションは必要ない
channel	<code>name</code> オプションは必須。 <code>parent</code> オプションがない場合、親コンテナがディスプレイプロファイルのルートノードとみなされる。それ以外の場合は、 <code>parent</code> オプションが消去するチャンネルの親コンテナ名とみなされる。 <code>name</code> オプションは、消去するチャンネルまたはコンテナの名前を指定する
provider	プロバイダはディスプレイプロファイルのルートノードの下にあるので、 <code>parent</code> オプションを指定してはならない。 <code>name</code> オプションは必須。このオプションは消去するプロバイダを指定する
property	<code>parent</code> オプションは、プロパティを消去する親コンテナ、チャンネル、またはプロバイダオブジェクトの完全修飾名を指定する。 <code>parent</code> オプションがない場合、ディスプレイプロファイルのルートノードが親オブジェクトとみなされる <code>name</code> オプションは、消去するプロパティの名前を指定する。 <code>name</code> オプションがない場合は、エラーが報告される。プロファイルプロパティに名前が付けられていない場合は、値の文字列表記が名前となる
available または selected	<code>parent</code> オプションと <code>name</code> オプションの両方が必須。 <code>parent</code> オプションは、使用可能 (選択済み) 参照を消去する親コンテナまたはチャンネルオブジェクトの名前を指定するものと想定されている。 <code>name</code> オプションは、消去される参照の値を指定する。 <code>name</code> オプションがない場合は、エラーが報告される

remove サブコマンドは次のオプションをとります。

- `-u` または `--runasdn` および `-w` または `--password` のそれぞれのオプションを使用して、LDAP データベースにアクセスするための管理者の識別名およびパスワード。これらのオプションは必須
- `-n` または `--name` オプションを使用して消去する、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトの名前。`type=root` の場合以外は、このオプションは必須

- `-d(--dn)` または `-g(--global)` オプションを使用して、消去するオブジェクトを含むディスプレイプロファイルドキュメントが置かれている LDAP データベースのディスプレイプロファイルドキュメントノード。`-d(--dn)` または `-g(--global)` オプションのいずれかが必須
- `-t` または `--type` オプションを使用して消去する、ディスプレイプロファイルノードオブジェクトのタイプ。このオプションは必須
- `-p` または `--parent` オプションで削除されるディスプレイプロファイルノードオブジェクトの親の完全修飾名

構文

```
$ dpadmin remove -u|--runasdn uid -w|--password password
{(-g|--global)|(-d|--dn dn)} [-n|--name name] [-p|--parent parent]
-t|--type type

$ dpadmin remove -h|--help
```

オプション

表 14-10 には 2 つの列があります。最初の列は `remove` サブコマンドで使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-10 `remove` サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
<code>-d</code> または <code>--dn</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-g</code> または <code>--global</code>	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。 <code>-d</code> または <code>-g</code> オプションは必須
<code>-n</code> または <code>--name</code>	消去するディスプレイプロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクトを指定する。 <code>type=root</code> の場合以外は、このオプションは必須
<code>-p</code> または <code>--parent</code>	削除するディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する
<code>-t</code> または <code>--type</code>	消去するディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプを指定する。このオプションは必須
<code>-u</code> または <code>--runasdn</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。このオプションは必須
<code>-w</code> または <code>--password</code>	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

例

例 1

```
$ dpadmin remove -t property -p Bookmarks -n locations -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"
```

この例は、Bookmarks というチャンネルまたはコンテナから locations というプロパティを消去します。

例 2

```
$ dpadmin remove -t provider -n "pctest" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -g
```

グローバルディスプレイプロファイルから、プロバイダ pctest を消去します。

例 3

```
$ dpadmin remove --type channel --parent TemplateTableContainer
--name "Test" --runasdn "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp"
--password joshua --dn "o=sesta.com,o=isp"
```

この例は、TemplateTableContainer という親コンテナ内に存在する Test というチャンネルを消去します。

例 4

```
$ dpadmin list -n X -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w
joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
```

```
<Container name="X" ...>
  <Channels>
    <Container name="Y" ...>
      <Channels>
        <Channel name="z" .../>
      </Channels>
    </Container>
  </Channels>
</Container>
```

チャンネル z を消去するには、次のコマンドのいずれかを実行します。

```

$ dpadmin remove -t channel -p X -n Y/z -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"

$ dpadmin remove -t channel -p X/Y -n z -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"

$ dpadmin remove -t channel -n X/Y/z -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua -d
"o=sesta.com,o=isp"

```

batch

説明

batch サブコマンドを使用すると、複数のディスプレイプロファイルコマンドの処理を最適の方法で実行できます。サブコマンドはバッチスクリプトファイル(必須)に一覧表示され、連続して実行されます。エラーが発生すると、デフォルトではエラーが報告され終了します。**-c** または **--continue** オプションは、連続処理モードを指定します。このモードでは、エラーが発生すると報告され、dpadmin は次のサブコマンドの処理を開始します。

コマンドバッチスクリプトはテキスト(ASCII)ファイルである必要があり、batch サブコマンドを除き、dpadmin に入力するためのサブコマンドをいくつでも含めることができます。サブコマンドは1行で入力する必要があります(改行文字はコマンドの最後を示します)。各サブコマンドには、コマンドラインに管理者の識別名およびパスワードを指定する必要があります。サブコマンドの構文は、dpadmin 部分を除いて、サブコマンドを直接シェルに入力した場合とまったく同じになります。スクリプトにはXMLを含めることができません。したがって、XML入力を必要とするサブコマンドではファイルに含める必要があります。識別名(DN)が空白文字を含む場合は、前後を二重引用符で囲みます。

次に、バッチスクリプトファイルの例を示します(各コマンドは1行)。

```

add -p PostalMailer -u uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com -w
joshua -d dc=iplanet,dc=com zipCodes.xml

add -p PostalStamps -u uid=amAdmin,ou=People,dc=iplanet,dc=com -w
joshua -d dc=iplanet,dc=com zipCodes.xml stampRates.xml

add -p PostalRates -d "cn=hr role,dc=iplanet,dc=com" zipCodes.xml
stampRates.xml

```

batch サブコマンドは **-c** または **--continue** オプションをとり、**-f** または **--file** を使用してバッチスクリプトファイルの名前を指定する必要があります。

構文

```
$ dpadmin batch [-c|--continue] -u|--runasdn uid -w|--password password
-f|--file batch-script-file
```

```
$ dpadmin batch -h|--help
```

オプション

表 14-11 には 2 つの列があります。最初の列は batch サブコマンドで使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-11 batch サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-c または --continue	連続処理モードを示す。このオプションを指定した場合、エラーは報告されるが、dpadmin は次のサブコマンドの処理を継続する。デフォルトでは、エラーを報告した後に dpadmin は終了する
-f または --file	バッチスクリプトファイルを指定する。この引数は必須
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。この引数は、list、modify、add、および remove サブコマンドでだけ使用される このオプションは省略可能。指定した場合、バッチ処理全体で指定のパスワードが認証に使用される。また、バッチスクリプトに指定する各サブコマンドに個別に認証を指定することができる。これは、この識別名に優先して適用される
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは省略可能。指定した場合、バッチ処理全体で指定のパスワードが認証に使用される。また、バッチスクリプトに指定する各サブコマンドに個別に認証を指定することができる。これは、このパスワードに優先して適用される

オプション

表 14-12 は、dpadmin コマンドの要約を示しています。この表では、小見出しにサブコマンドが示されます。この表には 2 つの列があります。最初の列は使用できるオプション、引数またはオペランド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-12 dpadmin コマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-V または --version	バージョン、通知、その他の情報など、ユーティリティに関する説明を標準出力に出力するときは、dpadmin にこのオプションを指定する。このオプションが指定されている場合、すべてのサブコマンドおよび他のオプションは無視される
すべてのサブコマンドに共通のオプション	
-b または --verbose	デバッグメッセージを生成するときは、このオプションを指定する
-h または --help	標準出力に簡単なヘルプページを出力するときは、dpadmin にこのオプションを指定する。サブコマンドが指定されていない場合は、dpadmin の汎用ヘルプページが出力される。dpadmin のいずれかのサブコマンドが指定されている場合は、そのサブコマンドの簡単なヘルプページが出力される
-l または --locale	すべてのデバッグメッセージとエラーメッセージを指定のロケールでローカライズする場合は、このオプションを使用する。指定しない場合、システムロケールがデフォルトとして適用される
list、add、modify、および remove サブコマンドのオプション	
-d または --dn	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP ノードの識別名を指定する。-d または -g オプションは必須
-g または --global	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する。-d または -g オプションは必須
-r または --dryrun	サブコマンドのエラーやサブコマンドが正常に機能していることを sysout に報告する。サブコマンドによる変更結果は LDAP には配置されない
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。この引数は、list、modify、add、および remove サブコマンドでだけ使用される。このオプションは必須
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須
list および remove サブコマンドのオプション	
-n または --name	表示するまたは削除するディスプレイプロファイルコンテナ、チャンネルまたはプロバイダオブジェクトの完全修飾名を指定する。このオプションは必須

表 14-12 dpadmin コマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
add, modify および remove サブコマンドのオプション	
-p または --parent	追加、変更または削除するディスプレイプロファイルオブジェクトの親の完全修飾名を指定する
add および modify サブコマンドのオプション	
<i>file</i>	<i>file</i> 引数を指定する場合は、コマンドラインの最後の引数として指定する必要がある。この引数は、ディスプレイプロファイルの DTD に適合する XML コードを含む XML ファイルへのパスを指定し、適切な XML ヘッダーを含む。XML の入力が必要であるサブコマンドには、 <code>modify</code> と <code>add</code> が含まれている。これらのサブコマンドに <i>file</i> 引数がない場合、入力は、標準入力から <code>dpadmin</code> コマンドにリダイレクトされることが必要
modify サブコマンドのオプション	
-m または --combine	指定されたディスプレイプロファイルオブジェクトを、新しいディスプレイプロファイルオブジェクトと結合する。 <code>modify</code> サブコマンドでだけ使用できる。 <code>combine</code> オプションは次のディスプレイプロファイルオブジェクトで使用できる。ディスプレイプロファイルルート、チャンネル、コンテナ、プロパティ、使用可能、選択済み、集合、およびローケール
remove サブコマンドのオプション	
-t または --type	削除されるディスプレイプロファイルオブジェクトのタイプを指定する。使用できるタイプは、 <code>root</code> 、 <code>channel</code> 、 <code>provider</code> 、 <code>property</code> 、 <code>available</code> 、または <code>selected</code>
batch サブコマンドのオプション	
-c または --continue	連続処理モードを示す。 <code>batch</code> サブコマンドでだけ使用できる。このオプションを指定した場合、エラーは報告されるが、 <code>dpadmin</code> は次のサブコマンドの処理を継続する。デフォルトでは、エラーを報告した後に <code>dpadmin</code> は終了する
-f または --file	バッチスクリプトファイルを指定する。ASCII ファイルは、 <code>batch</code> サブコマンドでだけ使用できる
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定する。この引数は、 <code>list</code> 、 <code>modify</code> 、 <code>add</code> 、および <code>remove</code> サブコマンドでだけ使用される。このオプションは必須
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定する。このオプションは必須

par

説明

par コマンドは、指定された .par ファイルと関連する機能を実行します。チャンネルまたはプロバイダを Sun ONE Portal Server でインポートまたはエクスポートする場合に使用できます。

構文

ここでは、par コマンド構文について説明します。長い名前のオプションと短い名前のオプションを、1つのコマンドラインで同時に使用しないようにしてください。

短い名前の形式

```
par containers -r uid -p password [-d] dn|global
par describe [-d] parfile
par export -r uid -p password [-m] [-d] -s staticdir [-v] parfile dn|global
{exportfile|from=}...
par import -r uid -p password [-o] [-d] -s staticdir [-v] parfile [dn|global
[op...]]
par import -r uid -p password -a [-d] -s staticdir [-v] parfile [dn|global]
```

長い名前の形式

```
par containers --runasdn uid --password password [--debug] dn|global
par describe [--debug] parfile
par export --runasdn uid --password password [--modify] [--debug]
--staticdir staticdir [--verbose] parfile dn|global {exportfile|from=}...
par import --runasdn uid --password password [--overwrite] [--debug]
--staticdir staticdir [--verbose] parfile [dn|global [op...]]
par import --runasdn uid --password password --auto [--debug]
--staticdir staticdir [--verbose] parfile [dn|global]
```

サブコマンド

次のサブコマンドを使用できます。

- `containers`
- `describe`
- `export`
- `import`

containers

説明

指定された Directory Server 名 (または `global`) で表示された、特定のディスプレイプロファイルドキュメント内のすべての使用可能なコンテナおよびチャネル一覧表示します。ほかのコマンドを構築するための補助として使用できます。

構文

```
par containers -r|--runasdn uid -p|--password password [-d|--debug]
[-v|--verbose] dn|global
```

例

```
par containers -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p
joshua -d "o=sesta.com,o=isp"
```

この例は、LDAP ノード `"o=sesta.com,o=isp"` にあるディスプレイプロファイルドキュメント内の使用可能なコンテナを一覧表示します。

describe

説明

エン트리およびエントリに定義されたすべての組み込みの自動抽出操作を含む、指定された `.par` ファイルの内容を記述します。

構文

```
par describe parfile
```

例

```
par describe myfile.par
```

この例では、コマンド出力または `myfile.par` の記述内容は次のようになります。

```

Class Root: /
Property Based File Root:/pbfiles
Display Profile Root:/dp
Static Content Root:/static
Entry:mychannel
AutoExtract:dpnode=o%3Dsesta.com%2Co%3DDisp,channel,entry=mychann
el
DP Document:this my JSP based channel.
Channel:SampleJSP.a
Includes:Property Based File, root templateBaseDir, path
default/mychannel/samplecontent.jsp (channel)
Includes:Property Based File, root templateBaseDir, path
default/mychannel/sampledooedit.jsp (channel)
Includes:Property Based File, root templateBaseDir, path
default/mychannel/sampleedit.jsp (channel)
Includes:Property Based File, root templateBaseDir, path
default_en_US/mychannel/samplecontent.jsp
(channel)
Includes:Property Based File, root templateBaseDir, path
default_en_US/mychannel/sampledooedit.jsp
(channel)
Includes:Property Based File, root templateBaseDir, path
default_en_US/mychannel/sampleedit.jsp
(channel)

```

export

説明

Portal Server からプロバイダまたはチャンネルをエクスポートすることで、指定された .par ファイルを生成します。このコマンドは、.par ファイル、更新の必要があるディスプレイプロファイルドキュメントに対応する Directory Server 名引数 (またはキーワード global)、および任意の数 (1 以上) の *exportfile*、または *from* 指定をとります。from 指定には、エクスポートと同じ情報が含まれますが、**A**行 **A**v はセミコロンの区切られます。

-m オプションが指定されていない par export コマンドは、.par ファイルを生成します。-m オプションが指定された par export コマンドは、プロバイダ、チャンネル、またはコンテナを定義する既存の .par ファイルの更新または追加、あるいはその両方に使用されます。

構文

```

par export -r|--runasdn uid -p|--password password [-d|--debug]
-s|--staticdir staticdir [-v|--verbose] parfile dn|global
{exportfile|from=}...

```

```
par export -r|--runasdn uid -p|--password password [-d|--debug]
-s|--staticdir staticdir [-v|--verbose] -m|--modify parfile dn[global
{exportfile|from=}...
```

例

```
par export -r "uid=amAdmin,ou=people,dc=sesta,dc=com" -p joshua
mychannel.par "o=sesta.com,o=isp" myexport.txt
```

myexport.txt コンテナの内容は次のようになります。

```
from:channel mychannel
directory:templateBaseDir . mychannel
description:this is my JSP based channel
```

この例は、mychannel のチャンネル定義およびテンプレートファイルを "o=sesta.com,o=isp" *dn* から mychannel.par へエクスポートします。また、JSPProvider チャンネルの場合、directory 行は、ロケール固有バージョンを含むすべての .jsp ファイルを移行します。

import

説明

指定された .par ファイルから Portal Sever へオブジェクトをインポートします。このコマンドは、.par ファイル、および Directory Server に示されたディスプレイノードにオブジェクトをインポートするためのディスプレイプロファイルドキュメントのオプションの引数 (またはキーワード *global* によって示されたルートディスプレイプロファイル)、および実行する操作をとります。指定されていない場合は、これらの情報は par ファイルから取得されます。auto オプションを使用して、.par ファイルにすでに含まれている自動抽出操作を実行することを指定できます。

新しいチャンネルを追加する場合は、par import コマンドを使用します。このコマンドは -o オプションとともに使用することもできます。チャンネルがすでに存在する場合は、-o オプションを par import コマンドとともに使用して、古いチャンネルを完全に置き換える (上書きする) 必要があります。このサブコマンドを使用すると、チャンネルだけでなくプロバイダもインポートできます。

構文

```
par import -r|--runasdn uid -p|--password password [-o] [-d|--debug]
-s|--staticdir staticdir [-v|--verbose] parfile [dn|global [op...]]
```

```
par import -r|--runasdn uid -p|--password password -a|--auto
[-d|--debug] -s|--staticdir staticdir [-v|--verbose] parfile [dn|global]
```

例

例 1

```
par import -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p joshua
--auto myfile.par "o=sesta.com,o=isp"
```

この例は、myfile.par プロファイルに定義された自動操作では、myfile.par ファイルからチャンネルを抽出します。

例 2

```
par import -r "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -p joshua
myfile.par "o=sesta.com,o=isp"
"entry=mychannel,channel=anothername,avail=topcontainer"
```

この例は、ターゲットの *dn* 内の異なる名前でもコマンドをインストールし、コンテナ *topcontainer* で使用できるようにして、チャンネルを明示的に抽出します。

オプション

表 14-13 には 2 つの列があります。最初の列は `par` コマンドで使用できるオプション、2 番目の列は簡単な説明を示します。このコマンドは、次のオプションをサポートします (アルファベット順)。

表 14-13 par コマンドのオプション

オプション	説明
-a または --auto	<code>import</code> コマンドとともに使用して、 <code>.par</code> ファイルに指定されている自動抽出操作を適用する。この場合、コマンドラインに操作を指定してはならない。 <code>dn</code> 引数を指定することもできるが、自動抽出操作の <code>dn</code> に置き換えられる。コマンドラインに指定されている操作は無視される
-d または --debug	エラーメッセージに関するその他のデバッグ情報の生成を指定する
-m または --modify	<code>export</code> コマンドとともに使用して、既存の <code>.par</code> ファイルを置換せずに更新する。エントリの追加または古いエントリの置換によって、新しいファイルが追加される。 <code>.par</code> ファイルを使用することで、このコマンドは新しいファイルを既存のプロバイダまたはチャンネルに追加することもできる

表 14-13 par コマンドのオプション

オプション	説明
-o または --overwrite	import コマンドとともに使用して、既存のチャンネルを置き換える
-p または --password	認証パスワードを指定する。describe を除くすべてのサブコマンドで必須。指定されていない場合、par ユーティリティは指定を要求する
-r または --runasdn	認証のためのユーザーの識別名を指定する。describe を除くすべてのコマンドで必須。指定されていない場合、par ユーティリティは指定を要求する。 uid=userName,ou=people,o=organizationName , o=organizationalUnit の形式で指定する
-s または --staticdir	インポートまたはエクスポートに使用されるスタティックコンテンツディレクトリの、ホスト固有のディレクトリを定義する
-v または --verbose	操作が実行されると、その操作が記述される。import および export コマンドとともに使用する
-V または --version	バージョン、通知、その他の情報など、ユーティリティに関する説明を標準出力に出力するときは、par にこのオプションを指定する。このオプションが指定されている場合、すべてのサブコマンドおよび他のオプションは無視される
-?	サブコマンドのヘルプを取得する

引数

表 14-14 には 2 つの列があります。最初の列は par コマンドで使用できる引数、2 番目の列は簡単な説明を示します。このコマンドは、次の引数をとります。

表 14-14 par コマンドの引数

引数	説明
dn	アクセスする Directory Server 内の識別されたノードを指定する。"o=organizationName , o=organizationalUnit" の形式で指定する
global	ディスプレイプロファイルドキュメントにアクセスする LDAP のグローバルレベルノードを指定する

表 14-14 par コマンドの引数

引数	説明
<i>exportfile</i>	これらのファイルは、.par ファイル内のそれぞれのエントリ (プロバイダ、チャンネル、またはプロバイダとチャンネルの組み合わせ) に対応する。また、単に指定された .par ファイルに挿入されるデータを指定する。情報が多すぎてコマンドラインに表示しきれない場合は、小さなファイルである可能性がある。詳細は、「 エクスポートファイル 」を参照
<i>from</i>	コマンドラインに指定される。等号 ("=") およびセミコロン (;) で区切られた行の前に "from" 行を含むエクスポートファイルと同じ。行プロパティの詳細については、 表 14-15 の "from" を参照
<i>op</i>	実行する操作を指定する。詳細については、「 操作 」を参照
<i>parfile</i>	操作の対象になる par ファイルを指定する。つまり、インポート、エクスポート、または記述を行う par ファイルを指定する

エクスポートファイル

これらのファイルは、.par ファイルに挿入するデータを指定します。このファイルは、キーワード、続いてコロンおよび空白文字で区切られたフィールドで構成されます。ファイルの最初の行は必ず "from:" 行にする必要があります。"#" で始まる行はコメントとして扱われます。

[表 14-15](#) には 2 つの列があります。最初の列は使用できるヘッダー、2 番目の列は簡単な説明を示します。

表 14-15 エクスポートファイルの行プロパティ

行	説明
<i>from: types name</i>	「from」はエクスポートされるエンティティの内容を表す。 <i>types</i> は「channel」、「provider」、または「channel,provider」、および「channel+provider」のいずれかである。 <i>name</i> は、チャンネル名、またプロバイダがエクスポートされている場合は、プロバイダ名を示す。 <i>name</i> が空白文字 (+)、カンマ (%2C)、コロン (%3A)、セミコロン (%3B)、プラス記号 (%2B)、またはパーセント記号 (%25) を含む場合は、 <i>name</i> を URL でエンコードする必要がある

表 14-15 エクスポートファイルの行プロパティ

行	説明
auto:none	「auto」は、エントリの自動抽出操作を指定する。 <i>op</i> 引数とそれに続く操作をとる。「none」を入力して自動抽出を抑制することもできる。
auto:op	「auto:」行が指定されていない場合、デフォルトの自動抽出が作成される。デフォルトでは、チャンネル、プロバイダ、または両方を元の名前で抽出する
file: root . path [types]	「file」は、プロパティ設定に基づいて、ファイルがインクルードされることを示す。このプロパティはデフォルトで /etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties ファイルに置かれた "desktop properties"、またはエクスポートまたはインポートされる項目の getProperty() 呼び出しに表示されるディスプレイプロファイルから取得できる。root はファイル場所のルートを指定し、path はファイルの残りのパスを指定する。root はディレクトリ (またはその類) に相当するプロパティ名である。root に「.」が入力されている場合は、そのファイルは Web サーバーのドキュメントルートに配置された静的コンテンツとみなされる。ファイルに関連付ける操作のタイプを指定できる。デフォルトは「channel」。types は「channel」、「provider」、または「channel,provider」、および「channel+provider」のいずれかとなる
class: class [types]	「class」はクラスファイルがエントリとパッケージ化されることを示し、オプションとしてクラスファイルに関連付けられる操作のタイプを指定できる。指定されていない場合は「provider」と見なされる。types は、「channel」、「provider」、「channel,provider」、または「channel+provider」であるが、両方を指定する場合は空白文字も使用できる
directory: root . dir + . filter [types]	「directory」は、「file」行として入力された場合のように、ディレクトリ以外のファイルでディレクトリ全体検索を行うことを意味する。「filter」を指定する機能が含まれる。これは、再帰的なディレクトリ検索に必要なディレクトリコンポーネントである。root は、ディレクトリのルートまたは「.」を指定して、スタティックコンテンツであることを示す。dir は、検索の対象になるルートの下にあるディレクトリで「.」で始まる。filter は、フィルタコンポーネントを指定する。このコンポーネントはディレクトリ内にあり、再帰的なディセントである必要がある。フィルタなしの再帰的なディセントには「+」が、再帰的でないディセント (実際のディレクトリの内容) には「.」が付けられる。また、操作の種類を指定することができる。デフォルトは「channel」。types は「channel」、「provider」、「channel,provider」、または「channel+provider」のいずれかとなる
entry: name	「entry」は .par ファイルで使用されるエントリ名を指定する。指定されない場合、デフォルトとして "from" 行からの名前が適用される
desc: text	「desc」行は何行でも表示でき、エントリとともにパッケージ化された、ユーザーが閲覧できる記述として連結される

操作

エクスポートファイルまたはコマンドラインの各操作 (*op*) は、値 (通常はオプション) を持つキーワードのカンマ区切りリストとして指定する必要があります。操作は、空白文字で区切られたリストです。各操作は次の形式で指定されます。

```
dpnode=dn,entry=name,provider[=name],channel[=name],container=name[,avail=name,selected]
```

dpnode

これは、この操作のターゲットであるディスプレイプロファイルドキュメント用の Directory Server 内の識別名 (またはキーワード `global`) を指定します。指定されているコンテキストが識別名をすでに提供している場合は、適用できない場合があります。たとえば、`import` サブコマンドが識別名を定義する場合は、ファイル内の識別名は無視されます。

entry

`.par` ファイル内のエントリ名を指定します。次の場合は、エントリは必要ありません。

- `.par` ファイルがデフォルトの 1 つのエントリだけを含む場合
- 操作がエントリの自動抽出オプションなどのエントリとすでに関連付けられている場合

`par` ユーティリティは、エントリが指定されていない場合は最初のエントリをデフォルトにします。

provider

プロバイダの抽出が行われることを示します。名前が指定されていない場合は、`.par` ファイル内でプロバイダとともにパッケージ化されている名前が適用されます。

channel

チャンネルの抽出が行われることを示します。名前が指定されていない場合は、`.par` ファイル内のチャンネルとともに提供される名前が適用されます。

container

チャンネルの抽出だけに適用され、チャンネルがどのコンテナに挿入されるかを示します。省略されている場合、チャンネルは「`channel`」要素のディスプレイプロファイルドキュメントルートに挿入されます。

avail

チャンネルの抽出だけに適用され、「`avail`」(または `available`) リストが新しいチャンネルの参照を受け取るコンテナを示します。省略されている場合は、新しいチャンネル参照が作成されます。

selected

「avail」が使用されている場合にだけ適用されます。「avail」リストが参照を受け取るコンテナを示し、また「selected」リストに参照を持ちます。

op 情報が、par import コマンドと .par ファイルの両方にある場合は、コマンド情報が優先されます。

par ファイル

ここでは、Par ファイルの形式について補足説明します。この情報は、par コマンドの実行には必要ありません。

par ファイルはチャンネル、プロバイダ、およびそれらの関連ファイルのトランスポート用のマニフェストエントリを持つ jar ファイルです。このファイルを使用すると、プロバイダ、チャンネルまたはその両方のインストールを柔軟に行えます。.par ファイルには、主に次の 4 つのタイプがあります。

1. ディスプレイプロファイル用のプロバイダまたはチャンネル、あるいはその両方の情報が含まれる XML ドキュメント。このドキュメントは、ディスプレイプロファイル DTD に記述されている「parEntry」である。この parEntry には、チャンネルまたはプロバイダ、あるいはその両方の組み合わせが含まれる
2. プロバイダ、チャンネル、またはその両方に関連付けられたクラスファイル
3. プロパティベースのファイル。これは、チャンネル、ポートレット、またはプロバイダ (通常はチャンネル) に関連付けられた一般ファイルである。これらのファイルは Portal Server 上の設定可能なルートの下に配置する必要がある
4. スタティックコンテンツファイル。これは、ドキュメントとして Web サーバー上に配置される

par ファイルのコンテンツ

表 14-16 には 2 つの列があります。最初の列は必要とされるグローバルヘッダー、2 番目の列は簡単な説明を示します。.par ファイルには、次のヘッダーが含まれている必要があります。

表 14-16 グローバルヘッダー

ヘッダー	説明
PS-Version	.par ファイルの Portal Server の特定のバージョンを指定する。また、これが par ファイルであることを検証する
PS-DefaultEntry	名前が付けられていないエントリを使った操作で、そのエントリに名前を付ける

表 14-16 グローバルヘッダー

ヘッダー	説明
PS-DPRoot	parEntry ドキュメント、クラス、プロパティベースファイル、およびスタティックコンテンツのそれぞれのアーカイブのルートディレクトリを示す。指定されていない場合は、アーカイブの一番上の対応するファイルがルートディレクトリとなる
PS-ClassRoot	
PS-PBFileRoot	
PS-StaticRoot	

.par ファイルでは、parEntry XML ファイルのそれぞれに、名前がつけられたエントリが必要です。表 14-17 には 2 つの列があります。最初の列は使用できるヘッダー、2 番目の列は簡単な説明を示します。名前付きエントリのセクションには、次のヘッダーを含めることができます。

表 14-17 名前付きエントリのヘッダー

ヘッダー	説明
PS-EntryName	エントリのコマンド可視名を指定する
PS-AutoExtract	エントリが存在する場合に、エントリの自動抽出操作を指定する
PS-Include	実際のアーカイブパスで指定されたアーカイブファイルのカンマ区切りリストを含む。このパスは「root」の指定に基づいてファイルのタイプを示す。このファイルにはカッコ付きの番号が付加される。この番号はファイルに適用される操作のタイプに対応する (プロバイダには 1、チャンネルには 2 のマスク)。エントリに関連付けられた XML ドキュメント以外にファイルがない場合は、このファイルは無視される

.par ファイルにエントリだけが含まれる場合は、デフォルトのエントリが使用されるため、ファイルを操作する際にエントリに名前を付ける必要があります。

rwadmin

説明

rwadmin コマンドを使用すると、管理者は iPlanet Directory Server Access Management Edition リライターサービスで使用できるリライターデータを管理できます。

構文

ここでは、rwadmin コマンドの構文について説明します。

短い名前の形式

```
rwadmin list -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h]
```

```
rwadmin store -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h] filename
```

```
rwadmin get -r rulesetname -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h] [filename]
```

```
rwadmin remove -r rulesetname -u uid -w password [-l locale] [-b] [-h]
```

長い名前の形式

```
rwadmin list --runasdn uid --password password [--locale locale]  
[--verbose] [--version] [--help]
```

```
rwadmin store --runasdn uid --password password [--locale locale]  
[--verbose] [--version] [--help] filename
```

```
rwadmin get --rulesetid rulesetname --runasdn uid --password password  
[--locale locale] [--verbose] [--version] [--help] [filename]
```

```
rwadmin remove --rulesetid rulesetname --runasdn uid --password password  
[--locale locale] [--verbose] [--version] [--help]
```

サブコマンド

次のサブコマンドを使用できます。

- [list](#)
- [store](#)
- [get](#)

- [remove](#)

list

説明

このコマンドは使用できるルールセット名を一覧表示します。

構文

```
rwadmin list -u|--runasdn uid -w|--password password
```

例

```
rwadmin list -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua
```

この例は、使用可能なすべてのルールセットを表示します。

store

説明

このコマンドは、ローカルファイルシステムで使用できるルールを iPlanet Directory Server Access Management Edition に格納します。DefaultRuleSet を格納する場合は、次のコマンドを使用します。

```
rwadmin store -u uid -w password /resources/DefaultRuleSet.xml
```

ここで、/resources/DefaultRuleSet.xml は、rewriter.jar ファイルに格納されるルールセットの場所を示します。このコマンドを実行するときに、同じ ID を持つルールセットが存在すると、新しいデータは格納されません。ルールセット ID を削除して再実行してください。

構文

```
rwadmin store -u|--runasdn uid -w|--password password filename
```

例

```
rwadmin store -u "uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua  
/opt/data/ExampleRuleSet.xml
```

この例は、/opt/data/ExampleRuleSet.xml で使用できるルールを iPlanet Directory Server Access Management Edition に格納します。

get

説明

このコマンドは、iPlanet Directory Server Access Management Edition からルールセットを取得します。*filename* を指定した場合、取得したルールセットは指定のファイルに格納され、指定しない場合、stdout (またはコンソール上) に表示されます。

構文

```
rwadmin get -r|--rulesetid ruleset -u|--runasdn uid -w|--password
password [filename]
```

例

例 1

```
rwadmin get -r "ExampleRuleSet" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua
```

この例は、ExampleRuleSet というルールセットを iPlanet Directory Server Access Management Edition から取得し、コンソール上に表示します。

例 2

```
rwadmin get -r "ExampleRuleSet" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua /tmp/abc.xml
```

この例は、ExampleRuleSet という規則セットを Sun ONE Identity Server から取得し、/tmp ディレクトリのファイル abc.xml に格納します。

remove

説明

このコマンドは、iPlanet Directory Server Access Management Edition からルールセットを削除します。このコマンドは、警告メッセージを表示せずにルールセットを削除します。

構文

```
rwadmin remove -r|--rulesetid ruleset -u|--runasdn uid -w|password
password
```

例

```
rwadmin remove -r "ExampleRuleSet" -u
"uid=amAdmin,ou=people,o=sesta.com,o=isp" -w joshua
```

この例は、ExampleRuleSet というルールセットを iPlanet Directory Server Access Management Edition から削除します。

オプション

表 14-18 は、rwadmin コマンドの要約を示しています。この表には 2 つの列がありません。最初の列は使用できるオプション、2 番目の列は簡単な説明を示します。このコマンドは、次のオプションをサポートします (アルファベット順)。

表 14-18 rwadmin コマンドのオプション

オプション	説明
-b または --verbose	コマンドの実行時に実行される処理の詳細情報を取得するときは、rwadmin にこの引数を指定する
<i>filename</i>	iPlanet Directory Server Access Management Edition にインポートするときにルールセットデータを取得するファイルを指定するときは、store サブコマンドにこのオプションを指定する。取得したルールセットデータを格納するファイルを指定するときは、get サブコマンドにこのオプションを指定する
-h または --help	標準出力に簡単なヘルプページを出力するときは、rwadmin にこのオプションを指定する。サブコマンドがない場合は、rwadmin の汎用ヘルプページが出力される。rwadmin のいずれかのサブコマンドが指定されている場合は、そのサブコマンドの簡単なヘルプページが出力される
-l または --locale	すべての出力メッセージを指定のロケールでローカライズする場合は、このオプションを使用する。指定しない場合、システムロケールがデフォルトとして適用される
-r または --rulesetid	操作の対象となるルールセットの名前を指定するときは、このオプションを指定する
-u または --runasdn	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名を指定するときは、このオプションを指定する
--version	バージョン、通知、その他の情報など、ユーティリティに関する説明を標準出力に出力するときは、rwadmin にこのオプションを指定する。このオプションが指定されている場合、すべてのコマンドおよび他の引数は無視される
-w または --password	Directory Server へのバインドに使用するユーザー識別名のパスワードを指定するときは、このオプションを指定する

rdmgr

説明

rdmgr コマンドは、検索サービスを利用するときを中心に使用されるコマンドです。管理者は、2 種類のサブコマンドを使用できます。一つはリソース記述 (RD) で使用するサブコマンドで、もう一つはデータベースの保守管理に使用するサブコマンドです。rdmgr コマンドは、通常、Portal Server の検索可能なインスタンスディレクトリである `/server-instance-directory/deployment_uri` ディレクトリで実行されます。これは、インストール時に選択する配備 URI パスです。デフォルトの Portal Server のインストールを選択した場合は、`/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリとなります。servername の値は、Portal Server の完全修飾名であるデフォルトの Portal Server インスタンス名です。

構文

rdmgr コマンドの一般的な構文は次のとおりです。

```
# rdmgr [subcommand] [options] [input]
```

RD サブコマンドはより厳密にこの構文に従います。

```
# rdmgr [-umgdnUL] [-ACSTNPq] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-i charset] [-o charset] [-j number] [-l number]
[-p progress] [-r number] [-s schema] [-y dbname] [filename|-Q query]
```

データベース保守サブコマンドはより厳密にこの構文に従います。

```
# rdmgr [-OXIERGBL] [-ASTDVNP] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-j number] [-l number] [-p progress] [-r number]
[-s schema] [-y dbname]
```

`-l number` を使用すると、任意の RD またはデータベースサブコマンドにログレベル番号を設定できます。値が 1 (デフォルト) に設定されている場合は、rdmgr コマンドのすべてのログが記録されます。値が大きくなるほど、ログファイルに記録される情報の詳細度が増加します。レベルは 1 ~ 100 です。このオプションが指定されていない場合、search.conf ファイルの debug-loglevel で定義された設定が適用されます。ログファイル名は、search.conf ファイルの rdmgr-logfile を使用して定義します。

ここで、`-c search.conf` オプションは、`search.conf` ファイルの場所を示します。このオプションを使用しない場合、デフォルト値は現在のディレクトリの `config/search.conf` となります。`search.conf` ファイルには、設定したすべての検索値が一覧表示されます。

`-p progress` を使用して、すべての RD またはデータベースサブコマンドの進捗状況を表示できます。`-p` だけを入力すると、進捗状況は `stdout` に出力されます。

サブコマンド

次のサブコマンドを使用できます。

- リソース記述サブコマンド
- データベース保守サブコマンド
- 使用に関するメッセージとバージョンのサブコマンド

リソース記述サブコマンド

説明

RD サブコマンドを使用すると、RD の挿入または置換、ビューによってフィルタリングされた RD のマージ、ビューによってフィルタリングされる RD の取得、RD の削除、および RD のカウントをバッチ処理で実行できます。[表 14-19](#) には 2 つの列があります。最初の列はサブコマンド、2 番目の列は簡単な説明を示します。

表 14-19 rdmgr の RD サブコマンド

サブコマンド	説明
<code>-u</code>	RD を挿入または置換する。何も指定されていない場合、このサブコマンドがデフォルトとなる
<code>-m</code>	ビューによってフィルタリングされた RD をマージする
<code>-g</code>	ビューによってフィルタリングされた RD を取得する
<code>-d</code>	RD を削除する
<code>-n</code>	RD をカウントする
<code>-U</code>	SOIF のデータベースを <code>stdout</code> にダンプする
<code>-L</code>	データベースから選択したフィールドを、 <code>stdout</code> に一覧表示する。 <code>-a att</code> オプションを指定する必要がある

構文

```
# rdmgr [-umgdnUL] [-ACSTNPq] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-i charset] [-o charset] [-j number] [-l number]
[-p progress] [-r number] [-s schema] [-y dbname] [filename|-Q query]
```

オプション

表 14-20 には、2つの列があります。最初の列はサブコマンド、2番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-20 rdmgr の RD サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-A	デフォルト検索ディレクトリ内の config/schema.rdm ファイルにスキーマのエイリアスを使用しないように指定する。u および m サブコマンドで使用する
-C	データベースが見つからない場合にデータベースを作成しない。u および m サブコマンドで使用する
-S	スキーマ検査を無効にする。u および m サブコマンドで使用する
-T	分類に基づいて実行する。分類はデータベースの内容を参照および分類するために使用され、デフォルト検索ディレクトリの config/taxonomy.rdm ファイルに配置される。任意のリソース記述コマンドとともに使用する
-N	コマンドに指定した機能をリソース記述の非永続的データだけに適用する。データベースの RD は、永続データと非永続データをマージしたものである
-P	コマンドに指定した機能をリソース記述の永続的データだけに適用する。データベースの RD は、永続データと非永続データをマージしたものである
-q	終了時に SOIF 入力ファイルを削除する。u、m、g、および d のサブコマンドとともに使用する
-a att,att...	属性ビューリストを指定する。att 名は大文字と小文字が区別されず、スキーマに定義されているかどうかにかかわらず作成者またはタイトルなどの任意の属性を指定できる。class-1、class-2、class-3 などの複数の値を持つ att の場合、att 名として class だけを入力する
-b number	インデックス作成バッチのサイズをこの RD 数に設定する。u および m サブコマンドで使用する

表 14-20 rdmgr の RD サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
<code>-c search.conf</code>	<code>search.conf</code> ファイルの場所を指定する。このオプションを使用しない場合は、デフォルト検索ディレクトリの <code>config/search.conf</code> ファイルとなる。デフォルト以外のファイルを使用する場合は、使用するファイルへの完全パスを指定する必要がある
<code>-i charset -o charset</code>	<code>-i</code> オプションは、入力 SOIF ストリームの文字セットを指定する。 <code>-o</code> オプションは、出力 SOIF ストリームの文字セットを指定する。たとえば、ISO8859-1、UTF-8、UTF-16 など。ISO8859-1 から ISO8859-15 までの文字セットを使用できる。 <code>-i</code> は、 <code>u</code> 、 <code>m</code> 、および <code>d</code> サブコマンドとともに使用する。 <code>-o</code> は、 <code>g</code> 、 <code>U</code> 、および <code>L</code> サブコマンドとともに使用する。
<code>-j number</code>	取得結果数を制限する。 <code>u</code> サブコマンドとともに使用する。指定されていない場合 <code>Q</code> オプションを除き (デフォルト値は 20) デフォルト値は無制限となる
<code>-l number</code>	ログレベルの番号を設定する。値が 1 (デフォルト) に設定されている場合は、 <code>rdmgr</code> コマンドのすべてのログが記録される。値が大きくなるほど、ログファイルに記録される情報の詳細度が増加します。レベルの範囲は 1 ~ 100。これはすべてのサブコマンドに適用される
<code>-p {stdout stderr filename}</code>	進捗状況を <code>stdout</code> 、 <code>stderr</code> 、または <code>filename</code> ファイルに出力または表示する。これはすべてのサブコマンドに適用される。タイミング情報は数秒で報告される
<code>-r number</code>	進捗状況オプションとともに使用する。レポートは、 <code>number</code> に指定される値のすべての RD について生成される。デフォルトは 500。 <code>u</code> 、 <code>m</code> 、 <code>g</code> 、 <code>d</code> 、および <code>U</code> サブコマンドとともに使用する
<code>-s schema</code>	スキーマ定義ファイルを指定する。このオプションを使用しない場合は、デフォルトで検索サーバーインスタンスディレクトリの <code>config/schema.rdm</code> ファイルとなる
<code>-y dbname</code>	検索データベース名を指定する。このコマンドをデフォルト以外のデータベースに対して使用する場合は、このオプションが必要となる。デフォルトデータベースは、 <code>database-name=logicaldbname</code> というラベルが付けられた、 <code>config/search.conf</code> ファイルに定義されたデータベースである

表 14-20 rdmgr の RD サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
<i>filename</i> -Q <i>query</i>	<p>この入力オプションは、u、m、g、および d サブコマンドとともに使用する</p> <p><i>filename</i> は、SOIF 形式のデフォルトスキーマ (他のスキーマには -s オプションを使用) を使用する RD のファイル</p> <p><i>query</i> は通常の検索クエリ</p>

注 サブコマンドを使用せずに rdmgr を入力すると、コマンドは -u サブコマンドが指定されたものとして動作します。サブコマンドおよびクエリ (-Q) を指定せずに rdmgr を入力すると、コマンドは -g サブコマンドが指定されたものとして動作します。

例

例 1

環境変数 LD_LIBRARY_PATH を /opt/SUNWps/lib に設定します。

/var/opt/SUNWps/https-sesta.com/portal ディレクトリで次のように入力します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -U
```

この例は、リソース記述のデフォルトデータベース全体を UTF-8 SOIF 形式で stdout に出力します。

例 2

/var/opt/SUNWps/https-sesta.com/portal のデフォルト検索ディレクトリで、次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -d -Q java
```

この例は、「java」を含むすべてのリソース記述を削除します。

データベース保守サブコマンド

説明

データベースサブコマンドを使用すると、管理者は検索データベースを最適化して、データベースの切り取り、クリア、再インデックス作成ができ、また期限切れの RD を削除したり、データベースを復元したりすることができます。表 14-21 には、2 つの列があります。最初の列はサブコマンド、2 番目の列は簡単な説明を示します。

表 14-21 rdmgr データベース保守サブコマンド

サブコマンド	説明
-O	<p>データベースを最適化する。デフォルト以外のデータベースに対してこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要があるデフォルトデータベースは、<code>database-name=logicaldbname</code> というラベルが付けられた、<code>config/search.conf</code> ファイルに定義されたデータベースである。たとえば、デフォルト値は <code>database-name=default</code>、デフォルトデータベースディレクトリは <code>db/default</code> である</p> <p>通常は、データベースを最適化する必要はない</p>
-X	<p>データベースを切り取る、またはクリアする。デフォルト以外のデータベースに対してこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要がある。インデックスに使用されるディスクスペースは回復するが、メインデータベースに使用されるディスクスペースは回復しない。このスペースは、新規のデータが追加されるごとに再利用される</p>
-I	<p>データベースのインデックスを再作成する。デフォルト以外のデータベースに対してこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要がある</p>
-E	<p>期限が切れた RD をデータベースから削除する。デフォルト以外のデータベースに対してこのサブコマンドを実行する場合は、<code>-y</code> オプションを使用する必要がある</p>
-R	<p>すべてのデータベースを復元する。これはグローバルコマンドであり、オプションをとらない。このコマンドを実行する前に、その他の rdmgr インスタンスおよび主な検索サーバーを含むすべてのデータベース処理を停止する必要がある</p>

表 14-21 rdmgr データベース保守サブコマンド (続き)

サブコマンド	説明
-G	データベースのパーティションを再作成する。このコマンドはオプションをとらない。パーティションは config/search.conf ファイルで、 database-partitions=p1,p2,p3,... のラベルで定義される。この p1、p2、p3 はパーティションのファイル名である。このコマンド実行後にサーバーを再起動する必要はない
-B	データベースを完全に削除する。すべてのディスクスペースが回復される。このサブコマンドを実行するときは、インデックス作成を行わないようにし、Portal Server を停止する必要がある
-L	データベースから選択したフィールドを、stdout に一覧表示する。-a att オプションを指定する必要がある。デフォルト以外のデータベースに対してこのサブコマンドを実行する場合は、-y オプションを使用する必要がある

構文

```
# rdmgr [-OXIERGBL] [-ASTDVNP] [-a att,att,...] [-b number]
[-c search.conf] [-j number] [-l number] [-p progress] [-r number]
[-s schema] [-y dbname]
```

オプション

表 14-22 には、2 つの列があります。最初の列はサブコマンド、2 番目の列は簡単な説明を示します。次のオプションがサポートされます。

表 14-22 rdmgr のデータベース保守サブコマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-A	デフォルト検索ディレクトリ内の config/schema.rdm ファイルにスキーマのエイリアスを使用しないように指定する。I サブコマンドとともに使用する
-S	スキーマ検査を無効にする。I サブコマンドとともに使用する

表 14-22 rdmgr のデータベース保守サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-T	分類に基づいて実行する。デフォルト検索ディレクトリの <code>config/taxonomy.rdm</code> ファイルにある分類は、データベースの内容の参照と分類に使用される。O、X、I、E、B、U、L サブコマンドとともに使用する
-D	データベースだけを更新し、インデックスを更新しない。E および X コマンドとともに使用する
-V	インデックスだけを更新し、データベースを更新しない。E および X コマンドとともに使用する
-N	コマンドに指定した機能をリソース記述の非永続的データだけに適用する。データベースの RD は、永続データと非永続データをマージしたものである。I、E、U、L コマンドとともに使用する
-P	コマンドに指定した機能をリソース記述の永続的データだけに適用する。データベースの RD は、永続データと非永続データをマージしたものである。I、E、U、L コマンドとともに使用する
-a <i>att,att...</i>	属性ビューリストを指定する。 <i>att</i> 名は大文字と小文字が区別されず、スキーマに定義されているかどうかにかかわらず作成者またはタイトルなどの任意の属性を指定できる。 <code>class-1</code> 、 <code>class-2</code> 、 <code>class-3</code> などの複数の値を持つ <i>att</i> の場合、 <i>att</i> 名として <code>class</code> だけを入力する
-b <i>number</i>	インデックス作成バッチのサイズをこの RD 数に設定する。I コマンドとともに使用する
-c <i>search.conf</i>	<i>search.conf</i> ファイルの場所を指定する。このオプションを使用しない場合は、デフォルト検索ディレクトリの <code>config/search.conf</code> ファイルとなる。デフォルト以外のファイルを使用する場合は、使用するファイルへの完全パスを指定する必要がある
-j <i>number</i>	取得結果数を制限する。E サブコマンドとともに使用する。指定されていない場合、デフォルト値は無制限となる
-l <i>number</i>	ログレベルの番号を設定する。値が 1 (デフォルト) に設定されている場合は、rdmgr コマンドのすべてのログが記録される。値が大きくなるほど、ログファイルに記録される情報の詳細度は増加する。レベルの範囲は 1 ~ 100。これはすべてのサブコマンドに適用される
-p { <i>stdout stderr filename</i> }	進捗状況を <code>stdout</code> 、 <code>stderr</code> 、または <i>filename</i> に出力または表示する。これはすべてのサブコマンドに適用される

表 14-22 rdmgr のデータベース保守サブコマンドのオプション (続き)

引数 / オペランド	説明
-r <i>number</i>	進捗状況オプションとともに使用する。レポートは、 <i>number</i> に指定される値のすべての RD について生成される。デフォルトは 500。u、m、g、d、および U サブコマンドとともに使用する
-s <i>schema</i>	スキーマ定義ファイルを指定する。デフォルトでは、デフォルトディレクトリ内の config/schema.rdm ファイルとなる
-y <i>dbname</i>	検索データベース名を指定する。このコマンドをデフォルト以外のデータベースに対して使用する場合は、このオプションが必要となる。デフォルトデータベースにこのオプションを使用する必要はない。デフォルトデータベースは、 <code>database-name=filename</code> というラベルが付けられた、config/search.conf ファイルに定義されたデータベースである

例

例 1

デフォルト検索ディレクトリ内で次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -E -j 13 -p stdout -r 5
```

この例は、有効期限切れとなっている最大 13 個の RD をデータベースから削除します。stdout への進捗状況レポートには、秒単位の経過時間と、5 つのリソース記述ごとに処理された RD の数が出力されます。

例 2

検索エンジンがハングアップし、応答しません。デフォルト検索ディレクトリ内で次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/bin/rdmgr -R
```

これによりすべての検索データベースが復元され、検索エンジンが再び使用可能になります。このコマンドを使用して、データベース内の無効なロックを解除し、未処理のトランザクションを処理します。無効なロックおよび未処理のトランザクションは、異常終了されているデータベースプロセスの結果です。

使用に関するメッセージとバージョンのサブコマンド

表 14-23 の最初の列は、使用に関するメッセージやバージョン情報を表示するためのサブコマンド、2 番目の列は簡単な説明を示しています。

表 14-23 rdmgr の使用に関するメッセージとバージョンのサブコマンド

引数 / オペランド	説明
-h または -?	使用に関するメッセージを表示する。
-v	バージョン情報を表示する。

リターンコード

rdmgr コマンドはリターンコードをシェルに戻します。

0: 成功

1: 失敗

sendrdm

説明

sendrdm コマンドは、CGI またはコマンドラインベースの検索メカニズムを提供します。rdm (リソース記述マネージャ) 要求は SOIF 形式で検索サーバーに送信されます。このコマンドは、通常、Portal Server の検索可能なインスタンスディレクトリである `/server-instance-directory/deployment_uri` 上で実行されます。これは、インストール時に選択する配備 URI パスです。デフォルトの Portal Server のインストールを選択した場合は、`/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリとなります。`servername` の値は、Portal Server の完全修飾名であるデフォルトの Portal Server インスタンス名です。

注 デフォルトインストールでは、環境変数 `LD_LIBRARY_PATH` は `/opt/SUNWps/lib` に設定されます。

構文

sendrdm コマンドの構文は次のとおりです。

```
# sendrdm [-dv] [-t n] [-u uri] RDM-in [RDM-out]
```

オプション

表 14-24 は、sendrdm コマンドの要約を示しています。この表には 2 つの列があります。最初の列は使用できるオプション、2 番目の列は簡単な説明を示します。このコマンドは、次のオプションをサポートします (アルファベット順)。

表 14-24 sendrdm コマンドのオプション

引数 / オペランド	説明
-d	デバッグモード。デフォルトでは無効。このオプションを使用すると有効になる
-t n	時間を秒単位で指定する。コマンドは n 秒後にタイムアウトとなる。デフォルトは 300 秒
-u uri	インポート元サーバーの URI ディレクトリを指定する (完全パスを入力する)
-v	バージョン
RDM-in	RDM 要求ファイル名。この引数は必須
RDM-out	RDM 結果ファイル名。デフォルトは標準出力

例

root として /var/opt/SUNWps/https-servername/portal ディレクトリで次のように指定します。

```
# /opt/SUNWps/lib/sendrdm -t 3600 -u /rdm/incoming rdmquery.soif
result.soif
```

この例は、/rdm/incoming を URI として使用して、1 時間の制限時間で Compass Server 3.01x からインポートします。rdmquery.soif の内容は次のようになります。

Code Example 0-1

```
@RDMHEADER { -
catalog-service-id{48}:x-catalog://frankie.sesta.com:89/Compass-2

rdm-type{10}:rd-request
rdm-version{3}: 1.0
```

Code Example 0-1

```
rdm-query-language{8}:gatherer
}
@RDMQUERY { -
scope{3}:all
}
```

StartRobot

管理者がロボットを手動で起動するときは、StartRobot スクリプトを使用できます。通常、このスクリプトは設定された時間にロボットを起動するためにスケジューラによって使用されます (cron ジョブ)。StartRobot コマンドは `/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリにあります。

構文

```
# StartRobot
```

オプション

オプションはありません。

StopRobot

管理者がロボットを手動で停止するときは、StopRobot スクリプトを使用できます。通常、このスクリプトは設定された時間にロボットを停止するためにスケジューラによって使用されます (cron ジョブ)。StopRobot コマンドは `/var/opt/SUNWps/https-servername/portal` ディレクトリにあります。

構文

```
# StopRobot
```

オプション

オプションはありません。

StopRobot

設定ファイル

この付録では、設定ファイル `desktopconfig.properties` および `search.conf` について説明します。

この付録で説明する内容は次のとおりです。

- [デスクトップ設定プロパティ](#)
- [検索設定プロパティ](#)

Sun ONE Portal Server の設定ファイルの概要

Sun ONE Portal Server は、デスクトップサービスと検索サービスの設定を管理するために、特定のファイルを使用します。この付録で説明するデスクトップ設定ファイル (`desktopconfig.properties`) は、サーバー固有のパラメータを定義します。

Sun ONE Identity Server のサービスとしての Portal Server も存在します ([付録 B](#) を参照)。

検索サービスは、専用の設定ファイルを使用します。この付録では、`search.conf` ファイルの設定時の注意点についても説明します。

インストール時に、基本ディレクトリ (`/opt`)、配備 URI (`/portal`)、および配備インスタンス (`cate.sesta.com`) に対して値を定義するか、またはデフォルト値を使用するかどうかのオプションが提示されます。

デスクトップ設定プロパティ

`desktopconfig.properties` ファイルは、初期化の間にデスクトップで読み出されるサーバー固有のパラメータを定義します。このファイルを変更した場合は、サーバーを再起動して変更内容を有効にする必要があります。デフォルトでは、このファイルは `/etc/opt/SUNWps/desktop` ディレクトリに置かれています。

```
#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.Use of this product is subject to license terms.
#

#####
# Desktop Configuration #
#####

#
# Debug level
#
# Possible values for the debugLevel are:off | error | warning | message.
#
# The debug output will be logged in a file, called 'desktop.debug' located
# under '/var/opt/SUNWam/debug' by default.
#
debugLevel=error

#
# Perf (log) level
#
# Possible values for the perfLevel are:off | error | warning | message.
#
# The performance output will be logged in a file, called 'desktop.perf'
# located
# under '/var/opt/SUNWam/debug' by default.
#
perfLevel=off

#
# ServiceAppContext Class Name
#
serviceAppContextClassName=com.sun.portal.desktop.context.DSAMEServiceAppContext

#
# Template Base Directory
#
templateBaseDir=/etc/opt/SUNWps/desktop/

#
# Provider Class Base Directory
#
providerClassBaseDir=/etc/opt/SUNWps/desktop/classes

#
# JSP Compiler WAR Classpath
#
#jspCompilerWARClassPath=/export/home/ias60sp3/ias/APPS/modules/ps/WEB-INF/lib
jspCompilerWARClassPath=<Used only on application server>
```

コード例 A-1 desktopconfig.properties ファイル (続き)

```
#
# Desktop type
#
defaultDesktopType=default

#
# Provider getter pool settings (initializing channels)
#
getterPoolMinSize=0
getterPoolMaxSize=0
getterPoolPartitionSize=0

#
# Provider caller pool settings (fetching channel content)
#
callerPoolMinSize=0
callerPoolMaxSize=0
callerPoolPartitionSize=0

#
# prefix used for all desktop cookies
#
cookiePrefix=desktop.

#
# template file rescan time in seconds
#
templateScanInterval=30
```

「内部使用」と表記されたパラメータは、カスタマイズできません。設定できるのは、デバッグレベルと追加クラスの基本ディレクトリだけです。表 A-1 は、パラメータとそのデフォルト値、およびそのパラメータの機能の説明と使用可能な値を示しています。

表 A-1 desktopconfig.properties のパラメータ

パラメータ / デフォルト値	説明
debugLevel=error	<p>デスクトップで生成されるメッセージのデバッグレベル。デバッグ出力は /var/opt/SUNWam/debug/desktop.debug ファイルに保存される。logLevel に大きな値を設定すると、ログへの記録が過剰となり、集中的な IO 操作によってパフォーマンスが低下することがあるので、注意が必要である</p> <p>指定できる値は (ログに記録される情報量が少ないものから多いもの順)、off、error、warning、message、on である</p> <ul style="list-style-type: none"> • off: ログイングなし • error: エラーのみを記録 • warning: エラーと警告を記録 • message: すべてを記録 <p>デフォルト値: error</p>
perfLevel=off	<p>[内部使用]</p> <p>デスクトップでログイングされるパフォーマンスメトリクスのレベル。出力は /var/opt/SUNWam/debug/desktop.perf ファイルに保存される。運用環境では、このパラメータの値は常に off に設定する必要がある</p> <p>指定できる値は、off または message である</p> <ul style="list-style-type: none"> • off: パフォーマンスメトリクスをログに記録しない • message: すべてのパフォーマンスメトリクスをログに記録する <p>デフォルト値: off</p>
serviceAppContextClassName=com.sun.portal.desktop.context.DSAMEServiceAppContext	<p>[内部使用]</p> <p>デフォルト値: com.sun.portal.desktop.context.DSAMEServiceAppContext</p>
templateBaseDir=/etc/opt/SUNWps/desktop/	<p>[内部使用]</p> <p>すべてのテンプレートファイルが格納されるルートディレクトリ</p> <p>デフォルト値: /etc/opt/SUNWps/desktop/</p>

表 A-1 desktopconfig.properties のパラメータ (続き)

パラメータ / デフォルト値	説明
providerClassBaseDir= etc/opt/SUNWps/desktop /classes	顧客がプロバイダクラスの配置を許可されるルートディレクトリ。これらのプロバイダは、標準のプロバイダに優先して適用されるプロバイダか、または顧客独自の新規プロバイダである (通常は後者)。プロバイダクラスは最上位の jar か、com などのパッケージディレクトリに配置する必要がある デフォルト値: /etc/opt/SUNWps/desktop/classes
jjspCompilerWARClassPa th=<Used only on application server> jjspCompilerWARClassPa th=/export/home/ias60s p3/ias/APPS/modules/ps /WEB-INF/lib	[内部使用] アプリケーションサーバーだけで使用される デフォルト値:
defaultDesktopType=def ault	[内部使用] DesktopAppContext を使用できて、DesktopContext を使用できない場合に、ErrorProvider が使用するデフォルトのデスクトップタイプ デフォルト値: default
getterPoolMinSize=0	[内部使用] デフォルト値: 0
getterPoolMaxSize=0	[内部使用] デフォルト値: 0
getterPoolPartitionSiz e=0	[内部使用] デフォルト値: 0
callerPoolMinSize=0	[内部使用] デフォルト値: 0
callerPoolMaxSize=0	[内部使用] デフォルト値: 0
callerPoolPartitionSiz e=0	[内部使用] デフォルト値: 0
cookiePrefix=desktop.	[内部使用] すべてのデスクトップ cookie で使用されるプレフィクス デフォルト値: desktop.

表 A-1 desktopconfig.properties のパラメータ (続き)

パラメータ / デフォルト値	説明
templateScanInterval	/etc/opt/SUNWps ディレクトリのテンプレートファイルのスキャン (変更のチェック) 間隔を秒単位で定義する。この間隔の設定により、パフォーマンスとスケーラビリティが向上する場合がある。これはサーバーが、次のスキャンを実行するまでの間は、キャッシュされた情報を使用するためである。デフォルト値は 30 秒

検索設定プロパティ

デフォルトインストールでは、search.conf ファイルは /var/opt/SUNWps/https-instancename/portal/config ディレクトリに格納されます。search.conf ファイルには、設定したすべての検索値が一覧表示されます。/opt/SUNWps/samples/config ディレクトリには、サンプル ファイル search.conf が格納されています。

コード例 A-2 search.conf ファイル

```
#
# search.conf - Search configuration
#

csid=x-catalog://cate.sesta.com:80/cate.sesta.com
bindir=/opt/SUNWps/bin
database-directory=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/db
database-root=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/db
database-max-concurrent=8
database-name=default
database-logdir=db
security-mode=OFF
security-manager=com.sun.portal.search.rdmserver.DSameSecurityManager
debug-logfile=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/logs/rdmserver.log
debug-loglevel=1
filters-check-dns=on
filters-check-redirect=on
filters-check-virtual=on
import-config=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/config/import.conf
libdir=/opt/SUNWps/lib
logfile=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/logs/rdm.log
disable-rdm-log=false
multiple-classifications=3
classification-stats-during-browse=true
browse-root-classification=false
search-logfile=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/logs/searchengine.1
og
search-max-index-batch=2000
search-query-threads=6
```

コード例 A-2 search.conf ファイル (続き)

```

search-index-threads=1
search-index-type=AWord
search-index-partition-size=32
search-dictionary-type=partial
search-lookup-limit=-1
search-highlights=true
search-max-passages=3
search-passage-context=6
#search-field-multipliers="title 1.0"
reports-exclude-gv-queries=false
reports-exclude-browse=false
rdmgr-logfile=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/logs/rdmgr.log
# comment rdmgr-pidfile to prevent rdmgr daemonization
# rdmgr-pidfile=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/logs/rdmgr.pid
schema-description=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/config/schema.rdm
dm
server-description=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/config/server.rdm
dm
server-root=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal
taxonomy-database-name=taxonomy
taxonomy-description-refresh-rate=60
taxonomy-description=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/config/taxonomy.rdm
tmpdir=/var/opt/SUNWps/https-cate.sesta.com/portal/tmp
rlog-max-logs=10
robot-refresh=30000
admin-category_editor_nodes_per_page=25,50,100,250,500,-1
admin-category_editor_max_combo_element=10

```

デフォルトのインストールでは、\$CSROOTが /var/opt/SUNWps/http-*instancename*/portal に、\$CSBIN が /opt/SUNWps/bin に、\$CSLIB 変数が /opt/SUNWps/lib にそれぞれ割り当てられます。これらのパラメータのほとんどは、Sun ONE Application Server Enterprise Edition 管理コンソールより、検索サーバーの設定の画面や検索サーバーの詳細設定の画面で変更できます。

表 A-2 は、変更可能なパラメータ、パラメータのデフォルト値、およびその簡単な説明を示しています。最初の列は変更できるパラメータ、2 番目の列はそのパラメータのデフォルト値、3 番目の列は簡単な説明を示します。

表 A-2 search.conf のパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
csid	x-catalog:/ /\$HOST:\$POR T/\$NICK	インストール時に定義される。主に Compass Server との逆互換性を維持するために使用されるサーバー識別文字列

表 A-2 search.conf のパラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト	説明
bindir	\$CSBIN	インストール時に定義される。バイナリの格納場所
database-directory	\$CSROOT/db	インストール時に定義される。サーバーが使用するデータベースの場所
database-root	\$CSROOT/db	インストール時に定義される。インデクサが使用するデータベースの場所
database-max-concurrent	8	データベースに同時にアクセスできるサーバースレッドの数を制限する。この値を変更することでパフォーマンスを向上できる。最適なパフォーマンスを維持するには、インデックススレッドの約 1.25 倍に設定する必要がある
database-name	default	論理データベース名。この値は外部データベースを含む別のデータベースに変更できる
database-logdir	db	データベースのトランザクションログが格納されるディレクトリ
security-mode	OFF	ドキュメントレベルのセキュリティを有効または無効にする。管理コンソールの「サーバー / 設定」でリセットできる
security-manager	com.sun.portal.search.rdmserver.DSameSecurityManager	セキュリティマネージャクラス名。編集不可
security-dsame-group	OFF	セキュリティ制御のためにユーザーロールの他にグループを使用するかどうかを指定する
debug-logfile	\$CSROOT/logs/rdmserver.log	内部サーバーアクティビティをログに記録する。インストール時に定義される。管理コンソールの「サーバー / 詳細」でリセットできる
debug-loglevel	1	デフォルトのログレベルを設定する。管理コンソールの「サーバー / 詳細」でリセットできる
filters-check-dns	on	アドレスが同じエイリアスのサーバーの数をチェックする。管理コンソールの「ロボット / シミュレータ」でリセットできる
filters-check-redirect	on	サーバーのリダイレクトをチェックする。管理コンソールの「ロボット / シミュレータ」でリセットできる

表 A-2 search.conf のパラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト	説明
import-config	\$CSROOT/conf/import.conf	インストール時に定義される。管理コンソールの「データベース / インポート」でインポートエージェントを定義した場合に、検索サーバーによって生成されるコンテンツ
libdir	\$CSLIB	インストール時に定義される。
logfile	\$CSROOT/logs/rdm.log	RDM サーバー要求のログ。インストール時に定義される。管理コンソールの「サーバー / 詳細」でリセットできる
disable-rdm-log	false	RDM 要求のロギングを無効にする。管理コンソールの「サーバー / 詳細」でリセットできる
classification-stats-during-browse	true	true に設定した場合、サーバーは見つかったドキュメントの数をブラウザカテゴリ別に記録する
browse-root-classification	false	カテゴリツリーのルートでドキュメントを参照するかどうかを指定する
search-logfile	\$CSROOT/logs/searchengine.log	検索エンジンのログファイル。インストール時に定義される。管理コンソールの「サーバー / 詳細」でリセットできる
search-max-index-batch	2000	各インデックスバッチのドキュメントの最大数
search-query-threads	6	検索クエリスレッドの数。使用する CPU 単位あたり 3 ~ 6 スレッドに設定する必要がある
search-index-threads	1	検索インデックススレッドの数。通常は 1 のまま使用する
search-index-type	AWord	検索エンジンインデックスの形式。編集不可
search-index-partition-size	32	インデックスのマージ時に適用されるブロック係数。編集不可
search-dictionary-type	partial	検索ディレクトリの形式。編集不可
search-lookup-limit	-1	低速ワイルドカード検索のタイムアウト (ミリ秒) を制御する。-1 は無制限を意味する
search-highlights	true	検索結果のハイライトを有効にする
search-max-passages	3	ダイナミックサマリパッセージの最大生成数
search-passage-context	6	各ハイライトパッセージの周囲のコンテキストサイズ (ワード数)
#search-field-multipliers	"title 1.0"	それぞれのドキュメントフィールドに割り当てられる検索の重み。カンマで区切られたリストで指定できる

表 A-2 search.conf のパラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト	説明
rdmgr-logfile	\$CSROOT/log s/rdmgr.log	インデクサブプロセスのログファイル。インストール時に定義される。管理コンソールの「サーバー / 詳細」でリセットできる
schema-description	\$CSROOT/con fig/schema. rdm	デフォルトの検索エンジンスキーマ。インストール時に定義される
server-description	\$CSROOT/con fig/server. rdm	サーバー記述要求で返される RDM サーバー記述。インストール時に定義される
server-root	\$CSROOT	サーバーインスタンスのルートディレクトリ。インストール時に定義される。管理コンソールの「サーバー / 設定」でリセットできる
taxonomy-database-name	分類	分類インデックスデータベースの論理名
taxonomy-description- efresh-rate	3600 -> 60	自動分類再読み込みのポーリング間隔
taxonomy-description	\$CSROOT/con fig/taxonom y.rdm	RDM 分類定義。「カテゴリ」の下の「カテゴリエディタ」を使用して編集する。インストール時に定義される
tmpdir	\$CSROOT/tmp	インストール時に定義される。管理コンソールの「ロボット / クローリング」でリセットできる
robot-refresh	30000	管理コンソールのロボットコントロールページの更新間隔 (ミリ秒単位)
admin-category_editor_ nodes_per_page	25,50,100,2 50,500,-1	ページごとに表示されるカテゴリの最大数を定義する、使用できる選択項目のリスト。-1 を指定するとすべてのツリーが表示される
admin-category_editor_ max_combo_element	10	ターゲットカテゴリのカテゴリエディタのドロップダウン選択リストに含まれる要素の最大数

注 次のパラメータは使用されな a u ため、表 A-2 には示されていません。
filters-check-virtual、multiple-classifications、
reports-exclude-gv-queries、reports-exclude-browse、
rdmgr-pidfile、および rlog-max-logs。

XML リファレンス

Sun™ ONE Portal Server は、iPlanet™ Directory Server Access Management Edition アプリケーションとして、Sun ONE Identity Server サービス管理システム (SMS) フレームワークにサービスを登録します。これは Sun ONE Portal Server のプレインストール中および Sun ONE Identity Server のインストール後に行われます。

注 一般に、特定のサーバー以外の、サービスに関連したデータはすべて Sun ONE Identity Server ディレクトリに保存されます。サーバー固有のデータは、個々のサーバーのローカルプロパティファイルに保存できます。

SMS は SMS DTD (サービス管理システム文書型定義) に従った XML (Extensible Markup Language) を使用することで、サービスで設定データが定義および管理されるためのメカニズムを提供します。XML ファイルを通じた設定パラメータの定義は、サービスのスキーマと呼ばれます。Sun ONE Portal Server の各サービス (デスクトップ、Netmail、リライター、検索) には、サービスに固有のデータを指定、変更するための独自の XML ファイルとプロパティファイルがあります。

Sun ONE Identity Server フレームワーク内で、Sun ONE Portal Server は次の機能領域に関連するサービスを定義します。

- **デスクトップ** : SunPortalDesktopService には、ディスプレイプロファイルとデスクトップに関連するその他の設定パラメータを含む、デスクトップコンポーネント関連のデータが格納されている
- **検索エンジン** : SunPortalSearchService は、検索者や検索インスタンスなどの検索コンポーネントに関連したデータを定義する。検索サービスインスタンスの 1 つまたは複数のインスタンスを定義できる
- **NetMail** : SunPortalNetMailService には、主にユーザーの基本設定から構成される NetMail アプリケーションに関連したデータが含まれている

- **リライタ** : `SunPortalRewriterService` には、リライト操作を制御する名前付きのルールセットを含む、リライタコンポーネントに関連したデータが格納される。リライタ API は、ディレクトリ内に保存されている名前付きルールセットを参照する

また、**Sun ONE Portal Server** には、ディスプレイプロファイルやリライタルールセットの LDAP 属性値を定義するために、その他の DTD を使用します。

ディスプレイプロファイルの文書型定義 (Document Type Definitions, DTD) は、ディスプレイプロファイルを構造化する方式を定義します。ディスプレイプロファイルドキュメントの基本となるデータ形式は XML です。これは、デスクトップの表示設定を定義することを目的としています。DTD は、プロバイダ、ポートレット、チャンネルのオブジェクト、およびそれらのプロパティを定義することで上記の作業を実行します。ディスプレイプロファイルの詳細については、[第 5 章「ディスプレイプロファイルの管理」](#)を参照してください。

リライタルールセット DTD は、ルールセットの構造を定義します。リライタにはデフォルトのルールセットが含まれます。リライタと、リライタがどのようにルールセットを使用するかについては、[第 7 章「リライタサービスの管理」](#)を参照してください。

この付録では、**Sun ONE Portal Server** のサービスを定義するために使用されるさまざまな XML ファイルのリストファイルを示しています。この章で説明する内容は次のとおりです。

- [Sun ONE Portal Server デスクトップ サービスの定義](#)
- [Sun ONE Portal Server NetMail サービスの定義](#)
- [Sun ONE Portal Server リライタサービスの定義](#)
- [Sun ONE Portal Server 検索サービスの定義](#)
- [ディスプレイプロファイル DTD](#)
- [リライタルールセット DTD](#)
- [デフォルトルールセット](#)

Sun ONE Portal Server デスクトップ サービスの定義

デフォルトのインストールでは、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義は /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server のデスクトップサービス定義は、/opt/SUNWps/export/psDesktop.xml ファイル内にあります。

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.

  Sun ONE Portal Server (iPS) Desktop Service Definition
-->
<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "jar://com/iplanet/sm/sms.dtd">
<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalDesktopService" version="1.0">
    <Schema
      i18nFileName="psDesktop"
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalDesktopService"
      propertiesViewBeanURL="/portal/dtadmin/DesktopAdminService"
      i18nKey="sunPortalDesktopServiceDescription">
      <Global>
        <AttributeSchema name="serviceObjectClasses"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="">
          <DefaultValues>
            <Value>sunPortalDesktopPerson</Value>
          </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
      <!--
desktop session reaping has been disabled per
bug #4720290. see this bug report for details.

when this bug is resolved, the entries must be added
back into psDesktop.ldif, as they have been removed
completely for lack of a commenting feature

      <AttributeSchema name="sunPortalDesktopSessionReapInterval"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display"
        i18nKey="g2">
```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        <DefaultValues>
            <Value>1800</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionInactiveMaximum"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="g3">
        <DefaultValues>
            <Value>3600</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
-->
        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpIsValidating"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="g5">
        <DefaultValues>
            <Value>>true</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpNamespaceURI"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="g6">
        <DefaultValues>
            <Value>http://www.iplanet.com</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpDocument"
    type="single"
    syntax="xml"
    any="display"
    i18nKey="g7">
    </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpLastModified"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
        <DefaultValues>
            <Value>-1</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
        <DefaultValues>
            <Value>goto</Value>

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEDPContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopDpUserContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEDPUserContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopDebugContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEDDebugContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopServiceContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEServiceContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionAppContextClassName"
        type="single"
        syntax="string"
        any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMESessionAppContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopSessionContextClassName"

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

                type="single"
                syntax="string"
                any="display">
                <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMESessionContext</Value>
                </DefaultValues>
                </AttributeSchema>
        </AttributeSchema>
        name="sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName"
                type="single"
                syntax="string"
                any="display">
                <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.CookieSessionContext</Value>
                </DefaultValues>
                </AttributeSchema>
        </AttributeSchema>
        name="sunPortalDesktopDesktopContextClassName"
                type="single"
                syntax="string"
                any="display">
                <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.PSDesktopContext</Value>
                </DefaultValues>
                </AttributeSchema>
        </AttributeSchema>
        name="sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName"
                type="single"
                syntax="string"
                any="display">
                <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.PSContainerProviderContext</Value>
                </DefaultValues>
                </AttributeSchema>
        </AttributeSchema>
        name="sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName"
                type="single"
                syntax="string"
                any="display">
                <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.PSProviderContext</Value>
                </DefaultValues>
                </AttributeSchema>
        </AttributeSchema>
        name="sunPortalDesktopPropertiesContextClassName"
                type="single"
                syntax="string"
                any="display">

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        <DefaultValues>
<Value>com.sun.portal.desktop.context.DPPropertiesContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
<AttributeSchema
name="sunPortalDesktopTemplateContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.FileTemplateContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
<AttributeSchema
name="sunPortalDesktopClientContextClassName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display">
        <DefaultValues>

<Value>com.sun.portal.desktop.context.DSAMEClientContext</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs"
    type="list"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="g8">
        <DefaultValues>
        </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="g9">
        <DefaultValues>
        </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalDesktopChannelImportModules"
    type="list"
    syntax="string"
    any="display">
        <DefaultValues>
        </DefaultValues>
</AttributeSchema>
</Global>

<Dynamic>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDefaultChannelName"
        type="single"
        syntax="string"

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d1">
        <DefaultValues>
            <Value>JSPTabContainer</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopEditProviderContainerName"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d2">
        <DefaultValues>
            <Value>JSPEditContainer</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopType"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d3">
        <DefaultValues>
            <Value>default</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpDocument"
        type="single"
        syntax="xml"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d4">
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpLastModified"
        type="single"
        syntax="string"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="">
        <DefaultValues>
            <Value>-1</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>
    <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpCanView"
        type="single"
        syntax="boolean"
        cosQualifier="default"
        any="display"
        i18nKey="d5">
        <DefaultValues>
            <Value>true</Value>
        </DefaultValues>
    </AttributeSchema>

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

</Dynamic>
<Policy>
  <ActionSchema name="sunPortalDesktopExecutable"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    cosQualifier="default"
i18nKey="p1">
    <DefaultValues>
      <Value>>true</Value>
    </DefaultValues>
  </ActionSchema>
</Policy>

<User>
  <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDefaultChannelName"
    type="single"
    syntax="string"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="d1">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema
name="sunPortalDesktopEditProviderContainerName"
    type="single"
    syntax="string"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="d2">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalDesktopType"
    type="single"
    syntax="string"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="d3">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpDocumentUser"
    type="single"
    syntax="xml"
    any="display"
    i18nKey="u1">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalDesktopDpLastModifiedUser"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
    <DefaultValues>
      <Value>-1</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
</User>

```

コード例 B-1 デスクトップサービスの定義 (続き)

```

    </Schema>
  </Service>
</ServicesConfiguration>

```

Sun ONE Portal Server NetMail サービスの定義

デフォルトのインストールでは、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義は /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server の NetMail サービス定義は /opt/SUNWps/export/psNetMail.xml ファイル内にあります。

コード例 B-2 NetMail サービス定義

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>

<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.

  Sun ONE Portal Server (iPS) NetMail Service Definition
-->

<!--
  FIXME(P@):replace below DTD path with a token that can
             be substituted by postinstall script
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "file:/opt/SUNWam/dtd/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalNetMailService" version="1.0">
    <Schema
      i18nFileName="psNetMail"
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalNetMailService"
      i18nKey="sunPortalNetmailServiceDescription">
      <Global>
        <AttributeSchema name="serviceObjectClasses"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="">
          <DefaultValues>
            <Value>sunPortalNetmailPerson</Value>
          </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
      </Global>
      <Dynamic>
        <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPServerName"
          type="single"
          syntax="string"
          cosQualifier="default"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  any="display"
  i18nKey="a01">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSMTPServerName"
  type="single"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a02">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailDefaultMailDomain"
  type="single"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a03">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailRootFolder"
  type="single"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a04">
<DefaultValues>
  <Value>Mail</Value>
</DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSentMessagesFolder"
  type="single"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a15">
<DefaultValues>
  <Value>Mail/Sent</Value>
</DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithAuthor"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a20">
<DefaultValues>
  <Value>>false</Value>
</DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithDate"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a21">
<DefaultValues>
  <Value>>false</Value>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithBody"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a22">
    <DefaultValues>
      <Value>>true</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIndentPrefix"
    type="single"
    syntax="string"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a18">
    <DefaultValues>
      <Value>></Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAddSignature"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a19">
    <DefaultValues>
      <Value>>false</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailInitialHeaders"
    type="single"
    syntax="numeric"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a07">
    <DefaultValues>
      <Value>10</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailInactivityInterval"
    type="single"
    syntax="numeric"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a09">
    <DefaultValues>
      <Value>5</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailMaxAttachLen"
    type="single"
    syntax="numeric"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a10">
  <DefaultValues>
    <Value>0</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoload"
  type="single_choice"
  syntax="numeric"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a11">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.All">0</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.None">1</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.New">2</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.Unread">3</ChoiceValue>
    <ChoiceValue
i18nKey="autoload.New_and_Unread">4</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.Found">5</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>0</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutosave"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a17">
  <DefaultValues>
    <Value>>true</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutopurge"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a14">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoFolderLoad"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a05">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailMultipleReadWindows"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a13">
    <DefaultValues>
      <Value>>false</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailHeadersPerPage"
    type="single"
    syntax="numeric"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a08">
    <DefaultValues>
      <Value>10</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailNewestFirst"
    type="single"
    syntax="boolean"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a12">
    <DefaultValues>
      <Value>>true</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailNoPrefsList"
    type="multiple_choice"
    syntax="string"
    cosQualifier="default"
    any="display"
    i18nKey="a23">
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue>IMAPServerName</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>IMAPUserName</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>IMAPPassword</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>SMTPMailServer</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>rootFolder</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>inactivityInterval</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>initialHeaders</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>multipleReadWindows</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>resetSize</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>autopurge</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>replyToAddress</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>indentPrefix</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>replyFields</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>saveSentMessages</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>sentMessagesFolder</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>signature</ChoiceValue>
      <ChoiceValue>autosave</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
  </AttributeSchema>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    <ChoiceValue>autoFolderLoad</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>autoload</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>maxAttachLen</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>textStyle</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>textSize</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>textColor</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>background-color</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailLDAPServers"
  type="list"
  syntax="string"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a06">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailLogMessages"
  type="single"
  syntax="boolean"
  cosQualifier="default"
  any="display"
  i18nKey="a16">
  <DefaultValues>
    <Value>>false</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
</Dynamic>
<Policy>
  <ActionSchema name="sunPortalNetmailExecutable"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    cosQualifier="default"
    i18nKey="p1">
  <DefaultValues>
    <Value>>true</Value>
  </DefaultValues>
</ActionSchema>
</Policy>
<User>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPUserid"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="u1">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPPassword"
    type="single"
    syntax="encrypted_password"
    any="display"
    i18nKey="u2">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyToAddress"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="u3">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSignature"
    type="single"
    syntax="paragraph"
    any="display"
    i18nKey="u4">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailFavoriteFolders"
    type="list"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailPersonalAddressBook"
    type="list"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="">
</AttributeSchema>
<!-- attributes duplicated from the dynamic section -->
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailIMAPServerName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a01">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSMTPServerName"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a02">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailDefaultMailDomain"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a03">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailRootFolder"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a04">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailSentMessagesFolder"
    type="single"
    syntax="string"
    any="display"
    i18nKey="a15">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithAuthor"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a20">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithDate"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a21">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReplyWithBody"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a22">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailIndentPrefix"
  type="single"
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="a18">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAddSignature"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a19">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailInitialHeaders"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a07">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailInactivityInterval"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a09">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailMaxAttachLen"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a10">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoload"
  type="single_choice"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a11">
<ChoiceValues>
  <ChoiceValue i18nKey="autoload.All">0</ChoiceValue>
  <ChoiceValue i18nKey="autoload.None">1</ChoiceValue>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.New">2</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.Unread">3</ChoiceValue>
    <ChoiceValue
i18nKey="autoload.New_and_Unread">4</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="autoload.Found">5</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutosave"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a17">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutopurge"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a14">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailAutoFolderLoad"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a05">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailMultipleReadWindows"
    type="single"
    syntax="boolean"
    any="display"
    i18nKey="a13">
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailSortKey"
    type="single_choice"
    syntax="numeric"
    any="display"
    i18nKey="">
    <ChoiceValues>
      <ChoiceValue
i18nKey="sort-key.IMAP_Number">0</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Status">1</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Cached">2</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.From">3</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Size">4</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Date">5</ChoiceValue>
      <ChoiceValue i18nKey="sort-key.Subject">6</ChoiceValue>
    </ChoiceValues>
    <DefaultValues>
      <Value>0</Value>
    </DefaultValues>
  </AttributeSchema>
  <AttributeSchema name="sunPortalNetmailViewKey"
    type="single_choice"
    syntax="numeric"
    any="display"

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  i18nKey="">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue i18nKey="view-key.All">0</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="view-key.New">1</ChoiceValue>
    <ChoiceValue
i18nKey="view-key.Non-deleted">2</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="view-key.Cached">3</ChoiceValue>
    <ChoiceValue
i18nKey="view-key.Non-cached">4</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="view-key.Found">5</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="view-key.Unread">6</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>0</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailComposeWinBounds"
  type="single"
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailFolderWinBounds"
  type="single"
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailReadWinBounds"
  type="single"
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailGridHeight"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="">
  <DefaultValues>
    <Value>0</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailGridColWidths"
  type="single"
  syntax="string"
  any="display"
  i18nKey="">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailTextColor"
  type="single_choice"
  syntax="number"
  any="display"
  i18nKey="">

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue i18nKey="white">-1</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="pink">-20561</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="red">-65536</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="orange">-14336</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="yellow">-256</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="green">-16711936</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="cyan">-16711681</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="blue">-16776961</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="magenta">-65281</ChoiceValue>
    <ChoiceValue
i18nKey="lightGray">-4144960</ChoiceValue>
    <ChoiceValue
i18nKey="darkGray">-12566464</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="black">-16777216</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>-16777216</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailBackgroundColor"
  type="single_choice"
  syntax="number"
  any="display"
  i18nKey="">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue i18nKey="white">-1</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="pink">-20561</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="red">-65536</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="orange">-14336</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="yellow">-256</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="green">-16711936</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="cyan">-16711681</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="blue">-16776961</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="magenta">-65281</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="lightGray">-4144960</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="darkGray">-12566464</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="black">-16777216</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>-1</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailTextSize"
  type="single_choice"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue>8</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>10</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>12</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>14</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>16</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>

```

コード例 B-2 NetMail サービス定義 (続き)

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    <ChoiceValue>18</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>20</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>24</ChoiceValue>
    <ChoiceValue>28</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>12</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailTextStyle"
  type="single_choice"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="">
  <ChoiceValues>
    <ChoiceValue i18nKey="plain">0</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="bold">1</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="italic">2</ChoiceValue>
    <ChoiceValue i18nKey="bold_italic">3</ChoiceValue>
  </ChoiceValues>
  <DefaultValues>
    <Value>0</Value>
  </DefaultValues>
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailHeadersPerPage"
  type="single"
  syntax="numeric"
  any="display"
  i18nKey="a08">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailNewestFirst"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a12">
</AttributeSchema>
<AttributeSchema name="sunPortalNetmailLogMessages"
  type="single"
  syntax="boolean"
  any="display"
  i18nKey="a16">
</AttributeSchema>
  </User>
</Schema>
</Service>
</ServicesConfiguration>

```

Sun ONE Portal Server リライタサービスの定義

デフォルトのインストールでは、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義は /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server のリライタサービス定義は /opt/SUNWps/export/psRewriter.xml ファイル内にあります。

コード例 B-3 リライタサービス定義

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "jar://com/iplanet/sm/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalRewriterService" version="1.0">

    <Schema
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalRewriterService"
      propertiesViewBeanURL="/portal/rwadmin/SelectRule"
      i18nFileName="psRewriter"
      i18nKey="sunPortalRewriterServiceDescription">
      <Global>
        <SubSchema name="SunPortalRewriterGlobal">
          <SubSchema
            name="SunPortalRewriterRuleSets" inheritance="multiple">
              <AttributeSchema
                name="sunPortalRewriterRuleset" syntax="xml" />
            </SubSchema>
          </SubSchema>
        </Global>
      </Schema>

      <Configuration>
        <GlobalConfiguration>
          <SubConfiguration name="SunPortalRewriterGlobal">
          </SubConfiguration>
        </GlobalConfiguration>
      </Configuration>

    </Service>
  </ServicesConfiguration>

```

Sun ONE Portal Server 検索サービスの定義

デフォルトのインストールでは、サービス管理サービスドキュメントタイプの定義は /opt/SUNWam/dtd/sms.dtd ファイルで指定されています。Portal Server の検索サービス定義は /opt/SUNWps/export/psSearch.xml ファイル内にあります。

コード例 B-4 検索サービス定義

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!--
  Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
  PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.

  Sun ONE Portal Server (iPS) Search Service Definition
-->

<!DOCTYPE ServicesConfiguration
  PUBLIC "-//Sun ONE//Service Management Services (SMS) 1.0 DTD//EN"
  "file:/opt/SUNWam/dtd/sms.dtd">

<ServicesConfiguration>
  <Service name="SunPortalSearchService" version="1.0">
    <Schema
      serviceHierarchy="/ps.configuration/SunPortalSearchService"
      propertiesViewBeanURL="/portal/searchadmin/"
      i18nFileName="psSearch"
      i18nKey="sunPortalSearchServiceDescription">
      <Global>
        <AttributeSchema name="serviceObjectClasses"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="">
          <DefaultValues>
            <Value>sunPortalSearchPerson</Value>
          </DefaultValues>
        </AttributeSchema>
        <AttributeSchema name="sunPortalSearchInstances"
          type="list"
          syntax="string"
          i18nKey="cs_instances">
          <DefaultValues>
            </DefaultValues>
          </AttributeSchema>
      </Global>
    </Schema>
  </Service>
</ServicesConfiguration>
```

ディスプレイプロファイル DTD

デフォルトインストールでは、ディスプレイプロファイル DTD は
/opt/SUNWps/dtd/psdp.dtd ファイル内にあります。

コード例 B-5 ディスプレイプロファイル DTD

```

<!ELEMENT DisplayProfile
  (
    Properties,
    Channels,
    Providers
  )
>
<!ATTLIST DisplayProfile
  xmlns:DisplayProfile CDATA #FIXED 'http://www.ipplanet.com'
  name CDATA #FIXED "_root"
  version CDATA #REQUIRED
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
  priority CDATA #REQUIRED
>

<!ELEMENT Channels
  (
    (Container|Channel)*
  )
>
<!ATTLIST Channels
>

<!ELEMENT Providers
  (
    (Provider)*
  )
>
<!ATTLIST Providers
>

<!ELEMENT Provider
  (
    Properties
  )
>
<!ATTLIST Provider
  name CDATA #REQUIRED
  class CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Channel

```

コード例 B-5 ディスプレイプロファイル DTD (続き)

```

    (
      Properties
    )
  >
<!ATTLIST Channel
  name CDATA #REQUIRED
  provider CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Container
  (
    Properties,
    Available,
    Selected,
    Channels
  )
>
<!ATTLIST Container
  name CDATA #REQUIRED
  provider CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Available
  (Reference*)
>
<!ATTLIST Available
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Selected
  (Reference*)
>
<!ATTLIST Selected
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Properties
  (
    Collection|
    Integer|
    String|
    Boolean|
    Locale
  )*
>

```

コード例 B-5 ディスプレイプロファイル DTD (続き)

```
<!ATTLIST Properties
  name CDATA #FIXED "properties"
  merge (replace|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Locale
  (
    Collection|
    Integer|
    String|
    Boolean
  )*
>

<!ATTLIST Locale
  language CDATA #IMPLIED
  country CDATA #IMPLIED
  variant CDATA #IMPLIED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Collection
  (
    Collection|
    Integer|
    String|
    Boolean
  )*
>

<!ATTLIST Collection
  name CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove|fuse) "fuse"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT Integer EMPTY>
<!ATTLIST Integer
  name CDATA #IMPLIED
  value CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove) "replace"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
>

<!ELEMENT String (#PCDATA)>
<!ATTLIST String
  name CDATA #IMPLIED
```

コード例 B-5 ディスプレイプロファイル DTD (続き)

```

    value CDATA #IMPLIED
    merge (replace|remove) "replace"
    lock (true|false) "false"
    propagate (true|false) "true"
    advanced (true|false) "false"
  >
<!ELEMENT Reference EMPTY>
<!ATTLIST Reference
  value CDATA #REQUIRED
  merge (replace|remove) "replace"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
  >
<!ELEMENT Boolean EMPTY>
<!ATTLIST Boolean
  name CDATA #IMPLIED
  value (true|false) #REQUIRED
  merge (replace|remove) "replace"
  lock (true|false) "false"
  propagate (true|false) "true"
  advanced (true|false) "false"
  >
<!ELEMENT ParEntry
  (
    Description?,
    Provider?,
    Channel?
  )
  >
<!ATTLIST ParEntry
  xmlns:ParEntry CDATA #FIXED 'http://www.iplanet.com'
  name CDATA #REQUIRED
  version CDATA #REQUIRED
  date CDATA #REQUIRED
  author CDATA #REQUIRED
  requiredClass CDATA #REQUIRED
  >
<!ELEMENT Description (#PCDATA) >

```

リライタルールセット DTD

デフォルトインストールでは、リライタルールセット DTD は
resources/RuleSet.dtd の /opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/rewriter.jar
jar ファイル内にあります。

コード例 B-6 リライタルールセット DTD

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<!ENTITY % gtype 'GROUPED'>
<!ENTITY % stype 'SCATTERED'>
<!ENTITY % jURL 'URL'>
<!ENTITY % jEXPRESSION 'EXPRESSION'>
<!ENTITY % jDHTML 'DHTML'>
<!ENTITY % jDJS 'DJS'>
<!ENTITY % jSYSTEM 'SYSTEM'>
<!ENTITY % ruleSetElements '(HTMLRules | JSRules | XMLRules)? '>
<!ENTITY % htmlElements '(Form | Applet | Attribute | JSToken)*'>
<!ENTITY % jsElements '(Variable | Function)*'>
<!ENTITY % xmlelements '(Attribute | TagText)*'>
<!ELEMENT RuleSet (%ruleSetElements;,%ruleSetElements;,%ruleSetElements;)>
<!--LIST RuleSet
    type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
    id ID #REQUIRED
-->

<!--ELEMENT HTMLRules (%htmlElements;)>
<!--LIST HTMLRules
    type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
    id CDATA "html_rules"
-->
<!--ELEMENT Form EMPTY>
<!--LIST Form
    source CDATA #REQUIRED
    name CDATA #REQUIRED
    field CDATA #REQUIRED
    valuePatterns CDATA ""
-->
<!--ELEMENT JSToken (#PCDATA)>
<!--ELEMENT Applet EMPTY>
<!--LIST Applet
    source CDATA #REQUIRED
    code CDATA #REQUIRED
    param CDATA "*"
    valuePatterns CDATA ""
-->
<!--ELEMENT JSRules (%jsElements;)>
<!--LIST JSRules
    type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
    id CDATA "js_rules"
-->
<!--ELEMENT Variable (#PCDATA)>
```

コード例 B-6 リライタールールセット DTD (続き)

```

<!ATTLIST Variable
  type (%jURL; | %jEXPRESSION; | %jDHTML; | %jDJS; | %jSYSTEM;) "URL"
>
<!ELEMENT Function EMPTY>
<!ATTLIST Function
  type (%jURL; | %jEXPRESSION; | %jDHTML; | %jDJS;) "URL"
  name CDATA #REQUIRED
  paramPatterns CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT XMLRules (%xmlelements;)>
<!ATTLIST XMLRules
  type (%gtype; | %stype;) "GROUPED"
  id CDATA "xml_rules"
>
<!ELEMENT TagText EMPTY>
<!ATTLIST TagText
  tag CDATA #REQUIRED
  attributePatterns CDATA ""
>
<!ELEMENT Attribute EMPTY>
<!ATTLIST Attribute
  name CDATA #REQUIRED
  tag CDATA "*"
  valuePatterns CDATA ""
>

```

デフォルトルールセット

デフォルトインストールでは、デフォルトルールセットは
 resources/DefaultRuleSet.xml の
 /opt/SUNWps/web-src/WEB-INF/lib/rewriter.jar jar ファイル内にあります。
 このファイルは /opt/SUNWps/export ディレクトリ内にもあります。

コード例 B-7 デフォルトルールセット

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE RuleSet SYSTEM "jar://rewriter.jar/resources/RuleSet.dtd">
<RuleSet id="default_ruleset">
<!-- Rules for Rewriting HTML Source -->
<HTMLRules>
<!-- Rules for Rewriting Form Input/Option Values List -->
<!-- Rules for Rewriting Applet/Object Parameter Values List -->

```

コード例 B-7 デフォルトルールセット (続き)

```
<!-- Rules for Rewriting HTML Attributes -->
  <Attribute name="action" />
  <Attribute name="background" />
  <Attribute name="codebase" />
  <Attribute name="code" />
  <Attribute name="href" />
  <Attribute name="src" />
  <Attribute name="value" />
  <Attribute name="imagePath" />
  <Attribute name="lowsrc" />
  <Attribute name="archive"
valuePatterns="***.**.**.**.**.**.**.**.**.**.**.**."/>
  <Attribute name="style" />
  <Attribute name="content" tag="meta" />

<!-- Rules for Rewriting HTML Attributes containing Java Script -->
  <JSToken>onAbort</JSToken>
  <JSToken>onBlur</JSToken>
  <JSToken>onChange</JSToken>
  <JSToken>onClick</JSToken>
  <JSToken>onDblClick</JSToken>
  <JSToken>onError</JSToken>
  <JSToken>onFocus</JSToken>
  <JSToken>onKeyDown</JSToken>
  <JSToken>onKeyPress</JSToken>
  <JSToken>onKeyUp</JSToken>
  <JSToken>onLoad</JSToken>
  <JSToken>onMouseDown</JSToken>
  <JSToken>onMouseMove</JSToken>
  <JSToken>onMouseOut</JSToken>
  <JSToken>onMouseOver</JSToken>
  <JSToken>onMouseUp</JSToken>
  <JSToken>onReset</JSToken>
  <JSToken>onSelect</JSToken>
  <JSToken>onSubmit</JSToken>
  <JSToken>onUnload</JSToken>
</HTMLRules>

<!-- Rules for Rewriting JavaScript Source -->
<JSRules>

<!-- Rules for Rewriting JavaScript variables in URLs -->
  <Variable type="URL"> imgsrc </Variable>
  <Variable type="URL"> location.href </Variable>
  <Variable type="URL"> _fr.location </Variable>
  <Variable type="URL"> mf.location </Variable>
  <Variable type="URL"> parent.location </Variable>
  <Variable type="URL"> self.location </Variable>
  <Variable type="EXPRESSION"> location </Variable>
  <Variable type="SYSTEM"> window.location.pathname </Variable>

<!-- Rules for Rewriting JavaScript Function Parameters -->
  <Function type="URL" name="openURL" paramPatterns="y"/>
```

コード例 B-7 デフォルトルールセット (続き)

```
<Function type="URL" name="openAppURL" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="openNewWindow" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="parent.openNewWindow" paramPatterns="y"/>
<Function type="URL" name="window.open" paramPatterns="y"/>
<Function type="DHTML" name="document.write" paramPatterns="y"/>
<Function type="DHTML" name="document.writeln" paramPatterns="y"/>

</JSRules>

<!-- Rules for Rewriting XML Source -->
<XMLRules>

<!-- Rules for Rewriting Attributes -->
  <Attribute name="xmlns"/>
  <Attribute name="href" tag="a"/>

<!-- Rules for Rewriting TagText -->
  <TagText tag="baseroot" />
  <TagText tag="img" />
</XMLRules>

</RuleSet>
```

デフォルトルールセット

ポータルデスクトップの属性

デスクトップサービスは、グローバル属性およびダイナミック属性で構成されています。グローバル属性に適用される値は、Sun™ ONE Identity Server 設定に適用され、また今後設定されるすべての組織に継承されます。Sun ONE Identity Server アプリケーションをカスタマイズすることがグローバル属性の目的であるため、値を直接ロールまたは組織に適用することはできません。ダイナミック属性に適用される値は、ロールまたは組織に割り当てられます。ユーザーにロールを割り当てる場合、または組織でユーザーを作成する場合は、ダイナミック属性がそのユーザーの特性となります。

デスクトップの属性は、次のように分けられます。

- [デスクトップグローバル属性](#)
- [デスクトップダイナミック属性](#)

デスクトップグローバル属性

[表 C-1](#) は、デスクトップサービスのグローバル属性を示しています。

この表には、3つの列があります。最初の列は属性、2番目の列は属性のデフォルト値、3番目の列は属性の説明を示します。

表 C-1 デスクトップサービスのグローバル属性

属性	デフォルト値	説明
XML パース検証を有効 (注 意が必要)	True (チェックボックスがオン)	ディスプレイプロファイルの XML ドキュメントをパースするときに、検証を行うかどうかを指定する。この属性のチェックマークを外すと、システムのパフォーマンスを向上できることがある。ただし、結果の XML ドキュメントに DTD と適合しないコードが含まれる可能性があり、ディスプレイプロファイルドキュメントを破損するおそれがある
ネームスペース URI	http://www.iplanet.com	XML ネームスペースまたは URI (Uniform Resource Indicator) の一意の識別子を URL の形式で指定する。これによって、XML タグが確実に一意になる
連携を有効	False (チェックボックスがオフ)	ID の連携が有効になり、ユーザーは複数のインターネットサービスプロバイダのローカル ID を関連付け、接続、バインドすることができる。これにより、ネットワーク ID を 1 つにすることが可能になる
ホストプロバイダ ID	なし	ユーザーのネットワーク ID を提供するホストの一意の識別子を指定する
クライアントセッションの 取得間隔 (秒)	1800	アクティブでないクライアントセッションを削除するためのチェックの時間間隔を秒単位で定義する
クライアントセッション取 得前の非アクティブセッ ション最長時間 (秒)	3600	アクティブでないと判断されるまでに、クライアントセッションがアイドル状態でいられる最長秒数を指定する。セッションがこの値を超えてアイドル状態である場合は、セッション取得の候補になり、次回セッションをチェックするときに削除される

表 C-1 デスクトップ サービスのグローバル属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ディスプレイプロファイル	デフォルト値は、実行されたインストールの種類によって異なる。サンプルポータルをインストールすると、ディスプレイプロファイルには組み込みプロバイダ (ブックマークやノートなどの Sun™ ONE Portal Server の基本プロバイダ) の定義が含まれる。サンプルポータルがインストールされていない場合は、グローバルディスプレイプロファイルは空白になる	<p>グローバルディスプレイプロファイルを操作するための複数のコントロール、および組織のコンテナ管理、チャンネル属性、プロバイダを定義する XML ドキュメントを表示する。コントロールには次が含まれる</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連携ユーザーの認証なしアクセスを無効: 連携ネットワーク ID を持つユーザーが、ユーザー名とパスワードを入力しないでポータルにアクセスすることを防ぐことができる • XML のアップロード: ディスプレイプロファイル情報を含む XML ファイルを Portal Server にアップロードできる • XML のダウンロード: ディスプレイプロファイルをローカルドライブにダウンロードできる • チャンネルおよびコンテナの管理: XML ファイルを編集せずに、グラフィカルユーザーインターフェイスでコンテナチャンネルや他のチャンネルを管理できる <p>これらのリンクは属性ではない。これらのリンクをクリックすると、ディスプレイプロファイルを操作できる</p> <p>グローバルディスプレイプロファイルに定義されたディスプレイプロファイル要素は、属する組織またはロールに関係なく、システム上のすべてのユーザーに継承される</p>

表 C-1 デスクトップ サービスのグローバル属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ポータルデスクトップの認証なし設定	有効	<p>ポータルデスクトップの認証なし設定を行うためのコントロールを表示する。 . コントロールは次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連携ユーザーの認証なしアクセスを無効: ホストプロバイダにネットワーク ID を持つユーザーが、ユーザー名とパスワードを入力しないで、ポータルデスクトップにアクセスすることを防ぐことができる • デフォルトの認証なしユーザー DN : 認証なしでデスクトップにアクセスする権限を与えられたユーザー ID を定義できる • 許可されている認証なしユーザー DN とパスワード: 認証なしでデスクトップにアクセスする権限を与えられたユーザー ID を定義できる

デスクトップダイナミック属性

表 C-2 は、デスクトップサービスのダイナミック属性を示しています。

この表には、3つの列があります。最初の列は属性、2番目の列は属性のデフォルト値、3番目の列は属性の説明を示します。

表 C-2 デスクトップサービスのダイナミック属性

属性	デフォルト値	説明
競合の解決レベル	最も高い	<p>複数のデスクトップテンプレートをマージしたときに、競合を解決するために使用するデスクトップサービステンプレートの競合の解決レベルを設定する。最高から最低まで7段階で解決レベルを設定できる</p> <p>この設定は、ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位ではない。ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は数値で表し、<code>priority=</code> 文タグを使用してXMLの中で設定する。マージが発生した場合、優先順位が最低(最小値)のディスプレイプロファイルドキュメントから順に処理され、最後に優先順位が最高のディスプレイプロファイルであるユーザー(ベース)に到達する</p> <p>属性の競合が存在する場合は、競合の解決レベルが最も高いテンプレートセットの属性が返される</p>
デフォルトチャンネル名	JSPTabContainer	<p>指定されていないプロバイダでデスクトップが呼び出されたときに描画されるデフォルトのチャンネルを定義する</p>
デフォルト編集チャンネル名	JSPEditChannel	<p>編集チャンネルがURLの中で指定されていないときに、コンテンツのラップに使用するデフォルトの編集チャンネルを指定する。チャンネルが編集されると、編集要求がデスクトップサーブレットに送信される。各チャンネルを編集するためにコンテナで生成されるURLは、ディスプレイプロファイルで定義されている「<code>editContainerName</code>」プロパティによって異なる</p> <p>iPlanet™ Portal Server 3.0 からコンテナを移行した場合は、URL形式が変更されているため、この属性を使用してコンテンツをラップするデフォルトの編集チャンネルを指定する必要がある</p>

表 C-2 デスクトップサービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
デスクトップタイプ	default	<p>異なるデスクトップ設定で、その設定に異なるテンプレートおよびJSPを定義する必要がある場合に、指定したデスクトップタイプのテンプレートファイルを取り出す</p> <p>デスクトップサービスのデスクトップタイプ属性は、カンマで区切られた文字列のタイプで、ポータルデスクトップは順序付けられたリストとしてこれを使用する。テンプレートとJSPの検索時に、デスクトップの検索操作でこのリストが使用される。検索はリスト内の最初の要素から開始される。各要素は、デスクトップテンプレートベースディレクトリの下にあるサブディレクトリを表す。最初のディレクトリでテンプレートが見つからない場合は、リスト内の次の要素が検索される。リスト内のすべてのデスクトップタイプ要素について、項目が見つかるまで(または見つからないことが確定するまで)これが繰り返される</p> <p>リストにデフォルトディレクトリが含まれない場合、リストの最後に自動的に追加される。たとえば、デスクトップタイプが sampleportal であれば、ターゲットテンプレートは sampleportal サブディレクトリから検索され、次にデフォルトのサブディレクトリから検索される。デフォルトでは、サンプルポータルがインストールされている場合、デスクトップタイプの属性 (sunPortalDesktopType) は sampleportal に設定される。サンプルポータルがインストールされていない場合、デスクトップタイプの属性は default に設定される</p> <p>多くのサイトでは、default のデスクトップタイプは使用されない。一般のサイトでは、異なるチャネル、ロゴ、ルックアンドフィール、リンクが使用される</p>

表 C-2 デスクトップサービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ディスプレイプロファイル	デフォルト値は、実行されたインストールの種類によって異なる。サンプルポータルをインストールすると、グローバルディスプレイプロファイルに定義された組み込みプロバイダを表示するチャンネルを含んだサンプルのディスプレイプロファイルドキュメントがインストールされる	<p>グローバルディスプレイプロファイルを操作するための複数のリンクと、このノード(ロール、組織、サブ組織)のコンテナ管理、チャンネル属性、およびプロバイダを定義するXMLドキュメントを表示する。リンクには、次のものがある</p> <ul style="list-style-type: none"> • XMLの編集: ディスプレイプロファイルのXMLファイルを編集できる • XMLのアップロード: 使用すると、ディスプレイプロファイル情報を含むXMLファイルをPortal Serverにアップロードできる • XMLのダウンロード: ディスプレイプロファイルをローカルドライブにダウンロードできる <p>これらのリンクは属性ではない。これらのリンクをクリックすると、ディスプレイプロファイルを操作できる</p>
デスクトップサービスの属性を表示	True (チェックボックスがオン)	<p>ロールに関連付けられたユーザーにデスクトップサービス属性が表示されるかどうかを指定する。このダイナミック属性は、主にロールベースで権限が委譲される管理で使用される。この属性に適用された値は、ロールに対してのみ有効</p> <p>ロールがユーザーに割り当てられ、この属性の値がFalse (オフ)である場合、組織内のすべてのロールにナビゲートすると、ユーザー(通常、権限が委譲された管理者)は、「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクを除いて、すべてのデスクトップサービス属性が参照できなくなる</p>

NetMail の属性

NetMail サービスは、ダイナミック属性だけで構成されています。ダイナミック属性に適用される値は、ロールまたは組織に割り当てられます。ユーザーにロールを割り当てる場合、または組織でユーザーを作成する場合は、ダイナミック属性がそのユーザーの特性となります。

NetMail のダイナミック属性

表 D-1 は、NetMail サービスのダイナミック属性を示しています。

この表には、3つの列があります。最初の列は属性、2番目の列は属性のデフォルト値、3番目の列は属性の説明を示します。

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性

属性	デフォルト値	説明
受信メール (IMAP) サーバー	(管理者が設定)	NetMail を接続する IMAP サーバーのホスト名を指定する
送信メール (SMTP) サーバー	(管理者が設定)	NetMail が、SMTP でメッセージの送信に使用するサーバーを指定する
デフォルトのメインドメイン	(管理者が設定)	デフォルトのメインドメインの名前を指定する
IMAP 最上位フォルダ	Mail	ユーザーのメールフォルダが常駐する IMAP メールサーバー上のフォルダを指定する

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
キャッシュフォルダリスト	False (チェックボックスがオフ)	<p>メールサーバーから切断したときに、フォルダリストをユーザーのメモリーキャッシュに自動的に読み込むかどうか指定する。フォルダリストを読み込むことで、切断モードで NetMail を使用しても、メッセージの移動およびコピーができる</p> <p>False (チェックボックスがオフ) を選択すると読み込みを開始する。 True (チェックボックスがオン) を選択すると読み込みを終了する</p>

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
アドレス帳検索で使用する LDAP サーバーの詳細	(管理者が設定)	<p>アドレス帳検索を実行するとき使用する、LDAP サーバーの情報を指定する。この情報は、NetMail アプレットだけで使用する</p> <p>各エントリは、名前と値が組になったカンマ区切りリスト。<i>name="value."</i> の形式で使用される。どちらの値も引用符は使用できない</p> <p>ユーザーはこの値を変更できない</p> <p>有効な名前とそれに対応する設定は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>name</i> : ユーザーがアクセスできる LDAP サーバー名 • <i>server</i> : LDAP サーバーとポート番号。形式: <i>ldapservers[:ldapportnumber]</i> • <i>base</i> : ユーザーやグループを検索するためのベースとなる文字列。 例: <i>c=US,o=sesta</i> • <i>searchin</i> : カンマで区切られたリスト。例: <i>cn,gn,sn</i> • <i>result</i> : LDAP 属性名。例: <i>mail</i> • <i>filter</i> : LDAP 検索フィルタ。 RFC2254 を参照 • <i>referral</i> : LDAP 参照。follow または ignore (適用しない) <p>例 :</p> <pre>name="Sesta LDAP",server="ldap-server.sesta.com",base="dc=sesta,dc=com"</pre> <p>ユーザーがフォルダを開いたときに、最初に IMAP サーバーからダウンロードするヘッダー数を制御する。 NetMail Java に対してのみ有効</p>
最初に IMAP サーバーからダウンロードするヘッダー数	10	

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ページあたりに表示される メッセージヘッダー数	10	フォルダを開いたときに、最初に IMAP サーバーからダウンロードする ヘッダー数を制御する。NetMail Lite に対してのみ有効
新着メールの確認間隔 (分)	5	現在選択しているフォルダで、 NetMail が新しいメッセージの確認を 行う間隔 (分) を指定する。0 に設定す ると、NetMail は新しいメッセージを 確認しない
読み込み可能な添付ファイル の最大サイズ (KB)	0	切断時に NetMail がメモリーキャッ シュに自動的に読み込む添付ファイル のサイズの最大値をキロバイトで指定 する。0 を指定するとすべての添付 ファイルが読み込まれる。NetMail Java に対してのみ有効
切断時に読み込むメッセージ のタイプ	All	切断時にユーザーのメモリーキャッ シュに自動的に読み込むメッセージの タイプを指定する。有効な値は「All」、 「None」、「New」、「Unread」、 「New and Unread」、および「Found」 たとえば、「Unread」を選択すると、 切断時に受信トレイのすべての未読 メッセージがメモリーキャッシュに読 み込まれる。そのため、切断モードで もメッセージを読むことができる NetMail Java に対してのみ有効
新しいメッセージからソート	True (チェックボックスがオン)	選択したフォルダに最初に表示する メッセージを指定する True (チェックボックスがオン) を選 択すると、最新のメッセージが最初に 表示される。False (チェックボックス がオフ) を選択すると、最も古いメッ セージが最初に表示される NetMail Lite に対してのみ有効

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
別のウィンドウでメッセージを開く	False (チェックボックスがオフ)	別のメッセージを読むたびに、新しい読み込みウィンドウを開くかどうかを指定する True (チェックボックスがオン) を選択すると、新しい読み込みウィンドウを開く。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、現在開いているウィンドウに表示される NetMail Java に対してのみ有効
終了時に削除済みメッセージを破棄	False (チェックボックスがオフ)	終了または切断時に、受信トレイの削除済みメッセージを完全に破棄するかどうかを指定する True (チェックボックスがオン) を選択すると、切断時に削除済みメッセージが完全に削除される。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、削除済みメッセージは削除されない
送信済みメッセージフォルダ (サーバー上)	Mail/Sent	送信済みメッセージフォルダを指定する
送信済みメッセージを送信済みフォルダ (サーバー上) に保存	False (チェックボックスがオフ)	送信済みメッセージを IMAP サーバーに格納されている送信済みフォルダに保存するように指定する True (チェックボックスがオン) を選択すると、メッセージをサーバー上の送信済みフォルダに保存するように指定する。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、メッセージを送信済みフォルダに保存しない

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
送信済みメッセージのコピーをローカルキャッシュに保存する	True (チェックボックスがオン)	<p>終了時にキャッシュを自動的にディスクに保存するように指定する。これを有効にしないと、終了時にキャッシュをディスクに保存するように要求される</p> <p>True (チェックボックスがオン) を選択すると、キャッシュを自動的にディスクに保存するように指定する。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、キャッシュを保存するかどうかを確認するポップアップが表示される</p> <p>アプレットをローカルにインストールした NetMail に対してのみ有効</p>
元のメッセージに付けるプレフィックス	>	返信メッセージの各行に、どの文字列をプレフィックスとして付けるか指定する
送信メールに署名を追加	False (チェックボックスがオフ)	<p>送信メッセージに署名を追加するかどうかを指定する</p> <p>True (チェックボックスがオン) を選択すると、送信メッセージに署名を追加する。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、署名を追加しない</p>
返信に作成者を含める	False (チェックボックスがオフ)	<p>返信にオリジナルメッセージの作成者を含めるかどうか指定する</p> <p>True (チェックボックスがオン) を選択すると、オリジナルメッセージの作成者を含める。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、オリジナルメッセージの作成者を含めない</p> <p>NetMail Java に対してのみ有効</p>
返信にオリジナルメッセージの日付を含める	False (チェックボックスがオフ)	<p>返信にオリジナルメッセージの日付を含めるかどうか指定する</p> <p>True (チェックボックスがオン) を選択すると、オリジナルメッセージの日付を含める。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、オリジナルメッセージの日付を含めない</p> <p>NetMail Java に対してのみ有効</p>

表 D-1 NetMail サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
返信にオリジナルメッセージの本文を含める	True (チェックボックスがオン)	<p>返信にオリジナルメッセージの本文を含めるかどうか指定する</p> <p>True (チェックボックスがオン) を選択すると、オリジナルメッセージの本文を含める。False (チェックボックスがオフ) を選択すると、オリジナルメッセージの本文を含めない</p> <p>NetMail Java に対してのみ有効</p>
ユーザーが変更できない設定 (管理者が設定)		<p>エンドユーザーが変更できない NetMail 設定属性を指定する。有効な値は次のとおり。IMAPPassword、IMAPServerName、IMAPUserName、SMTPMailServer、autoFolderLoad、autoload、autopurge、autosave、backgroundColor、inactivityInterval、indentPrefix、initialHeaders、saveSentMessage、maxAttachLen、multipleReadWindows、replyFields、replyToAddress、resetSize、rootFolder、sentMessagesFolder、signature、textColor、textSize、および textStyle</p>

リライトの属性

リライトは、HTML、JavaScript™、および WML などの各種 Web 言語、および HTTP ロケーションヘッダー (リダイレクト) 形式の URL 参照を書き換えるための Java クラスライブラリを提供します。リライトサービスは、属性で構成されていません。

サービスを実装するには、リライト方式やデータの書き換え方法を定義する、リライトルールを作成します。リライトルールの作成や編集は、管理コンソールから行えます。リライトルールの作成については、[第 7 章「リライトサービスの管理」](#)を参照してください。

検索の属性

この付録では、Sun ONE Identity Server 管理コンソールを利用して検索エンジンに設定できる属性について説明します。

「サービス管理」から「検索」を選択すると、タブを持つ 2 色のメニューバーが表示されます。この付録は、メニューバー上部のトピックス (タブ) に従って構成されています。

- サーバー
- ロボット
- データベース
- カテゴリ
- レポート

上記のいずれかのタブを選択すると、それに関連するサブトピックが下のメニューバーに一覧表示されます。デフォルトの検索ページでは、「サーバーの設定」が選択されます。それぞれのサブトピックでは、1つまたは複数の表を使用して、サブトピックの属性について説明します。この表には、属性、デフォルト値、説明の列があります。「属性」は、ページに表示される項目名を示します。「デフォルト値」は「属性」のデフォルト値、「説明」は「属性」の説明とその形式を示します。

表 F-1 は、それぞれの「検索」ページで使用できる「サーバーの選択」属性を示します。

表 F-1 検索サーバーの選択属性

属性	デフォルト値	説明
サーバーの選択	http://servername:80/portal	検索サーバーの完全修飾サーバー名

サーバー

「サーバー」セクションでは、サーバーの設定を行います。一時ファイルとして使用するディレクトリを選び、ログにどの情報を、どの程度詳細に記録するかを選択します。「サーバー」属性は2つのページに表示されます。

- [設定](#)
- [ロボット](#)

設定

このページには、検索サーバーの管理および操作に関する基本設定が含まれます。

表 F-2 サーバー設定属性

属性	デフォルト値	説明
サーバールート	<code>/var/opt/SUNWps/https-serv ernamefull/portal</code>	設定、ログ、データベースおよびロボット 情報ファイルを格納する。検索を実行した ときに作成、および更新されるすべての検 索ファイルのルートディレクトリでもある。 このディレクトリの設定は変更できない
一時ファイル	<code>/var/opt/SUNWps/https-serv ernamefull/portal/tmp</code>	検索中に検索の管理に使用されるすべての 一時ファイルを格納する。このファイルに は、メインデータベースにはまだ追加され ていない、新しく生成されたリソース記述 も含まれる。検索が完了すると、これらの ファイルは削除される

表 F-2 サーバー設定属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ドキュメントレベルのセキュリティ	オフ	ドキュメントにアクセスできるユーザーを制御する 設定を変更した場合は、サーバーを再起動する必要がある 値 : <ul style="list-style-type: none"> オフ (デフォルト) に設定すると、すべてのユーザーが RD にアクセス可能になる オンに設定すると、アクセスしようとしているユーザーがアクセス権を持つかどうかについて、RD の ReadACL フィールドが調べられる。アクセス権を持つユーザーは、アクセスが許可された組織またはルールに所属するか、個人的にアクセスが許可されている。ReadACL フィールドは、「データベース」ページ、「リソース記述」ページで設定される

ロボット

このページには、検索サーバーの管理および操作に関する詳細設定が含まれます。ここでは、ユーザークエリ、インデックスのメンテナンス、リソース記述の管理、およびデバッグ用のそれぞれのログファイルを設定します。

表 F-3 サーバーの詳細設定属性

属性	デフォルト値	説明
検索 (rdm)	<code>/var/opt/SUNWps/https-servername/portal/logs/rdm.log</code>	エンドユーザーが作成したデータベースのクエリを記録する。「検索ログを無効にする」チェックボックスにチェックマークを付けると、このログは記録されない この場合、ユーザークエリ (rdm) レポートを表示することはできない

表 F-3 サーバーの詳細設定属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
検索ログを無効にする	False (チェックボックスがオフ) - 有効	クエリログの使用を制御する レポートセクションでは、このログを基に、最もよく使用されるクエリを一覧表示したレポートを作成する 値： <ul style="list-style-type: none"> • チェックボックスがオン：無効 • チェックボックスがオフ：有効。ユーザークエリは、すべてこのログに入力される
インデックスのメンテナンス	/var/opt/SUNWps/https- <i>servername</i> /portal/logs/searchengine.log	検索エンジンに関連するトランザクションを記録する。リソース記述の登録は記録されない
RD マネージャ	/var/opt/SUNWps/https- <i>servername</i> /portal/logs/rdmgr.log	ロボットまたはインポートエージェントからデータベースへ登録したリソース記述の記録。このログは、RD マネージャ (rdmgr) レポートとして表示される
RDM サーバー	/var/opt/SUNWps/https- <i>servername</i> /portal/logs/rdmserver.log	RDM トランザクション上のデバッグ情報を記録する。詳細レベルは、ログレベルで制御する。このログは、RDM サーバー (rdmsvr) レポートとして表示される
ログレベル	1	RDM サーバーログファイルに含まれる詳細情報の量を制御する 指定できるレベルは、2、10、20、50、100 および 999 1 (デフォルト) に設定すると、エラーのみが記録される。値を大きくするほど、RDM サーバーのログファイルに含まれる情報が詳細になる

ロボット

ロボットのプロパティは、非常に複雑です。検索 (クローリング) するサイトを決めたら、そのサイトが有効かどうかを確認し、取得するドキュメントのタイプを決め、検索を行うスケジュールを決めます。

ここで説明する内容は次のとおりです。

- 概要

- サイト
- フィルタ
- クローリング
- インデックス作成
- シミュレータ
- サイトプローブ
- スケジュール

概要

「ロボットの「概要」」には、ロボットの動作が表示されます。このパネルは 30 秒ごとに更新され、ロボットの状態がオフ、アイドル、実行中、一時停止のどの状態にあるのかを示します。実行中の場合は、検索のどの段階が処理されているか、その進捗状況が示されます。更新頻度は、`search.conf` ファイルの `robot-refresh` パラメータで定義されます。

右上の 2 つのボタンは、それぞれ状態に合わせて切り替わります。ロボットがオフの場合、ボタンは「開始」または「状態を削除」になります。実行中またはアイドル状態の場合は、ボタンは「終了」または「一時停止」になります。一時停止状態の場合、ボタンは「終了」または「再開」になります。「属性」ボタンのいずれかを選択すると、「レポート」セクションに切り替わり、その属性の最新の詳細レポートを表示できます。

表 F-4 ロボットの「概要」属性

属性	デフォルト値	説明
ロボットは	現在の状態	ロボットの状態。値は、アイドル、実行中、一時停止、または オフ
更新時刻	最終更新日時	ロボットによる作業の進捗状況を示すために、このページは更新される
開始位置	指定された数値	検索対象として選択したサイト数。サイトは「ロボット」、「サイト」ページでは、無効 (検索されない) になる
URL プール	待機中の URL の数	調査する URL の数。検索を開始すると、開始位置の URL が URL プールに入力される。検索作業が進行すると、ロボットは他の URL へのリンクを発見する。これらの URL はプールに追加される。プール内のすべての URL が検索されると、URL プールは空になり、ロボットはアイドル状態になる

表 F-4 ロボットの「概要」属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
抽出	秒あたりの接続数	1 秒あたりに参照されたリソース数 抽出とは、データベースに取り込むリソース、ドキュメント、またはハイパーリンクを発見し、不要な項目をフィルタリングするプロセスである
フィルタリング	拒否された URL の数	除外された URL の総数
インデックス作成	秒あたりの URL の数	1 秒間にリソース記述に変換されるリソースまたはドキュメントの数 インデックス作成とは、検索データベースに取り込むために、ドキュメントに収集されたすべての情報をリソース記述に変換する段階である
除外 URL	フィルタによって除外された URL の数	フィルタリング条件を満たさなかった URL の数
	エラーによって除外された URL の数	ロボットでファイルが見つからないというエラーが検出された URL の数
リソース記述	提供された RD の数	データベースに追加されたリソース記述の数
	提供された RD のバイト数	データベースに追加されたバイト数
全体の状態	取得された URL の数	実行中に取得された URL の数
	RD の平均サイズのバイト数	リソース記述あたりの平均バイト数
	稼働時間 (日数、時間、分および秒)	ロボットを実行した時間

サイト

このセクションの最初のページには、検索を実行できるサイトが表示されます。

ラジオボタンを使用して、サイトを「オン」または「オフ」にできます。ロボットを実行しても、オフにしたサイトは検索されません。「編集」リンクは、検索サイトを定義する方法を変更するページを表示します。

サイトを削除するには、チェックボックスをオンにして、「削除」をクリックします。

新しいサイトを追加するには、「新規」をクリックします。URL またはドメインをテキストボックスに追加し、検索の深さを選択します。「作成」を選択すると、デフォルト値を使用して作成します。または、デフォルト以外の値を使用するために、「作成と編集」をクリックし、「編集」ページへ進み検索サイトを定義します。

表 F-5 ロボット管理サイト属性

属性	デフォルト値	説明
ロックまたはクラスタの画像	サイトの状態	開いたロックは、URL にアクセス可能なことを意味する。閉じられたロックは、サイトが安全な Web サーバーであり、SSL を使用していることを意味する。クラスタは、サイトがドメインであることを意味する
オン / オフ	オン	ロボットが実行しているときに、このサイトを検索するか、しないかを指定する

「新規サイト」 ページでは、インデックスを作成するサイト全体の設定ができます。

表 F-6 ロボットの新規サイト属性

属性	デフォルト値	説明
新規サイト	URL	URL の形式は、 <code>http://www.sesta.com</code> ドメインの形式は、 <code>*.sesta.com</code>
深さ	10	この URL のみは 1、URL と最初のリンクは 2、ロボットは 100、さらに、3～10、または無制限から選択する。デフォルト値は、「ロボット」、「クローリング」 ページで設定する

編集ページでは、検索サイトをより詳細に定義できます。サーバータイプの指定、検索の深さの再定義、および検索データベースに追加するファイルタイプの指定ができます。URL とドメインサイトの属性は、大部分は同じです。この表に追加されている列は、どの属性が共有され、どれが固有であるかを示します。

このページでは、多くの操作が行われます。入力した検索サイトのサーバー名を確認できます。「サーバーグループ」セクションで「追加」をクリックすると、サーバーグループにさらにサーバーを追加できます。「開始位置」セクションで「追加」をクリックすると、開始位置をさらに追加できます。「フィルタ定義」セクションでは、特定のタイプのファイルを追加または削除、除外または取り込むことができ、これらのファイルに適用するフィルタの順序も変更できます。

表 F-7 ロボットのサイト編集属性

属性	URL またはドメイン	デフォルト値	説明
サイトのニックネーム	URL / ドメイン	入力されたサイト: www.sesta.com	最初のページに表示される名前。デフォルトは、入力された URL またはドメイン。この名前をここで変更できる
削除または確認するサイトを選択するチェックボックス	URL / ドメイン	チェックボックスがオフ	チェックボックスがオフ: 選択されない チェックボックスがオン: 選択される
サーバーグループ名	URL	URL: www.sesta.com	単一サーバーまたは単一サーバーの一部。エントリにはホスト名全体を含める必要がある。ホスト名だけを指定すると、そのホストだけにサイトが制限される。ホスト名に加えてディレクトリ情報を入力すると、サイトはそのディレクトリおよびすべてのサブディレクトリとして定義される
ドメインのサフィックス	ドメイン	入力されたドメイン: *.sesta.com	*.sesta.com のように、ドメイン内のすべてのサーバーを含む
ポート	URL / ドメイン	URL は 80、ドメインでは空白	検索中のサイトが別のポートを使用する場合は、そのポートを入力する
タイプ	URL	Web サーバー	Web サーバー、ファイルサーバー、FTP サーバー、セキュリティ保護された Web サーバー
許容されるプロトコル	ドメイン	すべてのチェックボックスがオン	http、file、ftp、https のチェックボックス
開始位置: 削除するサイトを選択するためのチェックボックス	URL / ドメイン	チェックボックスがオフ	チェックボックスがオフ: 選択されない チェックボックスがオン: 選択される
開始位置: URL	URL / ドメイン	http:// URL: 80	URL またはドメイン

表 F-7 ロボットのサイト編集属性 (続き)

属性	URL またはドメイン	デフォルト値	説明
開始位置 - 深さ	URL / ドメイン	10	1 は、この URL のみ 2 は、この URL と最初のリンク 3-10 無制限
フィルタ定義: 削除するファイルのタイプを選択するためのチェックボックス	URL / ドメイン	チェックボックスがオフ	チェックボックスがオフ: 選択されない チェックボックスがオン: 選択される
フィルタ定義	URL / ドメイン	デフォルトの順番: アーカイブファイル、オーディオファイル、バックアップファイル、バイナリファイル、CGI ファイル、イメージファイル、Java、JavaScript、スタイルシートファイル、ログファイル、レビジョンコントロールファイル、ソースコードファイル、一時ファイル、ビデオファイル	選択可能なファイルは次のとおり: アーカイブファイル、オーディオファイル、バックアップファイル、バイナリファイル、CGI ファイル、イメージファイル、Java、JavaScript、スタイルシートファイル、ログファイル、パワーポイントファイル、レビジョンコントロールファイル、ソースコードファイル、一時ファイル、ビデオファイル、スプレッドシートファイル、プラグインファイル、ロータストミノドキュメント、ロータストミノ OpenView、システムディレクトリ (UNIX)、システムディレクトリ (Windows)
コメント	URL / ドメイン	空白	サイトの説明を記述するテキストフィールド。ロボットはこれを使用しない
DNS 変換	URL	空白	DNS 変換は、ドメイン名またはエイリアスを cname に変換し、URL およびクローリングの方法を変更する。形式: alias1->cname1,alias2->cname1

フィルタ

このセクションの最初のページには、定義されているすべてのフィルタルールと、それを使用するサイト定義が表示されます。それぞれのフィルタ名の前には、ドキュメントタイプを選択するためのチェックボックスと、フィルタルールをオン、オフするための2つのラジオボタンがあります。チェックボックスにチェックマークを付けると、そのフィルタを選択して削除することができます。新規フィルタを追加するには「新規」をクリックします。新規フィルタのページは「編集」ページを簡略化したもので、1つのニックネームと1つのルールだけが要求されます。もう1つのオプションとして「編集」リンクがあります。これを選択すると、特定のファイルタイプに対するルールやフィルタの動作を定義するページへ移動します。それぞれのルールは、フィルタソースのドロップダウンリスト、検索条件のドロップダウンリスト、およびフィルタ文字列の詳細を入力するテキストボックスで構成されています。

表 F-8 ロボットのフィルタ編集の属性

属性	デフォルト値	説明
フィルタ名	新しい名前を入力するプロンプト。編集のために選択するファイルタイプのファイル名	そのフィルタを適用するファイルタイプを反映する、明確な名前
フィルタソースのドロップダウンリスト	新規フィルタでは URL。そのファイルタイプ用に、以前に選択された情報が表示される	URL、プロトコル、ホスト、パス、MIME タイプ
選択基準のドロップダウンリスト	新規フィルタでは is。そのファイルタイプ用に、以前に選択された情報が表示される。たとえば、バイナリファイルでは exe で終わる (ends with)	「である (is)」、「を含む (contains)」、「で始まる (begins with)」、「で終わる (ends with)」、「正規表現 (regular expression)」
タイプ (ディレクトリ、プロトコル、ファイル拡張子) を指定するテキストボックス	新規フィルタの場合は空白。そのファイルタイプ用に、以前に入力された情報が表示される。たとえば、/tmp/ を含む (contains) 一時ファイル	このテキストボックスに、一致させる項目を列挙する。たとえば、 http://docs.sesta.com/manual.html と一致する項目は プロトコルは http、ホストは sesta を含む。ファイル名は html で終わる
説明	新しい説明を入力するプロンプト。以前入力したそのファイルタイプの説明が表示される	フィルタ規則の説明。ロボットはこれを使用しない
新規サイト	新規フィルタの場合は、True (チェックボックスがオン)。そのファイルタイプ用に以前に選択された値が表示される	これは、新規サイトの作成時にデフォルトフィルタの1つとして使用される。このチェックボックスをオンにしなくても、「ロボット」、「サイト」ページでサイトを編集してこのフィルタを新規サイトに追加できる

表 F-8 ロボットのフィルタ編集の属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
デフォルト	新規フィルタの場合は何も選択されていない。定義済みのファイルタイプ用に、以前に選択されたデフォルト	このフィルタと一致するドキュメントを除外する このフィルタと一致するドキュメントを含める 新規フィルタ用の選択は、既存のサイト定義には影響しない。新規フィルタを既存のサイトで使用するには、「ロボット」、「サイト」ページでサイトを編集して追加する
属性	このフィルタを使用するサイトが一覧表示される	

クローリング

このページの設定によって、ロボットのオペレーションパラメータとデフォルトを制御します。速度、完了のアクション、ログファイルの設定、標準への準拠、認証パラメータ、プロキシ、詳細設定、およびリンクの抽出のセクションに分けられます。

表 F-9 ロボットのクローリング属性

属性	デフォルト値	説明
サーバー遅延	遅延なし	遅延なし (デフォルト)、1 秒、2 秒、5 秒、10 秒、30 秒、1 分、5 分
最大接続数: 同時に取得する URL 数の最大値	8	1、2、4、8 (デフォルト)、10、12、16、20
サイトあたりの最大接続	2	(無制限)、1、2、4、8、10、12、16、20
RD を送信してすべてのインデックスを作成	30 分	3 分、5 分、10 分、15 分、30 分 (デフォルト)、1 時間、2 時間、4 時間、8 時間
起動スクリプト	なし (デフォルト)	なし (デフォルト)。サンプルファイルは、 <code>/opt/SUNWps/samples/robot</code> ディレクトリ (デフォルトのインストール) の <code>cmdHook</code> ファイルを参照
すべての URL の処理後	アイドル (デフォルト)	アイドル状態になる (デフォルト)、シャットダウン、やり直し
連絡先の電子メール	<code>user@domain</code>	電子メールアドレスを入力する

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ログレベル	1 : 生成	0 エラーのみ、1 生成 (デフォルト)、2 列挙、変換、3 フィルタリング、4 作成、5 取得。
ユーザーエージェント	SunONERobot/6.0	検索サーバーのバージョン
robots.txt プロトコルを無視	False (チェックボックスがオフ)	サーバーの中には、robot.txt ファイルにロボットによる検索を拒否する記述をしたものがある。このファイルを持つサイトに遭遇した場合、属性が false の時にロボットはそのサイトを検索しない。この属性が true の場合、ロボットはファイルを無視してそのサイトを検索する
認証の実行	はい	はい いいえ
ロボットのユーザー名	匿名	ロボットは匿名のユーザー名を使用してサイトにアクセスする
パスワード	user@domain	匿名ユーザーを認めるサイトの多くは、パスワードとして電子メールアドレスを要求する。このアドレスはプレーンテキストである
プロキシのユーザー名	匿名	ロボットは匿名のユーザー名を使用してサイトにアクセスする
パスワード	user@domain	匿名ユーザーを認めるサイトの多くは、パスワードとして電子メールアドレスを要求する。このアドレスはプレーンテキストである
プロキシ接続タイプ	インターネットへの直接接続	インターネットへの直接接続、プロキシ (自動設定)、プロキシ (手動設定)
自動プロキシ設定 / タイプ	ローカルプロキシファイル	ローカルプロキシファイル、リモートプロキシファイル
自動プロキシ設定 / 位置	空白	自動プロキシのファイルには、必要なプロキシ情報すべての一覧が含まれる ローカルプロキシファイルの例は、robot.pac を参照。リモートプロキシファイルの例は、 http://proxy.sesta.com:8080/proxy.pac を参照

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
手動プロキシ設定 /HTTP プロキシ	空白	形式: server1.sesta.com:8080。これら 3 つの手動設定値は、 /var/opt/SUNWps/https-servername/porta1/config ディレクトリにある robot.pac ファイルに保存される
手動プロキシ設定 /HTTPS プロキシ	空白	この手動設定値は、robot.pac ファイルに保存される 形式: server1.sesta.com:8080
手動プロキシ設定 /FTP プロキシ	空白	この手動設定値は、robot.pac ファイルに保存される 形式: server1.sesta.com:8080
HTML のリンクを追跡	True (チェックボックスがオン)	HTML からハイパーリンクを抽出する
最大リンク数	1024	1 つの HTML リソースから、ロボットが抽出できるリンク数を制限する。ロボットがサイトを検索すると、他のリソースへのリンクも発見するため、場合によっては多数のリンクをたどって元の開始位置から極端に離れたリンクまで追ってしまう可能性がある
プレーンテキストのリンクを追跡	False (チェックボックスがオフ)	プレーンテキストからハイパーリンクを抽出する
最大リンク数	1024	1 つのテキストリソースから、ロボットが抽出できるリンク数を制限する
Cookie の使用	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックボックスがオン) の場合、ロボットはクローリングの際に cookie を使用する。クッキーを使用しないと、正常にナビゲートできないサイトも存在する。cookie はロボットの状態ディレクトリにある cookies.txt ファイルに保存される。cookies.txt の形式は、Netscape™ Communicator のブラウザで使用されている形式と同じ

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
IP をソースとして使用	True (チェックボックスがオン)	ほとんどの場合、ロボットはリソースのドメイン名だけを対象に動作する。場合によっては、インターネットプロトコル (IP) アドレスによるサブネットに基づいて、フィルタリングまたは分類を可能にする必要もある。この場合、ドメイン名に加えて IP アドレスの取得も、ロボットに対して明示的に許可する必要がある。IP アドレスを取得するには、DNS をさらに検索する必要があるため、ロボットの動作速度が低下する。必要のない場合は、このオプションをオフにするとパフォーマンスが向上する
ホストの発見的解決	False (チェックボックスがオフ)	<p>チェックマークを付けた場合、ロボットはサーバーが使用する共通の代替ホスト名を単一の名前に変換する。この設定は、1つのサイトが同じアドレスのエイリアスとして、複数のサーバーを持っている場合に最も便利である。たとえば、<code>www.sesta.com</code> というサイトには他にも、<code>www1.sesta.com</code>、<code>www2.sesta.com</code> などの名前を持つ場合がある</p> <p>このオプションをオンにすると、<code>wwwn</code> (この <code>n</code> は任意の整数) で始まるすべてのホスト名が内部で <code>www</code> に変換される。この属性はホスト名が <code>wwwn</code> で始まる場合にのみ有効である</p> <p>この属性は CNAME 解決がオフ (False) の場合は使用できない</p>

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ホスト名を CNAME に解決	False (チェックボックスがオフ)	<p>True の場合、ロボットは検出したすべてのホスト名の妥当性検査を行い、標準的なホスト名に変換する。これにより、ロボットは固有の RD を正確に追跡できるようになる。False (チェックボックスがオフ) の場合、ロボットはホスト名の妥当性検査は行わすが、標準的なホスト名への変換は行わない。このため、ロボットが検出したそれぞれのホスト名に重複する RD がリストされる可能性が生じる</p> <p>たとえば、<code>devedge.sesta.com</code> は、<code>developer.sesta.com</code> のエイリアスである。CNAME 解決がオンの場合、<code>devedge.sesta.com</code> として参照された URL は、<code>developer.sesta.com</code> で検出されたものとしてリストされる。CNAME 解決がオフの場合、RD は参照元である <code>devedge.sesta.com</code> を保持する</p> <p>ホストの発見的解決は、CNAME 解決がオフ (False) の場合には有効化できない</p>
すべてのホストからのコマンドを受け入れる	False (チェックボックスがオフ)	<p>ロボットの持つ制御機能のほとんどは、TCP/IP ポート経由で動作する。この属性は、ロボットがローカルホストからのコマンドだけを受け入れるか (False)、あるいはネットワーク上からのコマンドをすべて受け入れる (True) かを設定する</p> <p>ロボットの直接制御をローカルホストに限定する (False) ことが推奨される。この設定でも、管理コンソールによるロボットの遠隔制御は可能である</p>
デフォルトの開始位置の深さ	10	<p>1 開始位置のみ、2 ブックマークスタイル、3 ~ 10、無制限。</p> <p>ロボットがすべての開始位置からたどる、ハイパーリンクレベルのデフォルト値。「ロボット」、「サイト」ページでのサイトの編集により、どの開始位置に対しても深さを設定できる</p>

表 F-9 ロボットのクローリング属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ワークディレクトリ	<code>/var/opt/SUNWps/https-ser vernamefull/portal/tmp</code>	ロボットがデータを保存するために使用する、一時的な作業用ディレクトリの完全パス名。ロボットは、多数のドキュメントの全内容を取得してこのディレクトリに保存するため、ディレクトリには一度に大量のドキュメントを扱うのに十分な容量が必要である
状態ディレクトリ	<code>/var/opt/SUNWps/https-ser vernamefull/portal/robot</code>	ロボットが訪問した URL のリスト、URL プールなどの状態情報を保存するために使用する、一時ディレクトリの完全パス名。このデータベースのサイズは、かなり大きくなる可能性があるため、ワークディレクトリとは異なるパーティションに置くことが推奨される

インデックス作成

ロボットはサイトを検索し、選択されたフィルタを基準にドキュメントを収集します。さまざまな形式のドキュメントが収集されます。収集したドキュメントを統一し、読みやすくするために、形式を HTML に統一します。このページでは、各リソース記述に関連するいくつかの部分を設定します。

表 F-10 ロボットのインデックスの属性

属性	デフォルト値	説明
完全なテキスト / 部分的なテキスト	部分的なテキスト	完全なテキストの場合、リソース記述には完全なドキュメントを使用する。部分的なテキストの場合、リソース記述にはドキュメントの内から、指定されたバイト数だけを使用する。
最初に抽出するバイト数	4096	バイト数を入力する
目次を抽出	True (チェックボックスがオン)	True の場合、リソース記述に目次を含める
META タグのデータを抽出	True (チェックボックスがオン)	True の場合、リソース記述に META タグを含める

表 F-10 ロボットのインデックスの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ドキュメントコンバータ	すべてにチェックマークが付けられている (True)。False の場合、そのタイプのドキュメントは、インデックスが作成されない	Adobe PDF Corel Presentations Corel Quattro Pro FrameMaker Lotus Ami Pro Lotus Freelance Lotus Word Pro Lotus 1-2-3 Microsoft Excel Microsoft Powerpoint Microsoft RTF Microsoft Word Microsoft Works Microsoft Write WordPerfect StarOffice™ Calc StarOffice™ Impress StarOffice™ Writer XyWrite
コンバータのタイムアウト	600	1 つのドキュメントを HTML に変換するために要する時間の許容値 (秒単位)。この時間を超過した場合、その URL は除外される

シミュレータ

このページは、URL に対するロボットのフィルタリングを、部分的にシミュレートするデバッグツールです。新規の URL を入力してチェックすることができます。URL、DNS 変換 ([ホストの発見的解決](#) を含む)、およびサイトリダイレクトをチェックします。URL で指定されるドキュメントの内容はチェックしません。このため、重複、MIME タイプ、ネットワークエラー、許可などは検出しません。シミュレータは、一覧にあるサイトをロボットが受け入れる (同意) か、受け入れない (拒否) かを表示します。

表 F-11 ロボットシミュレータのプロパティ

属性	デフォルト値	説明
URL	定義済みの URL、および空白のテキストボックス	空白のテキストボックスに URL を入力して、新規サイトへのアクセスをチェックできる。新規のサイトがクローリングを許可するかどうかをチェックする 形式: <code>http://www.sesta.com:80/</code>
DNS エイリアスを確認	True (チェックボックスがオン)	True (チェックボックスがオン) の場合、同じアドレスのエイリアスになっているサーバーの数をチェックする
サーバーリダイレクトを確認 (302)	True (チェックボックスがオン)	True (チェックボックスがオン) の場合、サーバーのリダイレクトをすべてチェックする

サイトプローブ

このページは、DNS エイリアス、サーバーのリダイレクト、および仮想サーバーをチェックするデバッグツールです。このツールは、サイトに関する情報は返しますが、そのサイトがクローリングを許可するかどうかのテストは行いません。

表 F-12 ロボットのサイトプローブの属性

属性	デフォルト値	説明
サイト	空白	<code>http://www.sesta.com:80</code> の形式で URL を入力する
DNS 情報の詳細を表示	False (チェックボックスがオフ)	True (チェックボックスがオン) の場合、IP アドレスを含む、サイトに関する詳細な情報を表示する

スケジュール

このページでは、ロボットの自動検索スケジュールを設定します。

表 F-13 ロボットのスケジュールの属性

属性	デフォルト値	説明
時間指定によるロボットの開始	00:00	ロボットが検索を開始する時刻
曜日	選択されていない	日、月、火、水、木、金、または土 少なくとも1つの曜日にチェックマークを付ける
時間指定によるロボットの停止	00:00	ロボットを連続して作動させる場合でも、毎日1回はロボットを停止し、再スタートすることが推奨される。これにより、ロボットはリソースを解放して初期化することができる
曜日	選択されていない	日、月、火、水、木、金、または土

データベース

データベースの属性は、次のように分けられています。

- [管理](#)
- [インポートエージェント](#)
- [リソース記述](#)
- [スキーマ](#)
- [分析](#)
- [スケジュール](#)

注 データベースをパーティションで区切る場合、検索サーバーの停止が必要になるため、コマンドライン機能を使用する必要があります。

管理

「管理」の最初のページには、利用できるデータベースがリスト表示されます。新規作成、既存データベースのインデックスの再作成、ページ、および有効期限の無効化が可能です。処理の対象となるデータベースを選択するには、対応するチェックボックスにチェックマークを付けます。すべてのデータベースを選択または選択解除すると

きは、チェックボックスの上にある小さなアイコンを使用します。「インデックスの再作成」、「破棄」、「期限切れ」を選択すると、選択されているデータベースの名前と、処理の確認を求めるプロンプトが表示されます。処理を実行する場合は、「了解」を選択します。

スキーマを編集してインデックスを作成したフィールドを(作成者として)追加または削除した場合、またはディスクエラーでインデックスが破損した場合は、データベースのインデックスを再作成する必要があります。スキーマを変更した後でサーバーを再起動する必要があります。

データベースのインデックスの再作成に要する時間は、データベースに含まれる RD の数に比例します。大型のデータベースでは、サーバーの負荷が低い時にインデックスの再作成を行う必要があります。

データベースの内容をパージすると、インデックス用のディスク領域は回復しますが、メインデータベースのディスク領域は回復できません。これは、この領域が新規のデータを追加したときに再利用されるためです。

データベースの有効期限が切れると、古いと見なされるすべての RD が削除されます。データベースのサイズは減少しません。デフォルトでは、RD は作成された日から 90 日で期限切れになるように設定されます。

「編集」リンクをクイックしてデータベース属性を定義するページに移動し、そのページでデータベースを編集することもできます。

表 F-14 データベース管理属性

属性	デフォルト値	説明
名前	デフォルト	検索で使用されるデータベースの名前
タイトル	空白	データベースのタイトル
説明	空白	データベースの説明を入力する

インポートエージェント

インポートエージェントとは、他のサーバーまたはデータベースからリソース記述を取得し、検索データベースにマージするためのプロセスです。

「インポート」ページの最初に、利用可能なインポートエージェントの一覧があります。新規作成、実行、編集、および既存エージェントの削除が可能です。チェックボックスにチェックマークを付けてエージェントを選択し、削除することができます。すべてのインポートエージェントを選択または選択解除するときは、チェックボックスの上にある小さなアイコンを使用します。エージェント動作のオン、オフを切り替えるには、ラジオボタンを使用します。インポートエージェントをスケジューリングするには、下のメニューバーの「スケジュール」を選択します。

既存のインポートエージェントを編集または変更する場合、または新規エージェントの作成を選択する場合は、次の属性が表示されます。

表 F-15 データベースのインポートエージェント属性

属性	デフォルト値	説明
文字セット	新規の場合は空白	入力 SOIF ストリームの文字セットを指定する。たとえば、ISO8859-1、UTF-8、UTF-16 など。ISO8859-1 から ISO8859-15 までの文字セットを使用できる
インポート元	ローカルファイル	ローカルファイルまたは検索サーバー (有効化されているサーバーがある場合) を選択する
ローカルファイルパス	新規の場合は空白	有効なリソース記述が SOIF (<i>Summary Object InterchangeFormat</i>) 形式で記述されているローカルファイルのフルパス名を指定する。別サーバー上のファイルであっても、そのパスがローカルにマウントされたようにアドレス指定できる場合は、指定できる
データベース名	デフォルト	インポート先データベースの名前
リモートサーバー	新規の場合は空白	リソース記述を取得する対象になっている検索サーバーの URL。形式： http://www.sesta.com:80
インスタンス名	新規の場合は空白	検索サーバーが使用するサーバーのインスタンス名。このインスタンス名は、インポート元のサーバーの「サーバー設定」で確認できる。この値は常に 3.01C か 3.01C SP1 のいずれかにする必要がある
検索 URI	新規の場合は空白	完全パスとファイル名を入力する。形式： /portal/search
コンパスサーバー 3.01X を使用	False (チェックボックスがオフ)	インポート元のサーバーが Compass Server 3.01X であるかどうかを指定する
SSL を有効	False (チェックボックスがオフ)	これがサーバー間のトランザクションの場合、サーバーが SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用する必要があるかどうかを指定する

表 F-15 データベースのインポートエージェント属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
認証	なし (デフォルト)	<p>「なし」(デフォルト) または 「ユーザー / パスワード認証を使用」</p> <p>インポート元のシステムに対して、インポートエージェントが認証を示す方法をここで指定する。デフォルトでは認証は使用されない。インポート元のサーバーが認証を要求する場合、インポートエージェントが使用するユーザー名およびパスワードを指定する。3.01C からのインポートでは認証は要求されない。3.01C SP1 からのインポートでは認証が要求される</p>
ユーザー	新規および使用しない場合は空白	「ユーザー / パスワード認証を使用」 を選択した場合はユーザーを入力する
パスワード	新規および使用しない場合は空白	「ユーザー / パスワード認証を使用」 を選択した場合はパスワードを入力する (* として表示される)
コンテンツの転送	「フルコンテンツの増分収集を使用」(デフォルト)	<p>「フルコンテンツの増分収集を使用」(デフォルト) または 「検索クエリの使用」 を選択する</p> <p>これは、リソースのどの記述をソースからインポートするかを指定する</p> <p>デフォルトでは、インポートエージェントは、同じソースから最後にインポートした後に追加または変更された、すべてのリソース記述をインポートすることを要求する</p> <p>検索クエリはインポートエージェントに、特定のリソース記述だけを、ソースからインポートすることを要求するように指定する。これは、ユーザーが検索データベースに対して、リソースリストを要求する場合とほぼ同じである</p>
範囲	新規の場合は空白	<p>「範囲」、「表示属性」、および「表示ヒット」のフィールドを使用してクエリを指定する</p> <p>クエリのテキスト。クエリの構文は、サーバーからのエンドユーザークエリに使用されるものと同じ</p>

表 F-15 データベースのインポートエージェント属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
表示属性	新規の場合は空白	リソース記述の中からインポートするフィールドを指定する (大文字、小文字は区別されない)。たとえば、タイトル、作成者など。デフォルトはすべてインポートされる
表示ヒット	新規の場合は空白	インポートするリソースの説明の一致の最大数。ヒット件数を指定しない場合のデフォルトは 20
エージェント記述	新規の場合は空白	「インポート」ページの最初にある、利用可能なインポートエージェントの一覧に表示される。プログラムはこれを無視する。このフィールドが空白の場合、「リソース記述のソース」のファイル名またはサーバー名が、インポートエージェントの識別に使用される。ユーザー名とパスワードの必要性を確認する必要がある
最新のリソース記述	新規の場合は空白	このインポートエージェントによって以前インポートされた、最新のリソース記述が作成された日付。「フルコンテンツの増分収集を使用」オプションは、この日付を使用して最新のリソースを確認し、インポートすべきかどうかを決定する
ネットワークタイムアウト	新規の場合は空白	ネットワークの接続を、インポートエージェントがタイムアウトさせるまでの秒数を指定する。ネットワークのトラフィックおよび品質の変動を考慮して調整する

リソース記述

「リソース記述」の最初のページでは、データベース内のリソース記述を検索できません。たとえば、RD の誤植の修正をしたり、ロボットが検出した RD を手動でカテゴリに割り当てることができます。

表 F-16 リソース記述属性

属性	デフォルト値	説明
検索対象	すべての RD	すべての RD、カテゴリ化されていない RD、カテゴリ化された RD、カテゴリごとの RD、URL 特定の RD、RD を検索する

表 F-16 リソース記述属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
テキストボックス	空白	検索対象の RD を識別するために固有の文字列を入力する。カテゴリごとの RD、URL 指定の RD、および属性値を含む RD に適用される
データベース カテゴリの選択	デフォルト	検索対象データベースの名前 カテゴリツリーをブラウズし、カテゴリを選択する
削除		RD 検索で返された 1 つまたは複数の RD を選択し、削除する
次へ		RD 検索で返された次の RD セットを表示する
前へ		RD 検索で返された前の RD セットを表示する
選択内容を編集		RD 検索で返された 1 つまたは複数の RD の属性を編集する
すべて編集		RD 検索で返された、現在表示されている RD セットの属性を編集する

検索をカテゴリ単位で制限するときは、「カテゴリの選択」を選択します。「カテゴリエディタ」ページが表示され、分類から検索対象カテゴリを指定できます。カテゴリを選択するときは、「選択されているカテゴリ」テキストボックスにカテゴリを指定するか、分類をブラウズして選択します。カテゴリを選択したら、「了解」をクリックして RD 検索ページに戻ります。

表 F-17 カテゴリエディタの属性

属性	デフォルト値	説明
選択されているカテゴリ	空白	選択したカテゴリを表示するテキストフィールド
すべて展開		分類を展開する。階層内のすべてのエントリーをブラウズできる
すべて縮小	空白	分類を縮小表示する。階層内の最初の 2 レベルに含まれるカテゴリだけをブラウズできる

表 F-17 カテゴリエディタの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
各ページのカテゴリ	25	1 ページに表示するカテゴリの数を指定するドロップダウンリスト。指定できる値は、25、50、100、250、500、およびすべて

検索が成功すると、見つかった RD の件数が表示され、リストボックスにその RD が表示されます。RD の「編集」リンクをクリックすると、次の属性 (編集可能) と RD の部分的なテキストが表示されます。「Classification」以外の属性は、すべて「データベース」、「スキーマ」ページで編集できます。

表 F-18 データベース RD の編集可能な属性

属性	デフォルト値	説明
作成者	空白	ドキュメントの作成者
Author e-mail	空白	ドキュメント作成者に連絡するための電子メールアドレス
Classification	選択した RD のカテゴリ名	分類されている場合はカテゴリ名、分類されていない場合は「No Classification」が表示される
ReadACL	空白	ドキュメントレベルのセキュリティに関連する
Content-Charset		HTTP サーバーから取得した、コンテンツの文字セットの情報
Content-Encoding	空白	HTTP サーバーから取得した、コンテンツのエンコードの情報
Content-Language	空白	HTTP サーバーから取得した、コンテンツの言語の情報
Content-Length	空白	HTTP サーバーから取得した、コンテンツの長さの情報
Content-Type	空白	HTTP サーバーから取得した、コンテンツのタイプの情報
説明	選択した RD から取得した説明	RD の説明
Expires	有効な日付	リソース記述が無効になる日付
Full-Text	空白	ドキュメントの全内容
キーワード	キーワードがあれば選択した RD から取得される	メタタグから取得したキーワード

表 F-18 データベース RD の編集可能な属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
Last-Modified	最終更新日	ドキュメントの最終更新日
部分的なテキスト	ドキュメントの部分的なテキスト	ドキュメントから選択して抜粋した部分的テキスト
電話番号	空白	作成者の連絡先電話番号
Title	選択した RD のタイトル	RD のタイトル
URL	空白	ドキュメントの URL (Uniform Resource Locator)

スキーマ

リソース記述に含まれる情報、およびその情報の形式は、スキーマによって決定されます。RD への新規の属性またはフィールドの追加や、編集およびインデックス作成の可否の設定が可能です。新規の RD をインポートする場合、新規 RD に組み込まれているスキーマを変換して取り込むことができます。

表 F-19 データベーススキーマ編集属性

属性	説明
作成者	ドキュメントの作成者
Author-EMail	ドキュメント作成者に連絡するための電子メールアドレス
Content-Charset	HTTP サーバーから取得した、コンテンツの文字セットの情報
Content-Encoding	HTTP サーバーから取得した、コンテンツのエンコードの情報
Content-Language	HTTP サーバーから取得した、コンテンツの言語の情報
Content-Length	HTTP サーバーから取得した、コンテンツの長さの情報
Content-Type	HTTP サーバーから取得した、コンテンツのタイプの情報
説明	ドキュメントについての、一行だけの簡単な説明
Expires	リソース記述が無効になる日付
Full-Text	ドキュメントの全内容
キーワード	ドキュメントを最も良く表すキーワード
Last-Modified	ドキュメントの最終更新日
部分的なテキスト	ドキュメントから選択して抜粋した部分的テキスト
電話番号	作成者の連絡先電話番号

表 F-19 データベーススキーマ編集属性 (続き)

属性	説明
ReadACL	検索サーバーがセキュリティを実行するために使用
Title	ドキュメントのタイトル
URL	ドキュメントの URL (Uniform Resource Locator)
エイリアス 名前 説明	新規の RD をインポートする場合、新規 RD に組み込まれているスキーマを変換できる。この変換は、インポートするデータベースのスキーマと、データベースの RD 用スキーマで使用されているフィールド名が矛盾する場合に使用する。たとえば、インポートした RD は作成者のフィールドに Writer を使用しているが、データベースの RD は Author を使用している場合がある。 Writer を Author に変換する必要があるため、このテキストボックスに Writer と入力する
データタイプ	データタイプを指定する
編集可能	True (チェックボックスがオン) の場合、選択された属性 (フィールド) がデータベースの RD エディタに表示され、値を変更できる 「説明」、「キーワード」、「タイトル」、および「ReadACL」を編集できる
インデックス作成可能	True (チェックボックスがオン) の場合、選択した属性 (フィールド) を基準にしてインデックスが作成される エンドユーザー「詳細検索」画面のメニューに、「作成者」、「タイトル」、「URL」が表示される。エンドユーザーは、これらの特定のフィールドで値を検索することができる。 「作成者」、「Expires」、「キーワード」、「Last Modified」、「タイトル」、「URL」、および「ReadACL」はインデックス作成の基準に使用できる
乗数のスコア	特定の要素の重みを指定するフィールド。任意の正の値が有効

分析

「解析」ページには、すべてのサイトのソート済みリストと、現在検索データベースにあるサイトのリソースの数が表示されます。ファイルの分析を更新するときは、「分析の更新」を選択します。

表 F-20 データベース分析属性

属性	デフォルト値	説明
RD の合計数	データベースの現在の RD の数	現在データベースにあるリソース記述の数を表示する
サーバーの数	パーティションによって分割されたデータベースが配置されているサーバーの現在の数	データベースは、パーティションで分割して複数のサーバーに配置することができる
サイト	ロボットが検索に成功した URL またはドメイン	データベースにリソース記述を追加した URL またはドメイン
RD の数	そのサイトの現在の RD の数	そのサイトから取得した現在の RD の数を表示する
タイプ	RD のタイプ	リソース記述には、http など、さまざまなタイプがある
タイプの割合	そのタイプの RD の数を RD の総数で割った比率	リソース記述の総数に対して、このタイプが占める割合

スケジュール

このページでは、インポートエージェントの実行スケジュールを設定します。

表 F-21 データベースのインポートスケジュール属性

属性	デフォルト値	説明
時間指定によるインポート開始	00:00	インポートエージェントがインポートを開始する時刻
曜日	選択されていない	日～土 少なくとも1つの曜日にチェックマークを付ける

カテゴリ

エンドユーザーは2つの別な方法で検索データベースと対話します。クエリを直接入力してデータベースを検索する方法と、カスタムなカテゴリセットを使用してデータベースコンテンツ経由でブラウズする方法があります。検索データベースのリソースにカテゴリを割り当てると、複雑さを解消できます。データベースに多数の項目がある場合には、関連する項目をグループ化すると便利です。カテゴリの設定を行う場合は特に使いやすさを考慮し、特定の項目をエンドユーザーが素早く見つけられるようにします。

検索サーバーは分類と呼ばれるカテゴリの階層を使用します。一般的に「分類」という言葉は、すべてのカテゴリ化方式を表します。検索サーバーデータベースのようなネットワーク型リソースデータベースの場合は、取得しやすくするために選択された、ネットワークリソースをカテゴリ化する方法を表します。

「カテゴリ」のトピックは、次のサブトピックに分れています。

- [カテゴリエディタ](#)
- [分類ルールエディタ](#)

カテゴリエディタ

「カテゴリエディタ」ページには、分類に含まれるカテゴリがリスト表示され、カテゴリをブラウズできます。カテゴリをブラウズしたら、カテゴリのリンクを選択して「分類ルールエディタ」を呼び出し、特定のカテゴリでのロボット収集を設定できます。

表 F-22 カテゴリエディタの属性

属性	デフォルト値	説明
すべて展開		分類を展開する。階層内のすべてのエントリをブラウズできる
すべて縮小		分類を縮小表示する。階層内の最初の2レベルに含まれるカテゴリだけをブラウズできる
インデックスの再作成		データベースのインデックスを再作成する。分類を作成したら、データベースのインデックスを作成し、エンドユーザーがカテゴリ検索を利用できるようにする必要がある。カテゴリを変更した場合は、インデックスを再作成してカテゴリを最新の状態にする必要がある。データベースのインデックスを再作成する前に、カテゴリツリーを保存する。次に、新しい分類をロードする

表 F-22 カテゴリエディタの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
各ページのカテゴリ	25	1 ページに表示するカテゴリの数を指定するドロップダウンリスト。指定できる値は、25、50、100、250、500、およびすべて
名前	選択したカテゴリ	編集のために選択したカテゴリの名前を表示する
説明	空白	選択しているカテゴリの説明を表示する
一致規則	空白	選択しているカテゴリに適用される一致規則を表示する
更新		カテゴリの定義を更新する
子として追加		カテゴリを子として追加する
兄弟として追加		カテゴリをシブリングとして追加する

分類ルールエディタ

データベース用のカテゴリを設定したら、「新規」をクリックして、選択しているカテゴリのロボットのルールを設定または変更し、カテゴリにリソースを割り当てます。

表 F-23 カテゴリ分類ルールエディタの属性

属性	デフォルト値	説明
ソース	作成者	有効な属性は次のとおり <ul style="list-style-type: none"> • 作成者 • Author-EMail • Content-Charset • Content-Encoding • Content-Language • Content-Length • Content-Type • 説明 • Expires • Full-Text • キーワード • Last-Modified • 部分的なテキスト • 電話番号 • ReadACL • タイトル • URL • ホスト • プロトコル • IP • パス • タイプ
メソッド	is	「である (is)」、「を含む (contains)」、「で始まる (begins with)」、「で終わる (ends with)」、「正規表現 (regular expression)」
基準	空白	ルールの条件を指定する

表 F-23 カテゴリ分類ルールエディタの属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
Classification	空白	ルールの条件と一致した場合に、その RD を分類するカテゴリ。カテゴリ名を入力するか、「カテゴリの選択」ページでブラウズする

レポート

「レポート」のセクションでは、検索サーバーを監視することができます。この操作の要約を表示することができます。要約には、検索したサイト、除外された URL と除外の理由、ロボットがアクセスした URL の詳細情報、エンドユーザーの興味の対象が含まれます。

「レポート」のトピックは、次のサブトピックに分れています。

- [開始位置](#)
- [除外された URL](#)
- [ロボットの詳細レポート](#)
- [ログファイル](#)
- [頻度の高い検索](#)

開始位置

ロボットは、始動するたびにすべての有効なサイトを訪問します。

表 F-24 レポートの開始位置の属性

属性	デフォルト値	説明
有効	サイトの現在の値	はい、またはいいえ 「ロボット」、「サイト」ページで設定される
開始位置	選択された URL:80	選択された URL へのリンク
サイト定義	選択された URL	「ロボット / サイト」編集ページへリンクする
深さ	選択された検索レベル	「ロボット」「サイト」編集ページで設定された 1-n の値。

除外された URL

「除外 URL」ページには、ロボットの実行結果が表示されます。URL が除外された理由のリストを表示するには、まず、調べるロボット実行を選択します。次に「選択内容の表示」をクリックし、「除外の理由」の1つを選択します。その理由で除外された URL のリストが表示されます。重複および警告によって除外された URL は消去されています。

表 F-25 レポートの除外された URL の属性

属性	デフォルト値	説明
ログ	最新の実行ログのリスト	利用可能なすべての実行ログすべてのリスト
カウント	数字	除外された数、および除外理由のリスト
除外の理由	サイトが許可されなかった理由のリスト。それぞれの理由は、その理由で除外されたすべての URL の一覧にリンクされている	URL が除外された理由には、フィルタルール、ファイルが見つからない、サイトが許可されない、プロトコルが許可されない、エラー、重複などがある

ロボットの詳細レポート

「ロボットの詳細レポート」ページでは、ロボットが生成する各種レポートにアクセスできます。ドロップダウンリストからレポートを選択して情報を表示します。「更新」ボタンをクリックすると、最新の情報が表示されます。

表 F-26 ロボットの詳細レポートの属性

属性	デフォルト値	説明
ロボットの詳細レポート	バージョン	バージョン (Version)、DNS キャッシュダンプ (DNS Cache Dump)、パフォーマンス (Performance)、検出されたすべてのサーバー (Servers Found-All)、検出された RDM サーバー (Server Found-RDM)、現在の構成状態 (Status-Current Configuration)、データベース (内部) の状態 (Status-Database(internal))、Libnet の状態 (Status-Libnet)、モジュールの状態 (Status-Modules)、状態の概要 (Status-Overview)、抽出準備の完了した URL (URL s-ready for extraction)、インデックス作成準備の完了した URL (URL s-ready for indexing)、フィルタリング待ちの URL (URL プール) (URL s-waiting for filtering (URL pool))、インデックス作成待ちの URL (URL s-waiting for indexing)、全レポート (all reports)。

ログファイル

ログファイルのエントリまたは特定の行を表示できます。ドロップダウンリストからログファイルを選択します。「表示」ボタンを選択し、表示する行数を指定します。

表 F-27 レポートのログファイル表示の属性

属性	デフォルト値	説明
このログファイルを表示	除外された URL (filter)	除外された URL (filter)、RD マネージャ (rdmgr)、RDM サーバー (rdmsvr)、ロボットの活動 (robot)、検索エンジン (searchengine)、ユーザークエリ (rdm)
行数	25	ログファイルから表示する最新のエントリ数を指定する

頻度の高い検索

「頻度の高い検索」ページでは、ユーザーが何を検索したかを確認できます。レポートの先頭には、最も頻度の高い検索が表示されます。

表 F-28 頻度の高い検索の属性

属性	デフォルト値	説明
ブラウザの閲覧は対象外	False (チェックボックスがオフ)	False (チェックボックスがオフ) の場合は、ユーザーが参照したカテゴリを含める。 True (チェックボックスがオン) の場合は、参照の統計情報を除外する

登録の属性

登録サービスは、ダイナミック属性およびユーザー属性で構成されています。ダイナミック属性に適用される値は、Sun™ ONE Identity Server 設定に適用され、また今後設定されるすべての組織に継承されます。Sun ONE Identity Server アプリケーションをカスタマイズすることがグローバル属性の目的であるため、値を直接ロールまたは組織に適用することはできません。ユーザー属性に適用される値は、ユーザーごとに割り当てられます。ユーザーにロールを割り当てる場合、または組織でユーザーを作成する場合は、ダイナミック属性がそのユーザーの特性となります。

登録の属性は、次のように分けられます。

- [登録のダイナミック属性](#)
- [登録のユーザー属性](#)

登録のダイナミック属性

表 G-1 は、登録サービスのダイナミック属性を示しています。

この表には、3つの列があります。最初の列は属性、2番目の列は属性のデフォルト値、3番目の列は属性の説明を示します。

表 G-1 登録サービスのダイナミック属性

属性	デフォルト値	説明
カテゴリ登録の最大数	5	Identity Server で定義され保存される、カテゴリ登録の最大数を指定する
ディスカッション登録の最大数	5	Identity Server で定義され保存される、ディスカッション登録の最大数を指定する
保存される検索の最大数	5	Identity Server で定義され保存される、保存される検索登録の最大数を指定する

表 G-1 登録サービスのダイナミック属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
競合の解決レベル	最も高い	<p>複数の登録テンプレートをマージしたときに、競合を解決するために使用する登録サービステンプレートの競合の解決レベルを設定する。最高から最低まで7段階で解決レベルを設定できる</p> <p>この設定は、ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位ではない。ディスプレイプロファイルドキュメントの優先順位は数値で表し、<code>priority=</code> 文タグを使用してXMLの中で設定する。マージが発生した場合、優先順位が最低 (最小値) のディスプレイプロファイルドキュメントから順に処理され、最後に優先順位が最高のディスプレイプロファイルであるユーザー (ベース) に到達する</p> <p>属性の競合が存在する場合は、競合の解決レベルが最も高いテンプレートセットの属性が返される</p>

登録のユーザー属性

表 G-2 は、登録サービスのユーザー属性を示しています。

この表には、3つの列があります。最初の列は属性、2番目の列は属性のデフォルト値、3番目の列は属性の説明を示します。

表 G-2 登録サービスのユーザー属性

属性	デフォルト値	説明
ディスカッション登録	デフォルトの登録なし	<p>このフィールドでは、登録の詳細を定義する。表示形式は</p> <p><i>label target category scope lapsed time</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>label</i> は、自由形式文字列• <i>target category</i> は、カテゴリ ID を表しているコロン区切りの文字列• <i>scope</i> は、検索クエリ項目• <i>lapsed time</i> は、コンテンツが登録された時点を登録の評価された時点からさかのぼって示す。登録評価は、ユーザーが登録チャンネルにアクセスすると実行される

表 G-2 登録サービスのユーザー属性 (続き)

属性	デフォルト値	説明
ディスカッション登録	デフォルトの登録なし	<p>このフィールドでは、登録の詳細を定義する。表示形式は</p> <p><i>label target discussion RD's URL scope lapsed time minimum rating</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>label</i> は、自由形式文字列 • <i>target discussion RD's URL</i> は、ディスカッション ID を表す空白文字区切りの文字列 • <i>scope</i> は、検索クエリ項目 • <i>lapsed time</i> は、コンテンツが登録された時点を登録の評価された時点からさかのぼって示す。登録評価は、ユーザーが登録チャンネルにアクセスすると実行される • <i>minimum rating</i> は、登録がコンテンツを生成する基準となるしきい値。このフィールドには、ユーザーの選択する基準 (重要でない、普通、興味、重要、必読) にそれぞれ対応する数値 (-1、0、1、2、3) が表示される
保存される検索登録	デフォルトの登録なし	<p>このフィールドでは、登録の詳細を定義する。表示形式は</p> <p><i>label scope lapsed time</i></p> <p>ここで</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>label</i> は、自由形式文字列 • <i>scope</i> は、検索クエリ項目 • <i>lapsed time</i> は、コンテンツが登録された時点を登録の評価された時点からさかのぼって示す。登録評価は、ユーザーが登録チャンネルにアクセスすると実行される

SSO アダプタテンプレートと設定

この付録では、SSO (シングルサインオン) アダプタを設定して、エンドユーザーが利用できるオプションを調節する方法について説明します。

この付録で説明する内容は次のとおりです。

- [シングルサインオンアダプタの概要](#)
- [SSO アダプタテンプレートの形式 : Global](#)
- [SSO アダプタ設定の形式 : ダイナミック](#)
- [SSO アダプタテンプレートと設定の例](#)

シングルサインオンアダプタの概要

シングルサインオンアダプタサービスを使用することで、エンドユーザーは Portal Server プロバイダやその他の Web アプリケーションなどのアプリケーションを使用し、1回のサインオンだけで各種リソースサーバーに認証アクセスすることができます。アクセスできるリソースサーバーは、システムに実装されている SSO アダプタインタフェースによって異なります。現時点では、Sun™ ONE Portal Server はアドレス帳、カレンダー、メールのリソースサーバーに対応した SSO アダプタを提供しています。インスタントメッセージチャネルのシングルサインオンは、SSO アダプタ経由では利用できませんが、Sun ONE Identity Server 認証方法経由で利用できます。この方法については、[310 ページの表 12-1](#) の authMethod プロパティを参照してください。アドレス帳、カレンダー、メールの各サービスは、次の製品で利用できます。

- Sun™ ONE Calendar Server 5.1.1, 6.0
- Sun™ ONE Messaging Server 5.2, 6.0

リソースサーバーには、通常はメールサーバー用の JavaMail など、標準的な API (アプリケーションプログラミングインタフェース) を使用して、アプリケーションによってアクセスされます。API を使用して認証接続を作成するには、API が接続の設定データを提供する必要があります。SSO アダプタの目的は、この設定データを供給することであり、データの格納には SSO アダプタサービスが使用されます。

SSO アダプタサービスは、テンプレートと設定という 2 つのレベルのデータを定義します。SSO アダプタテンプレートは、ユーザーが利用することになる接続のクラスを定義します。複数のユーザーが 1 つのテンプレートを使用できます。テンプレートは、そのテンプレートを使用するすべてのユーザーの同一のデータ値を定義します。これには、デフォルト値と、ユーザーが編集できる値に関する情報が含まれます。このため、SSO アダプタテンプレートは、グローバルサービスレベルで定義されます。

SSO アダプタ設定は、テンプレートの設定に加えて、組織、ロール、またはユーザーに固有のデータ値を提供します。設定はテンプレートを参照し、ユーザーが編集できないプロパティのデータ値をテンプレートから取得します。エンドユーザーが、SSO アダプタ設定の編集可能なプロパティを変更すると、その設定は、そのエンドユーザーだけに適用されます。

SSO アダプタサービスを使用する Sun ONE Portal Server の通信チャネルは、テンプレートまたは設定のいずれかを参照し、リソースサーバーとの接続に必要なデータ値を取得します。チャネルがテンプレートを参照する場合、ユーザーが設定情報を保存と、チャネルは設定を参照するようになります。参照された設定は、テンプレートを参照します。

SSO アダプタテンプレートの形式 : Global

SSO アダプタのグローバル属性

533 ページの表 H-1 は、SSO アダプタの唯一の属性である、グローバル属性を示します。この表には、3 つの列があります。最初の列は属性、2 番目の列は属性のデフォルト値、3 番目の列は属性の説明を示します。

表 H-1 SSO アダプタのグローバル属性

属性	デフォルト値	説明
SSOAdapterTemplates	デフォルト値は、インストール時に設定したサービスによって異なる。	<p>SSOAdapterTemplates 属性は、それぞれが URL の形式で指定された文字列のリストである。この文字列は、名前と値のペアを効率的に定義する。この属性は、システムで利用できるすべての SSO アダプタを定義する。また、SSO アダプタを設定するすべての方法も定義する</p> <p>SSO アダプタのデフォルト値は SSOAdapterTemplates 属性内に定義され、組織、ロール、ユーザーに固有のインスタンスは、SSOAdapterConfigurations 属性に格納される</p>

SSO アダプタテンプレートへのアクセス

Sun™ ONE Identity Server 管理コンソールから SSO アダプタテンプレートにアクセスするには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」タブをクリックします。設定できるサービスのリストがナビゲーションパネル(左下のフレーム)に表示されます。
3. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネル(右下のフレーム)に「SSO アダプタ」ページが表示されます。

SSO アダプタテンプレートについて

SSO アダプタテンプレートは、サーバー設定を処理するために作成されました。テンプレートは、W3C (World Wide Web Consortium) が発行する RFC 1738 で定義されている URL (Uniform Resource Locator) を表します。

テンプレート文字列にはさまざまなプロパティが含まれ(設定されている場合)、必要な情報をバックエンドシステムに供給します。

管理者はテンプレート文字列を編集して、文字列内でプロパティの値を割り当て、そのプロパティを使用する特定のルールを適用することができます。

テンプレート文字列は、「default」という単語から始まり、パイプ記号(|)が続きます。管理者が入力するテンプレート文字列も、「default|」という組み合わせから開始する必要があります。各テンプレート文字列のパイプ記号の後には、プロトコルが指定されます。IMAP プロトコルと POP プロトコルを含む文字列はメールの SSO アダプタ実装に適用され、HTTP プロトコルを含む文字列はカレンダーの SSO アダプタ実装に適用され、LDAP プロトコルを含む文字列はアドレス帳の SSO アダプタ実装に適用されます。

コード例 H-1 は、アドレス帳の SSO アダプタテンプレートを示しています。この例では、LDAP のデフォルトポート 389 ではなく、ポート 489 を使用します。デフォルト以外の LDAP ポートを使用するこの例には、デフォルトの LDAP ポートを使用した場合には必要のない、コロンで区切られた LDAP ポート番号 :489 と、それより下の文字列 &default=port という 2 つのコードが含まれます。

テンプレート文字列は、長い 1 行の文字列として表示されますが、次の文字列では、読みやすいようにアンパサンド記号 (&) の直前に改行が加えられています。

コード例 H-1 アドレス帳の SSO アダプタテンプレート

```
default|ldap://company22.example.com:489/?configName=SUN-ONE-ADDRESS-BOOK
&pabSearchBase=o=pab
&userSearchBase=o=example.com
&aid=uid=msg-admin,ou=People,o=company22.example.com,o=example.com
&adminPassword=admin
&imapHost=imserver.company22.example.com
&imapPort=143
&clientPort=1080
&enableProxyAuth=false
&proxyAdminUid=[PROXY-ADMIN-UID]
&proxyAdminPassword=[PROXY-ADMIN-PASSWORD]
&userAttribute=uid
&type=AB-TYPE
&subType=sun-one
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.LDAPABSSOAdapter
&encoded=password
&default=ssoClassName
&default=host
&default=port
&default=pabSearchBase
&default=userSearchBase
&default=aid
&default=adminPassword
&default=imapHost
&default=imapPort
&default=clientPort
&default=type
&default=subType
&default=enableProxyAuth
&default=proxyAdminUid
&default=proxyAdminPassword
&default=userAttribute
```

コード例 H-1 アドレス帳の SSO アダプタテンプレート (続き)

```
&merge=uid
&merge=password
&default=enablePerRequestConnection
&enablePerRequestConnection=true
```

次のコード行は、SSO アダプタテンプレート文字列または SSO アダプタ設定文字列の冒頭部分に指定できるプロパティの例を示しています。この部分をコード例 H-1 と比較すると、プロパティにどのように値が割り当てられるかがわかります。表 H-2 は各プロパティについて、表 H-3 はプロパティのタイプについて説明しています。

```
protocol://uid:password@host:port/?configName=configuration-name&ssoClassName=
sso-adapter-class&...
```

SSO アダプタテンプレート文字列の冒頭部分の形式は、テンプレート (その Sun ONE Portal Server インスタンスのすべてのユーザーに適用される) と設定 (特定の組織、ロール、ユーザーに適用される) の両方にとって適切なものです。しかし、テンプレート文字列と設定文字列の冒頭部分では、特定のコードが指定されないことがよくあります。たとえば、「uid:password@」というコードは特定のユーザーを指定することが多いので、多くのテンプレートでは指定されません。

SSO アダプタテンプレート内の前述のコードは、すべてのユーザーに同じユーザー ID とパスワードを設定します。このような設定が説得力をもつ状況もあります。たとえば、サイト全体のイベントを示す読み取り専用のカレンダーを作成する場合などが、これに該当します。すべてのユーザーが同じユーザー ID とパスワードを使用してデスクトップにカレンダーチャンネルを表示し、同じカレンダーを参照します。

表 H-2 SSO アダプタテンプレート文字列の一部のプロパティ

プロパティ名	説明	必要性
protocol	サーバーとの接続に使用するプロトコル	省略可能
uid	ホストが参照するサーバーのユーザー ID	省略可能
password	ホストが参照するサーバーのユーザーパスワード (暗号化される)	省略可能
host	サーバーホスト名	省略可能
port	サーバーポート番号	省略可能
configName	SSO アダプタテンプレートの名前	必須
ssoClassName	SSO アダプタの完全修飾クラス名	必須

表 H-2 SSO アダプタテンプレート文字列の一部のプロパティ (続き)

プロパティ名	説明	必要性
type	<p>SSO アダプタテンプレートまたは設定が適用されるサービスのタイプ。このプロパティは、SSO アダプタテンプレートまたは設定をタイプ関連のグループにまとめる。たとえば、選択が明示的でなかった場合のデフォルト設定を選択する場合に便利である。現時点では、次の値を指定できる</p> <ul style="list-style-type: none"> • AB-TYPE • MAIL-TYPE • CALENDAR-TYPE 	省略可能
subType	<p>SSO アダプタテンプレートまたは設定が適用される、ベンダーまたは製品に固有のプラットフォーム。このプロパティは、特定の製品またはプラットフォームの機能をサポートする場合に便利である。現時点では、次の値を指定できる</p> <ul style="list-style-type: none"> • sun-one • notes • exchange 	省略可能
enablePerRequestConnection	<p>パフォーマンス調整オプション。このブルプロパティのデフォルト設定は true である</p> <p>enablePerRequestConnection=true の場合、ポータルデスクトップへのすべての要求で、バックエンドストアへの新しい接続が開いたり、閉じたりする</p> <p>enablePerRequestConnection=false の場合、ポータルへのログイン時にポータルデスクトップはバックエンドストアへの新しい接続を開き、ユーザーのセッションが終了したときに接続を閉じる</p>	省略可能

SSO アダプタテンプレートは、次のプロパティタイプを認識します。

表 H-3 SSO アダプタテンプレート文字列のプロパティタイプ

プロパティタイプ	説明
merge	<p>ユーザーがこの値を編集できることを指定する。534 ページのコード例 H-1 では、ユーザーが編集できる値は uid と password の 2 つだけである</p>
default	<p>属性にデフォルト値が設定されることを指定する。これは、実際には 2 段階のプロセスで行われる。534 ページのコード例 H-1 では、imapPort はまず文字列 &imapPort=143 で特定のポートに設定され、その後で文字列 &default=imapPort によってデフォルトとして設定される</p> <p>SSO アダプタテンプレートと SSO アダプタ設定のコードを示す次の例は、default プロパティの仕組みを表している</p> <ul style="list-style-type: none"> • SSO アダプタテンプレート <pre data-bbox="639 690 1225 713">configName=t1&ex1=ex2&exa=exb&default=exa</pre> <ul style="list-style-type: none"> • SSO アダプタ設定 <pre data-bbox="639 782 1025 805">configName=c1&configDesc=t1</pre> <p>この場合、SSO アダプタ実装側では、プロパティのリストは次のように特定される</p> <pre data-bbox="639 904 739 927">exa=exb</pre> <p>テンプレートに指定されている ex1=ex2 はデフォルト属性のリストに含まれないため、無視される</p>

表 H-3 SSO アダプタテンプレート文字列のプロパティタイプ

プロパティタイプ	説明
encoded	<p>クリアテキストとしてではなく、難読化された形式で属性が渡されることを指定する。534 ページのコード例 H-1 では、password の値だけが暗号化されている</p> <p>adminPassword の値は暗号化されていない。 adminPassword などのプロパティを暗号化するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SSO アダプタテンプレート文字列に暗号化された値を入力する。この例では、次のコードの等号の後に暗号化された値を指定する <pre data-bbox="546 557 758 579">&adminPassword=</pre> <ul style="list-style-type: none"> • プレーンテキストを暗号化するには、Sun ONE Identity Server SDK (ソフトウェア開発キット) の次のクラスを使用する。この <i>plain-text-value</i> は、暗号化前のプロパティの値を示す <pre data-bbox="546 736 1015 758">AMPaswordUtil.encrypt plain-text-value</pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. 暗号化するプロパティに encoded を割り当てるコードを追加する。この例ではプロパティが adminPassword なので、文字列の最後 (操作が簡単な場所) に次のように追加する <pre data-bbox="546 961 862 984">&encoded=adminPassword</pre> <p>これにより、SSO アダプタテンプレートは次のように変更される</p> <pre data-bbox="546 1083 1043 1130">...merge=uid&merge=password&encoded=adminPassword</pre>

SSO アダプタ設定の形式：ダイナミック

SSO アダプタのダイナミック属性

表 H-4 は、SSO アダプタのダイナミック属性を示しています。この表には、3つの列があります。最初の列は属性、2番目の列は属性のデフォルト値、3番目の列は属性の説明を示します。

表 H-4 SSO アダプタのダイナミック属性

属性	デフォルト値	説明
Conflict ResolutionLevel	最も高い	<p>複数のテンプレートをマージしたときに、競合を解決するために使用する SSO アダプタテンプレートの競合の解決レベルを設定する。最高から最低まで7段階で解決レベルを設定できる</p> <p>属性の競合が存在する場合は、競合の解決レベルが最も高いテンプレートセットの属性が返される</p>
SSOAdapterConfigurations	デフォルト値は、インストール時に設定したサービスによって異なる	<p>SSOAdapterConfigurations 属性は、それぞれが URL の形式で指定された文字列のリストである。この文字列は、SSOAdapterTemplates 属性に定義されている SSO アダプタの特定のインスタンスを定義する</p> <p>SSO アダプタのデフォルト値は SSOAdapterTemplates 属性内に定義され、組織、ロール、ユーザーに固有のインスタンスは、SSOAdapterConfigurations 属性に格納される</p>

SSO アダプタ設定へのアクセス

注 SSO アダプタ設定を編集するには、次に示す手順を実行します。手順 2 で「アイデンティティ管理」を選択して設定にアクセスします。「SSO アダプタテンプレートへのアクセス」で選択した「サービス設定」ではないので注意してください。

Sun ONE Identity Server 管理コンソールから SSO アダプタ設定にアクセスするには

1. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://pssserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
4. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。

SSO アダプタ設定について

コード例 H-2 は、メールの SSO アダプタ設定を示しています。

コード例 H-2 メール of SSO アダプタ設定

```
default|imap:///?configName=sunOneMail&configDesc=SUN-ONE-MAIL
```

前述のように、ダイナミック SSO アダプタ設定の形式は、グローバル SSO アダプタサービステンプレートの形式と同じです。

```
protocol://uid:password@host:port/?configName=configuration-name  
configDesc=sso-adapter-template&....
```

SSO アダプタテンプレートの場合、冒頭部分の一部 (`uid:password@host:port` など) が表示されないことがあります。SSO アダプタ設定文字列の場合、組織またはロールレベルではこの部分が表示されませんが、ユーザーレベルでは表示されます。

ダイナミックレベルで認識されるプロパティは次のとおりです。

表 H-5 SSO アダプタ設定文字列のプロパティ

プロパティ	説明	必要性
configName	SSO アダプタテンプレートまたは設定の定義を識別する一意の識別子	必須
configDesc	SSO アダプタテンプレートの値。ダイナミック SSO アダプタ設定文字列から取得される configDesc プロパティの値は、グローバル SSO アダプタ文字列の configName プロパティから取得される値と同じである (2 つの文字列が同じプロトコルから開始される場合)	必須

SSO アダプタテンプレートと設定の例

次に示す 2 つの例は、ポータルチャンネルの設定をどのように作成および共有するかを示しています。どちらの例でも、SSO アダプタテンプレートと設定で使用されるデータは、ほとんど変わりません。ただし、最初の例はプロパティをグローバルに共有する方法を示し、2 番目の例は 1 つの組織でプロパティを共有する方法を示しています。どちらの例でも、ユーザー ID とパスワード情報によってユーザーを制限し (編集によって情報の入力が必要になります)、通過したユーザーのデスクトップからそのチャンネルを呼び出します。

SSO アダプタテンプレート内でのサーバーの定義

組織レベルでのサーバーの定義

一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合

次の 2 つの例で説明する方法で SSO アダプタテンプレートと設定を変更しても、すべてのユーザーがデスクトップ上で変更を確認できるわけではありません。デスクトップからチャンネルを編集し、すでにチャンネル設定が編集されているユーザーは、既存、新規に関係なく、それ以後に管理者がチャンネルに加える変更を確認できません。管理者の設定をこれらのユーザーに実装する方法については、「一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合」を参照してください。

SSO アダプタテンプレート内でのサーバーの定義

ここでは、グローバルに共有されるサーバーでの SSO アダプタテンプレートの設定について説明します。グローバルレベルのすべてのサブ組織 (組織からロールまで) が同じ設定を共有します。組織レベルでサーバーを設定する方法については、[547 ページ](#)の「[組織レベルでのサーバーの定義](#)」を参照してください。

この設定により、ユーザーのデスクトップに「メール」チャンネルが表示され、ユーザーは「メール」チャンネルを編集できるようになります。ユーザーは、ここで各自の証明情報 (ユーザー ID (uid) とパスワード) を入力するだけで設定が完了します。

次の例では、新しい SSO アダプタテンプレート、SSO アダプタ設定、メールチャンネルを作成します。

1. この例で使用する、credentialMailTemplate という新しい SSO アダプタテンプレートを追加します。
 - a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
 - b. 「サービス設定」タブをクリックします。設定できるサービスのリストがナビゲーションパネルに表示されます。
 - c. 「シングルサインオンアダプタの設定」までナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
 - d. 設定を説明するフィールド (「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります) が空の状態、その内側をクリックします。このフィールドは、「ダイナミック」の反対の「グローバル」という見出しの下にある「SSO アダプタテンプレート」というボックスにあります。
 - e. 設定を説明するフィールドが空の状態、そこに後述の [コード例 H-3](#) に示される SSO アダプタテンプレート文字列全体を入力します。例に示される変数情報がサイト固有の情報と一致しない場合は、サイト固有の情報に置き換えてください (`credentialMailTemplate,company22.example.com:143,company22.example.com,true,and 1080` の一部、またはすべてで変更が必要になる可能性があります)。

ページを表示したときにフィールドが空でなかった場合は、フィールド内のテキストをすべて選択し、削除します。

コード例 H-3 グローバルに共有されるメールの SSO アダプタテンプレート

```
default|imap://company22.example.com:143/?configName=credentialMailTemplate
&encoded=password
&default=protocol
&default=clientProtocol
&default=type
```

コード例 H-3 グローバルに共有されるメールの SSO アダプタテンプレート (続き)

```

&default=subType
&default=enableProxyAuth
&default=proxyAdminUid
&default=proxyAdminPassword
&default=ssoClassName
&default=enablePerRequestConnection
&default=userAttribute
&default=host
&default=port
&default=smtpServer
&default=clientPort
&default=smtpPort
&enableProxyAuth=false
&proxyAdminUid=[PROXY-ADMIN-UID]
&proxyAdminPassword=[PROXY-ADMIN_PASSWORD]
&type=MAIL-TYPE
&subType=sun-one
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.JavaMailSSOAdapter
&enablePerRequestConnection=true
&userAttribute=uid
&clientProtocol=http
&smtpServer=company22.example.com
&sentFolderCopy=true
&clientPort=1080
&smtpPort=25
&merge=uid
&merge=password

```

- f. 「追加」をクリックします。
- g. 「保存」をクリックします。
この時点で、IMAP プロトコルから始まる文字列が複数存在する可能性があります。これは、問題ありません。
2. この例で使用する、credentialMail という新しい SSO アダプタ設定を追加します。テンプレート名は、サイトに適した名前を選択できます。
 - a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
 - b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - c. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
 - d. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。

- e. 設定を説明するフィールド(「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります)が空の状態、その内側をクリックします。
 - f. 設定を説明するフィールドが空の状態、次のコードを入力します。この例の設定名は `credentialMail` で、設定の説明は `credentialMailTemplate` です(サイトに合わせて設定名と設定の説明を書き替えてください)。


```
default|imap:///?configName=credentialMail
&configDesc=credentialMailTemplate
```

 ページを表示したときにフィールドが空でなかった場合は、フィールド内のテキストをすべて選択し、削除します。
 - g. 「追加」をクリックします。
 - h. 「保存」をクリックします。
3. デスクトップに新しいメールチャンネルを追加します。この例では、`CredentialMailChannel` という新しいチャンネルを追加します。
- a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、**Sun ONE Identity Server** の管理コンソールにログインします。
 - b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - c. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
 - d. 「Portal Server 設定」という見出しまでナビゲーションパネルをスクロールし、「ポータルデスクトップ」の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「ポータルデスクトップ」ページが表示されます。
 - e. 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。
 - f. 「チャンネル」という見出しの下の「新規」をクリックします。
 - g. 「チャンネル名」フィールドに新しいチャンネルの名前を入力します。この例では、`CredentialMailChannel` と入力します。
 - h. 「プロバイダ」ドロップダウンメニューから「**MailProvider**」を選択します。
 - i. 「了解」をクリックします。「チャンネルおよびコンテナの管理」Web ページが表示され、新たに作成したチャンネルも表示されます。
 - j. 「チャンネル」の見出しまでスクロールし、作成したチャンネルの名前(この例では `CredentialMailChannel`)の隣にある「プロパティの編集」をクリックします。
 - k. 「タイトル」フィールドに表示される `mail` などのテキストを選択して削除し、プロバイダのタイトルを入力します。この例では、`Credential Only Mail Account` と入力します。

- l. 「説明」フィールドに表示される mail などのテキストを選択して削除し、プロバイダの説明を入力します。この例では、Credential Only Mail Account と入力します。
 - m. データパネルでページを下にスクロールし、「SSO アダプタ」フィールドに表示されているテキスト (SunOneMail など) を選択、削除し、[手順 2](#) で使用した SSO アダプタ設定と同じ名前 (この例では credentialMail) を入力します。
 - n. 必要に応じてページをスクロールし、「保存」をクリックします。
 - o. ページを上スクロールし、Container Path という句の後の最初の単語である top をクリックします。
 - p. 「コンテナチャンネル」という見出しまで下にスクロールし、新しいチャンネルを追加するコンテナのリンクをクリックします。たとえば、MyFrontPageTabPanelContainer をクリックします。対応する「プロパティの編集」リンクをクリックしないように注意してください。
 - q. 「チャンネル管理」の見出しの下に表示される、作成したチャンネルの名前をクリックします。たとえば、「既存のチャンネル」に表示される「CredentialMailChannel」をクリックします。
 - r. 「使用可能および表示可能」リストの隣にある「追加」ボタンをクリックします。これにより、ユーザーがチャンネルを利用できるようになり、追加の設定なしでユーザーに表示されます。
 - s. ページを上スクロールし、「チャンネル管理」という見出しの下の「保存」をクリックします。

これで新規のメールチャンネルがデスクトップに追加されました。次に、エンドユーザーがメールチャンネルの編集ボタンをクリックしたときに表示される、編集可能なフィールドを制限します。「ユーザー ID」と「パスワード」フィールドだけを残します。
4. Identity Server 管理コンソールを使用して、組織のディスプレイプロファイルドキュメントをディレクトリサーバーから取得します。[163 ページの「ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードするには」](#)で、ディスプレイプロファイルドキュメントをダウンロードしてローカルに保存する手順を参照してください。
 5. 任意のエディタを使用してディスプレイプロファイルドキュメントを開き、[544 ページの手順 3](#) で作成したチャンネルの名前 (例: CredentialMailChannel) を探します。探す部分のテキストは、次のような箇所です。

```
<Channel name="CredentialMailChannel" provider="MailProvider" merge="replace">
  <Properties>
    <String name="title" value="Credential Only Mail Account"/>
    <String name="description" value="Credential Only Mail Account"/>
    <String name="ssoAdapter" value="credentialMail"/>
  </Properties>
</Channel>
```

6. uid および password だけを含む SSOEditAttributes コレクションを追加します。次のようなコレクションです。

```
<Collection name="ssoEditAttributes">
  <String name="uid" value="string|User Name:"/>
  <String name="password" value="password|User Password:"/>
</Collection>
```

このタイプのコレクションを追加すると、チャンネル定義は次のようになります。

```
<Channel name="CredentialMailChannel" provider="MailProvider" merge="replace">
  <Properties>
    <String name="title" value="Credential Only Mail Account"/>
    <String name="description" value="Credential Only Mail Account"/>
    <String name="ssoAdapter" value="credentialMail"/>

    <Collection name="ssoEditAttributes">
      <String name="uid" value="string|User Name:"/>
      <String name="password" value="password|User Password:"/>
    </Collection>

  </Properties>
</Channel>
```

7. Identity Server 管理コンソールを使用して、新規に編集したディスプレイプロファイルドキュメントをアップロードします。[163 ページの「ディスプレイプロファイルをダウンロードおよびアップロードするには」](#)で、ディスプレイプロファイルのアップロード手順を参照してください。

8. 新しいポータルエンドユーザーとデスクトップへの認証を作成します (省略可能)。

新たに作成するユーザーは、これまでに変更してきた内容をポータルデスクトップ上で確認できます。デスクトップからどのチャンネルも設定していないユーザーも、この変更を確認できます。ただし、デスクトップからチャンネルの設定を行った既存のユーザーは、この変更を確認できません。これらのユーザーが設定を確認できるようにする手順については、[551 ページの「一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合」](#)を参照してください。

- a. 「アイデンティティ管理」タブが選択されていない場合はこのタブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
- b. 「表示」ドロップダウンリストの「ユーザー」を選択します。
- c. 「新規」をクリックして、データパネルに「新規ユーザー」ページを表示します。
- d. ユーザーに割り当てるサービスの隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

少なくとも、ポータルデスクトップと SSO アダプタを選択します。

- e. 必要に応じてページをスクロールし、適切なテキストフィールドにユーザー情報を入力します。
- f. 必要に応じてページをスクロールし、「保存」をクリックします。
新規ユーザーの名前がナビゲーションパネルに表示されます。

組織レベルでのサーバーの定義

ここでは、組織レベルでの SSO アダプタテンプレートの設定について説明します。この例で使用する SSO アダプタテンプレートと SSO アダプタ設定のデータは、[542 ページの「SSO アダプタテンプレート内でのサーバーの定義」](#)の例で使用したデータとほとんど変わりません。しかし、次の例では、より多くのプロパティが SSO アダプタ設定に指定され、SSO アダプタテンプレートに指定されるプロパティは少なくなります。SSO アダプタ設定にプロパティを指定することで、プロパティをグローバルに共有せずに、組織内だけで共有することができます。

次の例では、新しい SSO アダプタ設定とメールチャンネルを作成します。この例では、デフォルトの SSO アダプタテンプレートを使用します。別のテンプレートを作成する必要はありません。

コード例 H-4 組織内で共有されるメールの SSO アダプタテンプレート

```
default|imap:///?configName=SUN-ONE-MAIL
&encoded=password
&default=ssoClassName
&default=protocol
&default=clientProtocol
&merge=host
&merge=port
&merge=uid
&merge=password
&merge=smtpServer
&merge=smtpPort
&merge=sentFolderCopy
&merge=clientPort
&clientProtocol=http
&ssoClassName=com.sun.ssoadapter.impl.JavaMailSSOAdapter
```

1. この例で使用する、orgCredentialMail という新しい SSO アダプタ設定を追加します。サイトに適した名前を付けることができます。
 - a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
 - b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - c. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
 - d. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
 - e. 設定を説明するフィールド(「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります)が空の状態、その内側をクリックします。

- f. 設定を説明するフィールドが空の状態、そこに次のコード行を入力します。この例では、設定名は `orgcredentialMail` で、設定の説明は `SUN-ONE-MAIL` です。この例の情報がサイトに適さないときは、サイトに固有の情報に合わせて可変情報を置き換えてください (`company22.example.com:143`、`orgcredentialMail`、`company22.example.com`、`true`、`1080`、および `25` の一部、またはすべてで変更が必要になる可能性があります)。

```
default|imap://company22.example.com:143/?configName=orgCredentialMail
&configDesc=SUN-ONE-MAIL
&smtpServer=company22.example.com
&sentFolderCopy=true
&clientPort=1080
&smtpPort=25
```

ページを表示したときにフィールドが空でなかった場合は、フィールド内のテキストをすべて選択し、削除します。

- g. 「追加」をクリックします。
h. 「保存」をクリックします。

この時点で、IMAP プロトコルから始まる文字列が複数存在する可能性があります。これは、まったく問題ありません。

2. 「フロントページ」タブに新しいメールチャンネルを追加します。この例では、新しいチャンネルの名前は `OrgCredentialMailChannel` です。
- インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
 - 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
 - 「Portal Server 設定」という見出しまでナビゲーションパネルをスクロールし、「ポータルデスクトップ」の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「ポータルデスクトップ」ページが表示されます。
 - 「チャンネルおよびコンテナの管理」リンクをクリックします。
 - 「チャンネル」という見出しの下の「新規」をクリックします。
 - 「チャンネル名」フィールドに新しいチャンネルの名前を入力します。この例では、`OrgCredentialMailChannel` と入力します。
 - 「プロバイダ」ドロップダウンメニューから「MailProvider」を選択します。

- i. 「作成」をクリックします。「チャンネルおよびコンテナの管理」Web ページが表示され、新たに作成したチャンネルも表示されます。
- j. 「チャンネル」の見出しまでスクロールし、作成したチャンネルの名前(この例ではOrgCredentialMailChannel)の隣にある「プロパティの編集」をクリックします。
- k. 「タイトル」フィールドに表示される mail などのテキストを選択して削除し、プロバイダのタイトルを入力します。この例では、Organization Defined Credential Only Mail Account と入力します。
- l. 「説明」フィールドに表示される mail などのテキストを選択して削除し、プロバイダの説明を入力します。この例では、Credential Only Mail Account と入力します。
- m. データパネルでページを下にスクロールし、「SSO アダプタ」フィールドに表示されているテキスト(sunOneMail など)を選択、削除し、[手順 1](#) で使用した SSO アダプタ設定と同じ名前(この例では orgCredentialMail)を入力します。
- n. 必要に応じてページをスクロールし、「保存」をクリックします。
- o. ページを上スクロールし、Container Path という句の後の最初の単語である top をクリックします。
- p. 「コンテナチャンネル」という見出しまで下にスクロールし、新しいチャンネルを追加するコンテナのリンクをクリックします。たとえば、MyFrontPageTabPanelContainer をクリックします。対応する「プロパティの編集」リンクをクリックしないように注意してください。
- q. 「チャンネル管理」の見出しの下に表示される、作成したチャンネルの名前をクリックします。たとえば、「既存のチャンネル」に表示される「OrgCredentialMailChannel」をクリックします。
- r. 「使用可能および表示可能」リストの隣にある「追加」ボタンをクリックします。これにより、ユーザーがチャンネルを利用できるようになり、追加の設定なしでユーザーに表示されます。
- s. ページを上スクロールし、「チャンネル管理」という見出しの下の「保存」をクリックします。

これで新規のメールチャンネルがデスクトップに追加されました。このタイプの設定では、エンドユーザーがチャンネルの編集ボタンをクリックすると、入力する必要のあるユーザー ID およびパスワード以外のすべての編集可能なフィールドが表示されます。ユーザー ID およびパスワードフィールド以外のすべてのフィールドを取り除くには、「SSO アダプタテンプレート内でのサーバーの定義」の [545 ページ](#)の[手順 4](#)からの手順を実行してください。

3. 新しいポータルユーザーとデスクトップへの認証を作成します (省略可能)。

新たに作成するユーザーは、これまでに変更してきた内容をポータルデスクトップ上で確認できます。デスクトップからどのチャンネルも設定していないユーザーも、この変更を確認できます。ただし、デスクトップからチャンネルの設定を行った既存のユーザーは、この変更を確認できません。これらのユーザーが設定を確認できるようにする手順については、[551 ページの「一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合」](#)を参照してください。

- a. 「アイデンティティ管理」タブが選択されていない場合はこのタブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - b. 「表示」ドロップダウンリストの「ユーザー」を選択します。
 - c. 「新規」をクリックして、データパネルに「新規ユーザー」ページを表示します。
 - d. ユーザーに割り当てるサービスの隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。
- 少なくとも、ポータルデスクトップと SSO アダプタを選択します。
- e. 必要に応じてページをスクロールし、適切なテキストフィールドにユーザー情報を入力します。
 - f. 必要に応じてページをスクロールし、「保存」をクリックします。

新規ユーザーの名前がナビゲーションパネルに表示されます。

一部のユーザーが設定の変更を確認できない場合

管理者は、SSO アダプタテンプレートと設定を編集または作成して、新しいチャンネルを追加したり、チャンネルの設定を変更します。これらの変更は、すべてのユーザーに適用されるわけではありません。変更が適用されるユーザーは、次のとおりです。

- チャンネルの設定を一度も行っていないユーザー
- 設定の変更後に新たに追加されたユーザー

しかし、デスクトップからチャンネルを編集し、1つまたは複数のチャンネル設定を変更したユーザーについては、管理者が加えた変更を適用するために、その設定変更をユーザーレベルで直接行う必要があります。たとえば、管理者がグローバルレベル、組織レベル、またはロールレベルでチャンネルを追加した場合、これらのユーザーのデスクトップでは、このチャンネルは表示されません。

このような状況は、Directory Server のサービスクラス機能によるものです。1つまたは複数のチャンネルを設定するユーザーは、SSO アダプタテンプレートおよび設定を上書きします。このため、管理者がグローバルレベル、組織レベル、またはロールレベルで加えた変更は、これらのユーザーのユーザーレベルには継承されません。

そこで、過去に1つのまたは複数のチャンネル設定を変更したすべてのユーザーについて、ユーザーレベルで設定を直接変更します。この変更を行うときは、その他のユーザー用の変更を設定し、次にテンプレートと設定の文字列をコピーして、ユーザーレベルの変更が必要なユーザーの設定に直接貼り付けると簡単です。次に示す手順は、この方法で変更を設定します。ただし、コピーと貼り付けを使用せずに、ユーザーレベルの設定文字列に直接入力することもできます。

他のユーザー用の設定変更を完了した後で、ユーザーレベルの変更が必要なユーザーの設定を直接変更するには、次の2つの手順のいずれかを実行します。

- [少数ユーザーのユーザーレベルの設定変更](#)
- [多数のユーザーのユーザーレベルの設定変更 \(スクリプトの使用\)](#)

少数ユーザーのユーザーレベルの設定変更

その他のユーザー用に編集または作成した SSO アダプタテンプレート文字列と SSO アダプタ設定文字列をコピーし、ユーザーレベルでの直接変更が必要なユーザーの設定に貼り付けるには、次の手順を実行します。

1. SSO アダプタ設定から文字列をコピーするには
 - a. インターネットブラウザに `http://hostname:port/amconsole` (たとえば `http://psserver.company22.example.com:80/amconsole`) と入力し、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインします。
 - b. 「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
 - c. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択し、設定可能なサービスのリストを表示します。
 - d. 「シングルサインオンアダプタの設定」という見出しが表示されるまでナビゲーションパネルをスクロールし、SSO アダプタ項目の隣にある矢印をクリックします。データパネルに「SSO アダプタ」ページが表示されます。
 - e. 「default|http://...」, 「default|imap://...」など、コピーする文字列をクリックします。
 - f. 「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にある、設定を説明するフィールドに、選択した文字列が表示されます。フィールドの内容全体をコピーし、[手順 2](#)に進みます。
2. Sun ONE Identity Server 管理コンソールの「アイデンティティ管理」タブをクリックし、ナビゲーションパネルに「表示」ドロップダウンリストを表示します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「ユーザー」を選択します。Sun ONE Portal Server のユーザーがリスト表示されます。
4. ユーザーレベルで設定を編集するユーザーの隣にある矢印をクリックし、今度はデータパネルに別の「表示」ドロップダウンリストを表示します。

5. データパネルの「表示」ドロップダウンリストで「SSO アダプタ」をクリックします。
6. 設定を説明するフィールド(「追加」ボタンと「削除」ボタンのすぐ上にあります)をクリックします。
7. [552 ページの手順 1](#) でコピーした SSO アダプタ設定文字列を、この設定を説明するフィールドに貼り付けます。
8. 「シングルサインオンアダプタの設定」ボックスが表示されなくなるまで右にスクロールします。
9. 選択されていない場合は、「カスタマイズ」を選択します(ここでは、「カスタマイズ」、「継承」、「無視」を選択できます)。
10. 必要に応じて左にスクロールし、「保存」をクリックします。

多数のユーザーのユーザーレベルの設定変更 (スクリプトの使用)

多数のユーザーを対象に、設定の変更をユーザーレベルで適用するには、特定のユーザーと、そのユーザーに関連付ける SSO アダプタテンプレートおよび設定などを識別する簡単なスクリプトを含むファイルを作成します。

次に、そのファイルを参照する `ldapmodify` コマンドを実行します。このファイルはスクリプト内のユーザー設定の変更を実装し、`Directory Server` を変更します。

1. サイト情報に合わせて、[コード例 H-5](#) のようなファイルを作成します。
 - ファイル名には、`.ldif` という接尾辞を付けます。
 - このファイルでは、ユーザーレベルでの SSO アダプタの直接設定を必要とするすべてのユーザーについて、独立したエントリを作成します。
 - ユーザーごとに 4 行のコードを記述します。

次の例は、2 人分のサンプルエントリだけを含みます。ファイル名は `attr.ldif`、2 人のユーザーは `user1` と `user2`、組織名は `example` です。2 人のユーザーが共通して参照する SSO アダプタ設定の名前は `grouplimapmail` で、`grouplimapmail` 設定が参照する SSO アダプタテンプレートを識別する設定の説明は `everyoneimap` です。この例では、これは 2 人のユーザーに共通しています。

コード例 H-5 `Directory Server` 用のスクリプトが記述された `attr.ldif` というファイル

```
dn: uid=user1,ou=People,o=example.com,o=isp
changetype:modify
add:sunSSOAdapterConfigurations
sunSSOAdapterConfigurations:
    default|imap:///?configName=grouplimapmail&configDesc=everyoneimap
```

コード例 H-5 Directory Server 用のスクリプトが記述された attr.ldif というファイル (続き)

```
dn: uid=user2,ou=People,o=example.com,o=isp
changetype:modify
add:sunSSOAdapterConfigurations
sunSSOAdapterConfigurations:
imap:///?configName=grouplimapmail&configDesc=everyoneimap
```

2. コード例 H-6 で使用しているような ldapmodify コマンドを使用して、手順 1 で作成したファイルを Directory Server に送信します。これらのコマンドのコードは、サイトに合わせて入力してください。

次の例は、Directory Server にファイルを送信するためのコマンドを示しています。mypassword というパスワード、localhost というホスト名、デフォルトのポート番号 389、attr.ldif という送信ファイル名は、この例に固有の情報です。

コード例 H-6 Directory Server へ attr.ldif というファイルを送信するコマンド

```
setenv LD_LIBRARY_PATH Directory-server-install-dir/lib
Directory-server-install-dir/shared/bin/ldapmodify -D "cn=Directory Manager"
-w mypassword -h localhost -p 389 -f attr.ldif
```

このコードは、最初にパスを LD_LIBRARY_PATH に設定し、ldapmodify コマンドの場所を指定します。次に、ldapmodify が実行されます。このコマンドで使用しているオプションの概要は、次のとおりです。

- D ディレクトリにバインドするための識別名を指定する。この場合は "cn=Directory Manager, "
- w ディレクトリへの認証に必要なパスワードを指定する。この場合は mypassword
- h Directory Server が稼動するホストを指定する。この場合は localhost
- p Directory Server が待機しているポートを指定する。この場合は 389
- f Directory Server が読み取るファイルを指定する。この場合は attr.ldif

ldapmodify コマンドの詳細については、『Sun ONE Directory Server 管理ガイド』を参照してください。

スキーマリファレンス

この付録には、Sun™ ONE Portal Server LDAP スキーマ定義のリファレンスが記載されています。

この付録で説明する内容は次のとおりです。

- [Sun ONE Portal Server デスクトップスキーマ](#)
- [Sun ONE Portal Server NetMail スキーマ](#)
- [Sun ONE Portal Server 検索スキーマ](#)

Sun ONE Portal Server デスクトップスキーマ

デフォルトインストールでは、psDesktop.ldif ファイルは、/opt/SUNWps/export ディレクトリ内に置かれます。

コード例 I-1 デスクトップスキーマ

```
#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to license terms.
#
#
# Sun ONE Portal Server (iPS) Desktop Service Schema
# Last Modified October 2001
#

dn:cn=schema
changetype:modify
add:attributeTypes

attributeTypes:( sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName-oid NAME
'sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )
```

コード例 1-1 デスクトップスキーマ (続き)

```

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpIsValidating-oid NAME
'sunPortalDesktopDpIsValidating' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpNamespaceURL-oid NAME
'sunPortalDesktopDpNamespaceURL' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopEditProviderContainerName-oid NAME
'sunPortalDesktopEditProviderContainerName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDpContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpUserContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDpUserContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName' DESC 'iPS Desktop
Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access
Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDebugContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDebugContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopServiceContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopServiceContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopSessionAppContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopSessionAppContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopSessionContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopSessionContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 1-1 デスクトップスキーマ (続き)

```

attributeTypes:( sunPortalDesktopDesktopContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopDesktopContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopTemplateContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopTemplateContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopClientContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopClientContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopPropertiesContextClassName-oid NAME
'sunPortalDesktopPropertiesContextClassName' DESC 'iPS Desktop Attribute'
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs-oid NAME
'sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID-oid NAME
'sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDefaultChannelName-oid NAME
'sunPortalDesktopDefaultChannelName' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopType-oid NAME 'sunPortalDesktopType' DESC
'iPS Desktop Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE
Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpDocument-oid NAME
'sunPortalDesktopDpDocument' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpLastModified-oid NAME
'sunPortalDesktopDpLastModified' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 1-1 デスクトップスキーマ (続き)

```

attributeTypes:( sunPortalDesktopExecutable-oid NAME
'sunPortalDesktopExecutable' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpDocumentUser-oid NAME
'sunPortalDesktopDpDocumentUser' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalDesktopDpLastModifiedUser-oid NAME
'sunPortalDesktopDpLastModifiedUser' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

dn:cn=schema
changetype:modify
add:objectClasses
objectClasses:( sunPortalDesktopPerson-oid NAME 'sunPortalDesktopPerson' DESC
'Sun ONE Desktop Service' SUP top AUXILIARY MAY (
sunPortalDesktopSessionReturnURLParamName $ sunPortalDesktopDpIsValidating $
sunPortalDesktopDpNamespaceURL $ sunPortalDesktopEditProviderContainerName $
sunPortalDesktopDpContextClassName $ sunPortalDesktopDpUserContextClassName $
sunPortalDesktopContainerProviderContextClassName $
sunPortalDesktopDebugContextClassName $
sunPortalDesktopServiceContextClassName $
sunPortalDesktopSessionAppContextClassName $
sunPortalDesktopSessionContextClassName $
sunPortalDesktopAuthlessSessionContextClassName $
sunPortalDesktopDesktopContextClassName $
sunPortalDesktopTemplateContextClassName $
sunPortalDesktopClientContextClassName $
sunPortalDesktopProviderManagerContextClassName $
sunPortalDesktopPropertiesContextClassName $
sunPortalDesktopAuthorizedAuthlessUIDs $ sunPortalDesktopDefaultAuthlessUID $
sunPortalDesktopDpDocument $ sunPortalDesktopDpLastModified $
sunPortalDesktopDefaultChannelName $ sunPortalDesktopType $
sunPortalDesktopExecutable $ sunPortalDesktopDpDocumentUser $
sunPortalDesktopDpLastModifiedUser) X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

Sun ONE Portal Server NetMail スキーマ

デフォルトインストールでは、psNetMail.ldif ファイルは、/opt/SUNWps/export ディレクトリ内に置かれます。

コード例 1-2 NetMail スキーマ

```
#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.Use of this product is subject to license terms.
#
#
# Sun ONE Portal Server (iPS) Netmail Service Schema
# Last Modified October 2001
#

dn:cn=schema
changetype:modify
add:attributeTypes

attributeTypes:( sunPortalNetmailIMAPServerName-oid NAME
'sunPortalNetmailIMAPServerName' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailSMTPServerName-oid NAME
'sunPortalNetmailSMTPServerName' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailDefaultMailDomain-oid NAME
'sunPortalNetmailDefaultMailDomain' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailRootFolder-oid NAME
'sunPortalNetmailRootFolder' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailSentMessagesFolder-oid NAME
'sunPortalNetmailSentMessagesFolder' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailReplyWithAuthor-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyWithAuthor' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailReplyWithDate-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyWithDate' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )
```

コード例 1-2 NetMail スキーマ (続き)

```
attributeTypes:( sunPortalNetmailReplyWithBody-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyWithBody' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailIndentPrefix-oid NAME
'sunPortalNetmailIndentPrefix' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailAddSignature-oid NAME
'sunPortalNetmailAddSignature' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailInitialHeaders-oid NAME
'sunPortalNetmailInitialHeaders' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailInactivityInterval-oid NAME
'sunPortalNetmailInactivityInterval' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailMaxAttachLen-oid NAME
'sunPortalNetmailMaxAttachLen' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailAutoload-oid NAME 'sunPortalNetmailAutoload'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailAutosave-oid NAME 'sunPortalNetmailAutosave'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailAutopurge-oid NAME
'sunPortalNetmailAutopurge' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailAutoFolderLoad-oid NAME
'sunPortalNetmailAutoFolderLoad' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailMultipleReadWindows-oid NAME
'sunPortalNetmailMultipleReadWindows' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )
```

コード例 1-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes:( sunPortalNetmailSortKey-oid NAME 'sunPortalNetmailSortKey'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailViewKey-oid NAME 'sunPortalNetmailViewKey'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailComposeWinBounds-oid NAME
'sunPortalNetmailComposeWinBounds' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailFolderWinBounds-oid NAME
'sunPortalNetmailFolderWinBounds' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailReadWinBounds-oid NAME
'sunPortalNetmailReadWinBounds' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailGridHeight-oid NAME
'sunPortalNetmailGridHeight' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailGridColWidths-oid NAME
'sunPortalNetmailGridColWidths' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailTextColor-oid NAME
'sunPortalNetmailTextColor' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailBackgroundColor-oid NAME
'sunPortalNetmailBackgroundColor' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailTextSize-oid NAME 'sunPortalNetmailTextSize'
DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN
'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailTextStyle-oid NAME
'sunPortalNetmailTextStyle' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 1-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes:( sunPortalNetmailHeadersPerPage-oid NAME
'sunPortalNetmailHeadersPerPage' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailNewestFirst-oid NAME
'sunPortalNetmailNewestFirst' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailNoPrefsList-oid NAME
'sunPortalNetmailNoPrefsList' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailLDAPServers-oid NAME
'sunPortalNetmailLDAPServers' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailIMAPUserid-oid NAME
'sunPortalNetmailIMAPUserid' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailIMAPPassword-oid NAME
'sunPortalNetmailIMAPPassword' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailReplyToAddress-oid NAME
'sunPortalNetmailReplyToAddress' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailSignature-oid NAME
'sunPortalNetmailSignature' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailFavoriteFolders-oid NAME
'sunPortalNetmailFavoriteFolders' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailPersonalAddressBook-oid NAME
'sunPortalNetmailPersonalAddressBook' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalNetmailExecutable-oid NAME
'sunPortalNetmailExecutable' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

コード例 I-2 NetMail スキーマ (続き)

```

attributeTypes:( sunPortalNetmailLogMessages-oid NAME
'sunPortalNetmailLogMessages' DESC 'iPS NetMail Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

dn:cn=schema
changetype:modify
add:objectClasses
objectClasses:( sunPortalNetmailPerson-oid NAME 'sunPortalNetmailPerson' DESC
'Sun ONE NetMail Service' SUP top AUXILIARY MAY (
sunPortalNetmailIMAPServerName $ sunPortalNetmailSMTPServerName $
sunPortalNetmailDefaultMailDomain $ sunPortalNetmailRootFolder $
sunPortalNetmailSentMessagesFolder $ sunPortalNetmailReplyWithAuthor $
sunPortalNetmailReplyWithDate $ sunPortalNetmailReplyWithBody $
sunPortalNetmailIndentPrefix $ sunPortalNetmailAddSignature $
sunPortalNetmailInitialHeaders $ sunPortalNetmailInactivityInterval $
sunPortalNetmailMaxAttachLen $ sunPortalNetmailAutoload $
sunPortalNetmailAutosave $ sunPortalNetmailAutopurge $
sunPortalNetmailAutoFolderLoad $ sunPortalNetmailMultipleReadWindows $
sunPortalNetmailSortKey $ sunPortalNetmailViewKey $
sunPortalNetmailComposeWinBounds $ sunPortalNetmailFolderWinBounds $
sunPortalNetmailReadWinBounds $ sunPortalNetmailGridHeight $
sunPortalNetmailGridColWidths $ sunPortalNetmailTextColor $
sunPortalNetmailBackgroundColor $ sunPortalNetmailTextSize $
sunPortalNetmailTextStyle $ sunPortalNetmailHeadersPerPage $
sunPortalNetmailNewestFirst $ sunPortalNetmailNoPrefsList $
sunPortalNetmailLDAPServers $ sunPortalNetmailIMAPUserid $
sunPortalNetmailIMAPPassword $ sunPortalNetmailReplyToAddress $
sunPortalNetmailSignature $ sunPortalNetmailFavoriteFolders $
sunPortalNetmailPersonalAddressBook $ sunPortalNetmailExecutable $
sunPortalNetmailLogMessages) X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

```

Sun ONE Portal Server 検索スキーマ

デフォルトインストールでは、psSearch.ldif ファイルは、/opt/SUNWps/export ディレクトリ内に置かれます。

コード例 I-3 検索スキーマ

```
#
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.Use of this product is subject to license terms.
#
#
# Sun ONE Portal Server (iPS) Search Service Schema
# Last Modified April 2002
#

dn:cn=schema
changetype:modify
add:attributeTypes

attributeTypes:( sunPortalSearchInstances-oid NAME 'sunPortalSearchInstances'
DESC 'iPS Search Attribute' SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun
ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalSearchSelectedInstances-oid NAME
'sunPortalSearchSelectedInstances' DESC 'iPS Desktop Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalSearchExecutable-oid NAME
'sunPortalSearchExecutable' DESC 'iPS Search Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

attributeTypes:( sunPortalSearchAdminExecutable-oid NAME
'sunPortalSearchAdminExecutable' DESC 'iPS Search Attribute' SYNTAX
1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )

dn:cn=schema
changetype:modify
add:objectClasses
objectClasses:( sunPortalSearchPerson-oid NAME 'sunPortalSearchPerson' DESC
'Sun ONE Search Service' SUP top AUXILIARY MAY ( sunPortalSearchInstances $
sunPortalSearchExecutable $ sunPortalSearchAdminExecutable $
sunPortalSearchSelectedInstances) X-ORIGIN 'Sun ONE Access Management' )
```

A

AB-TYPE, 316, 320, 534, 536
ACI, 53, 54
 委任管理者ロール, 93
 設定の定義, 95
ADMIN-ID, 316, 319
ADMIN-PASSWORD, 316, 319
adminPassword, 316, 320, 534, 538
aid, 316, 320, 534
amadmin, 45, 368
amconsole, 48
AMPaswordUtil.encrypt, 538
amservice, 48
assign-source
 ロボットアプリケーション関数, 265
assign-type-by-extension
 ロボットアプリケーション関数, 266
authMethod プロパティ, 310, 311, 531
authUsernameAttr, 310, 311
available
 par, 410

B

batch
 dadmin, 398

C

CALENDAR-TYPE, 536
channel
 par, 410
clear-source
 ロボットアプリケーション関数, 267
CLIENT-PORT, 316, 319
clientport, 316, 320, 350, 351, 534, 543, 549
clientProtocol, 333, 350, 351, 543, 548
clientRunMode, 310, 311
codebase, 310
configDesc 属性, 337, 352, 537, 540, 541, 544, 549
configName 属性, 316, 320, 352, 534, 535, 537, 540, 541, 542, 544, 548, 549
connPoolMax プロパティ, 321
connPoolMin プロパティ, 321
contactGroup, 310, 311
container
 par, 410
cookie
 検索, 503
cron ジョブ
 検索, 509, 518
cscal, 335
csuser, 335

D

db2ldif, 360

default プロパティタイプ, 316, 320, 333, 534, 537, 542

DIT, 54

DN, 136, 144, 148, 398
par, 410

dpadmin, 45, 171

add, 172, 176, 391

available, 395

batch, 398

channel, 395

continue, 398

dryrun, 162, 172

file オプション, 398

file 引数, 171, 383, 393

help, 400

list, 163, 171, 174, 376

modify, 172, 175, 180, 378, 381

modify、combine, 177, 181, 182, 381, 382

name, 394

name オプション, 172, 174

parent, 394

parent オプション, 172, 382

property, 395

provider, 395

remove, 164, 172, 179, 180, 182, 183, 394

root, 395

selected, 395

type, 394, 396

version, 400, 407

オプションの要約, 399

親, 393

ガイドライン, 172

グローバル, 172

長い名前の形式, 376

バッチスクリプトファイル, 398

短い名前の形式, 375

dp-anon.xml, 160

dpEditAttributes

「ディスプレイプロファイルのコレクション」を参照

dp-org.xml, 160, 162

dp-org-final.xml, 160

dp-providers.xml, 160

dryrun, 162, 172

DTD, 442

属性, 135

ディスプレイプロファイル, 464

リライタルールセット, 468

DTD の advanced 属性, 135

E

enablePerRequestConnection, 317, 320, 333, 351, 535, 536, 543

enableProxyAuth, 316, 320, 332, 333, 351, 534, 543

encoded プロパティタイプ, 316, 320, 333, 351, 534, 538, 542, 548

exchange subType, 536

F

filter-by-exact

ロボットアプリケーション関数, 261

filter-by-max

ロボットアプリケーション関数, 262

filterrules-setup

ロボットアプリケーション関数, 259

fuse, 150, 153

H

HTML

リライタ JavaScript トークンルール, 199

リライタアプレットルール, 200

リライタ属性ルール, 198

リライタフォームルール, 200

リライタルール, 198

HTML テンプレート, 325-327

HTTPS プロトコル, 308, 349-354

HTTP プロトコル, 331, 349, 534

I

IBM Lotus Notes, 304
IBM Lotus Notes サーバー, 305, 330, 339, 341-348, 349
Identity Server
 認証方法, 311
idsvr, 310, 311
IMAP-HOST, 316, 319
imapHost, 316, 320, 534
IMAP-PORT, 316, 319
imapPort, 316, 320, 534, 537
IMAP サーバーポート, 322
IMAP パスワード, 323
IMAP プロトコル, 319, 331, 534, 543, 549
IMAP ユーザー ID, 323
IMProvider, 309
IM を有効にする, 309
iPlanet Directory Server Access Management Edition
 管理, 35
 サービス, 441
ipsadmin, 45

J

jar ファイル, 411
Java Plugin, 324
JavaScript
 DHTML パラメータ, 204
 DHTML 変数, 202
 DJS パラメータ, 204
 DJS 変数, 202
 EXPRESSION 変数, 202
 URL パラメータ, 203
 関数パラメータ, 203
 システム変数, 202
 リライタ変数ルール, 201
 リライタルール, 199, 201
Java Web Start, 311, 324
jnlp, 311
JSPPProvider, 309

JSP 起動ページ, 312
JSP ファイル, 309

L

LDAP, 126, 136, 144, 148, 157
 接続プールサイズ, 315, 320-322
 認証, 74
 認証の設定, 78
 認証方法, 311
LdapABConstants.java ファイル, 321
ldapmodify
 ACI の定義, 95
ldapmodify コマンド, 553-554
LDAP プロトコル, 316, 331, 534
ldif ファイル, 553-555
ldif2db, 361
Line of Business, 92
lock, 135
Lotus Notes Server
 「IBM Lotus Notes サーバー」を参照

M

MAIL-TYPE, 333, 351, 536, 543
merge, 136
merge プロパティタイプ, 317, 320, 333, 351, 537, 538
Microsoft Exchange Server, 304, 305, 330, 339-341, 349
Microsoft Outlook Web Access ソリューション, 339
multiplexor, 310, 324
mux, 310

N

NCSO.jar ファイル, 343-348

netletRule, 310, 311
Netlet ルール, 313-314
NetMail, 52, 185, 441
 概要, 185
 サービス定義, 450
 スキーマ, 561
 説明, 32
 属性の変更, 189, 190
 リモートアドレス帳の使用, 191
NetMail Lite, 185
 新規ウィンドウの表示設定, 190
notes subType, 536

O

ocxhost.zip ファイル, 340
Outlook
 「Microsoft Outlook Web Access ソリューション」
 を参照

P

PAB-SEARCH-BASE, 316, 318
pabSearchBase, 316, 320, 534
par
 add, 404
 auto, 409
 auto オプション, 405
 avail, 410
 available, 410
 channel, 410
 class, 409
 container, 410
 containers, 403
 describe, 403
 directory, 409
 DN, 410
 dpnode, 410
 entry, 409, 410
 export, 404
 import, 405

list, 403
modify, 404
path, 409
provider, 410
root, 409
selected, 411
 上書き, 405
 クラスファイル, 411
 グローバルヘッダー, 411
 識別名, 410
 自動抽出, 403, 405, 412
 スタティックコンテンツファイル, 411
説明, 409
操作, 410
置換, 405
追加, 405
 ディスプレイプロファイル, 411
 長い名前の形式, 402
 名前付きエントリのヘッダー, 412
 名前の変更, 406
 ファイルのインポート, 122
 ファイルのエクスポート, 122
 ファイルの管理, 122
 ファイルの作成, 122
 ファイルの修正, 123
 ファイルの配備, 122
 プロパティ, 411
 短い名前の形式, 402
 ルートディレクトリ, 412
 ロケール, 405
par ファイル, 411, 122
password, 316, 320, 351, 535, 537, 538, 540, 542, 543,
 546, 548
plugin, 310, 311
POP3 プロトコル, 534
POP プロトコル, 331
Portal Server
 インストーラ, 305
 パッケージ, 305
priority, 136
propagate, 137
protocol, 535, 540, 542, 548
provider

par, 410
PROXY-ADMIN-PASSWORD, 316, 319
proxyAdminPassword, 316, 320, 330, 332, 333, 351,
534, 543
PROXY-ADMIN-UID, 316, 319
proxyAdminUid, 332, 333, 351, 534, 543
proxyAdminUid 属性, 316, 320, 330

R

RD, 212, 227
期限切れ, 232
データベースのインデックス再作成, 231
データベースの破棄, 232
データベース分析の表示, 230
rdmgr
merge, 418
query, 421
RD サブコマンド, 418
RD の置き換え, 418
RD の挿入, 418
進捗状況, 420, 424
すべてのデータベースの復元, 422
属性ビューリスト, 419, 424
データベースの削除, 423
データベース保守サブコマンド, 422
バージョン, 425
ヘルプ, 425
文字セット, 420
リソース記述サブコマンド, 418
RD エディタ, 228
remove
チャンネル, 156
マジタイプ, 150, 151, 156
RFC 1738, 533
robots.txt, 502
rwapadmin, 45
get, 415
list, 414
remove, 415
store, 414

オプションの要約, 416
長い名前の形式, 413
短い名前の形式, 413

S

SDK, 538
Secure Remote Access
「SRA」を参照
selected
par, 411
sendrdm, 426
要求ファイル, 427
sentFolderCopy, 543, 548, 549
SERVER-NAME, 316, 318
service.http.allowadminproxy, 334
setup-regex-cache
ロボットアプリケーション関数, 259
setup-type-by-extension
ロボットアプリケーション関数, 260
smtpPort, 543, 548, 549
smtpServer, 333, 351, 543, 548, 549
SMTP サーバー名, 323
SRA, 311
SSL
Directory Server の設定, 356
Portal Server のインスタンスの設定, 359
Portal Server の設定, 355, 356
検索, 511
サポートする Portal Server の変更, 357
収集のためのリライタの設定, 206
SSL (Secure Sockets Layer), 355
SSO, 311, 339
SSO アダプタテンプレート, 325, 329, 330
ssoClassName, 316, 320, 333, 351, 534, 535, 548
ssoEditAttributes
「ディスプレイプロファイルのコレクション」を
参照
SSO アダプタサービス, 326, 532

SSO アダプタ設定, 329, 330, 336, 352, 532-533, 536, 537, 539-541, 543, 547-549, 551-554
SSO アダプタテンプレート, 315-320, 330, 331-333, 350-352, 532-538, 539, 542-543, 547-548, 551-554
StartRobot, 428
subType, 316, 320, 333, 351, 534, 536, 543
 exchange, 536
 notes, 536
 sun-one, 316, 320, 333, 351, 534, 536, 543
Summary Object Interchange Format (SOIF), 212
sun-one, 316, 320, 333, 351, 534, 543
SUN-ONE-ADDRESS-BOOK, 316, 318
Sun ONE Identity Server
 管理, 40
 サービス, 52
 制約, 46
 ツリー, 53
sun-one subType, 536
SUNWiiimps パッケージ, 305
SUNWpsap パッケージ, 305
SUNWpscp パッケージ, 305
SUNWpsmp パッケージ, 305
SUNWpsso パッケージ, 305

T

type, 316, 320, 333, 351, 534, 536, 543

U

uid, 316, 320, 332, 351, 535, 537, 540, 542, 543, 546, 548
UNIX
 認証の設定, 83, 84
URL, 307, 309, 533
 ゲートウェイアドレスのプレフィックス指定, 195
 検索サーバーの定義, 215
 収集, 194

プレフィックス, 310
ポータル, 48
リダイレクトログイン, 114

URLScrapperProvider, 194

制限, 194

URL の収集, 194

userAttribute, 316, 320, 330, 332, 333, 534, 543

USER-SEARCH -BASE, 316, 319

userSearchBase, 316, 320, 534

W

W3C

「World Wide Web Consortium」を参照

Web

 コンテナ, 28

Web コンテナ, 306, 338, 344-350

World Wide Web Consortium, 533

X

XML, 326, 328-329

 タグテキスト, 204

 リライト属性, 205

 リライトルール, 204

XML ヘッダー、適切な, 171, 381, 391

あ

アクセス権, 53

アクセス制御命令 (ACI), 53, 54

 委任管理者ロール, 93

アップロード

 ディスプレイプロファイル, 163

 リライトルールセット, 208

アドレス帳チャンネル, 304, 315-322, 330, 331, 339

アプリケーション設定の編集, 325-329, 330

アプリケーションチャンネル, 312

アプレット

NetMail, 483, 486

リライタルール, 200

い

イタリックフォント, 23

委任された管理者, 157

インスタンス

SSL の設定, 359

プロキシを使用する設定, 364

インスタントメッセージチャンネル, 304, 309-315

連絡先一覧, 324

インスタントメッセージの起動方法

Java Plugin, 324

Java Web Start, 324

インデックスの再作成

データベース, 231

インポート

エージェントの作成, 226

エージェントの編集, 226

検索, 510

検索データベース, 225

う

上書き

par, 405

え

エクスポートファイル

op, 410

エンドユーザー, 547

信用情報, 330, 339

か

角括弧, 23

確認、デスクトップログファイル, 117

格納方式, 106

カテゴリ

検索, 213, 519

更新, 236

子の作成, 234

削除, 236

シブリングの作成, 235

設定, 234

分類規則の定義, 237

カレンダーチャンネル, 304, 308, 331, 335-338, 339, 535

監視

検索アクティビティ, 218

管理

par ファイル, 122

委任, 91

委任されたロールの制限の設定, 101

委任の設定, 95

委任のためのモデルの開発, 94

委任のためのロール, 92

委任ロールの作成, 100

委任ロールの割り当て, 101

インタフェース, 45

カテゴリ, 234

検索, 211, 216

検索操作, 217

検索データベース, 225

検索ロボット, 218

コンソール, 35

データベースの分類, 234

デスクトップ, 103, 110

ユーザー, 53

リライタ, 206

管理コンソール

ナビゲーション, 35

ログイン, 48

管理者の信用情報, 330

管理者のプロキシ認証, 303, 308, 330-334, 339

- 管理の委任, 91
 - 設定, 95
 - モデル, 94
 - 用語, 91
 - ルール, 92
 - ルールの作成, 100
 - ルールの制限の設定, 101
 - ルールの割り当て, 101

き

- キーワード
 - ユーザー, 144
- 期限切れ
 - データベース, 232
- 規則
 - カテゴリ分類の定義, 237
- 起動
 - Instant Messenger, 304
 - Portal Server, 50
 - アドレス帳, 304, 339
 - カレンダー, 304, 339
 - メール, 304, 339
- 起動方法
 - Java Plugin, 324
 - Java Web Start, 324
- 起動ボタン, 304, 308

く

- クライアントポート, 323
- グローバル
 - 属性, 43, 115, 116
 - ディスプレイプロファイル, 158
 - レベル, 172
- グローバルヘッダー
 - par, 411
- クローリング
 - ロボットの制御, 220
 - ロボットの属性, 501

け

- 計画
 - 組織, 54
- ゲートウェイ
 - リライタによる変換, 195
- 検索, 52, 441
 - cron ジョブ, 509, 518
 - robots.txt, 502
 - SSL, 511
 - アクティビティの監視, 218
 - インデックス作成, 506
 - インポート, 510
 - インポートエージェントの作成, 226
 - インポートエージェントの編集, 226
 - 概要, 211
 - カテゴリ, 213, 519
 - 管理, 211, 216, 217
 - 基本設定, 217
 - サーバー URL の定義, 215
 - サーバーの選択, 491
 - サーバールート, 492
 - サービス定義, 463
 - サイト, 496
 - 詳細設定, 217
 - スキーマ, 516, 566
 - スキーマエイリアス, 517
 - 設定, 214
 - 設定の表示, 217
 - 説明, 32
 - 属性の表示, 513
 - データベース, 212
 - データベースのインポート, 225
 - データベースの管理, 225
 - データベース分析, 517
 - ドキュメントのセキュリティ, 493
 - ドキュメントの変換, 507
 - 頻度の高い検索, 524
 - 深さ, 497
 - プロキシ, 502
 - 分類, 213, 519
 - 分類ルール, 520
 - 文字セット, 511

レポート, 522
ログ, 493, 524
ログレベル, 502
ロボット, 212
ロボットの管理, 218

こ

子

カテゴリの作成, 234

更新

カテゴリ, 236

ディスプレイプロファイル, 172

コマンドライン

プロンプト, 23

コレクション

追加, 178

コンテナ, 104, 126, 159, 164, 170

階層構造, 105

チャンネル, 104

追加, 392

変更, 381

コンテンツプロバイダ, 107

さ

サーバーの選択

検索, 491

サーバーポート, 323, 324

サーバー名, 322, 323, 324

サーバーリスト

Portal Server の追加, 363

サーバールート

検索, 492

サービス

NetMail, 52, 441

Sun ONE Identity Server, 52, 441

管理, 39, 41

検索, 52, 441

サービステンプレートの作成, 60

スキーマ, 441

デスクトップ, 52, 441

リライタ, 52, 442

サービスクラス, 551

最上位組織, 53

サイト

検索, 496

サイトプローブ, 223

ロボットの実行, 223

削除

カテゴリ, 236

チャンネル, 169, 180

プロバイダ, 180

プロパティ, 179

作成

par ファイル, 122

委任管理ロール, 100

検索データベースのインポートエージェント,
226

子カテゴリ, 234

サービステンプレート, 60

サブ組織, 58, 59

シブリングカテゴリ, 235

組織, 58, 59

ロール, 62, 97

サブ組織, 54

作成, 58, 59

定義のガイドライン, 55

サポート関数のフィルタリング

ロボットアプリケーション関数, 265

サンプルディスプレイプロファイル

dp-anon.xml, 160

dp-org.xml, 160, 162

dp-org-final.xml, 160

dp-providers.xml, 160

サンプルポータル, 161

し

識別名, 136, 144, 148, 398

- par, 410
- 自動抽出
 - par, 412
- シブリング
 - カテゴリの作成, 235
- シミュレータ, 223
 - ロボットの実行, 224
- シャットダウン関数
 - ロボットアプリケーション関数, 278
- 手動によるロード
 - ディスプレイプロファイル, 159, 161
- 使用可能リスト
 - 追加, 392
 - 変更, 382
- 新規ユーザー, 322, 547
- シングルサインオン
 - 「SSO」を参照
- シングルサインオン (SSO), 41
- シングルサインオンアダプタ, 531
- 信用情報, 330, 339

す

- スキーマ
 - NetMail, 561
 - 検索, 516, 566
 - 検索エイリアス, 517
 - サービス, 441
 - データベースエイリアスの定義, 230
 - データベースの編集, 228
 - デスクトップ, 557
- スタティックコンテンツファイル, 411

せ

- 制御
 - ロボットのクローリング, 220
- 生成関数
 - ロボットアプリケーション関数, 274

- セキュリティ
 - ドキュメントレベル, 493
- 接続プールサイズ, 315, 320, 322
- 設定
 - Directory Server の SSL, 356
 - LDAP 認証, 78
 - NetMail, 34
 - Portal Server の SSL, 355, 356
 - Portal Server のインスタンスの SSL, 359
 - UNIX 認証, 83, 84
 - 委任管理ロールの制限, 101
 - カテゴリ, 234
 - 管理の委任, 95
 - 検索, 33
 - 検索サービス, 214
 - データベースの分類, 234
 - データベースへのログイン, 365
 - デスクトップ, 32
 - 匿名認証, 79
 - 認証, 74
 - 認証メニュー, 77
 - ファイルへのログイン, 365
 - プロキシを使用するインスタンス, 364
 - リライター, 34
- 設定の説明フィールド, 316, 322, 332, 336, 351, 352, 542
- セットアップ関数
 - ロボットアプリケーション関数, 259

- 選択済みリスト
 - 追加, 392
 - 変更, 382

そ

- 送信済みフォルダへのコピー, 323
- 属性
 - グローバル, 43, 115, 116
 - 組織, 43
 - ダイナミック, 43
 - デスクトップの修正, 115, 116
 - ポリシー, 43

ユーザー, 43
リライター XML, 205
ロボットのインデックス作成の定義, 222

属性の表示, 513

組織, 53, 54

計画, 54

最上位, 53

作成, 58, 59

属性, 43

定義, 42

ソフトウェア開発キット
「SDK」を参照

た

ダイナミック属性, 43

タイムアウト値, 321

ダウンロード

ディスプレイプロファイル, 163

リライタルールセット, 208

タグテキスト

リライター, 204

タブ、新規, 177

ち

置換, 150, 152

チャンネル, 175

プロバイダ, 383

プロパティ, 175

チャンネル, 104, 125, 159, 164

remove, 156

削除, 169, 180

置換, 175

追加, 168, 176, 392

配備, 109

パッケージ, 122

変更, 169, 381

例, 108

チャンネル設定の例, 307

「チャンネルの編集」リンク, 164

つ

追加

Portal Server をサーバーリストに, 363

コレクション, 178

コンテナ, 392

使用可能リスト, 392

選択済みリスト, 392

チャンネル, 168, 176, 392

ディスプレイプロファイル

ディスプレイプロファイル

追加, 392

プロバイダ, 392

プロパティ, 177, 392

通信チャンネル, 308

設定の例, 307

デフォルト設定, 307

複数インスタンス, 305, 306

編集ボタン, 303, 308, 322, 325, 545, 550

ツール

ロボット, 223

ツリー

階層構造, 55

平坦な構造, 57

て

定義

カテゴリ分類規則, 237

データベーススキーマのエイリアス, 230

ロボットのインデックス作成の属性, 222

ロボットのサイト, 219

停止

Portal Server, 50

ディスプレイプロファイル, 110, 325-329, 545-546

DTD, 464

par, 411

- root, 128, 150, 382, 392
- エラーメッセージ, 174
- 階層構造, 144
- グローバル, 146, 158, 159, 161
- コンテナ, 126, 130, 159
- サブ組織, 159
- サンプル, 160
- 修正, 173
- 組織, 159
- ダイナミック, 159
- チャンネル, 125, 129, 159
- デフォルト, 159
- プロバイダ, 125, 129
- プロパティ, 126
- 変更, 381
- 編集, 183
- マージ, 148, 149
- ユーザー, 128
- 優先順位, 144, 148, 149, 155
- ロード, 159, 161
- ロール, 159
- ディスプレイプロファイル属性, 328
 - ソート, 326
 - ソート順序, 326
- ディスプレイプロファイルのコレクション
 - dpEditAttributes, 326
 - ssoEditAttributes, 326, 328, 330, 546
- ディスプレイプロファイルのマージ, 148, 149
 - fuse, 150, 153
 - remove, 150, 151
 - 置換, 150, 152
- ディレクトリ情報ツリー (DIT), 41
- データパネル, 37
- データベース
 - インデックスの再作成, 231
 - 期限切れ, 232
 - 検索, 212
 - 検索の RD の取得, 212
 - 検索のインポート, 225
 - 検索の管理, 225
 - スキーマのエリアスの定義, 230
 - スキーマの編集, 228
 - パーティション, 233
 - 分析の表示, 230
 - 分類, 213
 - 分類の管理, 234
 - 分類の設定, 234
 - ロギング, 365
- 適切な XML ヘッダー, 171, 381, 391
- デスクトップ, 52, 104, 441
 - 概要, 103
 - カスタマイズ, 108
 - 管理, 103, 110
 - グローバル属性, 116
 - サービス属性の修正, 115, 116
 - サービス定義, 443
 - サービステンプレート, 157
 - サブレット, 128
 - スキーマ, 557
 - 説明, 31
 - 用語集, 103
 - リダイレクトログイン, 114
 - 例, 28
 - ログイン, 89, 116
 - ログファイル, 117
- デバッグ, 90
 - Portal Server, 366
 - ロボットツール, 223
- デバッグレベル
 - 設定, 366
- デフォルトのチャンネル設定, 307
- テンプレート
 - 作成, 60

と

- ドキュメントの変換
 - 検索, 507
- ドキュメントレベルのセキュリティ
 - 検索, 493
- 匿名認証
 - セッション方式, 80
 - 設定, 79

ユーザー ID 方式, 81
ドメイン, 42

な

長い名前の形式
 radmin, 413
ナビゲーションパネル, 37
名前付きエントリのヘッダー
 par, 412

に

認証
 UNIX の設定, 83, 84
 管理, 39
 コア, 75
 設定, 74
 メニュー, 77
 メンバーシップ, 75
認証なしの匿名デスクトップ
 「認証不要デスクトップ」を参照
認証不要デスクトップ, 334-338
認証方法, 311, 531

は

パーティション
 RD データベース, 233
配備, 126
 par ファイル, 122
 チャンネル, 109
破棄
 期限切れ RD, 233
バックアップ
 Portal Server, 360
パッケージ, 305
 チャンネルとプロバイダ, 122

バッチスクリプトファイル、dpadmin, 398

ひ

表示
 検索設定, 217
 製品情報, 50
 データベース分析, 230
ビルディングブロックプロバイダ, 107
頻度の高い検索, 524

ふ

ファイル
 エクスポート, 122
 ディスプレイプロファイルのアップロード, 163
 ディスプレイプロファイルのダウンロード, 163
 ロギング, 365
ファイルのエクスポート
 par, 122
フィルタ
 ロボットの定義, 220
 ロボットの定義の作成, 221
 ロボットの定義の変更, 222
 ロボットの定義の有効化, 222
 ロボットのデフォルト, 220
フィルタリング関数
 ロボットアプリケーション関数, 261
フォーム
 リライタルール, 200
復元
 Portal Server, 361
複数インスタンス, 305, 306
プロキシ
 検索, 502
プロキシ管理者, 319
プロキシ認証, 319
 「管理者のプロキシ認証」を参照
プロバイダ, 125, 165, 167

- アーカイブ, 109
- 削除, 180
- 置換, 383
- 追加, 392
- パッケージ, 122
- プロバイダアプリケーションプログラミングインタフェース (PAPI), 105
- プロパティ, 126, 164
 - par, 411
 - 入れ子, 137
 - 階層構造, 133
 - グローバル, 132
 - コレクション, 134
 - 削除, 179
 - 参照, 134
 - 整数, 134
 - 置換, 175
 - 追加, 177, 392
 - デフォルト, 132
 - 伝達, 141
 - 名前をつけない, 138, 383
 - ブール型, 134
 - 変更, 382
 - 文字列, 134
- プロパティタイプ
 - default, 316, 320, 333, 534, 537
 - encoded, 316, 320, 333, 351, 534, 538, 548
 - merge, 317, 320, 333, 351, 537, 538
- 文書型定義 (Document Type Definitions, DTD), 442
- 分類, 213
 - 検索, 519
- 分類ルール
 - 検索, 520

へ

- ベースドキュメント, 144
- ヘッダー、適切な XML, 171, 381, 391
- 変更
 - NetMail の属性, 189, 190
 - par ファイル, 123

- SSL をサポートする Portal Server, 357
- チャンネル, 169
- デスクトップサービス属性, 115, 116
- ロボットフィルタ定義, 222
- 変更、優先順位, 180
- 編集, 227
 - RD, 227
 - 検索データベースのインポートエージェント, 226
 - データベーススキーマ, 228
- 編集ボタン, 303, 308, 322, 325, 545, 550

ほ

- ポータル
 - Web コンテナ, 28
 - 管理, 35
 - 配備プラットフォーム, 28
- ポータルデスクトップ, 322
 - 通信チャンネルの編集ボタン, 303, 308, 322, 325, 545, 550
- ポリシー
 - 管理, 41, 85
 - 属性, 43
 - 定義, 44

み

- 短い名前の形式
 - rwadmin, 413

む

- 無効化
 - ロボットの定義, 222
 - ロボットフィルタ定義, 222

め

- 命名属性, 330
- メールチャンネル, 304, 308, 331, 339, 349, 542-547, 547-550
- メンバーシップ
認証, 75

も

- 文字セット
rdmgr, 420
検索, 511
- モノスペースフォント, 22

ゆ

- 有効化
ロボットフィルタ定義, 222
- 有効化パラメータ, 258
- ユーザー
管理, 39, 40, 53
既存の有効化, 63
計画, 55
属性, 43
- ユーザーパスワード, 323, 324
- ユーザー名, 323, 324
- 優先順位, 144, 148
同じ, 145
変更, 180
- ユーティリティ
par, 122
ロボット, 223

よ

- 読み取り専用通信チャンネル, 334-338

り

- リソース記述, 212, 513
- リダイレクト
ログイン, 114
- リライタ, 52, 193, 442
DHTML パラメータ, 204
DJS パラメータ, 204
HTML 属性ルール, 198
HTML フォームルール, 200
JavaScript URL パラメータ, 203
JavaScript 関数パラメータ, 203
JavaScript ルール, 199, 201
SSL 用の URLscrapers の設定, 206
XML コンテンツのルール, 204
XML 属性, 205
アプレットルール, 200
概要, 193
管理, 206
ゲートウェイ URL のプレフィックス指定, 195
サービス定義, 462
サポートされる URL, 196
説明, 32
タグテキスト, 204
デフォルトルールセット, 469
デフォルトルールセットの復元, 210
ルールセット DTD, 468
ルールセットのアップロード, 209
ルールセットの削除, 209
ルールセットの作成, 207
ルールセットのダウンロード, 208
ルールセットの編集, 208
ルールとルールセットの定義, 196

る

- ルール
HTML リライタ, 198
リライタ JavaScript, 201
リライタ JavaScript トークン, 199
リライタ XML コンテンツ, 204

- リライタアプレット, 200
- リライタの定義, 196
- リライタフォーム, 200

ルールセット, 196

- アップロード、リライタ, 209
- 削除、リライタ, 209
- 作成、リライタ, 207
- ダウンロード、リライタ, 208
- 編集、リライタ, 208
- リライタデフォルトの復元, 210

れ

列挙関数

- ロボットアプリケーション関数, 273

レポート

- 検索, 522

連絡先一覧, 324

ろ

ロール, 54

- 委任管理の作成, 100
- 委任管理の割り当て, 101
- 管理の委任, 92
- 管理の委任に対する制限の設定, 101
- 作成, 62, 97
- 定義, 42
- 定義のガイドライン, 55
- 割り当て, 63, 98

ロール管理者ロール, 92

ロールツリー, 41

ロギング, 90

- 属性, 90
- データベースへのログ記録の設定, 365
- ファイルへのログ記録の設定, 365

ログ

- 検索, 493, 524

ログレベル

- ロボットのクローリング, 502

ロケーションパネル, 36

ロック, 148, 155

ロボット, 212

- インデックス作成属性の定義, 222
- 管理, 218
- クローリング, 501
- クローリングの制御, 220
- サイトの定義, 219
- サイトブローチアユーティリティ, 223
- シミュレーション, 223
- シミュレータユーティリティ, 224
- フィルタ定義の作成, 221
- フィルタ定義の変更, 222
- フィルタ定義の無効化, 222
- フィルタ定義の有効化, 222
- フィルタの定義, 220
- ホストからの制御, 505
- ユーティリティ, 223

ロボットアプリケーション関数

- サポート関数のフィルタリング, 265
- シャットダウン関数, 278
- 生成関数, 274
- セットアップ関数, 259
- フィルタリング関数, 261
- 列挙関数, 273

わ

割り当て

- 委任管理ロール, 101
- ロール, 63, 98